鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書１５

KOMAKI
小牧3A遺跡
IWAMOTO
岩本遺跡

県営畑地総合土地改良事業に伴う発掘調査報告書

１９９６年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

報告書抄録

ふりがな	こまき3Aいせき　　いわもといせき
書　名	小牧３Ａ遺跡・岩本遺跡
副書名	県営畑地総合土地改良事業に伴う発掘調査報告
巻　次	
シリーズ名	鹿児島県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第１５集
編著者名	長野眞一
編集機関	鹿児島県埋蔵文化財センター　TEL 0995-65-8787
所在地	〒899-56　鹿児島県姶良郡姶良町平松6252番地
発行年月日	西暦　１９９６年　３月３１日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
こまき3A 小牧３Ａ	かごしま　いぶすき 鹿児島県指宿市	46		31度 17分 30秒	130 度 36分	19760706～ 19770212	2970	県営畑地総合土地改良に伴う事前調査
いわもと 岩本	かごしま　いぶすき 鹿児島県指宿市	46				19771107～ 19780331		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
こまき3A 小牧３Ａ	散布地	旧石器 縄文時代早期	集石	ナイフ形石器 台形石器 剥片尖頭器 細石器 土器 石器	
いわもと 岩本	散布地	旧石器 縄文時代早期		細石器 土器 石器	

















序　　文

この報告書は，県営畑地総合土地改良事業に先立って，昭和51年度に鹿児島県教育委員会が実施した小牧３Ａ遺跡の発掘調査の記録です。

小牧３Ａ遺跡からは，旧石器時代と縄文時代の遺物・遺構が発見されました。これらはいずれも本県における貴重な資料として注目されます。

歴史の解明に貴重な手掛かりとなるこの報告書を，広く本県の古代文化の研究や文化財の保護のために活用していただければ幸いです。

なお，昭和52年度に指宿市教育委員会が実施した岩本遺跡の発掘調査の成果も掲載しています。

終わりに，発掘調査に御協力くださった指宿市教育委員会並びに関係各位に心から感謝いたします。

平成８年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

所長　　内村　正弘

例　言

1　この報告書は，県営畑地総合土地改良事業に伴う「小牧３Ａ遺跡・岩本遺跡」の発掘調査報告書である。

2　小牧３Ａ遺跡は，指宿市麓上字栴ケ鼻に所在し，岩本遺跡は指宿市麓字岩本に所在する。

3　発掘調査は，小牧３Ａ遺跡を鹿児島県農政部（鹿児島県南薩畑灌事務所）からの受託事業として鹿児島県教育委員会が実施した。岩本遺跡は指宿市教育委員会が「岩本遺跡緊急調査事業」として国及び県の補助事業を得て行ったもので，発掘調査は鹿児島県教育委員会に依頼した。

4　発掘調査は，小牧３Ａ遺跡が昭和51年７月６日から昭和52年２月12日に実施し，岩本遺跡を昭和52年11月７日から昭和53年３月31日まで実施した。

5　報告書作成は平成６年と７年度に報告書作成事業として実施した。

6　発掘調査に当たっては，指宿市岩本自治会の協力援助を得た。

7　発掘調査については，小林達雄先生（文化庁記念物課調査官・現国学院大学教授），河口貞徳先生（県文化財保護審議会委員），池水寛治先生（故人）の指導・助言を得た。

8　本書で用いたレベル数値は，海抜高である。

9　発掘調査での実測は，調査担当者が行い，遺物写真撮影については国立奈良文化財研究所牛島茂先生の指導の下で行った。

10　第２章・第４節「指宿市北部台地のテフラ」は，成尾英仁先生（県立串木野高校教諭）の玉稿である。その他の報告書作成は長野眞一が行った。

11　本書の編集は，長野が行った。

12　報告書作成終了後の遺物保管については，県立埋蔵文化財センターで行う予定である。

目　　次

序文‥
報告書抄録
例言
第１章　調査の経過……１９
　第１節　調査に至るまでの経過……１９
　第２節　調査の組織……１９
　第３節　調査の経過及び報告書作成の経過……１９
　第４節　報告書作成の組織……２０
第２章　位置と環境……２１
　第１節　位置及び自然環境……２１
　第２節　土層……２２
　第３節　調査区域……２３
　第４節　指宿市北部台地のテフラ（成尾英仁）……２５
第３章　旧石器時代の調査概要……３２
　第１節　出土遺物……３２
　第２節　台形石器・台形様石器……３２
　第３節　ナイフ形石器……４８
　第４節　剥片尖頭器……５７
　第５節　尖頭器……７０
　第６節　三稜尖頭器……７５
　第７節　スクレイパー及び使用痕のある剥片……７９
　第８節　剥片……７９
　第９節　ブランティング・チップ……７９
　第10節　石核……１０６
　第11節　接合資料……１１３
　第12節　ストーン・リタッチヤー……１２１
　第13節　ハンマー・ストーン……１２１
　第14節　グレーバー，ドリル……１２１
　第15節　細石器……１２５
第４章　縄文時代の調査……１３５
　第１節　出土状況……１３５
　第２節　土器……１３５
　第３節　石器……１９５
第５章　岩本遺跡の調査……２０３
　第１節　調査に至るまでの経過……２０３
　第２節　発掘調査の組織……２０３

第３節　調査区域……２０４
第４節　土層……２０５
第６章　出土遺物……２１２
第１節　土器……２１２
第２節　石器……２４５
第７章　まとめ……２５４

挿図目次

第１図 小牧３Ａ遺跡土層図 ……22
第２図 小牧３Ａ遺跡標準層位模式柱状図 ……22
第３図 遺跡の位置 ……23
第４図 小牧３Ａ遺跡トレンチ配置図 ……23
第５図 小牧３Ａ遺跡旧石器時代最終面地形図 ……33
第６図 小牧3A遺跡・旧石器時代遺物分布図 ……35
第７図 小牧3A遺跡・旧石器時代 （台形石器出土分布図）…… 37
第８図 小牧3A遺跡・台形石器１ ……39
第９図 小牧3A遺跡・台形石器２ ……40
第10図 小牧3A遺跡・台形石器３ ……41
第11図 小牧3A遺跡・台形石器４ ……42
第12図 小牧3A遺跡・台形石器５ ……43
第13図 小牧3A遺跡・台形石器６ ……44
第14図 小牧3A遺跡・台形石器７ ……45
第15図 小牧3A遺跡・旧石器時代 （ナイフ形石器・剥片尖頭器）出土分布図 …… 51
第16図 小牧3A遺跡・ナイフ形石器１ ……53
第17図 小牧3A遺跡・ナイフ形石器２ ……54
第18図 小牧3A遺跡・ナイフ形石器３ ……55
第19図 小牧3A遺跡・ナイフ形石器４ ……56
第20図 小牧3A遺跡・剥片尖頭器１（軟質シルト質頁岩） …… 59
第21図 小牧3A遺跡・剥片尖頭器２（軟質シルト質頁岩） …… 60
第22図 小牧3A遺跡・剥片尖頭器・ナイフ形石器１（軟質シルト質頁岩） ……61
第23図 小牧3A遺跡・剥片尖頭器・ナイフ形石器２（軟質シルト質頁岩） …… 62
第24図 小牧3A遺跡・剥片尖頭器・ナイフ形石器３（硬質頁岩） ……63
第25図 小牧3A遺跡・剥片尖頭器・ナイフ形石器４（硬質頁岩） ……64
第26図 小牧3A遺跡・剥片尖頭器・ナイフ形石器５（硬質頁岩） ……65
第27図 小牧3A遺跡・剥片尖頭器１（砂岩・硬質頁岩） ……66
第28図 小牧3A遺跡・剥片尖頭器２（硬質頁岩） ……67
第29図 小牧3A遺跡・剥片尖頭器３（黒曜石・硬質頁岩） …… 68
第30図 小牧3A遺跡・尖頭器１ ……71
第31図 小牧3A遺跡・尖頭器，剥片 ……72
第32図 小牧3A遺跡・旧石器時代 （尖頭器・三稜尖頭器出土分布図） ……73
第33図 小牧3A遺跡・三稜尖頭器１ ……76
第34図 小牧3A遺跡・三稜尖頭器２ ……77
第35図 小牧3A遺跡・スクレイパー１ ……80
第36図 小牧3A遺跡・旧石器時代 （スクレイパー出土分布図）…… 81

第37図 小牧3A遺跡・スクレイパー2 ……83
第38図 小牧3A遺跡・スクレイパー3 ……84
第39図 小牧3A遺跡・剥片（軟質シルト質頁岩）1 ……86
第40図 小牧3A遺跡・剥片（軟質シルト質頁岩）2 ……87
第41図 小牧3A遺跡・剥片（硬質頁岩）1 ……88
第42図 小牧3A遺跡・剥片（硬質頁岩）2 ……89
第43図 小牧3A遺跡・剥片（硬質頁岩）3 ……90
第44図 小牧3A遺跡・剥片（硬質頁岩）4 ……91
第45図 小牧3A遺跡・剥片（折断剥片） ……93
第46図 小牧3A遺跡・剥片（黒曜石） ……94
第47図 小牧3A遺跡・剥片（鉄石英） ……95
第48図 小牧3A遺跡・剥片（石英・瑪瑙質） ……96
第49図 小牧3A遺跡・剥片（砂岩その他） ……97
第50図 小牧3A遺跡・ブランティング・チップ ……100
第51図 小牧3A遺跡・旧石器時代（ブランティング・チップ出土分布図） ……101
第52図 小牧3A遺跡・旧石器時代（石核出土分布図） ……103
第53図 小牧3A遺跡・石核1 ……105
第54図 小牧3A遺跡・石核2 ……106
第55図 小牧3A遺跡・石核3 ……107
第56図 小牧3A遺跡・石核4 ……108
第57図 小牧3A遺跡・石核5 ……109
第58図 小牧3A遺跡・石核6 ……110
第59図 小牧3A遺跡・石核7 ……112
第60図 小牧3A遺跡・接合資料1 ……114
第61図 小牧3A遺跡・旧石器時代（接合資料相関図） ……115
第62図 小牧3A遺跡・接合資料2 ……117
第63図 小牧3A遺跡・接合資料3 ……118
第64図 小牧3A遺跡・接合資料4 ……119
第65図 小牧3A遺跡・接合資料5 ……120
第66図 小牧3A遺跡・ストーン・リタッチャー ……122
第67図 小牧3A遺跡・ハンマー・ストーン ……123
第68図 小牧3A遺跡・グレーバー，ドリル ……124
第69図 小牧3A遺跡・細石器1 ……126
第70図 小牧3A遺跡・旧石器時代（細石器出土分布図） ……127
第71図 小牧3A遺跡・細石器2 ……129
第72図 小牧3A遺跡・細石器3 ……130
第73図 小牧3A遺跡・石斧，楔形石器 ……132

第74図 小牧3A遺跡・縄文時代（土器分布図及び接合相関図）……133
第75図 小牧3A遺跡・円筒形土器1 ……136
第76図 小牧3A遺跡・円筒形土器2 ……137
第77図 小牧3A遺跡・円筒形土器3 ……138
第78図 小牧3A遺跡・円筒形土器4 ……139
第79図 小牧3A遺跡・円筒形土器5 ……140
第80図 小牧3A遺跡・円筒形土器6 ……141
第81図 小牧3A遺跡・円筒形土器7 ……142
第82図 小牧3A遺跡・円筒形土器8 ……143
第83図 小牧3A遺跡・円筒形土器9 ……144
第84図 小牧3A遺跡・円筒形土器10 ……145
第85図 小牧3A遺跡・円筒形土器11 ……146
第86図 小牧3A遺跡・円筒形土器12 ……147
第87図 小牧3A遺跡・円筒形土器13 ……148
第88図 小牧3A遺跡・角筒形土器 ……165
第89図 小牧3A遺跡・円筒形土器底部1 ……166
第90図 小牧3A遺跡・円筒形土器底部2 ……167
第91図 小牧3A遺跡・円筒形土器底部3 ……168
第92図 小牧3A遺跡・円筒形土器底部4 ……169
第93図 小牧3A遺跡・桑ノ丸Ⅲ類土器1 ……178
第94図 小牧3A遺跡・縄文時代（桑ノ丸Ⅲ類土器出土分布図）……179
第95図 小牧3A遺跡・桑ノ丸Ⅲ類土器2 ……181
第96図 小牧3A遺跡・塞ノ神式土器 ……183
第97図 小牧3A遺跡・磨製石鏃・打製石鏃 ……184
第98図 小牧3A遺跡・縄文時代（石器出土分布図）……185
第99図 小牧3A遺跡・石斧1 ……187
第100図 小牧3A遺跡・石斧2 ……188
第101図 小牧3A遺跡・石斧3 ……189
第102図 小牧3A遺跡・叩石 ……191
第103図 小牧3A遺跡・磨石 ……192
第104図 小牧3A遺跡・磨石，砥石 ……193
第105図 小牧3A遺跡・石皿1 ……196
第106図 小牧3A遺跡・石皿2 ……197
第107図 小牧3A遺跡・石皿3 ……198
第108図 小牧3A遺跡・石皿4 ……199
第109図 小牧3A遺跡・石皿5 ……200
第110図 小牧3A遺跡・石皿6 ……202

第111図 岩本遺跡C地区調査区域図……204
第112図 C地区東側土層……205
第113図 土器出土分布図（上）・石器及び礫出土分布図（下）……207
第114図 土器出土分布図……209
第115図 石器及び礫出土分布図……211
第116図 岩本遺跡・円筒形土器1……214
第117図 岩本遺跡・円筒形土器2……215
第118図 岩本遺跡・円筒形土器3……216
第119図 岩本遺跡・円筒形土器4……217
第120図 岩本遺跡・円筒形土器5……218
第121図 岩本遺跡・円筒形土器6……219
第122図 岩本遺跡・円筒形土器7……220
第123図 岩本遺跡・円筒形土器8……221
第124図 岩本遺跡・円筒形土器9……222
第125図 岩本遺跡・円筒形土器10……231
第126図 岩本遺跡・円筒形土器11……232
第127図 岩本遺跡・円筒形土器12……234
第128図 岩本遺跡・円筒形土器13（完形品）……235
第129図 岩本遺跡・円筒形土器底部1……237
第130図 岩本遺跡・円筒形土器底部2……238
第131図 岩本遺跡・円筒形土器底部3……239
第132図 岩本遺跡・円筒形土器底部4……240
第133図 岩本遺跡・円筒形土器底部5……241
第134図 岩本遺跡・石器1……246
第135図 岩本遺跡・石器2……247
第136図 岩本遺跡・石器3……248
第137図 岩本遺跡・石器4……249
第138図 岩本遺跡・石器5……250
第139図 岩本遺跡・石器6……251
第140図 岩本遺跡・石器7……253

写真図版目次

ＰＬ１　岩本遺跡Ｃ地区東壁・確認調査遺物出土状況 ……263
ＰＬ２　岩本遺跡Ｃ地区東壁・確認調査遺物出土状況 ……264
ＰＬ３　小牧３Ａ遺跡（台形石器） ……265
ＰＬ４　小牧３Ａ遺跡（台形石器・ナイフ形石器） ……266
ＰＬ５　小牧３Ａ遺跡（ナイフ形石器） ……267
ＰＬ６　小牧３Ａ遺跡（ナイフ形石器） ……268
ＰＬ７　小牧３Ａ遺跡（剥片尖頭器） ……269
ＰＬ８　小牧３Ａ遺跡（三稜尖頭器・周辺加工石器・両面加工尖頭器） ……270
ＰＬ９　小牧３Ａ遺跡（掻器・削器・ドリル） ……271
ＰＬ10　小牧３Ａ遺跡（剥片） ……272
ＰＬ11　小牧３Ａ遺跡（剥片） ……273
ＰＬ12　小牧３Ａ遺跡（剥片，ブランティング・チップ） ……274
ＰＬ13　小牧３Ａ遺跡（石核） ……275
ＰＬ14　小牧３Ａ遺跡（石核・細石核） ……276
ＰＬ15　小牧３Ａ遺跡（細石核・細石刃・磨製石鏃・打製石鏃） ……277
ＰＬ16　小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅰ類・Ⅱ類土器） ……278
ＰＬ17　小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅱ類・Ⅲ類土器） ……279
ＰＬ18　小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅱ類・Ⅲ類土器） ……280
ＰＬ19　小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅲ類土器） ……281
ＰＬ20　小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅲ類土器） ……282
ＰＬ21　小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅲ類土器） ……283
ＰＬ22　小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅲ類土器） ……284
ＰＬ23　小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅲ類土器） ……285
ＰＬ24　小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅲ類土器） ……286
ＰＬ25　小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅲ類土器） ……287
ＰＬ26　小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類土器） ……288
ＰＬ27　小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅳ類土器） ……289
ＰＬ28　小牧３Ａ遺跡（底部接地面） ……290
ＰＬ29　小牧３Ａ遺跡（底部接地面） ……291
ＰＬ30　小牧３Ａ遺跡（桑ノ丸Ⅲ類土器） ……292
ＰＬ31　小牧３Ａ遺跡（塞ノ神式土器，円筒形Ⅱ類・Ⅲ類土器，磨石，石斧） ……293
ＰＬ32　小牧３Ａ遺跡（磨石，石皿，石斧） ……294
ＰＬ33　岩本遺跡（円筒形土器，石斧） ……295
ＰＬ34　岩本遺跡（調査風景） ……296
ＰＬ35　岩本遺跡（隆帯文土器） ……297
ＰＬ36　岩本遺跡（円筒形土器） ……298

ＰＬ37　岩本遺跡（円筒形土器）……299
ＰＬ38　岩本遺跡（円筒形土器）……300
ＰＬ39　岩本遺跡（円筒形土器）……301
ＰＬ40　岩本遺跡（円筒形土器）……302
ＰＬ41　岩本遺跡（円筒形土器）……303
ＰＬ42　岩本遺跡（円筒形土器）……304
ＰＬ43　岩本遺跡（押型文土器）……305
ＰＬ44　岩本遺跡（底部内面・接地面）……306
ＰＬ45　岩本遺跡（石鏃，石匙，石槍，円筒形Ⅰ類土器他）……307

表目次

表1　小牧3A遺跡遺物観察表（台形石器）1 ……46
表2　小牧3A遺跡遺物観察表（台形石器）2 ……47
表3　小牧3A遺跡遺物観察表（台形石器）3 ……49
表4　小牧3A遺跡遺物観察表（ナイフ形石器）1 ……50
表5　小牧3A遺跡遺物観察表（ナイフ形石器）2 ……58
表6　小牧3A遺跡遺物観察表（ナイフ形石器・剥片尖頭器）……69
表7　小牧3A遺跡遺物観察表（剥片尖頭器）……70
表8　小牧3A遺跡遺物観察表（尖頭器・剥片）……75
表9　小牧3A遺跡遺物観察表（三稜尖頭器）……78
表10　小牧3A遺跡遺物観察表（スクレイパー）……85
表11　小牧3A遺跡遺物観察表（軟質シルト質頁岩剥片）……85
表12　小牧3A遺跡遺物観察表（硬質頁岩剥片）……92
表13　小牧3A遺跡遺物観察表（折断剥片）……93
表14　小牧3A遺跡遺物観察表（剥片）……98
表15　小牧3A遺跡遺物観察表（剥片・ブランティング・チップ）……99
表16　小牧3A遺跡遺物観察表（石核）1 ……111
表17　小牧3A遺跡遺物観察表（石核）2 ……112
表18　小牧3A遺跡遺物観察表（接合資料）……119
表19　小牧3A遺跡遺物観察表 ……125
表20　小牧3A遺跡遺物観察表（細石核・細石刃・調整剥片）……131
表21　小牧3A遺跡遺物観察表（細石核・調整剥片）……132
表22　小牧3A遺跡遺物観察表（土器）1 ……149
表23　小牧3A遺跡遺物観察表（土器）2 ……150
表24　小牧3A遺跡遺物観察表（土器）3 ……151
表25　小牧3A遺跡遺物観察表（土器）4 ……152
表26　小牧3A遺跡遺物観察表（土器）5 ……153
表27　小牧3A遺跡遺物観察表（土器）6 ……154
表28　小牧3A遺跡遺物観察表（土器）7 ……155
表29　小牧3A遺跡遺物観察表（土器）8 ……156
表30　小牧3A遺跡遺物観察表（土器）9 ……157
表31　小牧3A遺跡遺物観察表（土器）10 ……158
表32　小牧3A遺跡遺物観察表（土器）11 ……159
表33　小牧3A遺跡遺物観察表（土器）12 ……160
表34　小牧3A遺跡遺物観察表（土器）13 ……161
表35　小牧3A遺跡遺物観察表（土器）14 ……162
表36　小牧3A遺跡遺物観察表（土器）15 ……163

表37　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）16 ……164
表38　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）17 ……170
表39　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）18 ……171
表40　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）19 ……172
表41　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）20 ……173
表42　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）21 ……174
表43　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）22 ……175
表44　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）23 ……176
表45　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）24 ……177
表46　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）25 ……182
表47　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（石器・磨製石鏃・打製石鏃） ……184
表48　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（石器・石斧） ……190
表49　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（石器・石斧・ハンマー・ストーン・磨石） ……194
表50　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（石器・磨石） ……195
表51　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（石器・石皿）１ ……201
表52　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（石器・石皿）２ ……202
表53　岩本遺跡遺物観察表（土器）１ ……223
表54　岩本遺跡遺物観察表（土器）２ ……224
表55　岩本遺跡遺物観察表（土器）３ ……225
表56　岩本遺跡遺物観察表（土器）４ ……226
表57　岩本遺跡遺物観察表（土器）５ ……227
表58　岩本遺跡遺物観察表（土器）６ ……228
表59　岩本遺跡遺物観察表（土器）７ ……229
表60　岩本遺跡遺物観察表（土器）８ ……230
表61　岩本遺跡遺物観察表（土器）９ ……233
表62　岩本遺跡遺物観察表（土器）10 ……236
表63　岩本遺跡遺物観察表（土器）11 ……242
表64　岩本遺跡遺物観察表（土器）12 ……243
表65　岩本遺跡遺物観察表（土器）13 ……244
表66　岩本遺跡遺物観察表（石器）１ ……252
表67　岩本遺跡遺物観察表（石器）２ ……253

第１章　調査の経過

第１節　調査に至るまでの経過

鹿児島県農政部は，本地域を指宿地区区画整備事業小牧工区とし国営畑地総合土地改良事業の対象と計画し，県教育庁文化課（以下，文化課）に対し埋蔵文化財の調査を依頼した。

この調査依頼に基づき文化課は，昭和51年４月に埋蔵文化財の分布調査を行い，広範囲に遺物が散布していることが判明した。そこで，これらの調査結果を基に農政部と文化課は，埋蔵文化財の保護と事業の調和を図るために再度協議を重ね，当該事業の実施に先立ち発掘調査を行うこととなった。　発掘調査は文化課が実施し，報告書作成はその後県立埋蔵文化財センターが行った。

第２節　発掘調査の組織

事　業　主　体　鹿児島県農政部
調　査　主　体　鹿児島県教育委員会
調査企画・調整　鹿児島県教育庁文化課
調査責任者　　鹿児島県教育庁文化課課長　嶋元牧雄（退職）
　　専門員　本蔵久三（退職）
調査担当者　　文化財研究員　出口　浩（現鹿児島市教育委員会文化課）
　　主事　長野眞一
　　主事　吉永正史（現鹿児島市教育委員会文化課）
　　主事　中村耕治
　　文化財調査員　西田　茂（現北海道埋蔵文化財センター）
　　文化財調査員　池崎譲二（現福岡市教育委員会埋蔵文化財課）
　　文化財調査員　中島哲郎（現川内市歴史資料館）

第３節　調査の経過及び報告書作成の経過

発掘調査は，昭和51年７月６日より10月22日の間確認調査を行い，その後，第２地点と第３Ａ地点については記録保存のための調査を引き続いて行い，昭和52年２月12日で終了した。

報告書の作成及び刊行については，出土遺物が多いこと，更に農政部と文化課の間での予算協議が進展せず遅延する結果となった。そこで，県教育委員会は発掘調査報告書の刊行の必要性を自覚し，独自に報告書作成と刊行のための予算を捻出することとした。

報告書作成は，平成６年から開始し平成７年度に刊行することとした。なお，報告書作成は，県立埋蔵文化財センターで行った。

第4節　報告書作成の組織

作成主体	鹿児島県教育委員会
作成責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター　所長　内村正弘
作成企画者	次長兼総務課長　川原信義
	主任文化財主事兼調査課長　戸崎勝洋
作成担当者	文化財主事　長野眞一
事務担当者	主査　成尾雅明
	主事　中村和代
	主事　追立ひとみ

発掘調査及び報告書作成に当たり多くの方々に，御指導・御助言をいただきました。記して感謝申し上げます。

鹿児島県農政部・鹿児島県農政部南薩畑灌事務所・指宿市耕地課・指宿市教育委員会

岡村道雄	文化庁記念物課主任調査官
河口貞徳	鹿児島県文化財保護審議会委員
石川悦雄	鹿児島大学
小林達雄	国学院大学史学部教授
橘　昌信	別府大学文学部教授
藤野次史	広島大学文学部助手
吉留秀敏	福岡市教育委員会埋蔵文化財課
八尋　実	神崎町教育委員会社会教育課
池水寛治	加治木工業高校教諭（故人）
道上康仁	（故人）

松藤和人（同志社大学）・山口譲二（福岡市教育委員会）・萩原博文（平戸市教育委員会）・江本直・木崎康弘・古森政次（熊本県教育委員会）・中川和哉（京都府埋蔵文化財調査研究センター）・本田道輝（鹿児島大学）・柳田俊雄（郡山女子大学）・須田良平（東北歴史資料館）・小畑弘巳（熊本大学）・白石浩之（神奈川県教育委員会）・鎌田俊明（指宿市教育委員会）・宮下貴浩（金峰町教育委員会）・坂本嘉弘・高橋信武（大分県教育委員会）・堤　隆（御代田町教育委員会）・松尾吉高（佐賀県教育委員会）・成尾英仁（指宿高校）

第２章　位置と環境

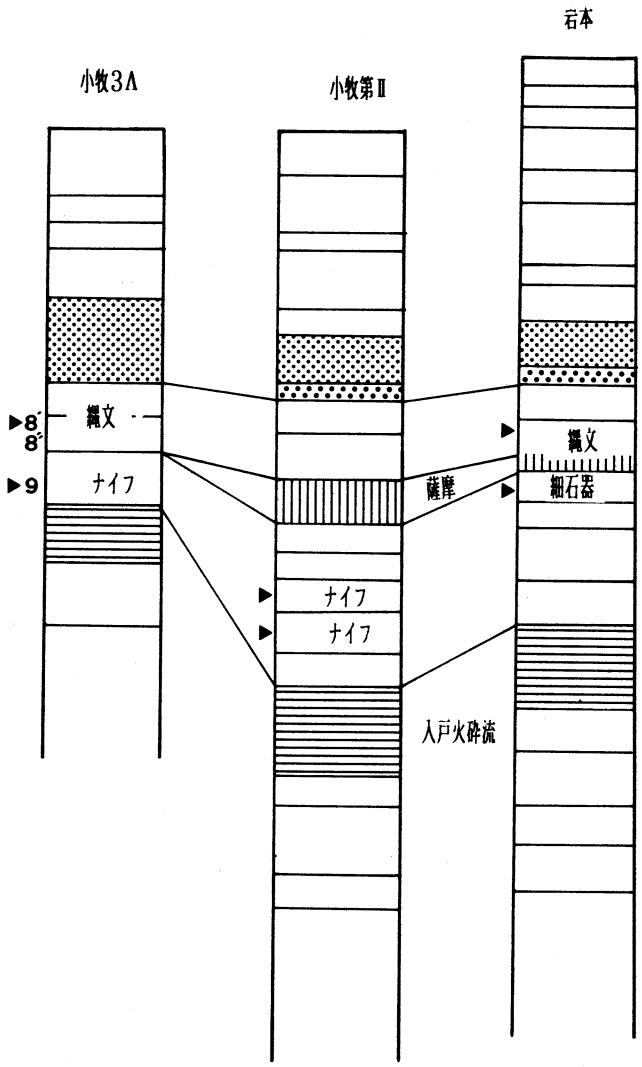
第１節　位置及び自然環境

遺跡の所在する指宿市は，薩摩半島の南端に位置し，気候的には亜熱帯気候に属し，温暖で豊かな自然環境にも恵まれ，古くから人々の生活が繰り返し営まれてきたことは想像に難くない。一方，地理的には阿多カルデラ（指宿市北部から海を渡って大隅半島に至る）に含まれ，その副産物として温泉地が多く分布し，観光産業が発達してきている。なお，地形的には山地，台地，平野，湖沼と大きく４つに分けられる。このような地形の基盤をなしているのは，阿多カルデラの影響するところが大きく，また，縄文時代には鬼界カルデラの火砕流の直撃を受け，その及ぼしたエネルギーは破壊的であったと予測されている。中でも九州最大のカルデラ湖である池田湖は，約5500年前に活動し，その噴出物は指宿地方の直接的な地形形成要因と成っている。また，指宿市と南接する開聞町にはトニコロイデ型の火山として有名な開聞岳がある。その活動は約4500年前頃から始まり，有史以来，「日本三代実録」にもその活動記録が見える。開聞岳起源の噴出物は広くこの地方を被覆している。

この開聞岳噴出物を考古学の時代区分に取り入れ，層位学を確立した遺跡が「国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡包含地」である。大正７・８年，浜田耕作，長谷部言人博士等によって発掘調査が実施され，テフラを介して上位に弥生土器，下位に縄文式土器を検出しそれぞれの年代差をテフラに求め層位学を確立した。大正13年に国指定史跡に指定され，昭和57年から平成７年の間整備事業が行われてきた。その間，指宿市教委は，国指定史跡に隣接する地区の都市計画開発事業に伴う発掘調査を実施してきている。そして，それらの調査データを基に，精力的に考古遺物と開聞岳噴出物の詳細な比定検討が重ねられ，噴出時期の確定作業が進められている。特筆すべきは，地元で「紫コラ」と呼んでいるテフラが「日本三代実録」に記載される貞観16（874 年）年３月４日の開聞岳噴火に伴うものであり，当時の生活面（平安時代）を覆っていることを明らかにし，火山災害を実証したことである。これらの成果により平成７年には，既指定地の北側に接する地域が追加指定され，名称も「指宿橋牟礼川遺跡」と改められた。

小牧３Ａ遺跡は錦江湾を東に望む断層海岸の先端部に立地し，そこからは大隅半島を眺望する。また，この一帯は，阿多カルデラの北端に相当し，池田湖とは直線にして２㎞の距離であり，そのため池田湖噴出の火山灰が厚く覆っている。一方西から北側には350 ｍから400 ｍ位の山々が連なっている。このため，遺跡の立地する一帯は日当たりが良く古くから好条件の畑地帯として利用されてきている。遺跡は，岩本麓上字栫ケ鼻に所在する標高65ｍ程の小高い独立丘陵に残されていた。この３Ａ遺跡に限らず，この丘陵を取り巻く周辺部も濃密に多くの時期，時代を越えた遺跡群が点在している。また，谷で隔てた北側の丘陵には縄文時代早期の岩本遺跡が知られ，更にその北には，尾越遺跡・堀添遺跡・露重遺跡等の旧石器時代の遺跡が点在している。多くの遺跡，遺跡群の分布する指宿市のなかで，この小牧遺跡から連なる丘陵一帯が特に，古い遺跡群で構成される特色を指摘できる。

第１図　小牧３Ａ遺跡土層図



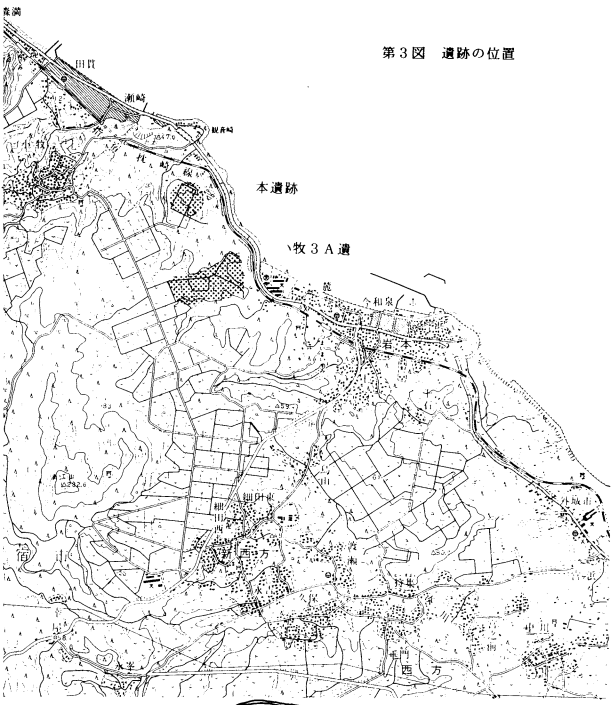
第２図　小牧３Ａ遺跡標準層位模式柱状図

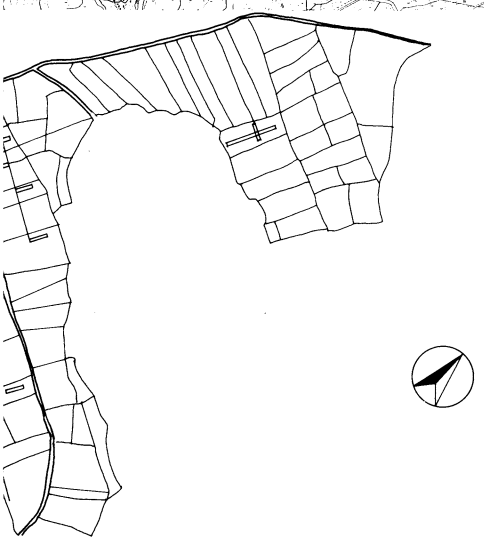


第４図　小牧３Ａ遺跡・トレンチ配置図



第３図　遺跡の位置





第4節　指宿市北部台地のテフラ

1．概要

小牧3A遺跡と岩本遺跡は鹿児島湾に面する台地の端に位置し，小牧3A遺跡では台地との間は小河川により浸食された狭小な谷が東西に走り，岩本遺跡では前面に比高差十数mの急崖が形成されている。

台地は東側へ緩やかに傾斜しており，遺跡は数mの高度差をもって立地している。小牧3A遺跡の中心部の標高は約65m，岩本遺跡は63mである。

2遺跡に堆積するテフラは上部から下部へ①開聞岳テフラ　②池田テフラ　③鬼界アカホヤテフラ　④権現山火山灰　⑤薩摩　⑥岩本火山灰　⑦姶良テフラ　⑧清見岳テフラの8枚である。いずれのテフラも平行に堆積し，谷部分では厚くなる傾向がある。①②③⑦⑧の各テフラは数枚の噴出物から構成されている。また，それぞれのテフラの間には，埋没腐植土やロームが堆積する。

2．地層各説

1．開聞岳テフラ

北部台地では表層に近い部分に，2枚の硬質火山灰が薄い間層を狭んで堆積する。いずれも特徴的な色調を帯び，それぞれ紫コラ・青コラと呼ばれる。

紫コラの分布主軸は開聞岳から北東方向で，北部台地にも明瞭に堆積する。全体に硬質の火山礫質細粒火山灰である。火山礫は赤レンガ色や黒色を帯びた安山岩で，火山灰中にまんべんなく入る。全体の厚さは約10cmで，旧地表面に平行に堆積する。

青コラの分布主軸は東北東で，北部台地にはブロック状に点々と堆積するのみで，谷部分など条件の良い所だけ残されている。厚さは3～5cm，旧地表面に平行に堆積する。

これらの開聞岳テフラの間には黒色腐植土とロームが堆積するが，一般に平坦面では黒色腐植土が発達し，斜面などでは黒茶色～茶褐色をおびたロームとなる。ロームの中には大豆大以下の安山岩質火山礫が，まんべんなく多量に入る。

2．池田テフラ

池田テフラは下部から，a池崎火山灰　b尾下スコリア　c池田降下軽石　d池田火砕流堆積物　e池田湖火山灰に区分される。北部台地の南部では谷を埋めるように池田火砕流堆積物が堆積するが，北部では火砕流堆積物が消滅し，最下部の池崎火山灰と最上部の池田湖火山灰の2枚が堆積する。

池田火砕流堆積物は白色無層理の塊状で，外見はいわゆるシラスと良く似る。しかし，含まれる軽石や基質の火山灰中には，カクセン石が多量に入っており区別できる。最大で人頭大の軽石を含む非溶結の火砕流堆積物となる。谷部分や噴出源近くでは厚く50m近くに達するが，北部では一般に10m程度の厚さである。場所によっては火砕流堆積物特有の，セグリゲーションパイプが顕著である。

池崎火山灰は特徴的な黄褐色を帯びた細粒火山灰で，内部に径2cm程度で円形～楕円形をした褐色の斑点が多量に入る。これはいわゆる高師小僧と称されるもので，詳細に観察すると枝分かれし

たものや，コブ状突起のあるものが認められ，噴火当時繁茂していた植物が火山灰に埋没し，その後，地下水などの作用で水酸化鉄などに置換されたと推定される。

池田火山灰の中には時々鶏卵大以下のスコリア質火山礫が入ることがあり，場合によってはボム・サグ構造を作る。これは引き続いて起こった尾下スコリアの噴火の際に噴出した火山礫が，まだ柔らかかった池崎火山灰にめり込んだものである。

池崎火山灰は特徴的にクロウンモを含むが，これは池崎火山灰の中に多量のカコウ岩片が含まれることから，それに由来する異質鉱物である。火山灰層の厚さは約20cm で，旧地形に平行に堆積する。

池田湖火山灰は当初，小牧火山灰と呼ばれていたが，その後の調査で池田湖から噴出した後カルデラ噴出物であることが判明し，池田湖火山灰と改称された。全体に薄いピンク色を帯た細粒の火山灰で，数cmの厚さで平行に互層する。全層準にわたってカクセン石が多量に含まれる。また，層準によっては，5 mm程度の大きさの火山豆石が多量に含まれる。岩本遺跡では火山灰を縦に切るクラステックダイクが多数認められているが，幅数cm程度で池田湖火山灰中で消滅しており，池田湖火山灰噴火時に発生した地震による液状化現象による噴砂痕である。　池田湖火山灰の厚さは台地北部で約１m，南部では約２mである。池崎火山灰と平行に堆積しており，両者の間には顕著な浸食面や風化面は認められないことから，二つの噴火はわずかな間隔をおいて，連続して発生したと推定される。

３．黒色腐植土

池崎火山灰の直下には真黒色を帯びた腐植土がある。全体の厚さは10cm程度で，詳細に観察すると細かい層理が見られる。岩片や軽石片などは含まれない。

４．アカホヤ

鮮やかな黄橙色を帯びたテフラで，下部の幸屋降下軽石（K-Kyp ）と中部の幸屋火砕流堆積物（K-Ky），及び鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）の３層に区分される。場所によっては降下軽石と火砕流堆積物との間に，厚さ５cm程度の軽石，岩片混じりの砂層が挟まっている。下部のK-Kyp は厚さ５～10cmでK-Kyの直下に堆積しよく連続する。軽石は角張っており，最大径は約２cm，平均は７mm程度で，全体に締まりが悪くルーズである。軽石はいずれも繊維状のもので，バブル型のものはほとんど見られない。この上にある砂層はその特徴から，火砕流堆積物のグランド・レイヤー層に相当する。上部のK-Kyは厚さ30cmで，K-Kyp に平行に堆積する。このテフラは内部に最大径10cm程度の軽石を含み，マトリックスはガラス質火山灰により埋められる。岩片はほとんど含まれない。また，内部の軽石は繊維状のものと，石鹸の泡状になったものの２種類がある。新鮮な部分では淡黄色を帯び，ほとんどシラスと同じ外見をもっている。しかし，風化した場合には鮮やかな黄橙色をしている。K-Ahは火砕流堆積物を直接覆って堆積する。最下部には平均５mm程度の円形の火山豆石，及び長径１cm以下の軽石破片が薄く層を成している。それに連続してガラス質火山灰が堆積するが下部ほど粗粒で上部に行くに従い細粒になる級化構造が認められる。全体の厚さは15～20cmである。

５．権現山火山灰

上部の明るいベージュ色を帯びた層と，下部のやや汚れたベージュ色を帯びる層とに分けられ

る。上部層は径５cm前後の不整形の球状の塊が，互いにくっつくように堆積する。下部層には径１～２mm程度の風化岩片が多数散在し，風化した赤橙色を帯びたスコリア質テフラが入っている。上下層との境界は不鮮明で不規則に入り組む。

本層を指宿火山群の方へ追求すると，やや赤みを帯びたベージュ色を呈した径数mmの火山豆石を多量に含むようになることから火山噴出物と判断される。本層は縄文時代早期の遺物包含層となっている。

6．黒色腐植土および薩摩

権現山ローム層とは明瞭な境界で接する黒色腐植土で，約20cmの厚さで堆積し，その中には軽石が浮遊して多量に点在する。全体に硬く締まる。場所によってはこの層の基底部付近に，黄橙色の軽石がブロック状に濃集することがある。軽石の最大径は約５cmであるが，通常の軽石の最大径は約２cmである。比較的淘汰が良く火山灰などは認められないが，白色の風化した長石がゴマ塩状に入っている。この軽石を台地から北部方向へ追跡すると厚くなり，さらに間にベース・サージ堆積物を挟むようになることから，桜島起源の薩摩（P14）に対比することができる。

7．黒茶色ローム

きわめて粘質の強いローム層で，濃いチョコレート色を帯びる。径数mm程度の赤橙色岩片がまれに含まれているが，軽石などは認められない。いわゆるチョコレート層に相当する。厚さは約20cmである。上位の層との境界は明瞭であるが，下の層との境界は不明瞭である。乾くと縦にクラックが入る。

8．岩本火山灰

きわめて粘質の強い厚さ約15cmの火山灰層で，ほとんどの場所でローム状となっており，火山灰層としての識別は容易でない。そのような場所では上位の層との境界は不鮮明で，乾くと上位の層を貫いて縦にクラックが入る。岩片や軽石などは含まない。この層は県本土南半の広い範囲に堆積しており，岩本火山灰と呼ばれている。カクセン石とバブル・ウォール型の火山ガラスを含む特徴的な火山灰である。

9．黒茶色ローム

上位にある黒茶色ロームと同じような性質をもつが，やや色調が暗くなる。厚さは約20cmである。下位の層との境界は漸移的であるが，層としては明瞭でしっかりした堆積状況を示す。場所によってはまれに径数mmの赤橙色の軽石が点在している。この層の下半分はやや砂層となるが，これは下位の層に由来する火山ガラスが多量に含まれるためである。上半分はきわめて粘質が強い。

10．姶良テフラ

やや汚れた黄白色を帯びた火山灰である。全体に硬質で風化が著しいが，明瞭でしっかりした堆積状況を示し，場所によっては齢成層構造が認められる。まれに径３cm程度で黄橙色の軽石が点在する。下位にある大隅降下軽石との境界は鮮明である。間には風化帯や浸食跡，土壌に堆積は認められず，両者は比較的短時間に連続して堆積したことがわかる。山地側ほど薄くなり，斜面などでは浸食され認められない。

大隅降下軽石は濃い黄橙色を帯びた軽石の層であるが，場所によっては白色の新鮮な軽石が詰まっている。堆積状況に良い場所では約80cmの厚さで堆積するが，一般的には約50cmの厚さである。

最大径２㎝大程度の軽石がぎっしり詰まり，岩片はそれほど多くない。白色で径粒の大きい斜長石結晶が目立つ。級化構造や成層構造などは認められない。下位の層との境界は直線状で明瞭である。

11．黒色腐植土

厚さ約１㎝の真黒色の腐植土である。大隅降下軽石の直下にほぼ連続して堆積するが，場所によっては認められないことがある。上下の層との境界は明瞭である。

12．赤銅色ローム

やや赤みを帯びた粘質の強いローム層である。場所によっては焼け土のような赤橙色を帯びていることもある。岩片や軽石などは含まない。厚さは約20㎝であるが，下位層との境界は明瞭である。礫群などの遺物が包含される。

13．黒茶色ローム

濃い黒茶色を帯びたロームである。全体に粘質が強い。岩片や軽石などは含まれていない。厚さは約20㎝であるが，下位層との境界は不鮮明にぼやけている。この層の上部には礫群などの遺物が包含される。

14．清見岳テフラ

全体に灰褐色～ベージュ色を帯び，下部になるときわめて硬質のテフラ層となる。全層準を通じて成層構造が認められる。場所によっては数ｍの厚さに達し，上部層・中部層・下部層に区分される。それらの間には著しい不整合はないが，場所によっては弱い浸食面が存在する。

３．テフラの起源と年代

１．開聞岳テフラ

北部台地で見られる開聞岳テフラには，紫コラと青コラの２枚がある。指宿市橋牟礼川遺跡でのこれまでの発掘調査により，紫コラは平安時代貞観16年３月４～５日の噴出物に，青コラは古墳時代末（７世紀第四半世紀の）噴出物に対比されている。いずれのテフラも体積0.5km^{3}程度で，紫コラは北東方向に，青コラは東北東方向に分布する。このため紫コラは喜入町南部まで追跡できるが，青コラは指宿市北部地付近が分布限界となる。

２．池田テフラ

池田テフラは現在の池田湖を占める池田カルデラ付近から噴出したもので，下部からa.池崎火山灰　b.尾下スコリア　c.池田降下軽石　d.池田火砕流堆積物　e.池田湖火山灰に区分される。これらのテフラの間には顕著な不整合や浸食面は認められず，これらが連続して噴出したことが推定される。

池崎火山灰は池田カルデラ北縁外にある，マール地形を呈する池崎から噴出したもので，ベース・サージ堆積物や火山豆石を伴うことから，水蒸気マグマ爆発の産物である。対岸の大隅半島には薄く堆積する。

尾下スコリアは池田カルデラ内部の尾下付近から噴出したもので，ほぼ東側に主軸を持ち対岸の大隅半島にも堆積する。安山岩質の火山礫質スコリアで，あまり発砲は良くない。指宿市北部台地では，池崎火山灰の中にまれに点在する。テフラの特徴からマグマが直接噴出したマグマ爆発の産物である。　北部台地の南部では谷を埋めるように池田火砕流積物が堆積するが，北部では火砕流

堆積物が消滅する。火砕流堆積物の直下にある池田降下軽石は，北部台地では分布限界に近く，浸食されほとんど消滅している。火砕流堆積物は間に挟まるサージ堆積物や細粒火山灰により，何枚かのフロー・ユニットに区分される。最も厚い場所では50ｍ以上あるが，一般には10～10数ｍの厚さである。現在の分布から求められた体積は約２km^3であるが，海中にもかなりの部分が堆積するので，実際にはこの倍以上はあると思われる。

池田湖火山灰は池田カルデラ形成後，カルデラ内部で起こった噴火により生成したテフラで，全体に泥っぽい細粒の火山灰が薄く堆積する。非常に多量の火山豆石を含む特徴がある。分布は池田カルデラを中心にややつぶれた楕円状であり，低い噴煙柱が何回も繰り返してこのような分布が形成されたことを示している。対岸の大隅半島にも数10㎝の厚さで堆積する。テフラの特徴から，水蒸気爆発が繰り返し起こり，ときどき水蒸気マグマ爆発が発生したと推定される。

池田テフラの噴出年代は，^{14}C年代の推定により約5500年前とされている。

３．アカホヤ

アカホヤは薩摩半島及び大隅半島南部では，幸屋降下軽石／幸屋火砕流／アカホヤ火山灰層の順に堆積する。薩摩半島側では降下軽石は喜入町中部付近までが到達限界である。火砕流堆積物は鹿児島市中部付近までで，本遺跡は火砕流堆積物が明瞭に堆積する位置にある。アカホヤ火山灰は南九州の広い範囲で，20～30㎝の厚さで明瞭に堆積する。

アカホヤの年代は多くの^{14}C年代の推定値から，約6300年前とされる。(町田・新井1987)

４．権現山火山灰

指宿市北部台地ではアカホヤ直下に権現山火山灰が明瞭に堆積するが，県本土のほとんどでもこの層準にベージュ色のローム質土壌が堆積する。最初，これらも権現山火山灰とされたが，その後の調査で①どこでも厚さがほぼ一定なこと②場所によってはローム質土壌が欠け，黒色腐植土が堆積すること③この中から多量の照葉樹の植物珪酸体が検出されることから，温暖期に堆積した森林褐色土壌とされるようになった。

したがって，権現山火山灰は指宿火山群周辺にのみ堆積するが，その正確な分布状況は良くわかっていない。含まれる鉱物から安山岩質マグマの活動によるもので，水蒸気マグマ爆発の産物と考えれる。

本層が球状の塊となって堆積する理由として，樹木の根による作用なども考えられるが，その他に地震による振動が関係する可能性も考えられる。南九州では本層の中から縄文時代早期末の遺物が出土する。

５．薩摩

薩摩は南九州の広い範囲に堆積するテフラで，鹿児島市周辺では特に厚く明瞭なテフラである。このテフラの噴出源は桜島の袴腰付近と推定され，降下軽石とその間に挟まるベース・サージ堆積物からなる。テフラが比較的厚い鹿児島市吉野台地・紫原台地では，下位から上位に10層に区分されている。最も下位には降下軽石（Sa-Ⅰ）があり，その上に火山砂・降下軽石の互層（Sa-Ⅰ～Ⅳ）が堆積し，さらにベース・サージ堆積物（Sa-Ⅴ），細粒火山灰（Sa-Ⅵ），降下軽石（Sa-Ⅶ）火山砂・軽石互層（Sa-Ⅷ～Ⅹ）の順に堆積する（森脇1990）。

本遺跡で見られるテフラは降下軽石の単一層であり，最下部の降下軽石層のSa-Ⅰか，その上の

降下軽石のSa-Ⅶに対比される。降下軽石の分布と厚さからSa-Ⅰに対比される可能性があるが，指宿市北部台地から鹿児島市南部方向へ調査を広げることで明らかにされるであろう。薩摩の年代は約11000年前で，鹿児島市の掃除山遺跡や加世田市の掎ノ原遺跡では，薩摩の下から多量の縄文時代創草期遺物が出土した。

6．岩本テフラ

本遺跡では明瞭な堆積状況を示さないが，一般的にはチョコ層と呼ばれる粘質ローム層の間に淡褐色ロームとして連続した層をつくって堆積する。県内のほとんどの遺跡で十数cmの厚さで堆積し，層厚の変化はあまり見られない。ただ，小牧第2遺跡では黄白色の細粒火山灰層として，厚さ15cm程度で明瞭に堆積する。このテフラはカクセン石やバブル・ウォール型火山ガラスを含む特徴があるが，噴出源については今のところ不明で，細粒の鉱物を含むことから遠方から飛来した可能性がある。年代もはっきりしないが，遺物との関係から約15000年前程度と推定される。

7．姶良テフラ

入戸火砕流堆積物は，喜入町から指宿市北部の海岸沿いでは数十mの厚さで堆積し，いわゆるシラス台地と呼ばれる地形を作る。しかし，そこから山麓に向かうにつれ急激に厚さが減少し，山地ではほとんど認められない。北部台地は山地の裾部分に相当し，火砕流堆積物の末端が到達したと推定される。一般に火砕流堆積物は低所に沿って流走するため，谷部分では厚く斜面では薄くなる傾向がある。

大隅降下軽石は桜島付近から南東の方向へ噴出しており，噴出源に近い主軸沿いでは7～8mの厚さで堆積するが，北部台地は主軸から離れ数十cmの厚さしかない。一般に谷部分で厚く，斜面では堆積後移動するため薄くなる。

大隅降下軽石と入戸火砕流堆積物は，数ヵ月程度の間隔をおいて，ほぼ連続して噴出したとされる。入戸火砕流堆積物の年代はこれまで約22000年前とされてきたが，最近の^{14}C年代測定法の進展により約24000～25000年前とされるようになった。

8．清見岳テフラ

指宿地方ではシラスの下にローム層を挟み，成層した火山灰・スコリア・軽石混じり層が堆積する。火山灰層はきわめて硬質で耕作の妨げとなり，「ツッパ石」と俗称されている。このテフラは従来唐山と呼ばれてきたが，最近，奥野・成尾・小林（1995）は清見岳を噴出源とする水蒸気マグマ爆発の産物であることを明らかにし，「清見岳テフラ」と命名してその分布などを示した。それによるとテフラの体積は約7.4km^{3}で，ＶＥ１５クラスの噴火に相当する。大きく3層に区分され，中部には軽石・スコリアが挟在し，上部は細粒火山灰でとくに強く膠着する。噴出源近くでは10m以上あり，喜入町南部でも約4mの厚さで堆積する。年代については測定されていないが，上下の既知のテフラ年代と挟在して堆積するロームの厚さから，約53000年前と推定されている。しかし，この値はロームの堆積が一定であると仮定しているので，あくまでもおおよその値と考えられる。

文　献

小林哲夫(1987)：桜島火山の形成史と火砕流　文部省科学研究費自然災害特別研究「火山噴火に

伴う乾燥粉体流（火砕流等）の特徴と災害」報告書137-162
町田　章・新井房夫(1978)：「南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラーアカホヤ火山灰」『第四紀研究17』143-163
町田　章・新井房夫(1992)：「火山灰アトラス」　276P.『東京大学出版会』東京
森脇　広(1990)：「更新世末の桜島の大噴火に関する研究－薩摩軽石層の噴火の経過と様式－」『鹿児島大学南科研資料センター報告特別号３』40-47
成尾英仁(1978)：「地学からみた地形」　弥栄久志・中島哲郎編『小牧第Ⅱ調査区』12-14 指宿市教育委員会
成尾英仁(1978)：「鳥山調査区の地質について」　弥栄久志・中島哲郎・井ノ上秀文編『鳥山調査区』21-24 指宿市教育委員会
奥野　充・成尾英仁・小林哲夫(1995)：「大隅半島南部に分布する後期更新世テフラ」『鹿大理紀要（地学・生物）28』

第３章　旧石器時代の調査概要

第１節　出土遺物

小牧３Ａ地区は本来独立した小丘陵であったと思われるが，丘陵の北側はほぼ直線的（Ｄ－１区からＡ－15区）に畑の境界と成すために削り取られていた。　調査は，丘陵全域に３ｍ×３ｍを単位に，南北にＡからＯの15区，東西に１から22区（2970㎡）の調査区を設定して行った。

第５図の地形測量図は，旧石器時代の遺物出土の最終面を記録したもので，それに基づくと丘陵の約半分を調査したことになる。最高部のコンタラインが67ｍで，遺物の出土はこの頂部付近から南西方向への分布（67ｍから65･3ｍライン：第１群）と頂部から南東方向への分布（67ｍから65･4ｍライン：第２群）に大きく区分できる。なお，Ｈ－７・８区からＭ－７区にかけて直線的に分布する小群（第３群），Ｄ・Ｅ－20～22区にも小群（第４群）の分布を見ることができる。

第２節　台形石器・台形様石器

本遺跡からはナイフ形石器文化特有の多くの器種が出土しているが，中でも，台形石器の出土数は際立っている。器種分類で台形石器98点，台形様石器14点を取り上げている。分布を見てみると大きな２群（第１群と第２群）に含まれ，なおかつ濃密な分布範囲に包括される。　台形石器・台形様石器に使用された石材は黒曜石（112 点中101 点でその多くに鹿児島市三船産の黒曜石を使用している）がその大部分で，一部に安山岩や石英質（鉄石英・瑪瑙等）の石材が見られる。形態的には，使用剥片により大きく２つに区分できる。それは，不定形剥片を使用したものと，縦長あるいはそれに類する剥片を折断（分割）して刃潰し加工を行うものである。１類から３類は不定形剥片を用いたもの，４類から６類は縦長剥片等を折断して加工したものである。それらは更に，刃潰し加工の部位によりそれぞれ３種に区分できる。

不定形剥片使用

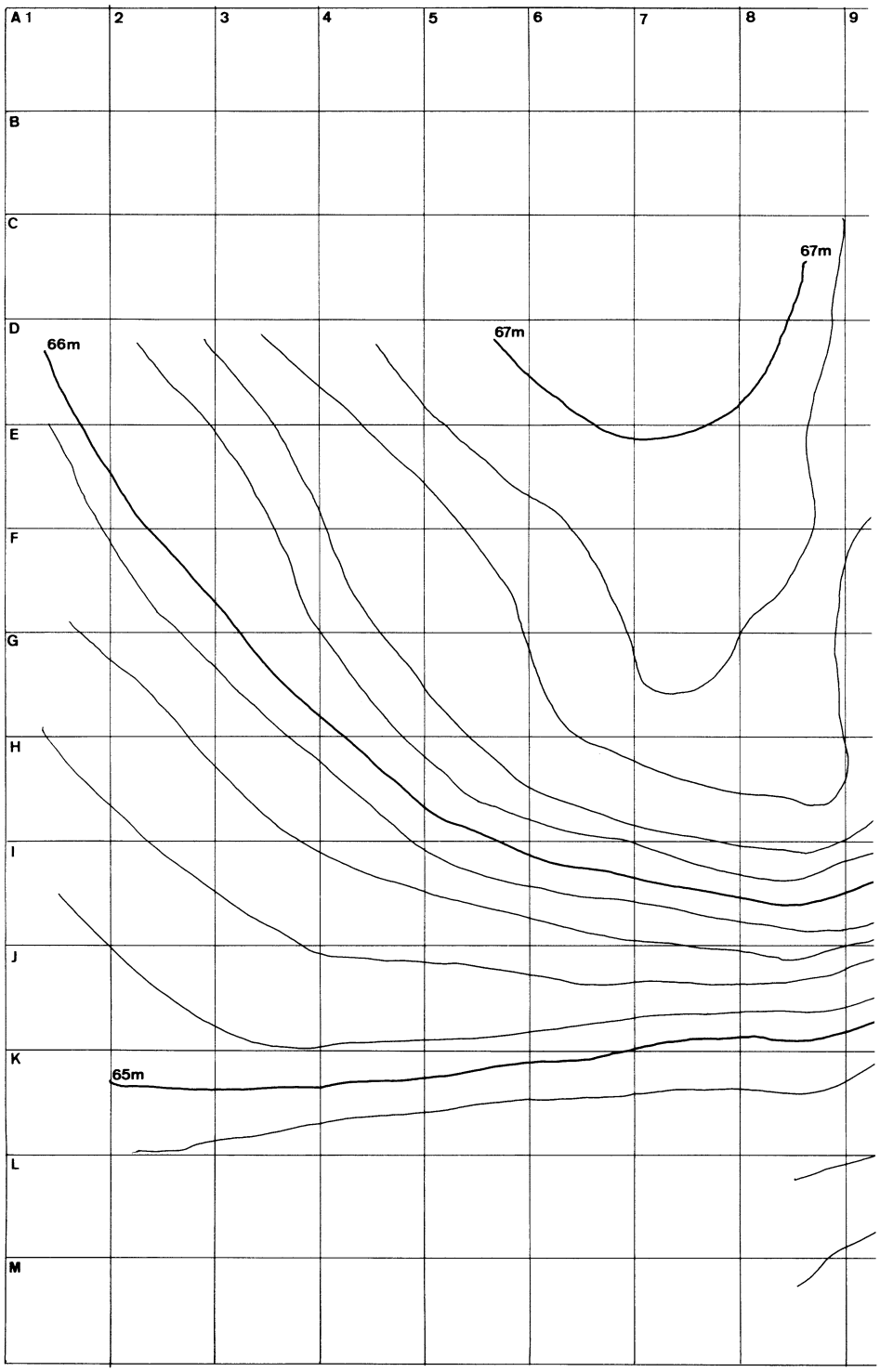
１類	不定形剥片の１側縁部（右ないし左）に加工を施したもの。	（16点）（18%）	73%
２類	不定形剥片の両側縁部に加工したもの。	（26点）（28%）	
３類	不定形剥片の両側縁部と下縁部の３面に加工したもの。	（25点）（27%）	

※不定形剥片を用いるため，刃部が斜刃や丸刃を呈する傾向が認められる。

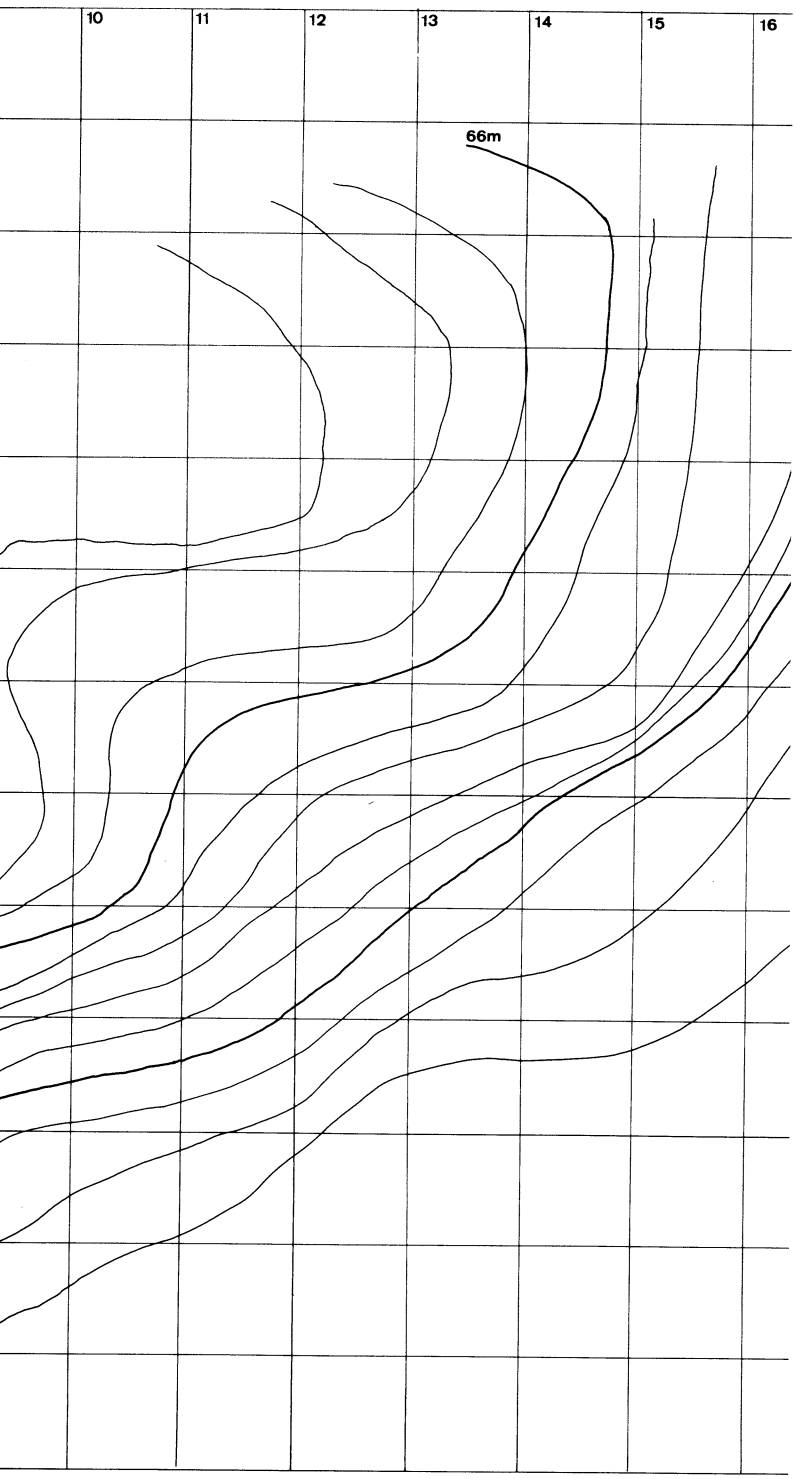
縦長剥片使用（折断技法併用）

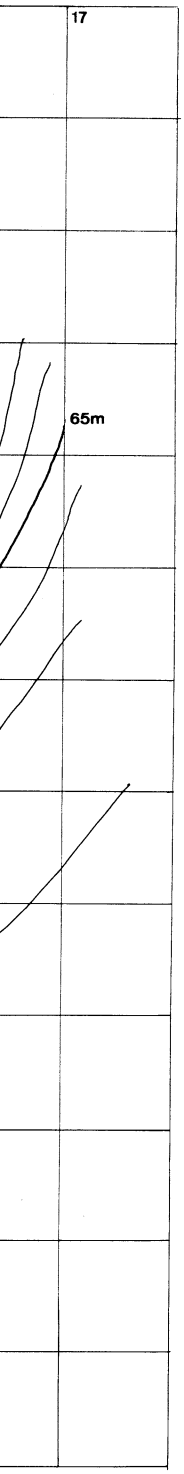
４類	折断剥片の１側縁部（右ないし左）に加工を施したもの。	（15点）（16%）	27%
５類	折断剥片の両側縁部に加工したもの。	（６点）（７%）	
６類	折断剥片の両側縁部と下縁部の３面に加工したもの。	（４点）（４%）	

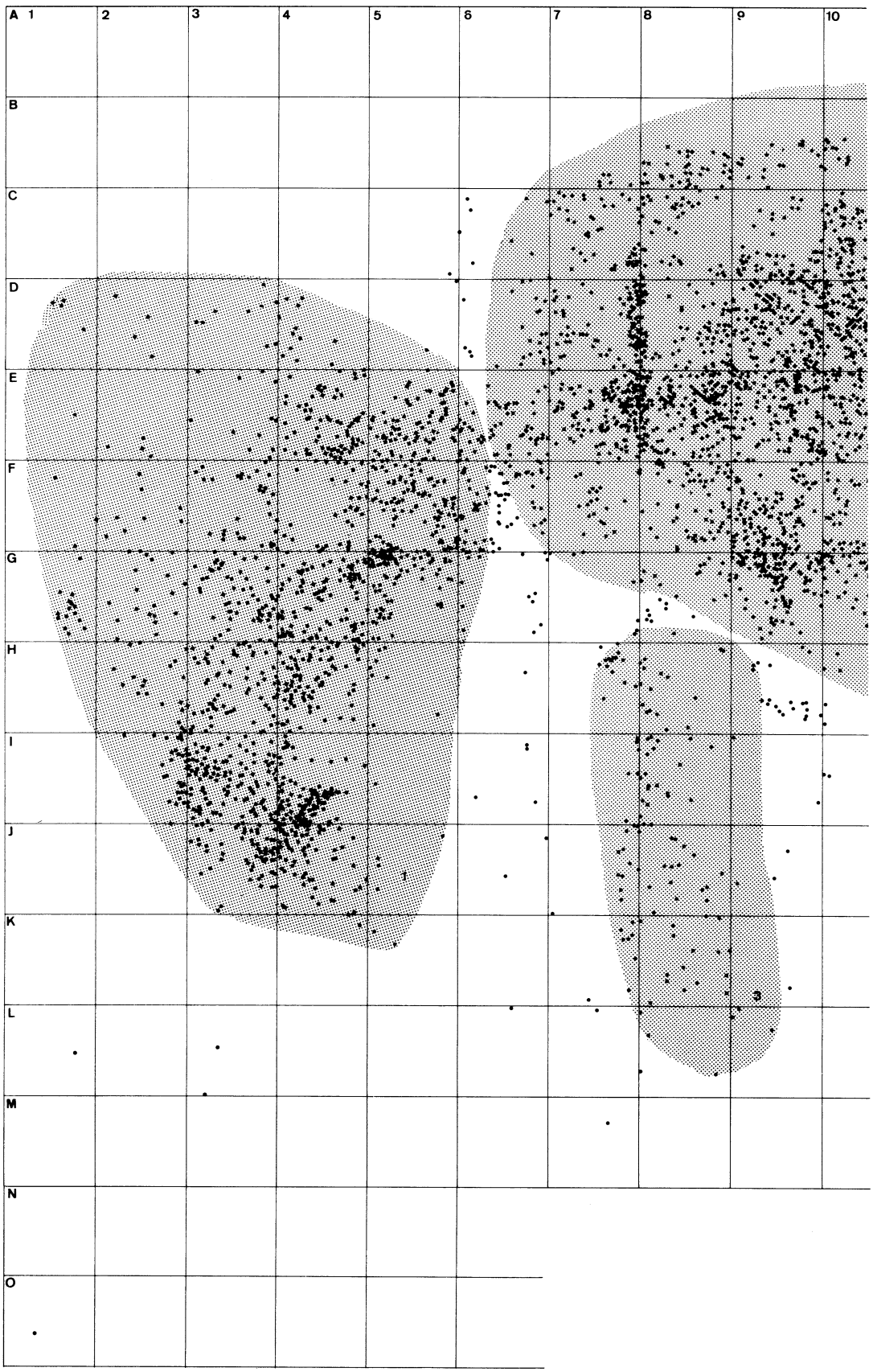
※縦長剥片や剥片を折断し，剥片の側縁部を刃部とするため大部分が直刃を呈している。



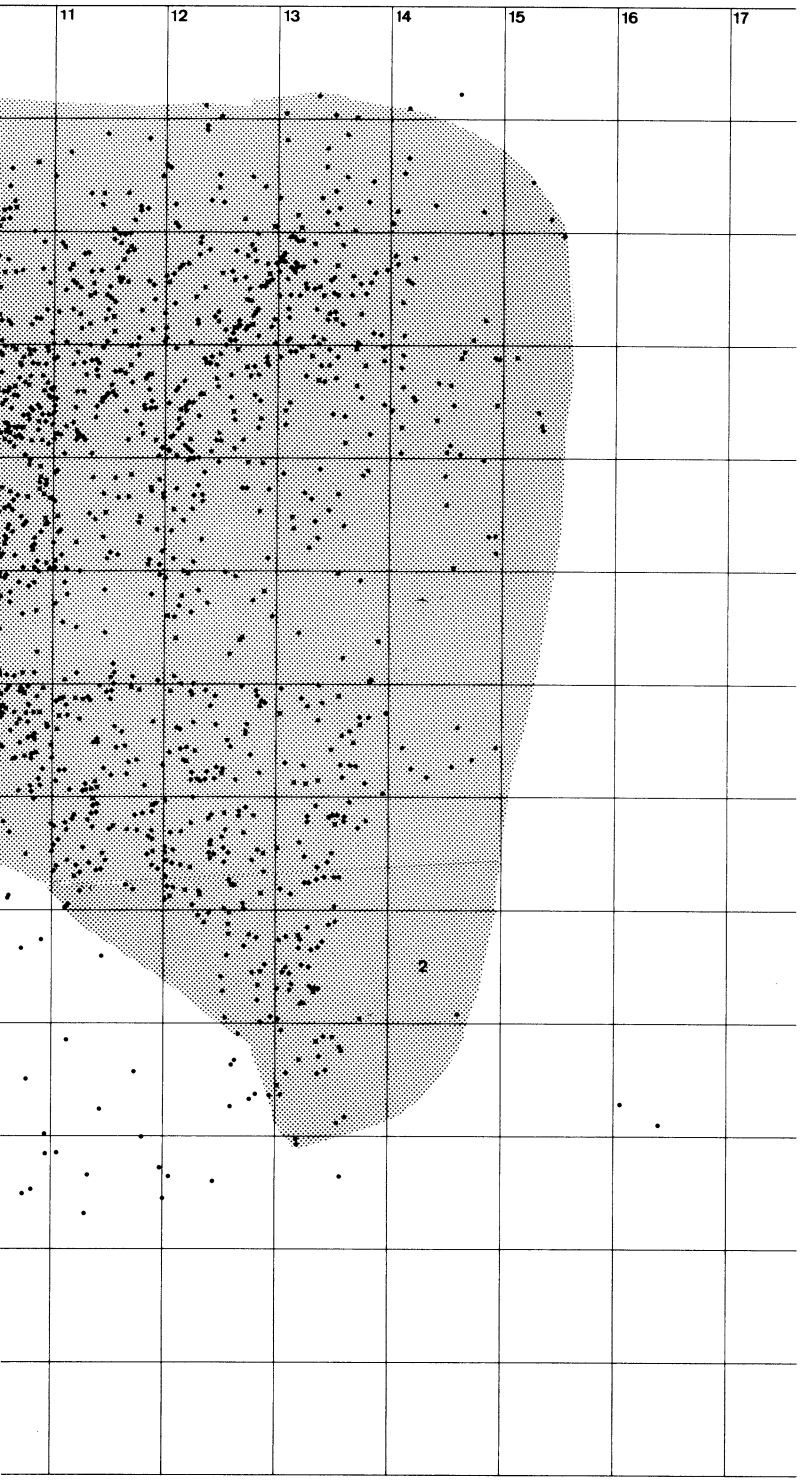
第５図　小牧３Ａ遺跡・旧石器時代最終面地形図

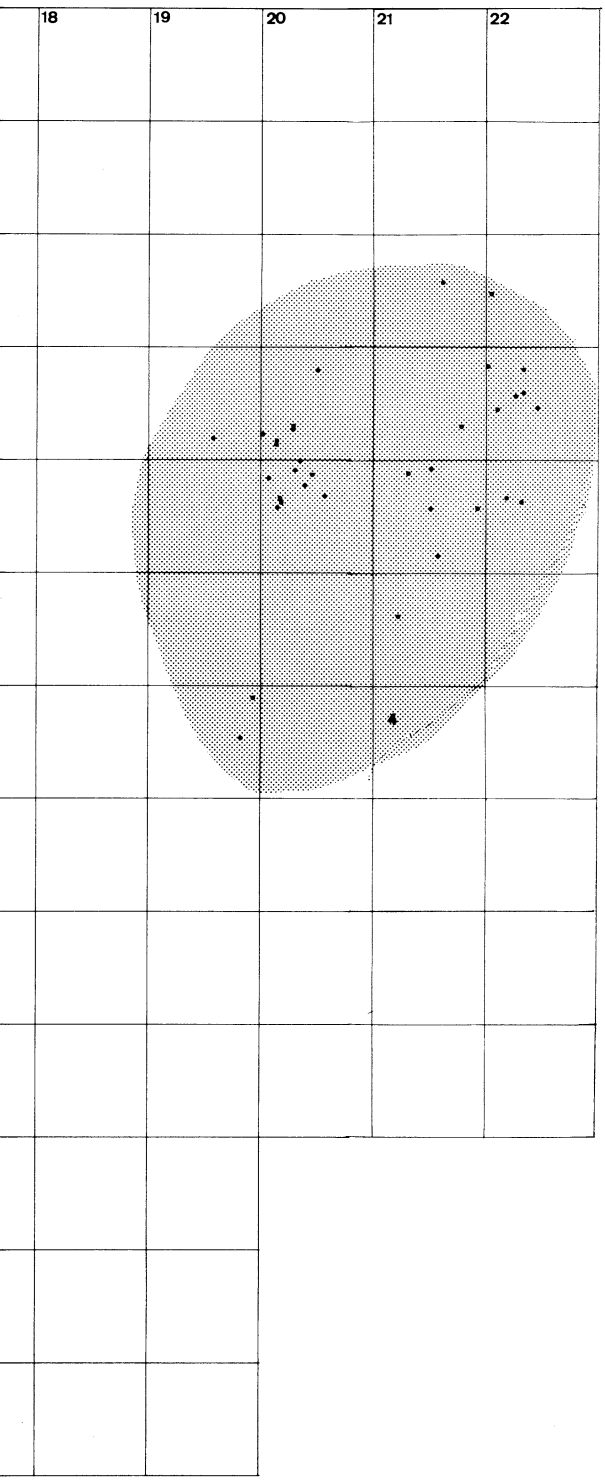

10
11
12
13
14
15
16
66m

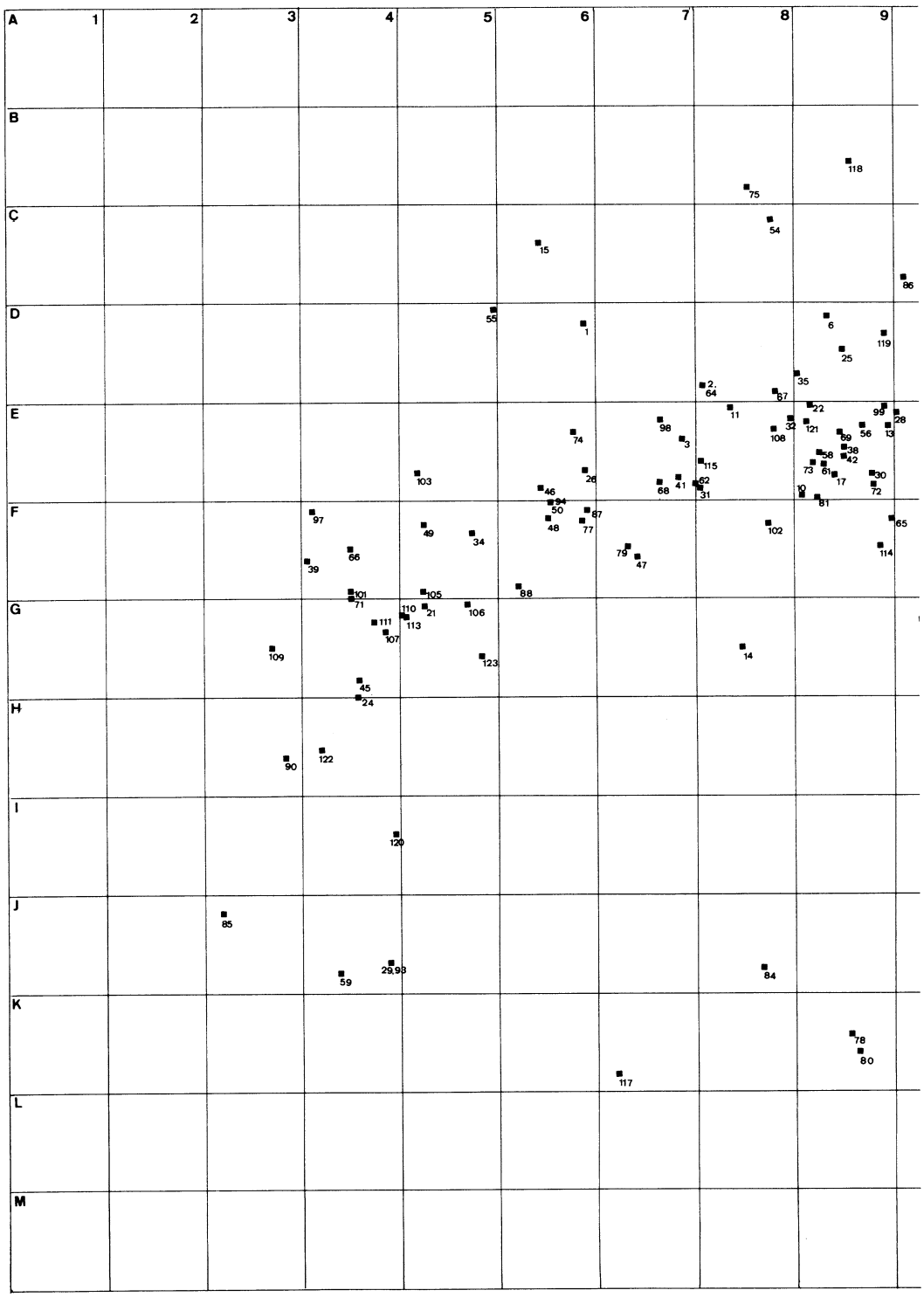

17
65m



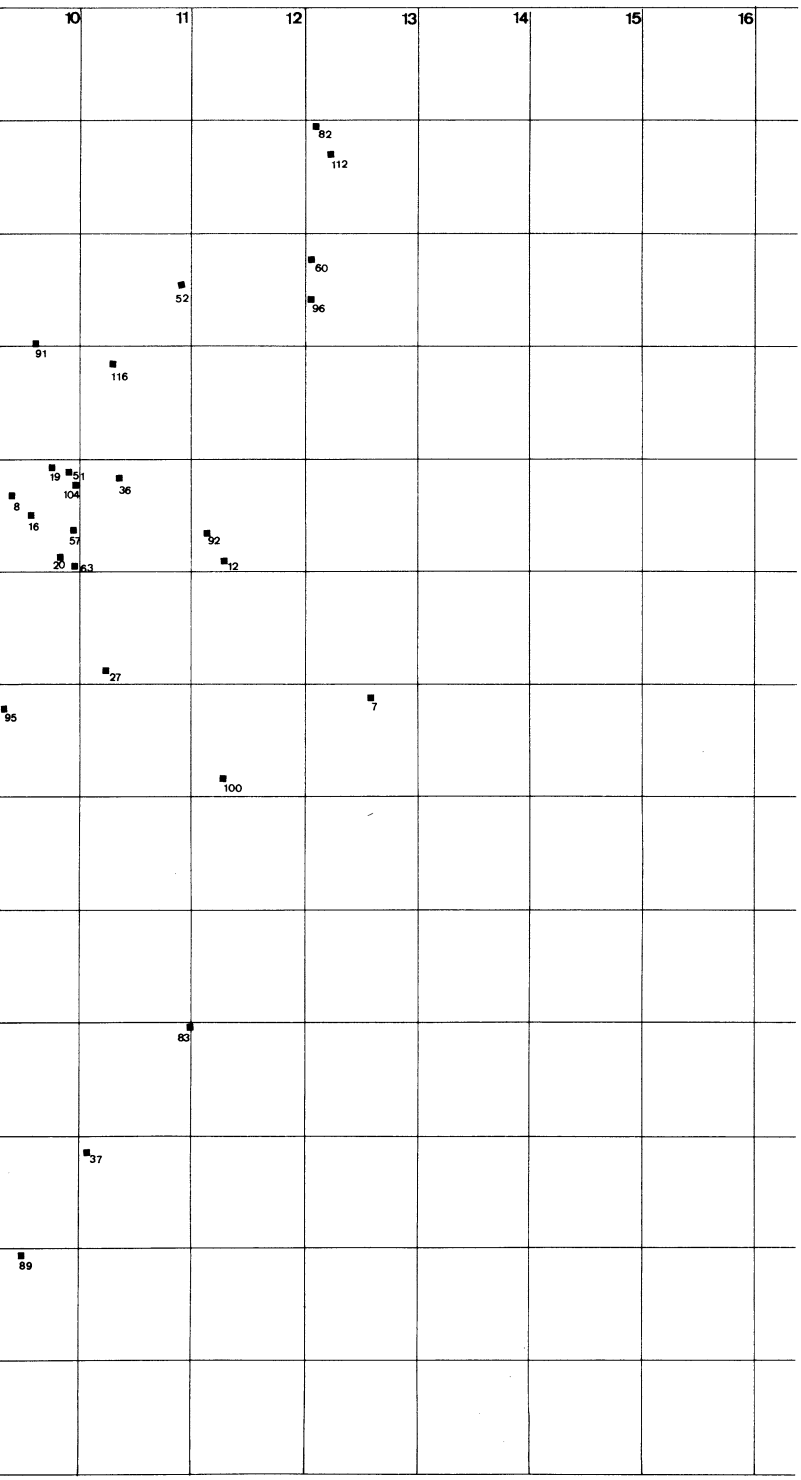
第６図　小牧３Ａ遺跡・旧石器時代出土遺物分布図


11
12
13
14
15
16
17
2


18
19
20
21
22

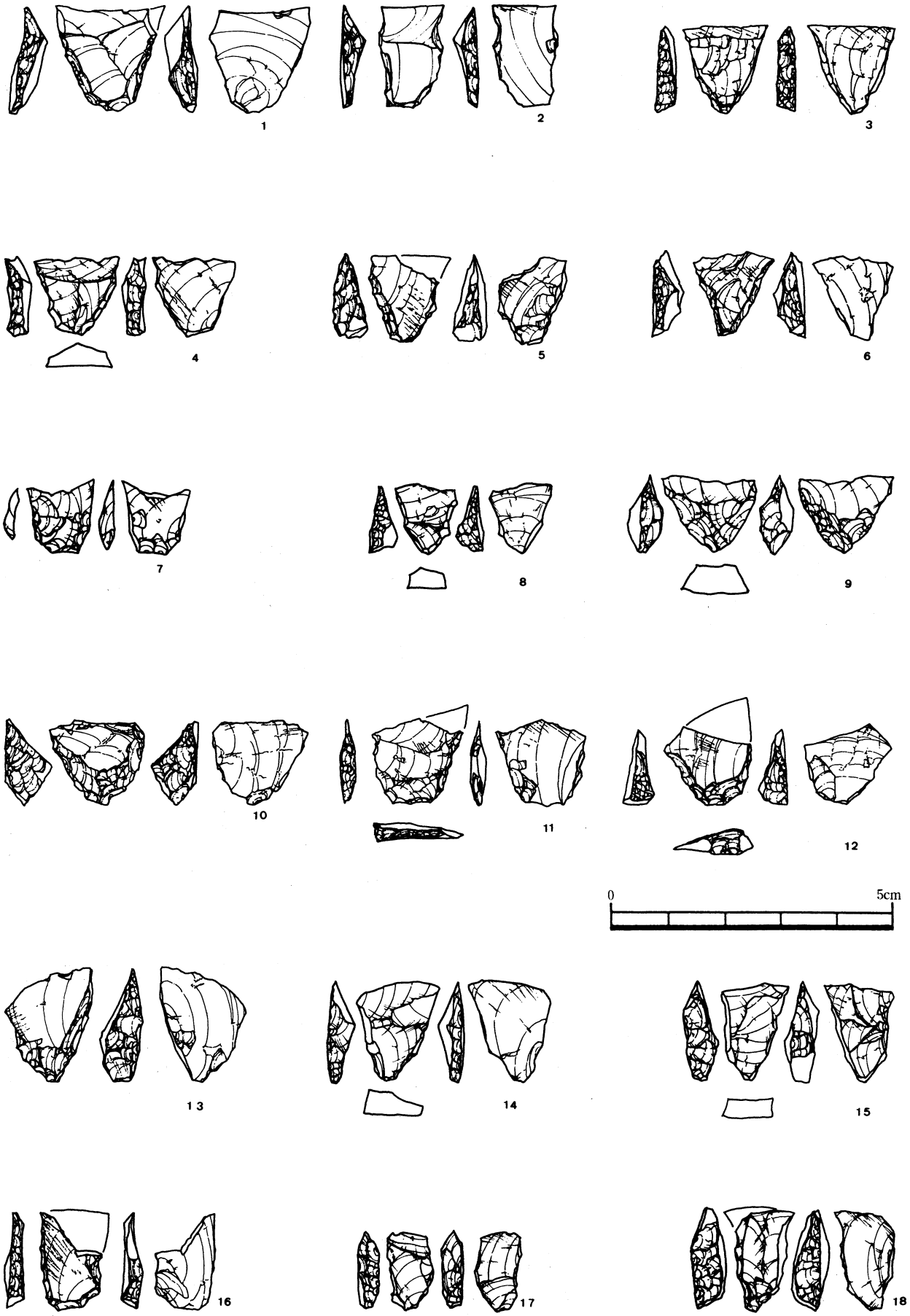


第７図　小牧３Ａ遺跡・旧石器時代（台形石器出土分布図）

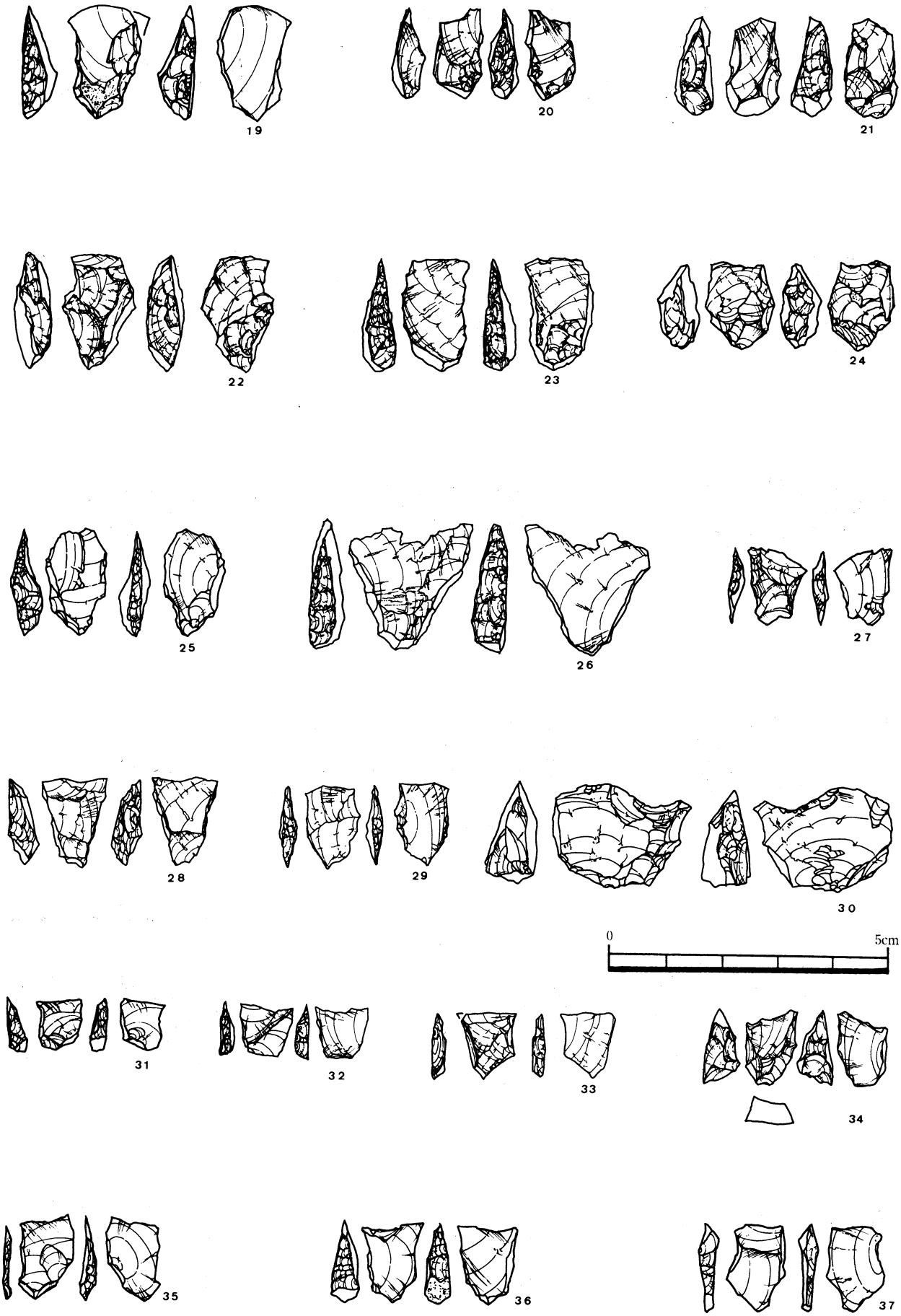

10
11
12
13
14
15
16
82
112
60
52
96
91
116
19
51
104
36
8
16
57
92
20
63
12
27
95
7
100
83
37
89

17	18	19	20	21	22

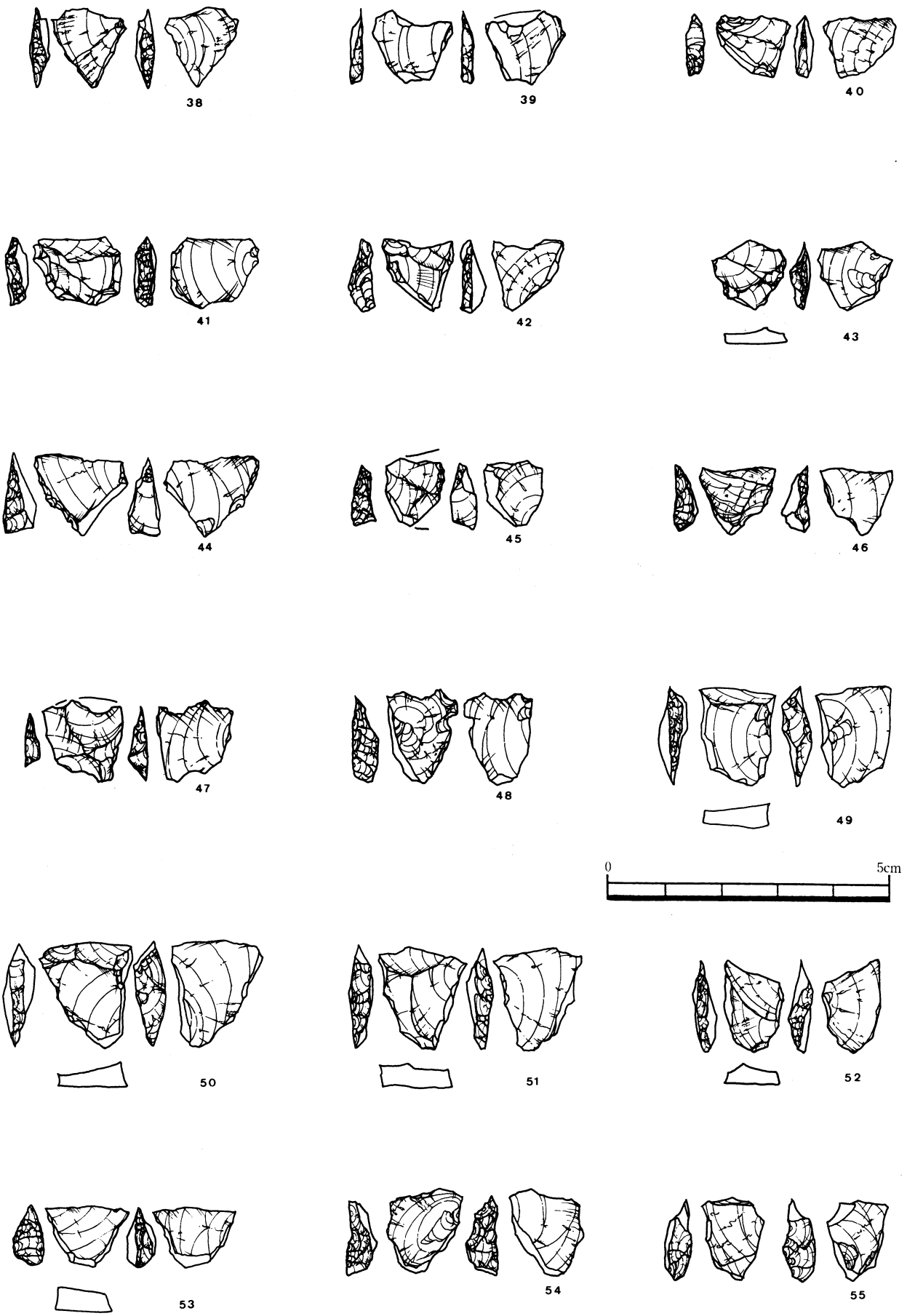
■台形石器



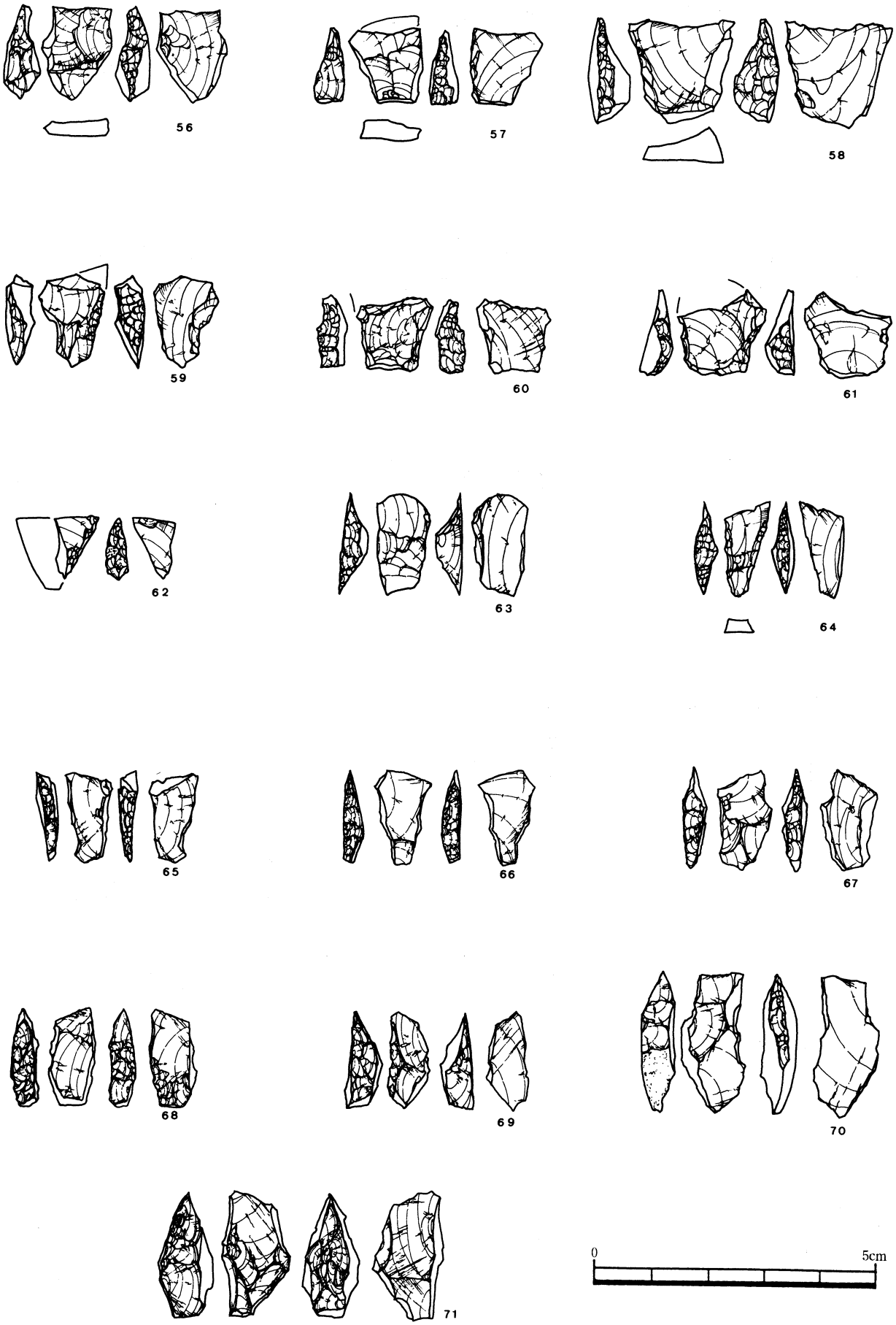
第8図　小牧3A遺跡・台形石器1



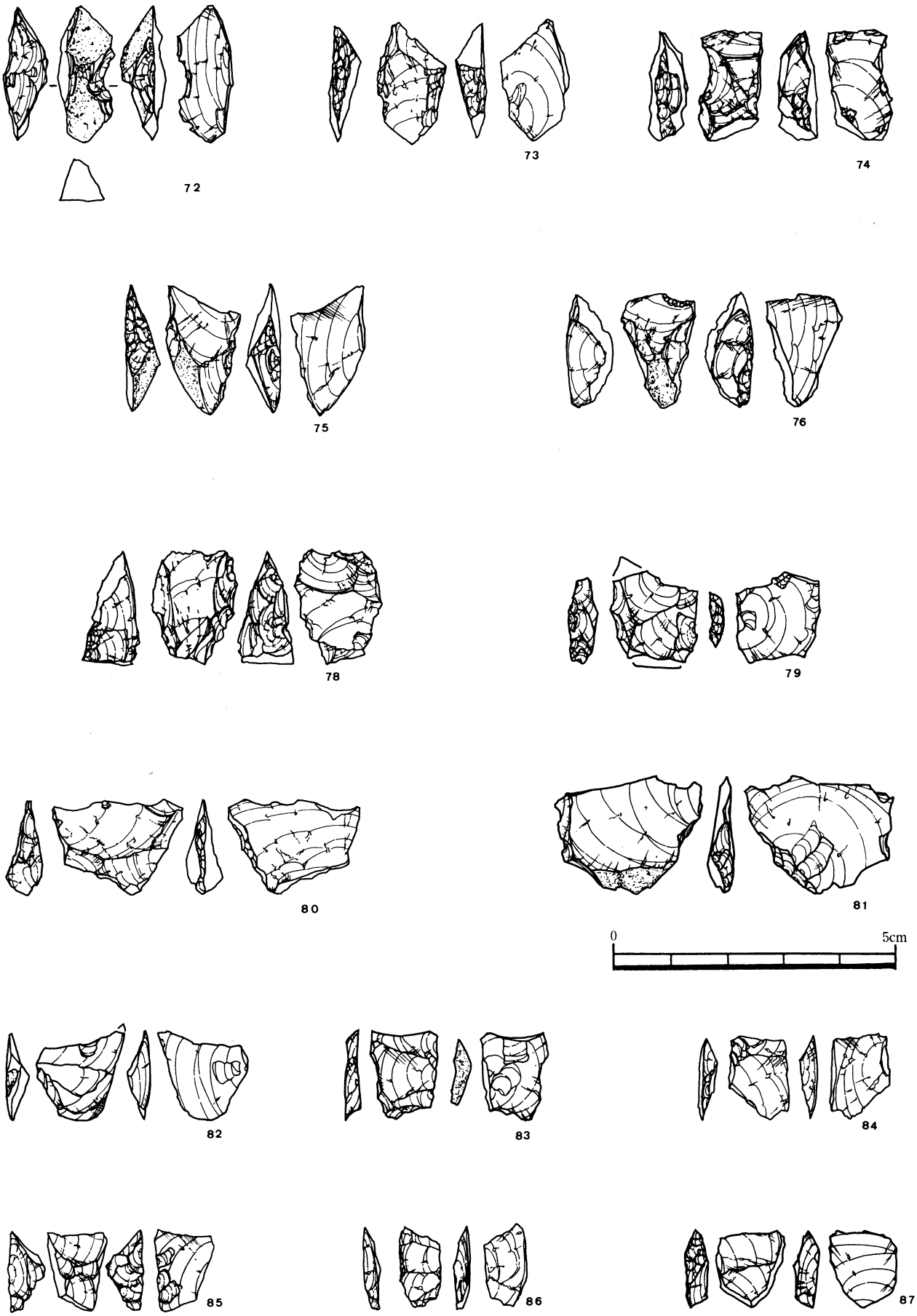
第9図　小牧3A遺跡・台形石器2



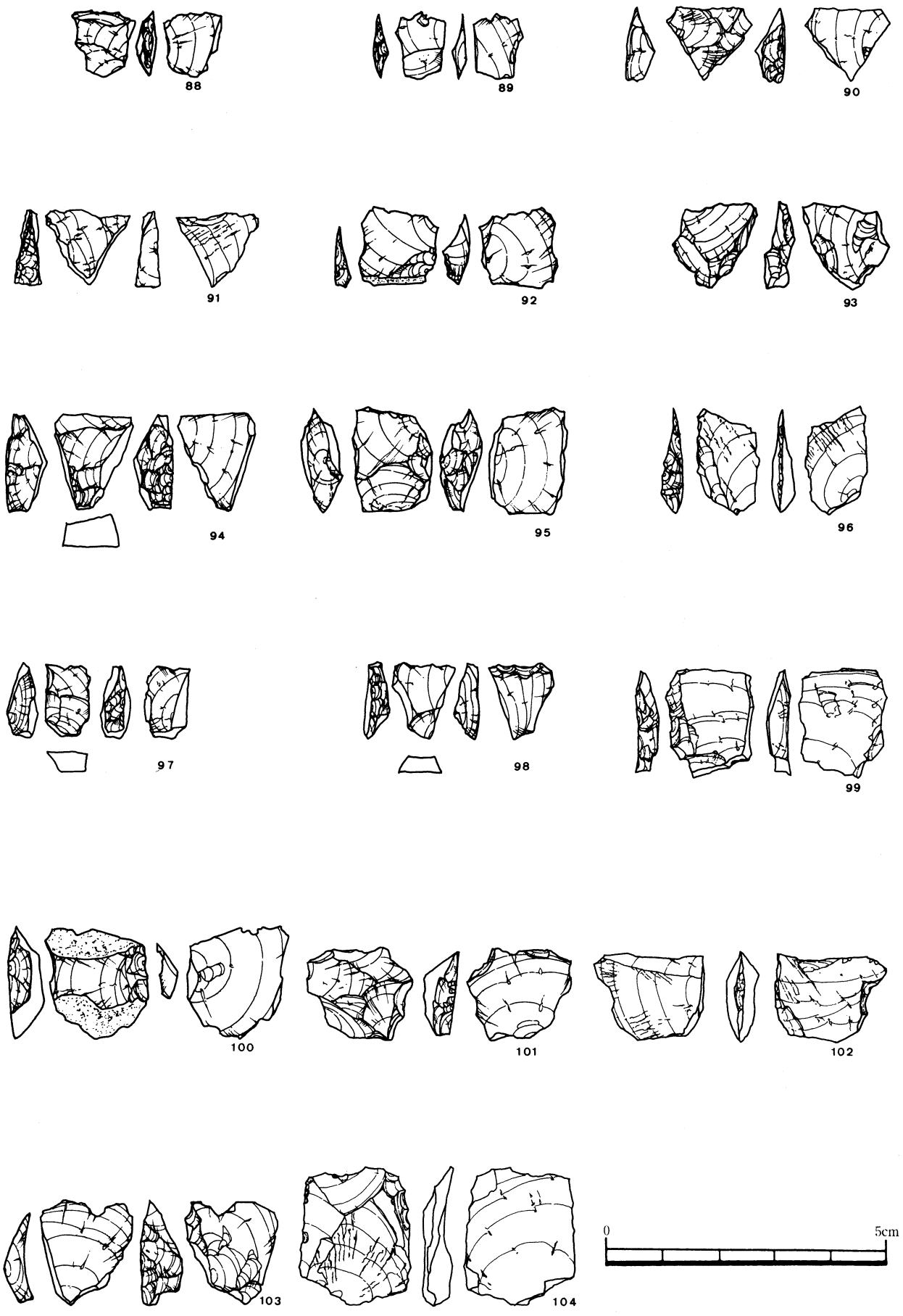
第10図　小牧３Ａ遺跡・台形石器３



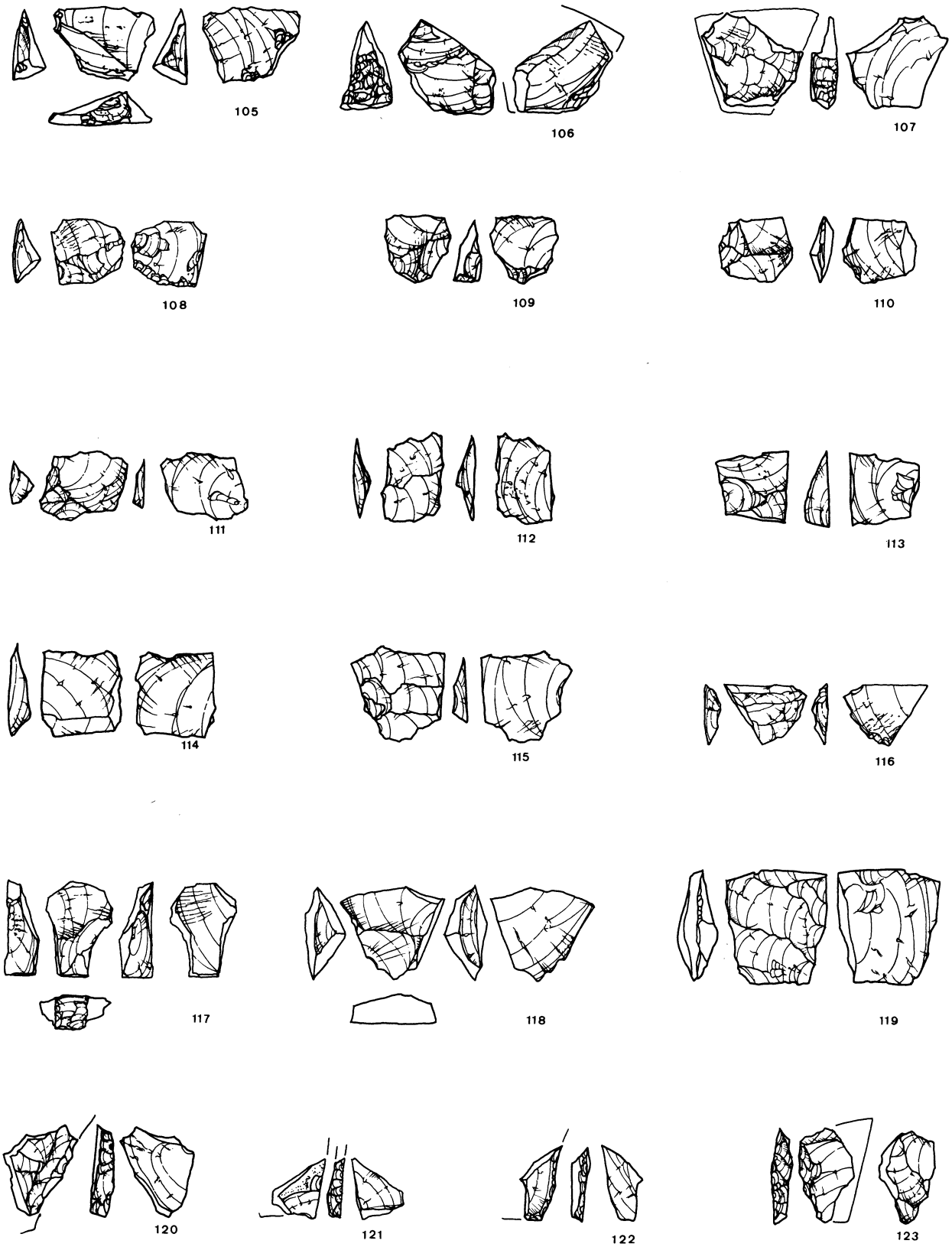
第11図　小牧３Ａ遺跡・台形石器４



第12図　小牧３Ａ遺跡・台形石器５



第13図　小牧３Ａ遺跡・台形石器６



第14図　小牧３Ａ遺跡・台形石器７

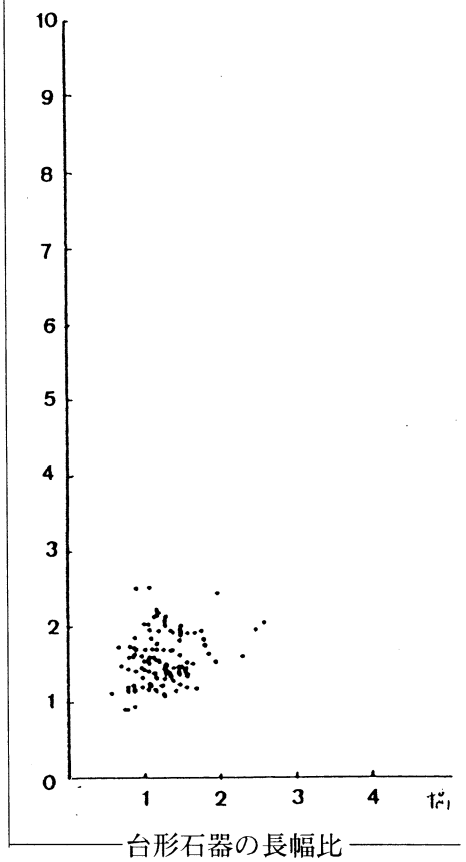
表１　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（台形石器）１

挿図	番号	器　種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備　考
	1	台形石器３類	1･8	1･8	D-6	5622	変性岩(瑪瑙質)	1/1	三面加工。不定形剥片使用・刃潰し加工は全て裏面方向から行い，打面は残される。
	2	台形石器６類	1･8	1･1	D-8	7354	石英質(乳白色)	1/1	折断剥片の中間部使用。刃潰し方向は裏面から。
	3	台形石器６類	1･6	1･5	E-7	5873	黒曜石(三船産)	1/1	折断剥片の中間部使用。刃潰し方向は裏面。底面尖る。
	4	台形石器３類	1･4	1･5			黒曜石(三船産)	1/1	打面と打溜部は除去。
	5	台形石器３類	1･5	1･2			黒曜石(三船産)	1/1	剥片を横位に使用。加撃部は厚手。
	6	台形石器３類	1･4	1･4	D-9	3391	黒曜石(三船産)	1/1	不定形剥片を横位に使用。刃潰し方向は裏面。三角形。
	7	台形石器３類	1･2	1･1	E-7	5722	黒曜石(三船産)	1/1	不定形剥片を横位に使用。打溜部はそのまま残る。
	8	台形石器３類	1･2	1･1	E-10	5260	黒曜石(三船産)	1/1	小型。不定形剥片使用。刃潰し方向は裏面から。
8	9	台形石器３類	1･3	1･6			黒曜石(三船産)	1/1	不定形剥片使用。刃潰しは両方向に。底面尖る。三角形。
	10	台形石器３類	1･5	1･7	E-9	5174	黒曜石(日東産)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。
	11	台形石器６類	1･5	1･6	E-8	3653	黒曜石(三船産)	1/1	薄手の折断剥片使用。斜刃。
	12	台形石器３類	1･3	1･6	E-12	3860	黒曜石(三船産)	1/1	不定形剥片使用。刃潰しは裏面から。斜刃。
	13	台形石器３類	1･9	1･5	E-9	5189	安山岩(灰黒色)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。斜刃。
	14	台形石器３類	1･7	1･4	G-8		安山岩(灰黒色)	1/1	薄手の折断剥片使用。斜刃。底面は尖る。三角形。
	15	台形石器３類	1･7	1･2	C-6		黒曜石(三船産)	1/1	厚手の不定形剥片使用。底面は尖る。三角形。
	16	台形石器３類	1･7	1･1	E-10	5265	黒曜石(三船産)	1/1	不定形剥片を横位に使用。打面は除去・打溜は残る。
	17	台形石器３類	1･4	0･8	E-9	3792	黒曜石(三船産)	1/1	不定形剥片を横位に使用。小型。
	18	台形石器３類	1･8	0･9			黒曜石(三船産)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。底面は尖る。
	19	台形石器２類	2･1	1･2	E-10	5252	鉄石英	1/1	表面に自然面の残る不定形剥片使用。刃潰し加工は全て裏面方向から入念。打溜は除去し裏面は平坦。
	20	台形石器１類	1･6	0･9	E-10	6764	黒曜石(三船産)	1/1	底面と右側縁部に刃潰し加工し左側縁は先行する剥離面
	21	台形石器２類	1･7	0･9	G-5	8290	黒曜石(三船産)	1/1	両側縁部に刃潰し加工。
	22	台形石器２類	2･1	1･3	E-9	5036	黒曜石(三船産)	1/1	両側縁部に刃潰し加工。打溜は刃潰し加工で除去。
	23	台形石器３類	2･0	1･1			黒曜石(三船産)	1/1	両面とも剥離による平坦面。
	24	台形石器３類	1･5	1･2	G-4	6599	黒曜石(三船産)	1/1	不定形剥片使用。楔状の形状を成す。
	25	台形石器３類	1･9	1･1	D-9		黒曜石(三船産)	1/1	不定形剥片を横位に使用。底面は尖る。刃潰しは裏面。
	26	台形石器３類	2･2	2･2	E-6	8482	黒曜石(三船産)	1/1	大型。両面とも平坦面。不定形剥片を横位に使用。刃潰し加工は全て裏面から。底面は尖る。三角形。
9	27	台形石器２類	1･4	1･0	F-11	8283	黒曜石(三船産)	1/1	薄手の不定形剥片を横位に使用。刃潰し加工は裏面から
	28	台形石器５類	1･6	1･1	E-10	551	黒曜石(三船産)	1/1	折断剥片使用。右側縁部の刃潰しは両面から。
	29	台形石器５類	1･5	1･0	J-4	7203	黒曜石(三船産)	1/1	薄手の不定形剥片を横位に使用。折断剥片？
	30	台形石器２類	1･9	2･5	E-9	6808	黒曜石	1/1	厚手の不定形剥片を縦位に使用。打面残す。
	31	台形石器３類	0･9	0･8	E-8	7318	黒曜石(三船産)	1/1	小型。不定形剥片を縦位に使用。
	32	台形石器２類	0･9	0･9	E-8	3721	黒曜石(三船産)	1/1	小型。不定形剥片を横位に使用。
	33	台形石器４類	1･2	0･9			黒曜石(三船産)	1/1	小型。折断剥片の右側縁部に裏面から刃潰し加工。
	34	台形石器２類	1･2	0･9	F-5	6152	黒曜石(三船産)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。刃潰しは裏面から。
	35	台形石器２類	1･4	0･9	D-9	3751	石英質(桃色)	1/1	薄手の不定形剥片を横位に使用。刃潰しは裏面から。
	36	台形石器３類	1･3	1･0	E-11	3294	石英質(乳白色)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。刃潰しは入念。
	37	台形石器４類	1･6	1･0	K-11	7471	黒曜石(上牛鼻産)	1/1	折断剥片の頭部使用。右側縁部は折断面。
	38	台形石器２類	1･4	1･3	E-9	3786	黒曜石(三船産)	1/1	不定形剥片を分割。底面は尖る。三角形。
	39	台形石器３類	1･2	1･4	F-4	6357	黒曜石(上牛鼻産)	1/1	薄手の不定形剥片を使用。両面とも平坦面。
	40	台形石器５類	1･1	1･3			黒曜石(三船産)	1/1	折断剥片の頭部使用。両側縁とも折断面を多く残す。
	41	台形石器６類	1･2	1･6	E-7	5739	黒曜石(三船産)	1/1	折断剥片の頭部使用。打溜は残す。
	42	台形石器３類	1･2	1･3	E-9	3787	黒曜石(三船産)	1/1	不定形剥片使用。底面は尖る。三角形。
	43	台形石器４類	1･3	1･3			黒曜石(三船産)	1/1	折断剥片の頭部使用。打面を残し右側縁に利用。
	44	台形石器２類	1･4	1･6	C-10	3309	黒曜石	1/1	不定形剥片を横位に使用。他の器種の破損品の可能性。
１０	45	台形石器３類	1･2	1･0	G-4	6558	黒曜石	1/1	厚手の不定形剥片を縦位に使用。右側縁の一部は欠損。
	46	台形石器３類	1･1	1･3	E-6	5789	黒曜石	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。底面の一部は欠損。
	47	台形石器２類	1･3	1･4	F-7	5852	黒曜石(三船産)	1/1	薄手の不定形剥片を横位に使用。刃部の一部は欠損。
	48	台形石器２類	1･5	1･3	F-6	5844	黒曜石(三船産)	1/1	不定形剥片を横位に使用。右側縁の刃潰しは入念。
	49	台形石器５類	1･7	1･3	F-5	6171	黒曜石(三船産)	1/1	折断剥片の頭部使用。打面を残し右側縁に利用。
	50	台形石器５類	1･9	1･7	F-6	5784	黒曜石(三船産)	1/1	折断剥片の頭部使用。打面を残し左側縁に利用。
	51	台形石器５類	1･8	1･5	E-10	5274	鉄石英(赤S)	1/1	折断剥片の頭部使用。打面打溜は除去。
	52	台形石器２類	1･4	1･0	C-11	3152	黒曜石(三船産)	1/1	不定形剥片を横位に使用。
	53	台形石器２類	1･1	1･4			黒曜石(三船産)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。三角形。

表２　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（台形石器）２

挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
	54	台形石器２類	1･4	1･3	C-8	140	黒曜石(三鷹)	1/1	不定形剥片を横位に使用・両面とも平坦。
１０	55	台形石器２類	1･5	1･0	D-5	8434	黒曜石(三鷹)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。刃部の一部は破損。
	56	台形石器２類	1･6	1･2	E-9	5158	黒曜石(三鷹)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。打面は除去。
	57	台形石器２類	1･3	1･3	E-10	5285	黒曜石(三鷹)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。打面除去。刃部破損。
	58	台形石器２類	1･7	1･8	E-9	3781	黒曜石(上牛鼻)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。刃潰しは入念。
	59	台形石器２類	1･7	1･2	J-4	7196	黒曜石(三鷹)	1/1	不定形剥片を横位に使用。打面は除去。刃部一部破損。
	60	台形石器２類	1･3	1･3	C-13	3135	黒曜石(三鷹)	1/1	不定形剥片を横位に使用。刃潰しは裏面から。
	61	台形石器２類	1･4	1･5	E-9	3779	黒曜石(三鷹)	1/1	不定形剥片を縦位に使用。底面は打面に相当。
	62	台形石器	1･1	0･8	E-8	7315	黒曜石(三鷹)	1/1	右側縁の一部。刃潰し方向は裏面から。
	63	台形石器４類	1･8	1･5	E-9	5335	黒曜石	1/1	折断剥片使用。右側縁は折断面。
１１	64	台形様石器	1･5	0･7	D-8	7354	黒曜石(黒外良質)	1/1	折断剥片使用。刃潰しは裏面から。斜刃。
	65	台形様石器	1･6	0･8	F-9	3826	黒曜石(上牛鼻)	1/1	不定形剥片を横位に使用。斜刃。
	66	台形様石器	1･7	1･0	F-4		石英質(乳白色)	1/1	不定形剥片使用。刃潰しは裏面から。両面とも平坦。
	67	台形様石器	1･7	0･9	D-8	3640	黒曜石(三鷹)	1/1	不定形剥片を横位に使用。斜刃。刃潰しは表面から。
	68	台形様石器	1･7	0･8	E-7	217	黒曜石(三鷹)	1/1	不定形剥片を横位に使用。斜刃。打面除去。
	69	台形様石器	1･7	0･7	E-9		黒曜石(三鷹)	1/1	厚手の折断剥片使用。
	70	台形様石器	2･5	1･1	D-7	345	石英質(乳白色)	1/1	不定形剥片を横位に使用。
	71	台形様石器	2･2	1･2	F-4	6338	黒曜石(三鷹)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。
	72	台形様石器	2･5	0･9	E-9	5307	黒曜石	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。左側縁は分割面。
	73	台形様石器	2･1	1･2	E-9	3778	黒曜石(三鷹)	1/1	不定形剥片使用。刃潰し加工は裏面。斜刃。
	74	台形様石器	2･0	1･0	E-6	8484	黒曜石(三鷹)	1/1	左側縁部に刃潰し加工し右側縁は分割面。
	75	台形様石器	2･0	1･3	B-8	8395	変性岩(珪質)	1/1	底面は尖る。斜刃。
	76	台形様石器	2･1	1･3			黒曜石(三鷹)	1/1	不定形剥片を横位に使用。底面は尖る。
	77	欠番							
	78	台形様石器	2･0	1･5	K-9	101	黒曜石(三鷹)	1/1	厚手の不定形剥片を縦位に使用。
	79	台形石器２類	1･5	1･5	F-7	5850	黒曜石(三鷹)	1/1	不定形剥片を横位に使用。刃部の一部破損。
	80	台形石器１類	1･6	2･3	K-9	98	黒曜石(三鷹)	1/1	大型。不定形剥片を縦位に使用。左側縁・底面は分割面
１２	81	台形石器１類	2･0	2･6	E-9	6816	黒曜石(三鷹)	1/1	大型。両面とも平坦面。不定形剥片を縦位に使用。
	82	台形石器４類	1･4	1･4	B-13	5965	黒曜石(上牛鼻)	1/1	折断剥片の頭部使用。打面残置。右側縁は折断面。
	83	台形石器４類	1･5	1･2	C-8	9	黒曜石(三鷹)	1/1	折断剥片の頭部使用。打面残置。刃部一部破損。
	84	台形石器４類	1･4	1･0	J-8	8192	黒曜石(三鷹)	1/1	折断剥片の頭部使用。打面残置。右側縁は折断面。
	85	台形石器１類	1･4	1･1	J-3	7871	黒曜石(三鷹)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。
	86	折断剥片	1･3	0･7	C-10	4868	黒曜石(三鷹)	1/1	折断剥片の頭部。
	87	台形石器１類	1･3	1･2	F-6	5776	黒曜石(三鷹)	1/1	不定形剥片を縦位に使用。
	88	台形石器４類	1･2	1･1	F-6	6124	黒曜石(三鷹)	1/1	小型。折断剥片の打面部に刃潰し加工。左側縁は折断面
	89	台形石器４類	1･2	0･9	L-10	46	黒曜石(三鷹)	1/1	小型。折断剥片の中間部に表面から刃潰し加工。
	90	台形石器４類	1･2	1･5	H-3	6632	黒曜石(三鷹)	1/1	厚手の折断剥片の端部使用。三角形。
	91	台形石器１類	1･3	1･5	C-10	3309	黒曜石(三鷹)	1/1	薄手の不定形剥片を横位に使用。刃潰しは裏面から。
	92	台形石器１類	1･4	1･4	E-12	3263	黒曜石	1/1	薄手の不定形剥片を横位に使用。底面には礫面が残る。
	93	台形石器１類	1･4	1･3	J-4	7203	黒曜石(三鷹)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。打面残置。
	94	台形石器４類	1･7	1･4	F-6	5784	黒曜石(三鷹)	1/1	折断剥片の中間部使用。刃潰しは裏面から。
	95	台形石器４類	1･9	1･4	G-10	5419	黒曜石(上牛鼻)	1/1	折断剥片の頭部使用。打面残置。刃部に刃こぼれ。
	96	台形石器１類	1･6	1･1	C-13	3131	黒曜石(三鷹)	1/1	不定形剥片を縦位に使用。ナイフ形石器？。
１３	97	台形石器１類	1･2	0･8	F-4	6361	黒曜石(三鷹)	1/1	不定形剥片を横位に使用。
	98	台形石器１類	1･3	1･1	E-7	5667	黒曜石	1/1	不定形剥片使用。刃部は刃潰し？。ナイフ形石器？。
	99	台形石器１類	1･9	1･5	E-9	3602	黒曜石	1/1	不定形剥片を縦位に使用。右側縁部は分割面。
	100	台形石器４類	1･9	1･8	G-12	7489	黒曜石(上牛鼻)	1/1	折断剥片の頭部使用。打面残置。
	101	台形石器１類	1･6	1･9	F-4	6333	黒曜石	1/1	厚手の不定形剥片を縦位に使用。右側縁に刃潰し。
	102	台形石器１類	1･5	2･0	F-8	3806	黒曜石(三鷹)	1/1	不定形剥片を横位に使用。右側縁部は分割面。
	103	台形石器１類	1･9	1･6	E-5	6197	黒曜石	1/1	厚手の不定形剥片を縦位に使用。刃部の一部は欠損。
	104	台形石器２類	2･4	2･0	E-10	5276	石英質(濃桃色)	1/1	不定形剥片を縦位に使用。打面残置。
	105	台形石器４類	1･2	1･7	F-5	8119	黒曜石(三鷹)	1/1	折断剥片使用。右側縁部は折断面。
	106	台形石器	1･4	1･5	G-5	8128	黒曜石	1/1	不定形剥片を横位に使用。
１４	107	台形石器２類	1･4	1･6	G-4	7056	黒曜石(三鷹)	1/1	不定形剥片を横位に使用。左側縁・刃部破損。
	108	台形石器４類	1･1	1･2	E-8	3737	黒曜石(三鷹)	1/1	折断剥片の頭部使用。打面残置。
	109	台形石器２類	1･2	1･1	G-5	6477	黒曜石(三鷹)	1/1	厚手の不定形剥片を縦位に使用。

以上のように，不定形剥片を使用しているものが折断技法を伴う縦長剥片を使用するものを大きく凌駕している。次に，台形石器の長さと幅の状況を見ると最大で2·5 cmを越えるものは無く，長幅比２：１から１：0·8の中に包括される。



第３節　ナイフ形石器

98点のナイフ形石器を確認できる。ナイフ形石器に用いた石材は豊富で，使用石材により規格に差異が認められそうである。まず，「ナイフ形石器石器長幅比」で概観すると，●の集中,○の集中エリアが明らかに異なることが理解できる。ちなみに，●を形成するナイフ形石器は黒曜石，水晶，石英質石材，玉髄，シルト質頁岩，変性質凝灰岩等の豊富な石材を使用している。一方，○の多くは，軟質シルト質頁岩と硬質頁岩を用いている。ナイフ形石器（＊）は長さの比が極端に高いことが認められ，使用石材は硬質頁岩が主体的位置を占めている。

これらのナイフ形石器の出土分布は，先の台形石器と同様第１群と第２群に包括され，特に，第２群に多く出土する傾向がある。ナイフ形石器の規模は小型のものから大型の石器まで，形態も各種認められバラエティーに富んでいる。

二側縁加工ナイフ形石器

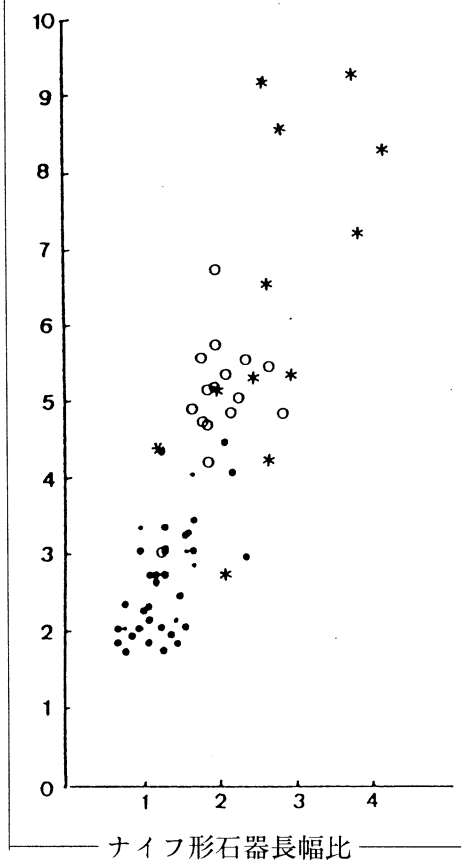
二側縁加工ナイフ形石器の内，台形石器については既に取り上げている。台形石器を除くこの種のナイフ形石器はまず，小型二側縁加工ナイフ形石器と大型の二側縁加工ナイフ形石器，切り出し型ナイフ形石器に区分できる。

小型二側縁加工ナイフ形石器（124・126・127）

124は唯一水晶を用いたもので，右側縁部の刃潰しは先端まで及んでいる。126は玉髄製で刃部には刃こぼれが認められる。

二側縁加工ナイフ形石器（194・195・200・201・206・213・217）

213・217が硬質頁岩を用いている以外は，軟質のシルト質 頁岩を使用している。213・217を除く軟質シルト質頁岩は風化が激しく進行し，そのため残存状況が悪く，剥離等の詳細な観察は難しい。194・195は厚手の縦長剥片の右側縁部を中心に刃潰し加工を全て裏面から行い，195は求心状に剥離された剥片を素材としている。200・201も厚手の縦長



剥片を用い，左側縁部に刃潰し加工の主体が向けられる。213は両面平坦な縦長剥片を素材とし，刃潰し加工は裏面から行い先端部に及ぶ。打面は調整打面の可能性がある。217 は背面の一部に礫皮面を残した剥片を素材とし，大型で重量感のある仕上がりである。

小型切り出し形ナイフ形石器

これらの石器は，石器本体の二側縁部に刃潰し加工を行うもので，刃部の片方に先端部が形成され斜刃を成すもの（133 ・134 ・135 ・136 ・140 ・141 ），刃部の中央部が尖るもの（137 ・139 ・143 ・152 ），刃部が直刃を成すもの（162 ）に区分される。これらの違いは，素材剥片の形状や使用方法即ち，刃部の設定の決断に左右されると判断できる。なおこれらの石器の中で特に直刃や斜刃を成すものについては，台形石器との区分が明確でない要素も認めるが，器種の１つとして認定している。152 は玉髄製の厚手の剥片を用いたもので，先端部はPoint 状に仕上がっている。

一側縁加工ナイフ形石器

小型一側縁加工ナイフ形石器

存在の希薄な石器で，125 ・130 の２点確認される。いずれも小剥片の片側縁部に丁寧な刃潰し加工を加えている。

一側縁加工ナイフ形石器 （197 ・199 ・202 ・203 ・205 ・212）

212 が硬質頁岩で他は全て軟質シルト質頁岩を用いている。199 は幅広の剥片の左側縁部に，202 では右側縁部にいずれも小剥片の片側縁部に丁寧な刃潰し加工を加えている。212 は厚手の縦長剥片を素材としたもので，刃潰し加工は裏面から行い，先端部から基部方向にかけて進行し，打面は単剥離打面である。

部分加工ナイフ形石器

最も多く出土しているもので，小型に属するものとそうでないものとに区分できる。

小型部分加工ナイフ形石器 （128 ・129 ・176 ・177 ・178 ・179 ・180 ・182 ・183 ・184 ・185 ・187 ）

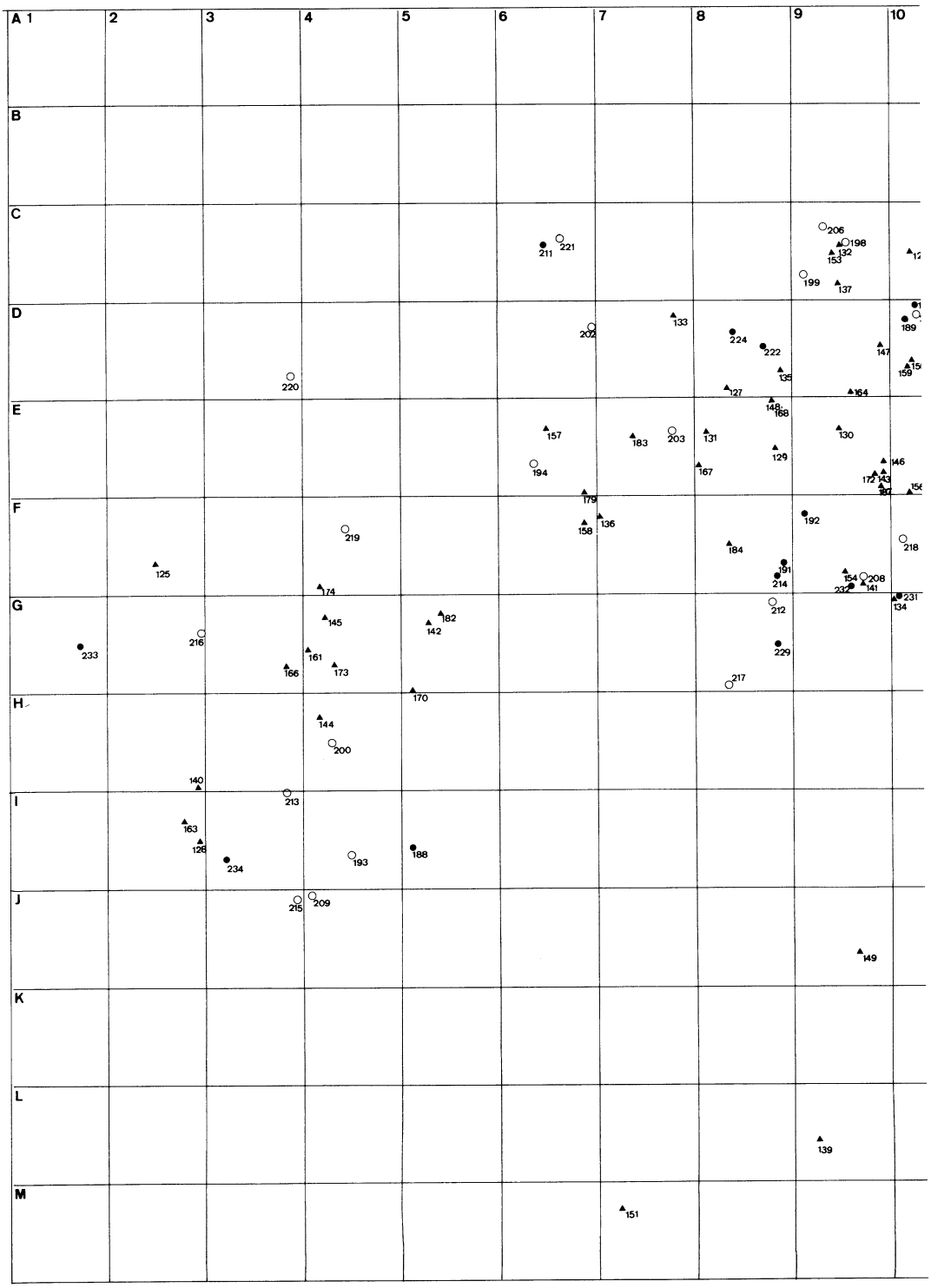
128 ・129 は類似した剥片を素材とし，177 では頭部付近に加工が見られる。これらは，いずれも小型の不定形剥片を素材とし任意の側縁部に刃潰し加工を行っている。

表３　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（台形石器）3

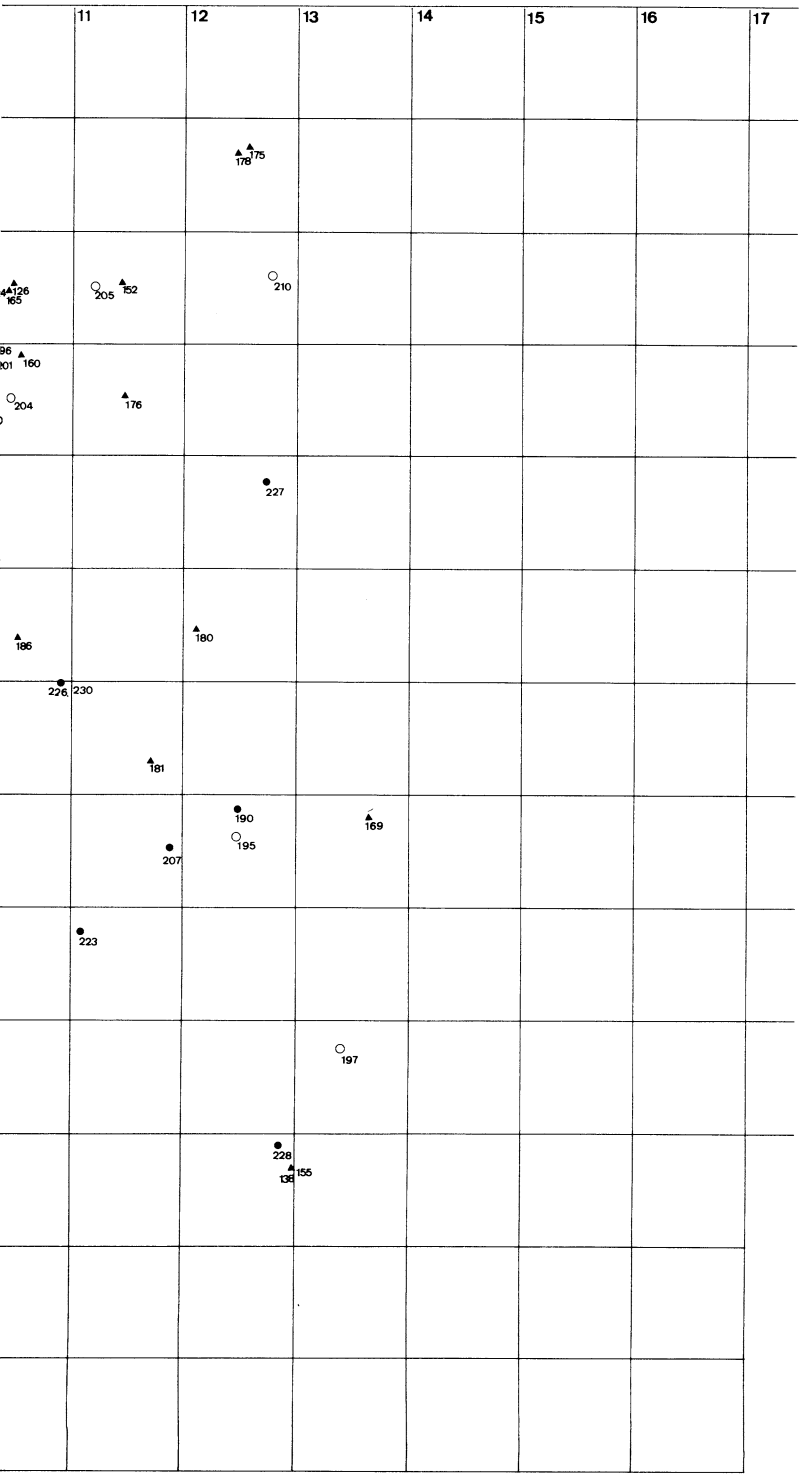
挿図	番号	器　種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備　考
14	110	台形石器１類	1・1	1・2	G-5	8106	黒曜石(三巓)	1/1	不定形剥片を横位に使用・打面残置。
	111	折断剥片	1・1	1・3	G-4	6345	黒曜石(三巓)	1/1	折断剥片。頭部。打面残置。
	112	折断剥片	1・4	1・0	B-13	5966	黒曜石(三巓)	1/1	折断剥片。中間部。
	113	折断剥片	1・2	1・2	G-5	8147	黒曜石(?)	1/1	折断剥片。頭部。打面残置。
	114	折断剥片	1・5	1・3	F-9	6829	黒曜石(?)	1/1	折断剥片。頭部。打面残置。
	115	折断剥片	1・6	1・6	E-8	7305	鉄石英(赤色)	1/1	折断剥片。頭部。打面残置。
	116	折断剥片	1・0	1・3	D-11	3218	黒曜石(三巓)	1/1	折断剥片。端部。
	117	折断剥片	1・6	1・1	K-8	177	黒曜石(?)	1/1	折断剥片。
	118	折断剥片(?)	1・5	1・8	B-9	8356	黒曜石(?)	1/1	素材剥片としては最適。
	119	剥片	1・9	1・7	D-9	424	黒曜石(三巓)	1/1	素材剥片としては最適。
	120	台形石器	1・3	1・2	I-4	6683	黒曜石(三巓)	1/1	不定形剥片を横位に使用。
	121	台形石器	0・9	0・8	E-9	3625	黒曜石(三巓)	1/1	不定形剥片を横位に使用。斜刃。
	122	台形石器	1・1	0・6	H-4	6619	黒曜石(三巓)	1/1	不定形剥片使用。刃潰しは裏面から入念。
	123	台形石器	1・6	0・9	G-5	6510	黒曜石(?)	1/1	不定形剥片を横位に使用。斜刃。刃潰しは表面から。

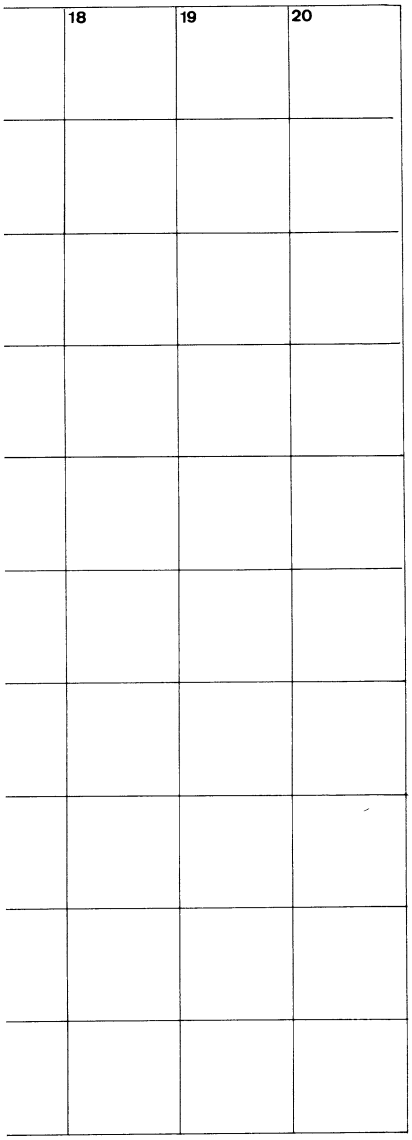
表４　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（ナイフ形石器）１

挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
	124	二側縁加工ナイフ形石器	2·0	0·7	C-10	3290	水晶(透明)	1/1	小型二側縁加工。刃潰しは裏面から行い，１枚の剥離面で構成する。
	125	小型一側縁ナイフ形石器	1·8	0·7	F-2	6944	シルト質頁岩(灰褐色)	1/1	右側縁は節理面。一側縁加工。刃潰し加工は両面から加圧している。
	126	二側縁加工ナイフ形石器	2·3	0·8	C-10	3279	玉髄	1/1	小型二側縁加工。刃潰しは裏面から。主に刃部先端部に使用痕が残される。
	127	二側縁加工ナイフ形石器	2·0	0·8	D-8	3655	硬質頁岩(白斑灰色)	1/1	小型二側縁加工。刃潰しは裏面から。
	128	小型部分加工ナイフ形石器	1·8	1·0	C-10	8069	黒曜石(三紫産)	1/1	小型の不定形剥片の頂部付近に刃潰し。先端部破損。
	129	小型部分加工ナイフ形石器	1·2	1·1	E-8	3760	石英質(瑪瑙質)	1/1	小型の不定形剥片の頂部付近に刃潰し。先端部破損。
	130	小型一側縁ナイフ形石器	1·9	0·9	E-9	5164	黒曜石(三紫産)	1/1	一側縁加工。刃潰しは裏面から。
	131	小型基部ナイフ形石器	2·0	0·7	E-8	7280	鉄石英(赤色)	1/1	小型剥片の基部に刃潰し加工。
	132	小型基部加工ナイフ形石器	2·4	1·5	C-9		石英質（玉髄）	1/1	不定形剥片の基部に刃潰し加工。単面打面。打面残置。
	133	二側縁加工ナイフ形石器	1·8	1·1	D-7	276	黒曜石(三紫産)	1/1	不定形剥片の右側縁部に刃潰し加工。切り出し型
	134	二側縁加工ナイフ形石器	1·7	0·8	G-10	8309	石英質(鉄石英)	1/1	小型二側縁加工。剥片を横位に使用。両面共にポジティブ面。切り出し型
	135	二側縁加工ナイフ形石器	2·3	1·1	D-9	412	変性岩(凝灰岩)	1/1	頭部付近を斜めに分割し二側縁に刃潰し加工。切り出し型
１６	136	二側縁加工ナイフ形石器	2·1	1·5	F-7	5777	シルト質頁岩(灰褐色)	1/1	不定形剥片を横位に使用。先端部破損。切り出し型
	137	二側縁加工ナイフ形石器	2·6	1·2	C-9	5059	シルト質頁岩(灰褐色)	1/1	不定形剥片を縦位に使用。刃潰しは裏面から。切り出し型
	138	基部加工ナイフ形石器	2·0	1·3	K-12	16	シルト質頁岩(灰褐色)	1/1	不定形剥片を横位に使用。打面残置。基部加工は入念。表面の先行する剥離面は節理面の可能性あり。
	139	二側縁加工ナイフ形石器	2·7	1·3	L-9	81	シルト質頁岩(灰褐色)	1/1	不定形剥片を横位に使用。打面残置。切り出し型
	140	二側縁加工ナイフ形石器	2·1	1·1	H-3	8083	黒曜石(?)	1/1	偏平な不定形剥片を横位に使用。切り出し型
	141	二側縁加工ナイフ形石器	1·7	1·3	F-9	5406	黒曜石(?)	1/1	不定形剥片を横位に使用。先端部破損。切り出し型
	142	基部加工ナイフ形石器	1·0	1·2	G-5	6499	黒曜石(三紫産)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。先端部破損。
	143	二側縁加工ナイフ形石器	2·0	1·7	E-9	6801	黒曜石(三紫産)	1/1	厚手の不定形剥片を縦位に使用。先端部破損。切り出し型
	144	基部加工ナイフ形石器	2·8	1·7	H-4	6609	石英質(鉄石英)	1/1	不定形剥片を縦位に使用。先端部破損。刃潰し加工は入念。表面及び裏面の剥離面は火バネの可能性がある。
	145	部分加工ナイフ形石器	2·5	1·6	G-4	6457	黒曜石(上牛鼻産)	1/1	厚手の剥片を縦位に使用。単面打面。先端部破損。
	146	部分加工ナイフ形石器	3·7	1·7	E-9	6802	黒曜石(?)	1/1	厚手の不定形剥片を縦位に使用。先端部破損。裏面の剥離ではツインバルブが見られる。右刃部にはリタッチないし使用痕が認められる。
	147	部分加工ナイフ形石器	4·3	1·3	D-9	3514	安山岩(黒色)	1/1	良質の縦長剥片。左側縁部に裏面から刃潰し加工。左先端部は先行する剥離面。刃部に刃こぼれ。
	148	基部加工ナイフ形石器	1·9	1·3	E-8	3724	黒曜石(?)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。先端部破損。
	149	部分加工ナイフ形石器	3·0	1·0	J-9	132	石英(乳白色)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。刃潰し加工は表面から
	150	部分加工ナイフ形石器	2·7	1·1	D-10	5228	黒曜石(灰色)	1/1	偏平な剥片の左側縁に刃潰し加工。
１７	151	部分加工ナイフ形石器	2·2	1·0	M-7	163	玉髄	1/1	基部は折れ面。
	152	二側縁加工ナイフ形石器	3·0	1·3	C-11	6701	玉髄	1/1	厚手の剥片使用。先端部意識。切り出し型
	153	部分加工ナイフ形石器	3·2	1·6	C-9		鉄石英(赤色)	1/1	右側縁部は分割面。刃潰しは先端部までドリル？
	154	部分加工ナイフ形石器	2·7	1·4	F-9	6077		1/1	
	155	部分加工ナイフ形石器	4·4	2·1	K-12	16	黒曜石(上牛鼻産)	1/1	左側縁は先行する剥離面。他器種の可能性あり。
	156	一側縁加工ナイフ形石器	2·9	1·3	E-10	5360	シルト質頁岩(灰褐色)	1/1	稜の高い剥片使用。刃潰しは急角度。
	157	部分加工ナイフ形石器	3·0	1·3	E-6	8511	石英質(桃色)	1/1	右側縁部は分割面。刃潰しは先端部までドリル？
	158	基部加工ナイフ形石器	2·9	2·4	F-6	6116	黒曜石(?)	1/1	不定形剥片を横位に使用。刃潰しは裏面に及ぶ。
	159	基部加工ナイフ形石器	1·2	1·0	D-10	3455	黒曜石(三紫産)	1/1	単面打面。
	160	基部加工ナイフ形石器	1·8	1·3	D-10	5109	鉄石英(濃赤色)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。
	161	基部加工ナイフ形石器	1·7	1·3	G-4	6568	黒曜石(?)	1/1	厚手の不定形剥片を横位に使用。刃潰しは裏面から。
	162	基部加工ナイフ形石器	2·7	1·2			黒曜石(?)	1/1	不定形剥片を横位に使用。切り出し型
	163	二側縁加工ナイフ形石器	4·8	2·0	I-2	7130	シルト質頁岩(灰褐色)	1/1	良質な縦長剥片使用。基部はノッチ状。
	164	基部加工ナイフ形石器	3·3	1·3	D-9	3600	石英質(桃色)	1/1	厚手の剥片を横位に使用。刃潰しは裏面から。打面残置
	165	基部加工ナイフ形石器	4·3	1·3	C-10	3278	頁岩(黒色)	1/1	厚手の縦長剥片を使用。基部はノッチ状。
１８	166	部分加工ナイフ形石器	2·8	1·0	G-3	6578	硬質頁岩(灰黒色)	1/1	左側縁部に裏面から刃潰し加工。
	167	部分加工ナイフ形石器	1·2	1·2	E-8	7306	鉄石英(赤色)	1/1	先端部。
	168	一側縁加工ナイフ形石器?	1·5	1·0	E-8	3724	黒曜石(良質透明)	1/1	先端部。
	169	二側縁加工ナイフ形石器?	2·1	1·3	H-13	7538	石英質	1/1	先端部破損。
	170	部分加工ナイフ形石器	3·2	1·6	G-5	6523	頁岩	1/1	

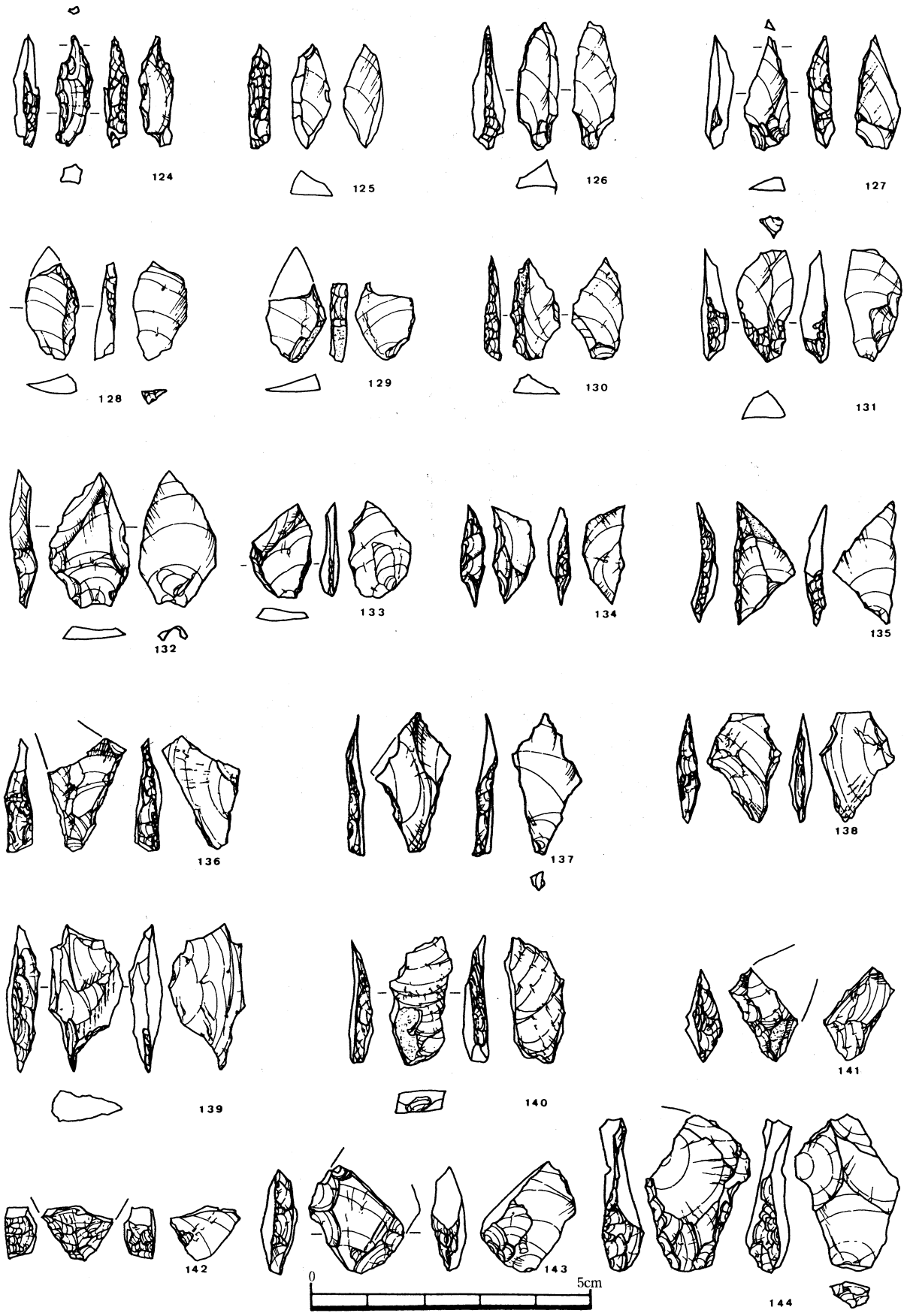


第15図　小牧３Ａ遺跡・旧石器時代（ナイフ形石器・剥片尖頭器出土分布図）

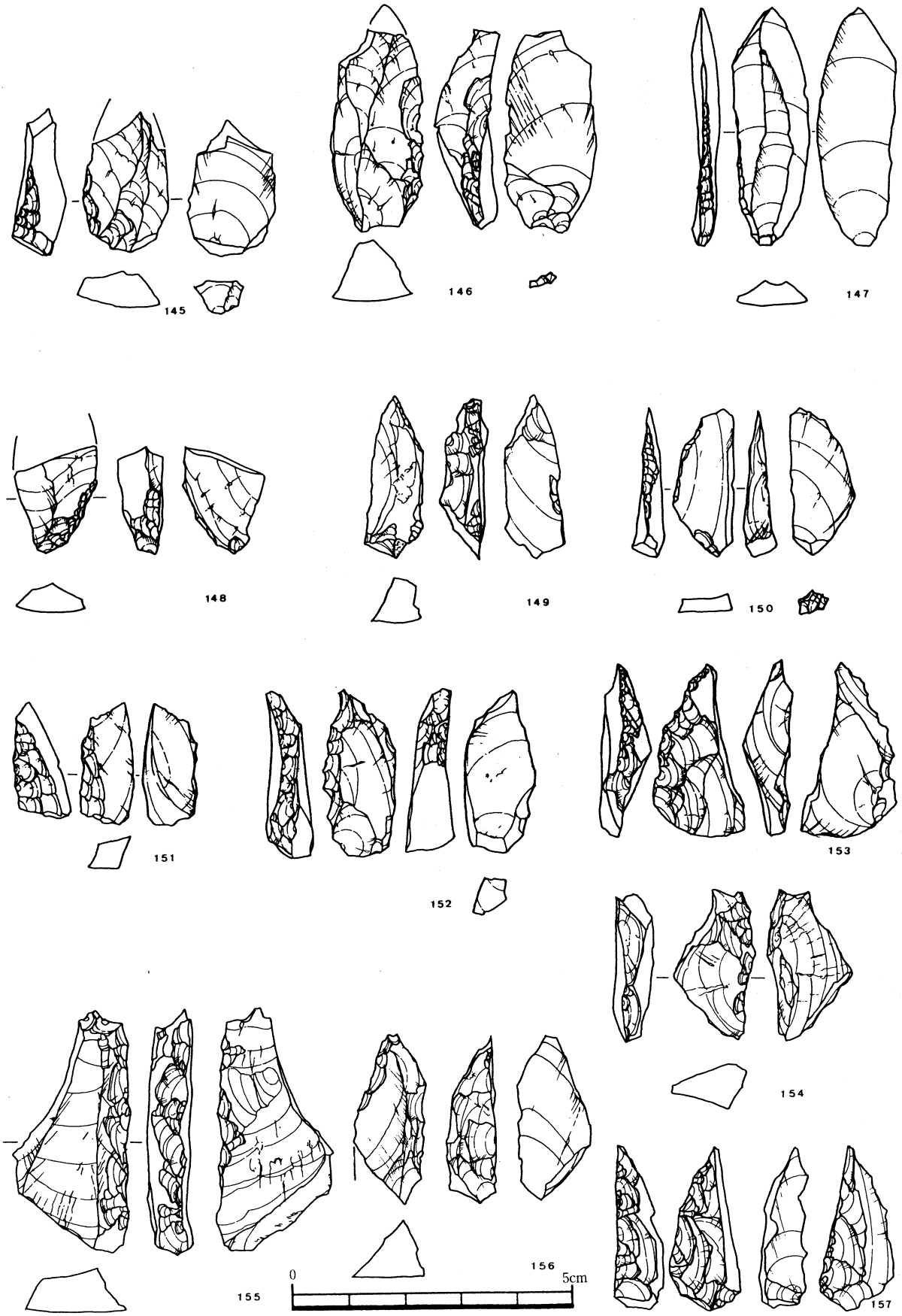

11
12
13
14
15
16
17
178
175
210
205
152
165
160
204
176
227
186
180
226
230
181
190
195
169
207
223
197
228
155



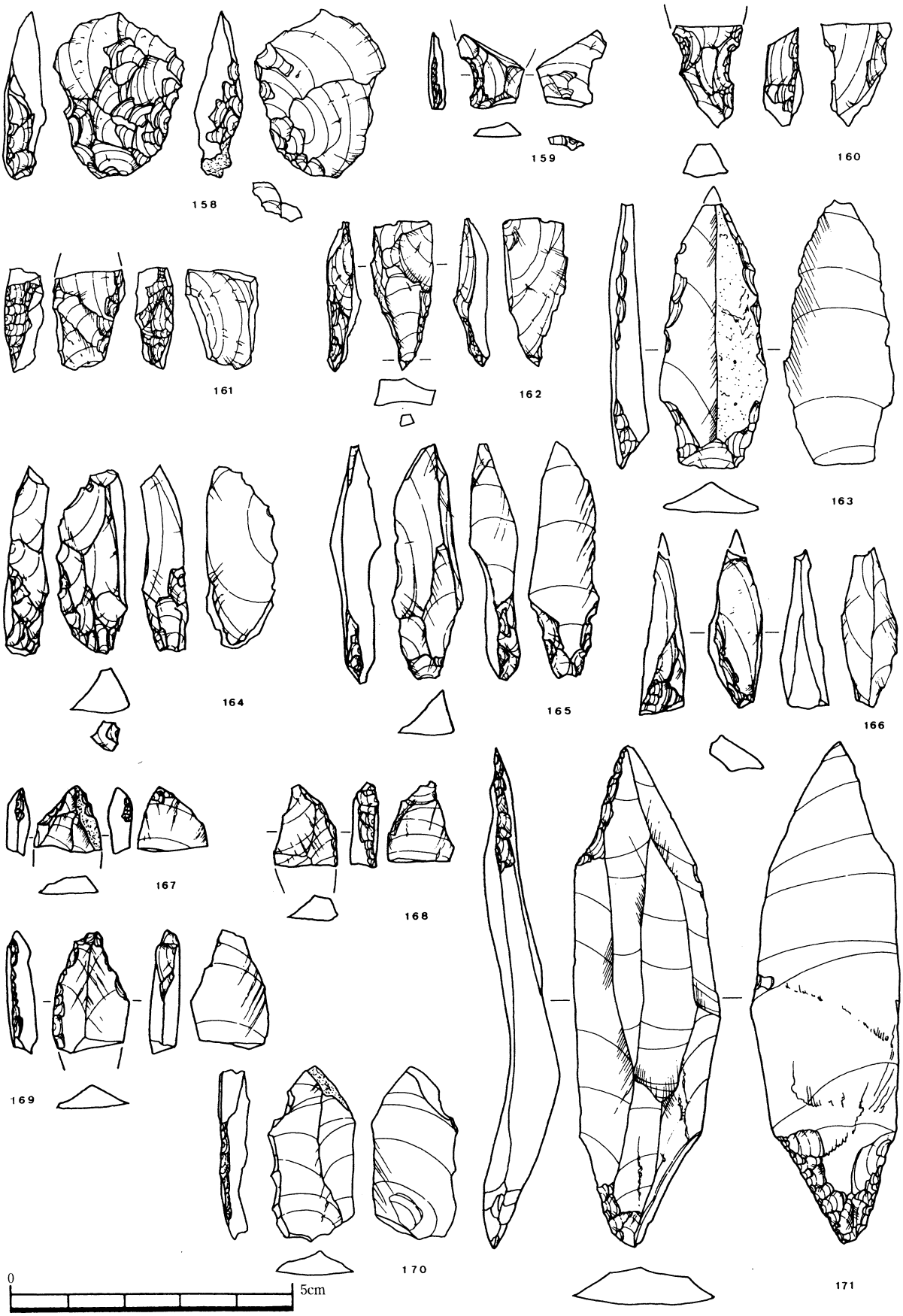
●剥片尖頭器
▲ナイフ形石器
○軟質頁岩製ナイフ形石器



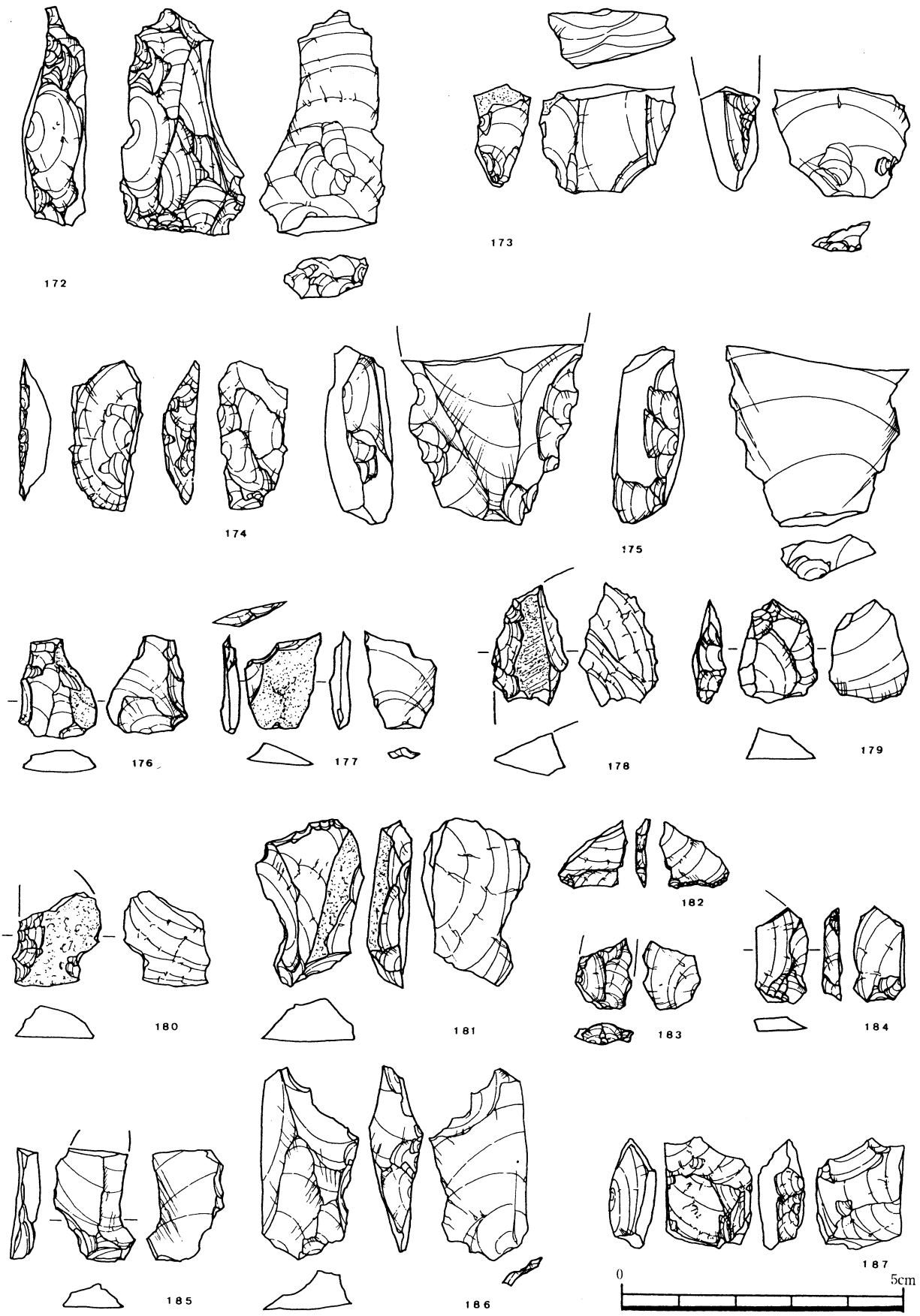
第16図　小牧３Ａ遺跡・ナイフ形石器１



第17図　小牧３Ａ遺跡・ナイフ形石器２



第18図　小牧３Ａ遺跡・ナイフ形石器３



第19図　小牧３Ａ遺跡・ナイフ形石器４

部分加工ナイフ形石器　（145 ・146 ・147 ・149 ・150 ・151 ・153 ・154 ・155 ・157 ・166 ・172 ・174 ・186 ）

147 は石刃技法に基づく石刃を用いたもので，他の石器は不定形剥片を素材とし，それらの一部に刃潰し加工を行っている。147 は端正な石刃の左側縁部に刃潰しを行い，その作業方向は下から上に進められ，刃部に刃こぼれが認められる。150 と153 ・154 の右側縁部はいずれも折断加工により形成されている。なお，174 の右側縁部も折断加工された後，折断面に刃潰し加工を行い仕上げている。198 ・204 ・208 ・209 ・210 は軟質シルト質頁岩，215 ・216 ・218 ・219 ・220 ・221 は硬質頁岩を用いている。

198 ・208 は先端部，204 ・209 では右側縁部の一部，硬質頁岩の215 ・219 は先端部，216 ・221 は先端部とそれに対峙する側縁部に刃潰し加工を行っている。

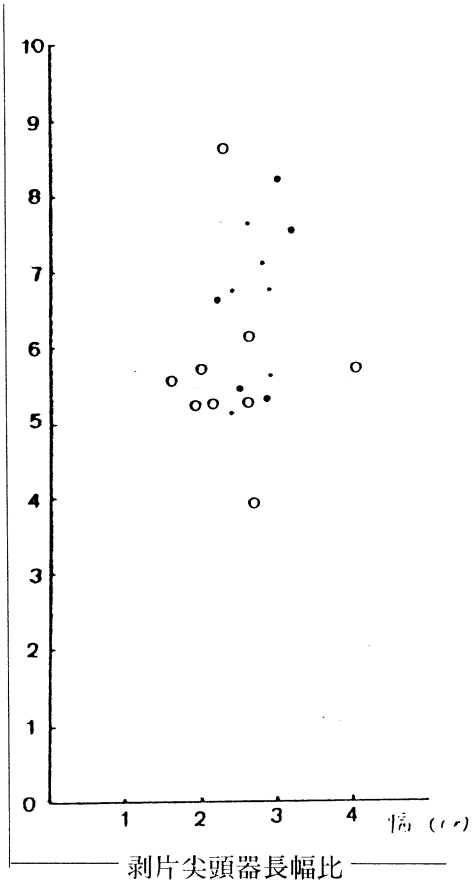
基部加工ナイフ形石器

小型基部加工ナイフ形石器　（131 ・132 ）

131 の刃潰し加工は背面と腹面の一部に残る。132 では，基部両面と左先端部にリタッチが観察できる。

基部加工ナイフ形石器　（144 ・158 ・159 ・160 ・161 ・164 ・165 ・173 ・175 ）

144 ・158 は刃部方向がやや幅広の剥片の基部に刃潰し加工を施している。164 は横長剥片を縦方向に用い，165 は縦長剥片を用いている。159 ・160 ・161 は刃部方向が破損しているが，159 ・160では抉入状の仕上がりが認められる。172 ・173 の 2 点も刃部方向が破損しているがこの基部加工ナイフ形石器に含まれると判断される。



第 4 節　剥片尖頭器

22本の剥片尖頭器を確認できる。使用石材は，軟質シルト質頁岩 7 点，砂岩 1 点，黒曜石 1 点，硬質頁岩13点である。右　の長幅比グラフによると，207 の 1 点を除く他の剥片尖頭器　の長さは 5 cm以上で，その幅は 2 ～ 3 cmの周辺に集中していい　ることが分かる。

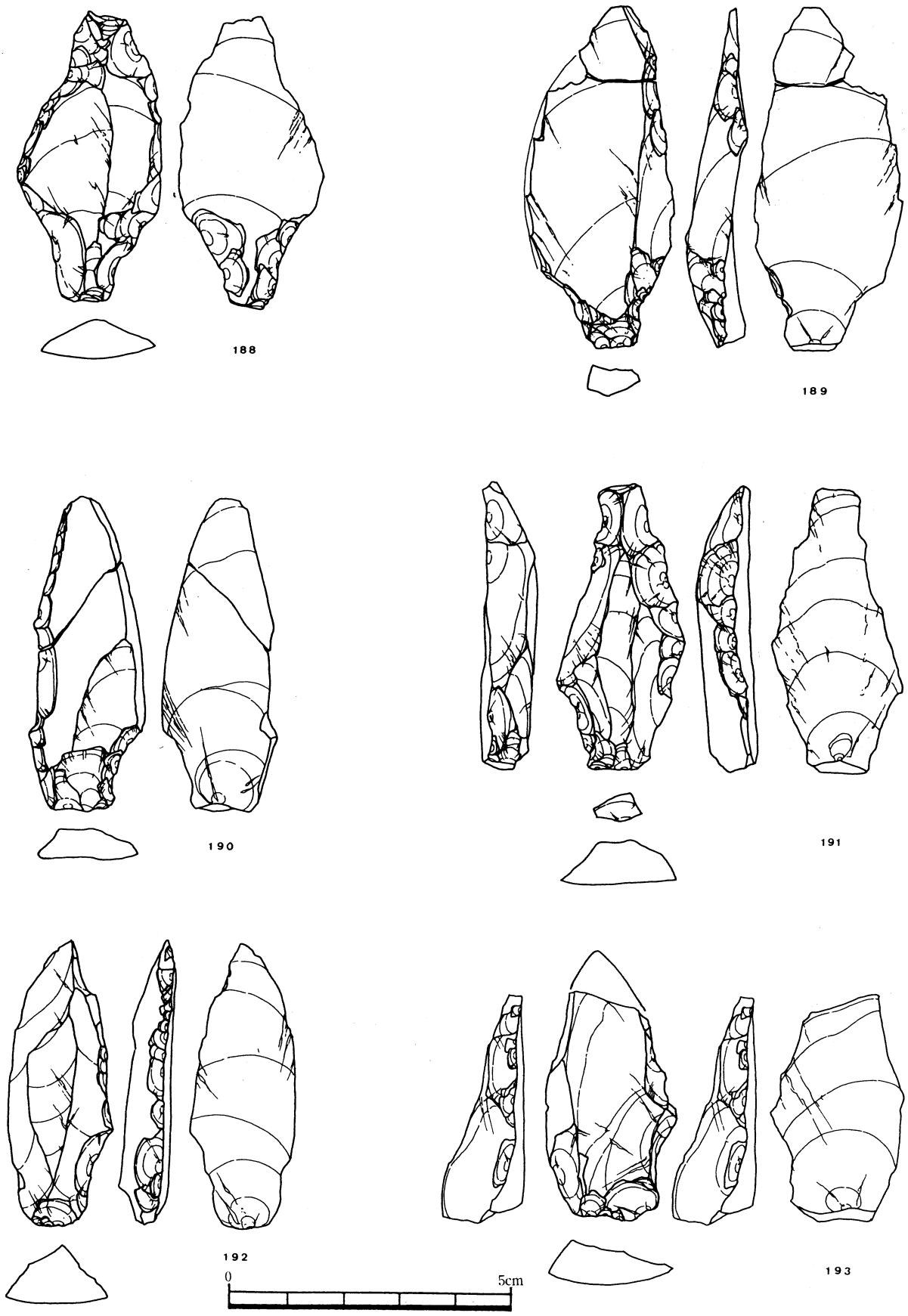
本遺跡の剥片尖頭器の特徴を列挙すると，おおまか次のようになる。①形態的には，調整（整形剥離）の具合により片側側縁全体と基部に施されるもの，片側の一部先端部と基部に施されるもの，両側の一部先端部と基部に施されるもの，側縁全体あるいは全側縁に施されるものが存在する。②基部（茎部）の造り出しは明瞭で，腹面の整形加工が顕著である。③素材打面は単剥離打面より複剥離打面が優勢であり打面除去が認められる。

188 軟質シルト質頁岩，風化し器面で稜も磨耗している。背面の 2 枚の剥離面，腹面共に同一方向の剥離で，素材剥片の打面は除去され，剥片の全周に腹面から整形剥離を施している。茎部の造り出しは丁寧で，腹面

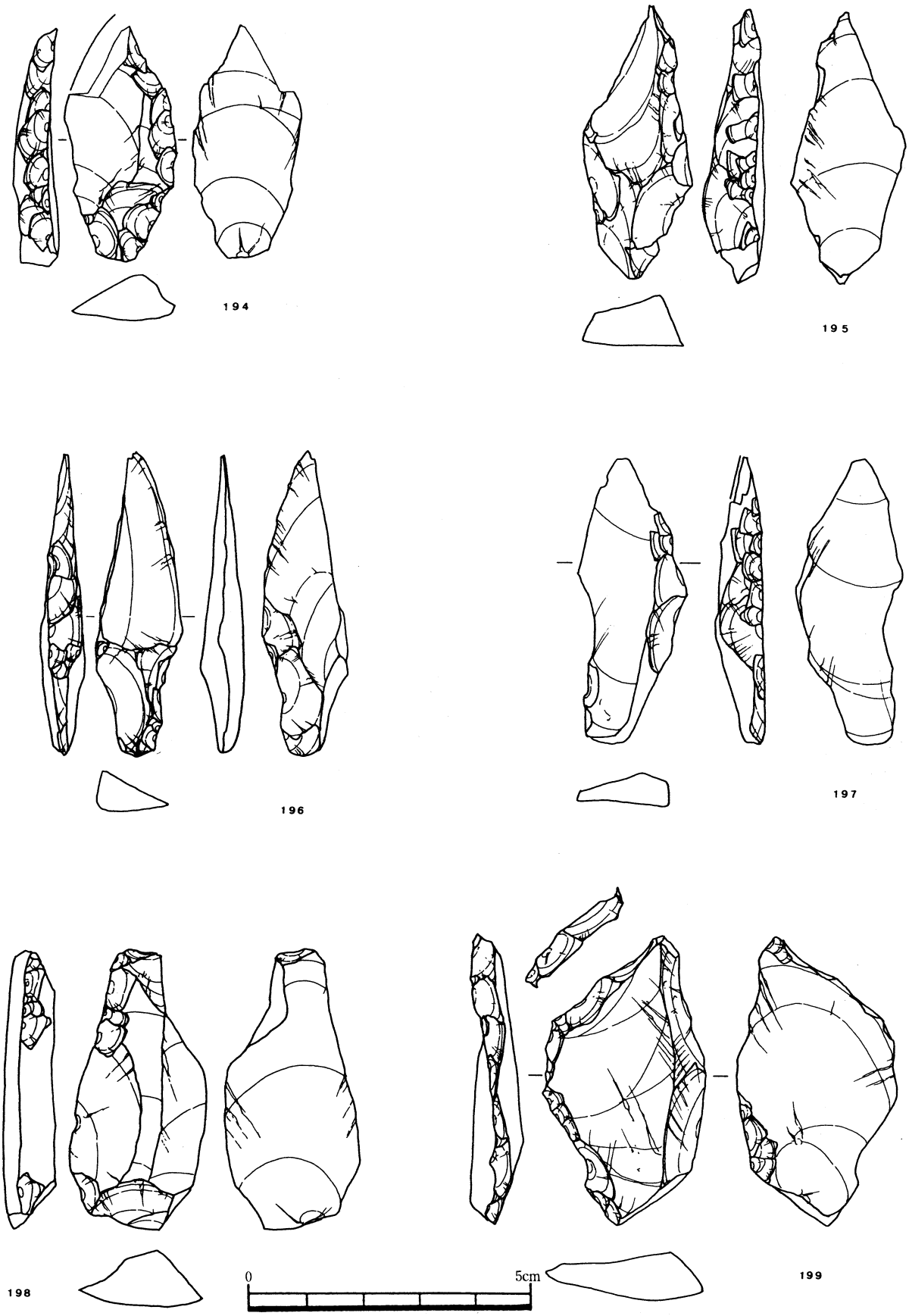
では打溜の除去も兼ねている。189 の刃部の一部は破損し，同じように風化・磨耗している。整形剥離は右側縁先端部と打面に接する両側縁に直線状の整形剥離で茎部を造り出している。191 も風化・磨耗の激しいもので，素材剥片は厚く，打面は単剥離打面を成している。施された整形剥離は急峻で，先端部については明確に観察できない。192 については明確な茎部を造り出していないことから，中原型ナイフ形石器と呼称したほうが適切かもしれない。厚手の縦長剥片を素材とし，右側縁部の整形剥離は丁寧で打面は除去している。207 は長さの短い厚手の剥片を用いたもので，左側縁部と基部を中心に整形剥離が施され，打面は単剥離打面を呈している。211 も風化・磨耗が激しい軟質シルト質頁岩を用い，先端部は破損しているが，右側縁部もその可能性が高い。打面は単剥離打面である。214 は平坦打面の硬質頁岩素材の石器で，先端部は破損している。現存する資料から打面を除くほぼ全周に腹面から急角度の整形剥離を施す。なお，「接合資料」で後述するが，左側縁に整形剥片（ブランティング・チップ）が 1 点接合する。222 の素材は，厚みを持つ縦長剥片である。調整打面を持ち，右側縁部は急角度で鋸歯状の整形剥離が施される。背面の打点側の小剥離は茎部整形剥離と判断される。223 は唯一砂岩製の石器で，背面は 3 面の剥離面で構成され，中央部は広い平坦面を成す。左側縁部は急角度で鋸歯状の整形剥離がなされ，茎部の造り出しは明瞭である。腹面には浅い角度の整形剥離が，発達した打溜の除去とを兼ねて行われる。224 は硬質頁岩の縦長剥片素材。打面に接する両側縁に急角度の整形剥離で茎部を造り出し，先端部の片側縁部にも鋸歯状の整形剥離を施している。刃部には使用による刃こぼれが残る。225の使用石材は硬質頁岩，素材剥片は厚みを持つ縦長剥片。打面の平坦面はわずかに残るだけで，基本的に除去される。側縁の整形剥離は急角度で全て腹面から行い，鋸歯状に仕上げる。腹面の整形剥離も盛んに行い明瞭な茎部を造り出している。なお，刃部を形成する面は自然面あるいは節理面か明らかでない。226 の刃部には細かな剥離が整然と残る。227 は幅の狭い縦長剥片素材の剥片尖頭器で，左側縁中央部の剥離面が素材面と見られる。なお，右側の刃部と茎部面は同一の素材面と思われる。また，刃部の剥離痕は使用による破砕と判断される。228 の打面，腹面の打溜は除去される。先端部は破損し，両側縁は中央部から先端部にかけて鋸歯状の整形剥離が施される。230 の腹面左側縁の小剥離は使用による剥離痕，打面は細かい剥離で除去される。231 は背面・腹面共同一方向の剥離を持つ厚めの剥片素材で，打溜はそのまま残され，茎部はノッチ状に，整形剥離は全周に側縁部に添って施している。232 の打面は除去され，腹面の整形剥離は入念である。なお，右先端部の剥離は整形剥離である。234 は唯一黒曜石製の石器で，打面は除去している。

表 5　小牧 3 A 遺跡遺物観察表（ナイフ形石器）2

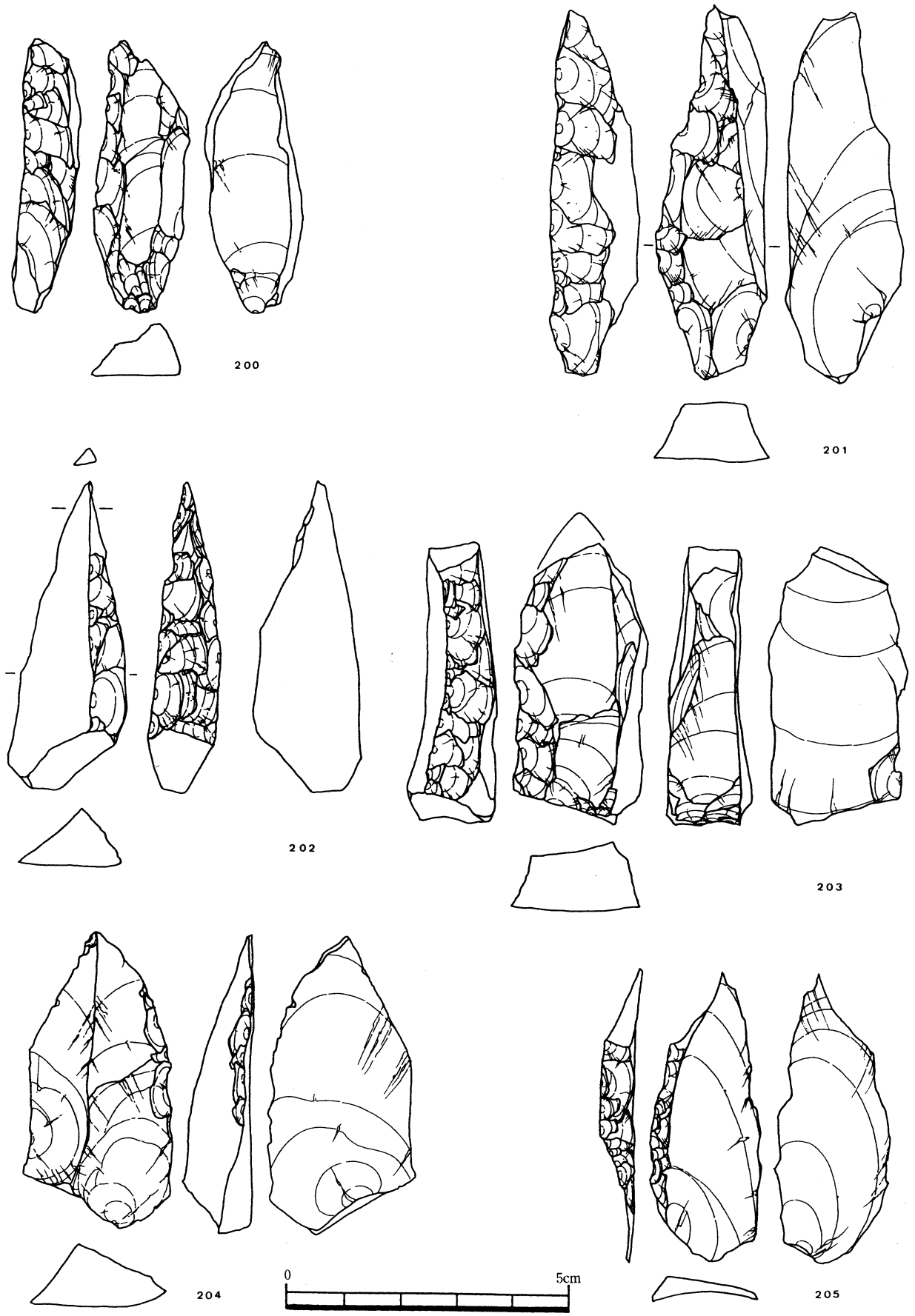
挿図	番号	器　種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備　考
18	171	基部加工ナイフ形石器	9·1	2·6			礫質頁岩(灰黒色)	1/1	良質縦長剥片。基部加工は裏面中心。素材剥片剥離は打面転移を伴う技術。両側縁に刃こぼれを認める。
19	172	部分加工ナイフ形石器	4·0	2·2	E-9	6803	黒曜石(?)	1/1	厚手の剥片を縦位に使用。打面残置。他器種？
	173	基部加工ナイフ形石器	2·0	2·4	G-4	6560	石英質(珪質頁)	1/1	縦長状剥片使用。
	174	部分加工ナイフ形石器?	2·7	1·3	F-4	6436	石英質(乳白色)	1/1	不定形剥片使用。右側縁は分割面に刃潰し加工。
	175	基部加工ナイフ形石器	3·2	3·2	B-12	5977	頁岩？(灰褐色)	1/1	大型。縦長剥片使用。剥片素材は打面転移を伴う剥片剥離技術。刃潰し加工は鋸歯状。単面打面。打面残置。
	176	小型部分加工ナイフ形石器	1·8	1·5	D-11	3225	黒曜石(灰黒色)	1/1	刃潰しは左側縁から頂部。



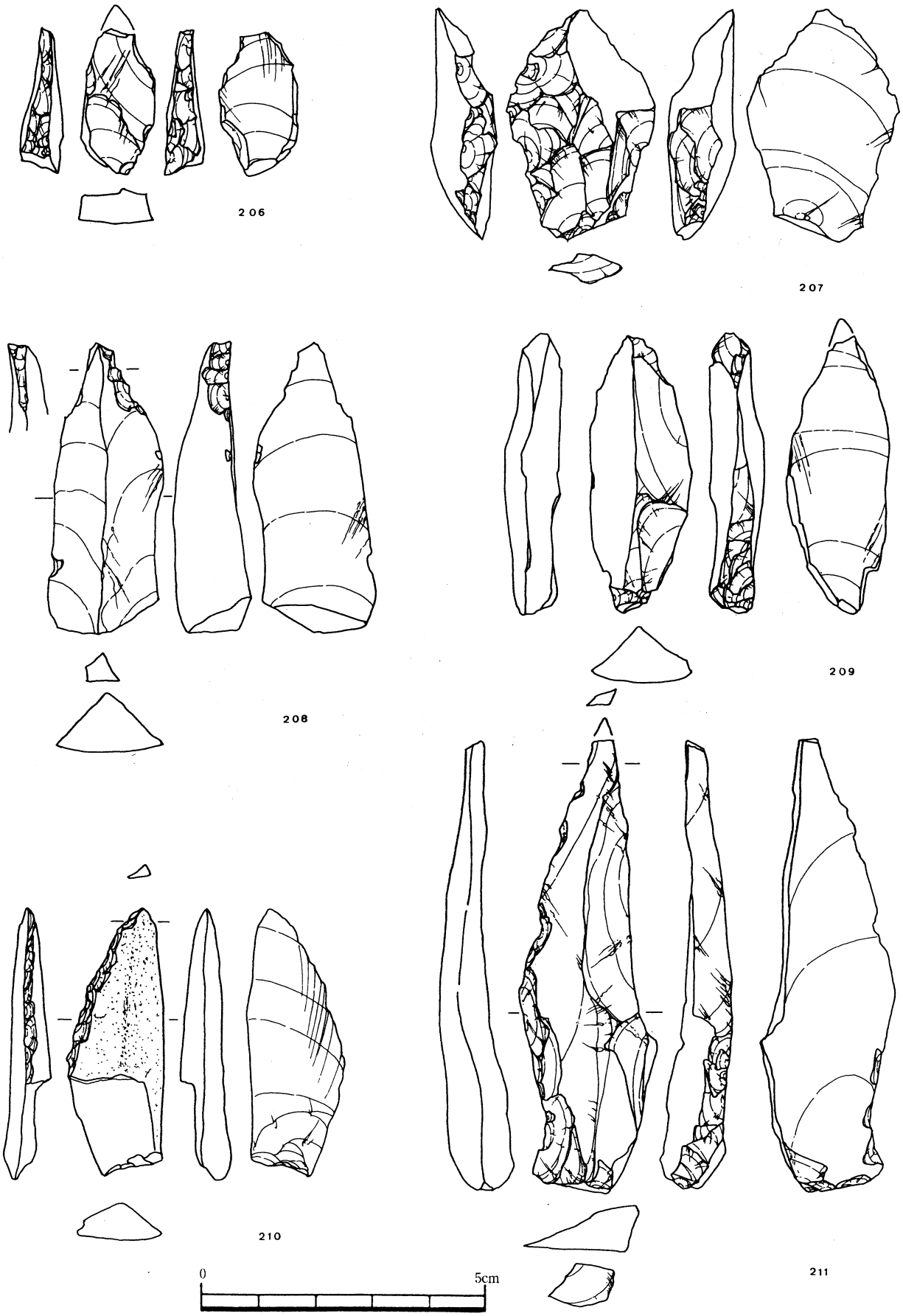
第20図　小牧３Ａ遺跡・剥片尖頭器１（軟質シルト質頁岩）



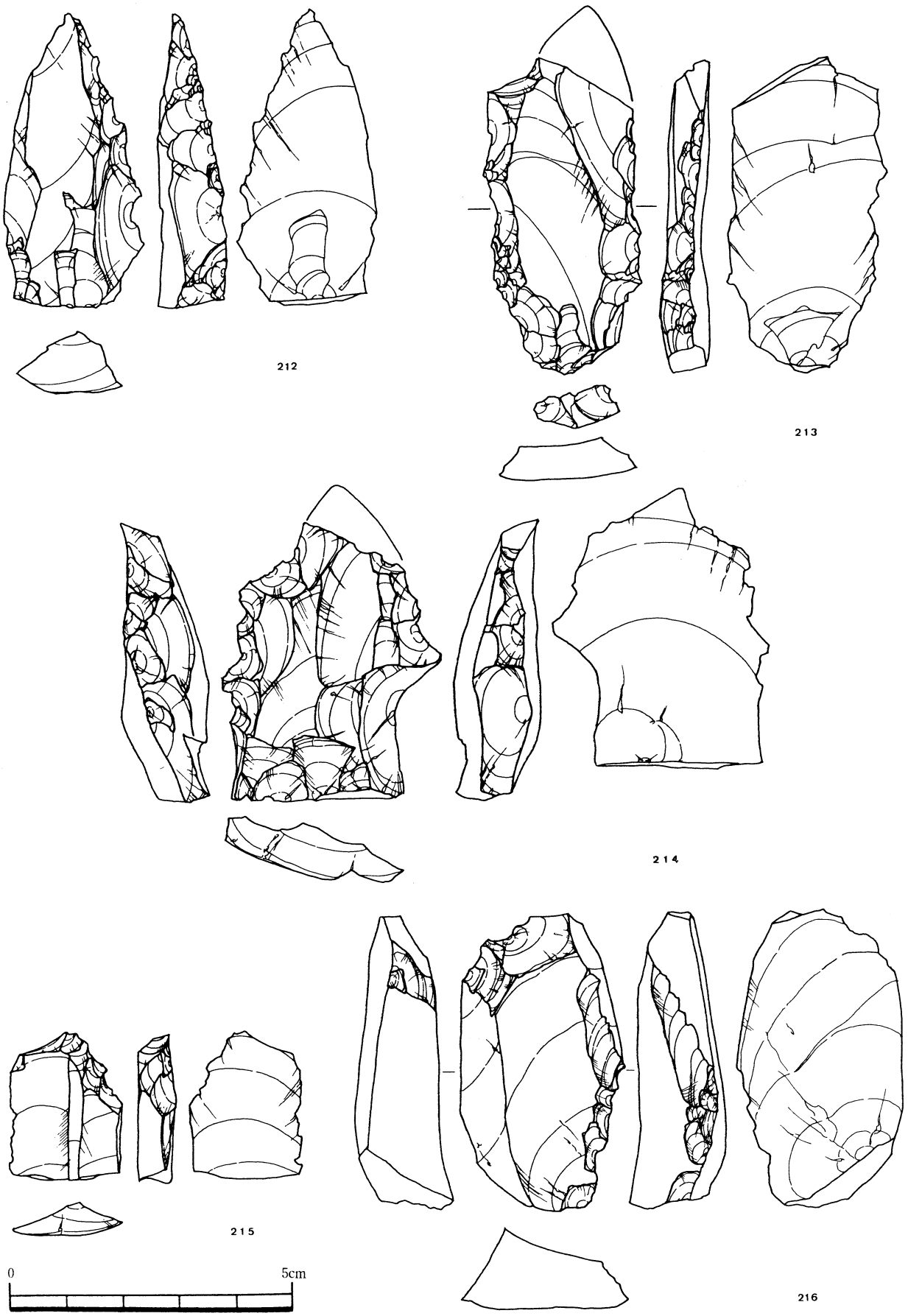
第21図　小牧３Ａ遺跡・剥片尖頭器２（軟質シルト質頁岩）



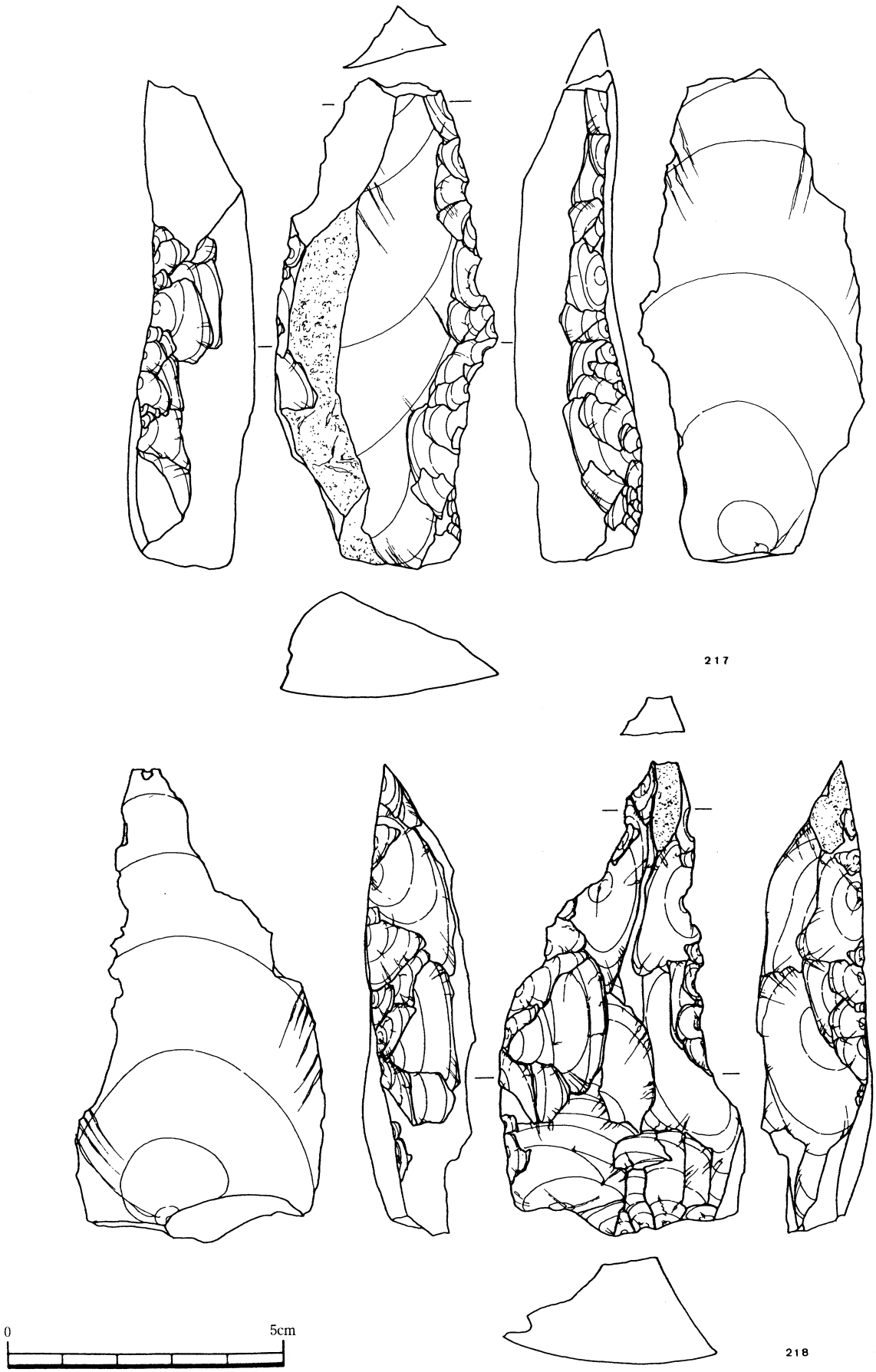
第22図　小牧３Ａ遺跡・剥片尖頭器，ナイフ形石器１（軟質シルト質頁岩）



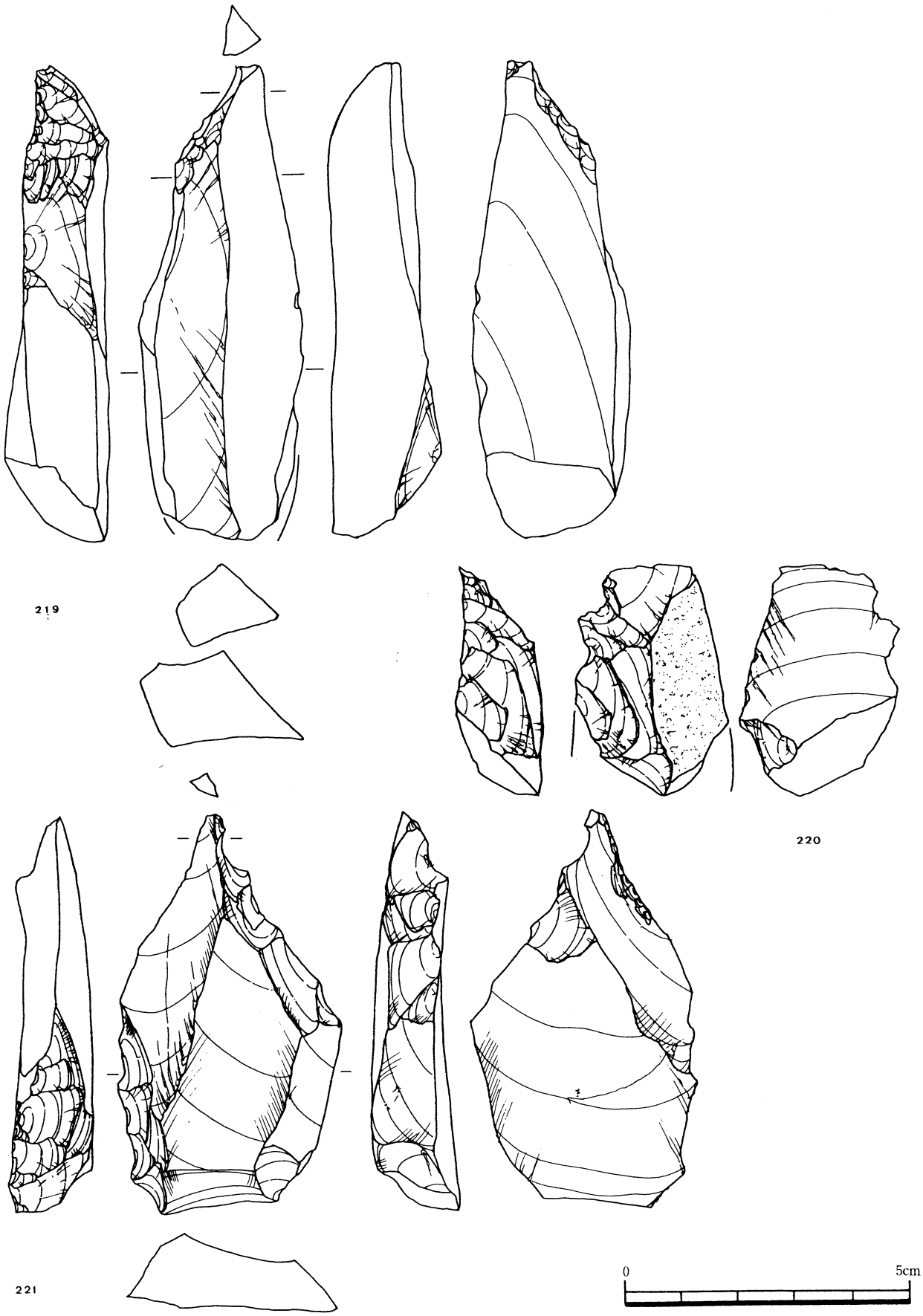
第23図　小牧３Ａ遺跡・剥片尖頭器，ナイフ形石器２（軟質シルト質頁岩）



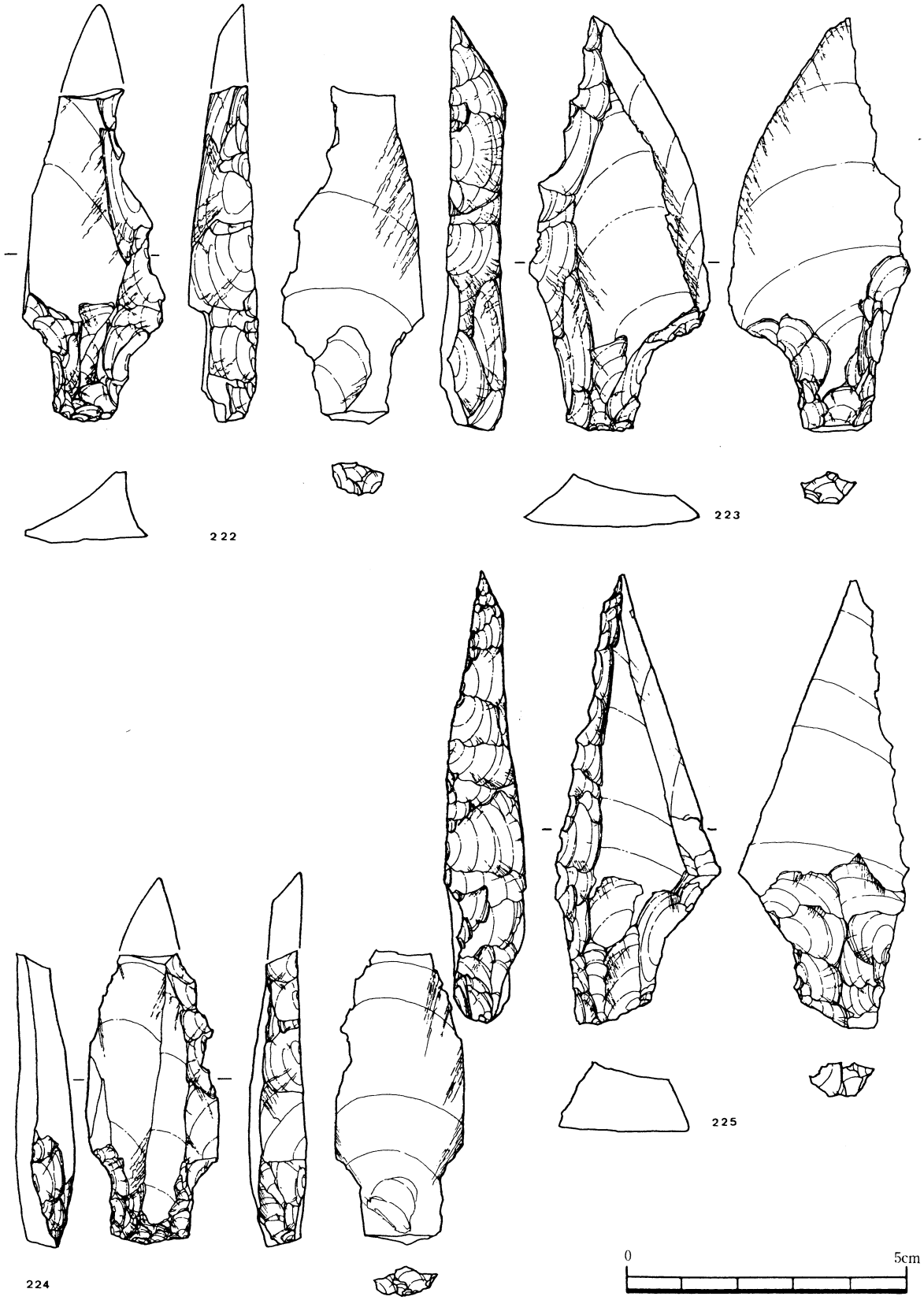
第24図　小牧３Ａ遺跡・剥片尖頭器，ナイフ形石器３（硬質頁岩）



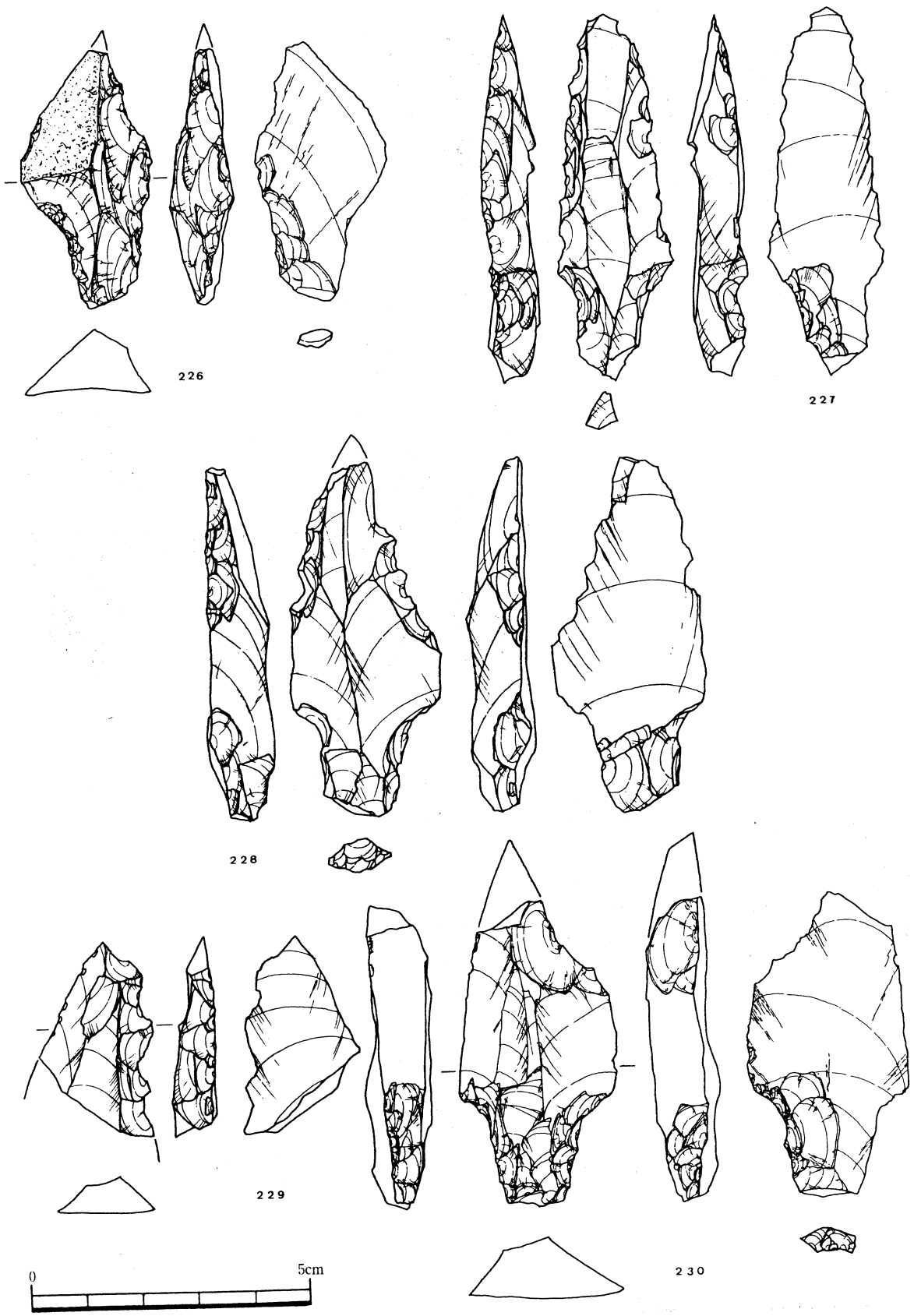
第25図　小牧３Ａ遺跡・剥片尖頭器，ナイフ形石器４（硬質頁岩）



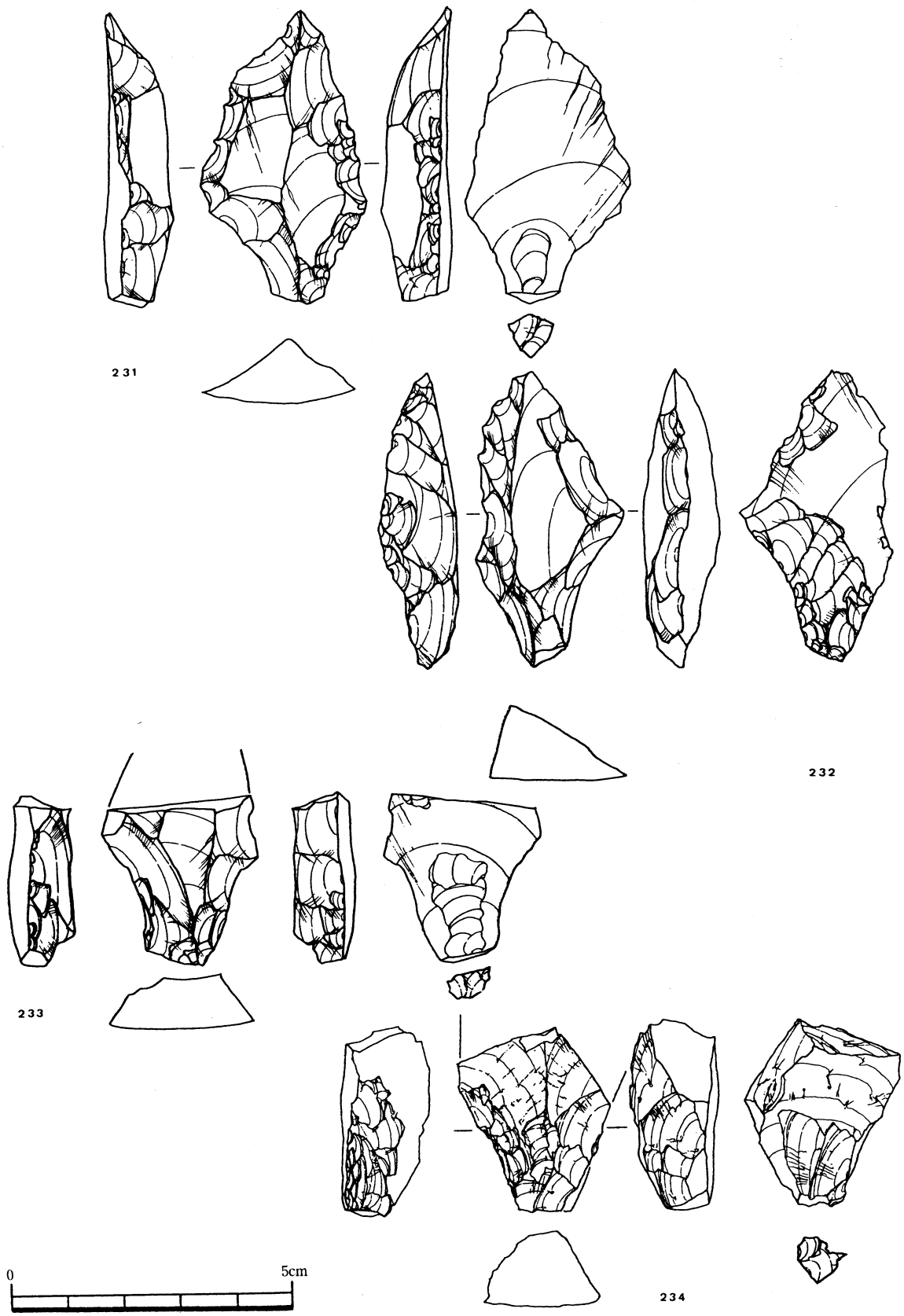
第26図　小牧３Ａ遺跡・剥片尖頭器，ナイフ形石器５（硬質頁岩）



第27図　小牧３Ａ遺跡・剥片尖頭器１（砂岩・硬質頁岩）



第28図　小牧３Ａ遺跡・剥片尖頭器２（硬質頁岩）



第29図　小牧３Ａ遺跡・剥片尖頭器３（黒曜石・硬質頁岩）

表６　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（ナイフ形石器・剥片尖頭器）

挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
２０	188	剥片尖頭器	5・2	2・6	I-5	7101	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	縦長剥片素材。基部両側に抉入状の刃潰し加工を施し、裏面及び両側縁とも先端部まで及ぶ。打面は残さない。
	189	剥片尖頭器	6・1	2・6	D-10	5118	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	縦長剥片素材。基部両側に抉入状の刃潰し加工を施し、右側縁部の先端部にも刃潰し加工。平坦打面。
	190	剥片尖頭器	5・7	2・0	H-12	7508	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	偏平で良質の縦長剥片使用。基部右側は抉入状の刃潰し左側縁は先端部まで。
	191	剥片尖頭器	5・2	2・1	F-8	6844	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	縦長剥片使用。刃潰し加工は全周に及ぶ。先端部は直線状。単面打面。打面残置。
	192	剥片尖頭器（中原型ナイ）	5・2	1・9	F-9	6818	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	縦長剥片使用。右側縁に刃潰し加工。
	193	部分加工ナイフ形石器	4・0	2・2	I-4	7107	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	厚手の剥片使用。打面調整。打面残置。
２１	194	二側縁加工ナイフ形石器	4・2	1・9	E-6	5799	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	厚手の縦長剥片使用。単面打面。打面残置。
	195	二側縁加工ナイフ形石器	4・7	1・9	H-12	7550	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	厚手の縦長剥片使用。右側縁の刃潰し加工は急角度。剥片剥離は打面転移技術。
	196	剥片尖頭器	5・5	1・6	D-10	5082	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	基部加工は抉入状。剥片剥離については不確実。
	197	一側縁加工ナイフ形石器	5・1	1・9	J-13	7635	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	右側縁に刃潰し加工。
	198	部分加工ナイフ形石器	5・0	2・3	C-9		軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	縦長剥片使用。先端部直線的。刃潰し加工は左側縁上位から先端部にかけて。
	199	一側縁加工ナイフ形石器	4・8	2・9	C-9	5057	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	偏平な縦長剥片使用。刃潰し加工は左側縁部。剥片剥離は打面転移技術。単面打面。打面残置。
２２	200	二側縁加工ナイフ形石器	4・9	1・7	H-4	7093	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	縦長剥片使用。左側縁部の刃潰し加工は急角度。
	201	二側縁加工ナイフ形石器	6・7	2・0	D-10	5117	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	厚手の縦長剥片使用。両側縁共に裏面方向からの急角度の刃潰し加工。
	202	一側縁加工ナイフ形石器	5・7	2・0	D-6	5621	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	右側縁の刃潰し加工は両方向から。剥離方向不明。
	203	一側縁加工ナイフ形石器	5・0	2・4	E-5	5673	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	左側縁の刃潰し加工は急角度。角錐状石器？
	204	部分加工ナイフ形石器	5・4	2・7	D-10	6726	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	単面打面。打面残置。
	205	一側縁加工ナイフ形石器	5・2	2・0	C-11	4015	軟質シルト質頁岩（風化）	1/1	横長剥片使用。左側縁に刃潰し加工。打面残置。
２３	206	二側縁加工ナイフ形石器	2・6	1・3	C-9	6747	軟質シルト質頁岩	1/1	剥片の両側縁に急角度の刃潰し加工。打面残置。
	207	剥片尖頭器	3・9	2・7	H-11	7564	軟質シルト質頁岩	1/1	基部加工は抉入状。左側縁は先端部まで。単面打面。打面残置。右先端部の剥離方向は不明。
	208	部分加工ナイフ形石器	5・3	2・1	F-9	5406	軟質シルト質頁岩	1/1	断面三角形の縦長剥片使用。右側縁先端に刃潰し。左先端に樋状剥離。彫刻刀の可能性。
	209	部分加工ナイフ形石器	5・1	1・8	J-4	7157	軟質シルト質頁岩	1/1	断面三角形の縦長剥片使用。
	210	部分加工ナイフ形石器	4・7	1・8	C-12	4057		1/1	礫面残す剥片の左側縁に刃潰し加工。
	211	剥片尖頭器	8・2	2・3	C-6			1/1	単面打面の縦長剥片使用。打面残置。
２４	212	二側縁加工ナイフ形石器（中原型ナイフ形石器）	5・3	2・5	G-8	5560	硬質頁岩（灰黒色・白斑）	1/1	単面打面の縦長剥片使用。打面残置。右側縁の刃潰し加工は急角度。刃部はシャープ。剥片剥離は打面転移。
	213	二側縁加工ナイフ形石器	5・6	2・7	I-3	6690	硬質頁岩（灰色・白斑・白色ライン）	1/1	単面打面の縦長剥片使用。打面残置。刃潰し加工は急角度。剥片剥離は打面転移。
	214	剥片尖頭器	5・1	4・0	F-8	5507		1/1	単面打面の不定形剥片使用。打面残置。刃潰し加工は急角度。左側縁にブランティングチップ接合。
	215	部分加工ナイフ形石器	2・7	2・1	J-3	7813	硬質頁岩（灰黒色・白線）	1/1	縦長剥片使用。先端・基部破損。
	216	部分加工ナイフ形石器	5・3	3・0	G-2	6982		1/1	厚手の剥片を縦位に使用。刃潰し加工は急角度。
２５	217	二側縁加工ナイフ形石器	8・5	3・8	G-8	7328	安山岩（灰黒色）	1/1	大型。打面は礫面（自然打面）。刃潰し加工は全て裏面から急角度。先端部は破損の可能性もある。
	218	部分加工ナイフ形石器	8・2	4・2	F-10	6782	硬質頁岩（灰黒色・白線）	1/1	大型。刃潰し加工は全て裏面から急角度で実施。
２６	219	部分加工ナイフ形石器	8・5	2・9	F-4	6320	軟質シルト質頁岩	1/1	大型。断面菱形の厚手の剥片の左先端部に裏面方向から急角度の刃潰し加工実施。
	220	部分加工ナイフ形石器	4・2	2・7	D-3	8555		1/1	基部破損。左側縁の急角度の刃潰し加工は先端まで。
	221	部分加工ナイフ形石器	7・1	3・9	C-6		硬質頁岩（灰色・白線）	1/1	大型。打面方向が先端部。両側縁の刃潰し加工は急角度で実施。右先端部は打面を断ち切る状況。
２７	222	剥片尖頭器	6・0	2・6	D-8	3556	硬質頁岩（灰色・白線）	1/1	断面三角形の縦長剥片使用。基部は抉入状の刃潰し加工単面打面。先端部の破損は裏面から。刃部シャープ。
	223	剥片尖頭器	7・5	3・2	I-11	4	砂岩	1/1	断面台形の縦長剥片使用。左側縁の刃潰し加工は裏面から急角度。基部の抉入状の刃潰し加工は裏面まで。単面打面。刃部シャープ。

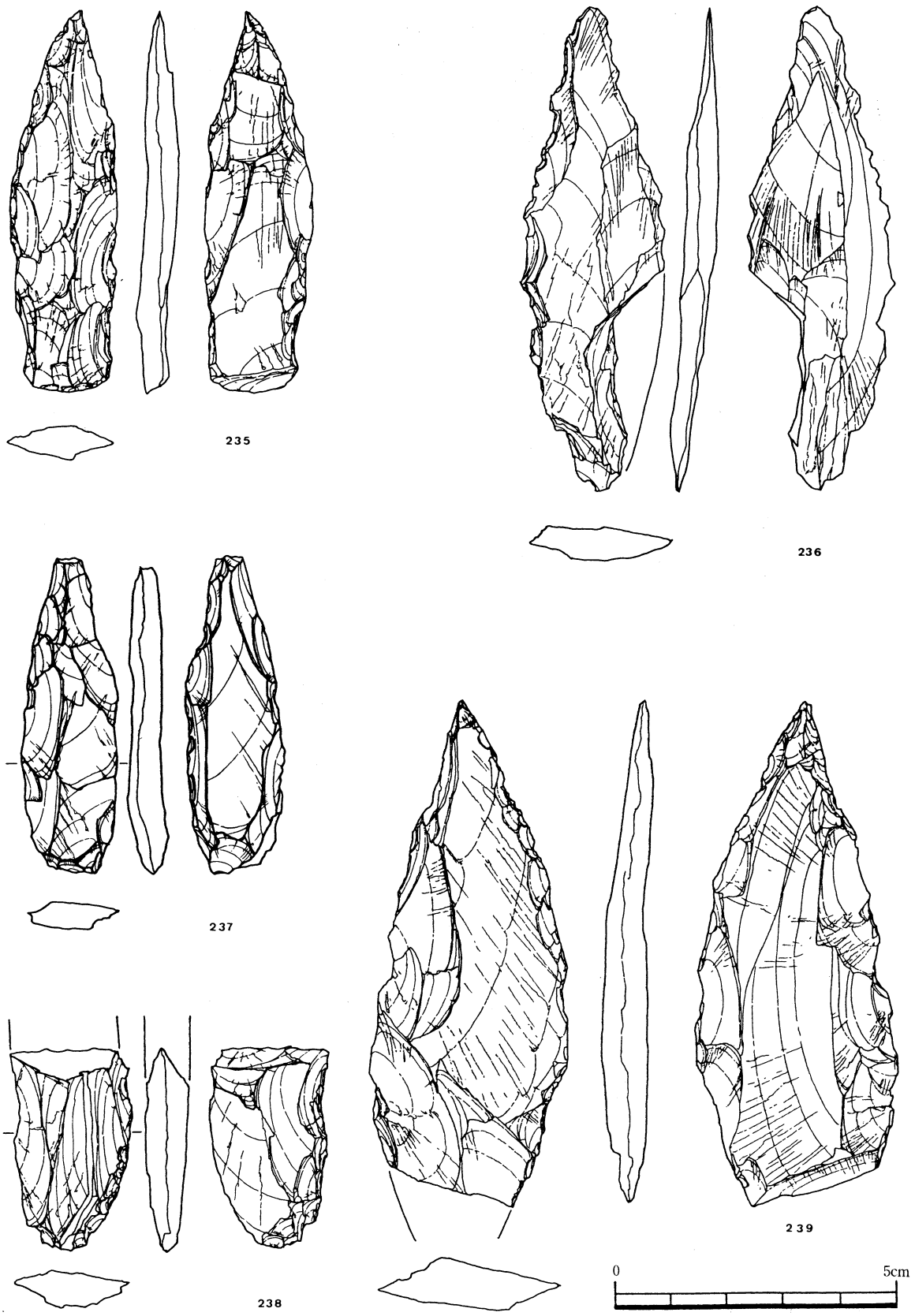
表７　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（剥片尖頭器）

挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
２７	224	剥片尖頭器	5･3	2･4	D-8	3551	硬質頁岩（灰黒色・白線）	1/1	断面台形の良質の縦長剥片素材。基部両側に抉入状の刃潰し加工を施し，右側縁は先端部まで及ぶ。単面打面。打面残置。刃部はシャープ。刃こぼれ。
	225	剥片尖頭器	8･2	3･0			硬質頁岩（灰黒色・白線）	1/1	断面台形の良質の縦長剥片素材。基部両側に裏面に及ぶ抉入状の刃潰し加工を施し，左側縁は先端部まで急角度で及ぶ。打面調整。刃部はシャープ。刃こぼれ。
２８	226	剥片尖頭器	4･7	2･4	G-10	8282	硬質頁岩（灰黒色・白線）	1/1	礫面を残す断面三角形の縦長剥片使用。基部両側に抉入状の刃潰し右側縁は先端部まで。刃部裏面には刃こぼれが明瞭に残る。
	227	剥片尖頭器	6･6	2･2	E-12	3901	硬質頁岩（灰黒色・白線）	1/1	幅の狭い断面台形の縦長剥片使用。基部両側に抉入状の刃潰し加工を施し，右は裏面に及ぶ。刃部の剥離は刃こぼれの可能性高い。単面打面。打面残置。
	228	剥片尖頭器	6･5	2･3	K-12	14	硬質頁岩（灰黒色・白線）	1/1	断面三角形の縦長剥片使用。基部両側に裏面に及ぶ抉入状の刃潰し加工を施す。左側縁先端部と右側縁中央部にも刃潰し加工。打面調整。裏面左の剥離は破損時。
	229	剥片尖頭器	3･4	2･0	G-8	5574	硬質頁岩（灰黒色・白線）	1/1	先端部。刃部に刃こぼれ。
	230	剥片尖頭器	5･6	2･9	G-10	8282	硬質頁岩（灰色・白化）	1/1	断面台形の厚手の縦長剥片使用。基部両側に抉入状の刃潰し加工。右先端部も。調整打面。
２９	231	剥片尖頭器	5･3	2･9	G-10	8207	硬質頁岩（灰黒色・白斑・白線化）	1/1	厚手の断面三角縦長剥片使用。基部両側に抉入状の刃潰し加工。両側縁の刃潰し加工は先端部まで。
	232	剥片尖頭器	5･4	2･5	F-9	6857	硬質頁岩（灰色・白化）	1/1	厚手の断面三角縦長剥片使用。基部両側に抉入状の刃潰し加工。裏面右は平坦剥離。左側縁の刃潰し加工は先端部まで急角度。右側縁は先端部を除き裏面にも。
	233	剥片尖頭器	3･0	2･7	G-1	7678	硬質頁岩（灰色・白化）	1/1	断面台形縦長剥片使用。基部両側に急角度の抉入状の刃潰し加工。調整打面。打面残置。破損は表面から。
	234	剥片尖頭器	3･4	2･8	I-3	8055	黒曜石（?）	1/1	断面三角形縦長剥片使用。基部両側に急角度の抉入状の刃潰し加工。調整打面。打面残置。破損は裏面から。

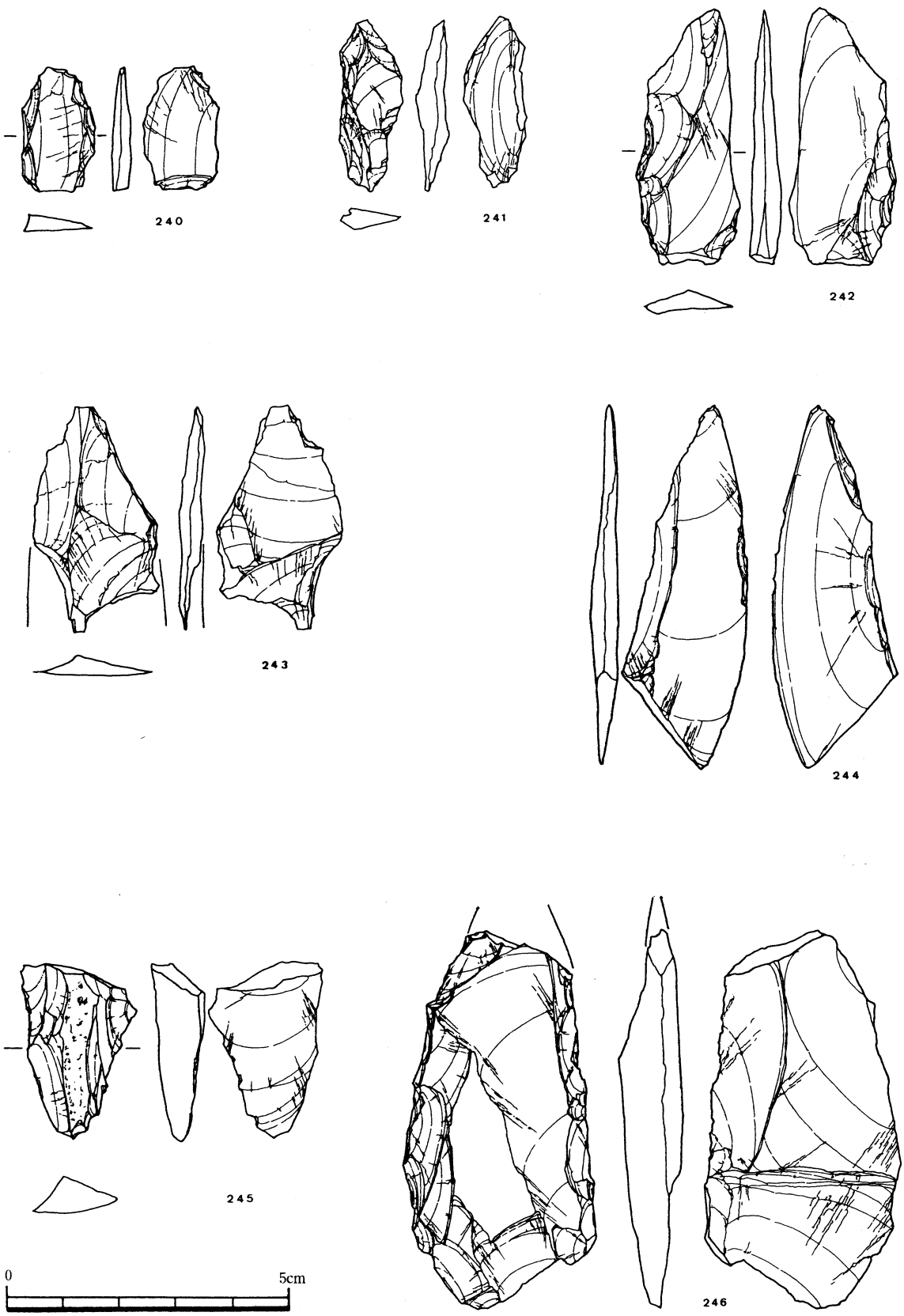
第５節　尖頭器

235 ～246 は尖頭器とそれに関する調整剥片である。尖頭器は全て剥片素材で，板状に剥離する粘板岩質石材を使用している。素材に，両面加工を行っているが，周辺からの整形剥離は器体の中央部を基本的に越えることはない。

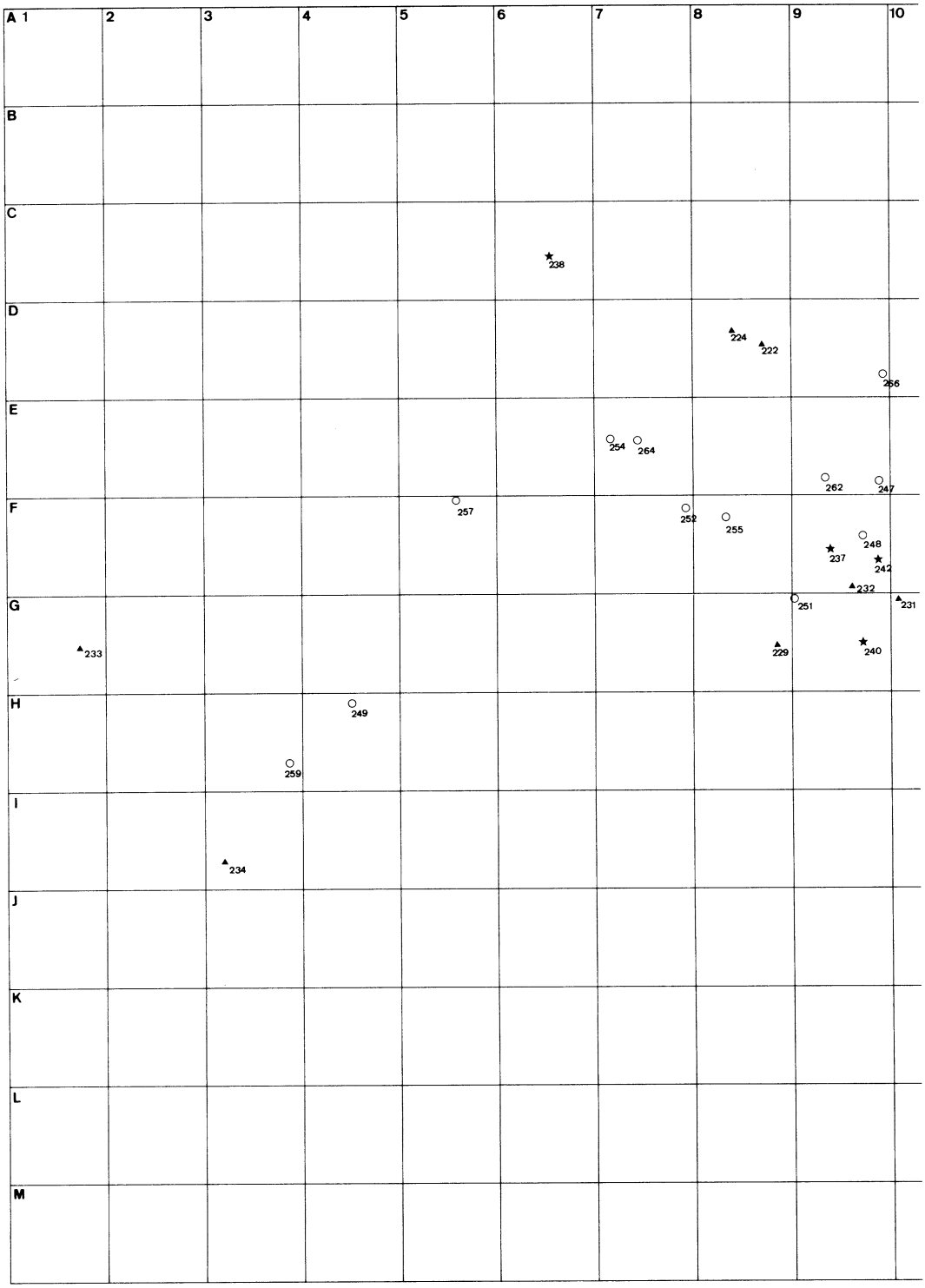
235 は完形品。薄手の剥片を素材に，裏面にポジティブな素材面が残る。基部から体部上位にかけて両面とも粗い整形剥離を行い，先端部はさらに細かい調整を施している。先端部の主軸が若干傾き、両面とも中央部を中心に稜線がズレている。なお，基部は背面から直線的に調整した後，再度細かい仕上げを行っている。236 の左側縁部の剥離は整形剥離の可能性が高いが，裏面が素材面を成すことから調整剥片あるいは，製作段階での放棄の可能性も考えられる。237 の基部は粗く直線的に整形した後，それに添った細かい調整剥離が加えられる。裏面の素材面はネガティブ面で，右側縁部は階段状剥離が見られる。なお，裏面下位の素材面と基部からの調整剥離面との境界に磨耗した部分が残される。238 直線的な基部に相当する。238 の裏面左側の素材面は，ポジティブ面。239の背面の素材面は節理面の可能性も考えられ、裏面の素材面は横方向からの剥離面で、両面とも素材面を残して，周辺から両面加工が行われる。235 も同様に，体部は粗く先端部は細かい調整剥離を行い，主軸はやや傾く仕上がりである。基部については本例は欠損と思われるが，形状的に



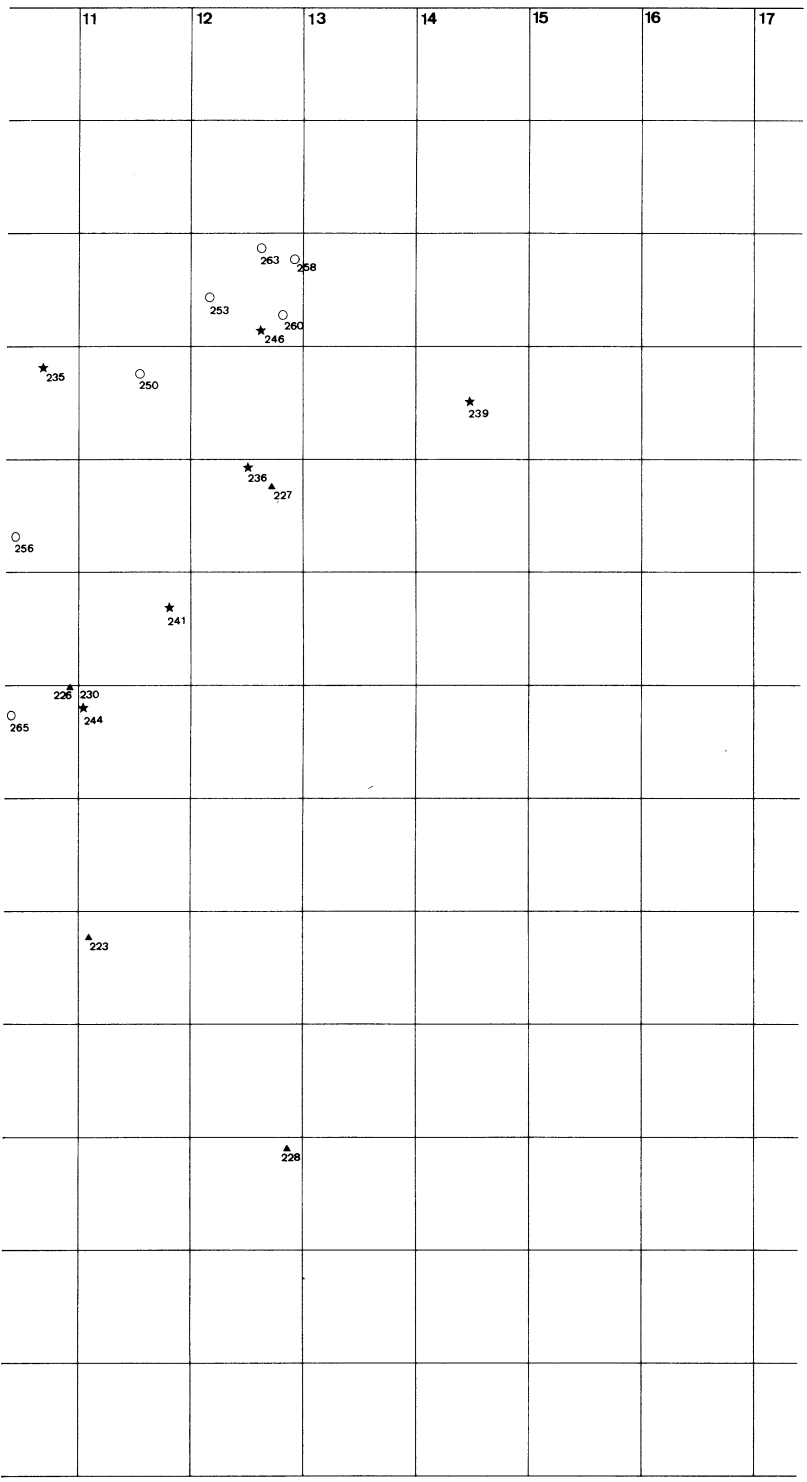
第30図　小牧３Ａ遺跡・尖頭器１

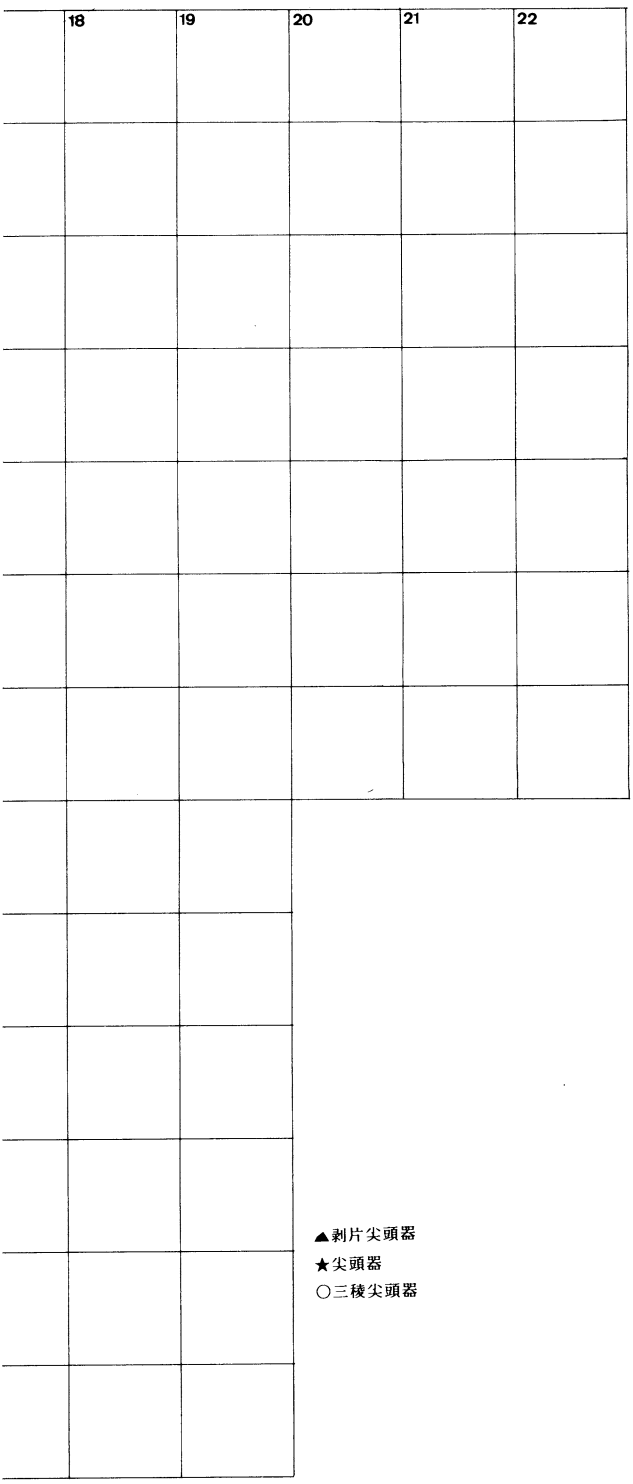


第31図　小牧３Ａ遺跡・尖頭器・剥片



第32図　小牧３Ａ遺跡・旧石器時代（尖頭器・三稜尖頭器出土分布図）


11
12
13
14
15
16
17
263
258
253
260
246
235
250
239
236
227
256
241
226
230
244
265
223
228



▲剥片尖頭器
★尖頭器
○三稜尖頭器

尖らない可能性が高い。

240 ～244 はいずれも調整剥片と判断している。246 の背面の周辺加工は調整剥離の可能性の高いもので，製品化の最終段階に近いと判断される。

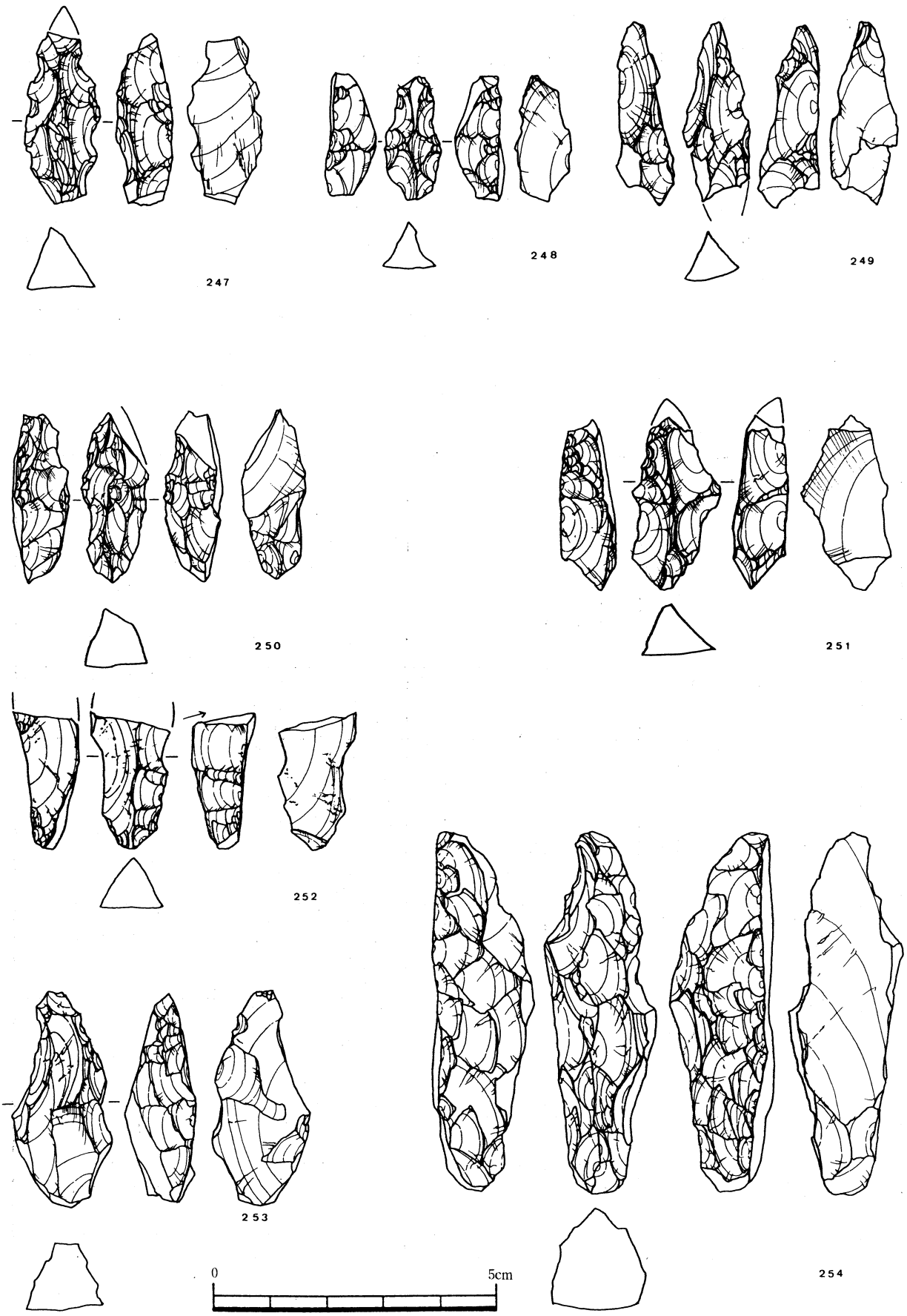
第 6 節　三稜尖頭器

20点の三稜尖頭器（角錐状石器）を確認し，大型品と小型品があり，小型品が卓越する。

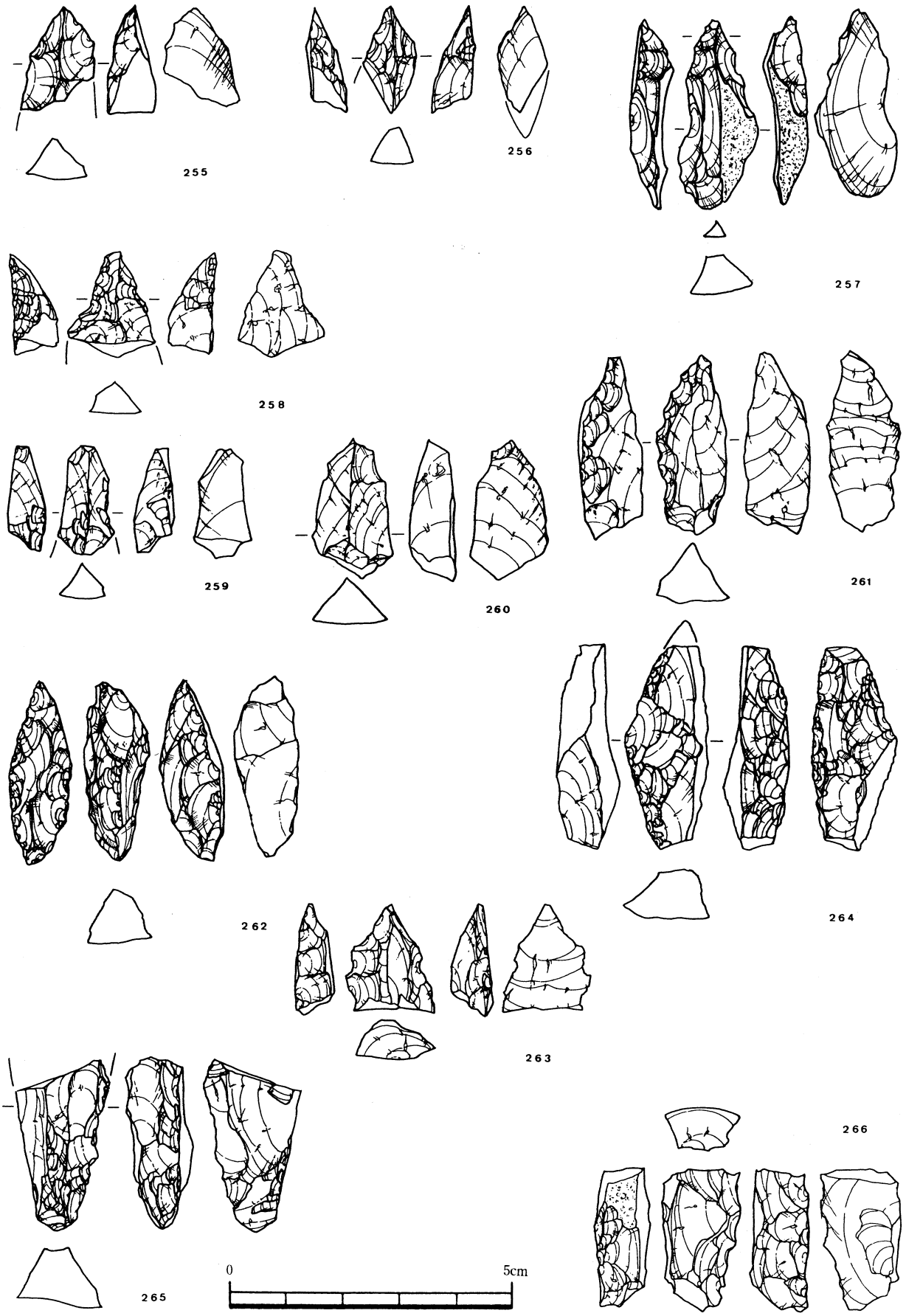
247 の基部は複剥離打面が残され，整形剥離は周辺から行う。250 では裏面基部に平坦剥離を施し、稜線からの細調整も見られる。253 の整形剥離は稜線まで達してなく，先端部では素材面が残される。254 は唯一の大型品で，基部裏面に 2 枚の対抗する平坦剥離が見られ，整形剥離は周辺から行った後，稜線からも加えている。255 ・256 はとりあえず先端部と認定している。260 は剥片、257 ・258 ・259 ・261 ・263 ・264 ・265 は周辺加工品。

表 8　小牧 3 A 遺跡遺物観察表（尖頭器・剥片）

挿図	番号	器　種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備　　考
30	235	尖頭器（両面加工）	6·9	2·0	D-10	3326	粘板岩（黒色・マンガン分付着）	1/1	素材剥片は縦方向の薄いポジティブな偏平剥片。整形剥離は各周縁から行い，断面形はレンズ状。基部については，表面の整形から現状と判断。先端部はやや右に傾き，両面共に中央部を中心に稜線がスレている。基部の形状については背面側の基部整形が最終段階で行われることから，この姿が目的形状と判断される。したがって，完形品であり平基式の尖頭器と判断される。
	236	尖頭器（両面加工）	8·8	2·5	E-12	3873	粘板岩（黒色・マンガン分付着）	1/1	素材剥片は横方向の薄いポジティブな偏平剥片。左側縁部に腹面からの整形剥離が見られ，胴部中央部を境に先端部方向と基部方向に区分できる。
	237	尖頭器（両面加工）	5·8	1·7	F-9	6838	粘板岩（黒色・マンガン分付着）	1/1	背面左側縁部は階段状剥離，右側縁部の先端付近は更に細かい調整剥離が見られる。腹面素材面と基部整形剥離面との境界付近に磨耗が見られる。断面レンズ状。基部は表裏面の整形から235 同様直線的。先端部破損。
	238	尖頭器（両面加工）	3·7	2·1	C-6	5606	粘板岩（黒色・マンガン分付着）	1/1	尖頭器の基部と判断。素材面ポジティブな面で，基部付近に細かな調整剥離が施される。基部の形状は他と同様平基と思われる。
	239	尖頭器（両面加工）	9·2	3·6	D-14		粘板岩（黒色・マンガン分付着）	1/1	偏平な横長剥片素材で，背面は節理面の可能性が高い。周縁から整形加工を実施。特に，先端部付近は細かい整形剥離がみられる。先端部は左に傾くきシャープ。基部は破損であろうが，尖らない可能性が高い。
32	240	器種不明	2·2	1·3	G-9	5586	粘板岩（黒色・マンガン分付着）	1/1	腹面はポジティブな剥離面で，腹面からのリタッチが認められる。
	241	調整剥片	3·0	1·1	F-11	5908	粘板岩（黒色・マンガン分付着）	1/1	背面右側縁の先端部・下縁部，腹面の左側縁部・下縁部にリタッチが見られる。右側縁の白ヌキは打面で，調整剥片である。
	242	調整剥片	4·6	1·8	F-9	6081	粘板岩（黒色・マンガン分付着）	1/1	下縁部は折れ。腹面はポジティブな剥離面で，尖頭器整形時の調整剥片。
	243	調整剥片	4·1	2·2			粘板岩(黒色・マガン付着)	1/1	整形剥片の可能性高い。
	244	調整剥片	6·6	2·2	G-11	6768	粘板岩（黒色・マンガン分付着）	1/1	下縁部の狭い平坦面は自然面。右側縁部の小剥離は折れ面と同一でフィンジクラフチャー。
	245	剥片	3·2	2·0			シルト質頁岩岩(灰色)	1/1	
	246	尖頭器(両面加工)	6·9	3·4	C-12	3166	粘板岩（黒色・マンガン分付着）	1/1	背面の素材面（白ヌキ部）は節理面で，下方に使用によると見られる磨耗面が認められる。両側縁部の剥離は整形剥離で，先端部と基部方向の折れは調整段階でのものと思われる。



第33図　小牧３Ａ遺跡・三稜尖頭器１



第34図　小牧３Ａ遺跡・三稜尖頭器２

表９　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（三稜尖頭器）

挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
３３	247	三稜尖頭器	3・1	1・4	E-9	5309	硬質頁岩（灰色・白線）	1/1	稜の高い断面三角形の縦長剥片使用。二次加工は裏面から行った後，稜線から実施。先端部破損。基部の平坦面は剥片底面に相当。裏面は平坦面。
	248	三稜尖頭器	2・2	1・1	F-9	6828	シルト質頁岩（灰白色）	1/1	稜の高い断面三角形の横長剥片使用。二次加工は全て裏面から。先端部，基部破損。裏面は平坦面。
	249	三稜尖頭器	3・3	1・3	H-4	6602	硬質頁岩（灰S・白線）	1/1	稜の高い断面三角形の横長剥片使用。二次加工は裏面から行った後，稜線から実施。基部破損。
	250	三稜尖頭器	3・1	1・2	D-11	4086	硬質頁岩（灰S・白線）	1/1	稜の高い断面三角形の横長剥片使用。二次加工は裏面から行った後，稜線から実施。裏面基部に二次加工の平坦剥離。先端部破損。
	251	三稜尖頭器	3・1	1・6	G-9	5532	シルト質頁岩（灰褐白色）	1/1	稜の高い断面三角形の横長剥片使用。二次加工は全て裏面から。先端部，基部破損。裏面は平坦面。
	252	三稜尖頭器	2・5	1・4	F-7	8141	シルト質頁岩（灰白色）	1/1	稜の高い断面三角形の横長剥片使用。二次加工は全て裏面から。基部破損。裏面は平坦面。
	253	三稜尖頭器	3・8	1・7	C-12	803	変性岩（石英質・濃い緑）	1/1	稜の高い断面台形の横長剥片使用。二次加工は全て裏面から。裏面の剥離は打溜除去？
	254	三稜尖頭器	6・5	1・9	E-7	5720	安山岩（黄褐色・風化）	1/1	稜の高い断面三角形の横長剥片使用。二次加工は裏面から行った後，稜線から実施。裏面基部にも整形剥離。
３４	255	三稜尖頭器	1・8	1・3	F-8	3685	変性岩（石英質・淡い緑）	1/1	破損した先端部。稜の高い断面三角形の横長剥片使用。二次加工は裏面から。
	256	三稜尖頭器	2・0	1・0	E-10	3704	黒曜石（上牛鼻産）	1/1	破損した先端部。稜の高い断面三角形の横長剥片使用。二次加工は裏面から。
	257	周辺加工品	3・5	1・3	F-5	6161	硬質頁岩（灰色・白線）	1/1	中央部が断面台形の横長剥片使用。二次加工は全て裏面から。完形品。
	258	周辺加工品	1・9	1・6	C-12	3136	黒曜石（?）	1/1	破損した先端部。稜の高い断面三角形の横長剥片使用。二次加工は裏面から。先端部は特に入念。
	259	周辺加工品	2・0	1・1	H-3	6628	硬質頁岩（灰色・白線）	1/1	破損した先端部。稜の高い断面三角形の横長剥片使用。二次加工は裏面から。
	260	剥片	2・5	1・4	C-12	3157	黒曜石（三船産）	1/1	稜の高い断面三角形の縦長剥片使用。先端部と基部は破損。
	261	周辺加工品	3・3	1・3			黒曜石（三船産）	1/1	稜の高い断面三角形の縦長剥片使用。二次加工はブランティング状に裏面から。基部破損。
	262	三稜尖頭器	3・2	1・2	E-9	6068	鉄石英（赤色）	1/1	稜の高い断面三角形の縦長剥片使用。二次加工は裏面から行った後，再度稜線から。完形品。
	263	周辺加工品	1・9	1・5	C-12	4058	黒曜石（?）	1/1	破損した先端部。稜の高い断面三角形の縦長剥片使用。二次加工は裏面から。先端部シャープ。
	264	周辺加工品	3・7	1・5	E-7	5726	黒曜石（三船産）	1/1	稜の高い断面台形の横長剥片使用。二次加工は裏面からブランティング状に。裏面先端部も実施。
	265	周辺加工品	3・1	1・7	G-10	1197	黒曜石（三船産）	1/1	稜の高い断面台形の横長剥片使用。二次加工は裏面から裏面基部も実施。
	266	三稜尖頭器	2・5	1・5	D-9	5136	黒曜石（?）	1/1	稜の高い断面台形の縦長剥片使用。二次加工は裏面から先端部破損。破損は表面から。

挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
１９	177	小型部分加工ナイフ形石器	1・7	1・3			鉄石英（赤色）	1/1	小型剥片素材の頂部を断ち切る刃潰し。打面残置。
	178	小型部分加工ナイフ形石器	2・1	1・4	B-12	5978	黒曜石（三船産）	1/1	左側縁に刃潰し加工が残る。
	179	小型部分加工ナイフ形石器	1・9	1・4	E-6	5774		1/1	小型一側縁加工。左側縁の刃潰しは裏面から。
	180	小型部分加工ナイフ形石器	1・6	1・5	F-12	5910	黒曜石（三船産）	1/1	左側縁に加工。刃潰しは裏面から。
	181	ナイフ形石器	3・0	1・7	G-11	7442	黒曜石（上牛鼻産）	1/1	左側縁を除き加工。スクレイパー？
	182	小型部分加工ナイフ形石器	1・1	1・1	G-5	6502		1/1	薄い偏平な剥片の側縁に刃潰し。
	183	小型部分加工ナイフ形石器	1・2	1・1	E-7	5722	黒曜石（三船産）	1/1	薄い偏平な剥片の側縁に刃潰し。
	184	小型部分加工ナイフ形石器	1・7	1・0	F-8	3807		1/1	薄い偏平な剥片の側縁に刃潰し。
	185	小型部分加工ナイフ形石器	2・0	1・3			黒曜石（三船産）	1/1	剥片の右側縁に刃潰し加工。
	186	部分加工ナイフ形石器	3・4	1・7	F-10	5831	頁岩	1/1	剥片の右側縁部に急角度の刃潰し加工。
	187	小型部分加工ナイフ形石器	2・0	1・6	C-9	6913	黒曜石（?）	1/1	剥片の一部に刃潰し加工。

第7節　スクレイパー及び使用痕のある剥片

18点を確認している。

268 は形状的にはラウンド・スクレイパーに近いもので，素材は求心状に剥片剥離した剥片を利用したと思われ，打面はそのまま残される。明瞭な刃部形成の痕跡は確認できないが，周辺部の欠損状況から判断できる。270 も同様で，石核素材を使用している。刃部形成は全て裏面から行い，ほぼ全周に体部の中心方向に実施している。269 は，やや厚手の剥片の二側縁部に裏面から急角度の剥離で刃部形成を行っている。271 の裏面はポジティブ面を成し，正面は求心状の剥片剥離面で構成され，石核素材の可能性が高い。刃部は先端部と右側縁部に形成され，裏面の一部にも剥離面が認められる。正面の刃部は裏面方向から急角度に，裏面は正面から浅い角度を成している。272 の刃部は先端部と右側縁部での刃部形成方向が異なっている。274 ・275 ・279 ・282 は微細及び細かい剥離痕が見られ，使用による結果と判断する。276 の上端・先端部の刃部形成は対峙する関係にある。先端部では裏面方向から，上端部は正面方向からの刃部形成である。284 の刃部は左側縁部と上部に抉入状に残される。282 ・283 等は使用による刃潰れと見られる。

第8節　剥片

基本的に素材剥片と判断したものを示した。剥片については，第39図から第49図に示しているが，剥片と本遺跡出土の石器とは大方適合するようである。即ち，やや大型に残される軟質シルト質頁岩や硬質頁岩は剥片尖頭器や二側縁加工ナイフ形石器に，小型で折断剥片に多用される黒曜石や石英質石材・瑪瑙は主に台形石器や小型ナイフ形石器に使用頻度の傾向が見て取れる。

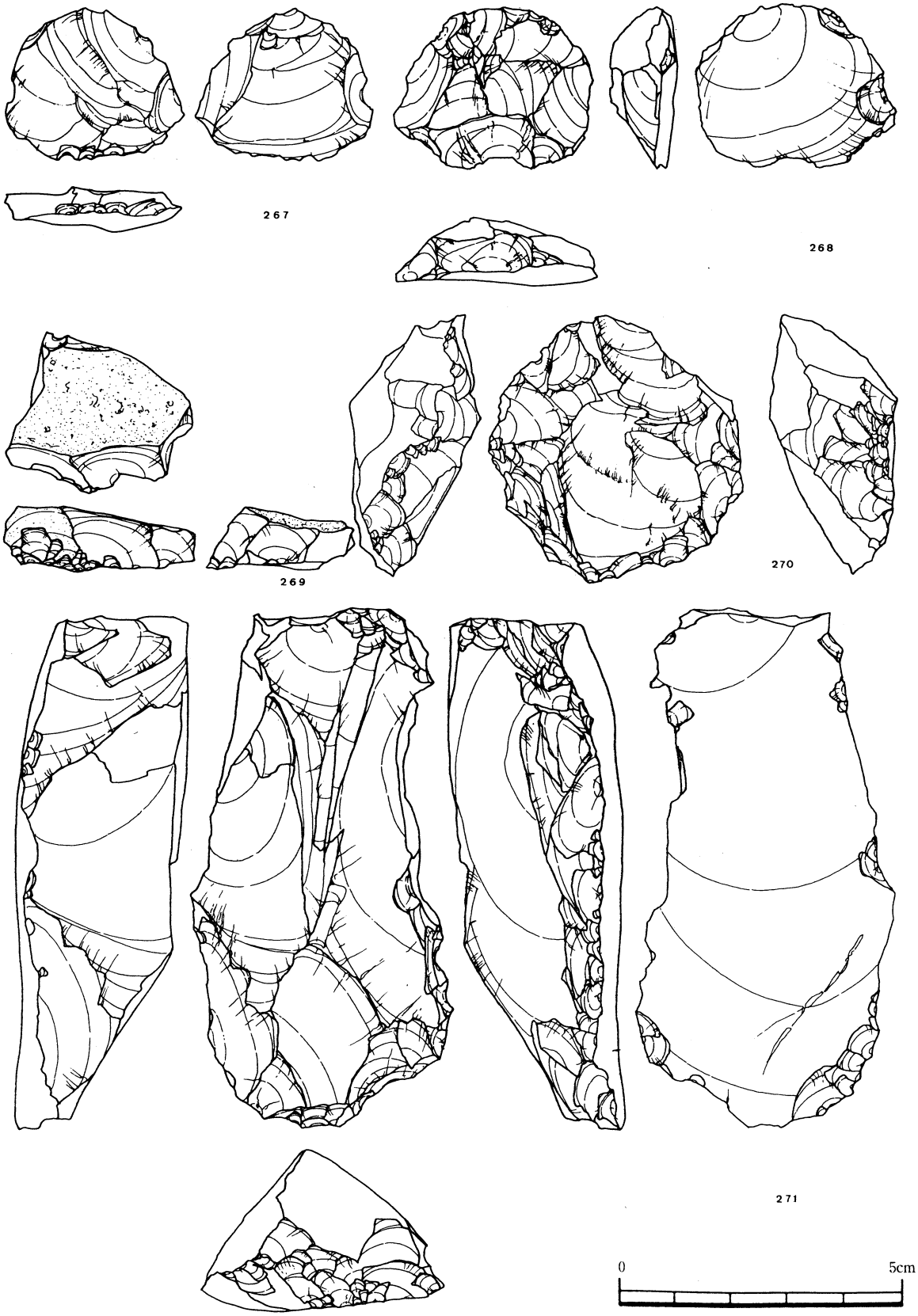
289 ・307 ・327 ・328 等では剥離方向の転移が認められるが，その他は大方同一方向の剥片剥離によると判断される。285 と287 は厚手の剥片であるが，打面が平坦であることから剥片尖頭器及び二側縁加工ナイフ形石器等に関連する資料と思われる。295 ・297 の2点については，石核の可能性もあるが，現状では剥片と判断している。288 は上端と下端を，296 は下端を分割した折断剥片と思われる。なお，明らかに折断剥片と区分できる資料については，第45図340 から355 に示している。また，第14図で示した111 から119 の折断剥片は台形石器用に準備されたと判断し，区分して掲載した。

第9節　ブランティング・チップ

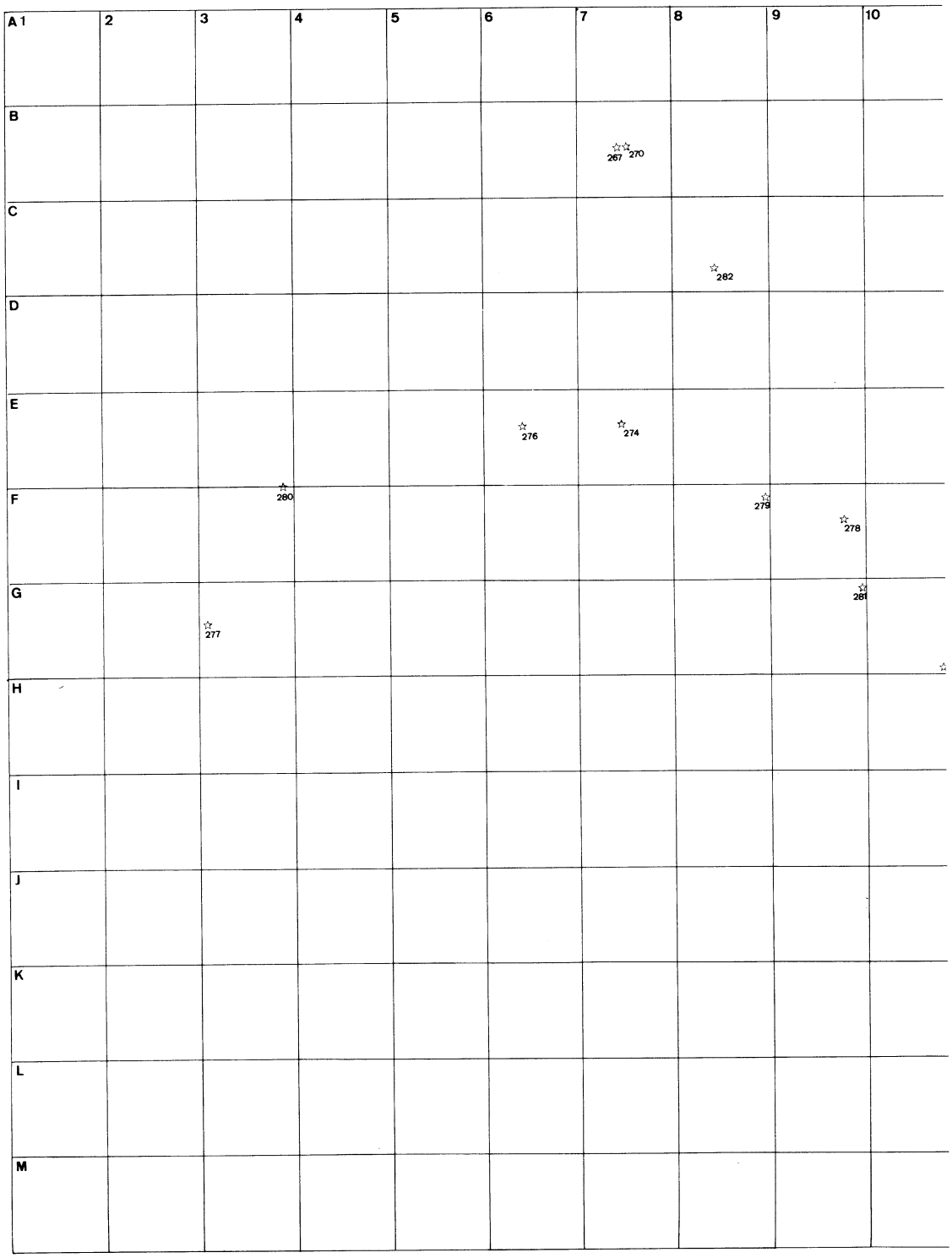
ブランティング・チップの存在は，後述する“接合資料”の操作時点でその存在が確認されたもので，該当する資料を取り扱っている。確認したブランティング・チップの石材は，硬質頁岩（420 ～437 ）とシルト質頁岩（438 ）である。なお，これらの石材は剥片尖頭器や大型のナイフ形石器に多用されていることから，これらの石器に関するチップと解される。

接合資料494-1 ・494-2 を参考にすると，以下のことが指摘できる。ブランティング・チップの①打面は素材剥片及び製作石器の腹面（主要剥離面）に相当する。②背面に残る複数の剥離面は先行した整形剥離面と判断できる。③底面（多くの資料で平坦面を成している）は，素材剥片及び製作石器の背面の平坦面（剥離面）に該当する。

422 は打面・底面共に平坦面で，打面は単剥離打面，底面はポジティブな面で，お互い平行関係にある。421 も422 と同一の特徴を持っているが，底面が傾斜する（背面を正面として底面が右に傾斜）ことから目的石器の先端部に近い部分に相当する資料と判断される。これと同様な資料とし



第35図　小牧３Ａ遺跡・スクレイパー１

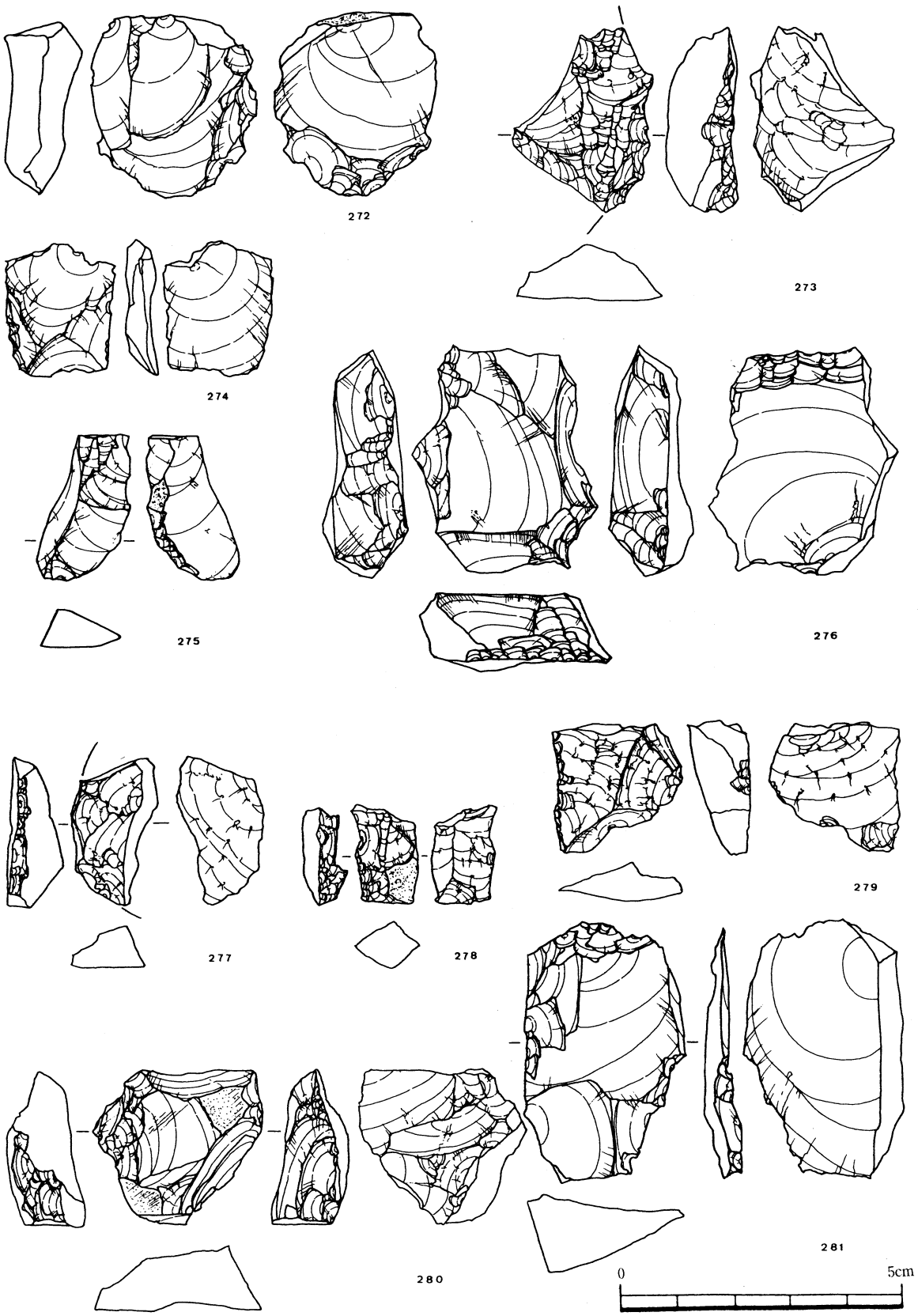


第36図　小牧３Ａ遺跡・旧石器時代（スクレイパー出土分布図）

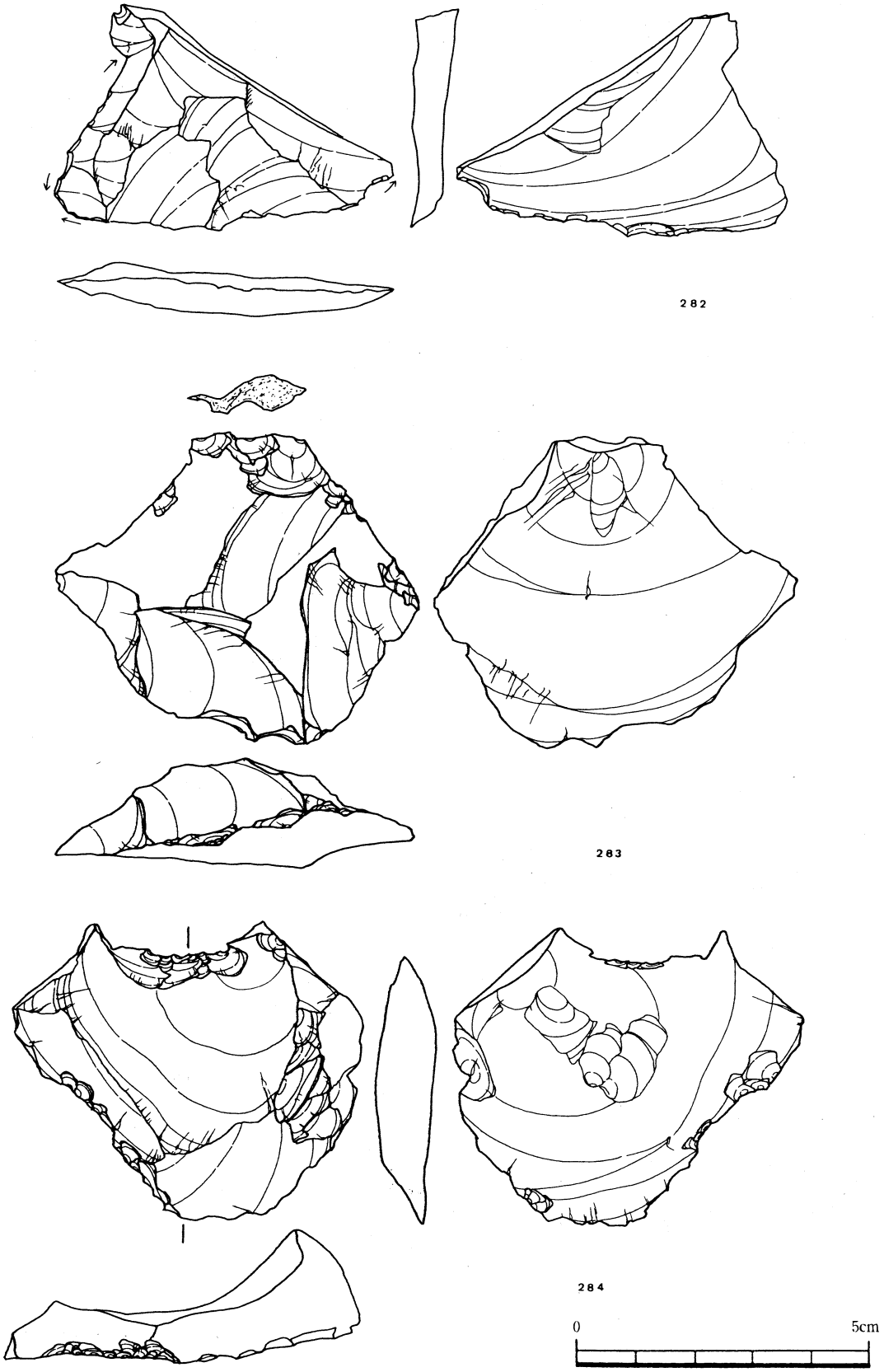
	11	12	13	14	15	16	17
		☆284					
		☆275 ☆263	☆269				
		☆273	☆272				
268							

18	19	20	21	22

☆スクレイパー



第37図　小牧３Ａ遺跡・スクレイパー２



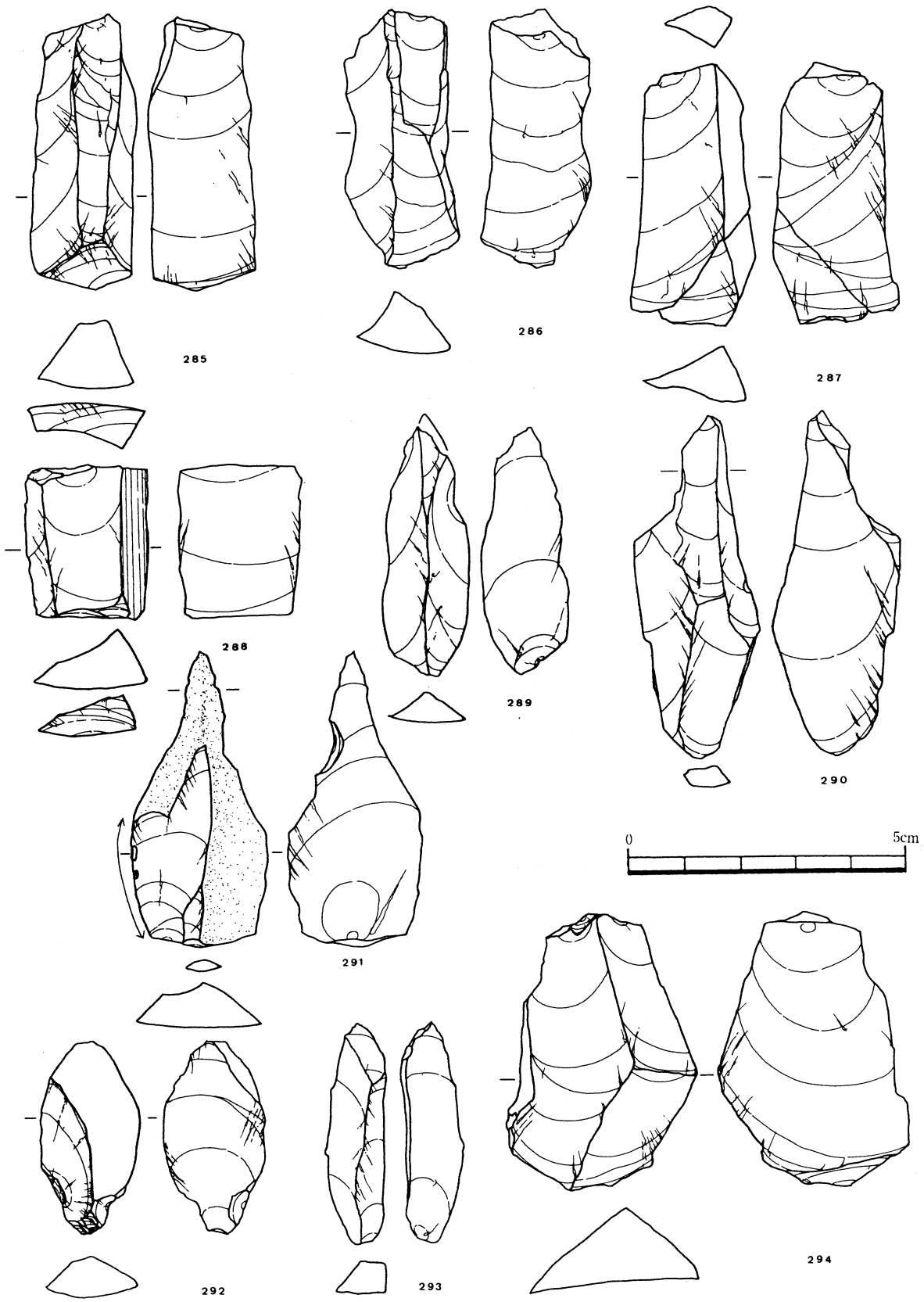
第38図　小牧３Ａ遺跡・スクレイパー３

表10　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（スクレイパー）

挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
36	267	スクレイパー	2·7	3·3	B-7		鉄石英(赤色)	1/1	不定形剥片使用。剥片の下縁部に裏面から刃部形成。裏面右側縁部の剥離は不明。
	268	スクレイパー	2·9	3·5	G-10	7432	鉄石英(赤色)	1/1	不定形剥片使用。剥片の下縁部に裏面から刃部形成。先行する剥離は求心状の剥離技術。打面残置。
	269	スクレイパー	1·2	3·4	C-13	3073	石英質(瑪瑙質・濃紫色)	1/1	左側縁部は破損。下縁部と右側縁部に裏面から急角度の刃部形成。
	270	スクレイパー	4·7	4·6	B-7		鉄石英(赤色)	1/1	分厚い剥片使用。打点部を含むほぼ全周に裏面からの刃部形成。いづれも急角度。
	271	スクレイパー	9·3	4·5		一括	変性岩	1/1	分厚い縦長剥片使用。刃部形成は下縁部と弯曲した右側縁部に集中。いづれも急角度。単面打面。
37	272	スクレイパー	3·3	2·9	G-13	7517	石英質	1/1	厚手の不定形剥片使用。剥片の裏面に表面から刃部形成。単面打面。打面残置。
	273	スクレイパー	3·3	2·5	G-12	5437	黒曜石(三船産)	1/1	右側縁部のみ。裏面から急角度の刃部形成。
	247	スクレイパー	2·3	2·0	E-7	5726	鉄石英(赤色)	1/1	左側縁部に刃部。素材剥片は求心状の剥離技術。
	275	スクレイパー	2·6	1·6	C-12	3153	石英質(乳白色)	1/1	剥片の裏面に刃部形成。単面打面。打面残置。
	276	スクレイパー	4·0	3·4	E-6	8574	石英(瑪瑙質・濃茶色)	1/1	厚手の不定形剥片使用。下縁部から右側縁部の刃部形成は裏面から。頂部の刃部形成は表面から。
	277	スクレイパー(使用痕?)	2·6	1·3	G-3	6985	黒曜石(三船産)	1/1	横長剥片使用。左側縁部に細かい刃部。
	278	スクレイパー(使用痕?)	1·8	1·2	F-9	5388	黒曜石(三船産)	1/1	左側縁部に細かい刃部。
	279	スクレイパー(使用痕?)	2·3	2·2	F-8	7320	黒曜石(三船産)	1/1	左右側縁部に細かい刃部。
	280	スクレイパー	2·8	3·1	F-3	8568		1/1	左右側縁部の刃部形成は裏面から。
	281	スクレイパー	4·7	2·9	G-9	6778	シルト質頁岩(灰色)	1/1	厚手の不定形剥片使用。右下縁部と頂部に刃部形成。単面打面。打面残置。
38	282	スクレイパー(使用痕?)	3·8	5·8	C-8	325	安山岩(灰色)	1/1	偏平な剥片の下縁部と左側縁部に刃こぼれ。
	283	スクレイパー	5·4	6·1	C-12	4064	シルト質頁岩(灰色)	1/1	求心状に剥離された不定形剥片使用。刃部は下縁部に裏面から形成。単面打面。打面残置。
	284	スクレイパー	5·1	6·0	B-12	5991	石英質(瑪瑙質・濃茶色)	1/1	求心状に剥離された不定形剥片使用。刃部は下縁部と左側縁部に裏面から形成。調整打面。打面残置。

表11　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（軟質シルト質頁岩剥片）

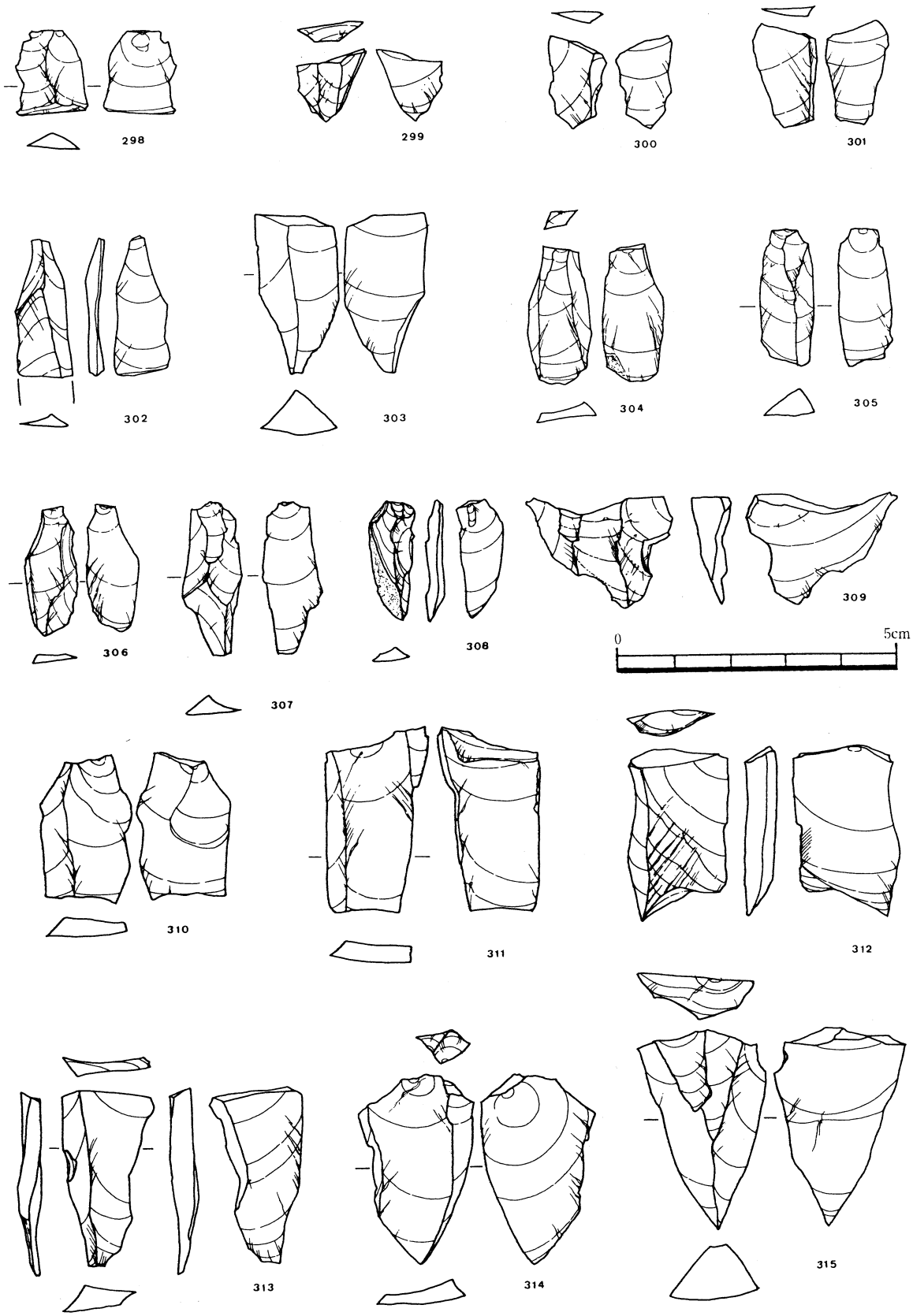
挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
39	285	剥片	4·9	1·9	C-10	3305	軟質シルト質頁岩(風化)	1/1	厚手の縦長剥片。単面打面。剥片剥離は同一方向。
	286	剥片	4·8	2·0	C-9	6908	シルト質頁岩(灰褐色)	1/1	厚手の縦長剥片。剥片剥離は同一方向。断面三角形。
	287	剥片	4·8	2·0	E-12	3864	軟質シルト質頁岩(風化)	1/1	厚手の縦長剥片。単面打面。剥片剥離は同一方向
	288	剥片	2·8	2·3	E-10	5727	軟質シルト質頁岩(風化)	1/1	厚手の縦長剥片。折断剥片中間部。右側縁の剥離不明。
	289	剥片	4·4	1·6			軟質シルト質頁岩(風化)	1/1	縦長剥片。剥片剥離は打面転移。
	290	剥片	6·2	2·2	G-12	7497	軟質シルト質頁岩(風化)	1/1	縦長剥片。剥片剥離は同一方向。
	291	剥片	5·5	2·5	D-8	3555	軟質シルト質頁岩(風化)	1/1	縦長剥片。剥片剥離は同一方向。単面打面。
	292	剥片	3·5	1·7	F-9	6092	軟質シルト質頁岩(風化)	1/1	不定形剥片。右側縁の剥離不明。
	293	剥片	4·1	1·1	G-12	7478	軟質シルト質頁岩(風化)	1/1	縦長剥片。剥片剥離は同一方向。断面三角形。
	294	剥片	5·0	3·3	F-7	6107	軟質シルト質頁岩(風化)	1/1	不定形剥片。剥片剥離は同一方向。断面三角形。
40	295	剥片	5·6	3·3	F-9	6851	シルト質頁岩(灰褐色)	1/1	不定形剥片or作業面調整剥片。剥片剥離は同一方向。単面打面。
	296	剥片	3·7	3·3	D-8	7397	シルト質頁岩(灰黒色)	1/1	折断剥片の頭部。調整打面。
	297	剥片	9·8	3·7	D-11	3221	軟質シルト質頁岩(風化)	1/1	不定形剥片or作業面調整剥片。剥片剥離は同一方向。単面打面。



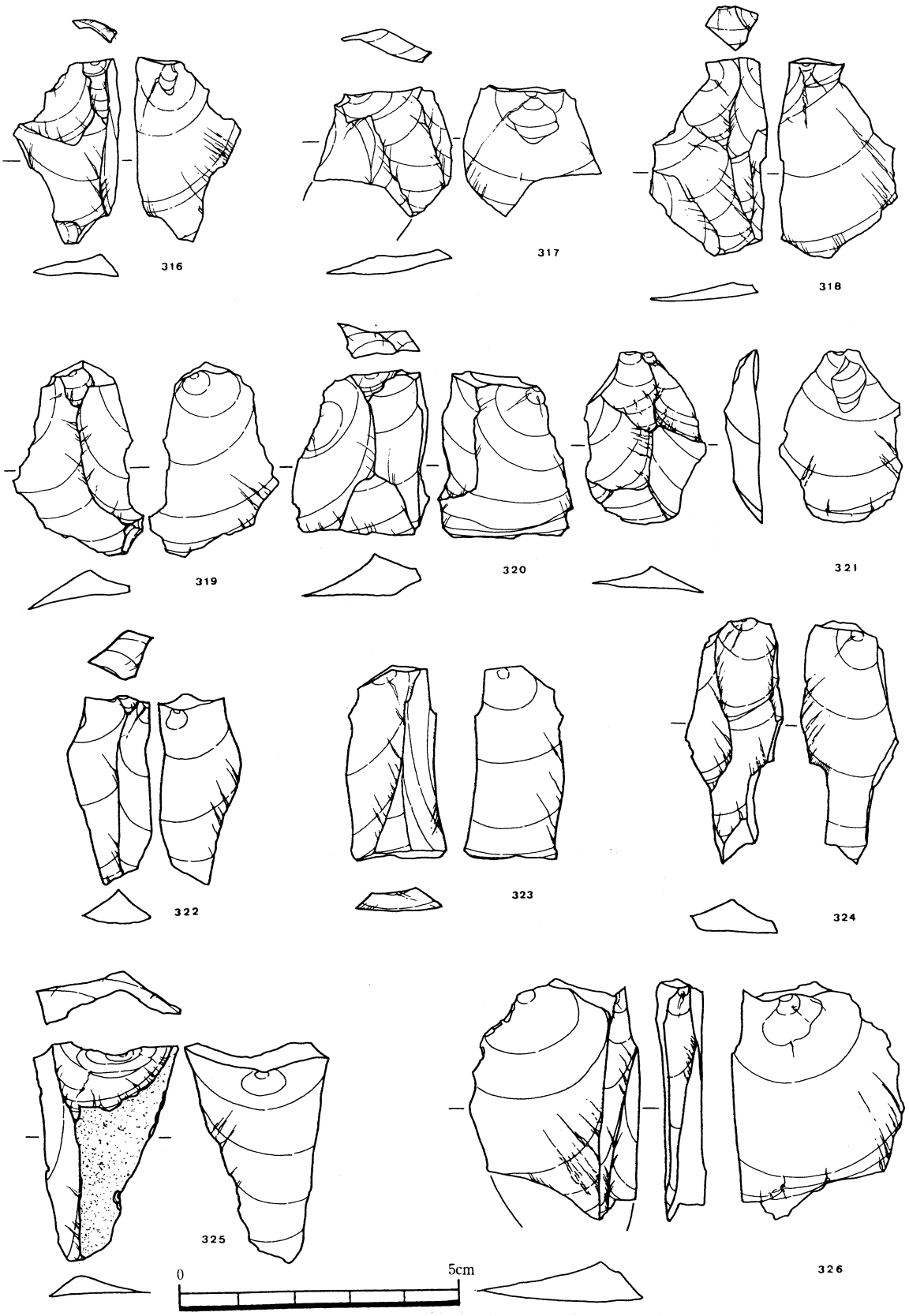
第39図　小牧３Ａ遺跡・剥片（軟質シルト質頁岩）１



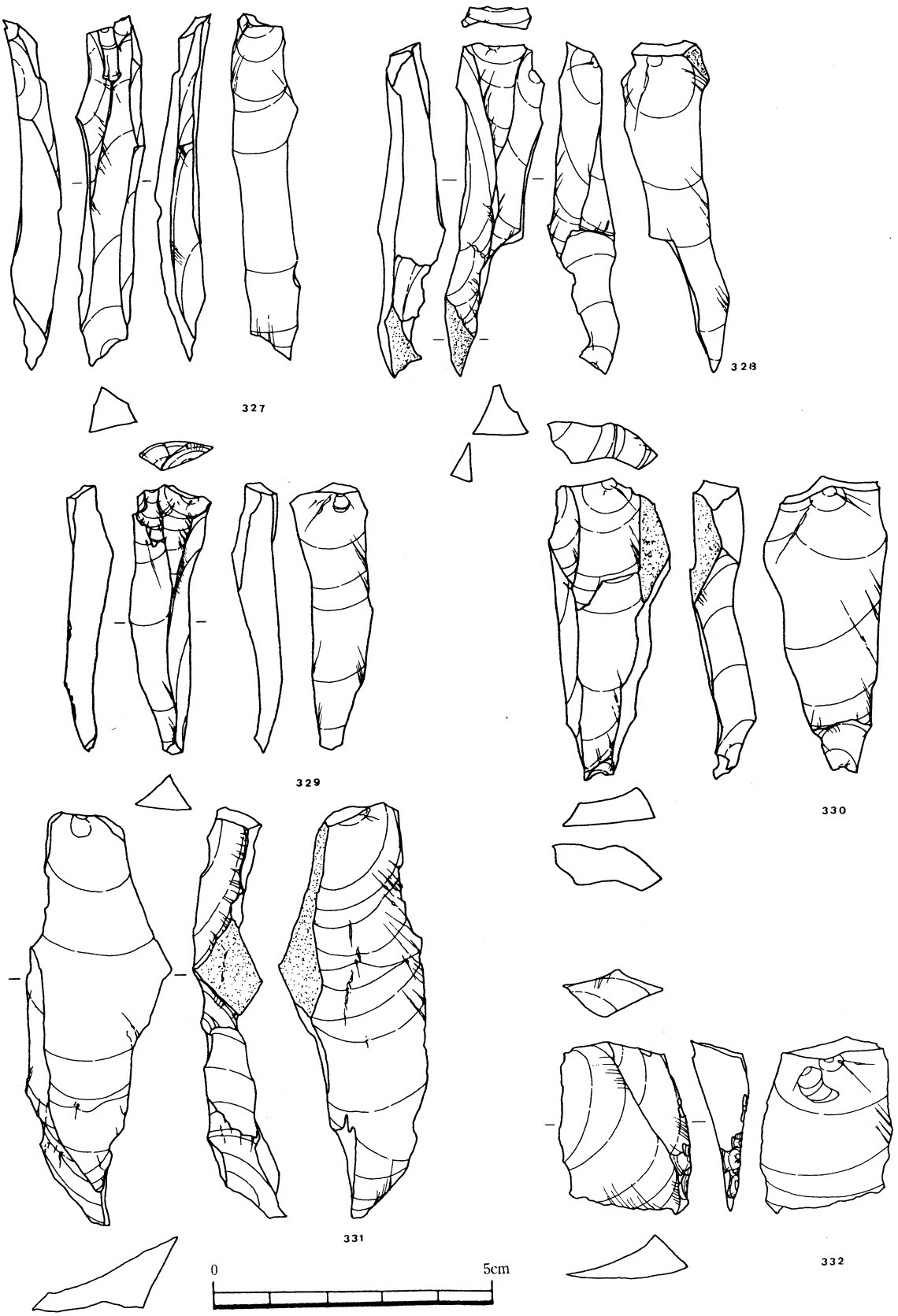
第40図　小牧３Ａ遺跡・剥片（軟質シルト質頁岩）２



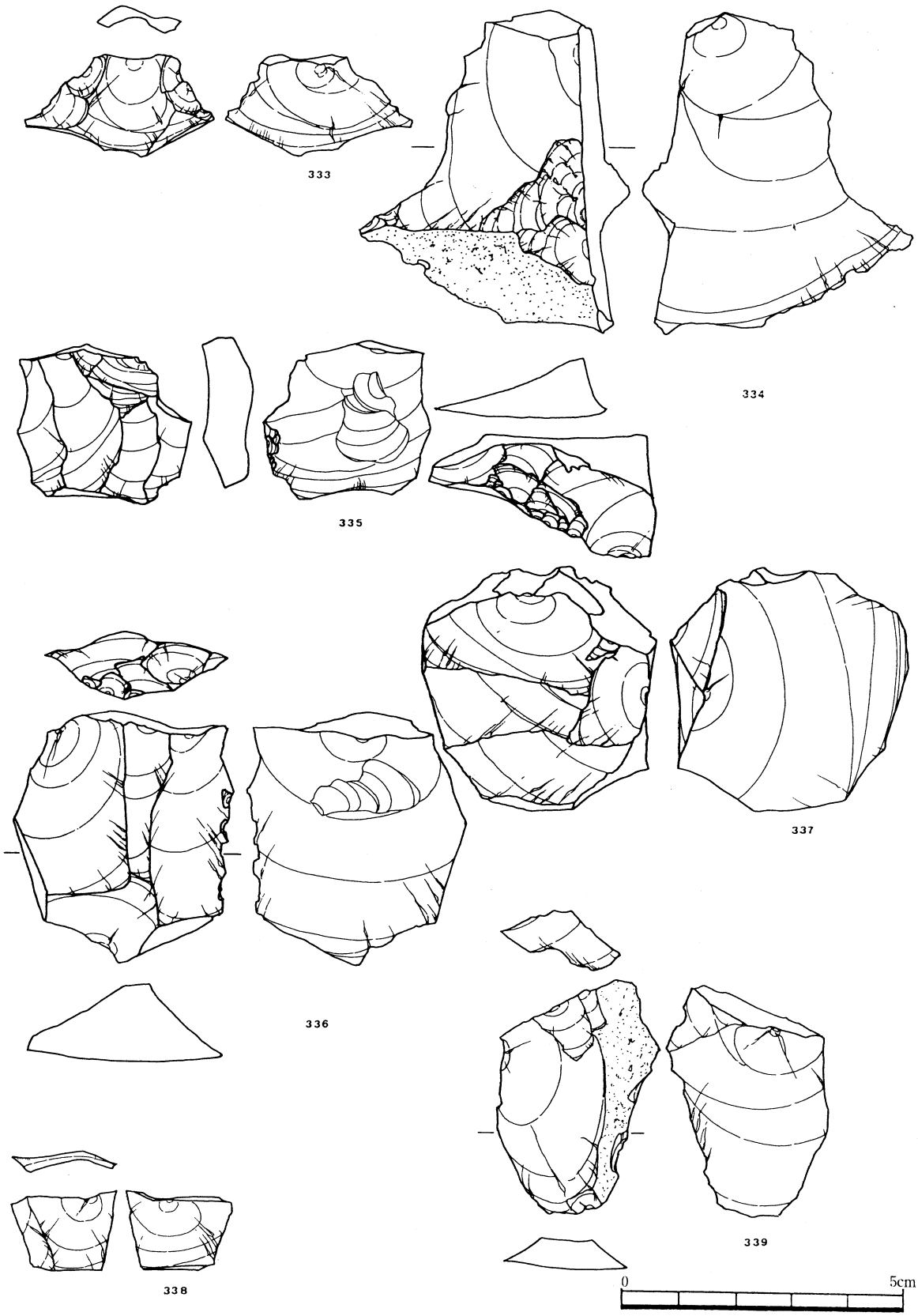
第41図　小牧３Ａ遺跡・剥片（硬質頁岩）１



第42図　小牧３Ａ遺跡・剥片（硬質頁岩）２



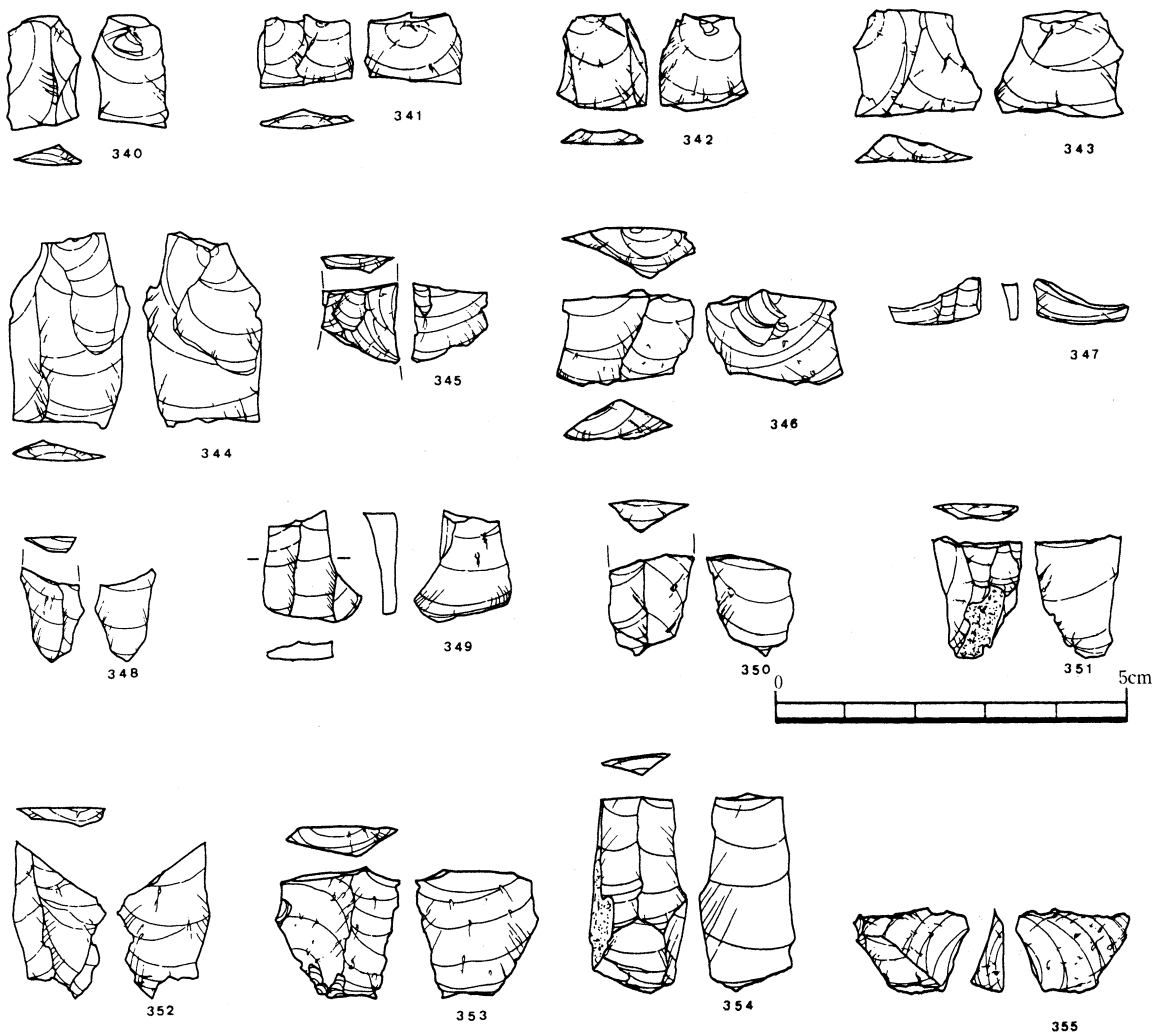
第43図　小牧３Ａ遺跡・剥片（硬質頁岩）３



第44図　小牧３Ａ遺跡・剥片（硬質頁岩）４

表12　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（硬質頁岩剥片）

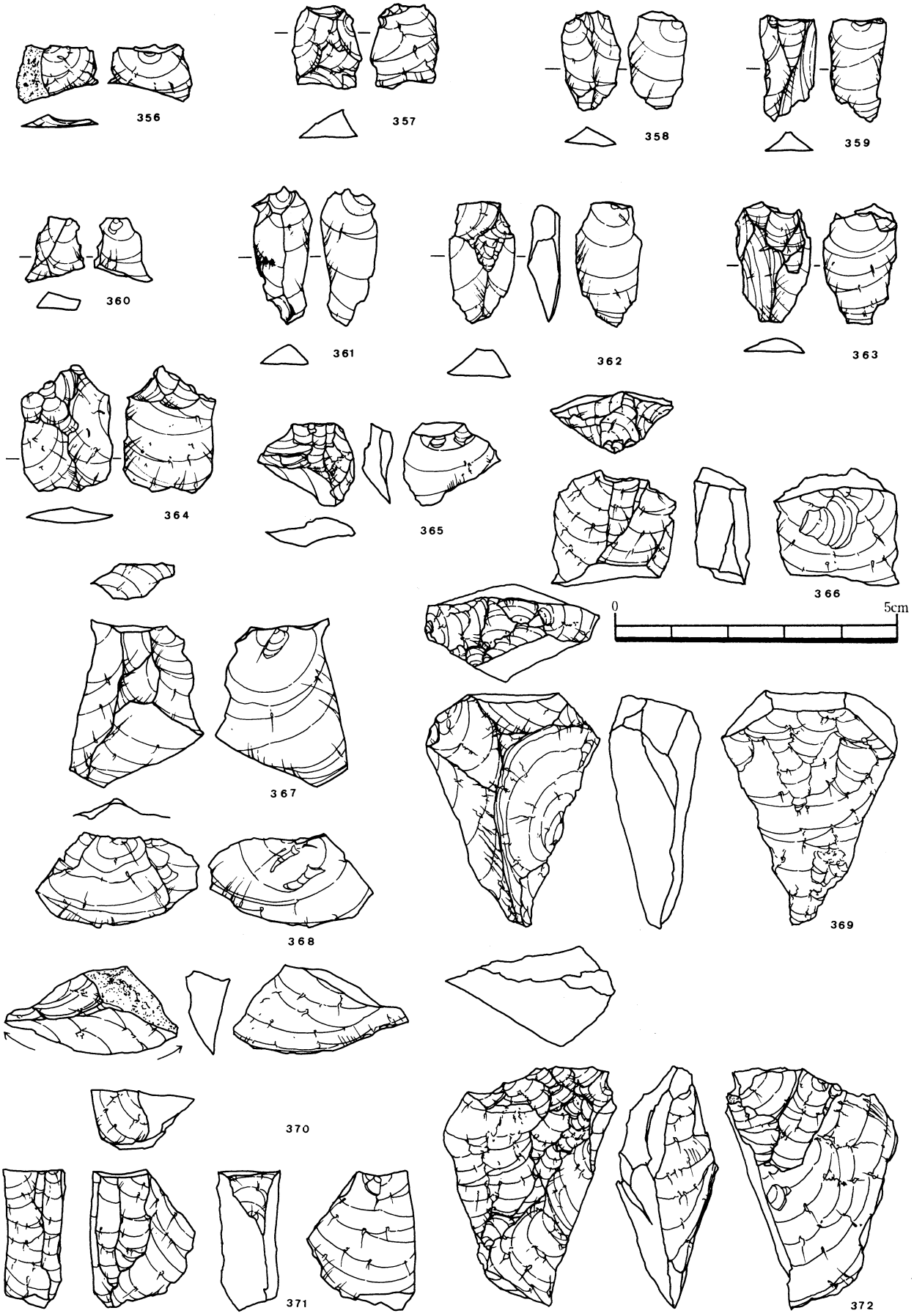
挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
41	298	剥片	1·5	1·1	H-11	8250	硬質頁岩（灰黒色・白線）	1/1	下縁部に先行する平坦な剥離面が残ることから、ブランティングチップの可能性あり。単設打面。
	299	剥片	1·1	1·2	D-11	3218	硬質頁岩（灰黒色・白線）	1/1	折断剥片の先端部。
	300	剥片	1·6	1·1	F-4	6316	硬質頁岩（灰黒色）	1/1	折断剥片の先端部。
	301	剥片	1·7	1·1	E-5	6259	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	折断剥片の中間部。
	302	剥片	2·6	0·9	G-4	7049	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	折断剥片の先端部。
	303	剥片	2·9	1·4	F-4	6353	頁岩（灰色）	1/1	折断剥片の先端部。稜の高い断面三角形。
	304	剥片	2·5	1·0	I-2	8583	硬質頁岩（灰色・白線）	1/1	小型の縦長剥片。単設打面。剥片剥離は同一方向。
	305	剥片	2·4	0·9	G-12	7486	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	小型の縦長剥片。単設打面。剥片剥離は同一方向。断面三角形。
	306	剥片	2·2	0·8	H-3	7038	硬質頁岩（灰色・白線）	1/1	小型の縦長剥片。偏平薄で。剥片剥離は同一方向。
	307	剥片	2·8	1·2	F-9	6855	硬質頁岩（灰色・白斑）	1/1	小型の縦長剥片。剥片剥離は同一方向。
	308	剥片	2·3	0·9	D-8	3548	硬質頁岩（灰色・白線）	1/1	調整剥片の可能性高い。光沢のある良質の頁岩。
	309	剥片	1·5	2·5	E-10	5297	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	調整剥片の可能性高い。
	310	剥片	2·7	1·6	E-11	5341	硬質頁岩（灰色・白線）	1/1	折断剥片の頂部。光沢のある良質の頁岩。
	311	剥片	3·3	1·9	I-10	8290	硬質頁岩（灰色・白線）	1/1	折断剥片の先端部。光沢のある良質の頁岩。
	312	剥片	3·0	1·8	D-10	5209	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	折断剥片の先端部。
	313	剥片	3·2	1·7	G-10	7414	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	折断剥片の先端部。
	314	剥片	3·4	2·1	F-6	5889	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	不定形剥片。剥片剥離は同一方向。
	315	剥片	3·7	2·3	F-9	5889	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	折断剥片の先端部。
42	316	剥片	3·3	1·9	D-8	5005	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	不定形剥片。剥片剥離は同一方向。単設打面。
	317	剥片	2·3	2·2	H-11	8253	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	不定形剥片。先端部は破損。
	318	剥片	3·6	1·5	F-9	6854	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	不定形剥片。剥片剥離は同一方向
	319	剥片	3·5	2·1	G-9	5537	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	不定形剥片。剥片剥離は同一方向。
	320	剥片	2·9	2·5	F-9	5520	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	不定形剥片。剥片剥離は同一方向。
	321	剥片	3·2	2·0	C-11	6706	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	不定形剥片。
	322	剥片	3·5	1·4	G-1	6957	硬質頁岩（灰色・白線）	1/1	縦長剥片。断面形三角形。単設打面。
	323	剥片	3·6	1·7	J-13	7630	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	折断剥片の頂部。
	324	剥片	4·5	1·6	F-3	8567	硬質頁岩（灰色・白斑）	1/1	縦長剥片。断面形台形。
	325	剥片	4·0	2·5	I-3	7695	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	不定形剥片。単設打面。
	326	使用痕のある剥片	4·2	3·1	G-11	7441	硬質頁岩（灰色・白線）	1/1	折断剥片の先端部。光沢のある良質の頁岩。目的剥片。左側縁上部に刃こぼれ痕。
43	327	剥片	6·1	1·2	G-11	5429	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	細身の縦長剥片。打面転移の認められる剥片剥離。目的剥片ではなく作業面調整剥片の可能性が高い。
	328	剥片	6·0	1·5	F-9	5511	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	細身で稜の高い縦長剥片。単設打面。目的剥片ではなく作業面調整剥片の可能性が高い。
	329	剥片	5·0	1·3	F-9	6846	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	細身で稜（断面三角形）の高い縦長剥片。打面転移の認められる剥片剥離。
	330	剥片	5·4	2·1	H-11	7453	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	断面台形の縦長剥片。右側縁部の剥離は下端部から。
	331	剥片	7·6	2·7	G-8	8440	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	右側縁部の剥離は下端部から。
	332	使用痕のある剥片	3·0	2·4	D-7	5619	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	単設打面。右側縁部に刃こぼれ痕。
44	333	剥片	1·8	3·4	H-7	8523	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	不定形横長剥片。単設打面。ブランティングチップの可能性もある。
	334	剥片	5·7	4·7	C-7	7670	硬質頁岩（灰色・白線）	1/1	光沢のある良質の頁岩。
	335	剥片	2·8	3·1	C-10	6902		1/1	右側縁部に刃こぼれ痕。
	336	使用痕のある剥片	4·6	3·7	G-2	6981	硬質頁岩（灰色・白線）	1/1	打面調整。稜の高い剥片。右側縁部に刃こぼれ痕。
	337	剥片	4·4	4·2	C-11	6698	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	打面転移の剥片剥離。
	338	剥片	1·4	1·8	J-7	8178	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	折断剥片の頂部。単設打面。
	339	使用痕のある剥片	4·0	2·8	I-12	7607	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	右側縁部に刃こぼれ痕。単設打面。



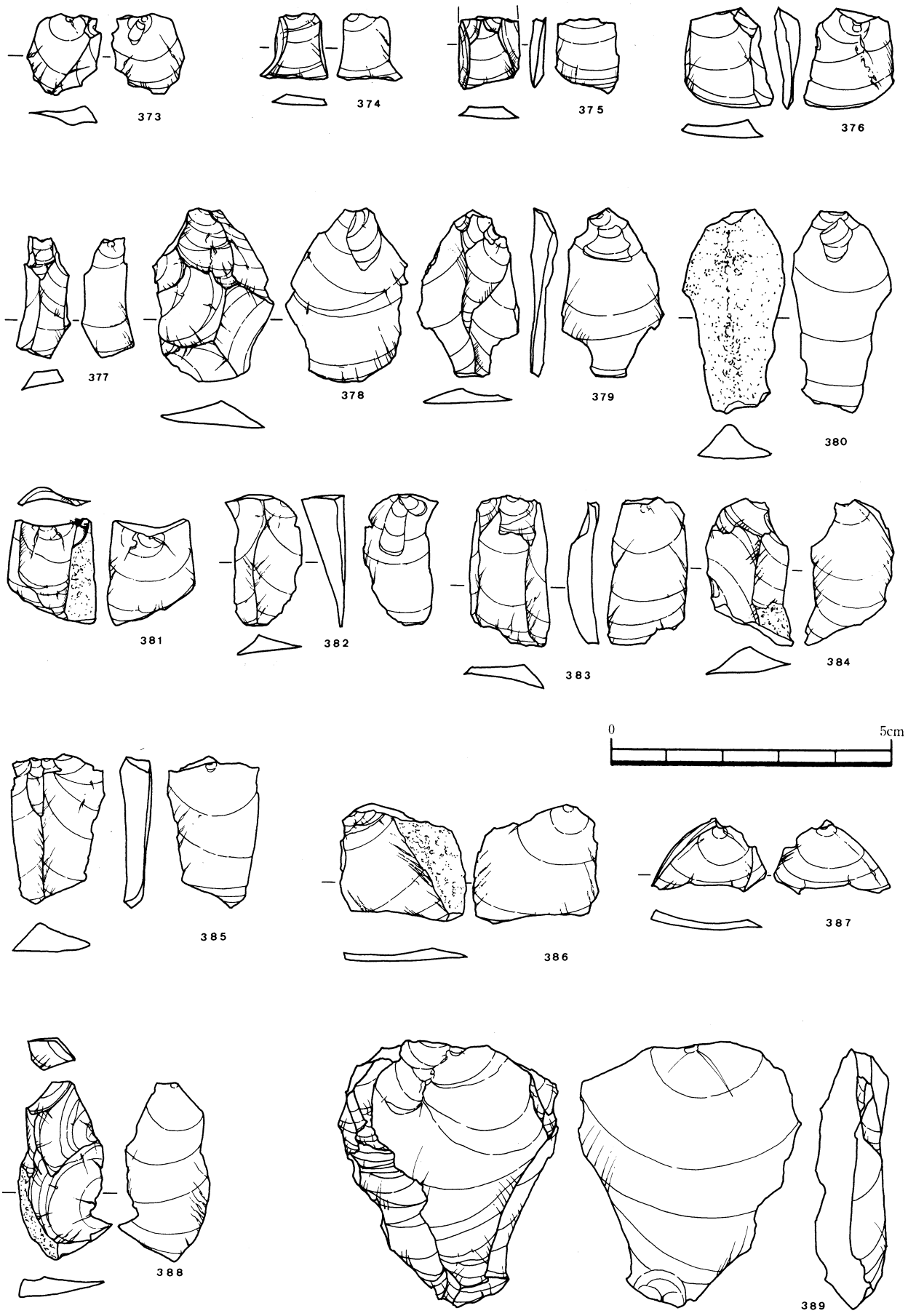
第45図　小牧３Ａ遺跡・剥片（折断剥片）

表13　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（折断剥片）

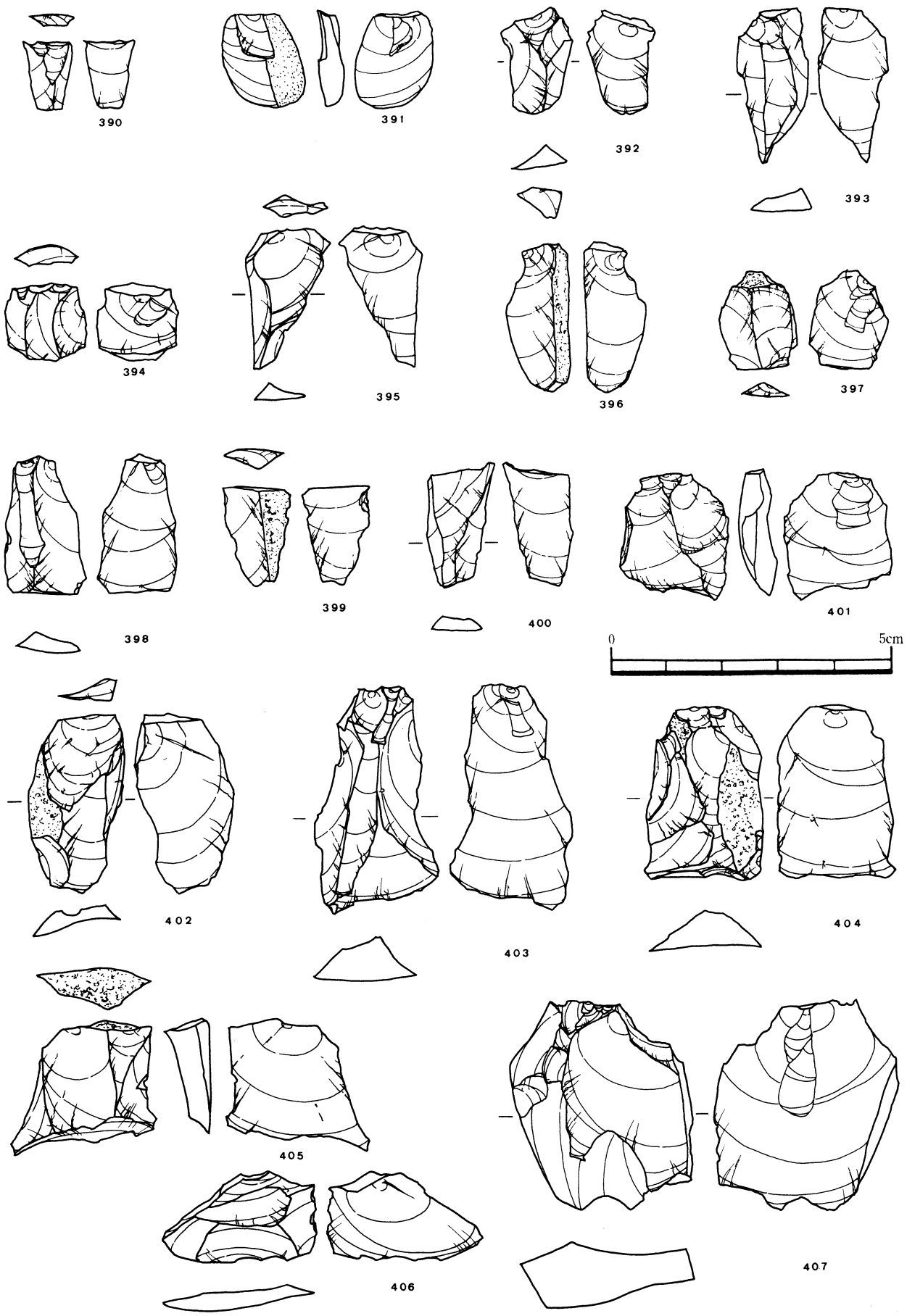
挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
45	340	剥片（折断剥片）	1·6	1·1	D-10	3465	硬質頁岩（灰褐色）	1/1	折断剥片の頂部。単設打面。
	341	剥片（折断剥片）	1·0	1·4	H-12	7511	黒曜石（透明度高い）	1/1	折断剥片の頂部。透明度の高い良質の素材で、産地不明。県外産。
	342	剥片（折断剥片）	1·4	1·3	G-4	7057	黒曜石（上牛鼻産）	1/1	折断剥片の頂部。台形石器の素材に適している。
	343	剥片（折断剥片）	1·5	1·7	C-8	332	変性岩（石英質）	1/1	折断剥片の頂部。台形石器の素材に適している。単設打面。
	344							1/1	下縁部は背面に相当し、単設の打面は裏面の平坦面に対
	345	剥片（折断剥片）	1·2	1·1	E-8	7314	黒曜石（三船産）	1/1	折断剥片の中間部。
	346	剥片（折断剥片）	1·3	1·9	G-10	7401	黒曜石（透明度高い）	1/1	折断剥片の中間部。
	347	剥片	0·6	1·9	E-6	8572		1/1	折断剥片の先端部。
	348	剥片（折断・細石刃?）	1·2	0·8	H-11	8474	黒曜石（三船産）	1/1	折断剥片の先端部。細石刃の可能性もある。
	349	剥片（折断剥片）	1·6	1·4	B-9	8357		1/1	折断剥片の先端部。
	350	剥片（折断剥片）	0·9	0·6	I-13	7600	黒曜石（三船産）	1/1	折断剥片の先端部。
	351	剥片（折断剥片）	1·7	1·3	G-5	6498	黒曜石（上牛鼻産）	1/1	折断剥片の先端部。一部に礫皮面残す。
	352	剥片（折断剥片）	2·0	1·4	J-3	7844	黒曜石（透明度高い）	1/1	折断剥片の先端部。斜めに折断。
	353	剥片（折断剥片）	1·9	1·7	I-3	7878	黒曜石	1/1	折断剥片の先端部。打面転移の見られる剥片。
	354	剥片（折断剥片）	2·8	1·4	E-10	5235	黒曜石（透明度高い）	1/1	折断剥片で頭部除去。良質の黒曜石で県外産。
	355	剥片（折断剥片）	1·2	1·6	F-5	8119	黒曜石	1/1	折断剥片の先端部。



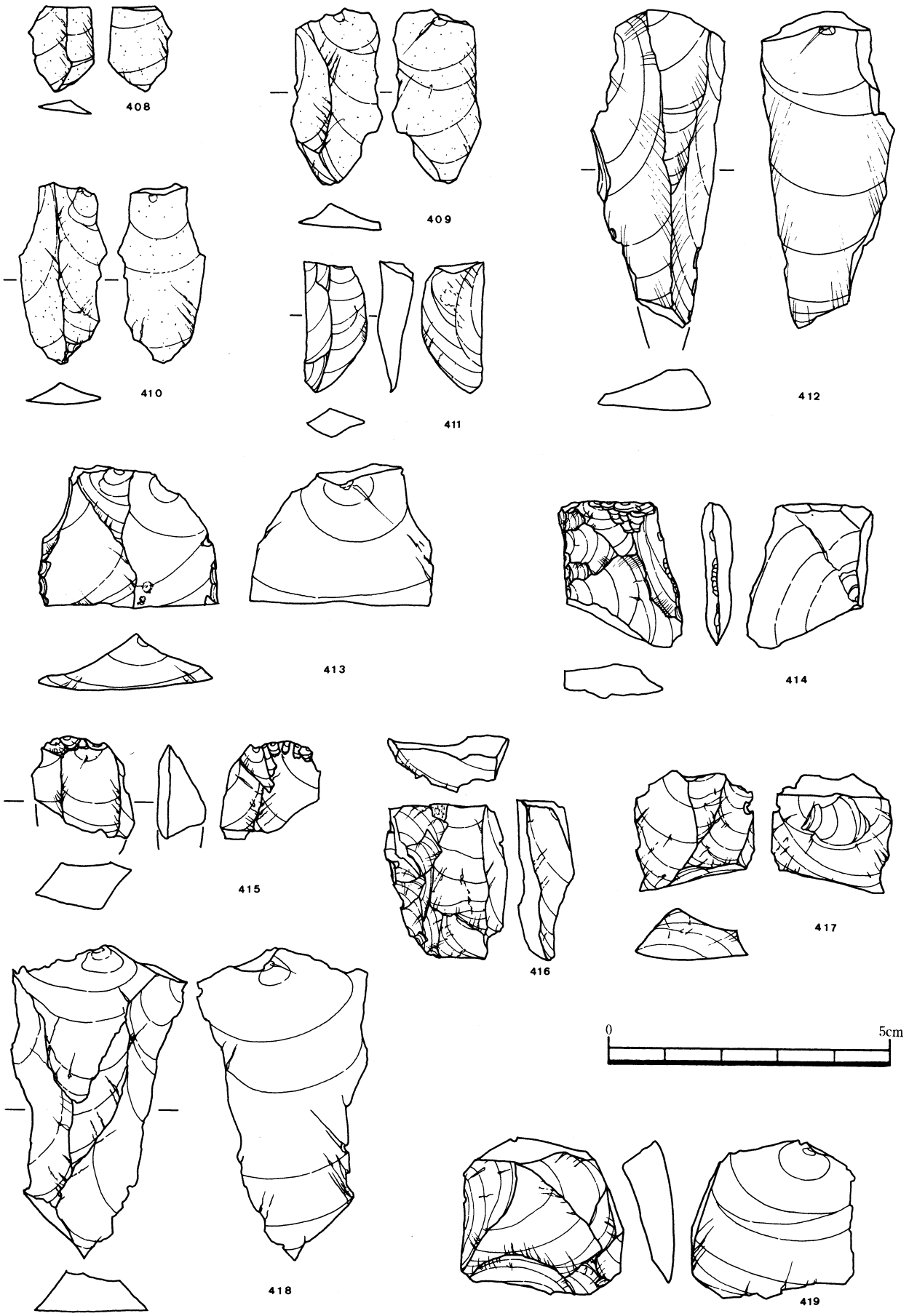
第46図　小牧３Ａ遺跡・剥片（黒曜石）



第47図　小牧３Ａ遺跡・剥片（鉄石英）



第48図　小牧３Ａ遺跡・剥片（石英・瑪瑙質）



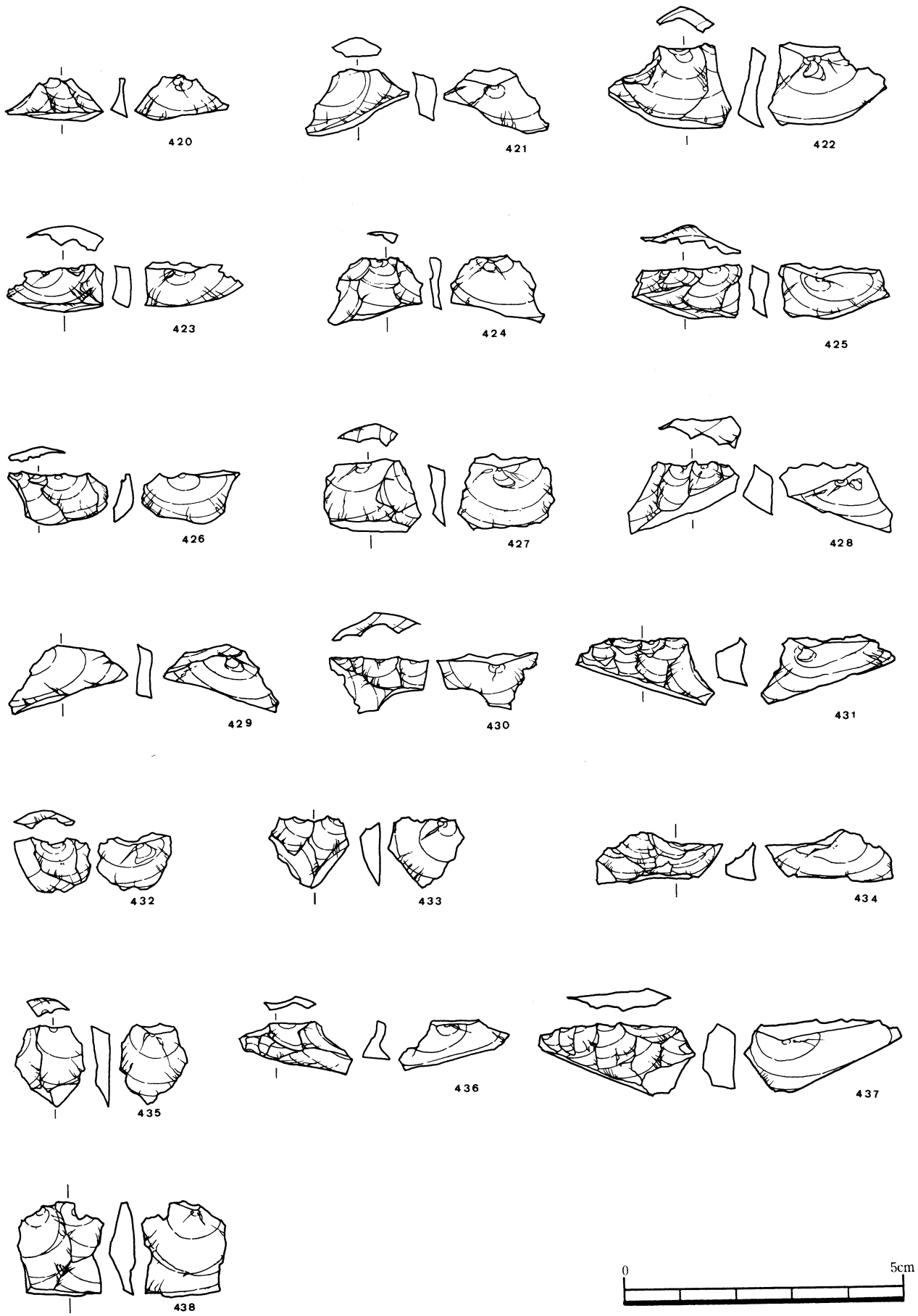
第49図　小牧３Ａ遺跡・剥片（砂岩その他）

表14　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（剥片）

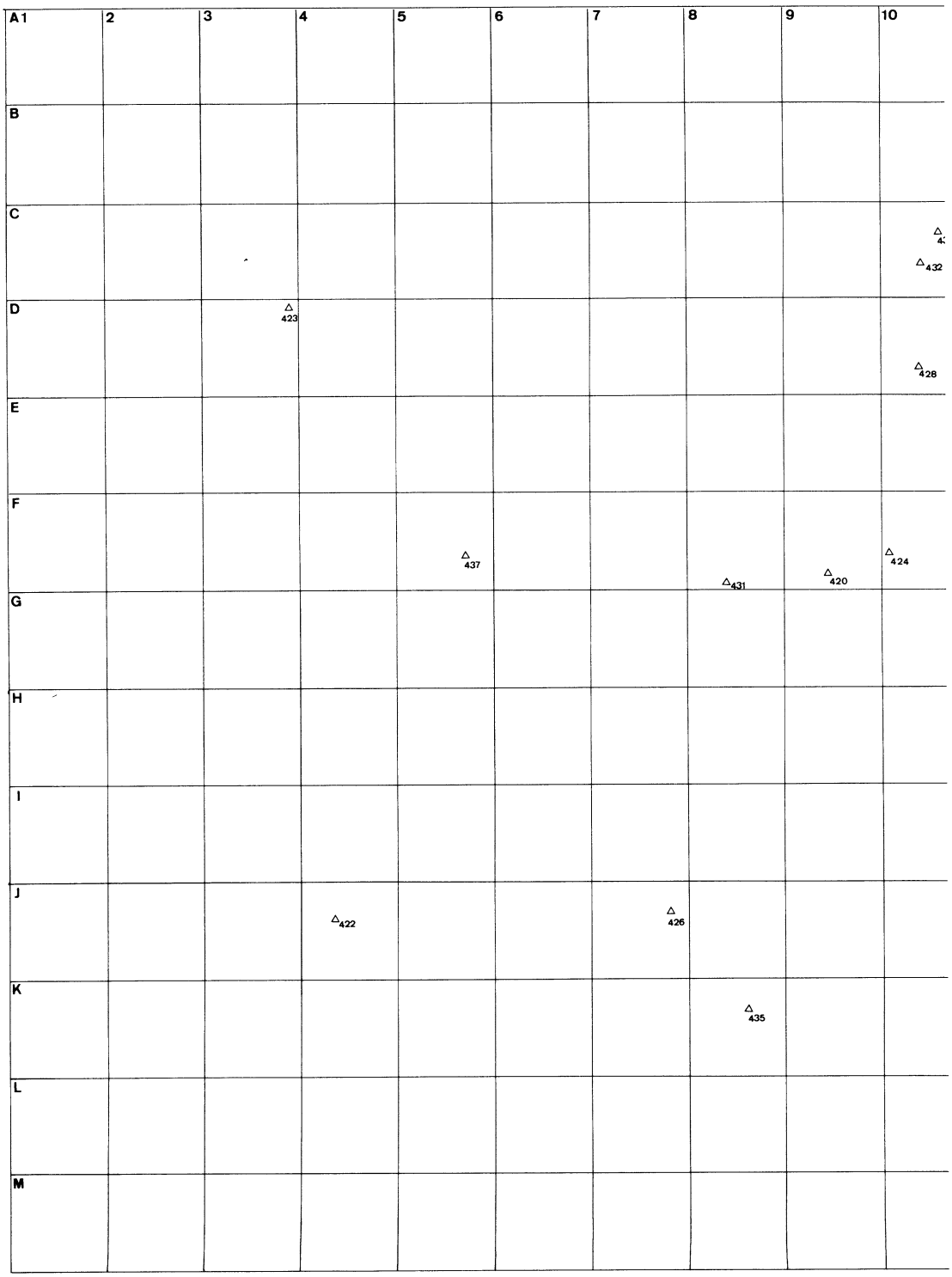
挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
	356	剥片（折断剥片）	1·0	1·5	G-3	6477	黒曜石（?産）	1/1	折断剥片の頂部。単設打面。左側縁は礫皮面。
	357	剥片	1·5	1·2	F-6	6713	黒曜石（三鉢産）	1/1	目的剥片かは不明。打面転移を認める剥片。
	358	剥片	1·8	1·1	C-10	3286	黒曜石（透明度高い）	1/1	小型の剥片。目的剥片かは不明。良質。県外産。
	359	剥片	1·9	1·0	D-8	3565	黒曜石（良質?）	1/1	不純物をほとんど含まない。
	360	剥片（折断剥片）	1·1	1·0	J-4	8019	黒曜石（三鉢産）	1/1	折断剥片の頂部。
	361	剥片	2·5	1·0	F-5	8291	黒曜石（三鉢産）	1/1	縦長の不定形剥片。目的剥片か疑問。
	362	剥片	2·2	1·2	F-13	5923	黒曜石（上牛鼻産）	1/1	縦長の不定形剥片。単設打面。
	363	剥片	2·2	1·3	F-4	6267	黒曜石（三鉢産）	1/1	縦長の不定形剥片。
46	364	剥片	2·3	1·6	I-3	7811	黒曜石（透明度高い）	1/1	不定形剥片。透明度は高い。産地不明。
	365	剥片	1·5	1·7	B-8	6019		1/1	不定形剥片。
	366	剥片（折断剥片）	2·0	2·2	G-10	8467	黒曜石（上牛鼻産）	1/1	折断剥片の頂部。厚手の断面三角形。
	367	剥片	3·0	2·3	H-2	8091	黒曜石（三鉢産）	1/1	不定形剥片。目的剥片。
	368	剥片	1·7	2·9	C-13	4040	黒曜石（三鉢産）	1/1	横長の不定形剥片。
	369	剥片	4·2	3·2	C-9	6917	黒曜石（上牛鼻産）	1/1	厚手の不定形剥片。先行する右側縁部はネガティブ面。
	370	剥片	1·6	2·9	F-8	5489	黒曜石	1/1	横長の不定形剥片。先端部に微細な刃こぼれ痕。
	371	剥片	2·5	1·1	D-6	269	黒曜石	1/1	
	372	剥片	4·3	3·0	J-3	7842	黒曜石（三鉢産）	1/1	右側縁部は分割。
	373	剥片	1·9	1·3	D-9	6092	石英（鉄石英・赤色）	1/1	調整剥片ないしはブランティングチップ。
	374	剥片	1·2	1·2	E-9	5199	石英（鉄石英・赤色）	1/1	調整剥片。
	375	剥片（折断剥片）	1·3	1·1	E-8	7299	石英（鉄石英・赤色）	1/1	折断剥片の先端部。
	376	剥片	1·8	1·5	C-9		石英（鉄石英・赤色）	1/1	不定形剥片。
	377	剥片	2·2	0·9	F-7	5750	石英（鉄石英・赤色）	1/1	小型の縦長剥片。目的剥片かどうか不明。
	378	剥片	3·2	2·1	C-11	6706	石英（鉄石英・赤色）	1/1	不定形剥片。剥片剥離は求心状に実施。
	379	剥片	3·0	1·9	C-9		石英（鉄石英・赤色）	1/1	薄手の不定形剥片。単設打面。剥片剥離は同一方向。
	380	剥片	3·6	1·8	E-10	3706	石英（鉄石英・赤色）	1/1	縦長剥片。背面は礫皮面。先端部破損。
47	381	剥片	1·9	1·6	B-7		石英（瑪瑙質・赤紫色）	1/1	不定形剥片。先端部に刃こぼれ痕。
	382	剥片	2·9	1·2	G-13	7525	石英（瑪瑙質・赤橙色）	1/1	不定形剥片。剥片剥離は同一方向。
	383	剥片	2·7	1·4	E-13	5932	石英（鉄石英・赤色）	1/1	縦長剥片。剥片剥離は同一方向。目的剥片。
	384	剥片	2·4	1·5	E-8	243	石英（瑪瑙質・赤紫色）	1/1	不定形剥片。剥片剥離は打面転移。
	385	剥片	2·7	1·7	H-13	7588	石英（瑪瑙質・赤橙色）	1/1	縦長剥片。剥片剥離は同一方向。目的剥片。
	386	剥片	2·0	2·3	E-9	3609	石英（鉄石英・赤色）	1/1	不定形剥片。
	387	剥片	1·2	1·5	B-8	8413		1/1	横長の不定形剥片。
	388	剥片	3·2	1·6	H-4	7097	石英（鉄石英・赤色）	1/1	不定形剥片。打点移動。
	389	剥片	4·7	3·9	F-4	6329	石英（鉄石英・赤色）	1/1	バイポーラによる剥片剥離。
	390	剥片	1·2	0·9	E-10	5331	石英（灰褐色）	1/1	調整剥片ないし細石刃。
	391	剥片	1·7	1·5	C-9		石英（黄褐色）	1/1	調整剥片？。
	392	剥片	1·9	1·3	I-4	7808	石英（瑪瑙質・黄橙色）	1/1	調整剥片？。
	393	剥片	2·7	1·3	E-9	5183	石英（鉄石英? ・赤色）	1/1	不定形剥片。
	394	剥片	1·4	1·5	H-3	6657	石英（白黄色）	1/1	不定形剥片ないしは調整剥片？。不明。
	395	剥片	2·5	1·4	E-9	5160	石英（瑪瑙質・赤紫色）	1/1	不定形剥片。
	396	剥片	2·7	1·1			石英（瑪瑙質・赤紫色）	1/1	不定形剥片。単設打面。
	397	剥片（折断剥片）	1·8	1·4	D-10	3466	石英（瑪瑙質・赤紫色）	1/1	折断剥片の頂部。打面転移。
48	398	剥片（折断剥片）	2·5	1·5	F-12	8240	緑泥岩（熱変性）	1/1	折断剥片の頂部。剥片剥離は同一方向。
	399	剥片（折断剥片）	1·8	1·2	G-13	7527	砂岩（黄色）	1/1	折断剥片の先端部。
	400	剥片（折断剥片）	2·1	1·2	I-3	6686	石英（乳白色）	1/1	折断剥片の先端部。剥片剥離は同一方向。目的剥片。
	401	剥片	2·1	1·9	F-11	5906	石英（瑪瑙質・黄橙色）	1/1	不定形剥片。剥片剥離は同一方向。
	402	剥片	3·3	1·7	C-13	3171	石英（瑪瑙質・赤紫色）	1/1	縦長剥片。剥片剥離は同一方向。目的剥片。単設打面。
	403	剥片	3·8	2·2	D-10	5075	石英（瑪瑙質・黄橙色）	1/1	縦長剥片。剥片剥離は同一方向。目的剥片。
	404	剥片	3·1	2·1	D-11	3226	石英（鉄石英・黄橙色）	1/1	縦長剥片。目的剥片。
	405	剥片	2·2	2·5			石英（瑪瑙質・黄橙色）	1/1	不定形剥片。打面は礫皮面。
	406	剥片	1·6	2·8	F-6	5832	石英（瑪瑙質・赤紫色）	1/1	不定形剥片。
	407	剥片	3·8	3·2	E-8	5014	石英（瑪瑙質・黄橙色）	1/1	不定形剥片。

表15　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（剥片・ブランティング・チップ）

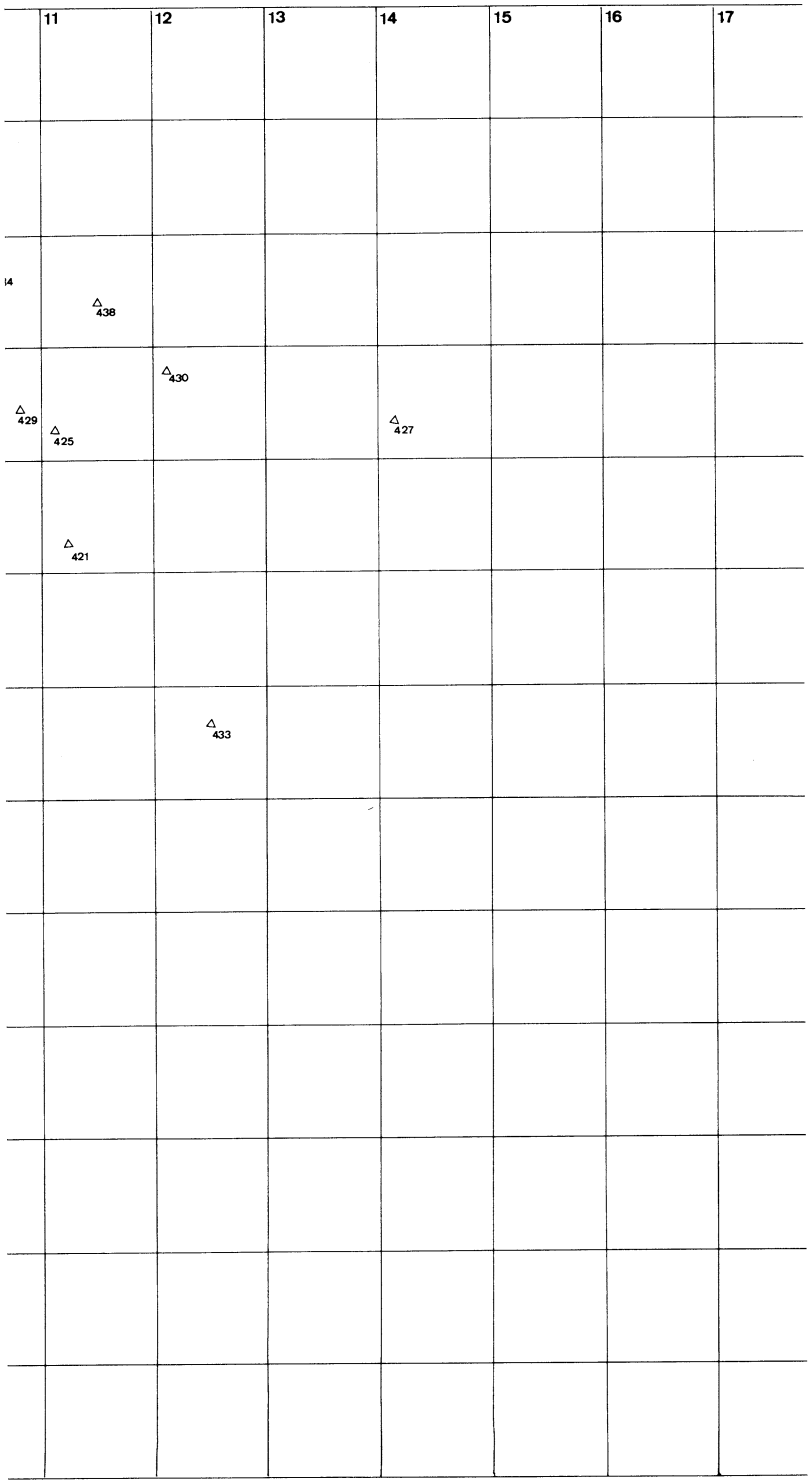
挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
49	408	剥片（折断剥片）	1・5	1・2	J-4	7164	砂岩（黄褐色）	1/1	折断剥片の先端部。
	409	剥片	3・1	1・7	G-5	6523	砂岩（黄褐色）	1/1	縦長剥片。目的剥片。剥片剥離は同一方向。
	410	剥片	3・2	1・5	D-9	5128	砂岩（黄褐色）	1/1	縦長剥片。目的剥片。剥片剥離は同一方向。
	411	剥片	2・3	1・1	E-8	7260	砂岩（黄褐色）	1/1	不定形剥片。
	412	剥片	5・6	2・2	E-9	5312	砂岩（黄褐色）	1/1	縦長剥片。目的剥片。剥片剥離は同一方向。
	413	剥片（使用痕のある剥片）	2・5	3・2	G-11	7438	石英（珪質頁・黄褐色）	1/1	縦長剥片。折断剥片の頂部。両側縁部に刃こぼれ痕、使用痕のある剥片。折断は背面から。単設打面。
	414	加工痕のある剥片	2・5	2・1	H-2	1744	安山岩（灰色）	1/1	背面に押圧剥離による加工痕。
	415	剥片（楔形石器?）	1・7	1・7	H-11	8255		1/1	楔形石器の可能性あり。
	416	剥片（折断剥片）	2・8	2・2	C-12	5972	石英（チャート?灰色）	1/1	左側縁部に刃部形成の痕跡。
	417	剥片（折断剥片）	2・1	2・1	G-10	8467		1/1	折断剥片の頂部。
	418	剥片	5・6	3・2	E-10	5267	石英（灰黒色）	1/1	縦長剥片。目的剥片。剥片剥離は同一方向。
	419	剥片	2・7	2・9	C-9		石英（珪質頁・黄褐色）	1/1	不定形剥片。求心状の剥片剥離。
51	420	ブランティングチップ	0・8	1・8	F-9	6853	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	下縁部は先行する剥離面で、剥片尖頭器等の背面に相当
	421	ブランティングチップ	1・2	2・0	E-11	3255	硬質頁岩（灰色・白斑紋）	1/1	下縁部は先行する剥離面で背面に相当し、単設の打面は裏面の平坦面に対応。
	422	ブランティングチップ	1・5	2・2	J-4	7216	硬質頁岩（灰色・縞模様・光沢）	1/1	下縁部は背面に相当し、単設の打面は裏面の平坦面に対応。刃潰し加工は右から左へ移動。
	423	ブランティングチップ	0・9	1・8	D-3	8534	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	下縁部は背面に相当し、単設の打面は裏面の平坦面に対応。先行する２枚の刃潰し加工あり。
	424	ブランティングチップ	1・1	1・7	F-10	5404	硬質頁岩（灰色・白斑紋）	1/1	下縁部は背面に相当し、単設の打面は裏面の平坦面に対応。先行する４枚の刃潰し加工あり。
	425	ブランティングチップ	1・0	2・0	D-11	6714	硬質頁岩（灰色・白斑紋）	1/1	下縁部は背面に相当し、単設の打面は裏面の平坦面に対応。先行する４枚の刃潰し加工あり。
	426	ブランティングチップ	1・0	1・7	J-7	8182	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	単設の打面は裏面の平坦面に対応。先行する４枚の刃潰し加工あり。
	427	ブランティングチップ	1・4	1・8	D-14	4095	硬質頁岩（灰色・白斑紋）	1/1	下縁部は背面に相当し、単設の打面は裏面の平坦面に対応。先行する３枚の刃潰し加工あり。
	428	ブランティングチップ	1・2	2・0	D-10	3504	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	下縁部は背面に相当し、単設の打面は裏面の平坦面に対応。先行する４枚の刃潰し加工あり。
	429	ブランティングチップ	0・9	2・0	D-10	5208	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	下縁部は背面に相当し、単設の打面は裏面の平坦面に対応。
	430	ブランティングチップ	1・0	1・9	D-12	6036	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	下縁部は背面に相当し、単設の打面は裏面の平坦面に対応。先行する２枚の刃潰し加工あり。
	431	ブランティングチップ	1・3	2・3	F-8	5491	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	下縁部は背面に相当し、単設の打面は裏面の平坦面に対応。先行する４枚の刃潰し加工あり。
	432	ブランティングチップ	1・1	1・4	C-10	5088	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	単設の打面は裏面の平坦面に対応。先行する２枚の刃潰し加工あり。
	433	ブランティングチップ	1・4	1・5	G-12	7477	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	単設の打面は裏面の平坦面に対応。先行する４枚の刃潰し加工あり。
	434	ブランティングチップ	0・9	2・4	C-10	3294	硬質頁岩（灰色）	1/1	単設の打面は裏面の平坦面に対応。先行する３枚の刃潰し加工あり。
	435	ブランティングチップ	1・5	1・4	K-8	115	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	単設の打面は裏面の平坦面に対応。先行する２枚の刃潰し加工あり。
	436	ブランティングチップ	0・9	1・9				1/1	単設の打面は裏面の平坦面に対応。
	437	ブランティングチップ	1・4	2・7	F-5	6274	硬質頁岩（灰色）	1/1	下縁部は背面、単設の打面は裏面の平坦面に対応。
	438	ブランティングチップ	1・8	1・6	C-11	3186	硬質頁岩（灰色）	1/1	下縁部は背面、単設の打面は裏面の平坦面に対応。



第50図　小牧３Ａ遺跡・ブランティング･チップ

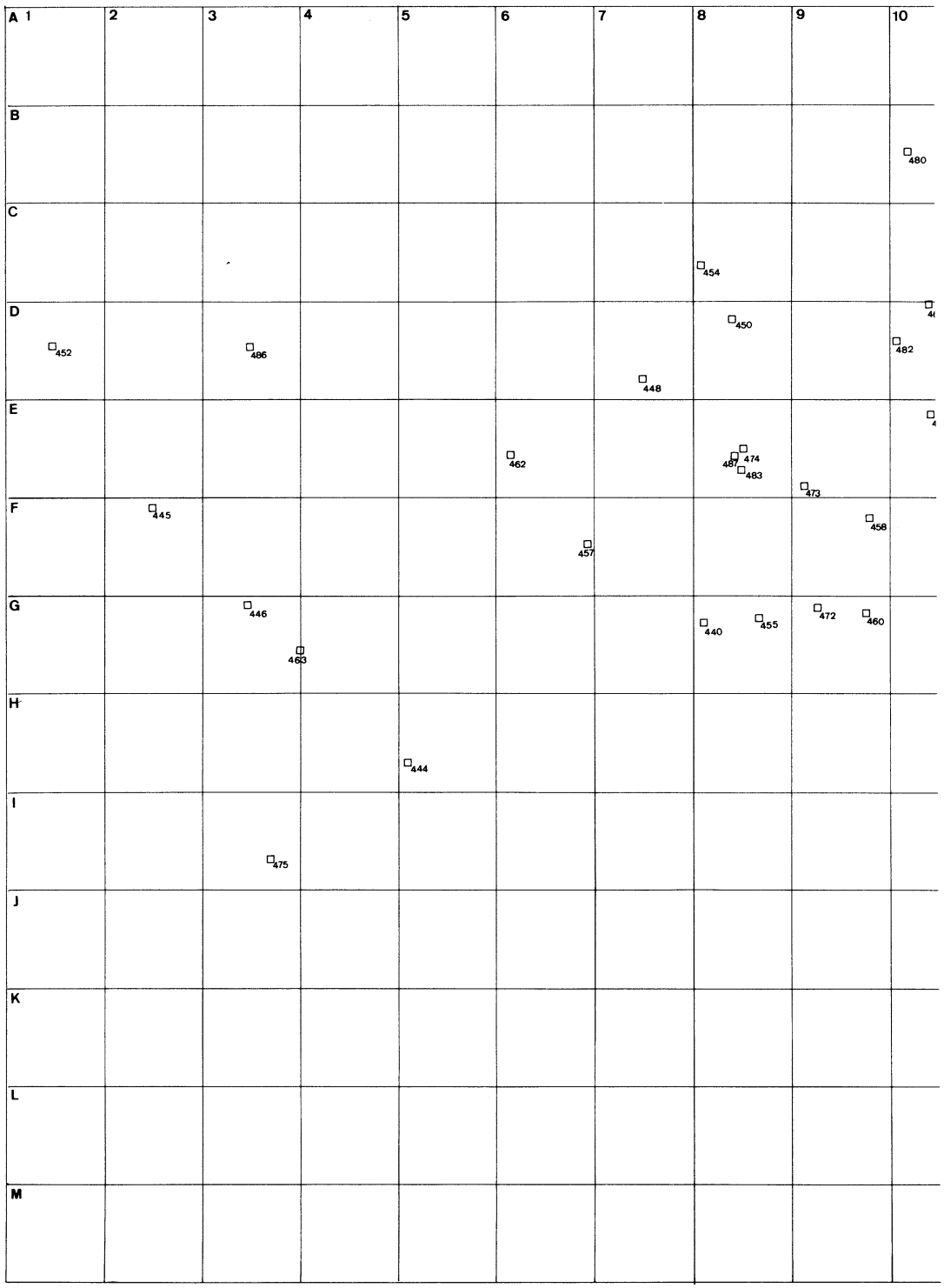


第51図　小牧３Ａ遺跡・旧石器時代（ブランティング・チップ出土分布図）

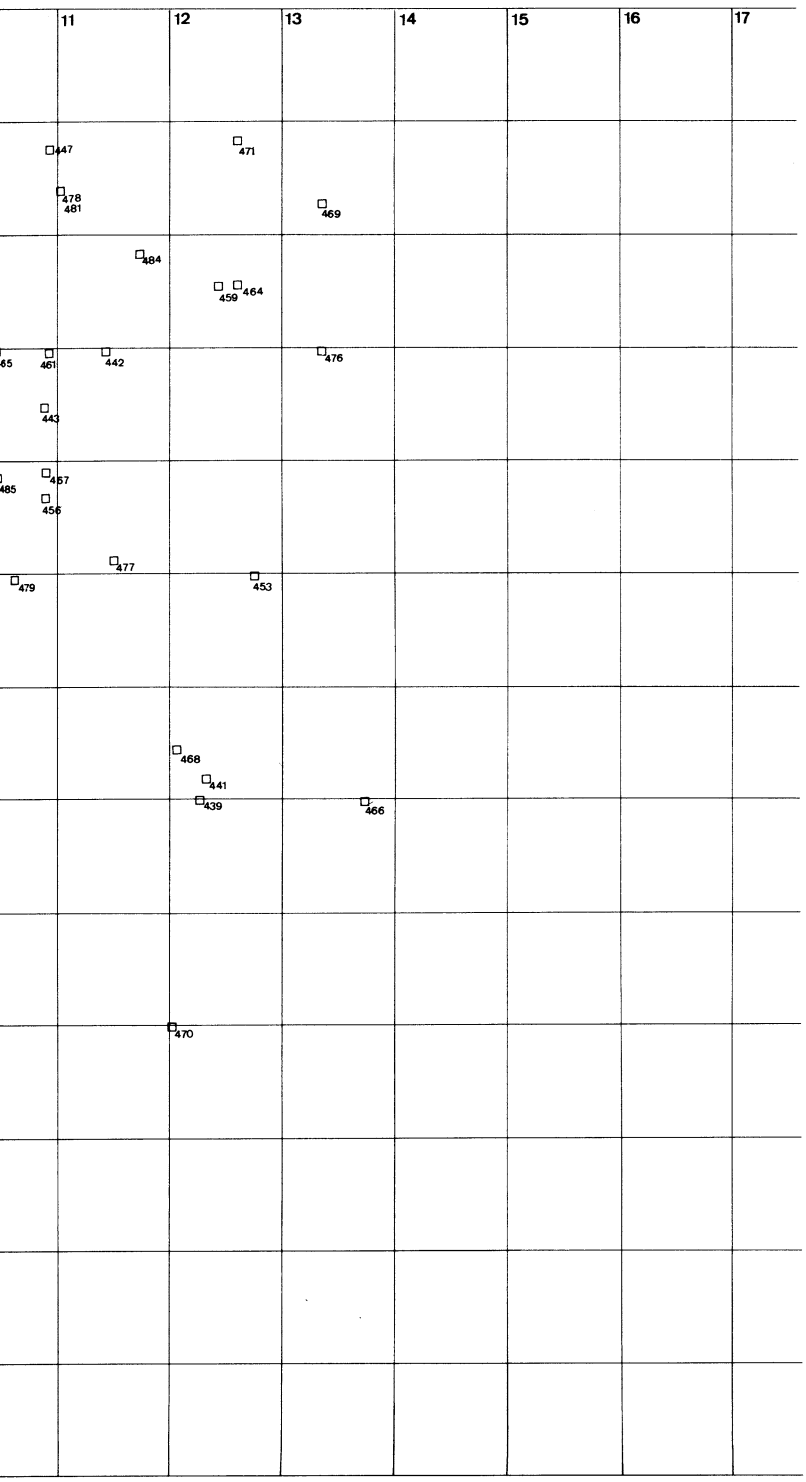

11
12
13
14
15
16
17
438
430
429
425
427
421
433

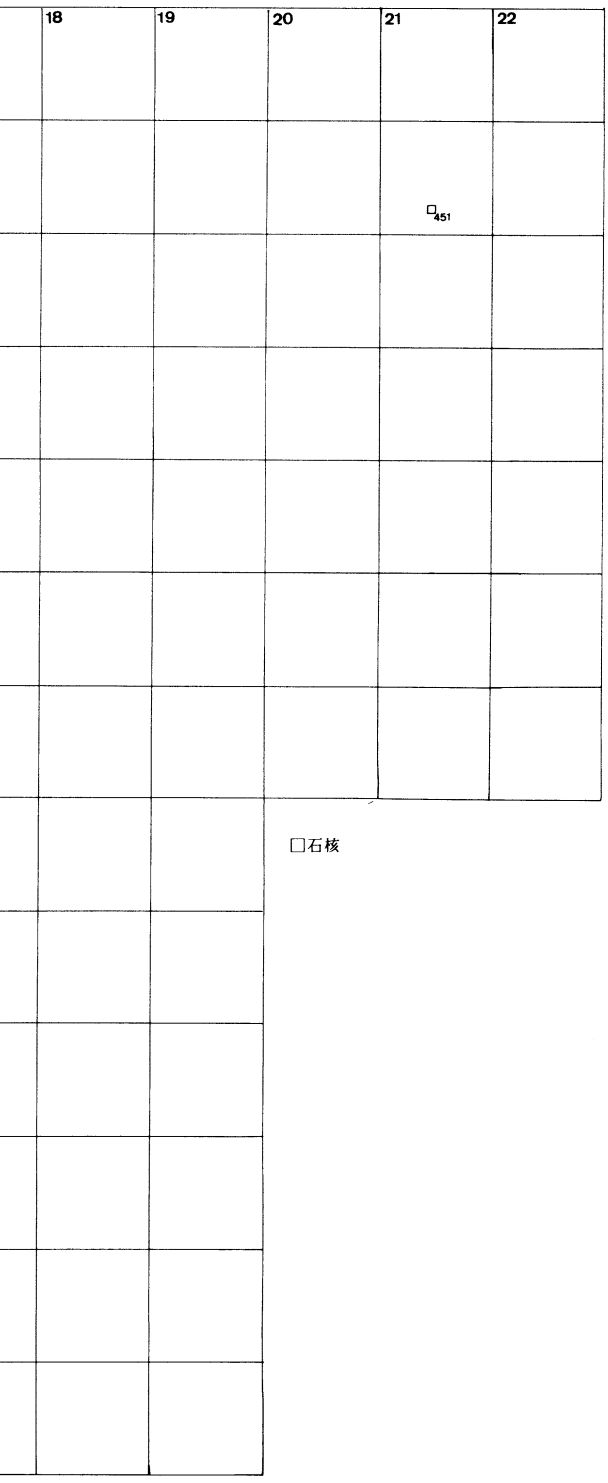
18	19	20	21	22

△プランテイ ング・チップ

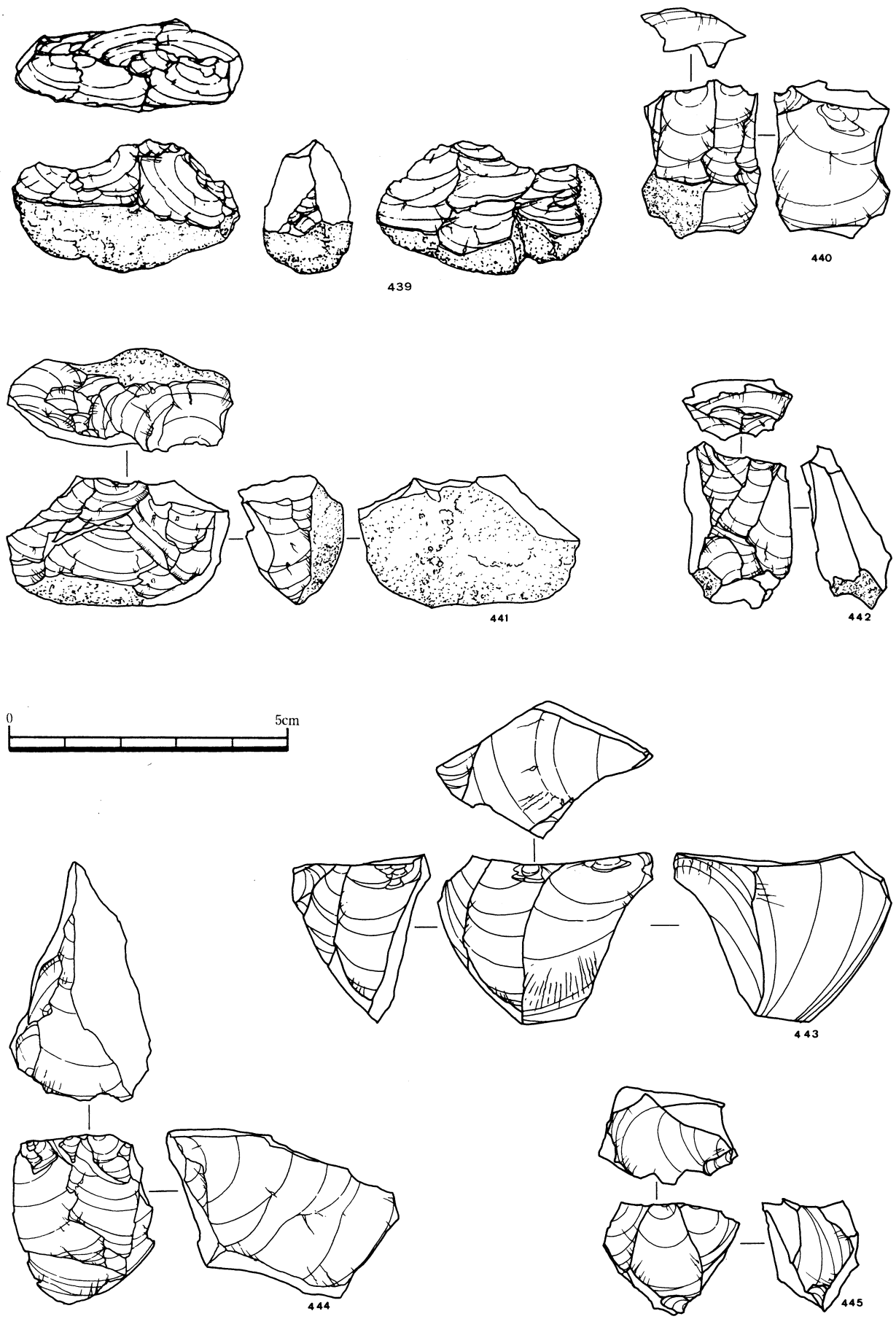


第52図　小牧３Ａ遺跡・旧石器時代（石核出土分布図）

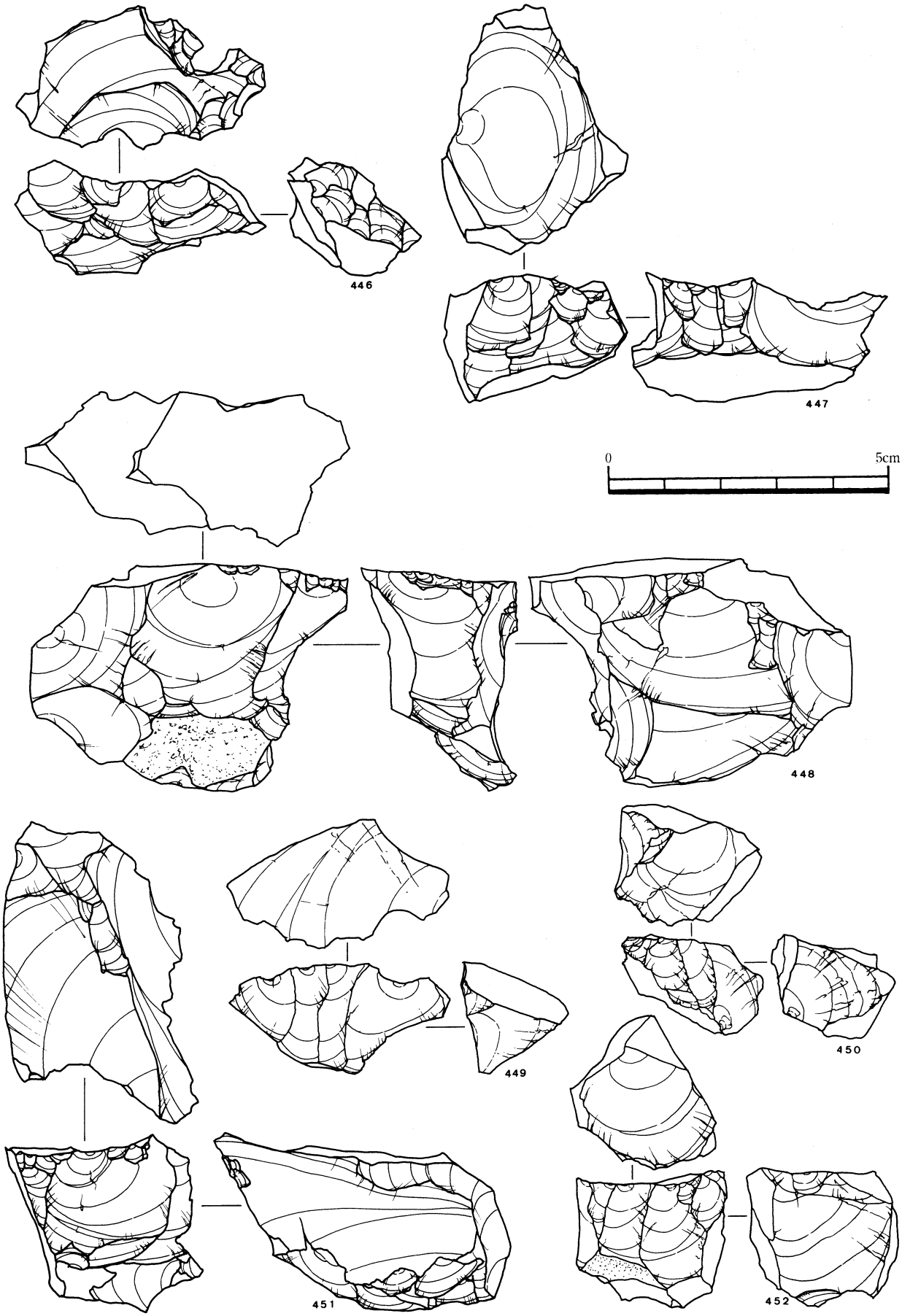

11
12
13
14
15
16
17
447
478
481
471
469
484
459
464
65
461
442
476
443
485
457
456
477
479
453
468
441
439
466
470



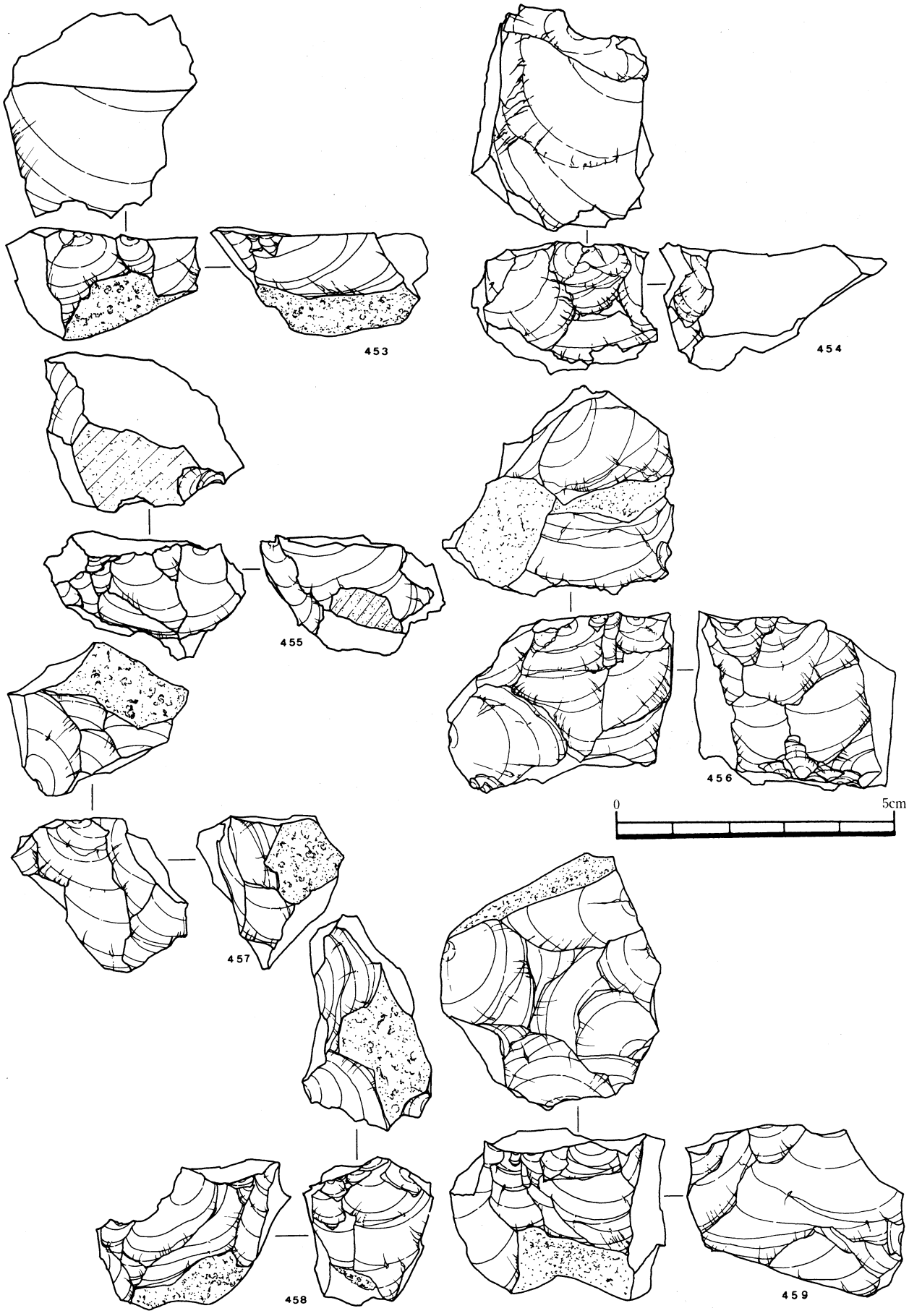
□石核



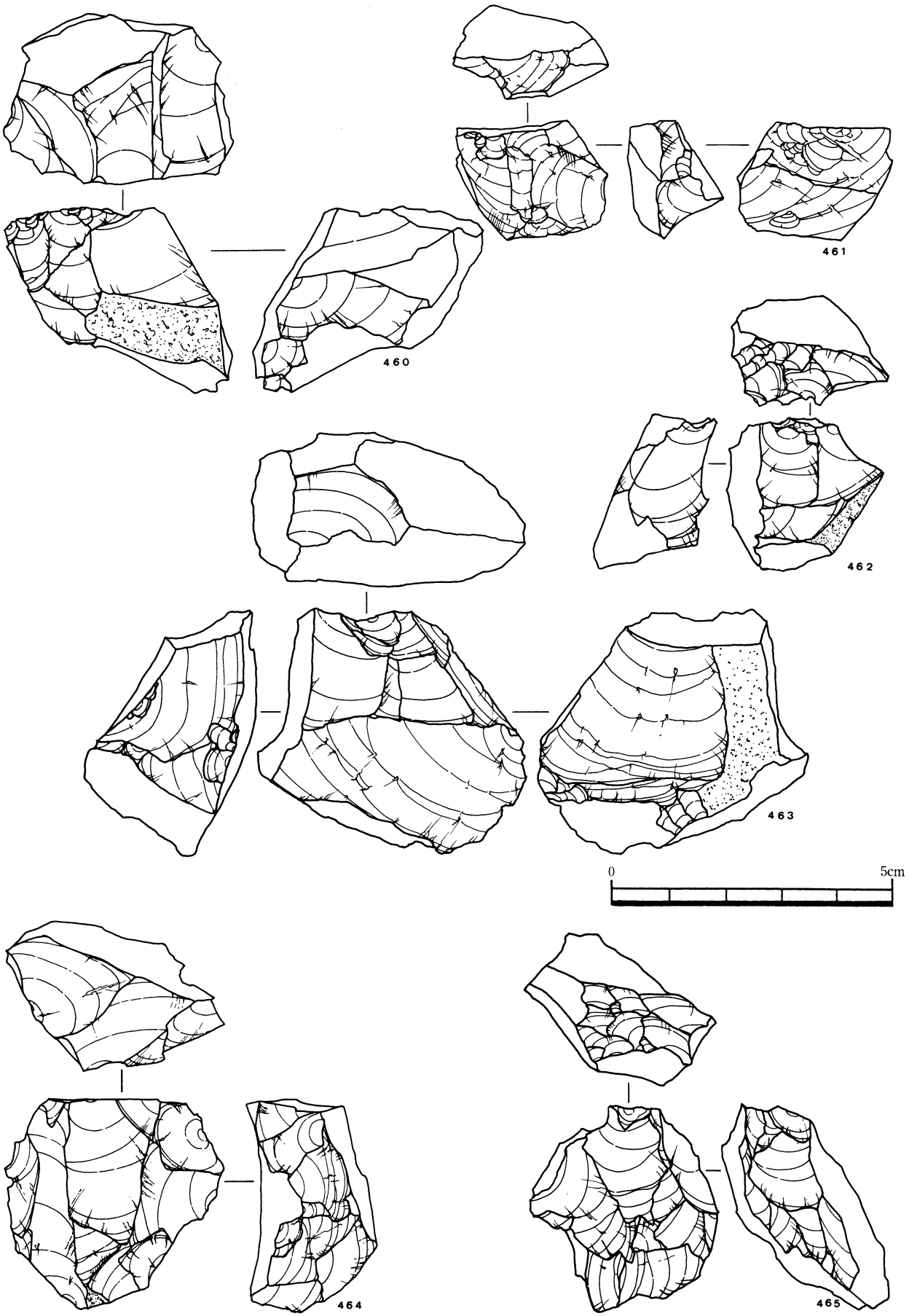
第53図　小牧３Ａ遺跡・石核１



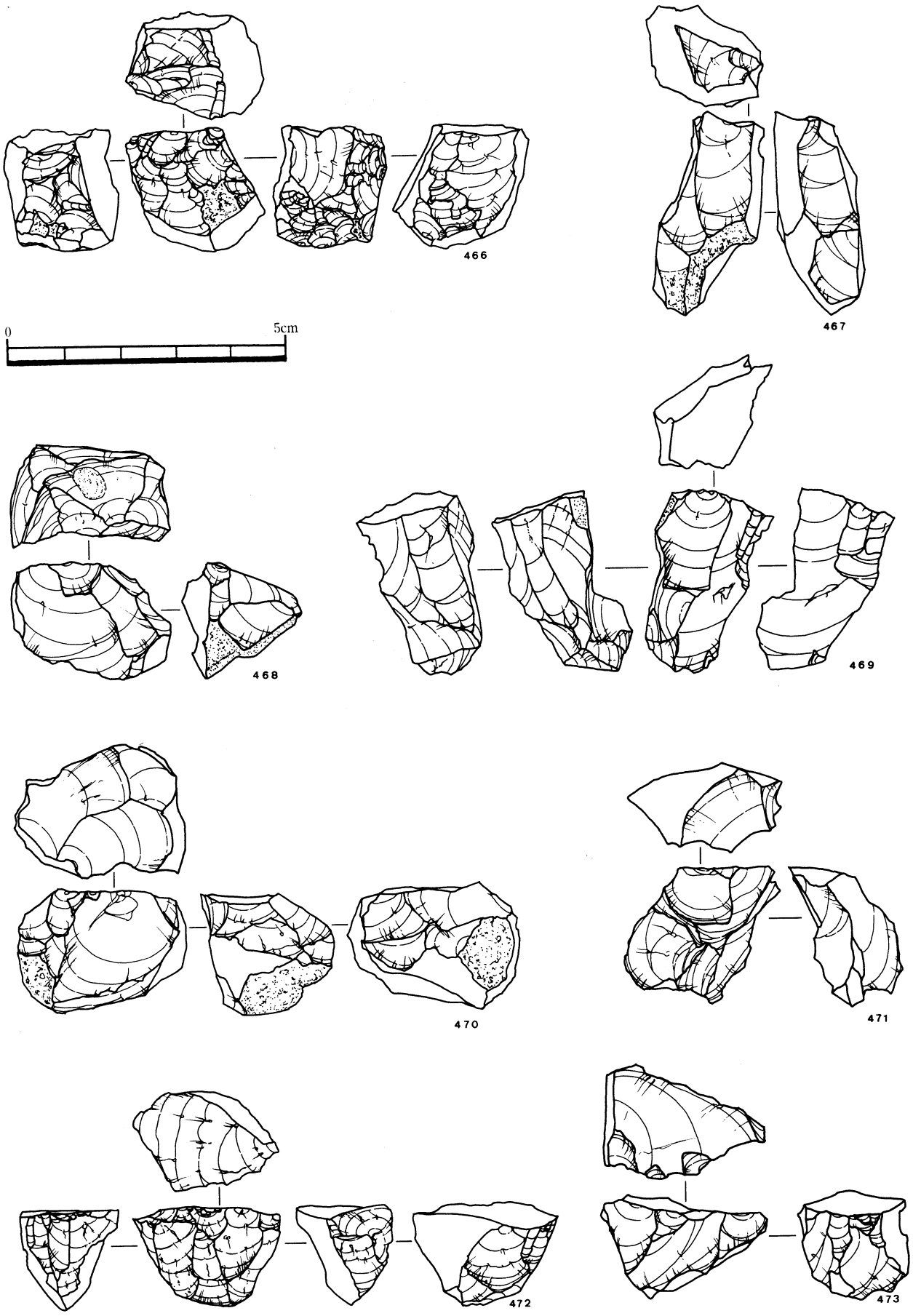
第54図　小牧３Ａ遺跡・石核２



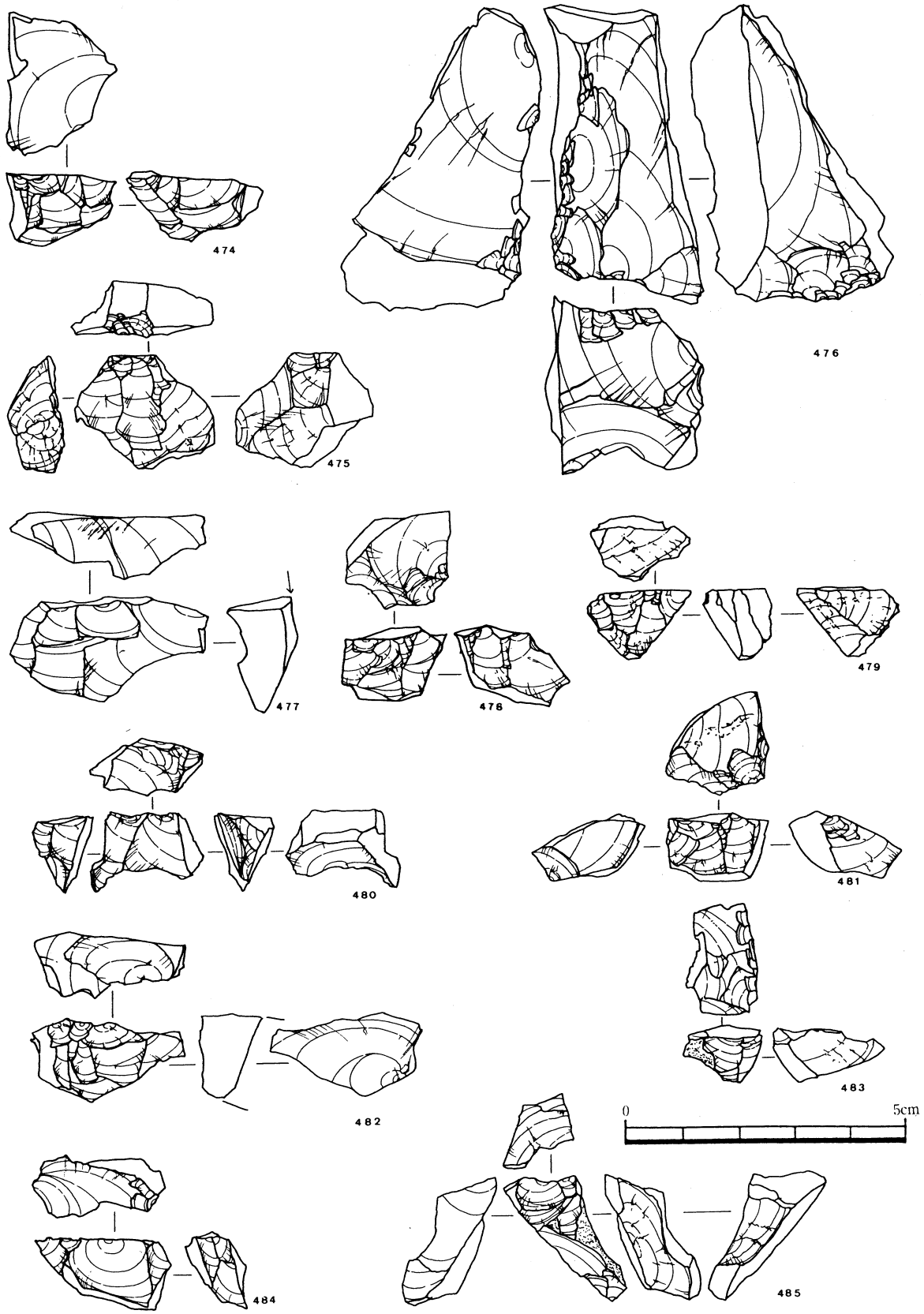
第55図　小牧３Ａ遺跡・石核３



第56図　小牧３Ａ遺跡・石核４



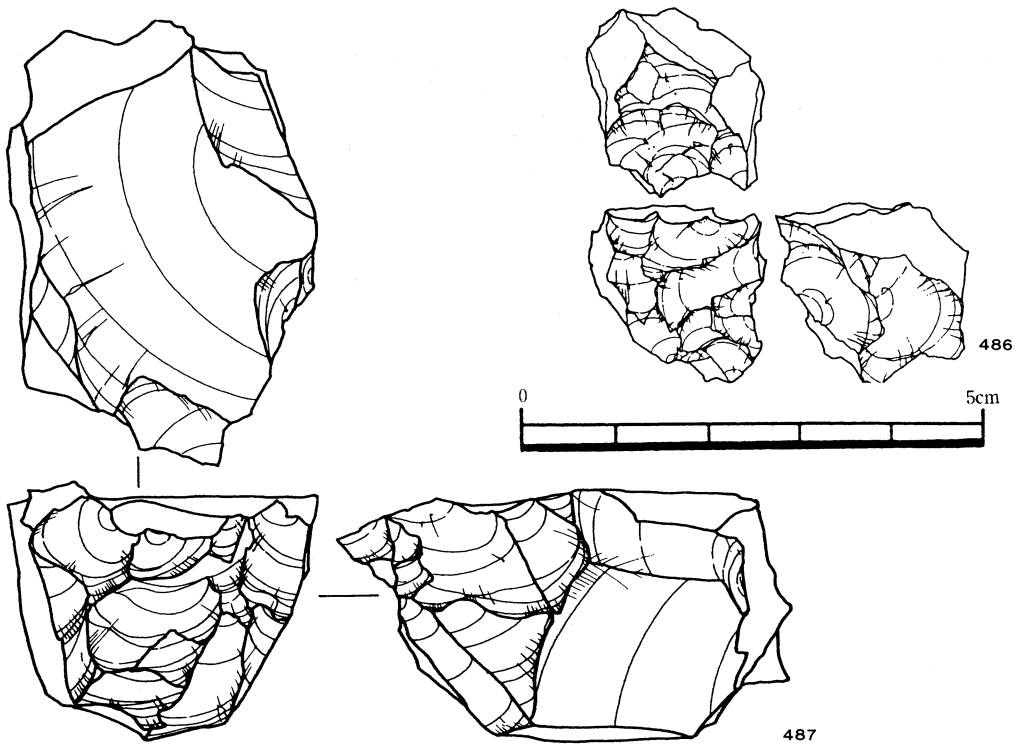
第57図　小牧３Ａ遺跡・石核５



第58図　小牧３Ａ遺跡・石核６

表16　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（石核）１

挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
	439	石核１類	2・3	4・0	H-12	7499	黒曜石（上牛鼻産）	1/1	タマゴ状の円礫を使用、礫の頂部より両刃礫器状に交互に剥片剥離を実施。横長の不定形剥片生産。
	440	石核２ａ類	2・7	2・1	G-8	5568	石英	1/1	小型の縦長剥片生産。単設打面。打面が先行する剥離面で、背面はポジティブ面。
	441	石核１類	2・4	3・8	G-12	7490	黒曜石（上牛鼻産）	1/1	タマゴ状の円礫を使用、礫の頂部より両刃礫器状に交互に剥片剥離を実施。横長の不定形剥片生産。
５３	442	石核２ａ類	2・8	1・9	D-11	3215	石英（乳白色）	1/1	小型の縦長剥片生産。単設打面。439 と同一。
	443	石核２ａ類	2・9	3・7	D-10	5206	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	縦長剥片生産。背面にポジティブ面が確認されることから剥片素材の石核。単設打面。
	444	石核３ａ類	3・0	2・6	H-5	6415	変性岩（珪質）	1/1	両側面はネガティブ面、底面は節理面であることより，単設の打面は礫素材の分割面と判断。
	445	石核2b 類	2・1	2・3	F-2	8565	変性岩（珪質）	1/1	右側面の平坦面をポジティブ面と判断。図示していないが、左側面に背面からの先行する剥離面が見られる。
	446	石核３ｂ類	2・0	4・3	G-3	1689	変性岩（石英質）	1/1	打面が礫分割面に相当すると判断。右側縁から背面にかけてほぼ直行する剥離面がある。不定形な小剥片剥出。
	447	石核３ａ類	2・2	2・9	B-10	6015	変性岩（鉄石英?）	1/1	底面ないし右側縁が分割礫面に相当し、打面は左側面からの加撃で造られる。
	448	石核３ｂ類	4・1	5・8	D-7	270	シルト質頁岩灰色）	1/1	右側縁部で先行して剥離作業が行われ、最終打面は節理面に相当。ほぼ90度の打面転移が見られる。
５４	449	石核３ｂ類	2・0	3・9			砂岩（肌色）	1/1	打面は礫分割面、背面に礫皮面。剥離作業は右側面が先行し、ほぼ90度の打面転移が見られる。
	450	石核３ｂ類	1・9	2・6	D-8	285	変性岩（珪質）	1/1	底面が礫分割面。打面及び右側縁は先行する作業面。
	451	石核３ｂ類	3・3	3・4	B-21	4154	緑泥岩（熱変性）	1/1	打面ないし両側面が礫分割面に相当する。最終作業面と右側縁部作業面とは90度に打面転移。
	452	石核３ｂ類	2・4	2・6	D-1		変性岩（珪質）	1/1	左側縁が礫分割面。単設打面。背面を打面とする同じく単設打面の作業面あり。
	453	石核３ａ類	2・0	2・8	F-12	3096	変性岩（珪質）	1/1	打面が礫分割面。単設打面。小型の不定形剥片の剥離を目的としているが、初期の段階で放棄。
	454	石核３ａ類	2・3	3・2	C-8	316	変性岩（珪質）	1/1	打面が礫分割面。単設打面。小型の不定形剥片の剥離を目的。他の３面には礫皮面残す。
	455	石核３ａ類	2・1	3・5	G-8	5567	変性岩（石英質）	1/1	打面左奥の剥離面が礫分割面。単設打面。小型の不定形剥片の剥離を目的。
５５	456	石核３ｂ類	3・3	4・1	E-10	6758	硬質頁岩（灰色）	1/1	打面ないし底面が礫分割面に相当する。最終作業面と右側縁部作業面とは90度に打面転移。背面は最終打面方向への作業面あり。
	457	石核３ａ類	2・8	3・1	F-6	5780	変性岩（石英質）	1/1	打面図の左（シロヌキ）が礫分割面。
	458	石核３ｂ類	2・6	2・9	F-9	3823	変性岩（石英質）	1/1	左側縁部にも先行する作業面あり。
	459	石核３ｂ類	2・9	3・5	C-12		砂岩（熱変性）	1/1	右側面が礫分割面に相当し、先行して剥片剥離を実施。打面でも最終作業面以前に剥片剥離が見られる。
	460	石核３ｂ類	3・4	4・2	G-9	5458	シルト質頁岩（灰褐色）	1/1	打面図の左（シロヌキ）が礫分割面。背面に先行する剥片剥離面あり。
	461	石核２ａ類	2・2	2・7	D-10	6708	黒曜石（?）	1/1	背面上位の剥離がポジティブ面。
５６	462	石核３ｂ類	2・5	2・3	E-6		硬質頁岩（灰色）	1/1	背面が礫分割面。打面は背面と直行し、打面調整を繰り返しながら不定形な小剥片を取り出す。
	463	石核３ｂ類	4・4	4・6	G-3	6472	砂岩（灰黄色）	1/1	底面を除くいづれかが礫分割面。
	464	石核３ｂ類	3・8	4・0	C-12	5799	硬質頁岩（灰黄色）	1/1	打面中央部の平坦面が礫分割面。剥離作業はまず底面から実施した後、現作業面とそれを打面とする右側縁部の作業面がある。
	465	石核３ａ類	3・7	3・4	D-10	5083	チャート	1/1	背面が礫分割面。
	466	石核３ｂ類	2・0	2・1	H-13	7532	黒曜石（?）	1/1	小円礫を分割したと思われるが、分割面不明。
	467	石核３ａ類	3・7	1・8	E-10	5275	変性岩（珪質）	1/1	背面が礫分割面に相当。
５７	468	石核１類	2・1	2・7	G-12	7495	黒曜石（上牛鼻産）	1/1	小円礫を使用、礫の頂部より両刃礫器状に交互に剥片剥離を実施。横長の不定形剥片生産。
	469	石核２ａ類	3・2	2・6	B-13	4041	変性岩（石英質）	1/1	背面がネガティブ面に相当。打面はそれより先行する剥離面。作業面はスッテプフレーキングで終了。



第59図　小牧３Ａ遺跡・石核７

表17　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（石核）２

挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
	470	石核３ｂ類	2･2	2･9	J-12	9		1/1	打面部は先行して剥片剥離作業が行われたと思われ、その後最終剥離を実施。横長の不定形剥片剥出。
	471	石核２ａ類	1･8	2･7	B-12	5970	変性岩（鉄石英・赤色）	1/1	小型の縦長剥片生産。単設打面。打面が先行する剥離面で、背面はネガティブ面。
５７	472	石核３ａ類	1･8	2･7	G-9	5542	黒曜石（三浦産）	1/1	打面が礫分割面に相当する。剥片剥離は正面を中心にほぼ半円形状に進む。単設打面。
	473	石核３ａ類	1･3	2･9	E-9	3795		1/1	打面が礫分割面に相当する。剥片剥離は正面を中心に同一方向。単設打面。
	474	石核２ａ類	1･2	1･9	E-8	3695	変性岩（緑泥岩）	1/1	打面が礫分割面に相当する。剥片剥離は正面を中心に同一方向。単設打面。
	475	石核2b 類	2･0	2･5	I-3	7748	黒曜石（三浦産）	1/1	背面のいづれかがポジティブ面と判断。
	476	ブランク	5･3	3･7	D-13	3914	シルト質頁岩　（灰色）	1/1	打面ないしは底面が礫分割面に相当すると判断。右側縁の剥離は調整剥離。正面が作業予定面。
	477	作業面調整剥片	1･7	3･6	E-11	3257	変性岩（?）	1/1	背面がポジティブ面で、ステップフレーキングの作業面の再生を計ったと思われる。
	478	石核３ａ類	1･3	1･8	B-11	8329		1/1	剥片剥離作業は同一方向。
５８	479	石核３ａ類	1･2	1･9	F-10	5363	黒曜石（?）	1/1	単設打面。剥片剥離作業は同一方向。
	480	作業面調整剥片	1･5	1･8	B-10	8342		1/1	背面がネガティブ面で、作業面の再生を計ったと思われる。
	481	石核３ａ類	1･1	1･7	B-11	8329	変性岩（珪質）	1/1	打面が礫分割面。剥片剥離作業は同一方向。細石核？
	482	作業面調整剥片	1･5	2･5	D-11	3423	変性岩（珪質）	1/1	背面がポジティブ面で、加撃は底面方向から。作業面の再生を計ったと思われる。
	483	残核	0･9	1･5	E-8	3961	変性岩（石英質）	1/1	最終段階。
	484	残核	1･4	2･5	C-11	4026	変性岩（珪質）	1/1	最終段階。単設打面。小型の不定形剥片の剥離剥出。
	485	残核	2･4	2･2	E-10	5273	変性岩（鉄石英・赤色）	1/1	最終段階。単設打面。
	486	石核３ｂ類	3･1	2･6	D-3		変性岩（珪質）	1/1	打面ないし底面が礫分割面。小型の不定形剥片の剥離を目的。右側縁の作業面は直行。
５９	487	石核３ｂ類	4･0	4･6	E-8	5022	シルト質頁岩（灰色・風化）	1/1	打面の平坦面が礫分割面。単設打面。背面を打面とした剥離面が残されるが、割と質のよい縦長剥片を取り出している。

て424 ・428 がある。逆の傾斜を成すものは，425 ・431 ・436 等が指摘できる。

第10節　石核

使用する石核素材の違いにより，3類に区分できる。1類円礫等の礫素材，2類剥片素材，3類分割礫素材で，さらに，2類・3類は細分できる。

1類，439 ・441 は樋脇町上牛鼻産の黒曜石で，卵状の円礫を素材としている。剥片剥離は，円礫を横長に使用し稜線上から交互に繰り返し，剥片剥離作業面は両刃礫器状を呈している。取り出される剥片は，不定形で横長の剥片である。468 は小礫を使用。

2類，443 は背面がポジティブな面を成す，剥片素材の2類に相当し，単剥離打面を成す。なお，この石核には2点の剥片が接合する（接合資料490-2 ）。440 ・442 は2点とも剥片素材で，背面はポジティブな面で構成される。縦長剥片を剥出しているが，いずれも小型の剥片である。469 の背面はネガティブな面で，単剥離打面を持つ。

3類，この分割礫を素材とした3類の石核が構成の主体を占める。446 ・447 は分割礫のネガティブな素材を用いている。448 の打面は単剥離打面で，分割面をそのまま用いている。剥片剥離は，打面の周辺部に添って行われ，横長の不定形剥片を主体に剥出している。451 は打面ないしは右側縁部が分割面に相当する。456 は底面が分割面，459 は右側縁部が分割面に相当し，右側縁→打面→正面の順に作業面の移動が観察される。464 の右側縁部は，最終作業面に先行して剥片剥離が行われている。470 は先行して打面で剥片剥離が行われる。472 ・473 は打面が分割面。487 はシルト質頁岩で表面は風化が進む。分割面は打面の平坦面で，単剥離打面。本遺跡に残された唯一の大型石核である。

477 ・480 ・482 は作業面再生剥片。

第11節　接合資料

接合資料1 （488-1、2、3 ）

硬質頁岩素材の不定形剥片3点の接合資料である。剥片剥離で打面転移の認められる資料で，第1剥片（488-1 ）とそれに先行する2枚の剥片と，第2 （488-2 ）・第3 （488-3 ）剥片は180 度打面転移が行われる。488-3 の腹面はポジティブ面を成す剥片である。

接合資料2 （489-1、2 ）

硬質頁岩素材の不定形剥片2点の接合資料である。小型の縦長剥片2点の接合資料で，2点の資料及び観察できる剥離面は全て同一方向の剥片剥離を示している。なお，489-2 の剥片の先端部は，折断された可能性がある。

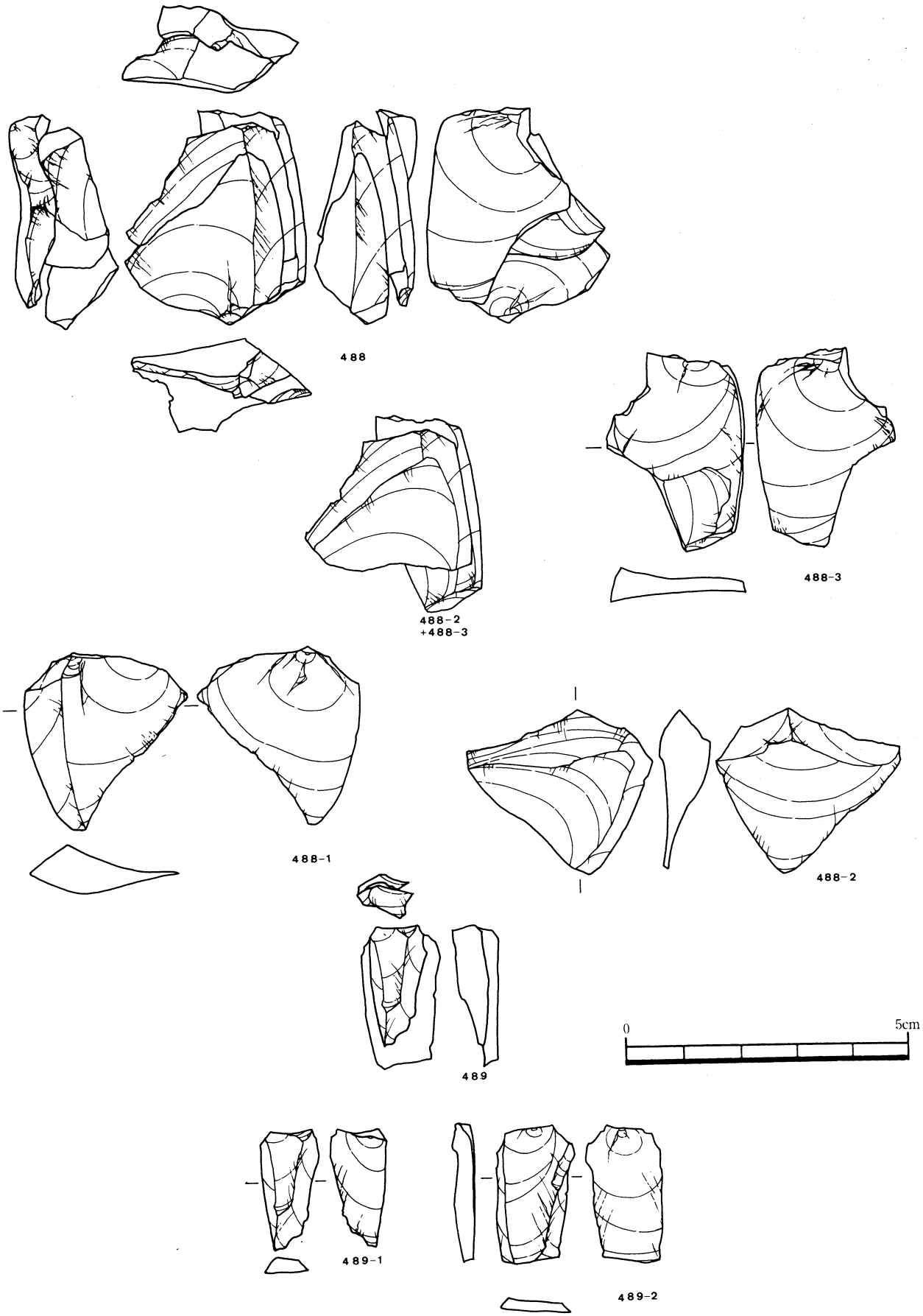
接合資料3 （490-1、2、3 ）

3点の接合資料で，490-2 は石核443 として先に取り上げたものである。第1剥片（490-1 ）の右側縁部を打面とした先行する剥離面は，石核（490-2 ）とは90度の打面転移が行われている。第2剥片（490-3 ）は打点が残らないことから，はじけと見られる。硬質頁岩。

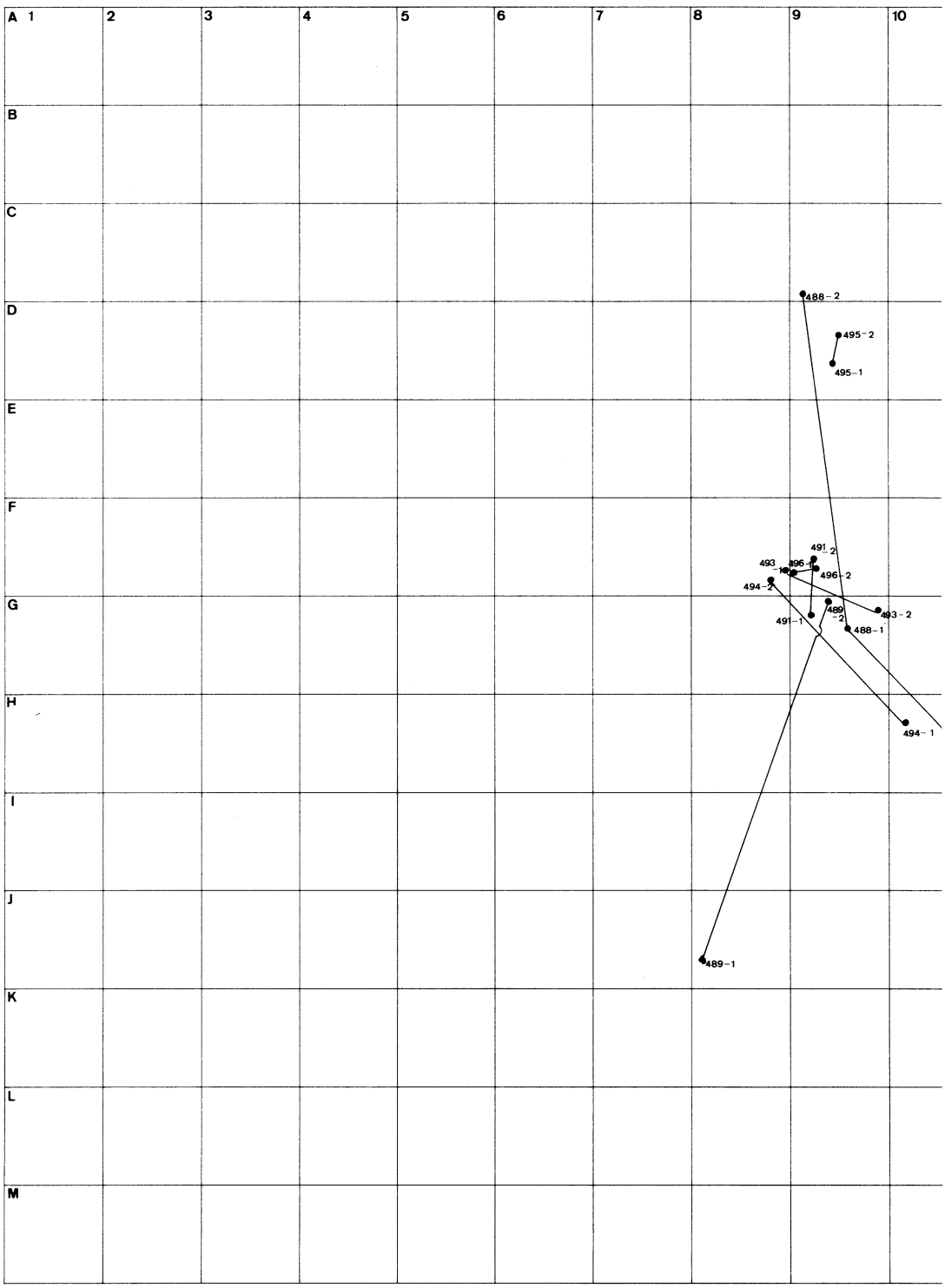
接合資料4 （491-1、2 ）

石核（491-2 ）と剥片（491-1 ）の接合資料で，使用石材は，硬質頁岩。打面は背面方向に傾斜する複剥離打面で，先行した2枚の剥片，491-1 の後に剥離された剥片共に，小型の剥片である。

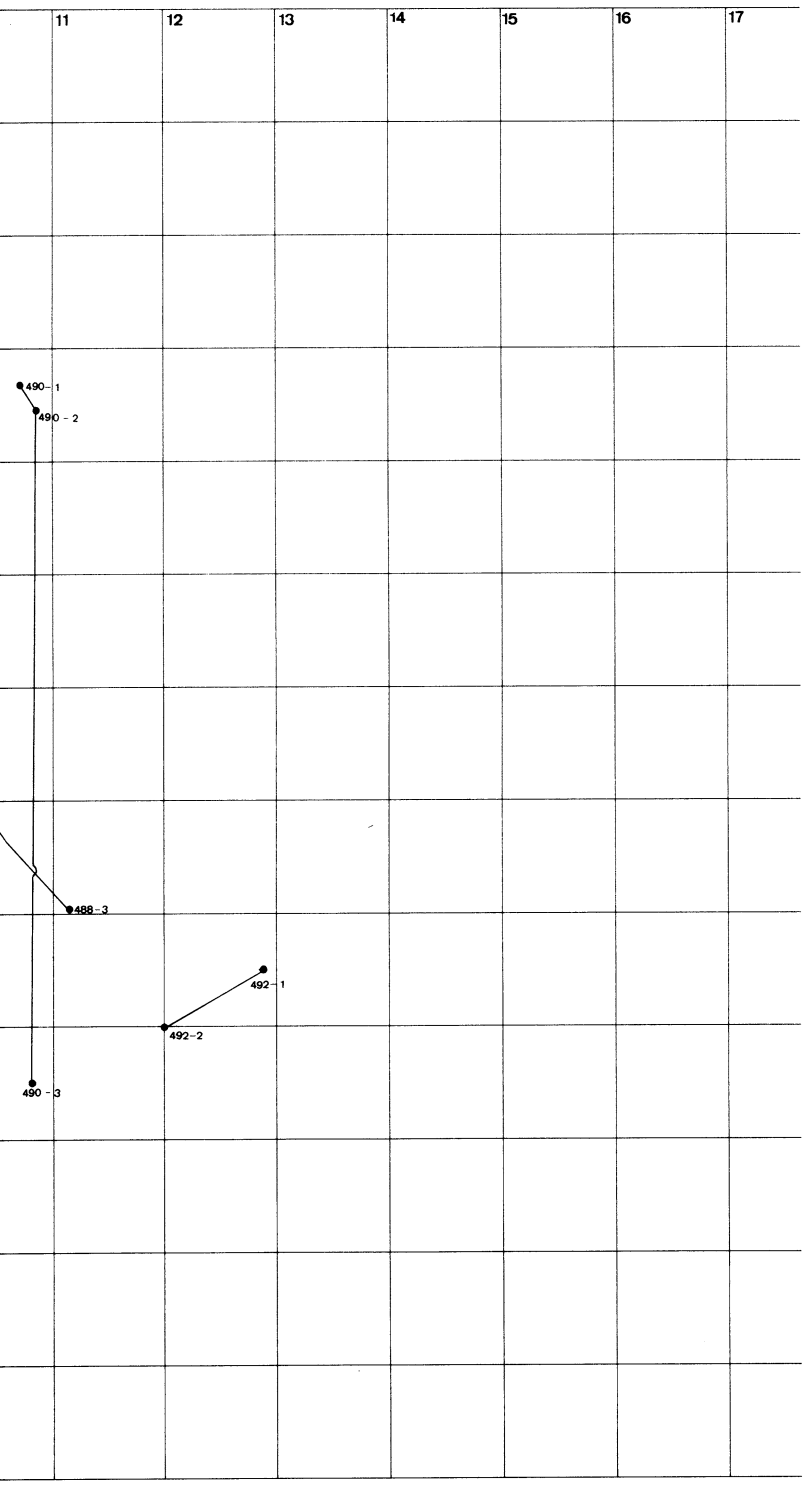
接合資料5 （492-1、2 ）



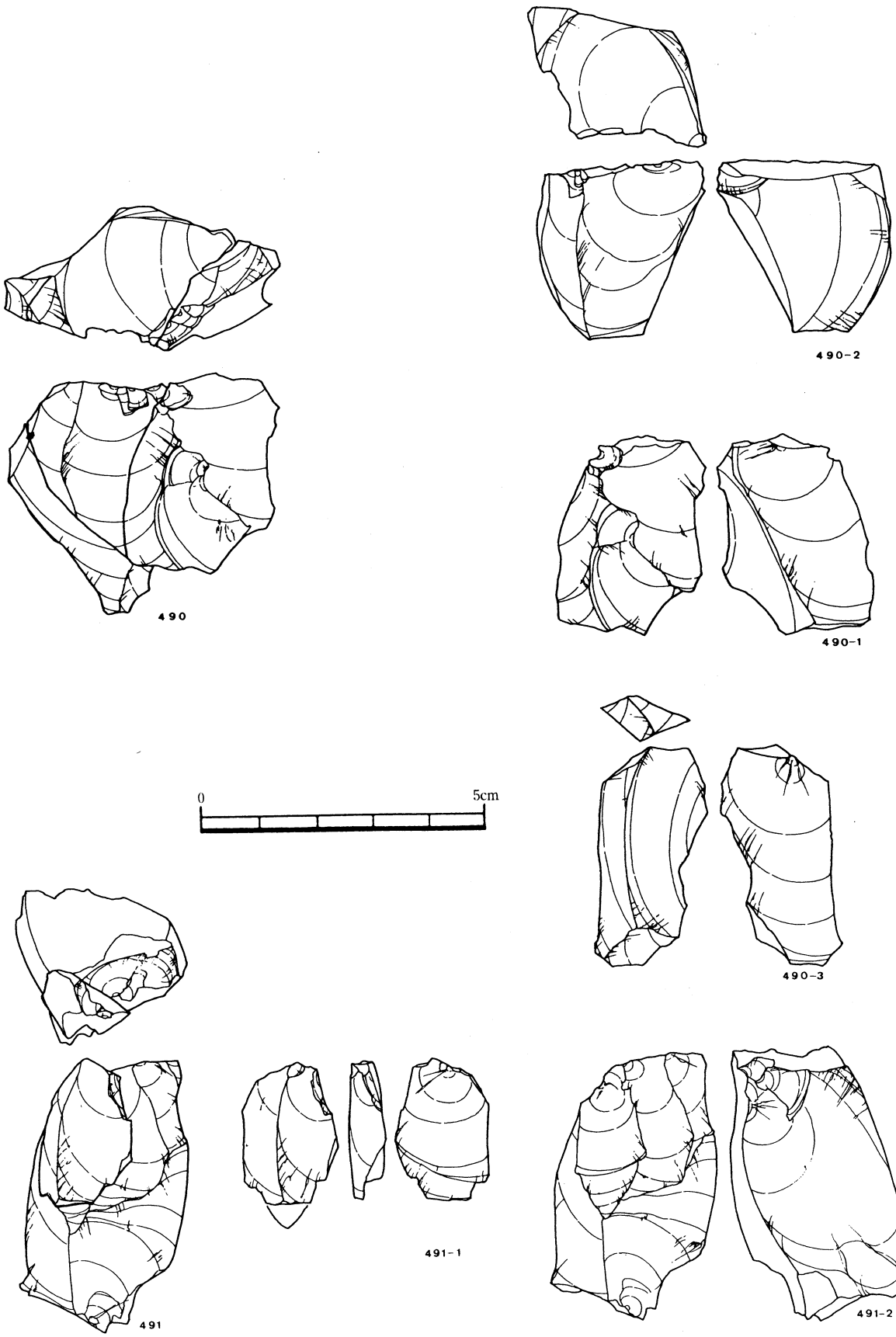
第60図　小牧３Ａ遺跡・接合資料１



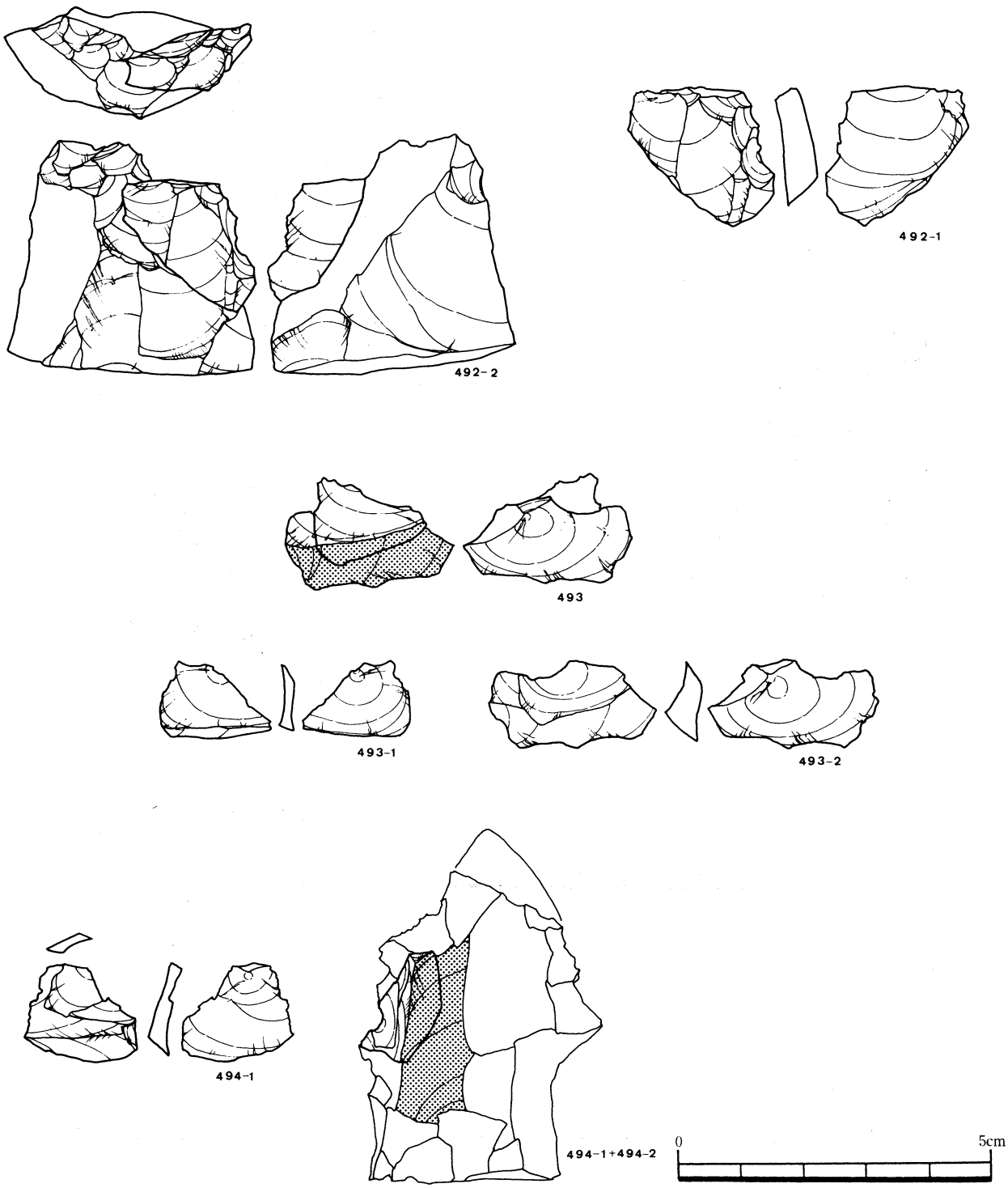
第61図　小牧３Ａ遺跡・旧石器時代（接合資料相関図）


11
12
13
14
15
16
17
490-1
490-2
488-3
492-1
492-2
490-3

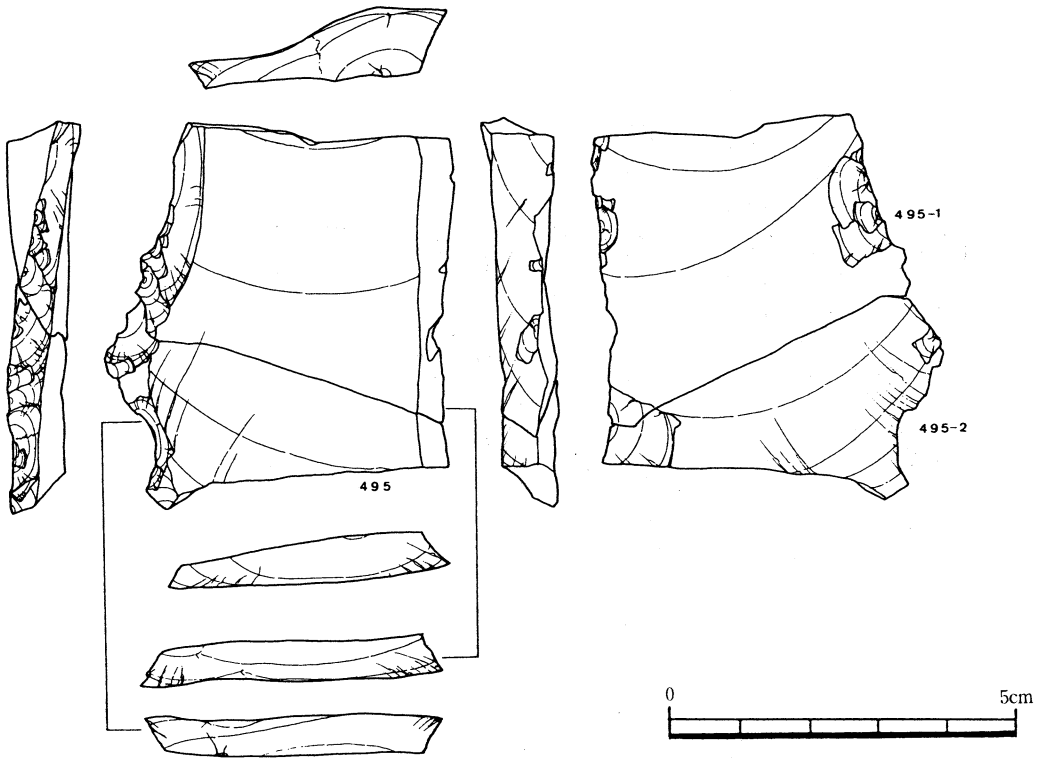
	18	19	20	21	22



第62図　小牧３Ａ遺跡・接合資料２



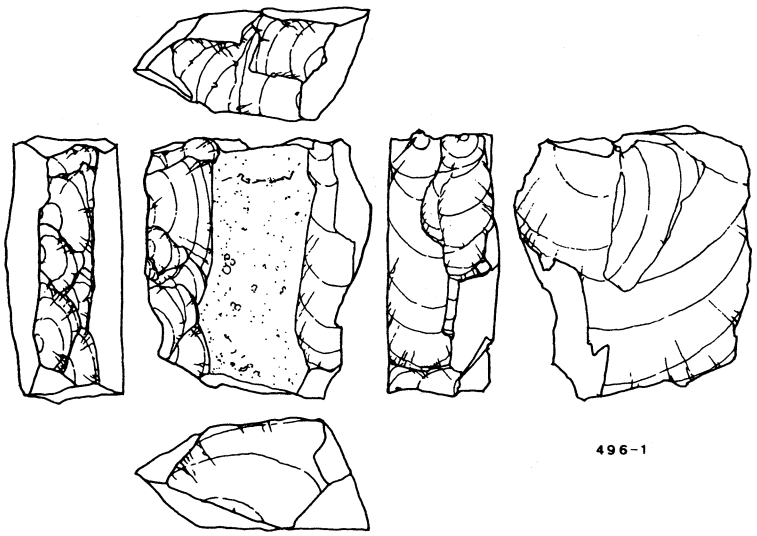
第63図　小牧３Ａ遺跡・接合資料３

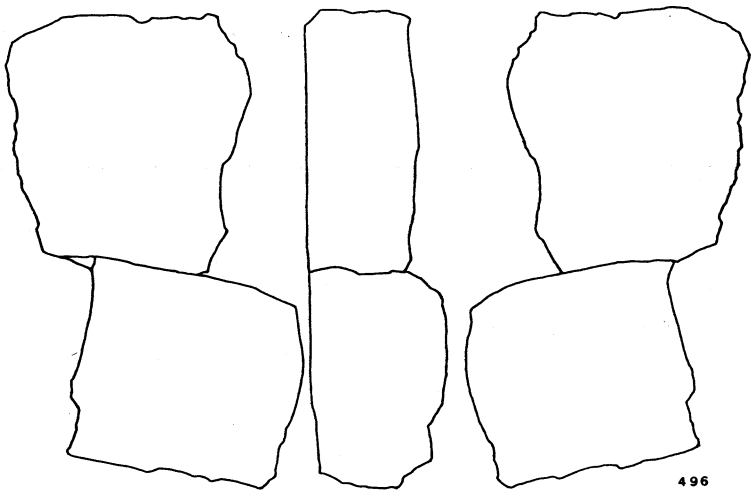


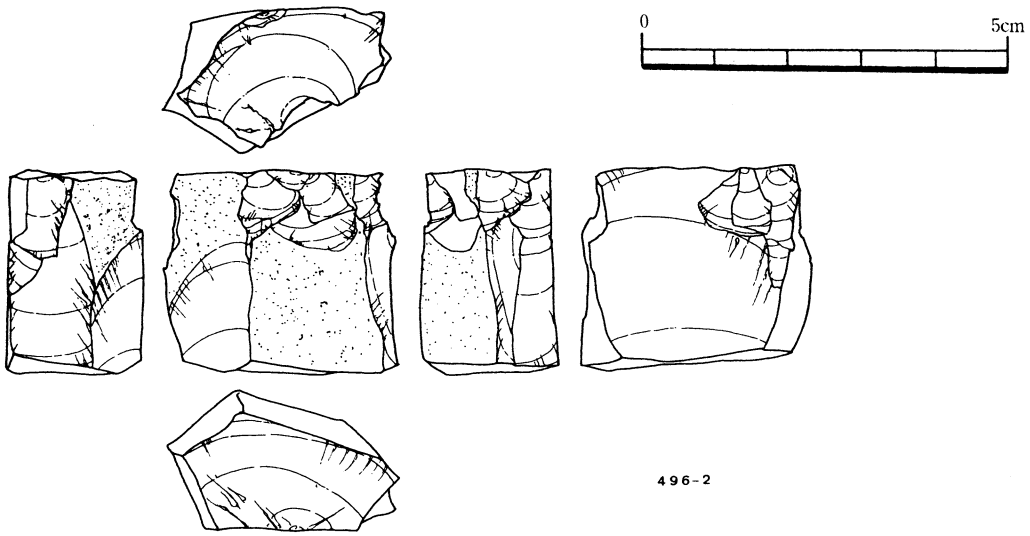
第64図　小牧３Ａ遺跡・接合資料４

表18　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（接合資料）

挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
61	488	接合資料							
	-1	不定形剥片	3・1	2・9	G-9	5551	硬質頁岩(灰・縞模様)	1/1	背面と同一方向の剥片剥離。
	-2	不定形剥片	3・0	3・3	C-9	5055	硬質頁岩(灰・縞模様)	1/1	剥離方向は－１と対行し、剥離後打面除去。
	-3	不定形剥片	3・6	2・5	H-11	7458	硬質頁岩(灰・縞模様)	1/1	裏面はポジティブ面。剥離方向は－２と同一。
	489	接合資料							
	-1	不定形剥片	2・1	0・8	J-8	8135	硬質頁岩(灰・縞模様)	1/1	先行する剥片で－２と同一方向の剥離。
	-2	縦長剥片	2・4	1・4	G-9	5523	硬質頁岩(灰・縞模様)	1/1	細身の縦長剥片で、下端部は折断で除去。
62	490	接合資料							
	-1	不定形剥片	3・5	2・5	D-10	5203	硬質頁岩(灰・縞模様)	1/1	厚手の不定形剥片。正面作業面の打点移動は左から右。
	-2	石核	3・0	2・8	D-10	5206	硬質頁岩(灰・縞模様)	1/1	挿図53-442 の石核に相当。単設打面。
	-3	不定形剥片	3・9	1・9	J-10	8263	硬質頁岩(灰・縞模様)	1/1	石核との剥離面はネガティブ面。
	491	接合資料							
	-1	不定形剥片	2・5	1・7	G-9	5540	硬質頁岩(灰・縞模様)	1/1	剥片の下端部はステップフレーキング。
	-2	石核	4・5	2・8	F-9	6849	硬質頁岩(灰・縞模様)	1/1	柱状形態。最終剥離作業。直前の剥離は左→右→左。
63	492	接合資料							
	-1	剥片	2・2	2・1	I-12	7609	硬質頁岩(灰黒・白線)	1/1	剥片の頂部は切断されている。ステップフレーキング。
	-2	石核	3・7	3・9	I-11	9	硬質頁岩(灰黒・白線)	1/1	シロヌキは節理面。先行する剥離痕は縦長の剥片。
	493	接合資料							
	-1	ブランティングチップ	1・3	1・8	F-8	5506	硬質頁岩(灰・縞模様)	1/1	－２より先行する刃潰し加工剥片。
	-2	ブランティングチップ	1・4	2・7	G-9	5411	硬質頁岩(灰・縞模様)	1/1	スクリントーンは先行する剥離面で、ナイフ形石器ないし剥片尖頭器の背面に相当する。
	494	接合資料							
	-1	ブランティングチップ	1・6	1・8	H-10	5590	硬質頁岩(灰・縞模様)	1/1	ナイフ形石器の裏面から加撃し、刃潰し加工剥片。
	-2	ナイフ形石器	5・1	4・0	F-8	5507	硬質頁岩(灰・縞模様)	1/1	挿図24-214 の相当。スクリントーンは先行する剥離面
64	495	接合資料							
	-1	スクレイパー	4・3	4・4	D-9	5043	硬質頁岩(灰黒・白線)	1/1	折断剥片の中間部利用。左側縁に刃部形成。
	-2	スクレイパー	3・0	4・4	D-9	5048	硬質頁岩(灰黒・白線)	1/1	折断剥片の中間部利用。左側縁に刃部形成。
65	496	接合資料							
	-1	加工痕のある石器	3・7	3・1	F-8	5508	硬質頁岩(灰・縞模様)	1/1	左側縁部の剥離はブランテイング状、右側縁の縦方向の剥離は分割後。
	-2	石核	2・8	3・1	F-9	5512	硬質頁岩(灰・縞模様)	1/1	左側縁部の下端部からの剥離は分割以前。







第65図　小牧３Ａ遺跡・接合資料５

石核（492-2 ）と剥片（492-1 ）の接合資料で，硬質頁岩使用。石核の下縁部は節理面，左側縁部は礫面で構成される。剥片には打点が残されず，ステップフレーキングを成すことから先行した左側の剥離に乗じた可能性がある。

接合資料 6 （493-1、2 ）

整形剥片 2 点の接合資料である。スクリントーン表示部分が，先行する剥離面でポジティブな面を成す。そのため，ブランティング・チップの可能性も残す。使用石材は，硬質頁岩。

接合資料 7 （494-1、2 ）

剥片尖頭器（494-2 ）とブランティング・チップ（494-1 ）の接合資料。使用石材は，硬質頁岩。スクリントーン表示部分が，背面を形成する先行する剥離面でポジティブな面を成す。ブランティング・チップの打面は，剥片尖頭器の腹面に相当し，急角度のブランティング加工のため，打面と底面が平行関係を示す。

接合資料 8 （495-1、2 ）

偏平な縦長剥片を素材とした，スクレイパーの破損品の接合資料。使用石材は硬質頁岩。器体の上端・下端共に折断の痕跡を示す。

接合資料 9 （496-1、2 ）

剥片素材で，裏面はポジティブな剥離面を成す。（496-2 ）の左右側縁部に残る剥離は，分割以前の剥片剥離である。分割後，（496-1）の右側縁部の剥片剥離は，両端から実施。

第12節　ストーン・リタッチャー

4 点図示したが，499 については疑問も残る。

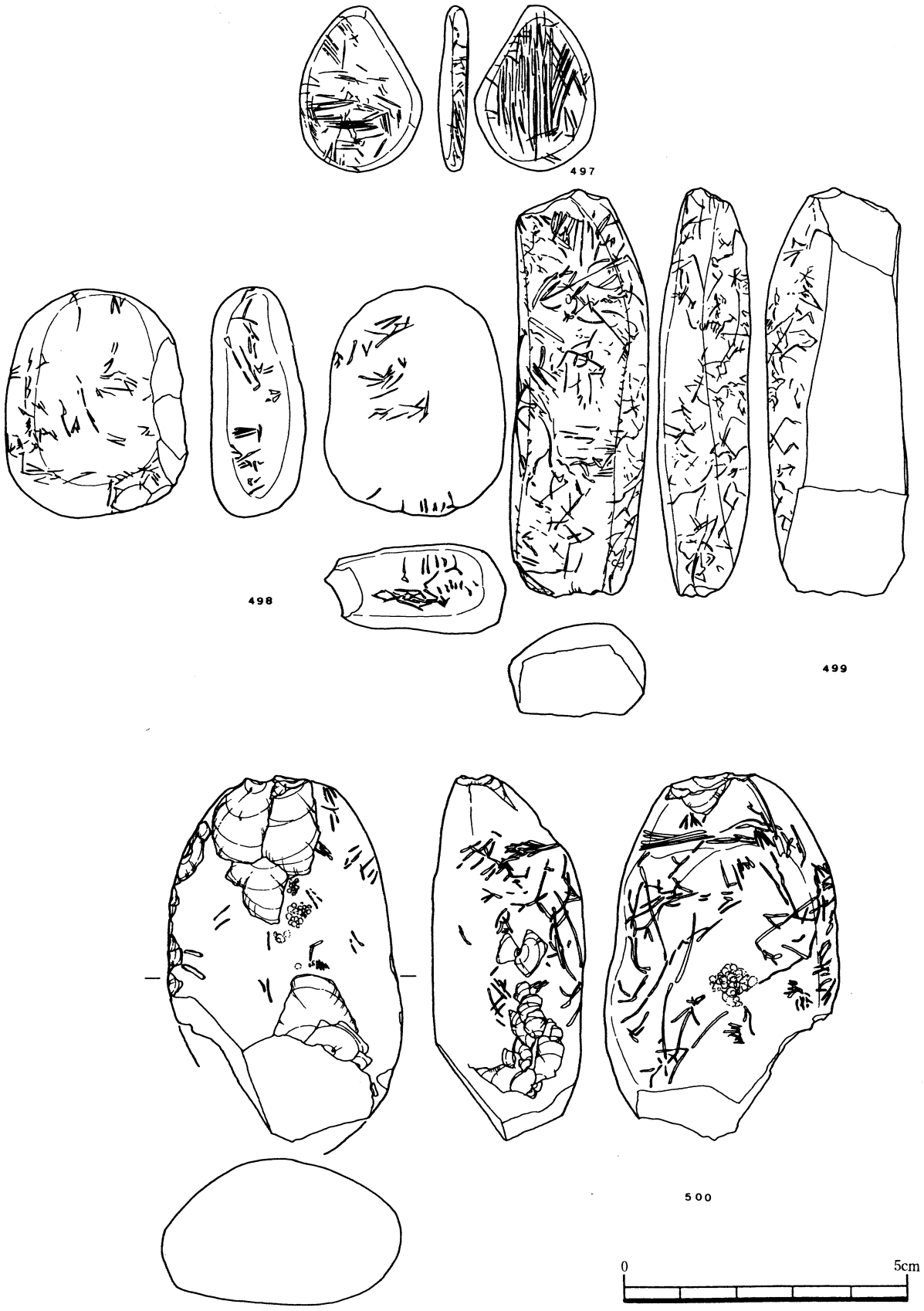
497 は偏平な砂岩円礫を素材にし，周辺部と両面にはいわゆる擦痕が多数刻まれる。擦痕は，周辺部では深くさらにＶ字状に刻まれ，両面の平坦面では長く残される。498 は軟質の砂岩を使用したもので，周辺部に深く短い擦痕が，両面に部分的に集中してＶ字状に残される。499 はやや軟質の頁岩を用いているが，図示した擦痕状の痕跡は自然風化の可能性強い。なお，両端部がお互い反対方向から破砕することから，楔形石器的用途に使用された可能性もある。500 はシルト質頁岩を用いたもので，下半部は敲打により欠落している。頂部や側縁部の一部もハンマー的使用により剥離している。

第13節　ハンマー・ストーン

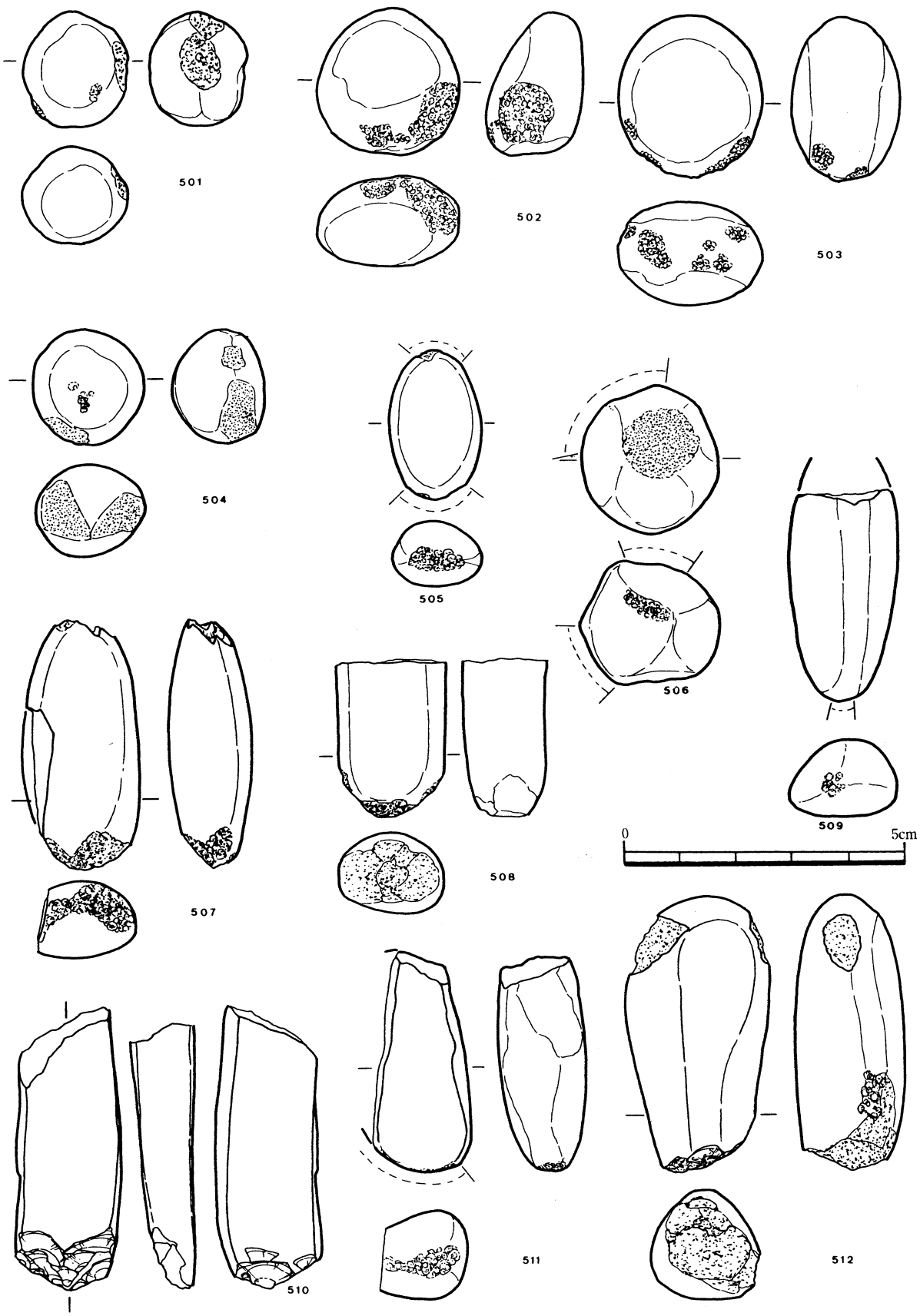
形態的には，球形と棒状があり，安山岩と砂岩が使用される。505 ・508 ・510 ・511 が砂岩で残りが安山岩である。各石器の使用部分については，図示したとおりである。注目されることに，球形のものでの破損は認められないが，棒状のものはその大部分が大きく破損していることである。その原因については明らかにできないが，使用方法等が異なる可能性も推測できる。

第14節　グレイバー，ドリル

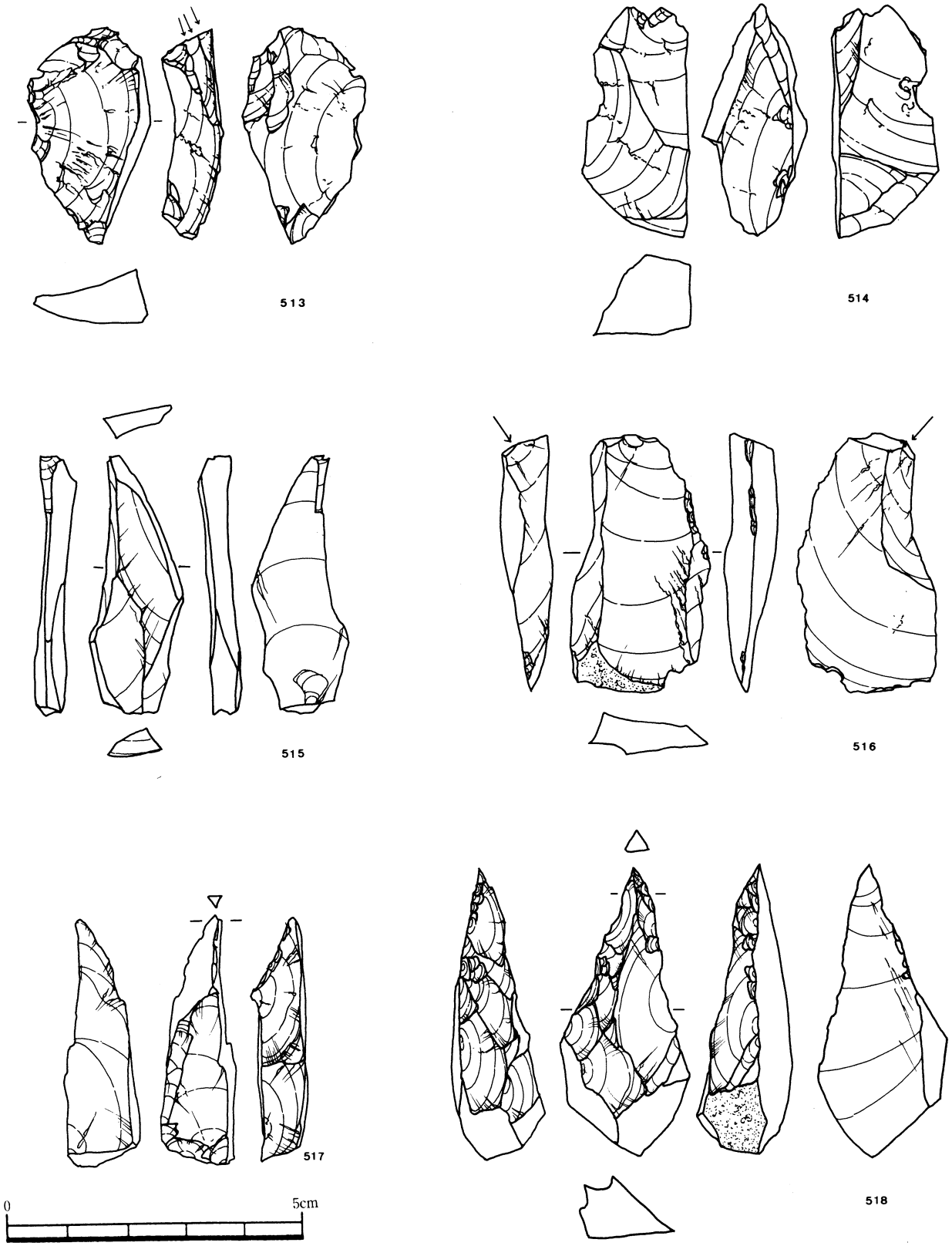
513 黒曜石製の横長の剥片が素材で，腹面がポジティブに相当する。彫刻刀面の設定は，剥片を横位に用い，頂部をカットして設けた打面から彫刻刀面を作り出している。彫刻刀面は，3 回の剥離で形成される。514 石材は鉄石英で，残核素材の可能性が高い。515 硬質頁岩の剥片を素材としたもので，剥片の端部に 1 枚の作業面が認められる。516 鉄石英の剥片を素材としたもので，剥片の打面を除去した後，打面から彫刻刀面を作り出している。



第66図　小牧３Ａ遺跡・ストーン･リタッチャー



第67図　小牧３Ａ遺跡・ハンマー・ストーン



第68図　小牧３Ａ遺跡・グレーバー，ドリル

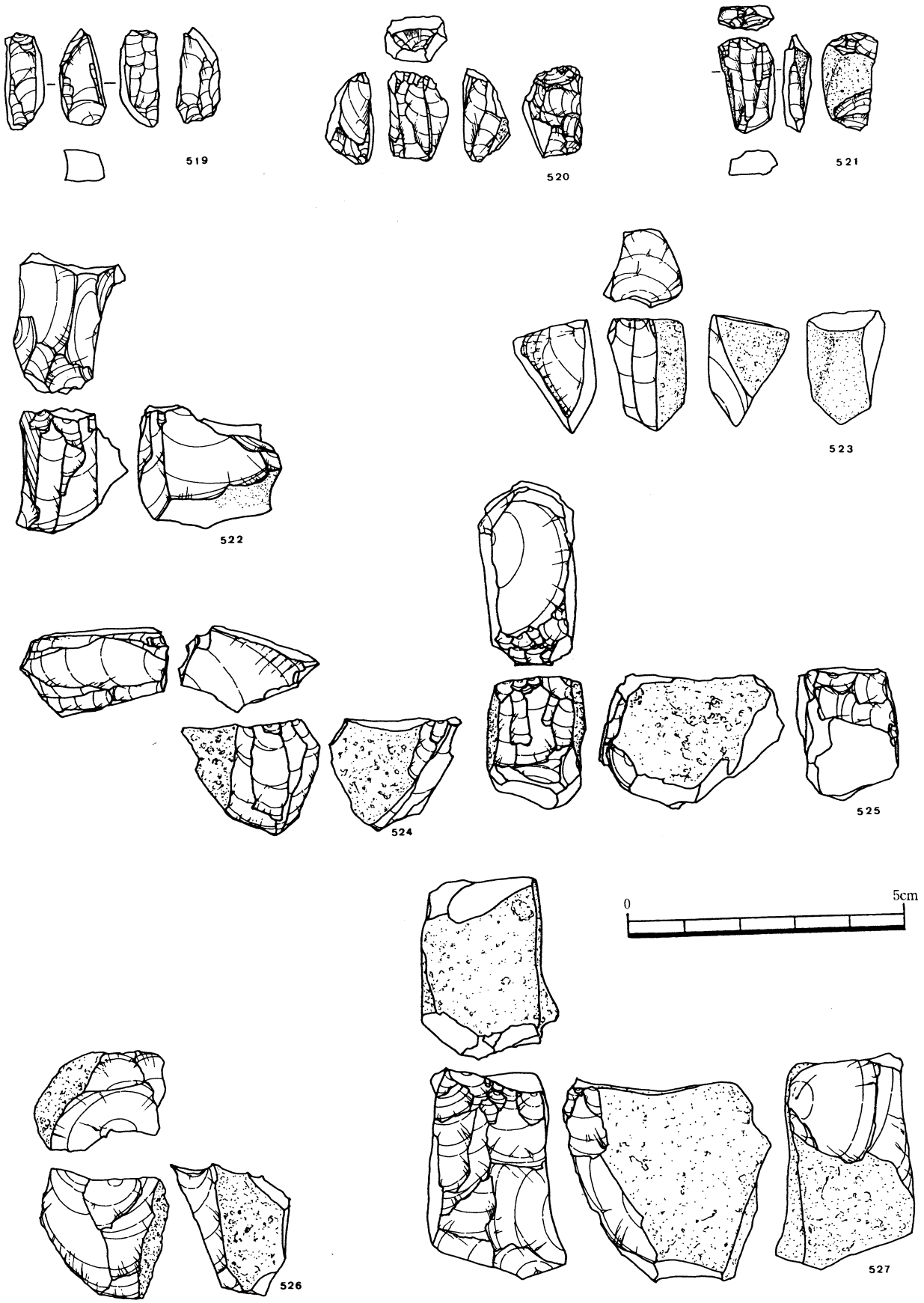
517 良質な硬質頁岩を使用し，剥片の先端部を利用している。518 は厚手の鉄石英剥片を素材とし，刃部は腹面からの整形により丁寧に，鋭く作り出されている。

表19　小牧３Ａ遺跡遺物観察表

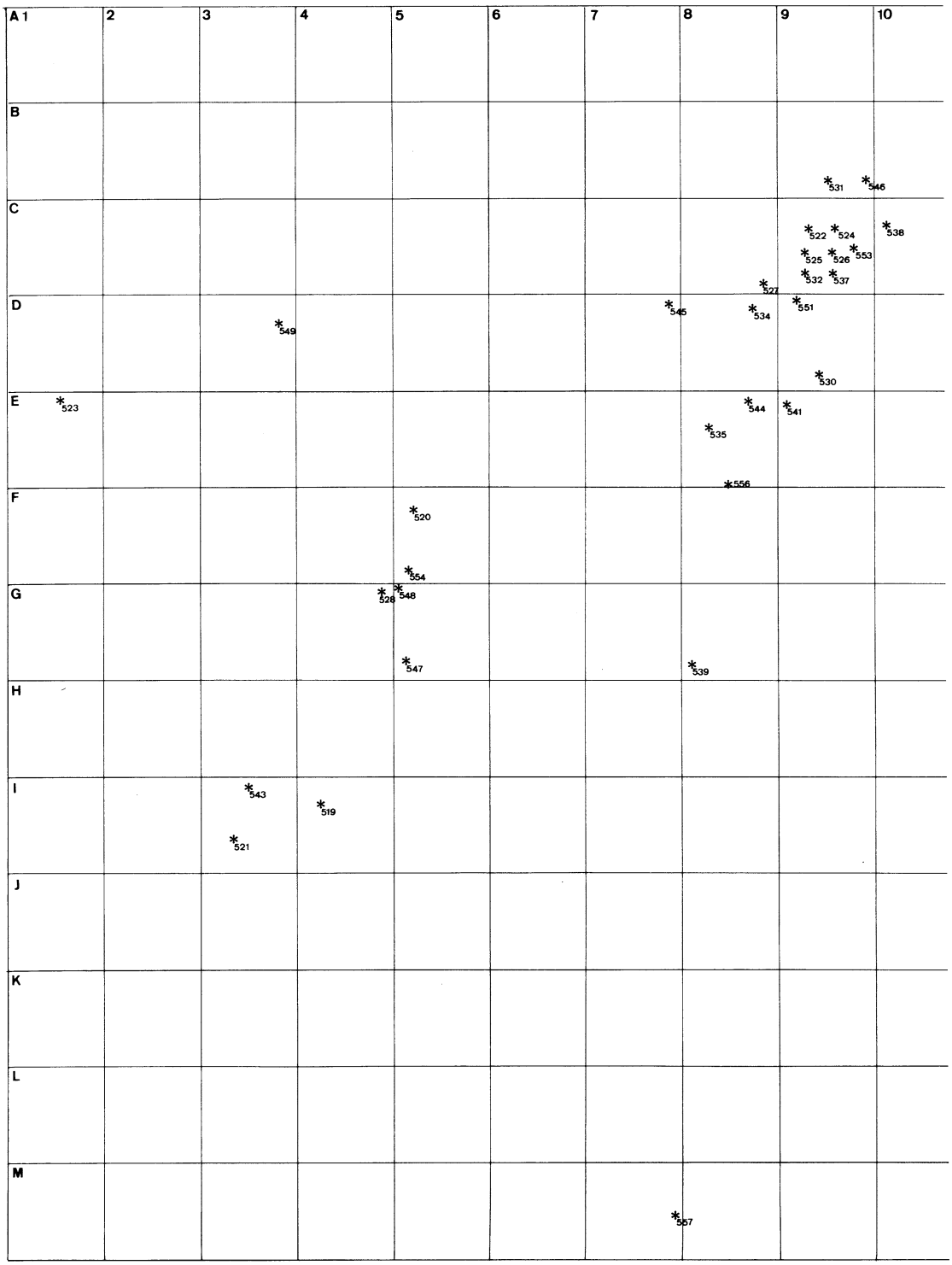
挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
66	497	ストーン・リタッチャー	4・4	3・2	H-14	2818	砂岩	0・67	偏平な円礫を素材とし、主に右側縁部と平坦な両面に線状擦痕が多数残る。
	498	ストーン・リタッチャー	6・2	4・8			頁岩(軟質)	0・67	偏平な円礫を素材とし、主に周辺部と表面・裏面の一部に短い線状擦痕が多数残る。
	499	ストーン・リタッチャー?	10・9	3・5	C-6	6758	頁岩(灰黒色・軟質)	0・67	棒状円礫を素材とし、頭部・端部はそれぞれ剥離を受け楔形石器的様相を呈している。線状擦痕を表したが、自然風化の可能性も高い。
	500	ストーン・リタッチャー?	9・8	6・1	D-4	1803		0・67	先端部破損。頭部はハンマー的な剥離、両側縁部も繰り返し敲打が加えられる。線状擦痕残る。
67	501	ハンマー・ストーン	4・7	4・2	E-8	244	花崗岩	0・67	円礫素材。素材の周辺部に敲打による剥落が認められる
	502	ハンマー・ストーン	6・0	5・8	E-10	5239	安山岩	0・67	円礫素材。素材の下縁・右側縁部に敲打痕が認められる
	503	ハンマー・ストーン	6・6	5・9	F-9	5470	安山岩	0・67	円礫素材。素材の下縁部に敲打痕が認められる。
	504	ハンマー・ストーン	4・7	4・6	D-10	3332	安山岩	0・67	円礫素材。素材の下縁・右側縁部に敲打痕が認められる
	505	ハンマー・ストーン	6・2	3・9	E-6	5791	砂岩	0・67	礫素材。素材の下縁・上縁部に敲打痕が認められる
	506	ハンマー・ストーン	6・2	6・7	N-3	1957	安山岩	0・67	円礫素材。礫のコーナー部に敲打痕が認められる
	507	ハンマー・ストーン	6・9	2・9	E-9	5175	安山岩	0・67	礫素材。素材の下縁・上縁部に敲打痕が認められる
	508	ハンマー・ストーン	4・4	3・0	F-3	6941	砂岩	0・67	礫素材。素材の下縁部に敲打痕が認められ、上部破損。
	509	ハンマー・ストーン	8・6	4・4			安山岩	0・67	礫素材。素材の下縁部に敲打痕が認められ、上部破損。
	510	ハンマー・ストーン	7・4	2・8			砂岩	0・67	礫素材。素材の下縁部に敲打痕が認められ、上部破損。
	511	ハンマー・ストーン	9・2	4・0			砂岩	0・50	礫素材。素材の下縁・下縁部に敲打痕が認められる
	512	ハンマー・ストーン	7・5	3・9	F-7	5749	安山岩	0・67	礫素材。素材の下縁・下縁部に敲打痕が認められる
68	513	グレイバー	3・7	2・0	E-8	3664	黒曜石(三鉱産)	1/1	右側縁部がポジティブ。作業面の大剥離及び小剥離は全て上位から行われている。
	514	グレイバー	3・8	1・8	J-13	7633	石英(鉄石英)	1/1	残核使用?。残核の背面の一部に作業面を設定。
	515	グレイバー?	4・4	1・4	G-10	6924	硬質頁岩(灰色・縞模様)	1/1	縦長剥片使用。腹面の頂部に作業面設定。
	516	グレイバー?	4・4	2・2	E-1	1663	石英(鉄石英)	1/1	縦長剥片使用。左側縁部に頭部から作業面設定。
	517	ドリル	4・2	1・3	G-4	6445	硬質頁岩(黒色)	1/1	不定形剥片使用。剥片の先端部に作業面。
	518	ドリル	4・8	3・1	C-7		石英(鉄石英)	1/1	厚手の不定形剥片の先端部の両側縁部に腹面から刃部形成を行い、鋭い作業部を設ける。
73	559	部分磨製石斧	8・2	4・9	I-7	6373	軟質シルト質頁岩	0・67	偏平な礫素材を選択し、稜線部と刃部周辺に研磨を加える。素材の両側縁に整形剥離。刃部も整形剥離で形成された後、使用による刃こぼれが見られる。頭部にも整形後と見られる剥離に使用痕が重なる。
	560	楔形石器	1・9	1・0	F-9	6850	黒曜石(三鉱産)	1/1	レンズ状に整形された、上位からの加撃で半截。
	561	楔形石器	2・4	2・6	E-10	5234	黒曜石(県内産)	1/1	主に上位方向からの剥離で、先端部は反対方向からの剥離で形成される。先端左側縁は破損。
	562	楔形石器	6・2	2・0	F-5	6285	頁岩(灰黒色・軟質)	1/1	他の器種の破損品の可能性もあるが、頭部形成と先端部の状況から判断。

Ｐ122のストーン・リタッチャーについては，497は砂岩を使用し，扁平な円礫素材の両平坦面と，右側縁部に多数の線状擦痕が残されている。線刻礫的色彩もあるが，線状擦痕の状況から石器製作に関わると判断している。498は軟質の頁岩を使用したもので，円礫のほぼ全域に短い線状擦痕が残されている。擦痕は深く刻まれ，石器製作の様相を伺うことができる。500は頂部と側縁部はハンマーとして使用し，その際の剥離痕が，中央部には敲打痕が残されている。側縁部や主に裏面に多数の線状擦痕が残され，多目的に使用されたことを観察できる。

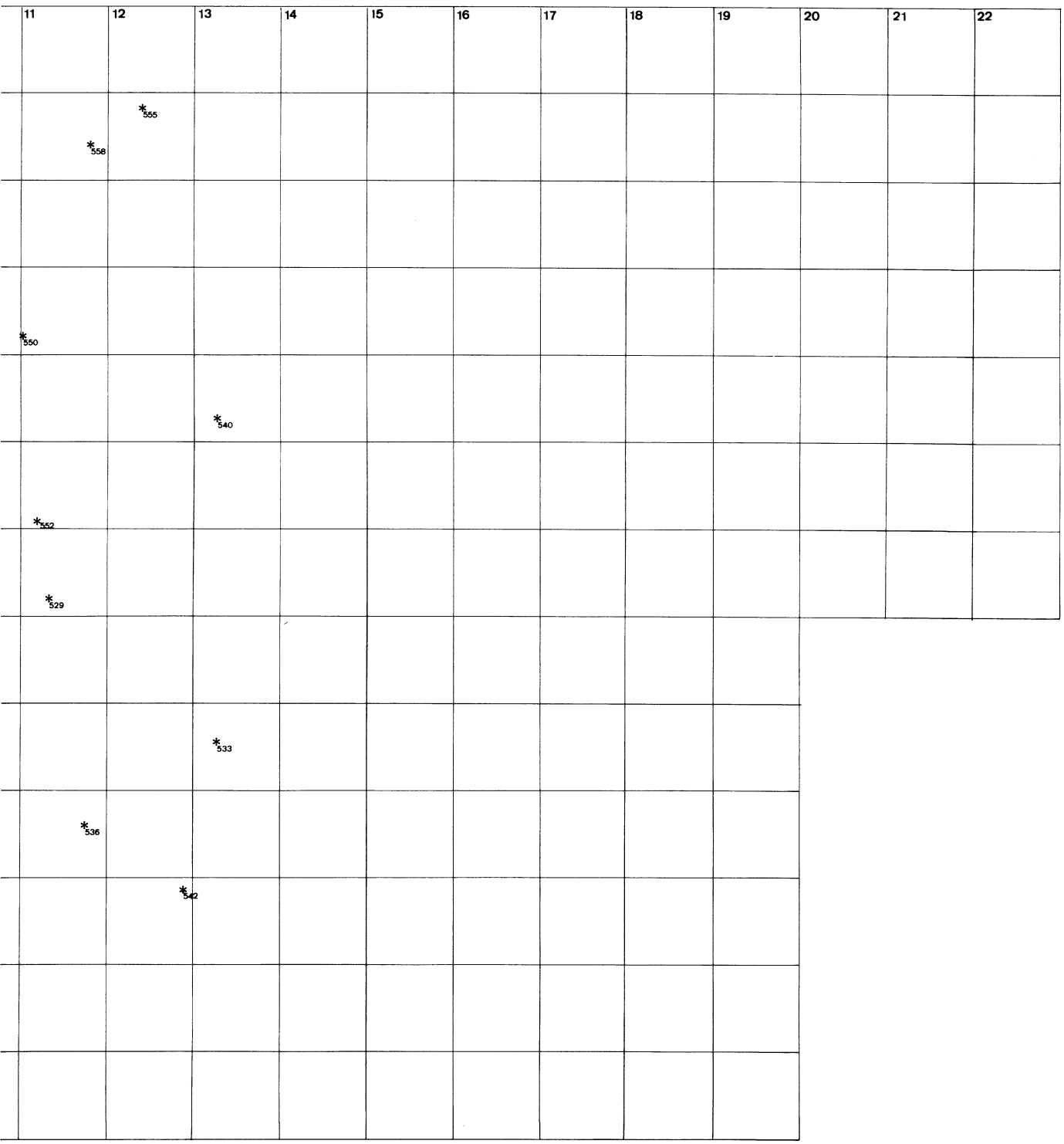
499は作図段階では線状擦痕と判断したが，石材の関係から風化と判断したほうがよさそうである。しかし，頂部と端部が潰れていることから，楔形石器的用途が推測される。

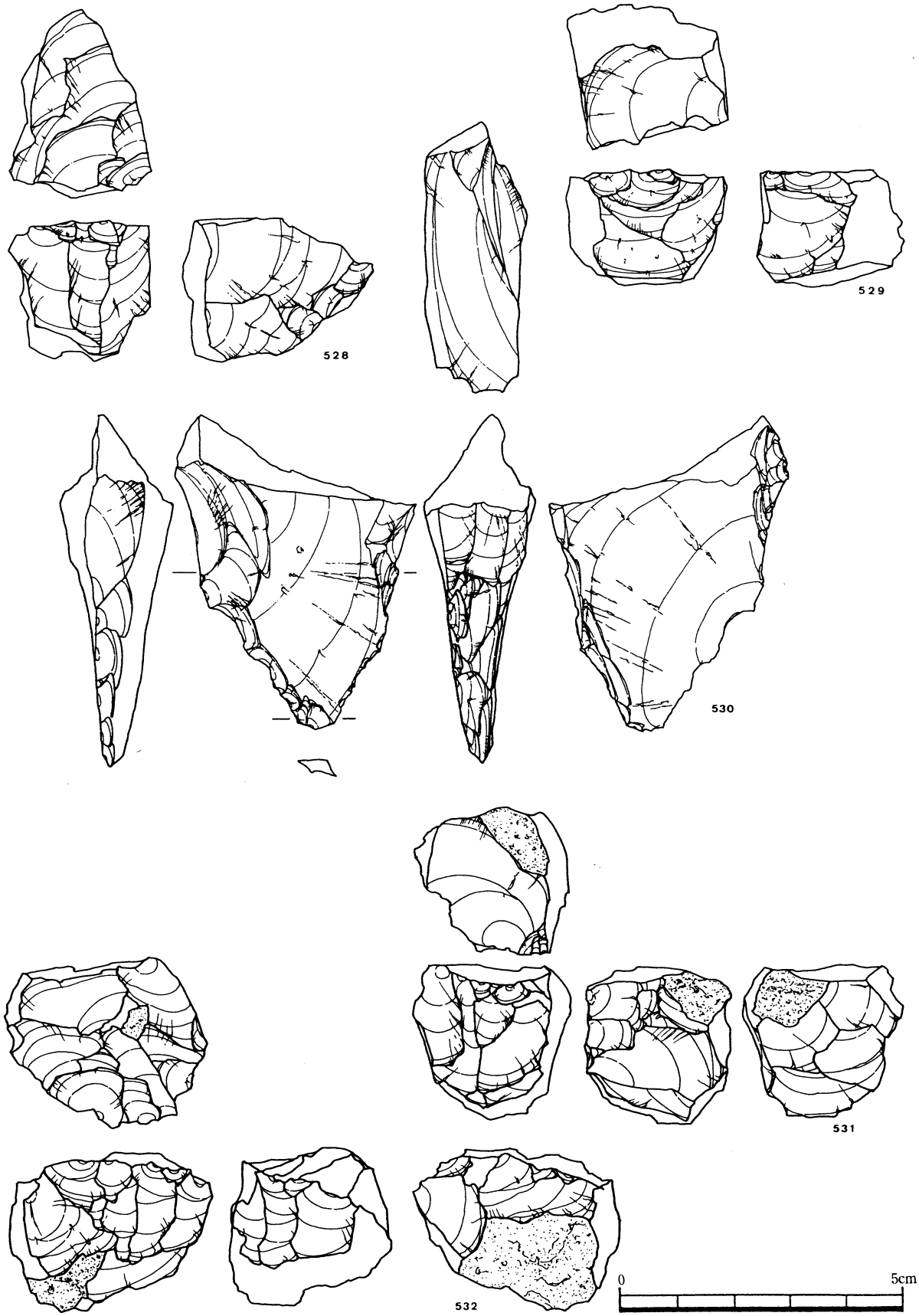


第69図　小牧３Ａ遺跡・細石器１

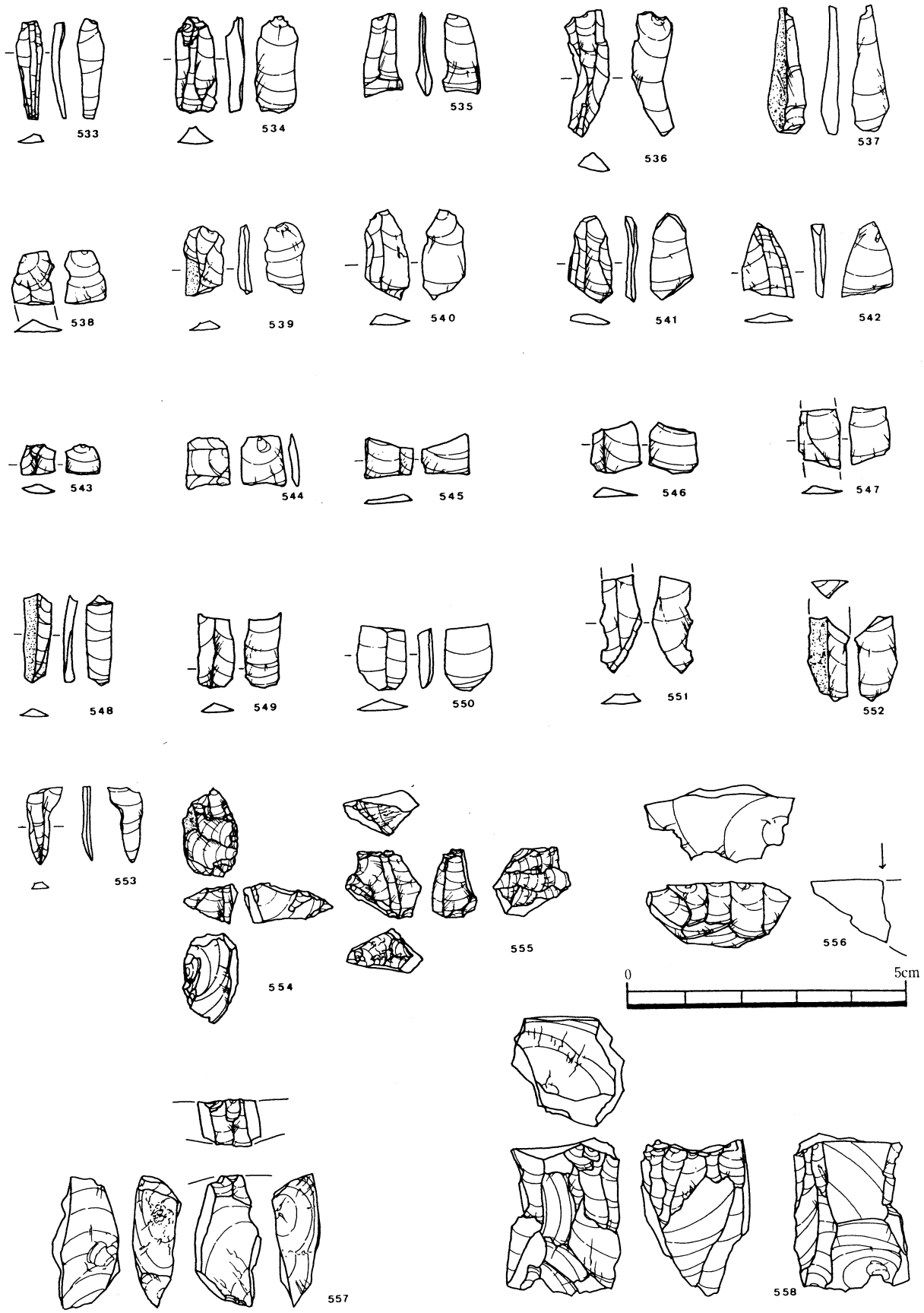


第70図　小牧３Ａ遺跡・旧石器時代（細石器出土分布図）


11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
555
558
550
540
552
529
533
536
542



第71図　小牧３Ａ遺跡・細石器２



第72図　小牧３Ａ遺跡・細石器３

表20　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（細石核・細石刃・調整剥片）

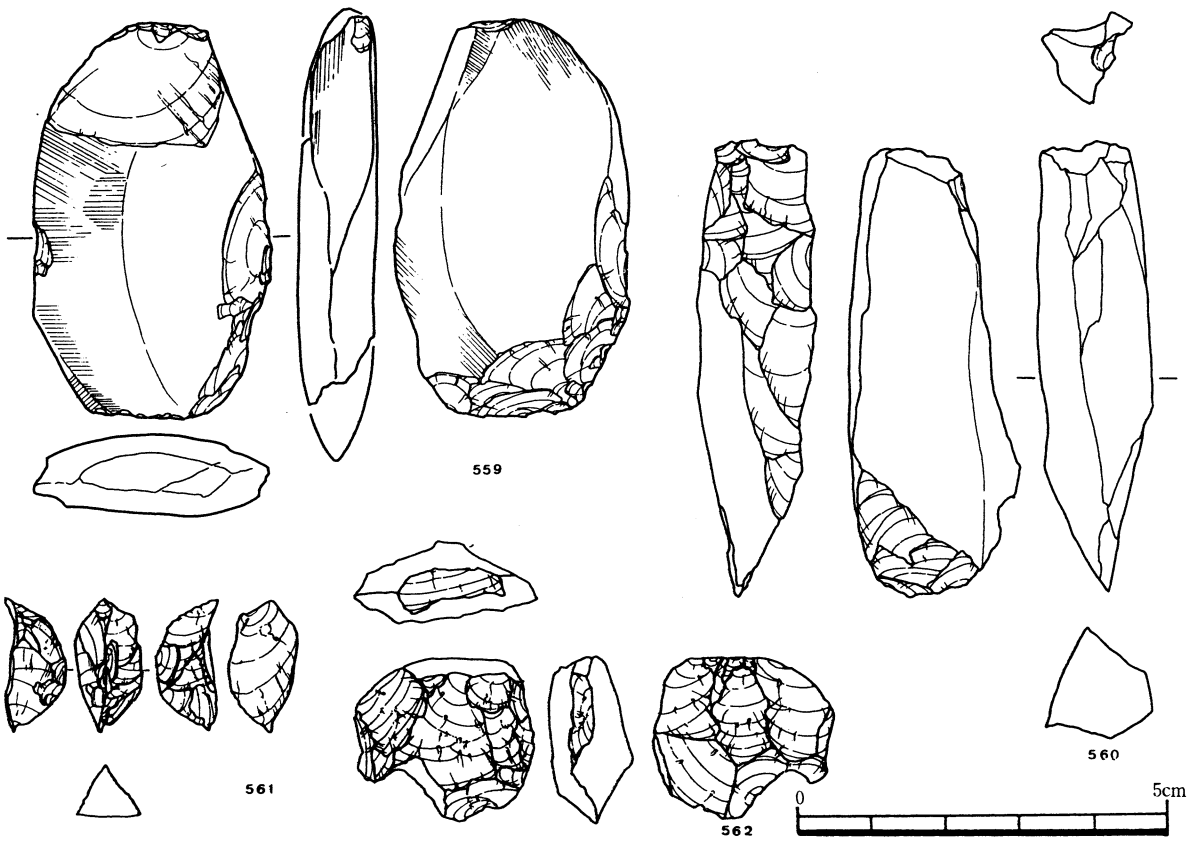
挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
70	519	細石核(楔形石器)	1·8	0·8	I-4	6426	石英(鉄石英·赤色)	1/1	細石刃剥離の作業面が残ることから分類したが、この石材に対応する細石刃は出土していない。元来、楔形石器である可能性が高い。
	520	細石核	1·6	1·1	F-5	6173	黒曜石(鮎色·良質)	1/1	細石刃剥離は打面転移。背面の横からの剥離は整形剥離。良質の素材を選択。
	521	細石核	1·8	1·0	I-3	7134	黒曜石(鮎色·良質)	1/1	剥離作業の最終段階。背面に礫皮面残す。良質の素材を選択。楔の形状。
	522	細石核	2·3	1·9	C-9		石英(瑪瑙質·赤紫色)	1/1	厚手の板状の剥片素材。右側縁奥に残る剥離面により打面設定を行い、次は右側縁の形成(ネガティブな剥離面)。打面に残る両側縁からの剥離はその後の整形剥離。打面先端部の小剥離は打面調整。左側縁からの下縁調整
	523	細石核	2·1	1·4	E-1	1651	凝灰岩(熱変性·白黄色)	1/1	打面設定後左側縁作出。右側縁と背面は礫皮面残す。広義の畝原型細石核。
	524	細石核	2·3	2·1	C-9		石英(瑪瑙質·赤紫色)	1/1	板状の角礫を分割。同一の単設打面を用い正面と背面に作業面設定。
	525	細石核	2·5	1·8	C-9		石英(瑪瑙質·赤紫色)	1/1	板状の角礫を分割。単設打面。背面の横からの剥離は石核整形剥離。初期の段階で剥離作業放棄。
	526	ブランク	2·3	2·3	C-9		石英(瑪瑙質·赤紫色)	1/1	板状の角礫を分割。打面右奥の剥離面が分割面。その後打面調整剥離実施。初期の時点で放棄。
	527	石核あるいは細石核	3·8	2·4	C-8	5054	砂岩(黄橙色)	1/1	板状の角礫を分割。分割面を作業面に打面は平坦な角礫皮面。縦長剥片目的の石核？。
71	528	細石核	2·4	2·6	G-4	6344	石英(乳白色灰色縞模様)	1/1 1/1	剥片素材。打面と右側縁の前後関係不明。左側縁は作業面方向からの整形剥離。
	529	細石核あるいはブランク	2·1	2·8	G-11	7444	黒曜石(上牛鼻産)	1/1	分割礫素材。背面上位に礫皮面残す。打面は平坦な分割面。側縁整形は打面から。
	530	細石核	4·5	4·1	D-9	3596	安山岩(灰色)	1/1	横剥剥片剥離の盤状剥片使用。石核整形は作業面では左側縁から整形剥離を加え、面の交差する背部は右側縁から整形剥離を行う。細石刃剥離は右から左に移動。右側縁からの打面再生加撃が最終。
	531	石核あるいは細石核ブランク	2·7	2·8	B-9	8358	石英(瑪瑙質·赤紫色)	1/1	分割礫素材。打面は平坦な分割面。右側縁の剥離面が先行。
	532	細石核	2·7	3·6	C-9		石英(瑪瑙質·赤紫色)	1/1	分割礫素材。先行する作業面を打面に転換。
72	533	細石刃	1·8	0·5	I-13	7613	黒曜石(灰·透明交互)	1/1	完形品。この石材に対応する細石核無し。
	534	細石刃	1·8	0·7	D-8	3546	石英(瑪瑙質·黄橙色)	1/1	完形品。この石材に対応する細石核無し。
	535	細石刃	1·4	0·7	E-8	3668	黒曜石(透明·良質)	1/1	完形品。520 ·521 の石材に近い。
	536	細石刃	2·2	0·7	J-11	7469	硬質頁岩(灰·縞模様)	1/1	完形品。この石材に対応する細石核無し。
	537	細石刃?(調整剥片)	2·2	0·7	C-9		石英(瑪瑙質·黄橙色)	1/1	完形品。この石材に対応する細石核無し。
	538	細石刃	1·0	0·7	C-10	3283	黒曜石(三紫産)	1/1	折断。頂部残存。
	539	細石刃	1·2	0·7	G-8	8441	石英(瑪瑙質·赤紫色)	1/1	折断。頂部残存。524 細石核と同一の石材。
	540	細石刃	1·5	0·8	E-13	3878	黒曜石(上牛鼻産)	1/1	折断。頂部残存。529 細石核と同一の石材。
	541	細石刃	0·5	0·9	E-9	3627	安山岩(黒色)	1/1	折断。中間部残存。
	542	細石刃	1·3	0·9	K-12	14		1/1	折断。頂部残存。
	543	細石刃	0·6	0·6	I-3	8049	黒曜石(透明度高い)	1/1	折断。頂部残存。良質の石材。
	544	細石刃	0·9	0·8	E-8	3658	黒曜石(透明度高い)	1/1	折断。頂部残存。良質の石材。打点移動。
	545	細石刃	0·8	0·9	D-7	7399	黒曜石(透明度高い)	1/1	折断。中間部残存。良質の石材。
	546	細石刃	0·9	0·9	B-9	8350	黒曜石(透明度高い)	1/1	折断。中間部残存。良質の石材。
	547	細石刃	1·1	0·7	G-5	7065	黒曜石(透明度高い)	1/1	折断。中間部残存。良質の石材。
	548	細石刃	1·6	0·5	G-5	8108	黒曜石(透明度高い)	1/1	折断。頂部欠落。良質の石材。
	549	細石刃	1·3	0·6	D-3	8535	黒曜石(透明度高い)	1/1	折断。頂部欠落。良質の石材。
	550	細石刃	1·2	0·9	D-11	3481	砂岩(黄橙色)	1/1	折断。先端部存。527 の細石核と同一石材。
	551	細石刃	1·7	0·9	D-9	3388	黒曜石(透明度高い)	1/1	折断。頂部欠落。良質の石材。
	552	細石刃	1·4	0·7	F-11	8283	黒曜石(三紫産)	1/1	折断。頂部欠落。
	553	細石刃	1·4	0·6	C-9		石英(瑪瑙質·赤紫色)	1/1	折断。先端部残存。524 細石核と同一の石材。
	554	打面再生剥片	1·7	1·0	F-5	6176	黒曜石(透明度高い)	1/1	打面左側縁からの加撃。打面調整の進んだ石核。
	555	残核	1·2	1·4	B-12	3995	黒曜石(透明度高い)	1/1	石核の最終段階。
	556	細石核	1·2	2·6	E-8	3690	石英(瑪瑙質·黄橙色)	1/1	単設打面。珪化木的様相。石核と同一の細石刃無し。

表21　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（細石核・調整剥片）

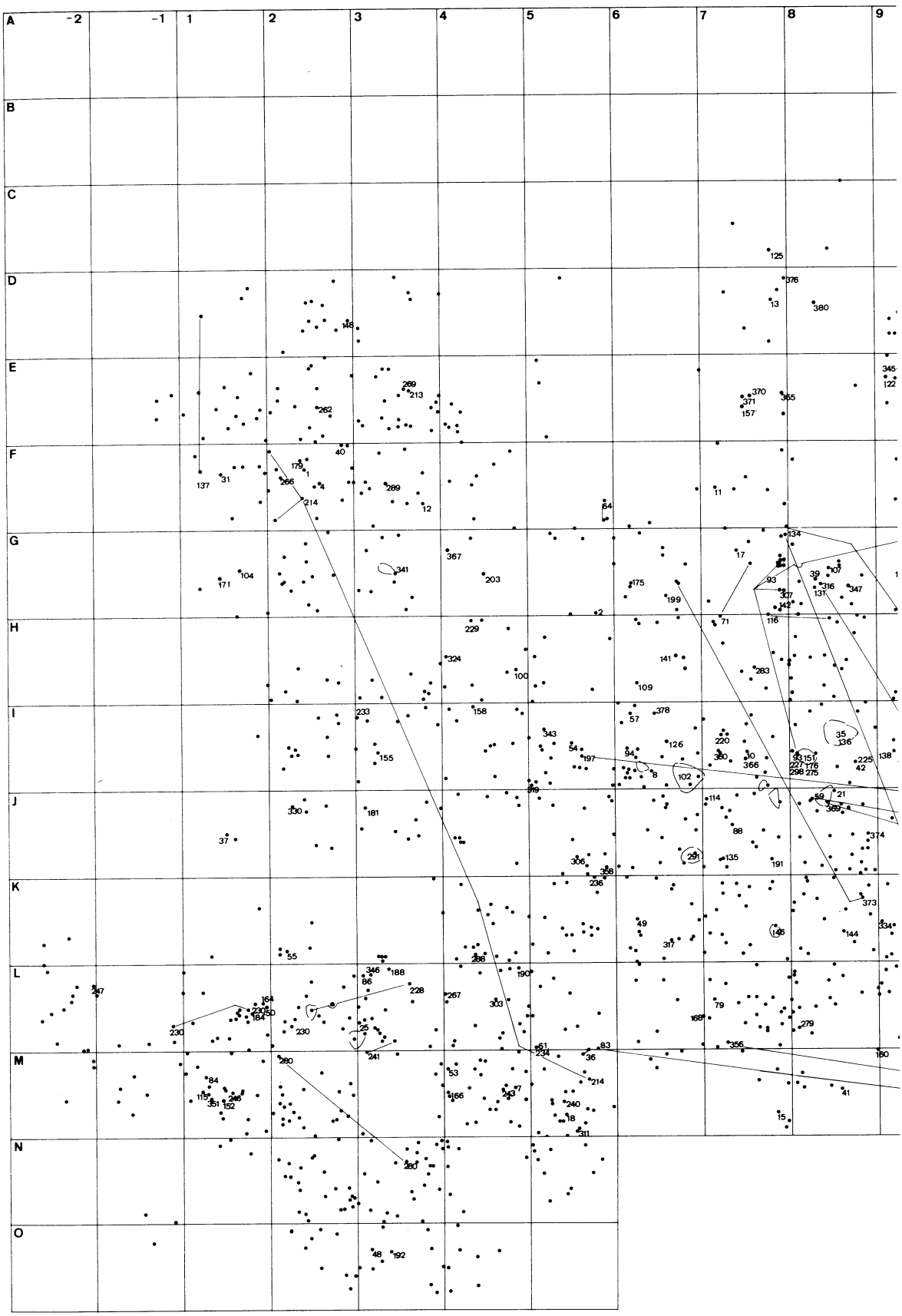
挿図	番号	器　種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備　　考
	557	打面調整剥片	2·4	1·2	M-7	8455	黒曜石(灰黒色)	1/1	背面からの加撃。石核と同一の細石刃無し。
72	558	細石核	2·8	2·0	B-11	6001	石英(濁灰・褐色)	1/1	珪化木的様相。

No.559は軟質シルト質頁岩を用いた部分磨製石斧で，最長8.6cm，幅5.1cm，厚さ1.5cm程が計測できる。扁平な円礫を素材に選択したと思われ，ほぼ全周を研磨し，左側面周辺は研磨による面取りが確認できる。頭部及び右側縁に残る剥離面は整形剥離，刃部方向の剥離は使用による剥離痕と判断できる。

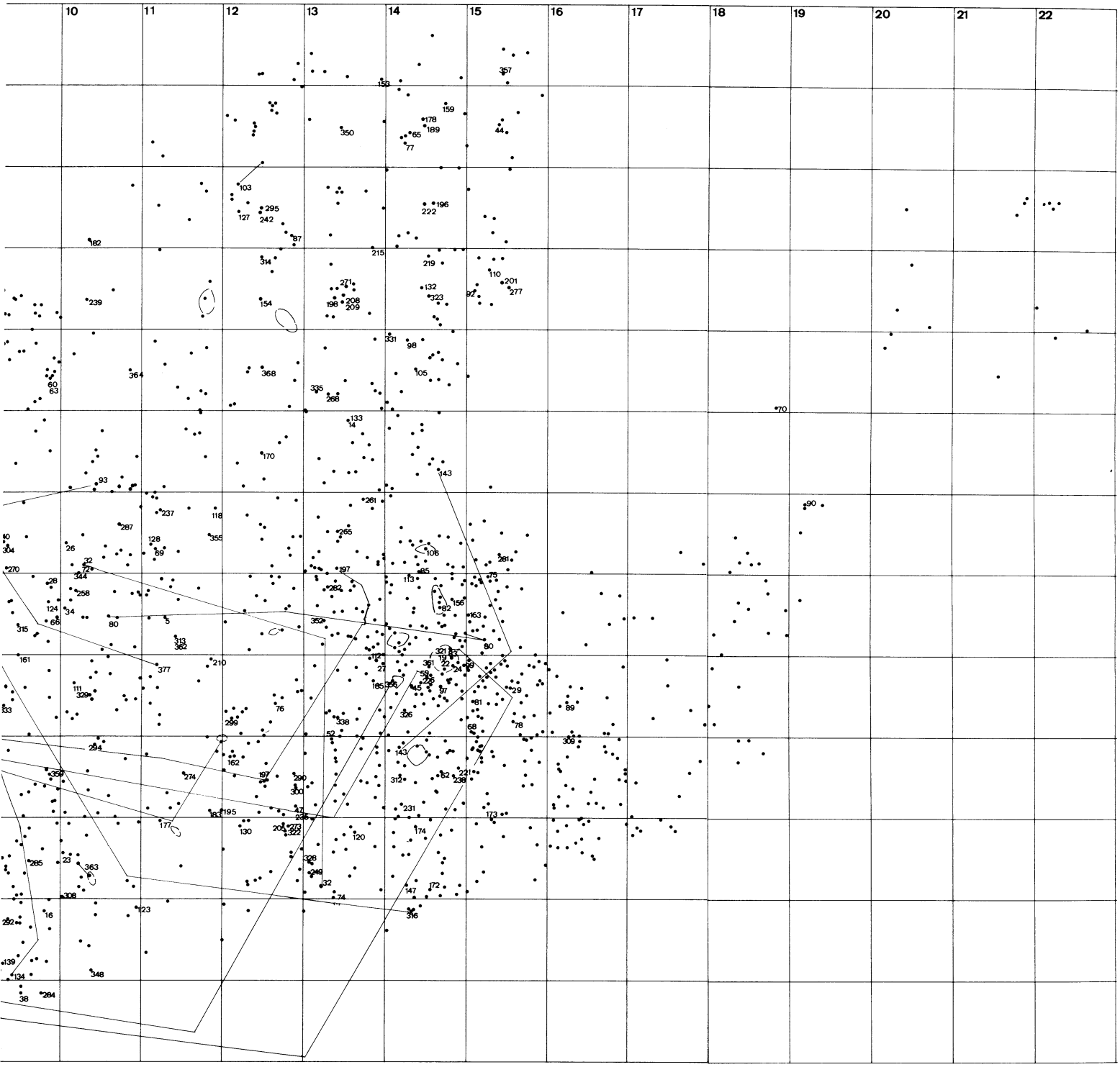
No.560はその形状及び剥離面の残存状況から，楔形石器の可能性が高いと判断される。使用石材はシルト質頁岩である。



第73図　小牧３Ａ遺跡・石斧，楔形石器



第74図　小牧３Ａ遺跡・縄文時代（土器出土分布図及び接合相関図）


10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22

第４章　縄文時代の調査

第１節　出土状況

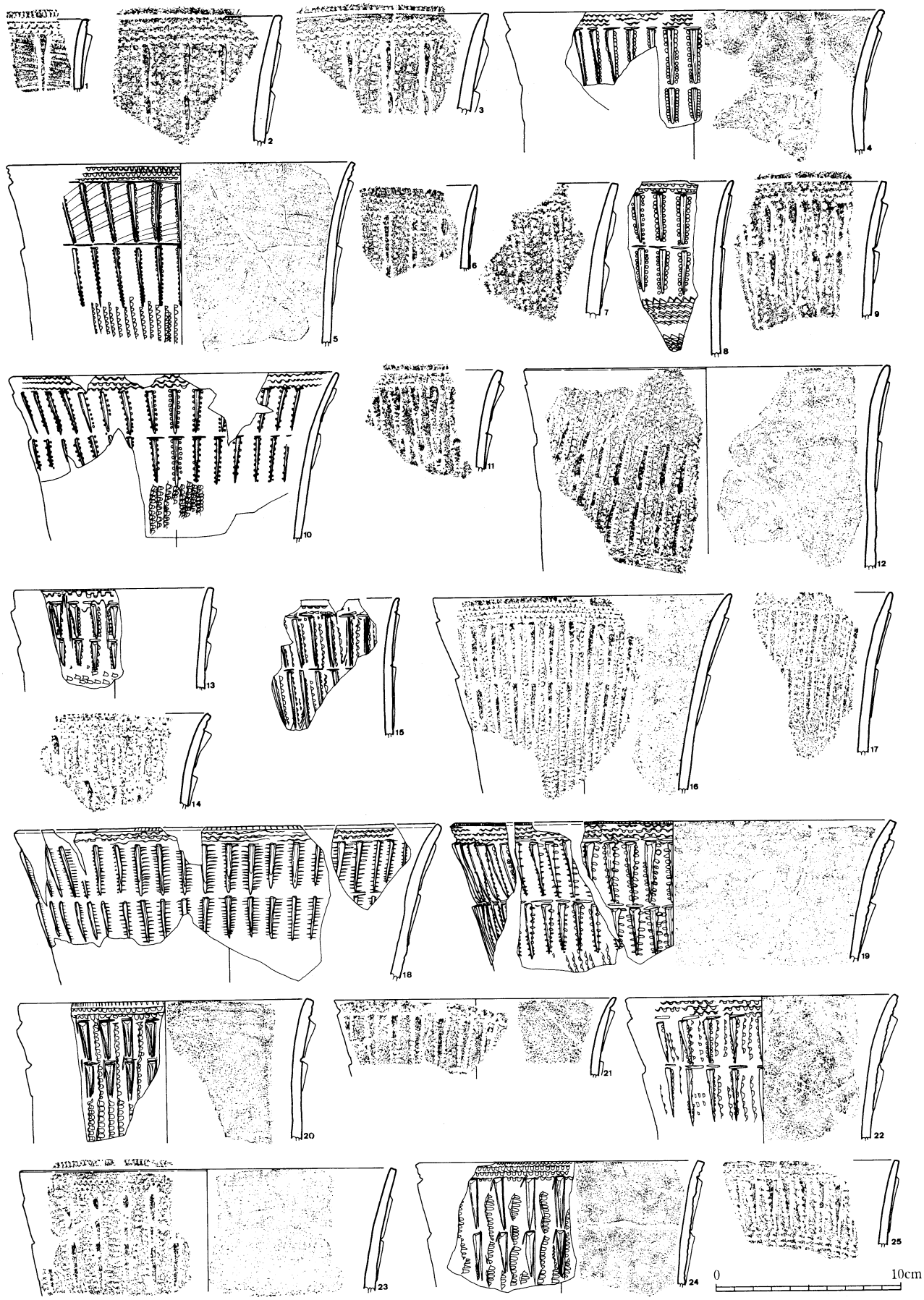
小牧３Ａ遺跡の縄文時代の遺物は，その下位の旧石器時代の遺物分布とは分布状況を若干異にしている。小牧遺跡の小丘陵のほぼ全域に分布しているが，丘陵の先端部付近まで広がっている。出土遺物は，縄文時代早期の円筒形土器を主体にそれらに伴う石器が中心となる。土器の復元接合状況を分布図から見ると，移動範囲の大きい傾向を見ることができる。本遺跡でのその移動範囲は20～30ｍは確認できる。

第２節　土器

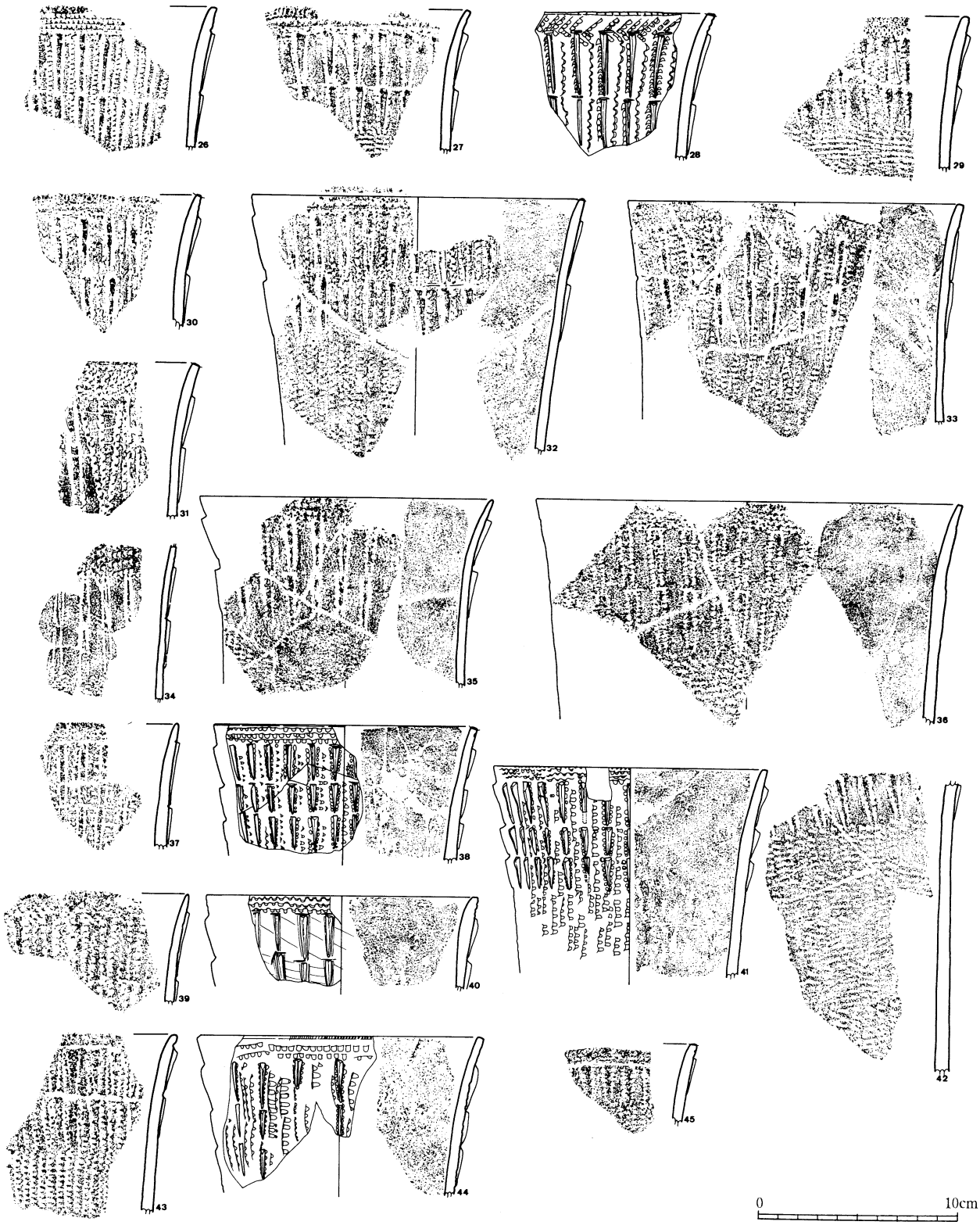
Ⅰ類土器　（Ｐ129・130・131）

加栗山遺跡で多量に出土し，加栗山Ⅳ類土器・加栗山Ⅷ類土器とされ注目された土器に相当する。その後も各地で確認されるようになり，南九州縄文時代早期文化の中で普遍的に存在することが明らかにされ，加栗山式土器と呼称できる土器群である。土器の器形は，円筒形と角筒形の２種類が存在する。

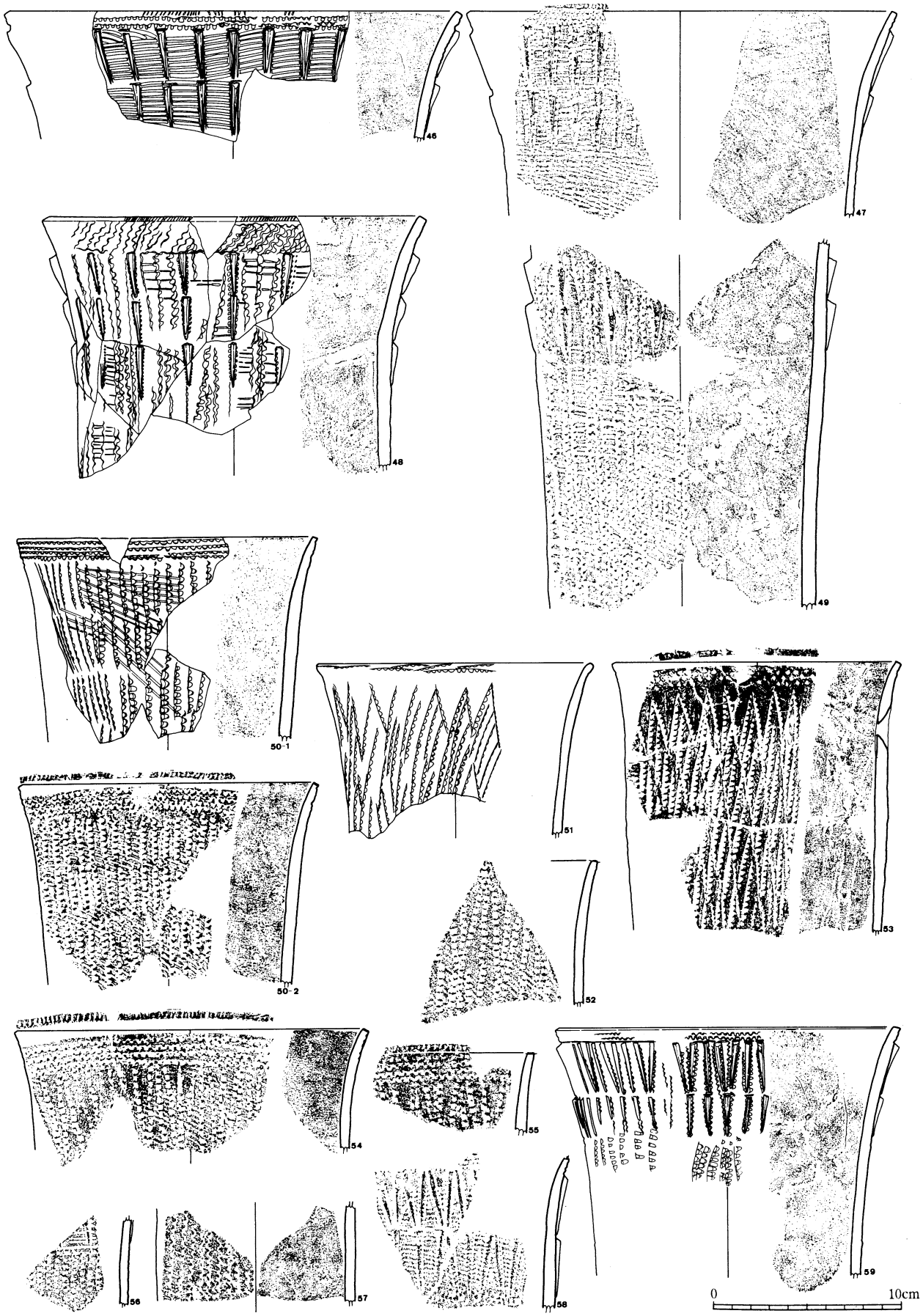
№１の器壁は５㎜程と薄く，口唇部の狭い平坦面には縦方向のヘラ刻みを密に規則的に施し，口縁端部は緩やかに外反する。器面は条痕で横方向に整形された後，口縁部直下には施文具に貝殻腹縁を用い，口縁部に並行して横位２列の貝殻刺突線文（貝殻腹縁刺突線文）が施され，更に，刺突線文の下位から縦位に楔形の隆帯文（突帯）が貼付けられている。この楔形突帯は周辺を丁寧にナデられ断面台形状を呈している。隆帯文間は２㎝と広い。№２基本的に№１と類似するが，口唇部は尖りぎみで刻みは施されない。口縁部に並行する貝殻刺突線文は３列で，楔形の突帯は２列まで残される。突帯間は広く，その間に縦位の貝殻刺突線文を，突帯に添い両側は連続して刺突点を施す。№３の突帯に添った刺突連点は棒状工具により上から下への工程が観察できる。№５焼成が極めて良質な資料で，胎土に雲母を含み，器面調整も丁寧になされ，光沢を保っている。口唇部の刻みは特に密で，楔形突帯は3･5 ㎝に及ぶ。突帯の側面・上面は丁寧にナデられ，それに添って刺突連点が丁寧に施される。胴部は，縦方向の貝殻刺突線文で飾られる。№40の器面には条痕がわずかに残り，楔形突帯の側面はヘラでナデられる。№46の貝殻刺突線文の下位は，条痕地文が明瞭に残され，焼成は極めて硬質に仕上がっている。№48の口縁部は胴部上位で外反し，口唇部は平坦面を成し，口縁部直下は腹縁で斜位に刺突される。地文に条痕を残し，楔形の突帯を間隔を広めに貼付け，その間を腹縁部の刺突線文を施し，胴部も同様である。№49の口縁部は残されていないが，Ⅰ類土器の特徴をよく示している。地文に横位の条痕を残し，楔形突帯の間隔は広めでその間をＹ字状に，胴部は縦位に整然と貝殻刺突線文を施している。楔形突帯は細く両側は腹縁部で押さえる。外面の下部に煤の付着が認められる。№50は楔形の突帯を持たないもので，条痕地文に直接貝殻刺突線文を刺突している。なお，口縁部の貝殻刺突線文は４列で口縁部を巡る。№51も地文上に直接刺突したもので，鋸歯状の刺突文が構成されている。№52地文に条痕は残されていないが，貝殻刺突線文・施文手法は踏襲されている。№53も52同様地文に条痕は残さないが，貝殻刺突線文の手法，施文構成は同じである。なお，内面の調整はヘラ削りないしは粗のヘラナデと



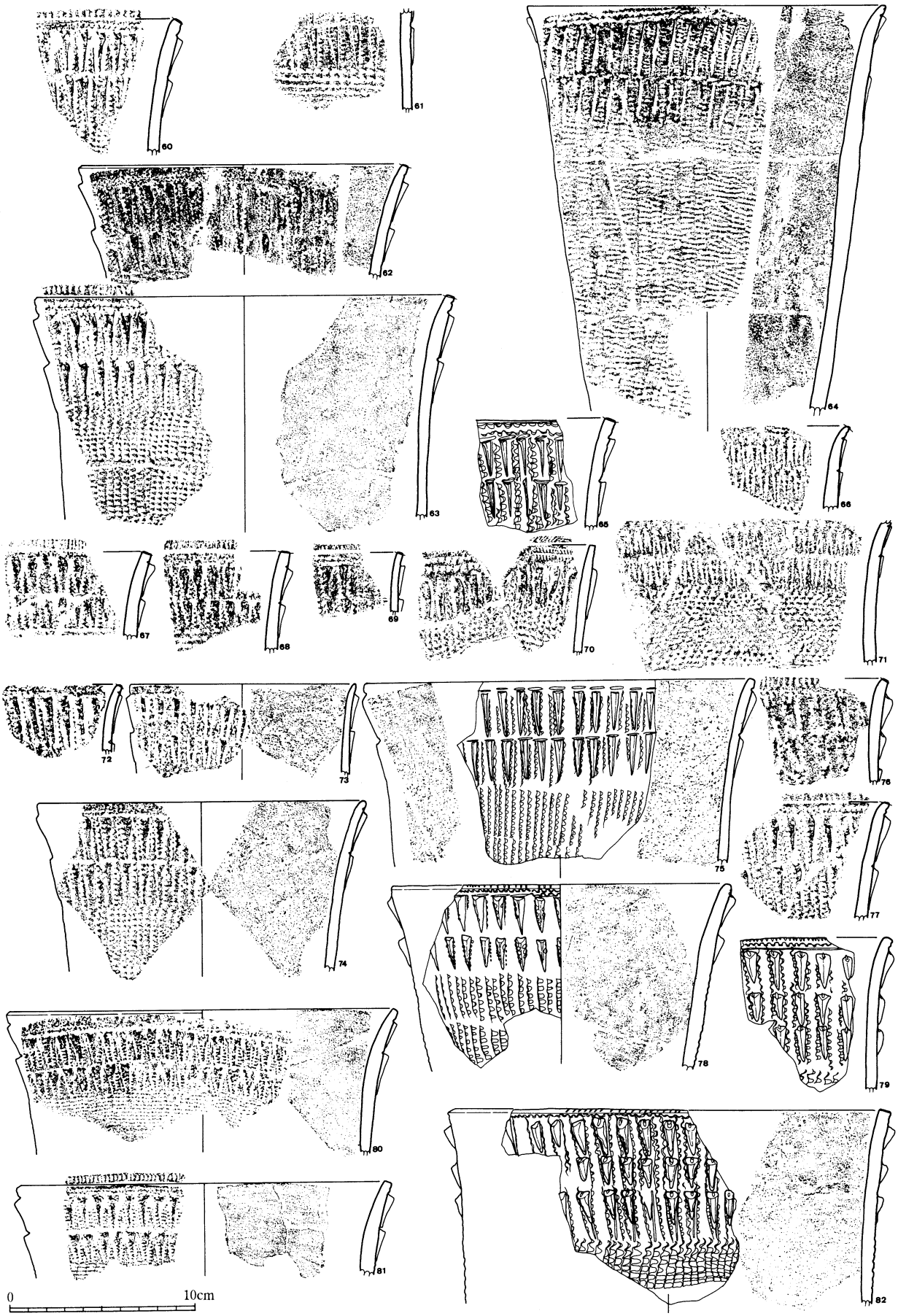
第75図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器１



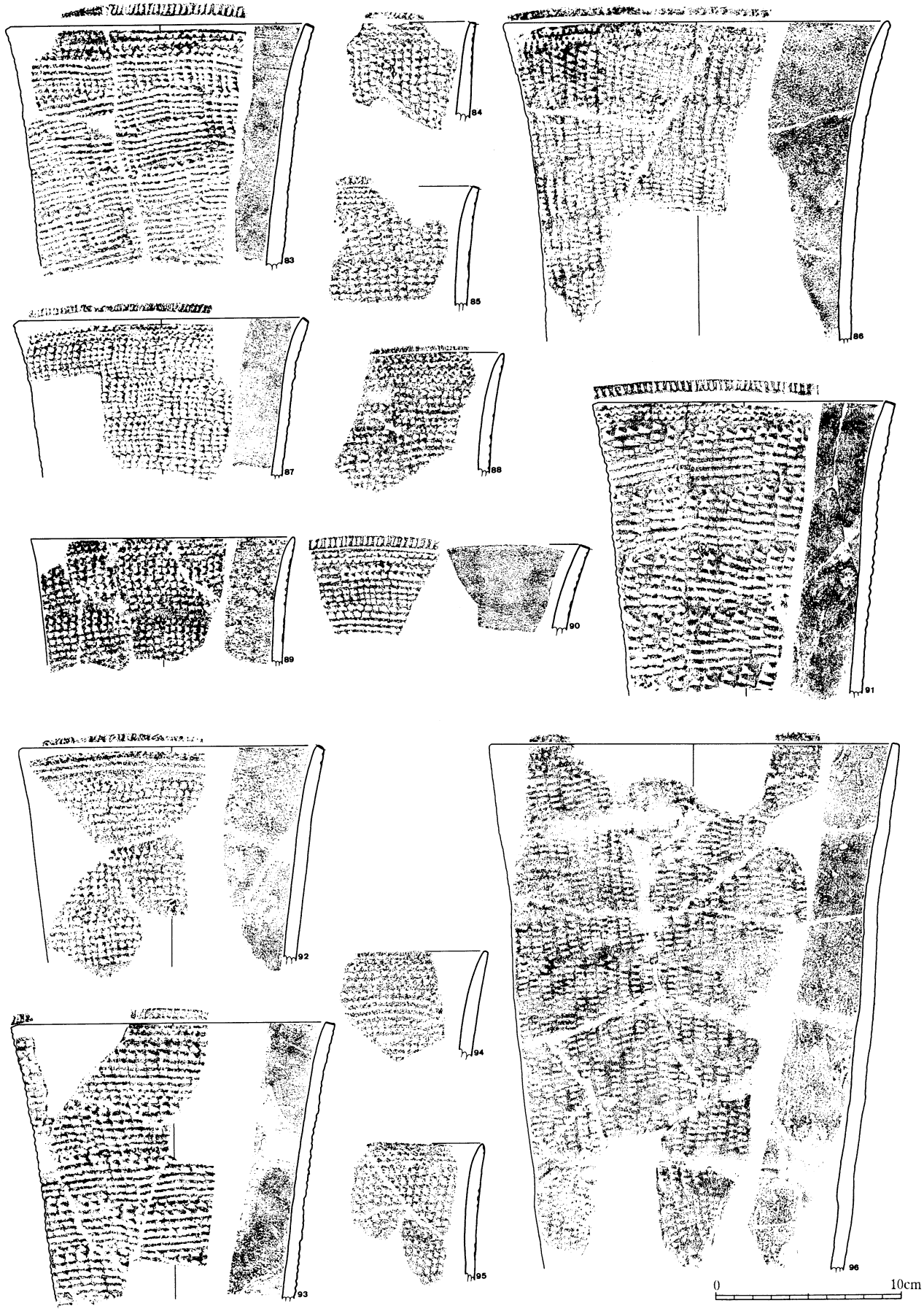
第76図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器２



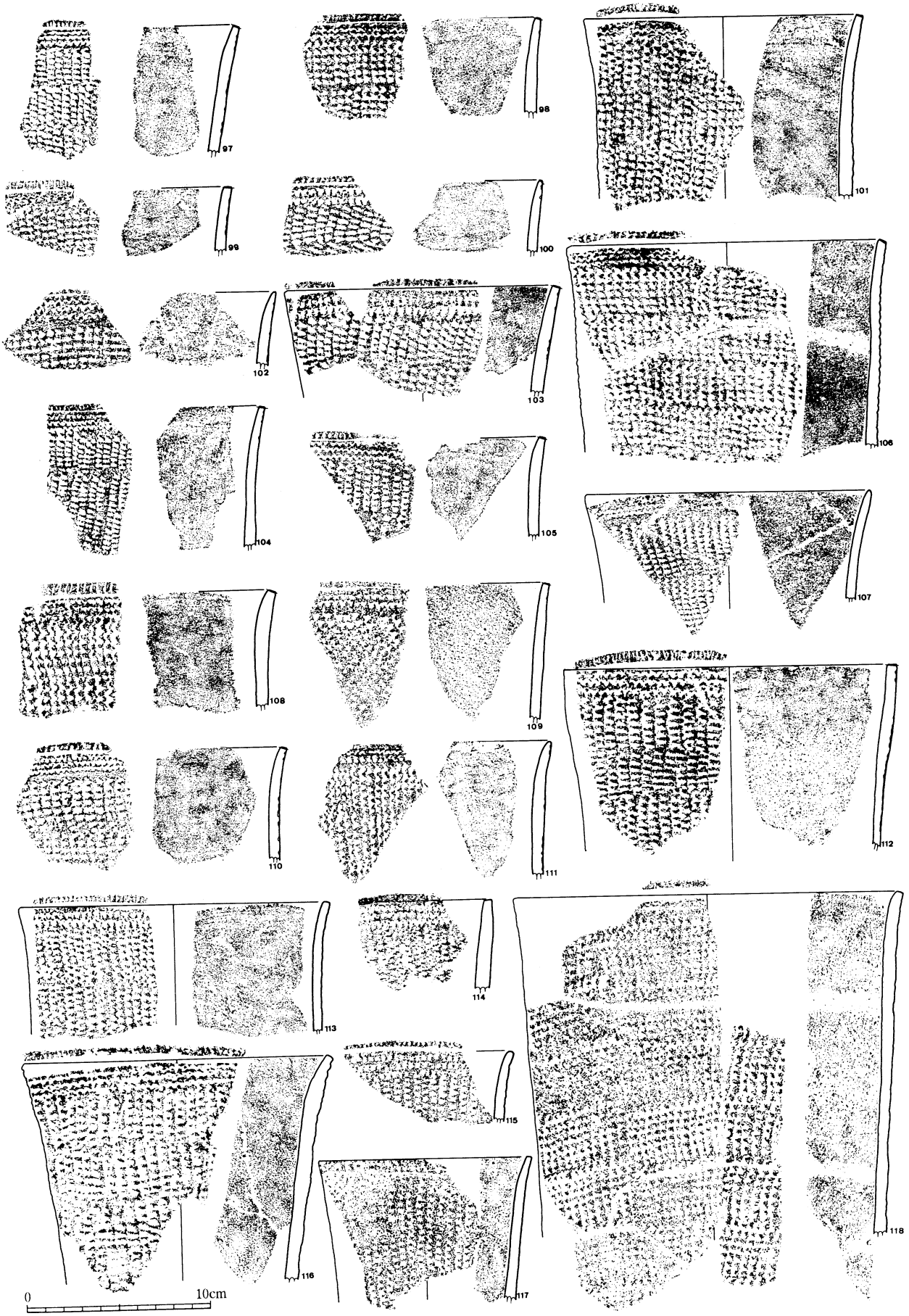
第77図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器３



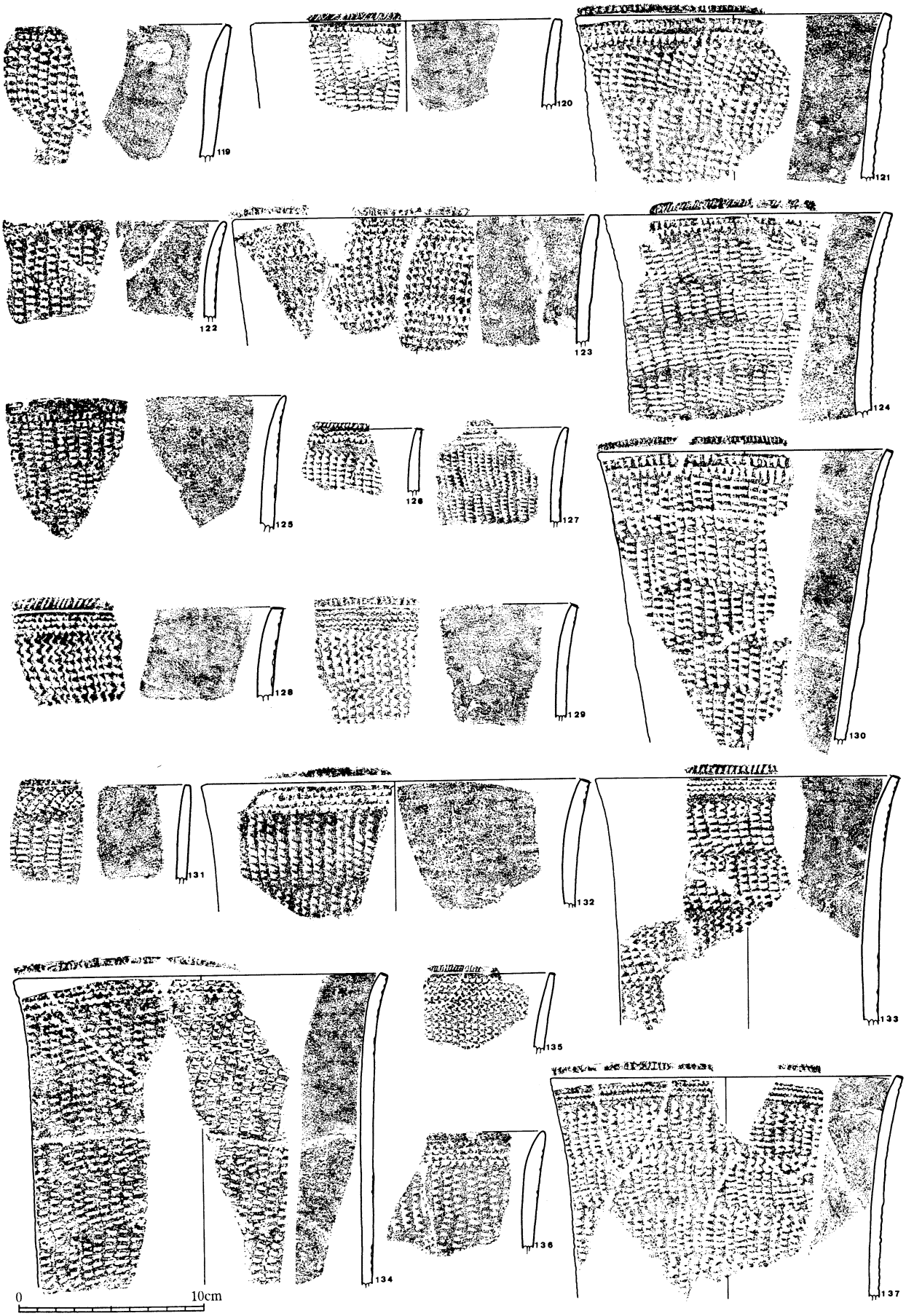
第78図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器４



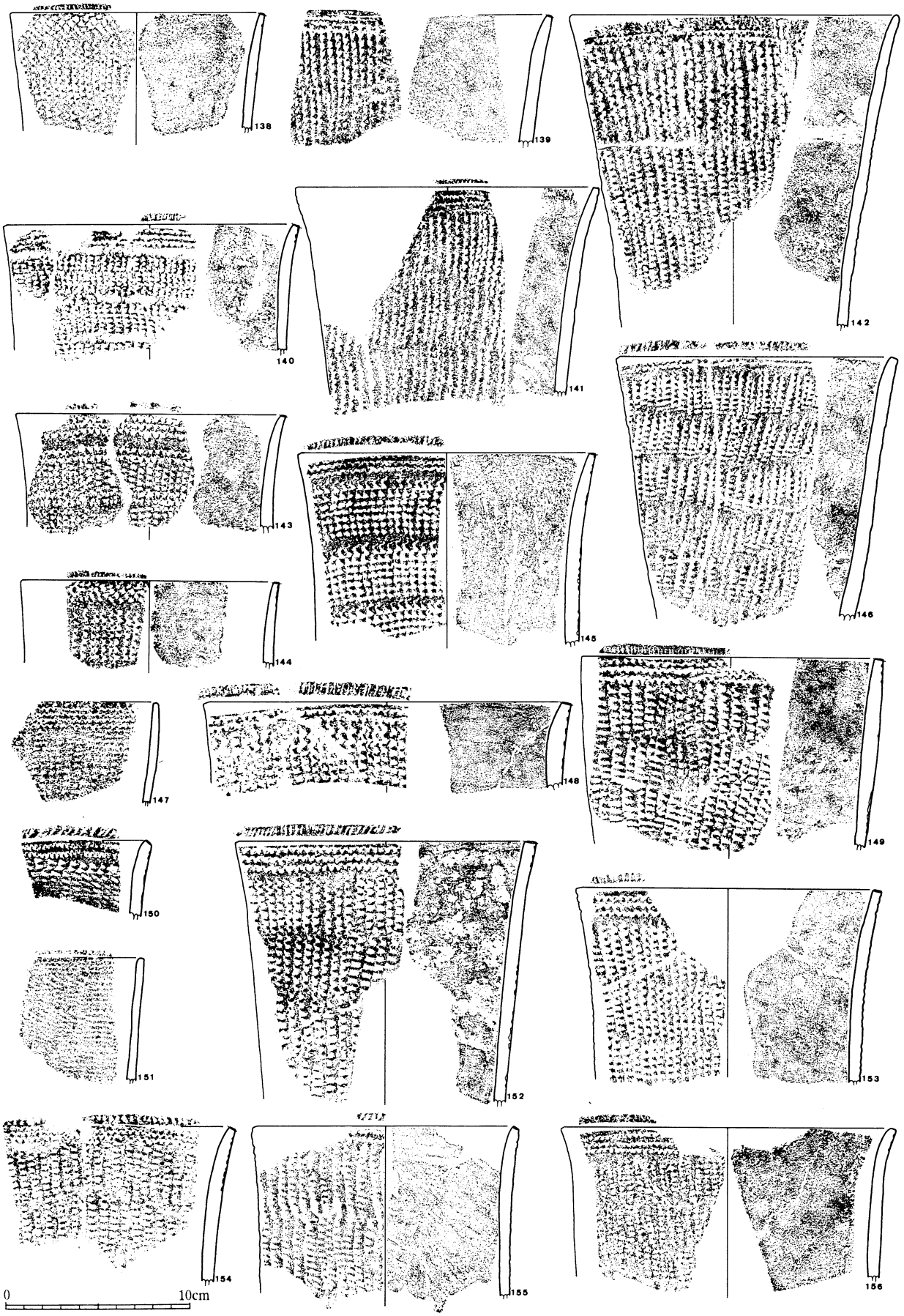
第79図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器５



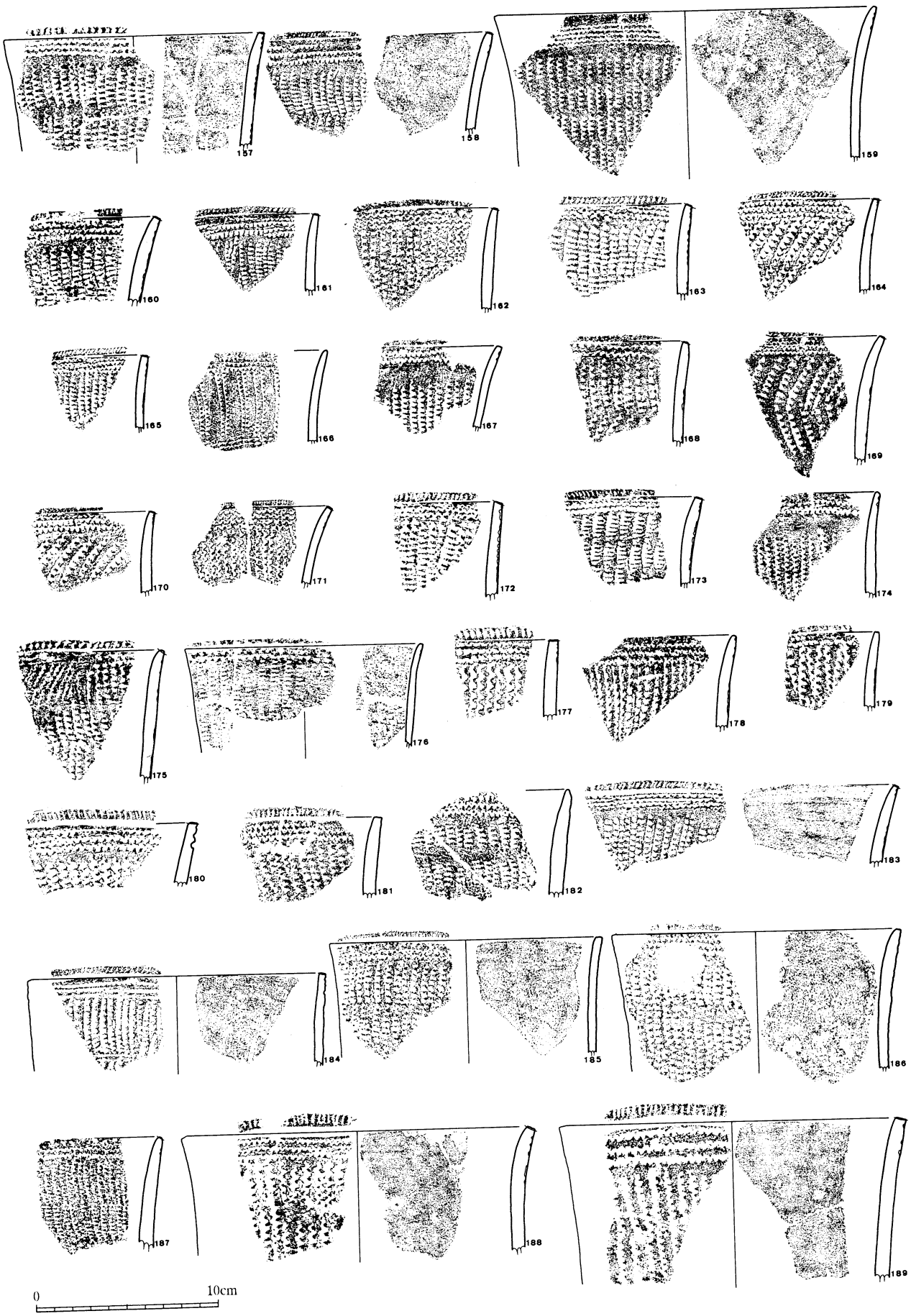
第80図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器６



第81図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器７



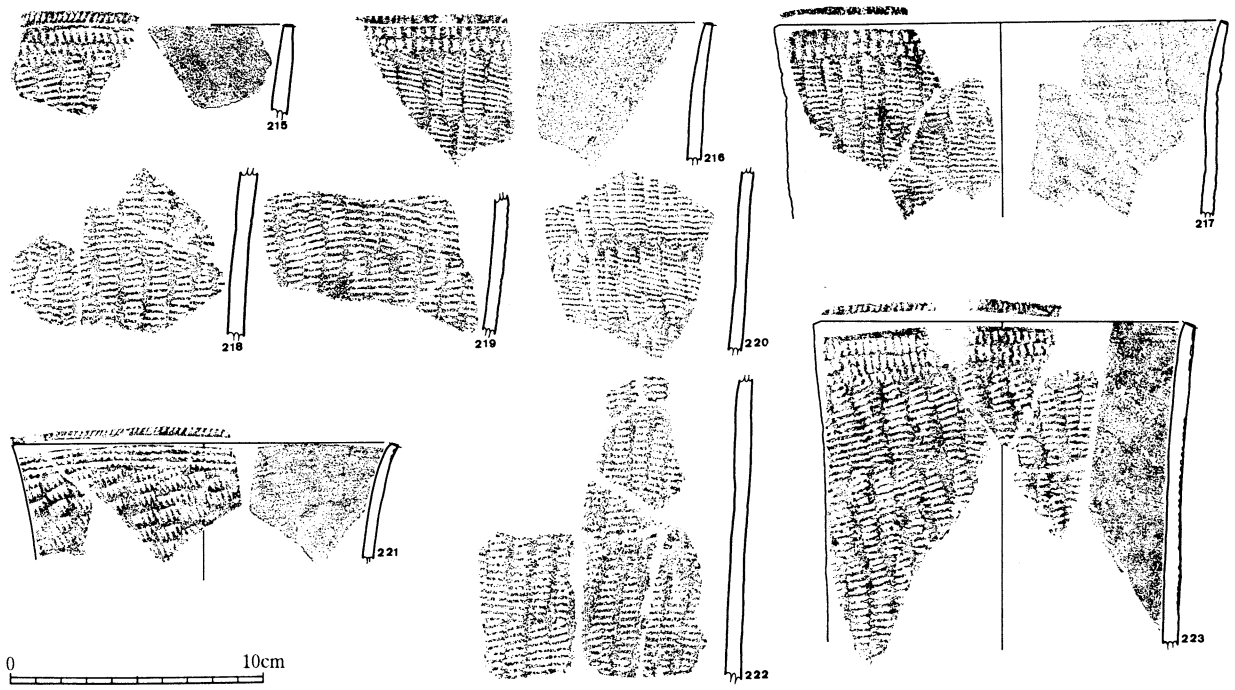
第82図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器８



第83図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器９



第84図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器10



第85図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器11

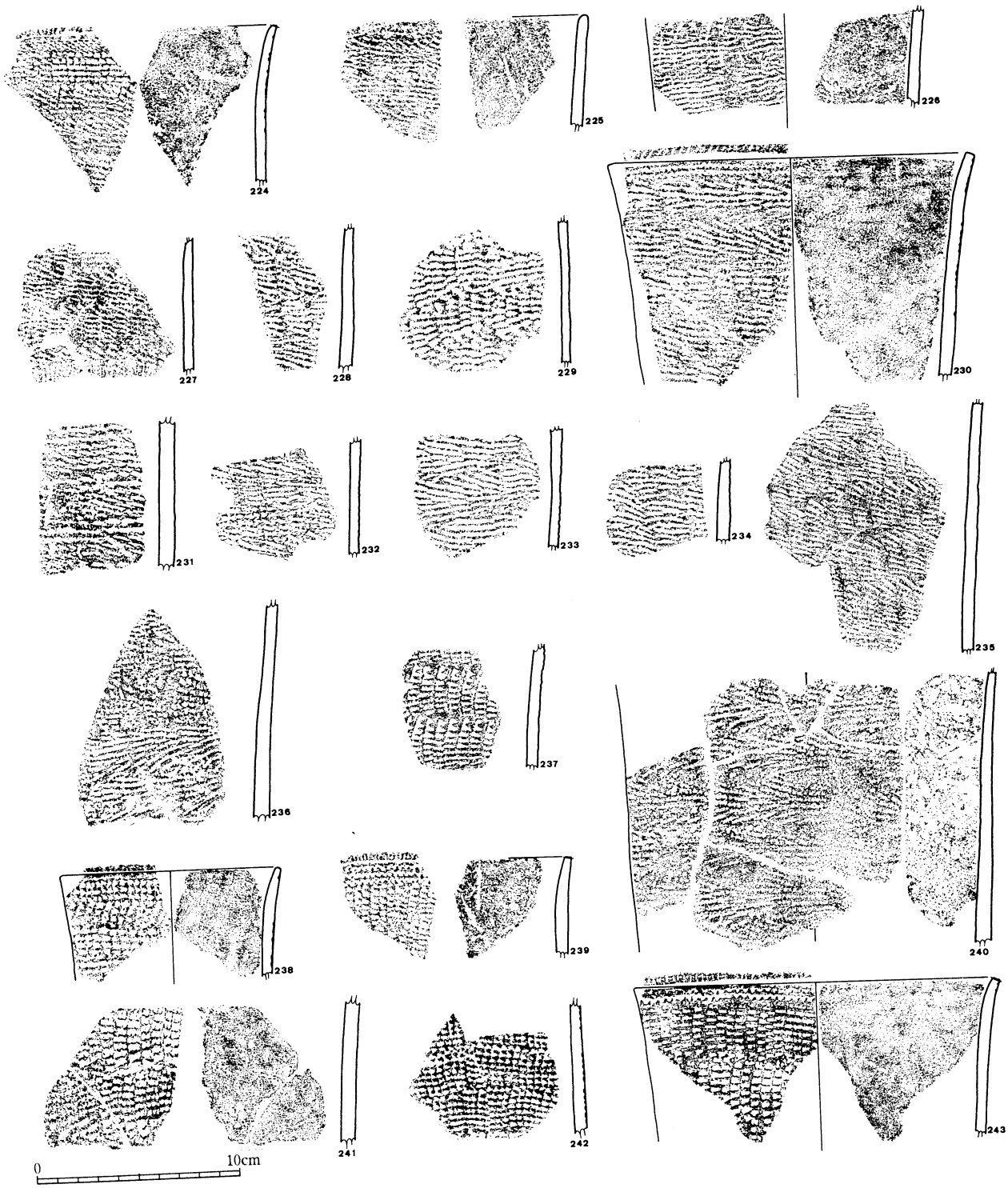
思われる。また，上位には縦長の補修孔が残される。№54は地文の条痕が残される，器壁は極めて薄く３㎜程である。また，口縁部の貝殻刺突線文は整然と４列付されている。№56の条痕地面は明瞭に残され，器壁も薄い良質な焼成で，器面は鮮やかな橙色を呈している。№57は胴部片で，条痕が明瞭である。№58の楔形突帯は上位は鋸歯状に，下位は単一と山形に付され，Ｙ字状とＸ字状を構成する。胴部は貝殻刺突線文で施文。

№257・258・259・264・265（Ｐ158）の５点は角筒形土器に相当する。角筒形土器は，形状が異なるだけで，基本的に施文方法・施文具等は円筒形土器と共通する。№257は胴部の下位に相当する資料で，斜め方向の条痕を地文とし，その上位に縦位の貝殻刺突線文を重ねている。№258は角筒形の稜部に相当し，施文手法等は変わらない。器壁の薄い良質な資料である。№259の貝殻刺突線文は並行した２本で構成する。№264は胴部下位と底部の資料で，底部接地面は方形を成すが，正方形でなく辺の中央部はやや膨らむ。底部内面と接地面は丁寧にナデられ，側面にはヘラによる縦位の浅い沈線文が規則的に施される。№265も同一である。

Ⅱ類土器

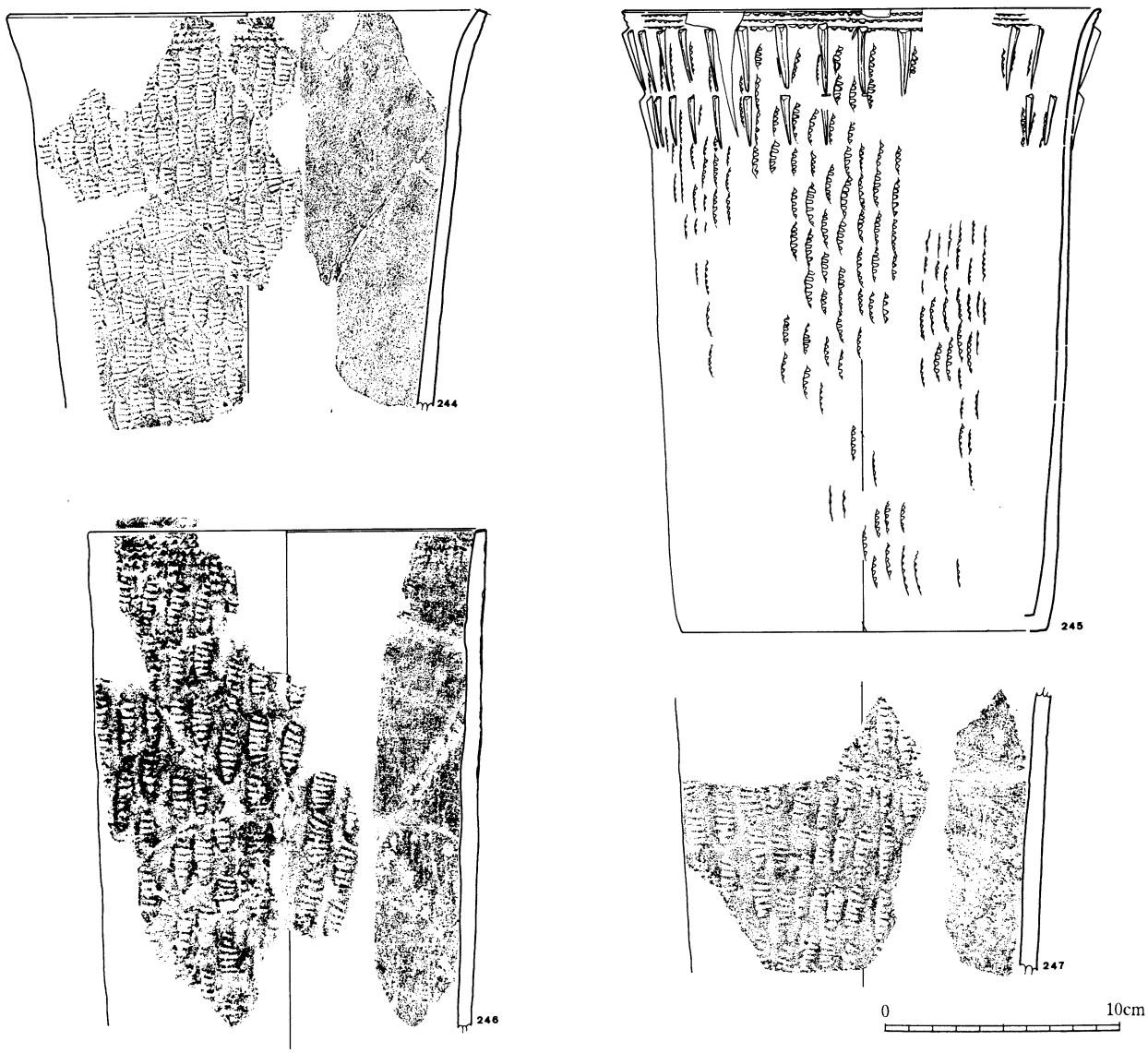
Ⅰ類土器の器面には，横あるいは斜め方向の条痕を地文として残し，胴部は貝殻腹縁刺突文で施文され，刺突線文は規則性を持ち類型化した施文が認められた。一方，ここで区分したⅡ類土器には，条痕の地文は認められず，器面は丁寧にナデて仕上げることが一般的となる。胴部の貝殻腹縁刺突線文は，器面全体に連続して密に施され，Ⅰ類土器と異なり施文等に類型化は見出せない。また，楔形突帯は細く・長く整形される傾向がある。更に，楔形の突帯を持たない器種も，器種のバリエーションとして存在する。

№４口唇部の狭い平坦部に連続した刻みを持ち，口縁部に横位３列の貝殻刺突線文を巡らし，縦位の楔形突帯を２列貼付ける。突帯間が狭く，器面調整はナデによる仕上げと判断できる。№12，楔形の突帯は細く長い，胴部は貝殻腹縁刺突文を施す。№11・13～26の胴部は全て貝殻腹縁刺突



第86図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器12

文で施文される。№19の器面は丁寧にナデられ，胴部は押し引き文が施文され，長めの楔形突帯を上下２列に貼付け，隆帯文に添い刺突線文を丁寧につける。№41の楔形突帯は３列。№59器面は丁寧にナデ仕上げた後，胴部は押し引き文で密に施文する。楔形突帯は上下２段に貼付け，上位は一つ置きにＶ字に行う。№20丁寧な器面調整が見られるもので，上下２列の楔形突帯の上位・両側縁はヘラで切られ，突帯間には貝殻刺突線文が１列付され，胴部も刺突線文で飾る。№26の楔形突帯は突帯の上位をヘラで鋭く横に切られる。



第87図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器13

No.152 器面は丁寧にナデ仕上げがなされ，その上位に貝殻腹縁刺突線文が左から右方向へ整然と付される。口唇部や口縁端部の刺突線文等の施文規制は，楔形突帯を持つものと変わらない。No.153 ・154 も同じである。No.169 はくの字状に，重ねている。

これまでの胴部施文は口縁部に対し，縦方向に貝殻腹縁部を刺突していたが，類例は少ないが横位に使用するものも存在している。No.202 ・203 は明確な部位の特定はできないが，貝殻腹縁刺突線文を横位に使用したものである。No.205 も横位の刺突線文を持つもので，口唇部のヘラ刻み等の手法はこれまでのものと共通する。No.212 は口径９㎝の小型の鉢形土器で，貝殻腹縁部を横位に用いやや引き戻すような施文が見られる。No.208 ・209 は腹縁部を深く刺突したもので，特に，208 の器面は鮮やかな赤色を呈し，同色の顔料が使用された可能性がある。No.213 は特殊な施文を成すもので，口縁部に４～５列の貝殻刺突線文を，胴部は貝殻刺突線文を縦位に刺突するエリアと横位にするエリアに区分されている。No.214 は他に比較して厚手の器壁を持ち，縦位の貝殻刺突線文が不規則に展開する。

表22　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）１

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
75	1	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部	F-2	1392	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・角閃石	外;横位の貝殻条痕 内;丁寧なナデ	平坦な口唇部に縦方向の規則的なヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線。縦位の楔形突帯
	2	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部	G-5	6420	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・角閃石	外;横位の貝殻条痕 内;丁寧なナデ	口唇部は尖りぎみで刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線。縦位の楔形突帯、突帯間に縦位の複数の貝殻刺突線。突帯の間隔広い。
	3	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・角閃石	外;横位の貝殻条痕 内;丁寧なナデ (ヘラナデ?)	狭い平坦な口唇部、ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線。縦位の楔形突帯。突帯間に縦位の複数の貝殻刺突線。突帯の間隔広い。
	4	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	F-2	1397	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英	外;ナデ 内;丁寧なナデ	狭い平坦な口唇部に斜位のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線。縦位２列の楔形突帯、上位が長い。突帯に添い縦位の貝殻刺突線。突帯の間狭い。口縁部は外反。復元口径20･7cm。
	5	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部	H-11	1192	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・雲母	外;斜位の貝殻条痕 内;ヘラナデ	狭い口唇部に縦方向の規則的なヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線。縦位の楔形突帯、突帯に添い縦位の貝殻刺突線。突帯の間隔はやや広め。外面に煤付着。焼成は極めて堅致。胴部は縦位の貝殻刺突線文。復元口径18･7cm。
	6	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英	外;横位の貝殻条痕 内;丁寧なナデ	狭い平坦な口唇部、ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線。縦位の楔形突帯。突帯間に縦位の複数の貝殻刺突線。突帯の間隔広い。
	7	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部	M-4	2169	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・少量の角閃石	外;横位の貝殻条痕 内;丁寧なナデ	平坦な口唇部、刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線。縦位の楔形突帯。突帯間に縦位の複数の貝殻刺突線。突帯の間隔広い。器壁やや厚手、大型土器？。内面にタール状の付着物。
	8	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-6	1509	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・赤色粒	外;ナデ 内;丁寧なナデ	やや尖りぎみの口唇部、ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線。縦位の楔形突帯。突帯に添い縦位の貝殻刺突線。突帯の間隔やや広い。口縁部外反。胴部は密な連続押し引き。
	9	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・少量の赤色粒	外;ナデ 内;丁寧なナデ	狭い平坦な口唇部に、縦方向の規則性のあるヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線。縦位の楔形突帯。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯間に斜位の複数の貝殻刺突線。突帯の間隔広い。
	10	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	I-7		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・少量の角閃石 焼成やや軟弱	外;横位の貝殻条痕 内;丁寧なナデ	狭い平坦な口唇部に、斜方向の規則性のあるヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線。縦位の楔形突帯。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯に添い貝殻刺突線文。突帯の間隔広い。胴部は貝殻腹縁による連続押し引き。口径18･1cm。
	11	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	F-7	208	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・少量の角閃石・少量の赤色粒、焼成やや軟弱	外;横位の貝殻条痕 内;丁寧なナデ	狭い平坦な口唇部に、縦方向の規則性のあるヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線。縦位の長い楔形突帯。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯に添い貝殻刺突線文。突帯の間隔広い。
	12	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	F-3	1346	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・少量の雲母	外;ナデ 内;丁寧なナデ	狭い平坦な口唇部に、縦方向の規則性のあるヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。縦位の長い楔形突帯。突帯間に縦位の貝殻刺突線文。突帯の間隔広い。胴部は縦位の貝殻刺突線文。復元口径20･0cm。
	13	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	D-7	5615	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英	外;ナデ 内;丁寧なヘラナデ	狭い平坦な口唇部に、縦方向の規則性のあるヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。縦位の楔形突帯。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯に添い縦位の貝殻刺突線文。突帯の間隔広い。復元口径11･0cm。
	14	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	F-13	682	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英	外;ナデ 内;丁寧なヘラナデ	狭い平坦な口唇部に、縦方向の規則性のあるヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。縦位の楔形突帯。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯間に縦位の貝殻刺突線文。突帯の間隔広い。

表23　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）２

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
75	15	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	M-7	8456	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英 焼成やや軟弱	外;ナデ 内;丁寧なナデ	狭い平坦な口唇部、ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。縦位の長い楔形突帯、突帯間に縦位の貝殻刺突線文。
	16	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	L-9	1285	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部は尖りぎみでヘラ刻み。口縁部直下に横位４列の貝殻刺突線文。縦位の長い楔形突帯、突帯間に縦位の貝殻刺突線文。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯の間隔広い。胴部は貝殻腹縁刺突線文。口縁部は外反。復元口径15・9cm。
	17	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	G-7	1434	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部は尖りぎみでヘラ刻み無し。口縁部直下に横位２～３列の貝殻刺突線文。縦位の長い楔形突帯。突帯間に縦位の複数の貝殻刺突線文。突帯の間隔広い。外面に煤付着。口縁部外反。
	18	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	M-5	2189	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部はやや尖りぎみヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。縦位２列の長い楔形突帯。突帯に添い縦位の櫛歯状の貝殻刺突線文。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯の間狭い。口縁部は外反。胴部は斜位の押し引き。口径23・3cm。
	19	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	H-14 I-14	1005	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・雲母を多量に含む	外;丁寧なナデ 内;ヘラナデ	平坦な口唇部に縦方向の規則的なヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。縦位の長い楔形突帯、突帯に添い縦位の貝殻刺突線文。突帯の間隔はやや広め。楔の上位はヘラで横に刻む。焼成は極めて堅致。胴部は縦位の貝殻刺突線文。復元口径24・3cm。
	20	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・赤色粒	外;ナデ 内;丁寧なナデ	やや傾斜する平坦な口唇部でヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。縦位の長い楔形突帯。突帯間に縦位の貝殻刺突線文。突帯に添い沈線文。突帯の間隔広い。胴部は縦位の貝殻刺突線文。復元口径16・1cm。
	21	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	J-8	1462	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英	外;ナデ 内;ナデ	やや尖る口唇部、刻み無し。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。縦位の長い楔形突帯。突帯に添い縦位の貝殻刺突線文。突帯の間隔広い。器壁薄い。復元口径15・4cm。
	22	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	H-14 I-14	1005	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・赤色粒 焼成は堅致	外;ナデ 内;丁寧なナデ	平坦な口唇部に細いヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。縦位の長い楔形突帯。突帯間に縦位の複数の貝殻刺突線文。突帯の間隔やや広い。口縁部外反。
	23	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	K-10	1290	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英	外;ナデ 内;ヘラナデ	狭い平坦な口唇部に、縦方向の規則性のあるヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。縦位の長い楔形突帯。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯間に斜位の複数の貝殻刺突線文。突帯の間隔広い。復元口径20・7cm。
	24	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	I-14	2729	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・少量の角閃石 焼成極めて堅緻	外;ナデ 内;丁寧なナデ	狭い平坦な口唇部に、縦方向の規則性のあるヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。縦位の長い楔形突帯。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯間に斜位貝殻刺突線文。突帯の間隔広い。復元口径15・2cm。
	25	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	L-3	2029	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・少量の角閃石 焼成やや軟弱	外;ナデ 内;丁寧なナデ	狭い平坦な口唇部にヘラ刻み無し。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。縦位の長い１条の楔形突帯。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯に添い貝殻刺突線文と沈線文。突帯の間隔やや広い。
76	26	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	G-10	1203	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英	外;丁寧なナデ 内;丁寧なナデ	やや尖る口唇部、ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３～４列の貝殻刺突線文。縦位の長い楔形突帯。突帯間に縦位の貝殻刺突線文、突帯に添い沈線文。楔の上位はヘラで横の刻む。突帯の間隔広い

表24　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）３

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
76	27	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-13	2549	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・角閃石 焼成；良好	外；丁寧なナデ 内；丁寧なナデ ヘラナデ	口縁部外反。狭い平坦な口唇部、ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。縦位２列の長い楔形突帯に添い棒状工具で上から下へ縦位の連続刺突文。楔の上位はヘラで横に刻む。胴部は縦位の粗の押し引き。
	28	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	H-9	5588	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英 焼成；堅緻	外；丁寧なナデ 内；丁寧なナデ	平坦な口唇部に規則性のあるヘラ刻み。口縁部直下に斜位の貝殻刺突文。縦位２列の長い楔形突帯、突帯間に縦位の貝殻刺突線文。楔に添い右は沈線文、左は上から下への縦位の連続刺突文。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯の間隔広い。胴部は貝殻腹縁刺突線文。口縁部若干外反。
	29	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-15	2755	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・赤色粒 焼成；堅緻	外；丁寧なナデ 内；丁寧なナデ	口唇部は尖りぎみでヘラ刻み無し。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。縦位２列の長い楔形突帯。突帯に添い縦位の貝殻刺突線文。突帯の間隔広い。口縁部直行。胴部に縦位の貝殻腹縁押し引き。外面に赤色の化粧土使用？。
	30	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・雲母 焼成；良好	外；ナデ 内；横位のナデ	口唇部はやや尖りぎみ規則性のあるヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。縦位２列の長い楔形突帯。突帯間に縦位の貝殻刺突線文。突帯に添い縦位の連続刺突文。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯の間広め。
	31	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部	F-1	1676	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英 焼成；良好	外；丁寧なナデ 内；ヘラナデ（口縁部付近はヨコナデ・下位はタテナデ）	平坦な口唇部に斜め方向の規則的なヘラ刻み。口縁帯は広く、上位と下位の横位の貝殻刺突線文間に斜位の貝殻刺突文。長い楔形突帯、突帯に添い縦位の刺突文、突帯間に縦位・斜位の貝殻刺突線文。突帯の間隔は広め。
	32	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	G-10 K-13	1213 1111	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラナデ（口縁部付近はヨコナデ・下位はタテナデ）	尖りぎみな口唇部，ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。縦位の長い楔形突帯。突帯間に縦位の貝殻刺突線文。突帯に添い縦位の刺突文。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯の間隔広め。胴部は縦位の貝殻刺突線文。復元口径16・4cm
	33	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英 焼成；良好	外；ナデ 内；ヨコナデ	口唇部は狭い平坦面，ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。縦位の長い楔形突帯。突帯に添い縦位の刺突文、突帯間に縦位の複数の貝殻刺突線文。突帯の間隔広い。胴部は縦位の貝殻刺突線文。器壁薄い。復元口径16・5cm。
	34	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	H-10	1232	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英 焼成は堅緻	外；ナデ 内；ナデ	口唇部無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。縦位の長い楔形突帯。突帯に添い縦位の連続刺突文。突帯の間隔広め。胴部は縦位の貝殻刺突線文。器壁薄い。
	35	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-8	1459	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・少量の角閃石 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラナデ	口縁部外反。口唇部は尖りぎみ，ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。縦位の長い楔形突帯。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯に添い縦位の連続刺突文。突帯の間隔広い。胴部は押し引き文？。器壁薄い。復元口径16・5cm。
	36	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	L-5 M-5	2159 2160	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヨコナデ	口縁部外反。口唇部は尖りぎみ，ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。縦位の長い楔形突帯は縦位に施す連続刺突の反作用で作り出される。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯の間隔広め。胴部は押し引き文。復元口径21・5cm。
	37	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	J-1	1795	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・赤色粒 焼成；やや軟弱	外；ナデ 内；ナデ	口唇部尖りぎみ，ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。縦位の長い２条の楔形突帯。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯に添い縦位の刺突文。突帯間に縦位の貝殻刺突線文。突帯の間隔やや広め。

表25　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）４

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
76	38	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	M-9	1297	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・ 焼成；良好	外；ナデ 内；ナデ （ヘラナデ）	口縁部外反。狭い平坦な口唇部、縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。縦位３列の楔形突帯に添い棒状工具で上から下へ縦位の連続刺突文。楔間に縦位の貝殻刺突線文。楔の上位はヘラで横に刻む。復元口径12・9cm。
	39	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-8	5570	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・ 焼成；良好	外；ナデ 内；ナデ	口唇部狭い平坦面，ヘラ刻み無し。口縁部直下に斜位の貝殻刺突文。縦位２列の長い楔形突帯、楔に添い上から下への縦位の連続刺突文。楔間に縦位の貝殻刺突線文。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯の間隔広め。
	40	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部	F-2	1390	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・少量の雲母 焼成；良好	外；丁寧なナデ 内；ナデ	口唇部は尖りぎみでヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３～４列の貝殻刺突線文。縦位２列の長い楔形突帯、楔に添い沈線文。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯の間隔広め。復元口径13・4cm。
	41	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	M-8		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ナデ （上位はヨコナデ 下位はタテナデ）	口唇部狭い平坦面で縦方向の規則性のあるヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。縦位３列の楔形突帯。突帯に添い縦位の上から下への連続刺突文。突帯間に縦位の貝殻刺突線文。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯の間隔広め。口縁部やや外反。胴部に縦位の貝殻刺突線文。
	42	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部	I-8	1461	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；タテのヘラナデ	縦位の長い楔形突帯。突帯に添い縦位上から下への連続刺突文。突帯の間広め。胴部は貝殻腹縁による押し引き文。内外面に赤色の化粧土使用。
	43	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒・骨片 焼成；良好	外；ナデ 内；ナデ	丸みの口唇部に縦方向の規則的なヘラ刻み。楔形突帯に添い貝殻刺突線文。突帯間も同じ縦位の刺突線文。下位の楔突帯は縦位の貝殻刺突線文の施文により規則性が失われている。突帯の間隔は広め。胴部は左から右への押し引き文。
	44	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	B-15	3033	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラナデ （口縁部付近はヨコナデ・下位はタテナデ）	口唇部平坦面に規則的な斜位のヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。縦位３列の楔形突帯。突帯間に縦位の貝殻刺突線文。突帯に添い縦位の連続刺突文。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯の間隔広め。復元口径14・0cm。
	45	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-14	2711	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；ヨコナデ	口唇部平坦面に規則的な斜位のヘラ刻み。口縁部直下に横位１列の貝殻刺突線文、その下位に沈線文。縦位の楔形突帯。突帯に添い縦位の刺突文、突帯の間隔やや広め。胴部は縦位の貝殻刺突線文
48	46	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；極めて堅緻	外；横位の貝殻条痕 内；ヨコヘラナデ	口唇部平坦面に規則的なヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。縦位の長い２列の楔形突帯。突帯に添い縦位の沈線文。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯の間隔広め。胴部は縦位の貝殻刺突線文。器壁薄い。復元口径24・4cm。
	47	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部	J-12	2461	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・雲母・黒色粒? 焼成；極めて堅緻	外；横位の貝殻条痕 内；ヘラナデ （上位はヨナデ・下位は斜めナデ）	口唇部平坦面に規則的なヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。縦位の長い２列の楔形突帯。突帯に添い上から下への縦位の連続刺突文。楔の上位はヘラで横に刻む。突帯の間隔広め。胴部は縦位の貝殻腹縁による押し引き文。器壁薄い。復元口径22・6cm。
	48	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部	O-3	1910	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；横位の貝殻条痕 内；ヘラナデ （上位はヨナデ・下位はたてナデ）	口縁部外反。口唇部平坦面に規則的なヘラ刻み。口縁部直下に斜位の貝殻刺突文。縦位の長い３列の楔形突帯。突帯に添い上から下への縦位の連続刺突文。突帯間に複数の貝殻刺突線文。突帯の間隔広め。胴部は縦位の貝殻腹縁による貝殻刺突線文。器壁薄い。復元口径19・8cm。

表26　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）５

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
	49	深鉢形土器 Ⅰ類	胴部	K-6	1490	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；貝殻条痕 内；ヘラナデ 上位はナナメナデ 下位はタテナデ	縦位の長い楔形突帯。突帯に添い棒状工具で上から下へ縦位の連続刺突文。楔間に複数の縦位の貝殻刺突線文。突帯の間隔広め。胴部も縦位の貝殻刺突線文。
	50 -1 -2	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部	L-3	8592	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；貝殻条痕 内；ヘラナデ	口唇部狭い平坦面、規則的ヘラ刻み。口縁部直下に４列の貝殻刺突線文。胴部は縦位の貝殻刺突線文。口縁部外反。復元口径15・7cm。
	51	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；ナデ	口唇部は尖りぎみでヘラ刻み無し。口縁部直下に不規則な貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文による鋸歯状組み合わせ文。復元口径14・7cm。
	52	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部	J-13	2451	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ・貝殻条痕 内；ナデ（ヨコナデ）	口唇部狭い平坦面でヘラ刻み。口縁部直下に４列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文による鋸歯状組み合わせ文。
	53	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部	M-4	2073	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；上位はヘラのヨコナデ 下位はヘラのタテナデ	口唇部狭い平坦面でヘラ刻み無し。口縁部直下に２列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文による鋸歯状組み合わせ文。縦位の穿孔。口径14・9cm。
	54	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部	I-5	1582	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?	外；貝殻条痕 内；ナデ	口唇部狭い平坦面、規則的ヘラ刻み。口縁部直下に４列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文による鋸歯状組み合わせ文。口径18・5cm。
77	55	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部	K-2	2051	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部狭い平坦面、規則的ヘラ刻み。口縁部直下に４列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文による鋸歯状組み合わせ文。54に類似。
	56	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ・貝殻条痕 内；ヨコナデ	縦位の楔形突帯。突帯に添い縦位の沈線文。突帯の間は条痕施文。突帯の間隔広め。胴部は縦位の貝殻刺突線文。赤色化粧土使用？。
	57	深鉢形土器 Ⅰ類	胴部	I-6	1523	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?	外；横位の貝殻条痕 内；丁寧なナデ	胴部は縦位の貝殻刺突線文。器壁薄い。
	58	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・角閃石・黒色粒? 焼成；極めて堅緻	外；ナデ 内；上位はヘラのヨコナデ	口唇部不明。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。上位の楔形突帯は逆Ｖ字、下位は縦位と逆Ｖ字が交互、突帯に添い上から下への縦位の連続刺突文。突帯の間隔広め。胴部は縦位の貝殻刺突線文。器壁薄い。
	59	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部	J-8 L-14	2358 2712	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・角閃石・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラナデ（上位はヨナデ・下位はたてデ）	口縁部外反。口唇部平坦面に規則的なヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。上位の楔形突帯はＶ字、下位は縦位。突帯に添い縦位の貝殻刺突線文。突帯の間隔広め。胴部は縦位の貝殻腹縁による押し引き文。器壁薄い。内外面に赤色の化粧土使用？。復元口径17・8cm。
	60	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	E-9	363	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	口縁部直行。口唇部傾斜平坦面に規則的なヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。２列の楔形突帯やや太め。突帯に添い縦位の貝殻刺突線文。突帯の間隔やや広め。胴部は貝殻腹縁による押し引き文。
	61	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	L-5	2162	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	長い楔形突帯。突帯に添い縦位の貝殻刺突線文その後、細沈線文でなでる。突帯の間隔やや広め。胴部は貝殻腹縁による規則的押し引き文。
78	62	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	J-14	2635	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	口縁部外反。口唇部平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２～３列の貝殻刺突線文。２列の楔形突帯。突帯に添い縦位の貝殻刺突線文。突帯の間隔やや広め。胴部は貝殻刺突線文。復元口径17・4cm。
	63	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	J-14	2635	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	口縁部外反。口唇部傾斜平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。２列の楔形突帯やや太め。突帯に添い縦位の貝殻刺突線文。突帯の間隔狭い。胴部は貝殻腹縁による押し引き文。復元口径22・2cm。

表27　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）６

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
78	64	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部・胴部	F-5 F-7	5865 5867	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラナデ 上位はヨコナデ 下位はタテナデ	口唇部狭い平坦面でヘラ刻み。縦位の２列楔形突帯。突帯に添い右に沈線文。左に横引きの貝殻刺突線文。楔の上位はヘラで深く刻む。突帯の間隔狭い。胴部は縦位の単位別押し引き文。復元口径19･0cm。
	65	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	B-14		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・少量の角閃石 焼成；堅致	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	口唇部平坦面、規則的ヘラ刻み。口縁部直下に２列の貝殻刺突線文。縦位２列楔形突帯。楔に添い沈線文。楔間は貝殻刺突線文。楔上位はヘラで深く刻む。
	66	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	H-9	1233	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；ナデ	口縁部外反。口唇部ヘラ刻み。口縁部直下に１列の貝殻刺突線文。楔形突帯に添い連続刺突文。突帯は短く間隔も狭い。
	67	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ナデ（ヨコナデ）	口唇部平坦面、規則的ヘラ刻み。口縁部直下に２列の貝殻刺突線文。楔形突帯に添い連続刺突文。突帯は太く短く間隔も狭い。
	68	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-15	2846	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	口唇部平坦面、規則的ヘラ刻み。口縁部直下に２列の貝殻刺突線文。楔形突帯に添い連続刺突文。突帯は太く短く間隔も狭い。上位にヘラの横刻み
	69	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-11	5446	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成：堅緻	外；ナデ 内；ヨコナデ	口唇部平坦面、規則的ヘラ刻み。口縁部直下に２列の貝殻刺突線文。楔形突帯に添い連続刺突文。突帯は太く短く間隔も狭い。楔上位にヘラの横刻み。内面整形は丁寧。
	70	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	F-18	2969	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	口唇部狭い平坦面、斜位の規則的ヘラ刻み。口縁部直下に２列の貝殻刺突線文。楔突帯は１列、楔の右に貝殻刺突線文。左に沈線文。楔の形状は不規則。胴部は押し引き文。
	71	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-7 E-2	6384 1383	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	縦位２列の楔形突帯。突帯に添い縦位の連続刺突文。突帯の間隔狭く、楔は短い。胴部は押し引き文。赤色化粧土使用？。
	72	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-10	1213	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒良粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	口唇部尖りぎみ，斜位の規則的ヘラ刻み。口縁部直下に１列の貝殻刺突線文。楔突帯は２列、楔に添い貝殻刺突線文。楔の間隔は狭い。
	73	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	口唇部尖る，ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位１列の貝殻刺突線文。楔形突帯は短い、突帯に添い上から下への縦位の連続刺突文。器壁薄い。
	74	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	K-13	2492	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；やや軟弱	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	口縁部外反。口唇部平坦面に規則的なヘラ刻み。口縁部直下に横位１列の貝殻刺突線文。楔形突帯に添い縦位の貝殻刺突線文。突帯の間隔やや広め。楔の上位はヘラで深く刻む。胴部は規則的貝殻腹縁による押し引き文。復元口径17･5cm。
	75	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	H-15	2688	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・軽石 焼成；やや軟弱	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	口縁部外反。口唇部平坦面に規則的なヘラ刻み。口縁部直下に横位１列の貝殻刺突線文。楔形突帯に添い縦位の貝殻刺突線文。突帯の間隔やや広め。楔の上位はヘラで深く刻む。胴部は規則的貝殻腹縁による押し引き文。復元口径20･7cm。74類似
	76	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-12	2421	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・・黒色粒?・ 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	口縁部平坦、規則的ヘラ刻み。直下に横位２列の貝殻刺突線文。短い３列の楔形突帯。突帯に添い縦位の貝殻刺突線文。突帯の間隔やや広め。
	77	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	B-14		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	口唇部平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。２列の楔形突帯。突帯に添い縦位の貝殻刺突線文。その後、右のみヘラで縦位に刻む。突帯の間隔やや広め。
	78	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	I-15	2743	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；粗のヘラナデ	口縁部外反。口唇部平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位１列の貝殻刺突線文。２列の楔形突帯太め。突帯に添い縦位の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。復元口径18･0cm。

表28　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）７

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
78	79	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	M-7	2311	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラナデ	口唇部平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。３列の楔形突帯。突帯に添い縦位の貝殻刺突線文。楔の上位ヘラで横位に刻む。楔は太く短い。突帯の間隔やや広め。胴部は押し引き文。
	80	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-14 H-15 H-10	2715 2719 1219	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・少量の角閃石 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ （内面は光沢あり）	口唇部丸みを成す。縦位２列楔形突帯。楔に添い貝殻刺突線文。楔上位はヘラで深く刻む。胴部の押し引き文は密。復元口径20・8cm。
	81	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	L-15	2737	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；極めて堅緻	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ （内面は光沢あり）	口唇部平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。２列の楔形突帯。突帯に添い縦位の貝殻刺突線文。楔の上位ヘラで横位に深く刻む。楔は太く短い。突帯の間隔狭い。胴部は押し引き文。復元口径19・7cm。
	82	深鉢形土器 Ⅲ類 大型土器	口縁部	H-14	2696	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	口唇部平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。３列の楔形突帯。突帯に添い縦位の貝殻刺突線文。楔の上位ヘラで横位に刻み頂部に刺突。楔は太く短い。突帯の間隔狭い。胴部は押し引き文。復元口径22・8cm
79	83	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	L-5 H-14 J-14	2158 1005	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒・角閃石 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	口唇部平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2・4cm。復元口径16・0cm。
	84	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	M-1	1848	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヨコナデ	狭い口唇部平坦面に斜方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2・8cm。
	85	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-14	2656	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヨコナデ	口唇部平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2・8cm。口縁部やや外反。
	86	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	L-3	2058	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ	狭い口唇部に縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は3・9cm。復元口径20・5cm。
	87	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	C-12	800	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ	狭い口唇部に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は明瞭な押し引き文。施文具は2・2cm。復元口径15・4cm。
	88	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	J-7	1615	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・雲母 焼成；良好	外；ナデ 内；上位は丁寧なナデ 下位はヘラナデ	口唇部尖る、ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位４列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。器壁薄い。施文具は2・5cm。
	89	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-16	2907	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・雲母 焼成；やや軟弱	外；ナデ 内；ヨコナデ	口唇部尖る、ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文で無文帯を残す。施文具は2・6cm。復元口径14・1cm。
	90	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-19	2968	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・角閃石 焼成；堅緻	外；ナデ 内；上位は丁寧なナデ	口唇部平坦面に縦方向の規則的ヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。器壁厚い。施文具は2・2cm。
	91	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・角閃石 焼成；極めて堅緻	外；ナデ 内；上位は丁寧なヘラナデ	口唇部平坦面に縦方向の規則的ヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。器壁厚い。外面に少量の煤付着。施文具は3・2cm。復元口径15・6cm。
	92	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	D-15	3016	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・ 焼成；良好	外；ナデ 内；ヨコナデ	狭い口縁部平坦面にヘラ刻み。口縁直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は3・1cm。復元口径16・0cm。
	93	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-7 G-7 G-7 F-10 I-8	7912 7917 7918 7929 7890	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・ 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヘラのヨコナデ	口縁部やや外反。口唇部平坦面に斜方向の規則的ヘラ刻み（細線）。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。器壁厚い。内面に少量の煤付着。施文具は3・0cm。復元口径16・7cm。

表29　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）８

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
79	94	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-6	1505	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒・雲母 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ	口唇部平坦面へラ刻み不明。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。
	95	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ナデ	口唇部尖りぎみ、へラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具3・2cm。
	96	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅致	外；ナデ 内；へラのヨコナデ （内面は光沢あり）	口唇部平坦面にへラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文?。胴部は押し引き文。施文具2・4cm。復元口径21・6cm。現高　cm。

No.245 口径20・5cm，高さ26・6cm，底部径15・6cmの完形土器で，内外面共に丁寧なナデ仕上げが見られる。底部からフラスコ状に上位にかけて少しずつ開きながら立ち上がり，口縁部上位で外反する形状を呈している。器壁は薄く，口唇部は狭い平坦面を成し，底部は正円形で接地面は平坦面を成している。口縁部には横位３列の貝殻刺突線文を巡らし，最下段の刺突線文に接する位置に縦方向に２列の楔形突帯が貼付けられ，この楔形突帯に添い貝殻刺突線文を刺突し，刺突線文が胴部全域に施される。刺突線文は，６筋を持つ1・6 cm程の貝殻腹縁部を施文具に用いている。

No.246 ほぼ直行する筒状の器形を成す円筒形土器で，口唇部は平坦面を成し，平坦面にやや間隔をおいてへラ刻みが付される。口縁部には貝殻刺突線文が非連続に刺突され，胴部は単独施文による圧痕文（いわゆる間延びした押し引き文）が施される。

No.260 ・261 は角筒形土器で，No.260 の口唇部はやや丸みを成し，隆起した口縁部の頂部に相当する。口縁部に横位２列の貝殻刺突線文を巡らし，その下位に楔形突帯を貼付けその側縁に添い，刺突連点を施す。刺突連点は上から下へ。器面は丁寧にナデられ，楔形突帯は細く長い。No.261 も同様で，口唇部にはへラ刻みが付される。

Ⅲ類土器

地文に条痕を残すことはなく，へラや指頭によるナデ仕上げを行ったものである。胴部施文は貝殻腹縁部による押し引き文で統一・規制される。吉田式土器に相当する。器形は円筒形の鉢形土器が圧倒的比率を占めるが，角筒形土器も存在する。

No.８口唇部は尖り気味で口縁部上位が緩やかに外反し，口縁部の刺突線文・楔形の隆帯文等はⅠ類土器，Ⅱ類土器と同様であるが，胴部は貝殻腹縁による押し引き文で飾られる。No.10の口縁部は緩やかに外反し，口径に比べ器壁は薄い。胴部は貝殻腹縁で押し引く。No.36楔形突帯は粘土紐の貼付けでは無く，貝殻腹縁部の刺突により造り出された疑似の楔状突帯である。No.64は楔形突帯を持つⅢ類土器の特徴をよく表している。口唇部に規則的なへラ刻みを持ち，口縁部には横位の貝殻刺突線文を巡らし，胴部全体に押し引き文を密に施している。また，楔形突帯の上位はへラで深く刻み込み，右側縁はへラ沈線文，左側縁部は腹縁刺突線文を刻んでいる。また，Ⅲ類土器では，楔形突帯がⅠ類・Ⅱ類土器に比べて，それぞれの貼付ける間隔が近づき更に，楔の長さが短く・太くなる傾向が見られる。No.64ではその間隔が近くなり，No.66では接近した位置に，No.67・68でも楔の位置は近く更に，短くて太い楔へと変化している。No.75の復元口径は20・7cmと大型の部類に属す資料であるが，楔形突帯は近く・短く・太くの特徴を示している。No.82も同様である。No.78

表30　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）９

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
80	97	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-14	1052	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・ 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラナデ	口唇部平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2・0cm。
	98	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	E-14	3007	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ （丁寧）	口唇部平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2・4cm。
	99	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-14	2730	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	口唇部平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2・0cm。内面白色土塗彩か。
	100	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	H-4	6423	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ （内面は光沢あり）	丸みを成す口唇部に規則的な斜方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2・0cm。
	101	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ （内面は光沢あり）	狭い平坦な口唇部に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は3・0cm。復元口径15・3cm。
	102	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-6	1515	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・雲母・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	丸みを成す口唇部に縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。
	103	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	C-12 B-12		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ナデ	平坦な口唇部に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2・5cm。復元口径14・6cm。
	104	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-1		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ナデ （丁寧）	平坦な口唇部に規則的な斜方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は1・8cm。
	105	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	E-14		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラナデ （丁寧）	平坦な口唇部に規則的な斜方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2・5cm。
	106	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-14	2651	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	平坦な口唇部に規則的な斜方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2・5cm。復元口径16・6cm。
	107	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-8	1420	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ナデ	尖りぎみの口唇部にヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は3・2cm。復元口径15・2cm。
	108	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラナデ （丁寧）	平坦な口唇部に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2・8cm。器壁やや厚手。
	109	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	H-6	1525	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラナデ	平坦な口唇部ヘラ刻みは不明。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は斜位の押し引き文。
	110	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	D-15		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラナデ （丁寧）	平坦な口唇部に規則的な斜方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2・7cm。内面白色の化粧土塗彩？
	111	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-11		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラナデ （丁寧）	平坦な口唇部に規則的な斜方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2・7cm。
	112	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-13	938	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	平坦な口唇部に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は明瞭な押し引き文。施文具は3・0cm。
	113	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-14	2657	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラナデ （丁寧）	平坦な口唇部に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は明瞭な押し引き文。施文具は3・1cm。
	114	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	J-7	2241	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラナデ （丁寧）	平坦な口唇部にヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。口縁部は直行。

表31　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）10

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
	115	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	M-1	1850	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;良好	外;ナデ 内;ヘラのヨコナデ (丁寧)	口唇部狭い平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２～３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。
	116	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	H-7 H-8	1436 1442	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;良好	外;ナデ 内;ヘラのヨコナデ (丁寧)	口唇部平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は明瞭な押し引き文。施文具は2･8cm。復元口径16･4cm。
８０	117	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ヨコナデ	口唇部狭い平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2･8cm。復元口径11･3cm。
	118	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-11	1179	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ヘラのヨコナデ 下位はタテナデ	丸みを成す口唇部ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は3･3cm。復元口径20･5cm。
	119	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ヨコナデ (丁寧)	狭い平坦な口唇部に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は3･1cm。赤色化粧土塗彩？。
	120	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	K-13	1112	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ヘラのヨコナデ	平坦な口唇部に斜方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は明瞭な押し引き文。施文具は2･3cm。
	121	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;丁寧なナデ	平坦な口唇部に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は3･0cm。内面に白色の化粧土塗彩の可能性。復元口径16･4cm。
	122	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	E-9	3624	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;丁寧なナデ	尖りぎみな口唇部にヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は明瞭な押し引き文。施文具は2･5cm。
	123	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	L-10	39	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;やや軟弱	外;ナデ 内;ヘラナデ	平坦な口唇部に規則的な斜方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2･9cm。
	124	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	H-9	1234	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ヘラナデ	平坦な口唇部に規則的な斜方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は明瞭な押し引き文。施文具は2･2cm。復元口径15.0cm。
８１	125	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	C-7	292	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ナデ	尖りぎみの口唇部にヘラ刻み無し。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2･3cm。
	126	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-6		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒・雲母 焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;丁寧なヘラナデ (光沢)	平坦な口唇部に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。器壁薄手。
	127	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	C-12		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;やや軟弱	外;ナデ 内;ヘラナデ	狭い平坦な口唇部に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は明瞭な押し引き文。施文具は2･3cm。
	128	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-11	1184	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;丁寧なヘラのヨコナデ	平坦な口唇部に規則的な斜方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は明瞭な押し引き文。施文具は3･2cm。器壁厚い。
	129	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ヘラナデ (丁寧)	平坦な口唇部に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位４列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は3･2cm。
	130	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	K-12	1165	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;丁寧なヘラナデ	平坦な口唇部に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は明瞭な押し引き文。施文具は3･2cm。口径15･8cm。
	131	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-8	5571	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ヘラナデ (丁寧)	平坦な口唇部にヘラ刻み無し。口縁部直下に斜位の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。施文具は3･2 cm。
	132	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	D-14		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ヘラナデ (丁寧)	平坦な口唇部にヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は3･7 cm。大型土器。

表32　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）11

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
81	133	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	F-13	682	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;ヘラのヨコナデ (丁寧)	口唇部狭い平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2･8cm。
	134	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	L-9 G-8	1298 8438	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;上位はヘラのヨコナデ (丁寧・光沢) 下位はヘラのタテナデ	口唇部平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2･8cm。口径19･6cm。内面に赤色の化粧土塗彩？。
	135	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	J-7	1692	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;良好	外;ナデ 内;ヨコナデ	口唇部狭い平坦面に規則的な斜方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位４列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。
	136	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-8	1459	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;やや軟弱	外;ナデ 内;ヨコナデ	丸みを成す口唇部ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。刺突具は2･5cm。
	137	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	D-1 E-1 F-1		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ヨコナデ (丁寧)	狭い平坦な口唇部に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は3･0cm。復元口径18･5cm。
82	138	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-9	1256	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ヨコナデ (丁寧)	狭い平坦な口唇部に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に斜位押し引き文（３mm程の工具による単一施文)。胴部は押し引き文。施文具は3･4cm。復元口径13･4cm。
	139	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	L-9	1300	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;良好	外;ナデ 内;ヨコナデ (丁寧)	丸い口唇部に縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。
	140	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-9	1206	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;良好	外;ナデ 内;ヨコナデ (丁寧)	狭い平坦な口唇部に規則的縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。無文の施文帯残す。施文具は2･0cm。復元口径15･5cm。口縁部外反。
	141	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	H-6	1528	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;良好	外;ナデ 内;上位はヨコナデ 下位はタテナデ	狭い平坦な口唇部にヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は3･9cm。復元口径16･0cm。
	142	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-7	7907	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;良好	外;ナデ 内;丁寧なヨコナデ	丸い口唇部にヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は3･7cm。復元口径17･4cm。
	143	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	F-14 J-14	2981 2597	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;良好	外;ナデ 内;丁寧なヨコナデ	狭い口唇部にヘラ刻み不明。施文は口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文、無文帯、横位２列の貝殻刺突線文、押し引き文。施文具は2･2cm。復元口径14･2cm。
	144	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	L-8	2337	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;良好	外;ナデ 内;丁寧なヨコナデ	狭い口唇部に規則的縦位のヘラ刻み。施文は口縁部直下に斜位の押し引き文、無文帯。押し引き文。施文具は2･8cm。復元口径13･6cm。内面に白色の化粧土塗彩？。
	145	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	J-10	1260	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;良好	外;ナデ 内;ナデ	平坦な口唇部にヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。押し引き間に無文帯残す。施文具は3･1cm。復元口径15･5cm
	146	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	K-7	180	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;良好	外;ナデ 内;ヘラのヨコナデ	平坦な口唇部に規則的斜位のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。押し引き間に無文帯残す。施文具は2･4cm。復元口径14･5cm。器壁厚い。
	147	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	L-14	2558	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;良好	外;ナデ 内;ナデ	丸い口唇部にヘラ刻み無し。口縁部直下に横位４列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。
	148	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	D-2	1361	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;良好	外;ナデ 内;丁寧なヨコナデ	平坦な口唇部に規則的縦位のヘラ刻み（細線)。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。内外面に赤色の顔料塗彩か。施文具は3･1cm。復元口径19･0cm。

表33　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）12

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
82	149	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヨコナデ	口唇部狭い平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2･7cm。復元口径15･6cm。
	150	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・雲母 焼成；良好	外；ナデ 内；ヨコナデ	丸い口唇部の前面に規則的な斜方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。
	151	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-8	1458	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ナデ	口唇部狭いく、ヘラ刻み不明。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2･0cm。
	152	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	M-1		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ	口唇部平坦面に規則的縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。刺突具は3･5cm。復元口径15･4cm。
	153	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	A-13	3062	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ	口唇部平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は3･0cm。復元口径15･8cm。
	154	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	D-12		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ	口唇部平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。施文具は2･6cm。
	155	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	I-3	1591	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；上位はヘラのヨコナデ 下位はヘラナナメナデ	口唇部平坦面に規則的な縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。施文具は4･1cm。復元口径13･7cm。
	156	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	H-14	2663	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ヨコナデ （丁寧）	狭い平坦な口唇部に規則的縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2･7cm。復元口径14･4cm。口縁部外反。
83	157	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	E-7		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；極めて堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ 内外共に丁寧な仕上げ	狭い平坦な口唇部にヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2･0cm。復元口径14･0cm。外面に赤色の顔料塗彩の可能性あり。
	158	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-4	1559	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；極めて堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ 内外共に丁寧な仕上げ	平坦な口唇部に規則的斜位のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2･7cm。
	159	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	B-14	3052	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ 内外共に丁寧な仕上げ	狭い口唇部にヘラ刻み無し。口縁部直下に横位５列の貝殻刺突線文。押し引き文間に無文帯を残す。施文具は1･3cm。復元口径20･6cm。
	160	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	M-8	8461	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ	狭い口唇部に規則的縦位のヘラ刻み。施文は口縁部直下に３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2･2cm。
	161	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	H-9	1243	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ	口唇部に規則的縦位のヘラ刻み。口縁部直下に横位３～４列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2･1cm。
	162	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	J-12	2412	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ	平坦な口唇部に規則的斜位のヘラ刻み。口縁部直下に横位４列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文
	163	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	H-15	2693	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ	傾斜する口唇部に規則的ヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2･8cm。
	164	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	L-1	1878	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ	傾斜する口唇部に規則的縦位のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は斜位の貝殻刺突線文。施文具は3･1cm。
	165	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ 内外とも丁寧な仕上げ	口唇部に規則的斜位のヘラ刻み。口縁部直下に横位３～４列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2･3cm。
	166	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	M-4	2077	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ 内外とも丁寧な仕上げ	丸い口唇部，ヘラ刻み不明。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文、下位に縦の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。内面赤色顔料塗彩の可能性。

表34　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）13

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
83	167	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヨコナデ 内外共丁寧な仕上げ	口唇部狭い平坦面，ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。
	168	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	L-6	1483	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ヨコナデ	丸い口唇部に縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部の上位は縦方向、下位は斜方向の貝殻刺突線文。施文具は2・9cm。
	169	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヘラナデ	口唇部狭い平坦面に斜位のヘラ刻み。口縁部直下に横位４列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文の組合せ。施文具は2・1cm。
	170	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	F-12		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヘラナデ 内外共丁寧な仕上げ	口唇部狭い平坦面に斜位のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文の組合せ。内外面に赤色の化粧土塗彩？。
	171	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	G-1		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヘラナデ	口唇部狭い平坦面に縦位のヘラ刻み。口縁部直下に横位４列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文の組合せ。施文具は2・6cm。外面煤付着。
	172	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	L-14	2561	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヘラナデ	口唇部狭い平坦面に規則的縦位のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2・6cm。
	173	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	K-14	2621	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；極めて堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部狭い平坦面にヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。施文具は1・7cm。
	174	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	K-11	2608	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部狭い平坦面にヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。施文具は3・1cm。
	175	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	G-6	1542	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；極めて堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヘラのヨコナデ	口唇部にヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文と押し引き文の組合せ。施文具は1・7cm。
	176	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	L-8	1458	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	丸い口唇部にヘラ刻み無し。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。施文具は2・4cm。
	177	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	K-11	32	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；極めて堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部平坦面に縦位の規則的ヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。
	178	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	B-14		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なナデ	丸い口唇部に縦位のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。
	179	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	F-2	1669	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なナデ	丸い口唇部に縦位のヘラ刻み。口縁部直下に横位１列の貝殻刺突線文。胴部は鋸歯条の貝殻刺突線文。施文具は2・7cm。
	180	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ	口唇部平坦面にに縦位の規則的ヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。
	181	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	J-3	1782	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部平坦面に縦位の規則的ヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2・7cm。
	182	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	L-10	5084	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部不明。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。刺突線文間に無文帯を残す。施文具は1・7cm。
	183	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	J-12	23	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヘラのヨコナデ	口唇部に斜位のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文と押し引き文の組合せ。
	184	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	L-1	1876	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；極めて堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部平坦面に縦位の規則的ヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は3・1cm。

表35　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）14

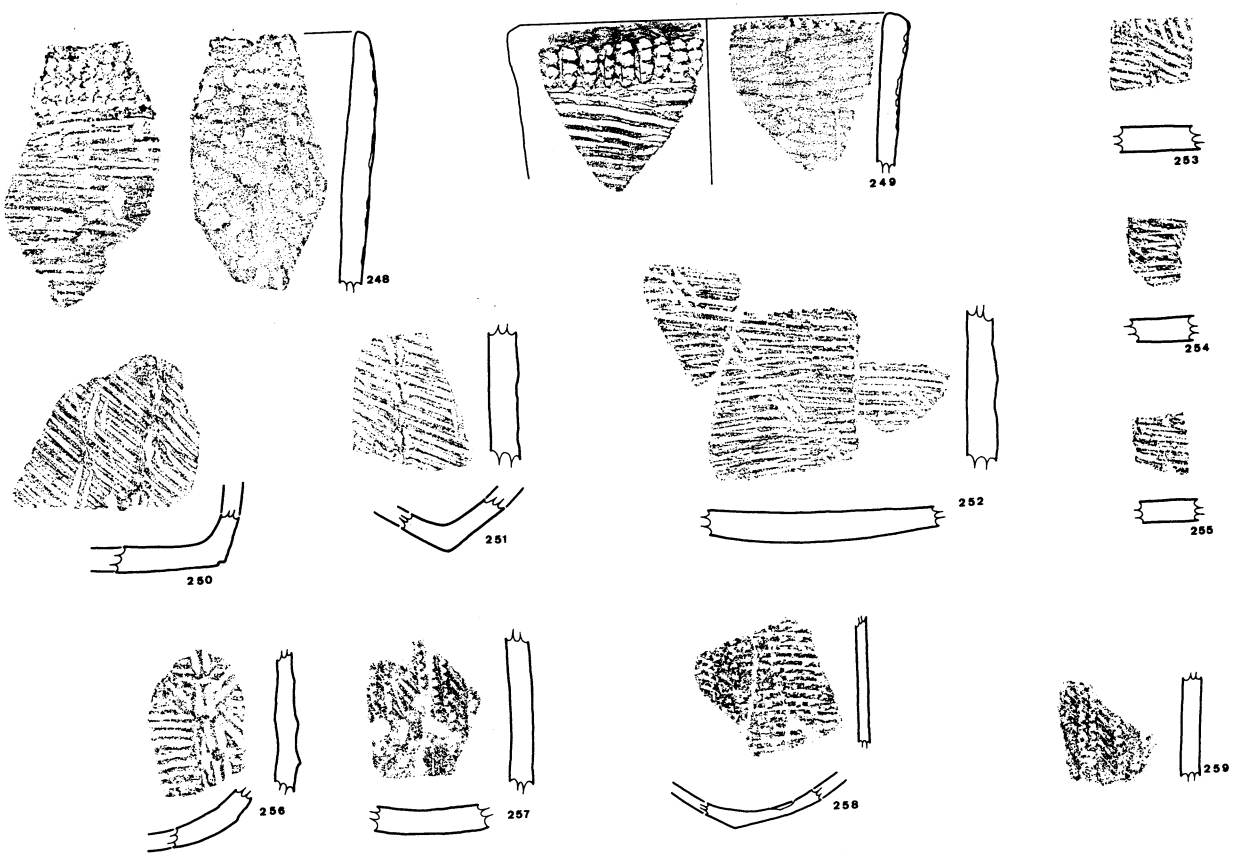
挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
83	185	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	I-13	2531	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ヨコナデ 内外共丁寧な仕上げ	口唇部狭い平坦面、ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2･4cm。
	186	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;良好	外;ナデ 内;ヨコナデ	狭い口唇部平坦面に縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文あるいは押し引き文。施文具は2･5cm。
	187	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;やや軟質	外;ナデ 内;ナデ	丸い口唇部ヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2･4cm。
	188	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	L-3	2063	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;丁寧なヘラナデ 内外共丁寧な仕上げ	口唇部平坦面に縦位のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文と押し引き文の組合せ。施文具は2･6cm。
	189	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	B-14		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;堅緻	外;ナデ 内;丁寧なヘラナデ	口唇部平坦面に規則的な縦位のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文の組合せ。施文具は3･4cm。
84	190	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	L-4	2136	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ナデ	口唇部不明。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部上位貝殻刺突線文下位は押し引き文。施文具は2･0cm。
	191	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	M-5 J-7	2198 182	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;やや軟質	外;ナデ 内;丁寧ヘラの横ナデ	丸い口唇部にヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文，下位は押し引き文。施文具は2･4cm。
	192	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	O-3	1909	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;良好	外;ナデ 内;丁寧なヘラのヨコナデ	口唇部狭い平坦面に斜位のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文と押し引き文の組合せ。施文具は2･4cm。
	193	深鉢形土器 Ⅱ類				砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;丁寧なヘラのヨコナデ	口唇部不明。口縁部直下に縦位２列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。施文具は2･0cm。
	194	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部不明。口縁部直下に横位２～３列の貝殻刺突線文。胴部上位は貝殻刺突線文，下位は押し引き文。施文具は2･4cm。
	195	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	J-12	21	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部平坦面に斜位のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部の施文は方向転換。施文具は2･5cm。
	196	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	C-14		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;丁寧なヘラのヨコナデ	口唇部平坦面に縦位のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文具。施文具は4･0cm。
	197	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	F-2 J-12 B-12 G-11	2214 1145 2536 2511	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;堅緻	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部平坦面にヘラ刻み無し。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。底部は平坦面。底部の外面に縦位の細沈線文。口径11･7cm･ 高さ12･5cm，底部径9･4cm。
	198	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	D-13		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部平坦面に斜位の規則的ヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。施文具は1･7cm。
	199	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	G-6	1534	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;良好	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部平坦面に縦位のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部も貝殻刺突線文。施文具は3･0cm。
	200	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;堅緻	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部不明。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部上位は押し引き文，下位は貝殻刺突線文。施文具は2･1cm。器壁薄い。
	201	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	D-15		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;やや軟質	外;ナデ 内;丁寧なヨコナデ	口唇部不明。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。
	202	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部不明。口縁部直下に横位の貝殻刺突線文。胴部以下は不明。

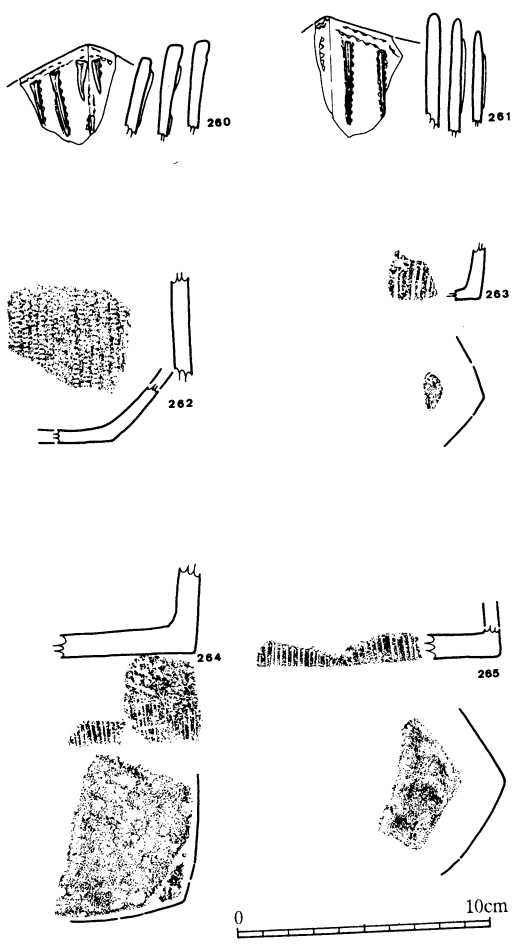
表36　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）15

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
83	203	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	G-4		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;軟質	外;ナデ 内;ナデ	口唇部不明。横位の貝殻刺突線文。詳細不明。
	204	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	B-19	2967	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;良好	外;ナデ 内;丁寧なヨコナデ	口唇部平坦面に縦方向のヘラ刻み。口縁部直下に横位４列の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。
	205	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	K-12	1118	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ナデ	口唇部平坦面にヘラ刻み。口縁部直下から横位７列以上のの貝殻刺突線文、以下不明。 復元口径13・4cm。
	206	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	H-13	2518	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;上位はヘラヨコナデ 下位はヘラのタテナデ	口唇部平坦面に縦位のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。口縁部外反。復元口径12・4cm。
	207	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	G-19	2967	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ナデ	口唇部平坦面、ヘラ刻み無し。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。 復元口径9・0cm。
	208	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	D-13	6	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ナデ	口唇部平坦面にヘラ刻み。口縁部直下から交差しない横位の貝殻刺突線文。内外面に赤色赤色顔料塗彩の可能性あり。
	209	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	M-5 J-7	2198 182	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;やや軟質	外;ナデ 内;ナデ	口唇部平坦面、ヘラ刻み。口縁部直下から交差しない横位の貝殻刺突線文。施文具は2・7cm。 復元口径9・5cm。
84	210	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	J-11	1262	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部狭い平坦面。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部は貝殻刺突線文。施文具は2・0cm 復元口径10・0cm。
	211	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	H-9	1210	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部平坦面に斜位のヘラ刻み。口縁部直下から横位貝殻刺突線文。 施文具は2・0cm。
	212	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;良好	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部平坦面。口縁部直下から横位の貝殻刺突線文。復元口径9・0cm。
	213	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	E-3	1335	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;良好	外;ナデ 内;ナデ	口唇部にヘラ刻み。口縁部直下に横位の貝殻刺突線文。胴部の施文横位の条痕文施文帯と貝殻刺突施文帯に区分。施文具は2・7cm。 復元口径14・0cm。
	214	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	F-2 F-2 F-2 M-5	1387 1396 1401 2180	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;貝殻条痕	丸い口唇部の前面に縦・斜位のヘラ刻み。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部も貝殻刺突線文。器壁は厚い。施文具は2・3cm。口縁部上位が内弯。復元口径17・5cm。
85	215	深鉢形土器 Ⅲ類	完形品	C-3	3063	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部平坦面に斜位のヘラ刻み。口縁部直下に横位貝腹縁押圧文。胴部も貝殻腹縁押圧文（変形押し引き文）。施文具は2・8cm。
	216	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;やや軟弱	外;ナデ 内;ナデ	口唇部平坦面に縦位のヘラ刻み。口縁部直下に横位貝腹縁押圧文。胴部も貝殻腹縁押圧文。施文具は2・8 cm。
	217	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;良好	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部平坦面に縦位のヘラ刻み。口縁部直下に横位の貝殻腹縁押圧文。胴部も貝殻腹縁押圧文。施文具は3・0cm。器壁薄い。
	218	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部	D-5	8434	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部不明。胴部は貝殻腹縁押圧文。
	219	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部	D-14	3068	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;やや軟質	外;ナデ 内;丁寧なヨコナデ	口唇部不明。胴部は貝殻腹縁押圧文。施文具は3・0cm。
	220	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	I-7	1518	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部不明。胴部は貝殻腹縁押圧文。施文具は3・0cm。器壁は薄い。

表37　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）16

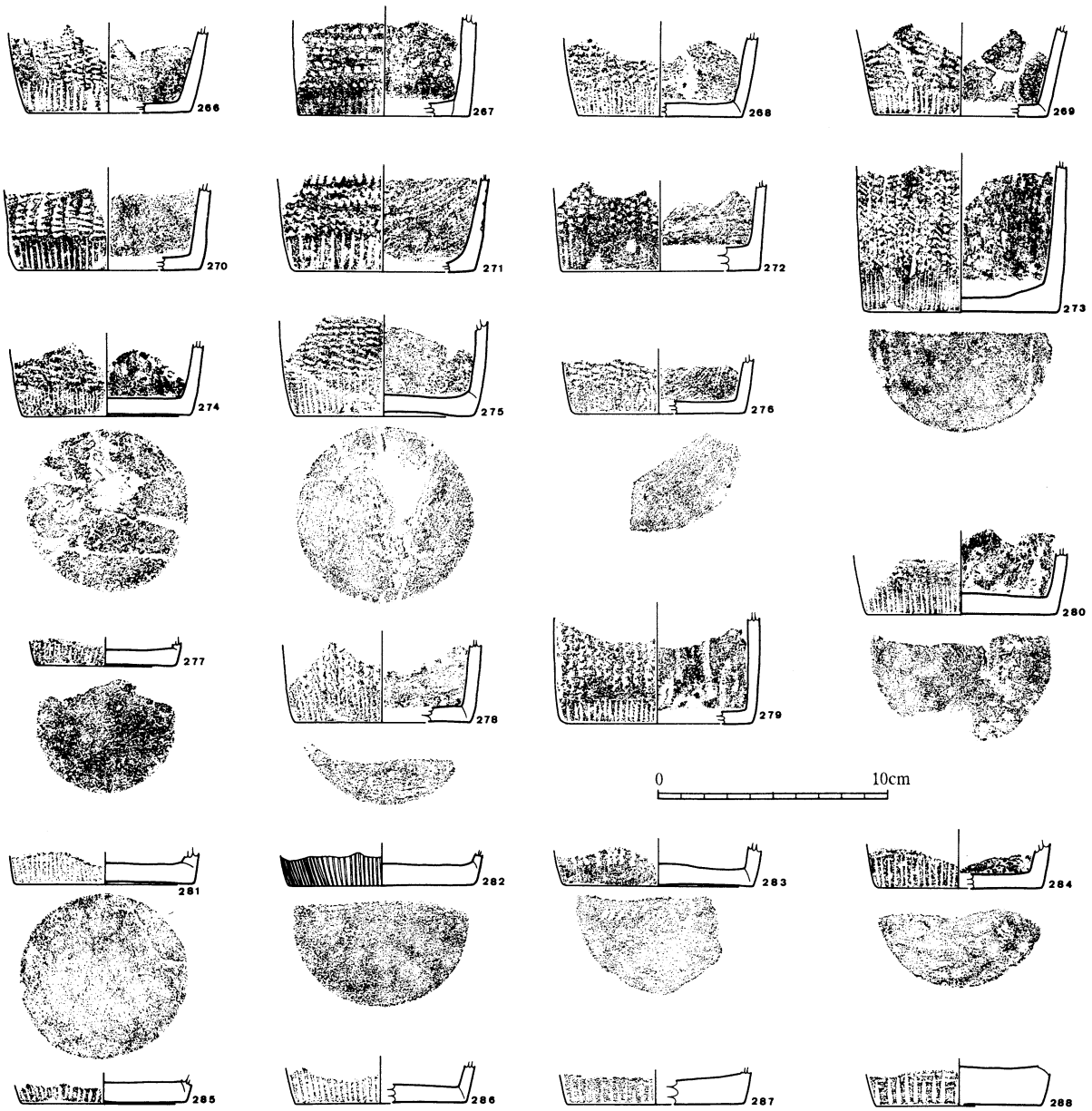
挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
85	221	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部平坦面に斜位のヘラ刻み。口縁部直下に３列の横位の貝殻刺突線文。胴部も貝殻腹縁押圧文（変形押し引き文）。施文具は2・1cm。器壁薄い
	222	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部	J-14 J-14	2639 2640	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・ 焼成；極めて堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部不明。胴部は貝殻腹縁押圧文（変形押し引き文）。施文具は3・2cm。器壁薄い。
	223	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部平坦面に斜位のヘラ刻み。口縁部直下に３列の横位の貝殻刺突線文。胴部も貝殻腹縁押圧文（変形押し引き文）。施文具は3・2cm。器壁薄い 。
86	224	深鉢形土器 Ⅱ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ナデ	狭い口唇部平坦面に縦位のヘラ刻み。口縁部直下に斜位の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。口縁部外反。施文具1・4cm。器壁薄い。
	225	深鉢形土器 Ⅱ類	胴部	L-8	1461	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ナデ	胴部で押し引き文。224 と同一の可能性高い。施文具が類似、施文具1・4cm。器壁薄い。
	226	深鉢形土器 Ⅱ類	胴部	I-14	2712	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・雲母 焼成；堅良	外；ナデ 内；ナデ	胴部で間延びした押し引き文。施文具の１回の引きが長く、一見貝殻腹縁押圧文風に観察される。器壁薄い。
	227	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部 （底部付近）	I-8	1458	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ナデ	胴部で押し引き文。224 と同一の可能性高い。施文具が類似、施文具1・4cm。器壁薄い。下部にヘラによる縦方向の平行沈線文があることから底部近くと判断される。
	228	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部	L-2 L-3	2040 2066	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なナデ	図天地逆。胴部で貝殻施文具による押し引き文が扇条に残る。施文具の最大幅はは1・6cm。
	229	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部	H-4	1551	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	胴部で貝殻施文具による押し引き文が扇条に残る。施文具の最大幅はは2・0cm。
	230	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	L-1 L-1 L-2	1876 1842 2044	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部平坦面に斜位の規則的ヘラ刻み。。口縁部直下に２列の横位の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具2・0cm。復元口径17・9cm。
	231	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部	J-14	2603	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なヘラのタテナデ	胴部でいわゆる間延びした押し引き文。施文具の１回の引きが長く、一見貝殻腹縁押圧文風に観察される。
	232	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・多量の雲母 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラナデ	胴部で先端部が扇状の施文具を使用し、施文具が鋭角に（浅く）使用される。器壁薄い。施文具の最大幅は2・0cm。
	233	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部	I-3	1760	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・雲母 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	229 の施文手法と類似。胴部で貝殻施文具による押し引き文が扇条に残る。施文具の最大幅はは2・0cm。
	234	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部	L-5	2162	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・ 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラナデ	胴部で先端部が扇状の施文具を使用し、施文具が鋭角に（浅く）使用される。
	235	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部	J-12	2461	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・多量の雲母 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラナデ	胴部で先端部が扇状の施文具を使用し、施文具が鋭角に（浅く）使用される。器壁薄い。施文具の最大幅は2・6cm。
	236	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部	K-5	1494	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・ 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	胴部で先端部が扇状の施文具を使用し、施文具が鋭角に（浅く）使用される。器壁薄い。
	237	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部	G-11	1177	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；極めて堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヨコナデ	押し引き文と貝殻刺突線文との組合せ。施文具は同一で最大幅2・4cm。
	238	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	J-14	1033	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部平坦面。施文は上位から順に口縁部直下に３筋の工具で横位の押し引き文、その下位に斜位の貝殻刺突線文、更に押し引き文。





第88図　小牧３Ａ遺跡・角筒形土器

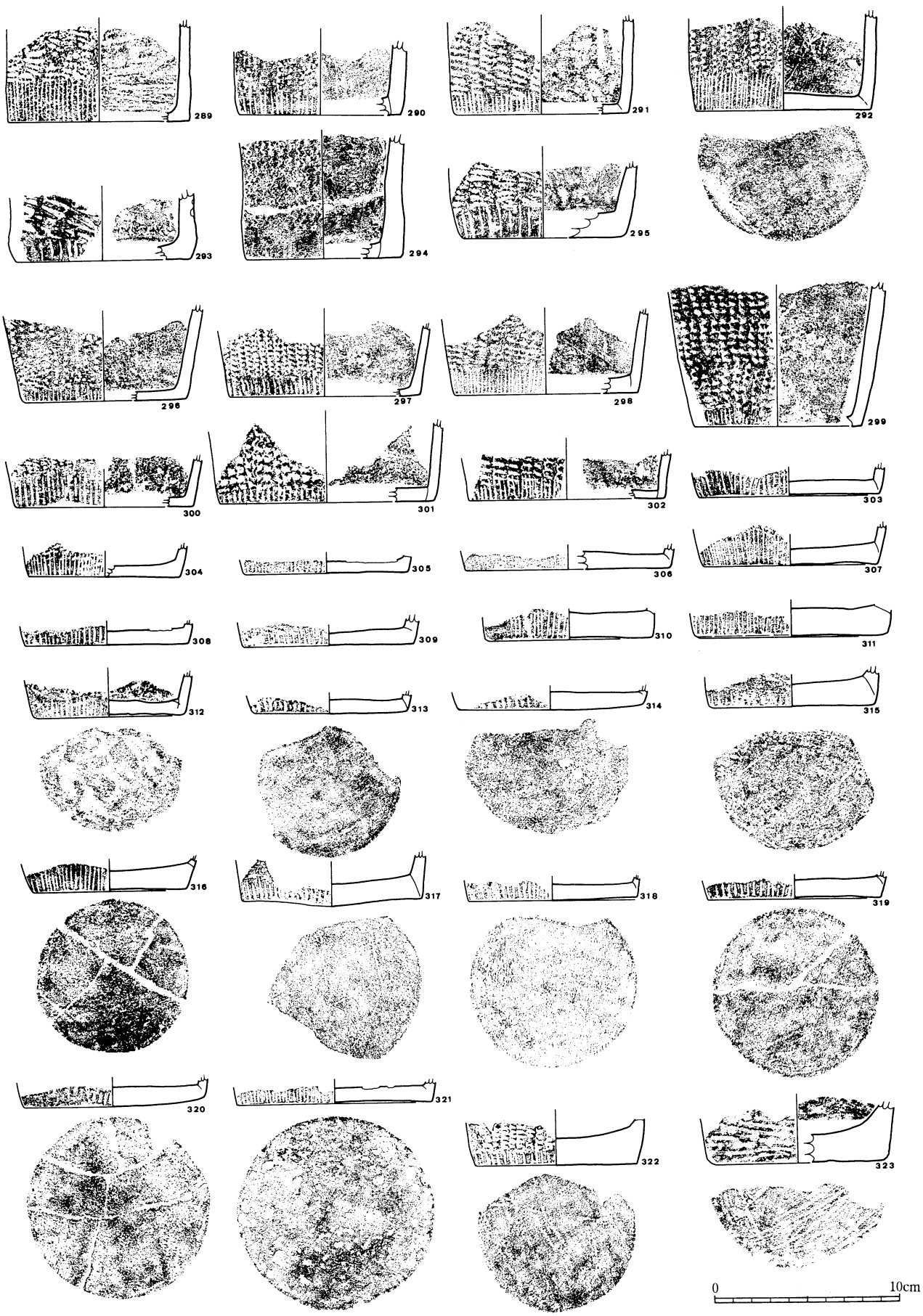
も同様で，楔は1·5 cmと短い。No.81では楔の長さは1·5 cm，楔間は1·0 cmと密接して貼付ける。なお，この資料は焼成が極めて良く，硬質で器面調整も特に丁寧に行っている。No.80の胴部押し引き文は規則的に密で細かく行っている。No.83口縁部の楔形突帯が省略されたもので，横位に巡る貝殻刺突線文の直下から押し引き文が器面全体に付されている。しかし，口唇部が平坦面を成し，連続したヘラ刻みを持つことには変わりがない。No.86も基本的には同様であるが，胴部押し引き文が83では密であったことに比べるとやや粗の施文と言える。No.92・93・96の様に口縁部は直線的に開きながら直行する形状と，No.86・87の様に口縁端部で緩やかに外反するものとがある。また，口唇部も平坦面を成すものと，やや尖りぎみに造り出されるものとが見られる。押し引き文は基本的に口縁部に対し，直行するように貝殻腹縁部を左から右方向に連続移動を繰り返すことを前提としている。No.106やNo.116 ・No.130 等はその手法を良く示す資料であり，他の多くの資料もこれらを踏襲している。一方，No.109の様に，施文具の貝殻を傾けて使用するものもある。No.145 では押し引き文間が緩衝帯として残され，整形時の



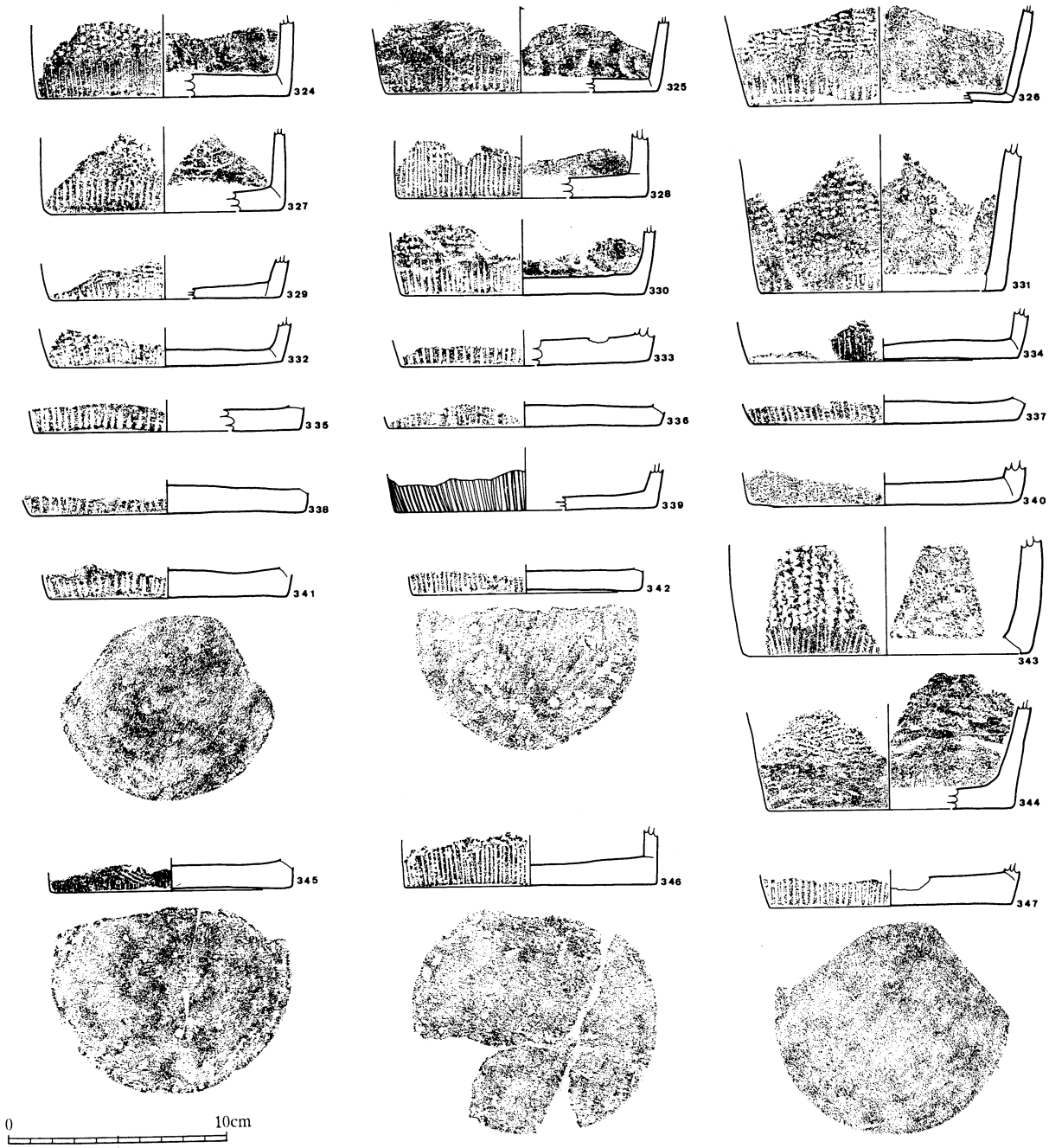
第89図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器底部１

器面がそのまま残されている。№121 の内面の仕上がりは良く，明るい肌色を呈し，使用した胎土も粒子が細かい，そのため化粧土を使用した可能性が高い。№148 は焼成が良く硬質な器面を持つもので，内外面共に一部に赤色顔料を使用した可能性が高い。№147 の口縁部はやや内弯する傾向が見られ，口縁端部には４列の貝殻腹縁刺突線文が刺突される。

№138の口縁端部は斜位の押し引き文で施文され，類例は少ない。№166 は内面に赤色顔料を塗彩したと判断できる資料で，器面調整も丁寧に行われている。口縁部を巡る刺突線文の下位に，２本１組の縦位の貝殻刺突線文が施された特異な資料である。№175 では，途中で施文方法が異なり，左側では斜めに，右側では垂直方向に付している。№197 は高さ12･5cm，口径11･7cm，底部径9･4cmの小型の鉢形土器で，口唇部はナデ仕上げの平坦面で，口縁部には横位に２列の貝殻刺突線文を巡らし，胴部は押し引き文で描かれ，底部接地面は丁寧にナデて仕上げている。また，底部外面に



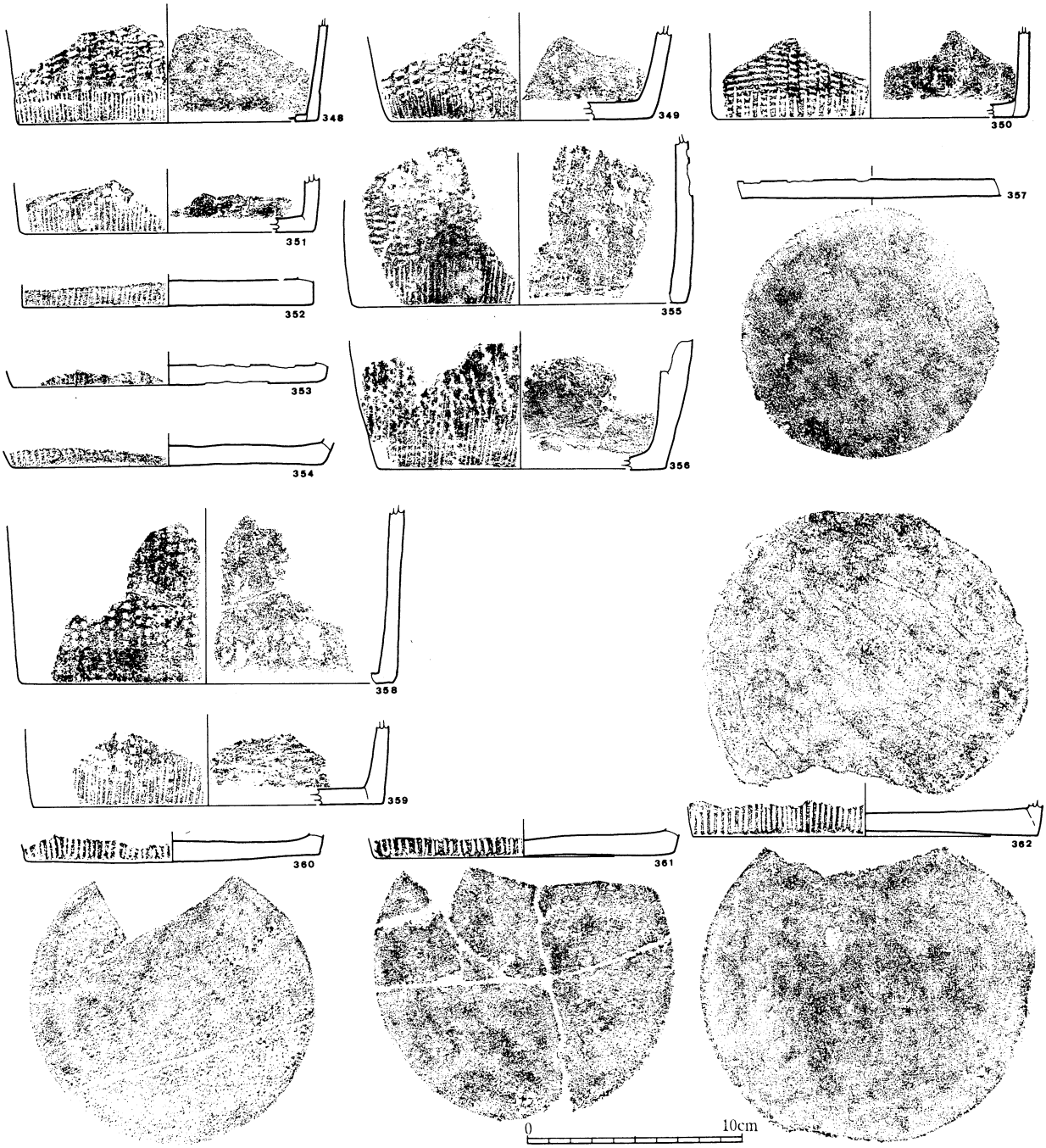
第90図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器底部２



第91図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器底部３

は縦位に細沈線文が施されている。№215 ～223 は貝殻背面押圧文（貝殻の背面を連続して押圧したもの）と呼称できるもので，結果的には押し引き文様の効果を表現している。№221 では，貝殻腹縁部を横位に使用し，上位から下位へ連続施文が見られる。器面調整は見事である。

№223 の平坦な口唇部はヘラで連続して刻まれ，口縁部には３列の貝殻刺突線文が施されるが，刺突線は単一の刺突点の可能性が高い。胴部施文以外は異なることはない。№244 口縁部は上位で開くように外反し，平坦面を成し縦位のヘラ刻みを持つ口唇部はやや外に傾斜する。口縁部直下には横位に３列の貝殻刺突線文を巡らし，胴部の上部では間延びした押し引き文（押し引き文を施文する際の１単位の引きの動作が大きく，押圧風）が見られ，下部では波状に施す。№239 は器面に



第92図　小牧３Ａ遺跡・円筒形土器底部４

赤色顔料を塗彩した可能性がある。

No.262 は角筒形土器の稜部に相当する。丁寧にナデ仕上げた器面に貝殻腹縁部により押し引き文が密に施されている。

Ⅳ類土器

No.248 ～256 の土器で，基本的に器面に地文として条痕を残している。No.248 は外面が薄くなり舌状を成し，頂部は棒状工具で緩く押さえられ，波状を呈す。口縁部文様帯は，横位の貝殻腹縁刺突線文で区画され，その上位に３筋の貝殻腹縁刺突具で刺突文が付される。胴部以下は，横位の貝

表38　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）17

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
86	239	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	D-10	3454	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；やや軟弱	外；ナデ 内；ナデ	口唇部平坦面に縦位のヘラ刻み。口縁部直下に３列の横位の貝殻刺突線文。胴部は押し引き文。施文具は2・1cm。外面に赤色の顔料塗彩か。
	240	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部	M-5	2177	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なナデ	胴部で緻密な扇状の施文具を使用し、施文具が鋭角に（浅く）使用される。器壁薄い。外面に煤付着。
	241	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部	M-3 L-3	2022 2068	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	胴部で押し引き文の施文手法が場所により異なっている。
	242	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部	C-12		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；極めて堅緻	外；ナデ 内；ナデ	胴部で明瞭な押し引き文。施文具2・0cm。
	243	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部	M-4	2167	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；極めて堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部平坦面に縦位のヘラ刻み。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部の押し引き文は異なった手法を取り入れる。施文具は2・9cmで同一か。復元口径17・5cm。外面に赤色の顔料塗彩か。
87	244	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	口縁部外反。やや外に傾斜した口唇部平坦面に、縦位のヘラ刻み。直下に横位３列の貝殻刺突線文。胴部上位では間延びした押し引き文（施文具の１回の引きが長く、一見貝殻腹縁押圧文風）。下位では押圧の間隔を短く波状に施す。口径20・2cm
	245	深鉢形土器 Ⅱ類	完形品			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好 口径20・5cm 高さ26・6cm 底部15・6cm	外；ナデ 内；ナデ	底部から上位にかけて少しずつ開きながら立ち上がり、口縁部上位で外反する形状。口唇部は狭い平坦面を成し、斜位のヘラ刻みを持つ。口縁部には横位３列の貝殻刺突線文を巡らし、下段の刺突線に接する位置に縦位２列の楔形突帯が張り付けられる。この楔に添う状態で貝殻刺突線文が付けられ、同様に全体に施文される。底部は正円形で接地面は平坦面を成す。施文具は６筋の腹縁部で最大幅1・6cm。器壁薄い。
	246	深鉢形土器 Ⅱ類	胴部	M-1	1854	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；上位ヘラのヨコナデ 下位ヘラのタテナデ	ほぼ直行する筒状の形状で、口唇部は平坦面を成す。口唇部平坦面は５㎜毎に斜位のヘラ刻みが付けられる。口縁部直下に横位に貝殻刺突線文が非連続に付けられ、それ以下では貝殻施文具による押圧文が付される。施文具の最大幅は2・1cm。復元口径16・5cm。
	247	深鉢形土器 Ⅱ類	胴部	M-1	1834	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；下位ヘラのタテナデ	胴部で貝殻施文具による押圧文。施文具の最大幅は1・6cm。246と同一か。
88	248	深鉢形土器 Ⅳ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；貝殻条痕文 内；ヘラのヨコナデ	舌状の口唇部で、外面から棒状工具で緩く押さえ、波状を成す。口縁部文様帯は横位１列の貝殻刺突線文で区画され、その上位に３筋の貝殻施文具による右から左の刺突文（連続）が付される。胴部以下は横位の条痕が残される。図面は円筒形で示したが、角筒形の可能性もある。器壁厚い。
	249	深鉢形土器 Ⅳ類	口縁部	K-12	2485	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕文 内；ヘラのヨコナデ	丸い口唇部。口縁部直下に３筋の貝殻施文具による縦位の刺突文（連続）が右から左へ付される。胴部は横位の条痕が残される。復元口径16・0cm。器壁厚い。外面に煤付着。
	250	深鉢形土器 Ⅳ類	胴部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕文 内；ヘラのタテナデ	胴部で斜位の条痕文を地文とし、その後２筋の施文で短沈線文が描かれる。角筒形土器で、器壁が特に厚い。
	251	深鉢形土器 Ⅳ類	胴部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；貝殻条痕文 内；ヘラのタテナデ	胴部で斜位の条痕文を地文とし、その後２筋の施文で短沈線文が描かれる。角筒形土器で、器壁が特に厚い。

表39　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）18

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
88	252	深鉢形土器 Ⅳ類	胴部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；貝殻条痕文 内；ヘラのタテナデ	胴部で斜位の条痕文を地文とし、その後２筋の施文で短沈線文が描かれる。角筒形土器で、器壁が特に厚い。
	253	深鉢形土器 Ⅳ類	胴部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；貝殻条痕文 内；ヘラのタテナデ	胴部で斜位の条痕文を地文としている。角筒形土器で、器壁が特に厚い。
	254	深鉢形土器 Ⅳ類	胴部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；貝殻条痕文 内；ヘラのタテナデ	胴部で斜位の条痕文を地文としている。角筒形土器で、器壁が特に厚い。
	255	深鉢形土器 Ⅳ類	胴部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・ 焼成；堅緻	外；貝殻条痕文 内；ヘラのタテナデ	胴部で斜位の条痕文を地文としている。角筒形土器で、器壁が特に厚い。
	256	深鉢形土器 Ⅳ類	胴部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；貝殻条痕文 内；ヘラのタテナデ	胴部で斜位の条痕文を地文とし、更に、ヘラ状工具等で菱形状の文様を構成している。角筒形土器で、器壁は厚い。
	257	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なナデ	胴部最下部片で、斜方向の貝殻条痕文を地文としその後、縦位の貝殻刺突線文を重ねている。角筒形土器
	258	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部	H-10	1229	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なナデ	胴部片で、斜方向の貝殻条痕文を地文としその後、縦位の貝殻刺突線文を重ねている。角筒形土器
	259	深鉢形土器 Ⅰ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラナデ	胴部片で、斜方向の貝殻条痕文を地文としその後、縦位の貝殻刺突線文を重ねている。角筒形土器
	260	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部は平坦面を成す。角筒形土器で、４隅の口縁部が山形に隆起する。口縁部に横位２列の貝殻刺突線文を巡らし、その下位に縦位の楔形突帯を張り付け、更に、楔に添って貝殻刺突線文を付ける。
	261	深鉢形土器 Ⅲ類	口縁部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部は丸みを成す。角筒形土器で、４隅の口縁部が山形に隆起する。口縁部に横位２列の貝殻刺突線文を巡らし、その下位に縦位の楔形突帯を張り付け、更に、楔に添って上から下方向への刺突連点文を付ける。
	262	深鉢形土器 Ⅲ類	胴部	E-2	1646	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；下位ヘラのタテナデ	胴部で貝殻施文具による押し引き文に近い貝殻刺突線文。
	263	深鉢形土器 Ⅲ類	底部		7465	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ナデ	底部片で、角筒形土器のコーナー部に相当する。接地面は平坦面を成し、胴部との境界に縦位の浅い沈線文が平行して描かれている。
	264	深鉢形土器 Ⅰ類	底部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；貝殻条痕文 内；ナデ	底部片で、角筒形土器のコーナー部に相当する。接地面は平坦面を成し、胴部との境界に縦位の浅い沈線文が平行して描かれている。上位には条痕文の地文に縦位の貝殻刺突線文を施す。
	265	深鉢形土器 Ⅰ類	底部	G-11	2507	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；貝殻条痕文 内；ナデ	底部片で、角筒形土器のコーナー部に相当する。接地面は平坦面を成し、胴部との境界に縦位の浅い沈線文が平行して描かれている。264 と類似した資料。

表40　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）19

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
89	266	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 7・1 cm	F-2	1671	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒・角閃石 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は丁寧にナデられ縦方向の貝殻刺突線文・押し引き文が混合している。器壁は薄い。内面の仕上げも良い。
	267	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 7・5 cm	L-4	8600	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は丁寧にナデられ横方向の貝殻刺突線文。器壁は薄い。内面の仕上げも良い。
	268	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 7・1 cm	E-13	3003	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は丁寧にナデられ縦方向の押し引き文。器壁は薄い。内面の仕上げも良い。
	269	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 7・5 cm	E-3	1336	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は丁寧にナデられ縦方向の押し引き文。器壁は薄い。内面の仕上げも良い。
	270	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 8・0 cm	G-9	1303	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は丁寧にナデられ縦方向の押し引き文。器壁は薄い。内面の仕上げも良い。
	271	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 8・0 cm	D-13		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラにやや深めの縦位の短沈線文。器面はナデられ横方向の貝殻刺突線文。器壁は薄い。内面の仕上げも良い。施文具3・1 cm。
	272	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 8・7 cm	F-2	1396	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラに縦位の短沈線文。器面はナデられ縦位の貝殻刺突線文。器壁は薄い。内面の仕上げも良い
	273	深鉢形土器 Ⅰ類 円筒形土器	底部 底部径 8・5cm	K-12	14	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；貝殻条痕文 内；ヘラのタテナデ 胴部はヘラのタテナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラにの縦位の短沈線文。器面は条痕の上に貝殻刺突線文。器壁は薄い。内面の仕上げも良い。
	274	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 7・4 cm	J-12	29	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラに縦位の短沈線文。器面はナデられ縦位の押し引き文。器壁は薄い。内面の仕上げも良い
	275	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 7・9 cm	I-8	1458	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ 胴部はヘラのタテナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラに縦位の短沈線文。器面はナデられ縦位の押し引き文。器壁は薄い。内面の仕上げも良い
	276	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 7・5 cm			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ 胴部はヘラのタテナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラに縦位の短沈線文。器面はナデられ縦位の押し引き文。器壁は薄い。内面の仕上げも良い
	277	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 6・1 cm	D-15		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラに縦位の短沈線文。器壁は薄い。内面の仕上げも良い
	278	深鉢形土器 Ⅰ類 円筒形土器	底部 底部径 7・7 cm	N-8		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラに縦位の短沈線文。器面は条痕上位に縦位の貝殻刺突線文。器壁は薄い。内面の仕上げも良い
	279	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 8・5 cm	L-8	147	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラに縦位の短沈線文。器面はナデられ縦位の貝殻刺突線文。器壁は薄い。内面の仕上は粘土溜り残る。
	280	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 8・3 cm	M-2 N-3	1882 1950	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラに縦位の短沈線文。器面はナデられ縦位の貝殻刺突線文。器壁は薄い。内面の仕上は良好。
	281	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 7・8 cm	G-15	2923	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラに縦位の短沈線文。器壁は薄い。内面の仕上は良好。
	282	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 8・2 cm	M-13	2516	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラに縦位の短沈線文。器壁は薄い。内面の仕上は良好。
	283	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 8・3 cm	H-7	6377	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラに縦位の短沈線文。器面はナデられ縦位の貝殻刺突線文。器壁は薄い。内面の仕上は良好。

表41　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）20

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
89	284	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 7・2 cm	M-9	1295	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は丁寧にナデられ。器壁は薄い。内面の仕上げ良好。
	285	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 7・2 cm	M-9	1277	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は丁寧にナデられ。器壁は薄い。内面の仕上げ良好。胴部との接合面で分離。
	286	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 7・5 cm			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は丁寧にナデられ。器壁は薄い。内面の仕上げ良好。
	287	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 7・7 cm	G-10	1197	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は丁寧にナデられ。接地面の器壁は厚く胴部は薄い。内面の仕上げ良好。
	288	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 7・2 cm	K-4	2118	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は丁寧にナデられ。接地面の器壁は厚く胴部は薄い。内面の仕上げ良好。
90	289	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 9・9 cm	F-3	1680	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラのヨコナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる長めの縦位の沈線文。器面は押し引き文。器壁は薄い。内面の仕上良好。
	290	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 8・8 cm	J-12	11	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面はナデられ縦位の貝殻刺突線文。内面の仕上げ良好。施文具1・4 cm。
	291	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 9・4 cm	J-1	1631	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる長めの縦位の短沈線文。器面は間延び押し引き文。器壁は薄い。
	292	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 9・5 cm	C-9	86	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の長めの沈線文。器面はナデられ縦位の貝殻刺突線文。内面の仕上げ良好。施文具2・2 cm。
	293	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 9・6 cm	L-3	8594	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は押し引き文。
	294	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 8・4 cm	J-10	2376	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；極めて堅緻	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の長めの沈線文。器面に縦位の貝殻刺突線文。内面の仕上げ良好。
	295	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 8・8 cm	C-12		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は押し引き文。接地面は厚く、丁寧なナデ仕上げ。
	296	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 8・9 cm			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の沈線文。器面に縦位の貝殻刺突線文。内面の仕上げ良好。
	297	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 10・5cm	H-14	2668	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は押し引き文。接地面は特に薄い。接地面は丁寧なナデ仕上げ。
	298	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 10・0cm	I-8	1458	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は押し引き文。器壁薄い。接地面は丁寧なナデ仕上げ（光沢あり）。器面赤色
	299	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 9・0 cm	I-12	2406	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；やや軟弱	外；ナデ 内；ナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は押し引き文。接地面との接合部で分離。 施文具2・5 cm。
	300	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 9・7 cm	J-12	1149	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は押し引き文。器壁薄い。接地面は丁寧なナデ仕上げ（光沢あり）。
	301	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 11・7cm	I-13	2526	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；やや軟弱	外；不明 内；ヘラのタテナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は押し引き文。器壁薄い。接地面は丁寧なナデ仕上げ。

表42　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）21

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
90	302	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 10・7cm	J-5		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;丁寧なナデ 内;ヘラのタテナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器壁は薄く、特に接地面は薄い。接地面は光沢を持つ。内面の仕上げ良好。
	303	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 9・7 cm	L-4	2098	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・少量の雲母 焼成;堅緻	外;丁寧なナデ 内;丁寧なナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面は内外とも丁寧にナデられ、器壁は薄い。
	304	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 8・3 cm	G-9	1205	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒・雲母 焼成;堅緻	外;丁寧なナデ ヘラ磨き? 内;ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面は丁寧にナデられ、光沢を持つ。器壁は薄い。内面の仕上げ良好。
	305	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 8・9 cm			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器面は丁寧にナデられ。接地面の器壁は薄い。
	306	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 11・2cm	J-5	1495	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ヘラナデ 中央から周辺へ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面は丁寧にナデられ。接地面は中央部で厚くなる。
	307	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 9・4 cm	G-7	7913	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;良好	外;丁寧なナデ ヘラ磨き? 内;丁寧なナデ	平坦な接地面で光沢あり。胴部との境界にはヘラによる長めの縦位の沈線文。器壁は薄く接地面は厚い。内面の仕上良好。
	308	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 8・9 cm	K-10	1287	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;堅緻	外;丁寧なナデ ヘラ磨き? 内;丁寧なナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。内面の仕上げ良好。接地面はヘラ磨きの可能性あり。
	309	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 9・3 cm	I-16	2773	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;良好	外;丁寧なナデ ヘラ磨き? 内;ヘラのタテナデ	平坦な接地面で光沢あり。胴部との境界にはヘラに縦位の短沈線文。器壁は薄い。
	310	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 9・0 cm			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ ヘラ磨き? 内;ヘラのタテナデ	平坦な接地面で光沢あり。胴部との境界にはヘラによる縦位の沈線文。器面はナデられ。内面の仕上げ良好。接地面厚く、器壁は薄い。
	311	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 10・0cm	M-5	8605	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ 内;ヘラナデ	胴部との境界にヘラによる縦位の短沈線文。器面は押し引き文。接合部が良く観察できる。
	312	深鉢形土器 中間 円筒形土器	底部 底部径 8・3 cm	J-14	2600	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;ヘラナデ	接地面はランダム。胴部との境界にはヘラによる縦位の沈線文。器面に縦位の貝殻刺突線文。内面の仕上げ荒い。
	313	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 8・4 cm	H-11	1191	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;堅緻	外;ナデ ヘラ磨き 内;ヘラのタテナデ	胴部との境界にヘラによる縦位の短沈線文。器壁・接地面は薄く、丁寧なナデ仕上げ。
	314	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 10・1cm	D-12	2370	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;極めて堅緻	外;ナデ ヘラ磨き 内;ヘラのタテナデ	胴部との境界にヘラによる縦位の沈線文。内面の仕上げ良好。器壁・接地面は薄く、入念なヘラ磨き。
	315	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 8・9 cm	H-9	1240	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;堅緻	外;ヘラナデ 内;ヘラナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面の厚さが不統一。重量あり。
	316	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 8・4 cm	G-8 L-14	1423 1108	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ ヘラ磨き 内;ナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面厚く器壁薄い。接地面は丁寧なナデ仕上げ（光沢あり）。
	317	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 9・8 cm	K-6	1481	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;やや軟弱	外;ナデ ヘラ磨き 内;ナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面との接合部で分離。接地面の中央部が厚い。
	318	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 9・2 cm	E-2	1377	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成;堅緻	外;ナデ ヘラ磨き 内;ナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器壁薄い。接地面は丁寧なナデ仕上げ（光沢あり）。
	319	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 9・4 cm	I-5	1576	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;やや軟弱	外;不明 ヘラ磨き 内;ナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面は丁寧なナデ仕上げ。

表43　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）22

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
	320	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 9・9㎝			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；丁寧なナデ 内；ヘラのタテナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器壁は薄く、接地面の中央部は厚い。内面の仕上げ良好。
	321	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 10・7㎝	H-14 J-14	1005	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；丁寧なナデ ヘラ磨き 内；ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面は入念に磨かれ、光沢あり。器壁は薄い。
９０	322	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 8・8㎝	K-12	15	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；丁寧なナデ ヘラ磨き? 内；ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面は入念に磨かれ、光沢を持つ。器壁は薄く、接地面は厚い。
	323	深鉢形土器 Ⅰ類 円筒形土器	底部 底部径 9・2㎝			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；貝殻条痕 内；ナデ	平坦な接地面、地文の貝殻条痕文を残す。器壁は厚い。
	324	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 11・5㎝	H-4	1717	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ヘラ磨き （光沢あり） 内；ヘラナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。胴部は押し引き文。接地面は中央部で厚くなる。
	325	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 12・4㎝	I-15	2742	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；丁寧なナデ ヘラ磨き? 内；丁寧なナデ	平坦な接地面。胴部との境界にはヘラによる縦位の沈線文。胴部は押し引き文。器壁・接地面共に薄い。内面の仕上良好。
	326	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 12・0㎝	I-14	2592	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ヘラ磨き （光沢あり） 内；丁寧なナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。内面の仕上げ良好。接地面はヘラ磨きの可能性あり。器壁は特に薄い。
	327	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 10・6㎝	C-10	476	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；丁寧なナデ ヘラ磨き? 内；ヘラのタテナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラに縦位の短沈線文。胴部は貝殻刺突線文。内面の調整は特に丁寧。接合面で分離。
	328	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 11・3㎝	K-12	2483	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；極めて堅緻	外；ナデ ヘラ磨き? 内；ヘラ磨き	平坦な接地面で光沢あり。、胴部との境界にはヘラによる縦位の沈線文。器面は丁寧にナデられ、内面の仕上げ特に良好。器壁は薄い。
	329	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 10・5㎝	I-10	1248	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ヘラナデ 内；ヘラナデ	胴部との境界にヘラによる縦位の短沈線文。器面は押し引き文。接地面は丁寧な横位のヘラ磨き。器壁薄い。
９１	330	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 11・1㎝	J-2 K-7	1774 175	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；極めて堅緻	外；ヘラナデ 内；ヘラナデ	平坦な接地面で光沢あり。胴部との境界にはヘラによる縦位の沈線文。器面に押し引き文。器壁は薄く、接地面は厚い。
	331	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 11・1㎝	E-14	3008	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	胴部との境界にヘラによる縦位の短沈線文。胴部は押し引き文。内面は丁寧なナデ仕上げ。
	332	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 10・6㎝			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；極めて堅緻	外；ヘラ磨き 内；丁寧なヘラナデ	平坦な接地面。胴部との境界にヘラによる縦位の沈線文。胴部は貝殻刺突線文。内面の仕上げ良好。器壁・接地面は薄く、入念なヘラ磨き。
	333	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 11・3㎝	I-8 I-9	5600 1255	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ヘラ磨き （光沢あり） 内；ヘラナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面は丁寧なヘラ磨き。
	334	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 12・3㎝	K-9	108	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面厚く器壁薄い。接地面は丁寧なナデ仕上げ（光沢あり）。
	335	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 12・2㎝	E-5	704	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ ヘラ磨き 内；ヘラナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面との接合部で分離。
	336	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 12・4㎝	F-5	6277	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ ヘラ磨き 内；ヘラナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器壁薄い。接地面は丁寧なナデ仕上げ（光沢あり）。
	337	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 12・0㎝	D-16 D-15		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；やや軟弱	外；不明 内；ナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面は平坦でナデ仕上げ。

表44　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）23

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
91	338	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 12・6cm	C-12 I-13	3137 2438	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；丁寧なナデ 内；ヘラナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器壁は薄く、接地面の中央部はやや厚い。内面の仕上げ良好。
	339	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 12・0cm			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；丁寧なナデ ヘラ磨き 内；ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面は入念に磨かれ、光沢あり。器壁は薄い。
	340	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 12・3cm			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；やや軟弱	外；丁寧なナデ ヘラ磨き? 内；丁寧なナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面は磨かれ。器壁はやや厚い。
	341	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 10・9cm	G-3	1622	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ヘラ磨き 内；ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面は磨かれ光沢を持つ。器壁はやや厚い。
	342	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 10・5cm			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ヘラ磨き （光沢あり） 内；ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。内面は特に丁寧なナデ仕上げ。接地面に圧痕を認めるが不明。
	343	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 13・0cm	I-5	1561	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；丁寧なナデ ヘラ磨き? 内；ナデ	平坦な接地面。胴部との境界にはヘラによる縦位の沈線文。胴部は押し引き文。器壁・接地面共にやや厚い。内面の仕上やや雑。
	344	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 11・2cm	G-10	1212	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なナデ	平坦な接地面、内面の仕上げ良好。接地面はヘラ磨きの可能性あり。胴部は細かい押し引き文。
	345	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 11・0cm			細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；極めて堅緻	外；ヘラ磨き 内；ヘラ磨き	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラに縦位の短沈線文。内面の整形は特に丁寧。接合面で分離。
	346	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 11・5cm	L-3 C-11 C-15	2060	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；極めて堅緻	外；ヘラ磨き 内；ヘラ磨き?	平坦な接地面で光沢あり。胴部との境界にはヘラによる縦位の沈線文。器面は丁寧にナデられ、内面の仕上げ特に良好。器壁は薄い。
	347	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 11・0cm	G-8	1425	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；極めて堅緻	外；ヘラ磨き 内；ヘラナデ	胴部との境界にヘラによる縦位の短沈線文。接地面は丁寧な横位のヘラ磨き。器壁やや厚い。重量あり。
92	348	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 14・0cm	L-10	1294	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ヘラナデ 内；ヘラナデ	平坦な接地面。胴部との境界にはヘラによる縦位の沈線文。器面に押し引き文。器壁は薄い。内面黒色。
	349	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 12・2cm			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；極めて堅緻	外；ヘラ磨き 内；ヘラのタテナデ	胴部との境界にヘラによる縦位の短沈線文。胴部は押し引き文。内面は丁寧なナデ仕上げ。
	350	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 14・4cm	B-13	3975	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；極めて堅緻	外；ヘラナデ 内；丁寧なヘラナデ	平坦な接地面。胴部との境界にヘラによる縦位の沈線文。胴部は押し引き文。内面の仕上げ良好。器壁・接地面は薄く。
	351	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 13・7cm	M-1	2006	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ヘラ磨き （光沢あり） 内；ヘラナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面は丁寧なヘラ磨き。器壁は薄い。
	352	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 13・5cm	H-13	890	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；堅緻	外；ナデ 内；ヘラナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面厚く器壁薄い。接地面は丁寧なナデ仕上げ（光沢あり）。
	353	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 14・5cm		S-167	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；やや軟弱	外；ナデ ヘラ磨き 内；ナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。接地面との接合部で分離。
	354	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 14・5cm			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ ヘラ磨き 内；ヘラナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。器壁薄い。接合部で分離。接地面は丁寧なナデ仕上げ（光沢あり）。
	355	深鉢形土器 Ⅲ類 円筒形土器	底部 底部径 15・5cm	G-11	1181	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；ナデ 内；ヘラのタテナデ	胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。胴部は押し引き文。接地面は平坦でナデ仕上げ。

表45　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）24

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
92	356	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 13・4cm	I-14 M-7	2804 2314	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ナデ 内；丁寧なヘラナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。胴部は貝殻刺突線文。器壁は厚くい。内面の仕上げは丁寧。
	357	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 12・0cm	A-15	3039	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?　赤色粒 焼成；極めて堅緻	外；ヘラ磨き 内；ナデ	平坦な接地面のみ残存。接地面は入念に磨かれ、光沢あり。器壁は薄い。
	358	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 17・3cm	J-5	1605	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；丁寧なナデ 内；ヘラナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。胴部は貝殻刺突線文。器壁は薄い。
	359	深鉢形土器 Ⅱ類 円筒形土器	底部 底部径 16・3cm	J-9	2381	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒? 焼成；堅緻	外；ヘラ磨き 内；ナデ	平坦な接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。胴部は貝殻刺突線文。内面接合部は指頭痕が残る。器壁は薄い。
	360	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 13・7cm	I-7	6369	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・角閃石 焼成；極めて堅緻	外；ヘラ磨き （光沢あり） 内；ナデ	中央部がやや膨らむ接地面、胴部との境界にはヘラによる縦位の短沈線文。内面は特に丁寧なナデ仕上げ。
	361	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 14・0cm	I-14	2810	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成；良好	外；丁寧なナデ ヘラ磨き? 内；ナデ	平坦な接地面。胴部との境界にはヘラによる縦位の沈線文。接地面の整形特に丁寧。内面の仕上やも良好。
	362	深鉢形土器 不明 円筒形土器	底部 底部径 16・0cm	H-11	1191	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒・雲母 焼成；極めて堅緻	外；丁寧なナデ 内；丁寧なヘラナデ	平坦な接地面、内面の仕上げ良好。内外面共に丁寧なナデ仕上げ。重量あり。

殻条痕で器面整形される。胴部以下は円筒形を成すが，上位の口縁部では方形を成す可能性がある。No.250 ～264 は角筒形土器の胴部資料で，No.250 ・251 は稜部に，他は胴部壁面に相当する。器面に地文として条痕を残し，ヘラ状工具で部分的に施文し，稜部にも同様である。

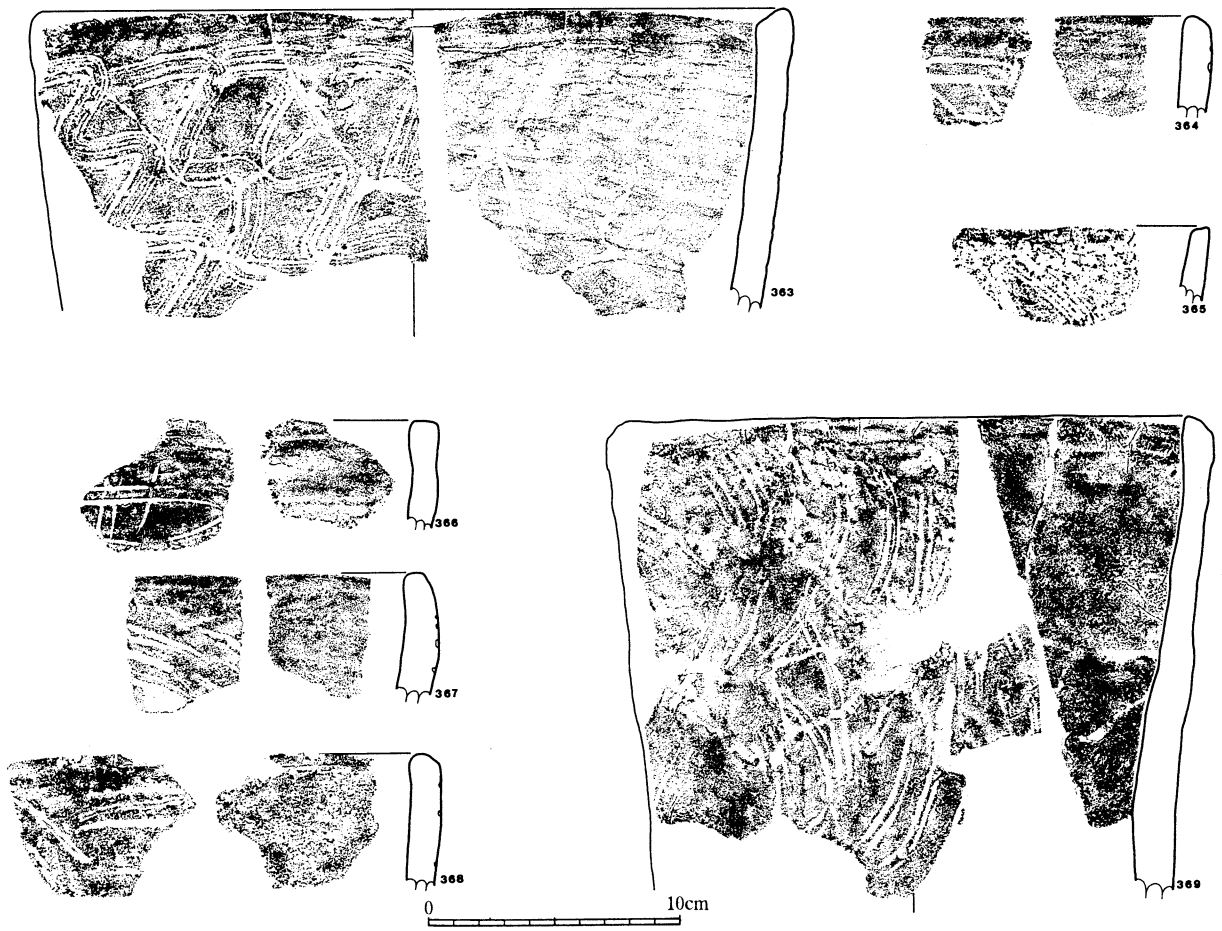
No.249 は円筒形土器の口縁部で，口唇部は丸みを成すようにナデられ，口縁部には貝殻刺突文を縦位に深く連続して刺突し，地文の条痕を残す。器面に多量の煤を付着する。No.265 は胴部資料で，貝殻腹縁による押圧文が残される。

底部

Ⅰ類土器に該当するものに，No.273 とNo.278 を抽出できる。器面に地文としての斜めの条痕が残され，その上位に貝殻刺突線文が縦方向に整然として施される。底部外面には，縦位の短沈線文が規則的に付され，沈線文は土器を逆さにして施している。接地面は正円形を成し，内面の接合・整形は指ナデにより，胴部内面は縦位のヘラナデと判断される。

Ⅱ類土器では，Ⅰ類土器に見られた地文として条痕は残されない。No.266 は内外面・接地面共に丁寧にナデて仕上げられ，光沢のある器面を成している。底部側面の短沈線文は，土器を逆さにしてつけられ，その上位に貝殻刺突線文が規則的に施されている。No.267 も同様で，貝殻刺突線文は横位につけている。No.271 も横位の貝殻刺突線文で，先のNo.201 ・202 と類似した手法が看取される。No.279 の貝殻刺突線文もその間隔は良く保たれている。No.292 の接地面は入念にナデられ正円形の平坦な面を持ち，胴部との接合部もヘラで丁寧にナデている。No.327 ・328 で接合の方法を観察すると，正円形に造り出した底部に胴部を乗せていることがわかる。即ち，先に造り出した底部の大きさに胴部は左右されることとなる。

Ⅲ類土器は，胴部が貝殻腹縁の押し引き文で施文されたもので，底部の形状・側面の短沈線文等のスタイルは同じである。No.269 ・270 ・275 等いずれも短沈線文の上位は貝殻腹縁による押し引



第93図　小牧３Ａ遺跡・桑ノ丸Ⅲ類土器１

き文が施されている。№299の押し引き文は横方向にほぼ垂直に連続して深く施され，№298では施文具を寝かし（器面に対し鋭角）て施している。№302を観察すると，押し引き文が先行してつけられ，その後側縁部の短沈線文を刻んでいることが分かる。

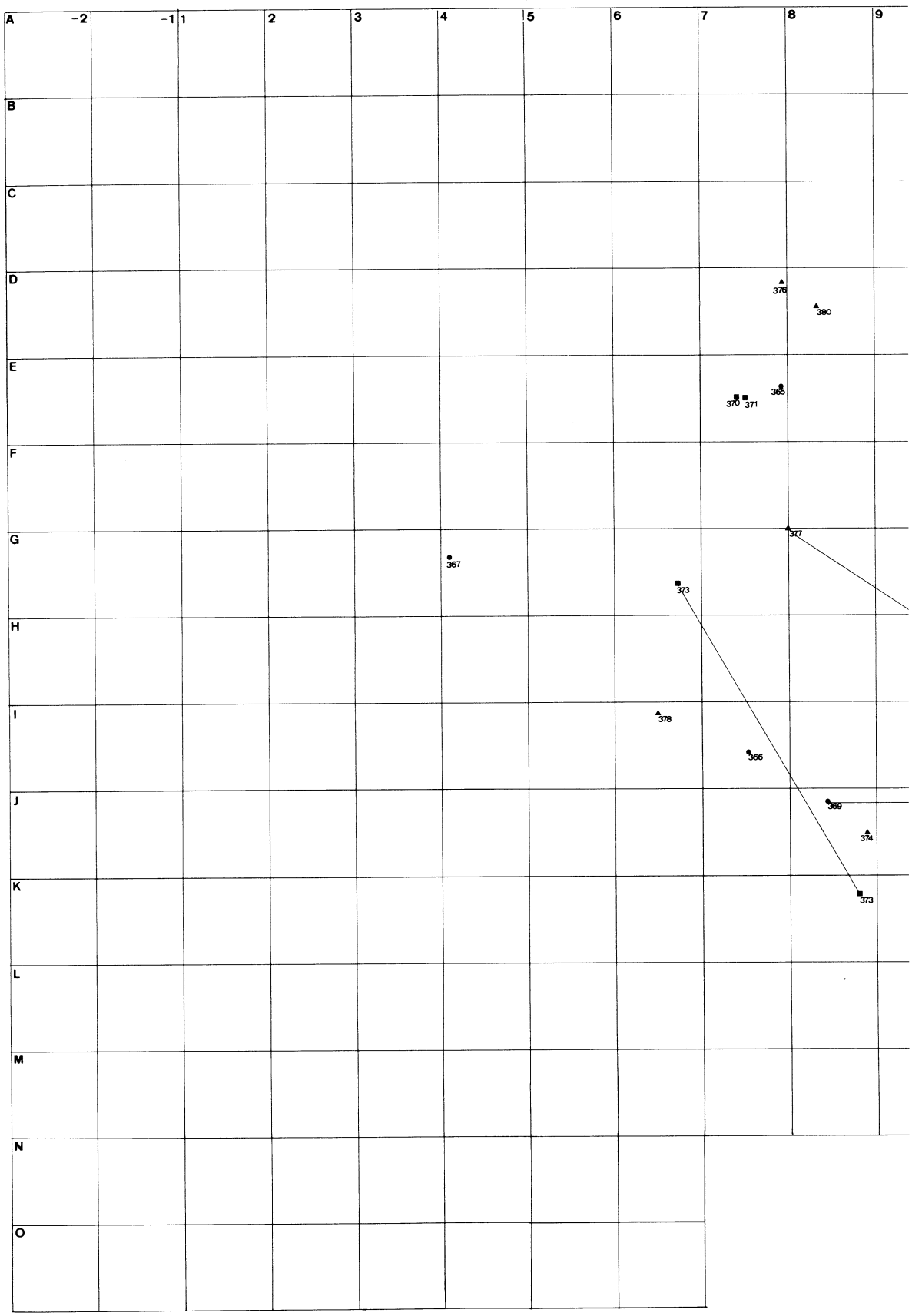
底部と胴部の関係についてはNo.357の１点を除いて，Ⅱ類土器で観察した通り，先行して造り出した底部に胴部を乗せ接合することが一般的である。次に，底部の大きさは詳細に類型はしていないが，７～８cm前後，10～12cm前後，15cm以上の３種程は存在していると判断される。

桑ノ丸Ⅲ類土器（Ｐ178・181）

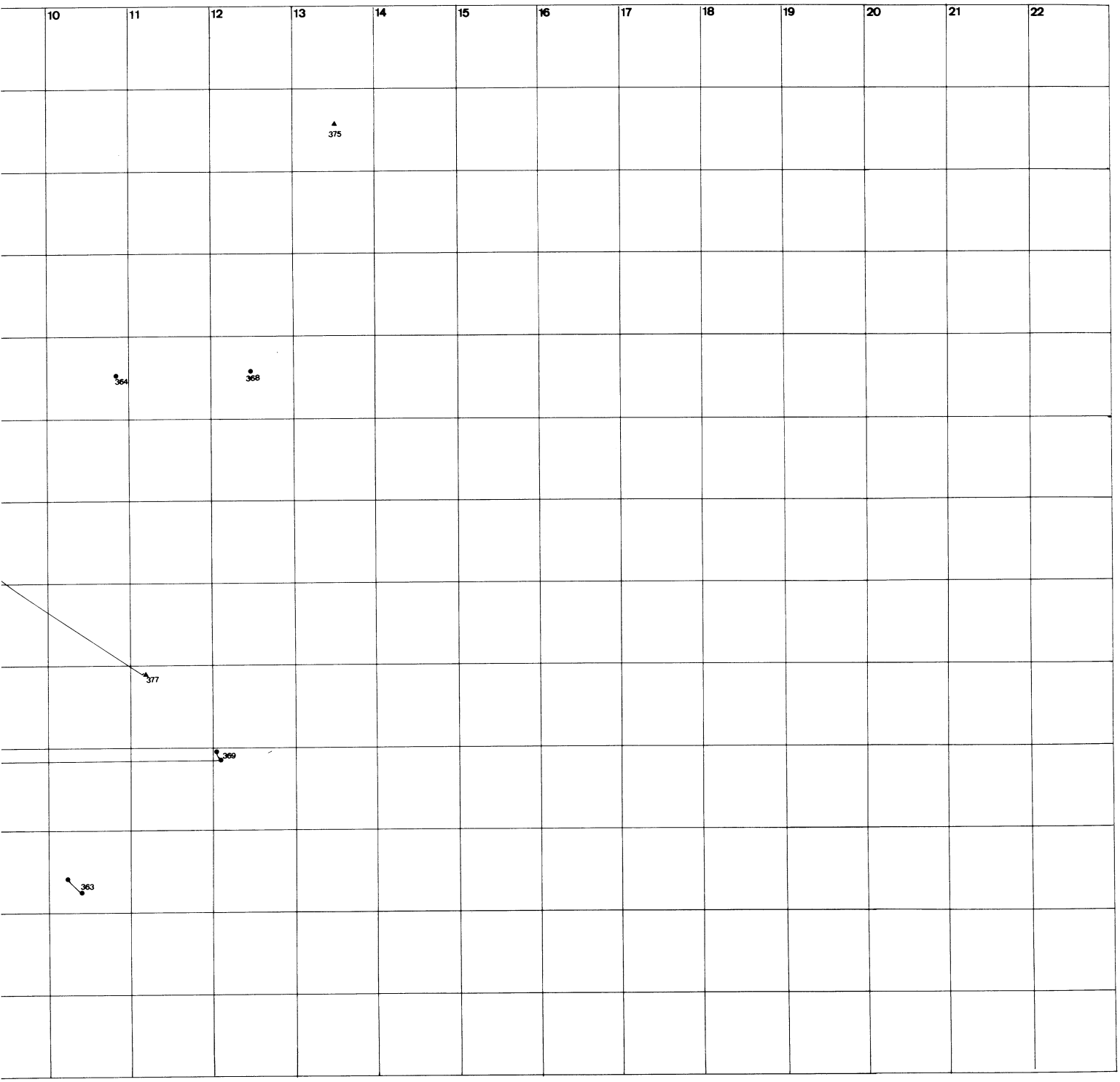
溝辺町桑ノ丸遺跡出土のⅢ類土器を指標とし，その範疇に含まれると判断できる土器である。

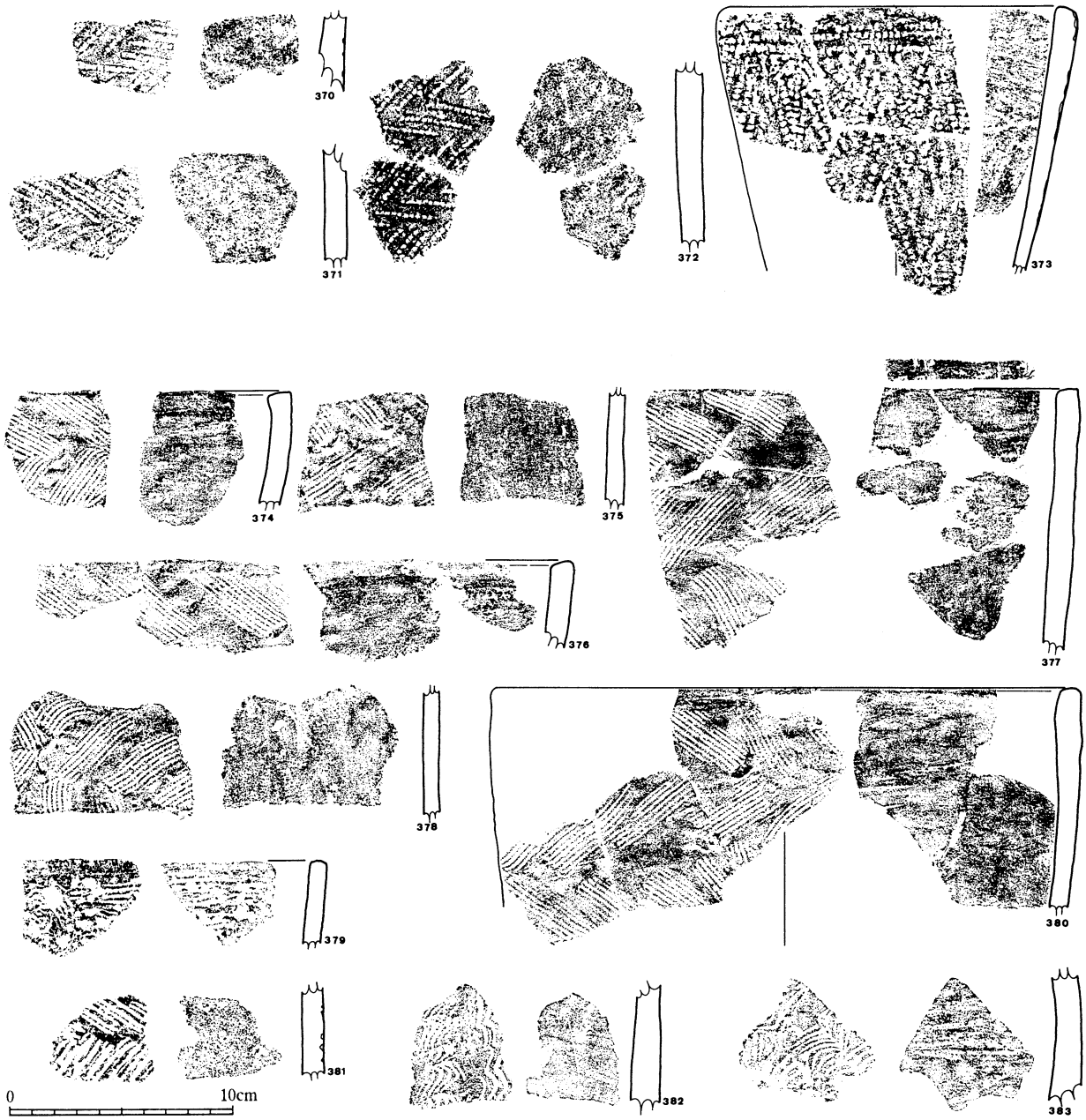
器面調整は，内外面共にヘラナデあるいは丁寧なナデ仕上げを基本としている。素焼きの植木鉢に類似した形状的特徴が知られており，口径に比較して器高が小さくなる。また，器壁は総じて厚く，口唇部は平坦面を呈し，№363のように内傾する例が多い。施文具に貝殻腹縁部及びそれらに類した貝殻条痕，櫛状工具を用い，Ｓ字状の流水文や鋸歯状文を施している。

№363は口径31.2cmで，口唇部は平坦面を持ちながら内傾し，器壁は厚く，特に内面はヘラで入念に研磨し光沢のある器面を残している。貝殻腹縁部により，逆Ｓ字状文を右から左方向へ移動しながら施文している。№369の口唇部は，やや丸みを成し外に傾き，器面は凹凸を残したままで，器壁は厚い。不規則な施文は，叉状工具による。№367・368も類似した資料である。



第94図　小牧３Ａ遺跡・縄文時代（桑ノ丸Ⅲ類土器出土分布図）


10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
375
364
368
377
369
363



第95図　小牧３Ａ遺跡・桑ノ丸Ⅲ類土器２

№380の口唇部は丸みを成し，口唇部の直下から貝殻腹縁部を引きながら鋸歯状に施文している。器面のほぼ全域に施文し，焼成の極めて硬質の仕上がりで口径は25.7㎝ある。口唇部の形状は異なっているが，№374・376・377等も同種の施文が見られる。

№382・383は貝殻腹縁部で波状に施文したもので，上記土器のバリエーションの一つである。

下剥峯類土器（Ｐ181）

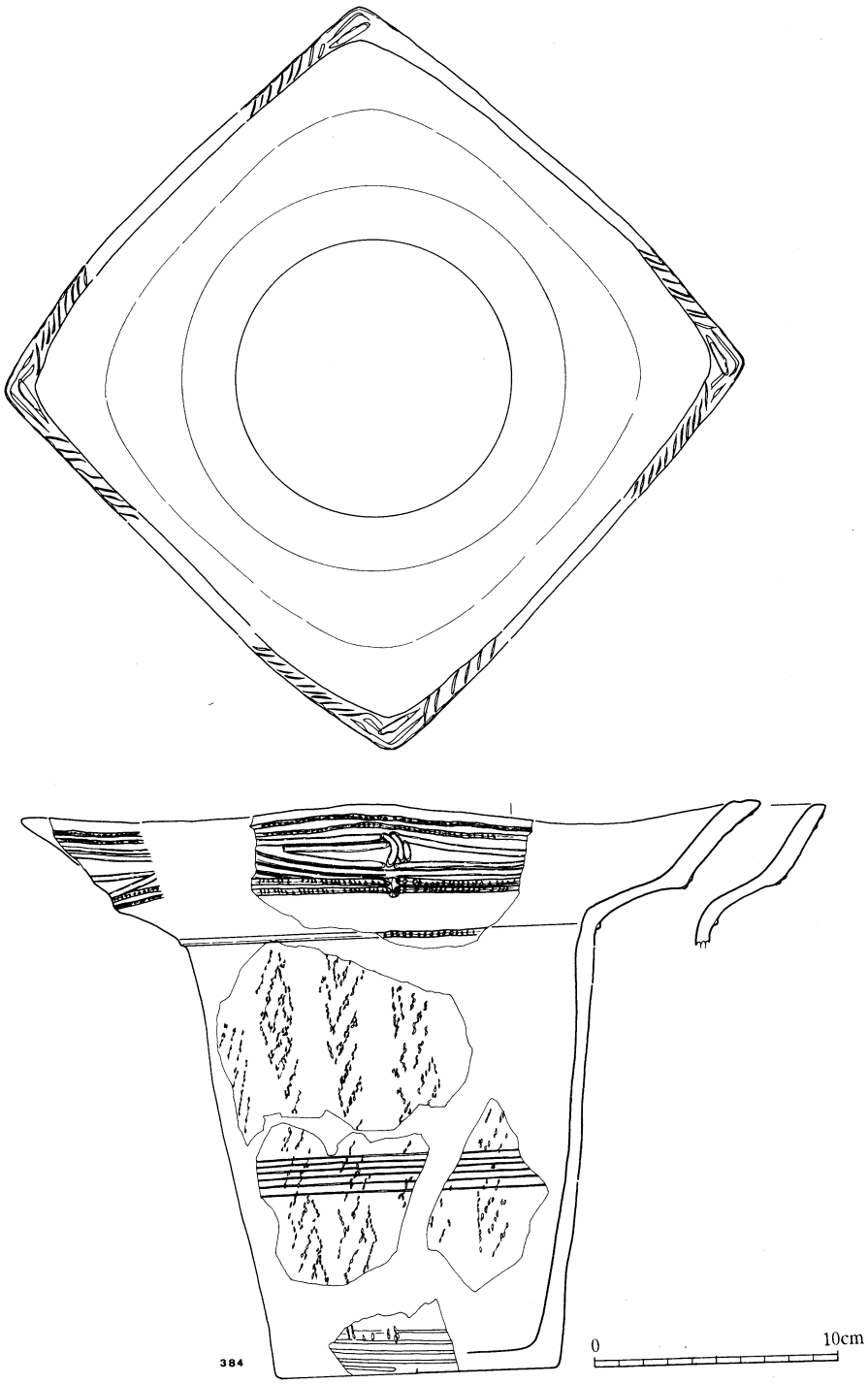
№373の口唇部は丸みを成し，口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文を巡らし，その下位に羽状文風に貝殻刺突線文を施している。

表46図　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（土器）25

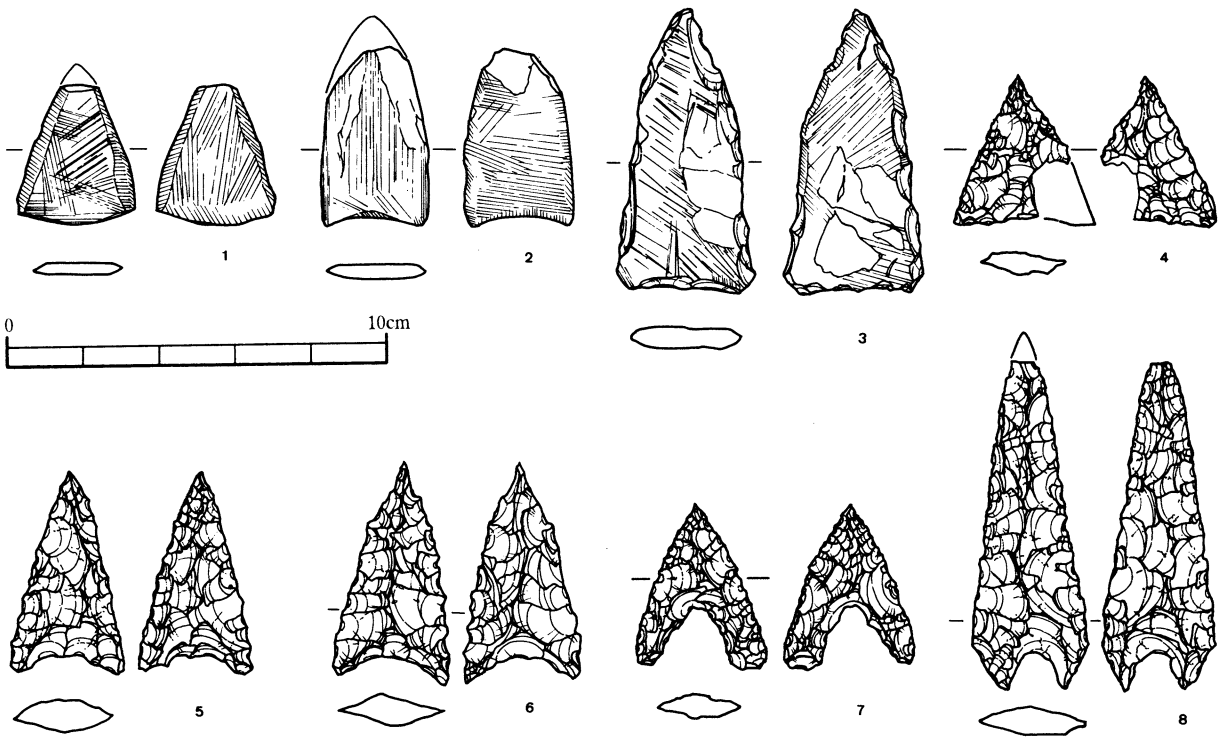
挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整 内	備考
94	363	深鉢形土器 桑ノ丸3類	口縁部	K-10 K-10	49 50	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・角閃石・黒色粒? 焼成;極めて堅緻	外;貝殻条痕後ナデ 内;横位のヘラ磨き	やや外に開きながら立ち上がる形状で、口唇部は内傾する。器面は丁寧にナデられ、貝殻腹縁部によりＳ字状文を連続施文。施文は右から左方向。内外面に煤状の付着物。器壁は厚い。口径30・2cm
	364	深鉢形土器 桑ノ丸3類?	口縁部	E-10	6759	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・角閃石・黒色粒?	外;ナデ 内;ナデ	口唇部は外に傾く。施文はヘラ状工具による沈線文。器壁は厚い。焼成;極めて堅緻
	365	深鉢形土器 桑ノ丸3類?	口縁部	E-7	7293	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・角閃石・黒色粒?・赤色粒	外;ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部やや内傾。貝殻腹縁部による斜位の施文が微かに残る。焼成;極めて堅緻
	366	深鉢形土器 桑ノ丸3類?	口縁部	I-7	1467	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?	外;ナデ 内;ナデ	丸みを成す口唇部。ヘラ状工具による沈線文。焼成;極めて堅緻
	367	深鉢形土器 桑ノ丸3類?	口縁部	G-4	6459	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?	外;ナデ 内;ナデ	丸みを成す口唇部。ヘラ状工具による沈線文。焼成;極めて堅緻
	368	深鉢形土器 桑ノ丸3類?	口縁部	E-12		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?	外;ナデ 内;ナデ	丸みを成す口唇部。ヘラ状工具による沈線文。器面は凹凸を成す。焼成;極めて堅緻
	369	深鉢形土器 桑ノ丸3類?	口縁部	J-12 J-12	9 10	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・少量の角閃石・黒? 焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;ヘラナデ	口唇部は丸みを成し、外に傾く。又状工具による不規則な沈線文。器壁は厚く、器面は凹凸を成す。復元口径22・3cm。
95	370	深鉢形土器	胴部	E-7		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒・雲母	外;丁寧なナデ 内;ナデ	貝殻腹縁部を刺突し、横位の羽状に施文。焼成;極めて堅緻
	371	深鉢形土器	胴部	E-7		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒・雲母	外;丁寧なナデ 内;ナデ	貝殻腹縁部を刺突し、横位の羽状に施文。焼成;極めて堅緻
	372	深鉢形土器	胴部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒・雲母	外;丁寧なナデ 内;ナデ	貝殻腹縁部を刺突し、横位の羽状に施文。焼成;極めて堅緻
	373	深鉢形土器	口縁部	K-8 G-6	1472 1537	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・ 焼成;堅緻	外;丁寧なナデ 内;ナデ	丸みを成す口唇部。口縁部直下に横位３列の貝殻刺突線文。貝殻刺突線文による縦位の羽状文。内面黒色。復元口径15・1cm。
	374	深鉢形土器 桑ノ丸3類?	口縁部	J-8	1271	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒 焼成;極めて堅緻	外;丁寧なナデ 内;丁寧なナデ	平坦な口唇部でやや内傾する。口縁端部から貝殻腹縁部で櫛目状に施文、施文は上から下へ。内面及び口唇部に赤色顔料塗彩か。
	375	深鉢形土器 桑ノ丸3類?	胴部	B-13		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒	外;丁寧なナデ 内;丁寧なナデ	貝殻腹縁部で櫛目状に施文、施文は上から下へ。焼成;極めて堅緻
	376	深鉢形土器 桑ノ丸3類?	口縁部	D-7	281	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒	外;丁寧なナデ 内;丁寧なナデ	内傾する口唇部。口縁部直下から貝殻腹縁部で櫛目状に施文。焼成;極めて堅緻
	377	深鉢形土器 桑ノ丸3類?	口縁部	I-11 G-8	3 8437	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒	外;丁寧なナデ 内;丁寧なナデ	平坦な口唇部。口縁端部から貝殻腹縁部で櫛目状に施文。施文は上から下へ。焼成;極めて堅緻
	378	深鉢形土器 桑ノ丸3類?	口縁部	I-6	2216	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒	外;丁寧なナデ 内;丁寧なナデ	貝殻腹縁部で櫛目状に施文。施文は上から下へ。焼成;極めて堅緻
	379	深鉢形土器 桑ノ丸3類?	口縁部	I-11 G-8	3 8437	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒	外;丁寧なナデ 内;貝殻条痕	丸みを成す口唇部。口縁端部から貝殻腹縁部で施文。焼成;極めて堅緻
	380	深鉢形土器 桑ノ丸3類?	口縁部	D-8	286	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒	外;丁寧なナデ 内;ヘラ磨き	丸みを成す口唇部。口縁部直下から貝殻腹縁部で櫛目状に施文。焼成;極めて堅緻復元口径25・7cm
	381	深鉢形土器 桑ノ丸3類?	胴部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒	外;丁寧なナデ 内;丁寧なナデ	貝殻腹縁部で羽状に施文。焼成;極めて堅緻
	382	深鉢形土器 桑ノ丸3類?	胴部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒	外;丁寧なナデ 内;ヘラナデ	貝殻腹縁部で波状に施文。焼成;極めて堅緻
	383	深鉢形土器 桑ノ丸3類?	胴部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒?・赤色粒	外;丁寧なナデ 内;ヘラナデ	貝殻腹縁部で波状に施文。焼成;極めて堅緻

塞ノ神式土器（第96図・№384）

口径は対角間で30.5cm・コーナー間で23.0cm・高さ23.3cm・底部経11.6cmに復元できた資料で，口縁端部は山形に突出し，上面観は方形を呈している。口唇部は狭い平坦面を成し，4隅のコーナー面にはヘラ状工具による刻み状の短沈線が付される。口縁部は屈曲部を持ち二重口縁状，胴部は円筒形である。屈曲部から口縁部にかけては，沈線文と微隆起線文で文様構成され，微隆起線文上位はヘラで細かく刻まれる。また，胴部と口縁部の境界にもヘラ刻みの微隆起線文が1条巡らされている。なお，胴部文様は塞ノ神Aa式土器を踏襲している。器壁は薄く，粒子の細かい良質の胎土を用い，肌色の色調を呈している。



第96図　小牧3A遺跡・塞之神式土器



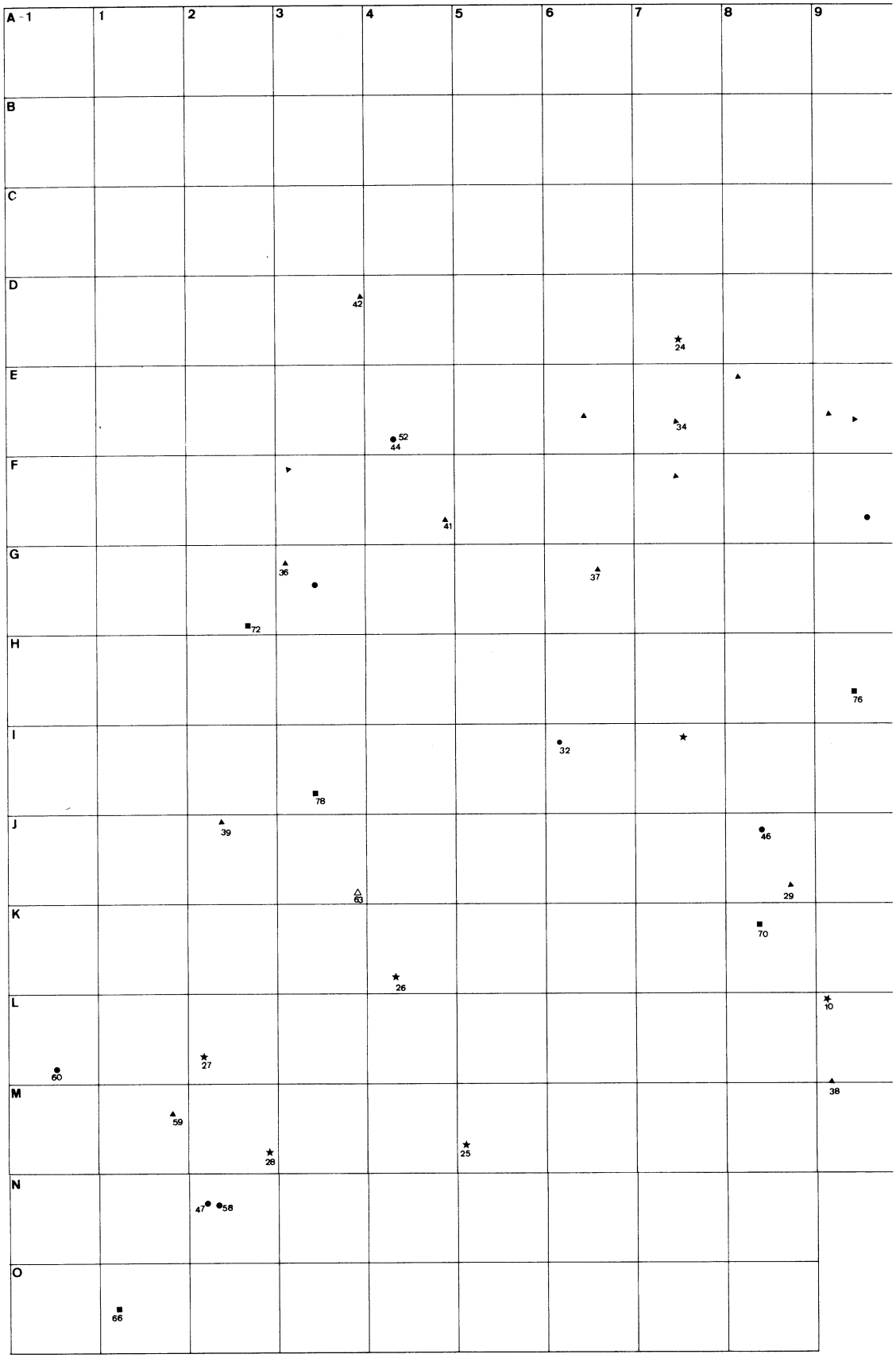
第97図　小牧３Ａ遺跡・磨製石鏃・打製石鏃

表47　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（石器・磨製石鏃・打製石鏃）

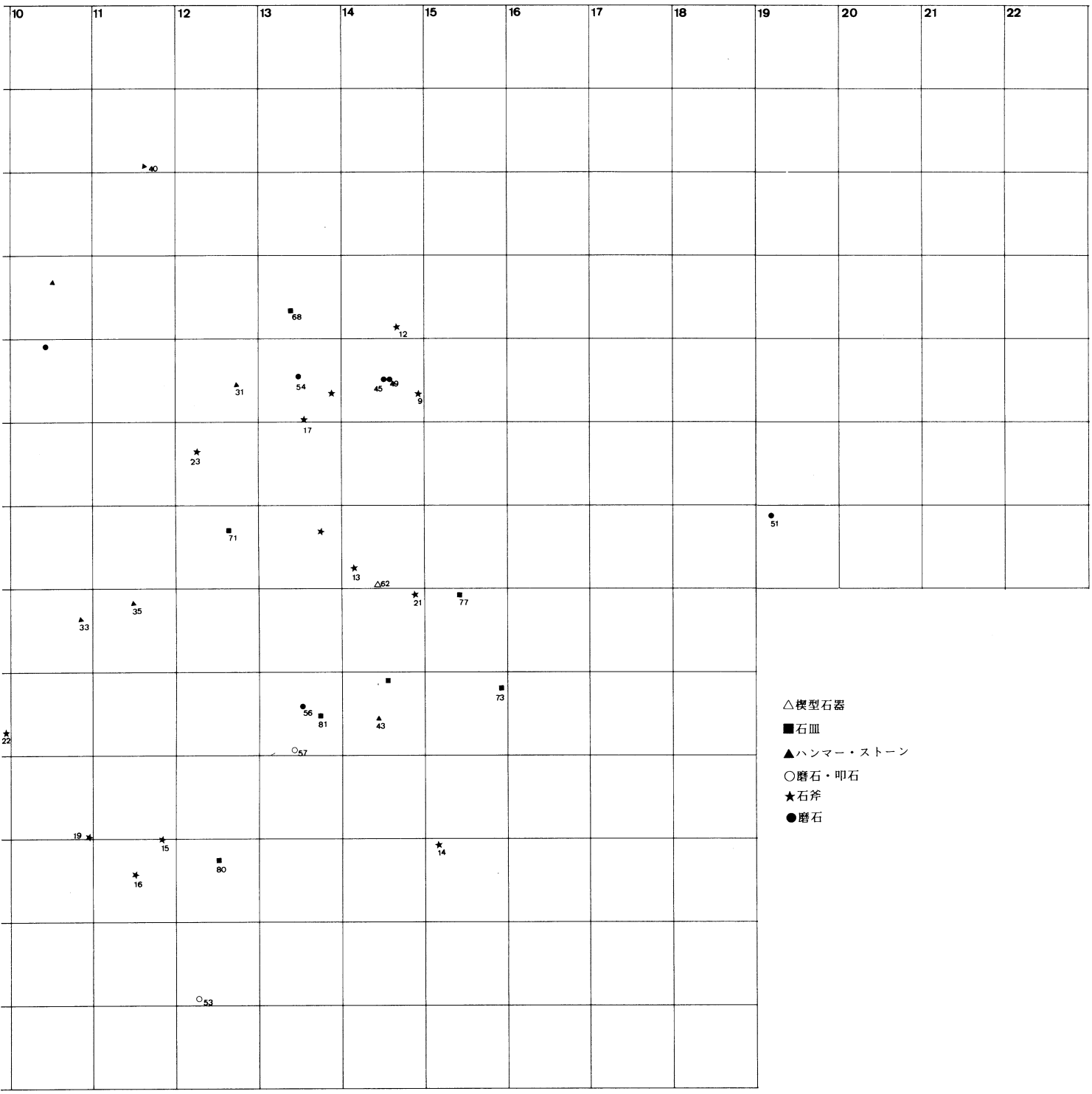
挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
97	1	磨製石鏃	1·9	1·6	J-7	2256	粘板岩	1/1	全面磨製。両側縁部は研磨により鋭くとがる。基部は面取りを行い、狭い平坦面。側縁部は斜めに研磨する傾向が見られる。先端部破損。
	2	磨製石鏃	2·3	1·5	J-7	2256	粘板岩	1/1	全面磨製。両側縁部は研磨により鋭くとがる。基部は面取りを行い、狭い平坦面。基部は緩やかに内弯し、磨かれる。先端部破損。
	3	部分磨製石鏃	3·7	1·9	F-1		粘板岩	1/1	部分磨製。薄手で偏平な剥片を素材とし、押圧剥離で整形した後、平坦面を研磨。長身で平基の鏃に仕上げる。
	4	打製石鏃	2·1	1·3	E-6	5708	黒曜石（良質）	1/1	平基の三角形鏃。整形剥離は丁寧で、石鏃製作の最終工程に達している。先端部が意図的に尖る。
	5	打製石鏃	2·7	1·5	E-6	5818	硬質頁岩（灰色・縞模様）	1/1	浅い凹基式の長身鏃（二等辺三角形）。整形剥離は丁寧で、石鏃製作の最終工程に達し、断面はレンズ状。
	6	打製石鏃	2·9	1·5	D-5	6213	黒曜石（灰色）	1/1	浅い凹基式の長身鏃（二等辺三角形）。整形剥離は丁寧で、石鏃製作の最終工程に達し、右側縁は鋸歯状。先端部が意図的に尖る。
	7	打製石鏃	2·2	1·7	H-5	6412	石英（鉄石英・赤色）	1/1	基部は大きく内弯。微細で丁寧な整形剥離が行われ、石鏃製作の最終工程。保存状況も良好。
	8	打製石鏃	4·4	1·5	D-5	6213	シルト質頁岩（乳白色）	1/1	舌状をなす基部にU字状の抉りを設けた細身の長身鏃。整形剥離は丁寧で石鏃製作の最終工程に達している。先端部破損。

石鏃（第97図）

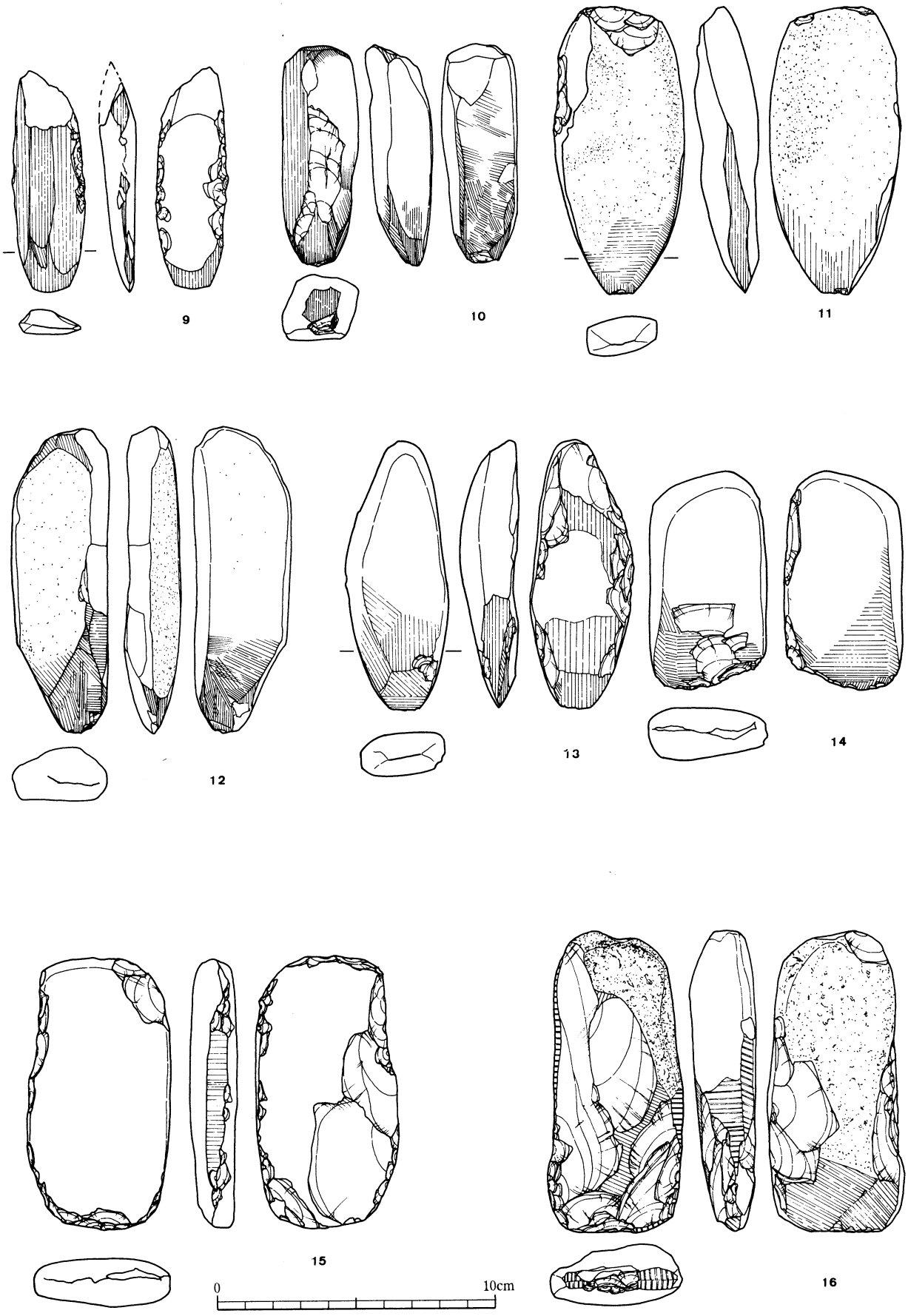
３点の磨製石鏃と５点の打製石鏃が採取されている。磨製石鏃はいずれも粘板岩を使用し，３点とも異なる形状に仕上げ，№３では押圧剥離で周辺加工した後，研磨を重ねたことが観察できる。打製石鏃は，基部が大きく内弯する№７があり，同時性にばらつきが感じられる。



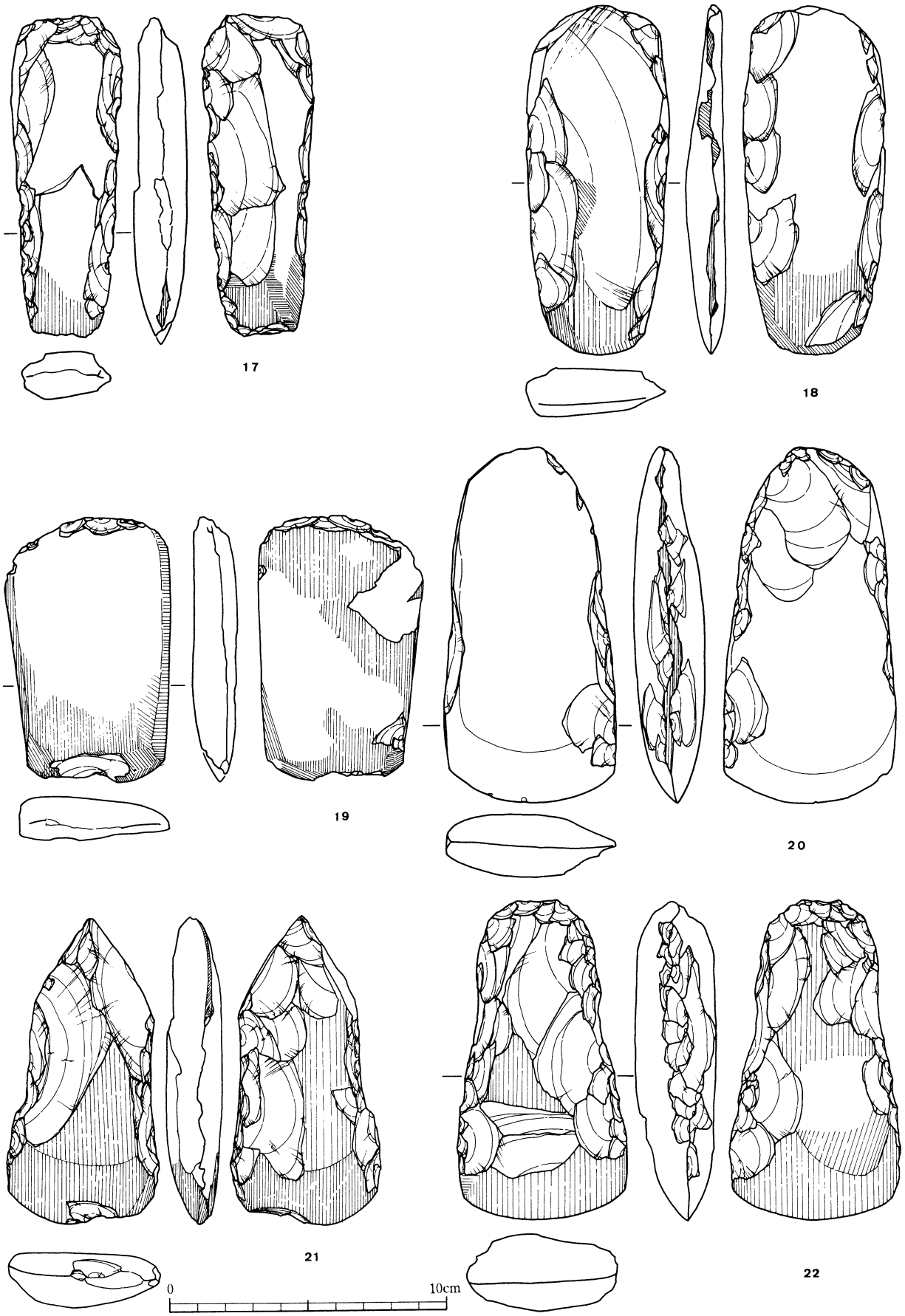
第98図　小牧３Ａ遺跡・縄文時代（石器出土分布図）



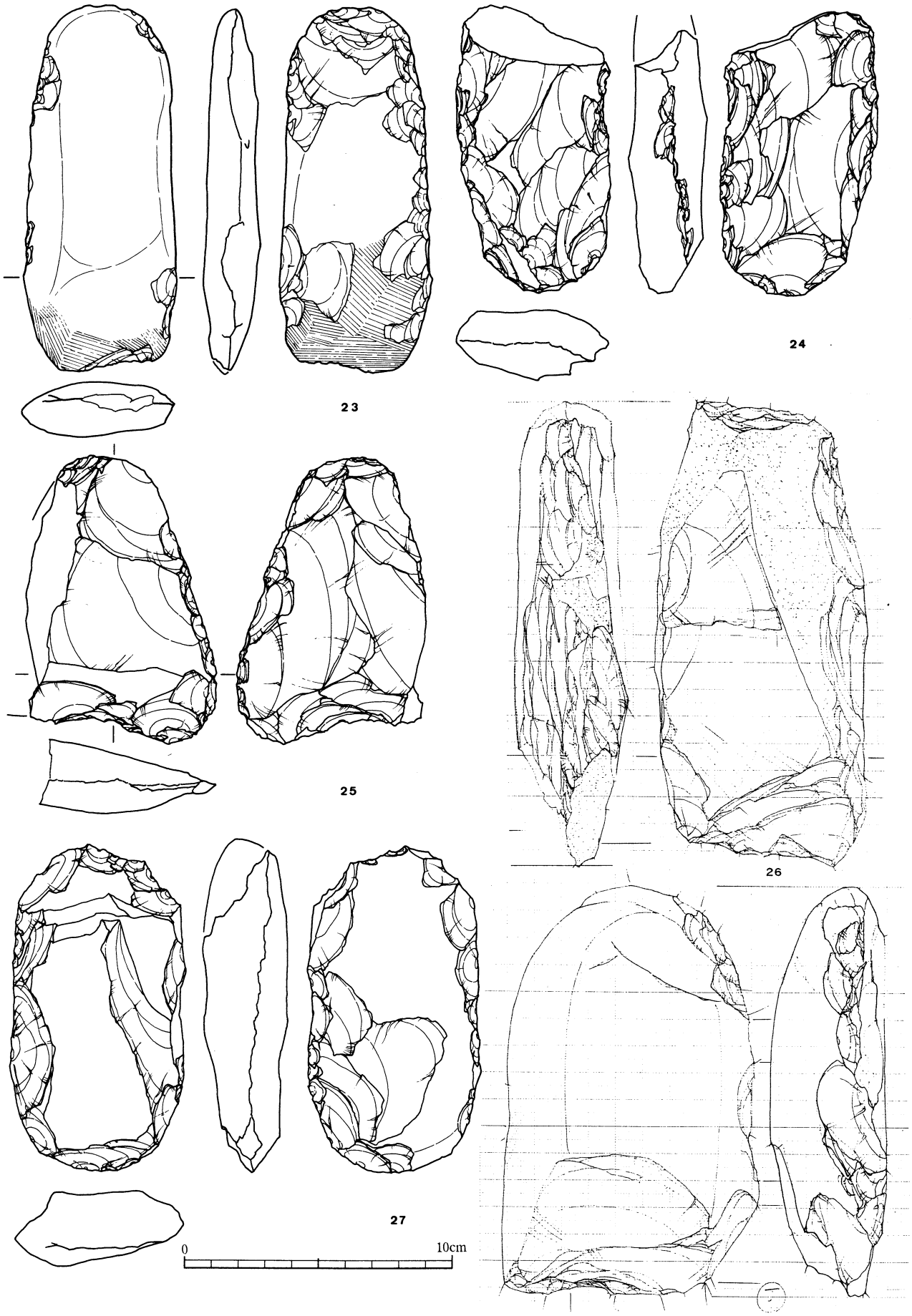
△楔型石器
■石皿
▲ハンマー・ストーン
○磨石・叩石
★石斧
●磨石



第99図　小牧３Ａ遺跡・石斧１



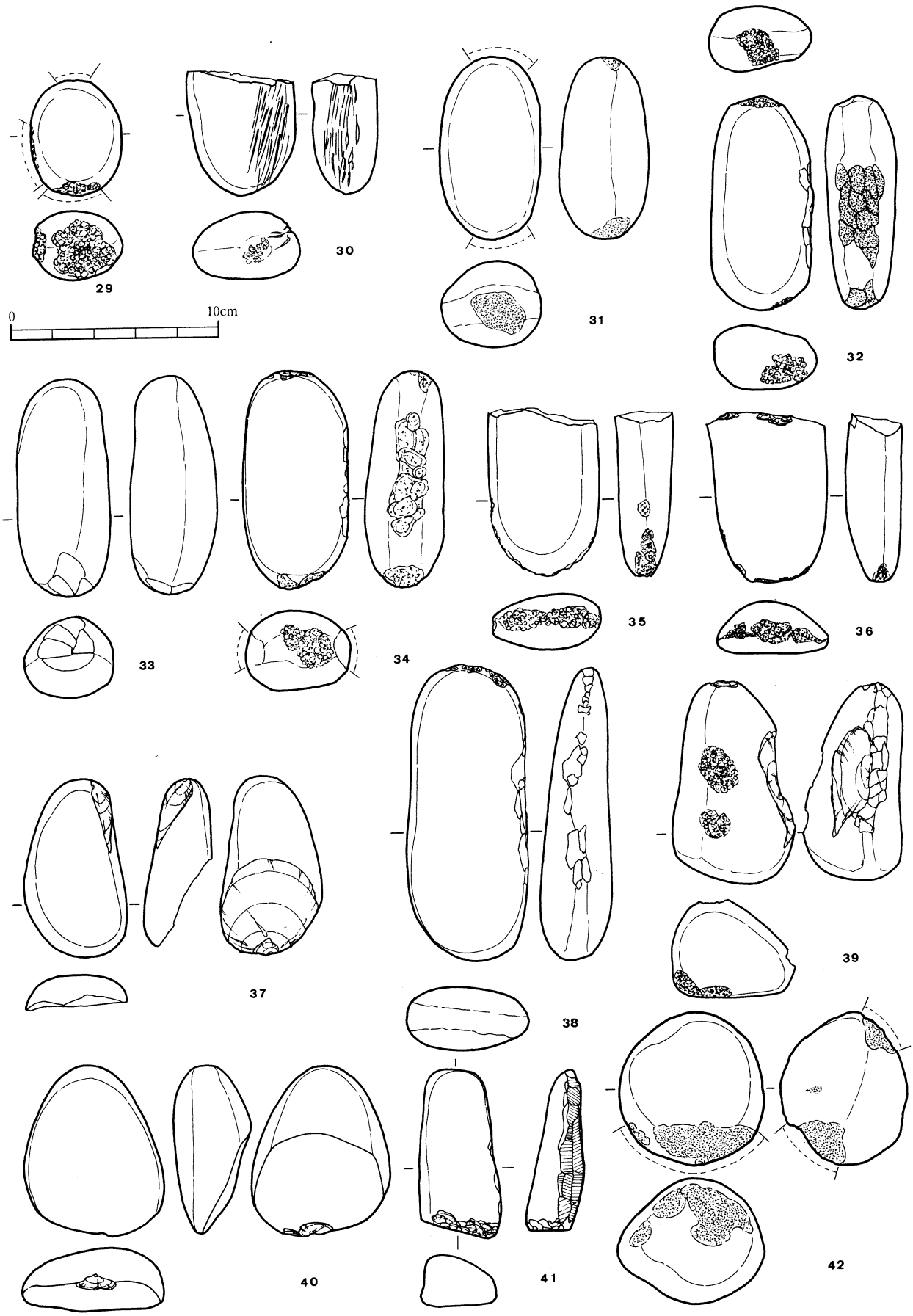
第100図　小牧３Ａ遺跡・石斧２



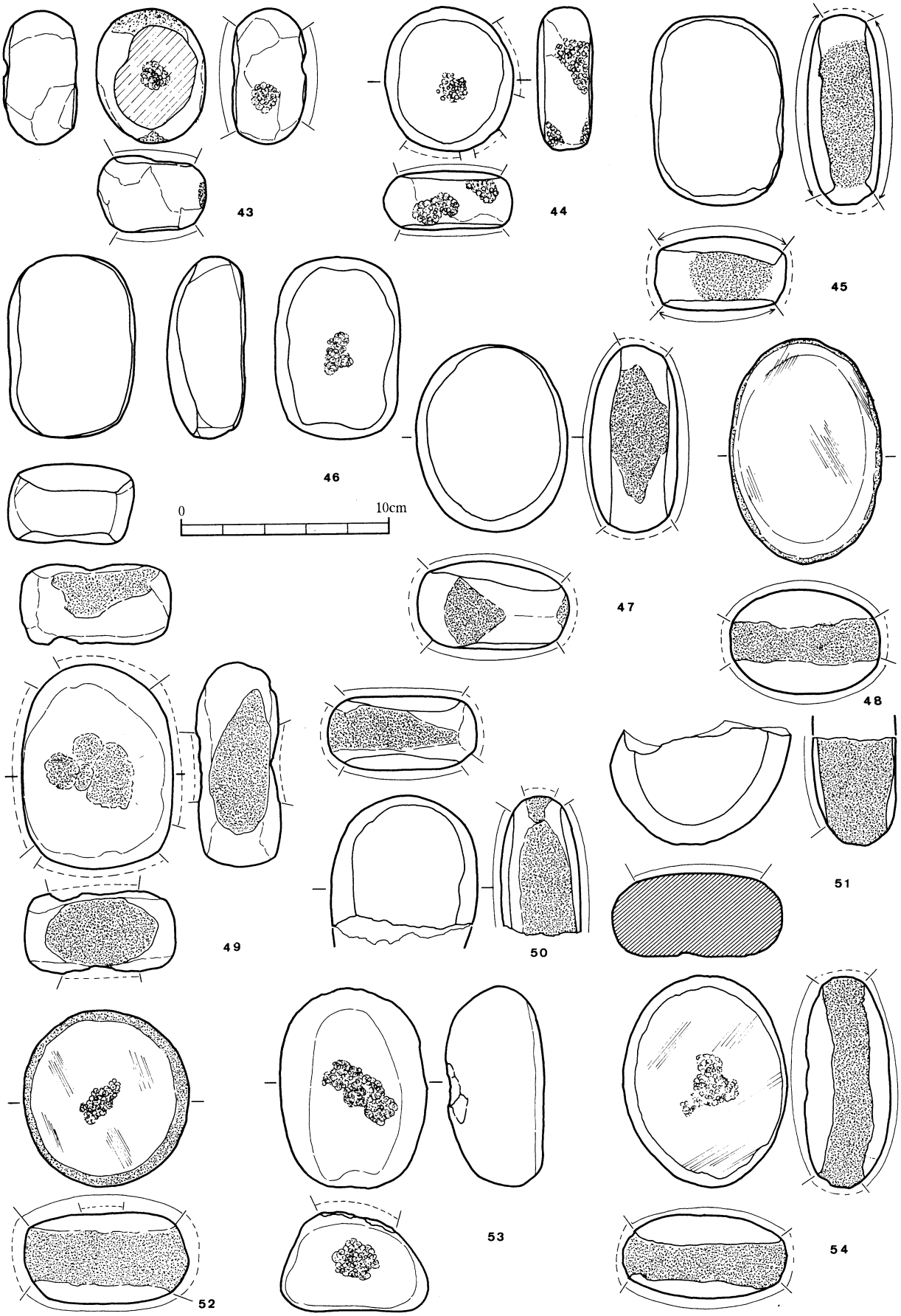
第101図　小牧３Ａ遺跡・石斧３

表48　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（石器・石斧）

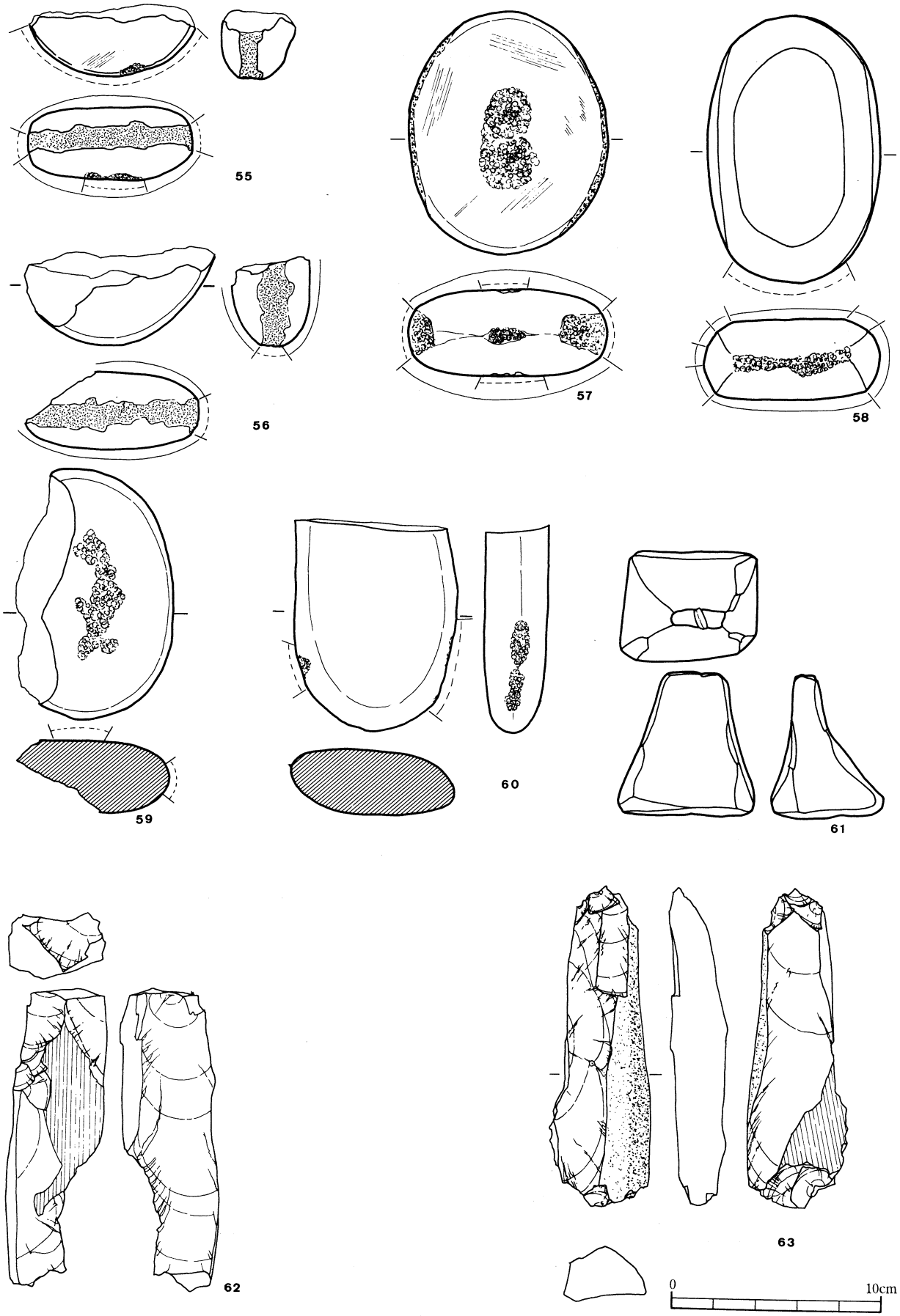
挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
99	9	磨製石斧（鑿状）	8・0	2・7	E-14	2990	ホルンフェルス	1/2	直接加撃で整形した後、各平坦面を入念に研磨。先端部の両側面に狭い平坦面を形成。刃部は両面から鋭く磨きあげ右下がりで直線をなす。刃部は1・3 cm。
	10	部分磨製石斧（鑿状）	7・8	3・0	M-9	2328		1/2	円礫素材使用。裏面は丁寧に研磨。刃部付近では狭小な平坦面を研磨で残す。鑿状の刃部を作成。刃部の破砕は使用によると思われる。刃部は0・8 cm。
	11	部分磨製石斧（鑿状）	10・3	4・7	K-8	116	砂岩	1/2	偏平な円礫素材使用。両側縁部の先端部は入念に研磨し、平坦面を成す。刃部は両面から鋭く磨き、鑿状の刃部を作り出す。刃部の破損は使用による。刃部は0・8 cm
	12	部分磨製石斧（鑿状）	11・0	3・5	D-14	3011	砂岩	1/2	偏平な円礫素材使用。裏面の研磨は刃部付近で特に丁寧。両側縁部の先端部は入念に研磨し、狭い複数の平坦面を成す。刃部は両面から鋭く磨きあげ、鑿状の刃部を作り出し、右下がりの刃先。刃部の破損は使用によると判断。基部にも研磨痕あり。刃部は0・9 cm。
	13	部分磨製石斧（鑿状）	9・6	4・7	G-14	925	砂岩	1/2	半截した円礫素材を使用。両側縁部の先端部は入念に研磨し、平坦面を成す。刃部は両面から鋭く磨きあげ、鑿状の鋭い刃部を作り出す。刃部の破損は使用によると判断。刃部は1・1cm。
	14	磨製石斧	7・8	4・3	K-14	2622	砂岩	1/2	偏平な板状の礫素材使用。右側縁部に整形時の剥離痕及び敲打痕残る。基部付近以外は磨かれる。刃部の破砕から激しく使用されたことが伺える。
	15	磨製石斧	9・9	5・2	J-11	7650	ホルンフェルス	1/2	風化が激しく、摩滅。偏平な板状の礫素材使用。両側縁は整形剥離の後、敲打仕上げ。刃部は破損が激しく丸みを成しており、敲打具として二次使用された可能性がある。
	16	部分磨製石斧	10・9	5・0	K-11		砂岩	1/2	偏平な板状の礫素材使用。両側縁部は整形剥離の後、敲打仕上げ。左側縁と右側縁の敲打痕は、筋状に観察できる。研磨は裏面刃部付近と表面の一部に残る。刃部の破砕が激しいこと更に、筋状の敲打痕らしき痕跡が残ることから二次使用された可能性が高い。
100	17	部分磨製石斧	11・5	4・0	E-13	683	砂岩ないし頁岩	1/2	礫素材か剥片素材か不明。側縁部の整形剥離の後、刃部付近にのみ研磨仕上げ。刃部は使用により破損。刃部の形状及び大きさから鑿状使用の可能性あり。
	18	部分磨製石斧	12・7	5・2			ホルンフェルス化した砂岩	1/2	礫素材使用（横長剥片）。両面の側縁部の剥離痕は、全て整形剥離。刃部付近と右側縁部の一部が研磨仕上げ。刃部はほぼ水平に作り出す。
	19	部分磨製石斧	9・6	6・0	J-10	54	ホルンフェルス	1/2	分割礫素材使用。刃部付近・両側縁部の一部・裏面中央部から基部にかけて研磨仕上げ。刃部の破損は使用による。
	20	磨製石斧	12・9	6・3			砂岩	1/2	分割礫素材使用。側縁部の整形剥離の後、研磨仕上げ。基部付近の側縁部も入念に研磨。刃部の研磨仕上げは丁寧で刃先は鋭くほぼ直線を成す。
	21	部分磨製石斧	11・2	5・5	H-14	2668	砂岩	1/2	分割礫素材使用。側縁部の剥離痕は整形剥離。研磨仕上げは刃部を中心に両面の平坦面に及ぶ。刃部の研磨仕上げは丁寧で刃先は鋭くやや弯曲する。基部近くの右側縁に研磨痕がありピック状に使用した可能性がある。
	22	部分磨製石斧	11・4	6・2	I-9	2367	砂岩	1/2	偏平な板状の礫素材使用。側縁部・基部は整形剥離が残される。刃部の研磨仕上げは丁寧で刃先は鋭くほぼ直線を成す。両側縁部には磨耗痕も残る。重量感あり。
101	23	部分磨製石斧	13・7	5・6	F-12	672	砂岩	1/2	偏平な板状の礫素材使用。右側縁部は礫素材をそのまま利用。基部・左側縁は整形剥離が残される。刃部の研磨仕上げは丁寧。刃先は使用による破損。
	24	打製石斧	10・8	5・9	D-7	265	砂岩	1/2	厚手の剥片素材使用。整形剥離は側縁部から連続して行われている。使用により摩滅していることから刃部と判断したが、天地逆の可能性もある。



第102図　小牧３Ａ遺跡・叩石



第103図　小牧３Ａ遺跡・磨石



第104図　小牧３Ａ遺跡・磨石・砥石

表49　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（石器・石斧・ハンマー・ストーン・磨石）

挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
101	25	打製石斧	10・9	7・0	M-5	2181	砂岩	1/2	剥片素材使用。基部は薄く刃部が厚い。周縁部は全て整形剥離で仕上げる。刃部は両面から整形し抉入状に仕上げている。
	26	打製石斧	17・5	7・8	K-4	2117	砂岩ないし頁岩	1/2	剥片素材使用。大型で、重量のある石斧。厚手の剥片に両側縁から大剥離で体部を作成し、その後側縁部の整形を実施している。残存状況から、刃部は破損したと判断される。両側縁部の中央部は摩滅している。
	27	打製石斧	12・2	6・6	L-2	2045	凝灰岩	1/2	素材は明確でないが、分割礫の可能性が高い。天地逆の可能性もある。整形は全て側縁から。
	28	打製石斧	15・5	9・6	M-2	1900	砂岩ないし頁岩	1/2	偏平な円礫素材使用。素材のローリングした平滑面をそのまま体部に使用、特に左側縁部は整形加工は見られず磨耗痕のみ残る。
102	29	ハンマーストーン	6・5	5・0	J-8	122	砂岩	1/3	卵形円礫の頭部・下縁部・左側縁に敲打痕が残る。
	30	ハンマーストーン	6・6	6・2			凝灰岩?（風化が激しい）	1/3	円礫素材を使用。下縁部に敲打痕、右側縁部中心に縦方向のサッ痕が残る。
	31	ハンマーストーン	10・0	5・5	E-12	3865	花崗岩?	1/3	棒状の礫素材使用。頭部と下縁部に敲打痕残る。周辺部が磨耗していることから磨石に使用した加工性もある。
	32	ハンマーストーン	11・7	5・7	I-6	1515	花崗岩?	1/3	棒状の偏平な礫素材使用。。頭部・下縁部・右側縁部に敲打痕が残る。特に、右側縁部が顕著。
	33	磨石	7・9	3・4	H-10	1222	砂岩	1/2	棒状の礫素材使用。下縁部には狭い平坦面が残され、全て研磨されている。
	34	ハンマーストーン	11・9	5・9	E-7	214	花崗岩?	1/3	棒状の偏平な礫素材使用。頭部・下縁部・右側縁部に敲打痕が残る。特に、右側縁部が顕著。
	35	ハンマーストーン	6・1	4・2	H-11	8251	砂岩	1/2	棒状の偏平な礫素材使用。頭部は破損。下縁部を中心に敲打痕が残る。
	36	ハンマーストーン	6・1	4・5	G-3	1692	砂岩	1/2	棒状の偏平な礫素材使用。頭部は破損。下縁部を中心に敲打痕が残る。
	37	ハンマーストーン	6・5	3・7	G-6	6422	ホルンフェルス	1/2	円礫素材使用。下縁部は大きく破損し、頭部にも１枚の剥離面が残る。
	38	ハンマーストーン	10・8	4・5	L-9	8462	砂岩	1/2	棒状の偏平な礫素材使用。頭部・下縁部・右側縁部に敲打痕が残る。特に、右側縁部が顕著。
	39	ハンマーストーン	7・3	4・4	J-2	8635	砂岩	1/2	円礫素材使用。頭部・右側縁部の全域・左側縁部の一部・下縁部の一部に敲打痕。
	40	ハンマーストーン	6・4	5・0	B-11	4089	砂岩	1/2	円礫素材使用。下縁部の一部に敲打痕。
	41	ハンマーストーン	9・0	4・8	F-4	1325	砂岩ないし頁岩	1/3	棒状の偏平な礫素材使用。下縁部・右側縁部に敲打痕が残る。特に、右側縁部が顕著で横方向のサッ痕。
	42	ハンマーストーン	8・2	7・9	D-3	1407	花崗岩	1/3	円礫素材使用。頭部の一部と下縁部に敲打による剥落痕が残る。重量あり。
103	43	凹石・磨石・ハンマーストーン	7・3	6・0	I-14	2594	花崗岩?	1/2	正面・裏面の平滑面の中央部に浅い窪みを残す。右側縁の一部には敲打痕。更に他の側縁部に狭い平滑面が多数残されることから、複数の機能を持つ。
	44	凹石・磨石・ハンマーストーン	7・8	7・2	E-4	1320	花崗岩	1/2	43同様多機能を持つ。主に正面・裏面の平滑面が磨石として使用された後、側縁部が利用される。
	45	磨石・叩石（石けん状）	10・5	7・2	E-14		花崗岩	1/3	正面・裏面の平滑面は磨石。周縁部は敲打機能。平滑面はツルツル状態。正面の稜線は右上から左下に斜め。
	46	磨石・叩石（石けん状）	9・9	6・8	J-8	1613	砂岩	1/3	正面・裏面の平滑面は磨石。周縁部も磨石機能。平滑面はツルツル状態。正面の稜線は右上から左下に斜めに走る。裏面の平滑面は平坦。中央部に敲打機能。
	47	磨石・叩石（石けん状）	10・2	8・4	N-2	1941	花崗岩	1/3	正面・裏面の平滑面は磨石。周縁部は敲打機能。平滑面はツルツル状態。正面の稜線は右上から左下に斜めに走る傾向が見られる。裏面は平坦。
	49	凹石・磨石	10・2	8・2	E-14		花崗岩	1/3	正面・裏面の平滑面の中央部に浅い窪みを残す。周縁部には敲打痕あるいは磨痕がのこるが明瞭でない。
	50	磨石・叩石						1/3	正面・裏面の平滑面は磨石。周縁部は敲打機能。平滑面はツルツル状態。正面の稜線は右上から左下に斜め。

表50　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（石器・磨石，叩石）

挿図	番号	器　種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備　　考
103	51	磨石	6·7	10·0	G-19	2967	砂岩	1/3	正面・裏面の平滑面は磨石。周縁部は敲打と磨石の両機能を備える。正面の平滑面はツルツル。
	52	磨石	9·5	9·1	E-4	1320	花崗岩	1/2	正面・裏面の平滑面は磨石。周縁部は敲打と磨石の両機能を備える。正面の平滑面はツルツル。
	53	磨石・叩石	10·9	8·1	L-12	1175	花崗岩	1/3	正面中央部に敲打による窪み、下縁部にも敲打痕。裏面は磨石面。磨石面は平坦。
	54	磨石・叩石	11·4	9·0	E-13		花崗岩	1/2	正面・裏面の平滑面は磨石。周縁部は敲打・磨石機能。平滑面はツルツル状態。裏面の稜線は右上から左下に斜めに走る。表裏逆か。
104	55	磨石・叩石	4·4	9·0			砂岩	1/3	正面・裏面の平滑面は磨石。周縁部は敲打と磨石の両機能を備える。正面の平滑面はツルツル。なお、破損後もハンマー的工具に使用。
	56	磨石	5·3	10·5	I-13	2526	砂岩	1/3	両面とも磨石機能。平滑面はツルツル。周縁部も同様。
	57	磨石・叩石	13·3	11·1	I-13	2449	砂岩	1/3	正面・裏面の平滑面は磨石。周縁部も磨石の機能を備える。両面の平滑面はツルツル。なお、両面中央部に敲打による浅い窪みを残す。
	58	磨石	14·7	9·5	N-2	1942	砂岩	1/3	偏平な礫素材使用。全面磨石機能。周縁部は磨りによる平坦面形成。一部下縁部に若干の敲打痕あり。
	59	磨石・叩石	13·7	8·8	M-1	1863	砂岩	1/3	偏平な礫素材使用。全面磨石機能。周縁部も磨面形成。裏面中央部に敲打による浅い窪みのこす。。
	60	磨石・叩石	11·6	9·6	L-1	1839	砂岩	1/3	偏平な礫素材使用。全面磨石機能。周縁部も磨面形成。両側縁部に敲打痕残す。
	61	砥石	8·0	7·5			砂岩	1/3	軟質の砂岩を用いた砥石。全面を使用したため、角錐状を成す。頂部平坦面に狭い溝状の砥面。

磨製石斧（第99～101図）

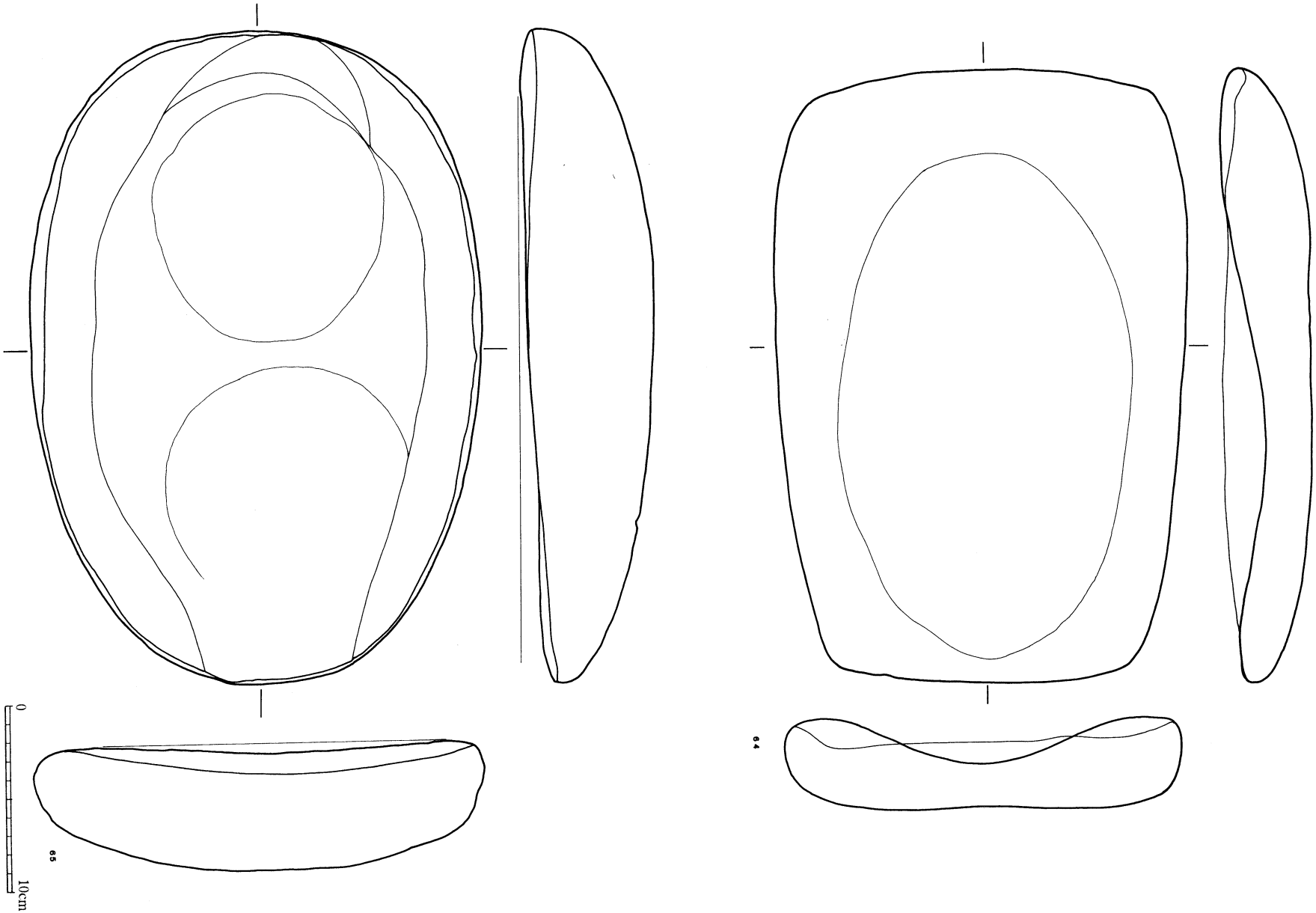
石斧は特に，部分磨製石斧の存在が注目される。磨製では扁平な円礫や板状の礫素材を多用し，刃部は剥離での一次整形の後，刃部周辺を集中的に入念な研磨で仕上げている。使用石材は，砂岩・ホルンフェルスに限られている。打製石斧は剥片素材を周辺から剥離整形しているが，総じて体部は厚く仕上げている。

叩石・磨石（第102～104図）

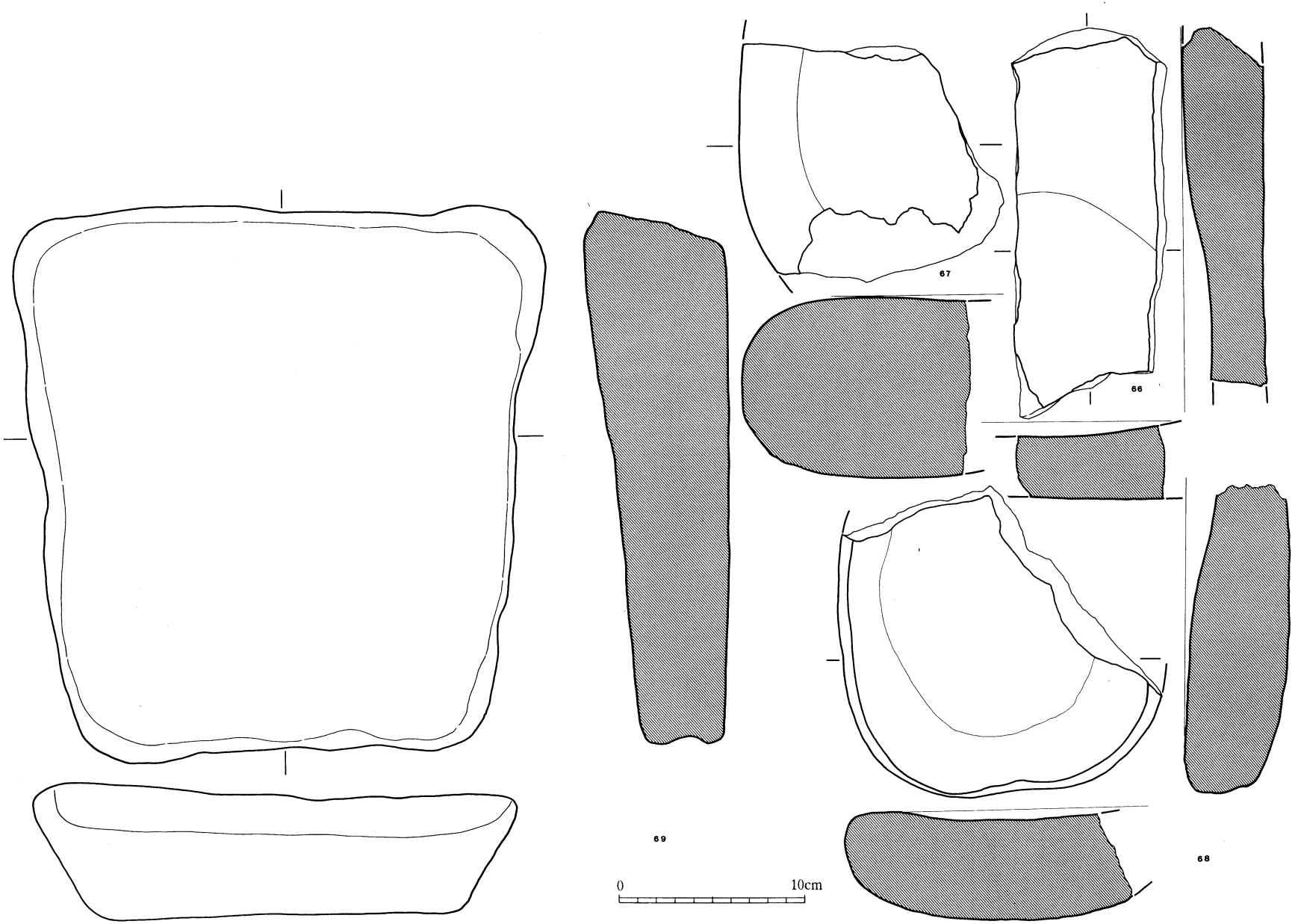
叩石は卵型や棒状の選択が認められ，両端部や側面の使用が目立つ。磨石は，№45・45・49に見られる周辺の４面が面取りされたいわゆる，石鹸状の存在が主流を成している。おそらく，次項の定形化した石皿に対応すると判断される。

石皿（第105～109図）

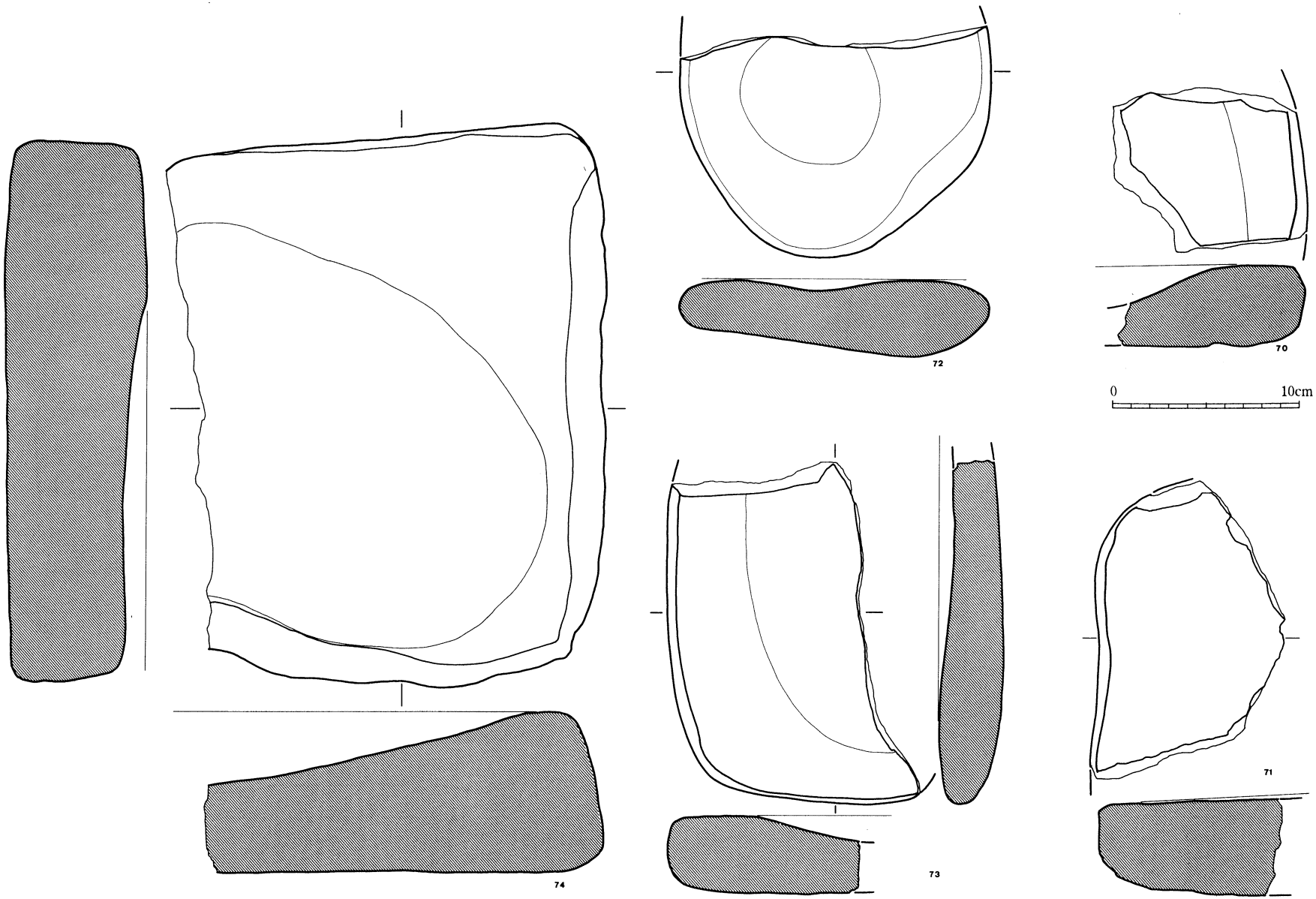
№64は正面観が台形状を成し，側面は船底形，横断面は船底形あるいは半月形を呈す。№65では正面観が楕円形状で，側面・横断面は64と近似している。摩耗の痕跡から，逆台形即ち長辺を先端方向に，短辺部を手前に使用したと判断できる。65では全面を使用した後，先端部と手前部でそれぞれ独立した円運動を行い，手前方向に掻き出しを行った可能性が高い。また，船底形であり，摩耗の進行していることから，接地面が可動する状況で使用されたと言える。その他，№67・68・73・82・84も類似した形状を示すことから，この種の石皿が安定的に定形化していたことが指摘できる。



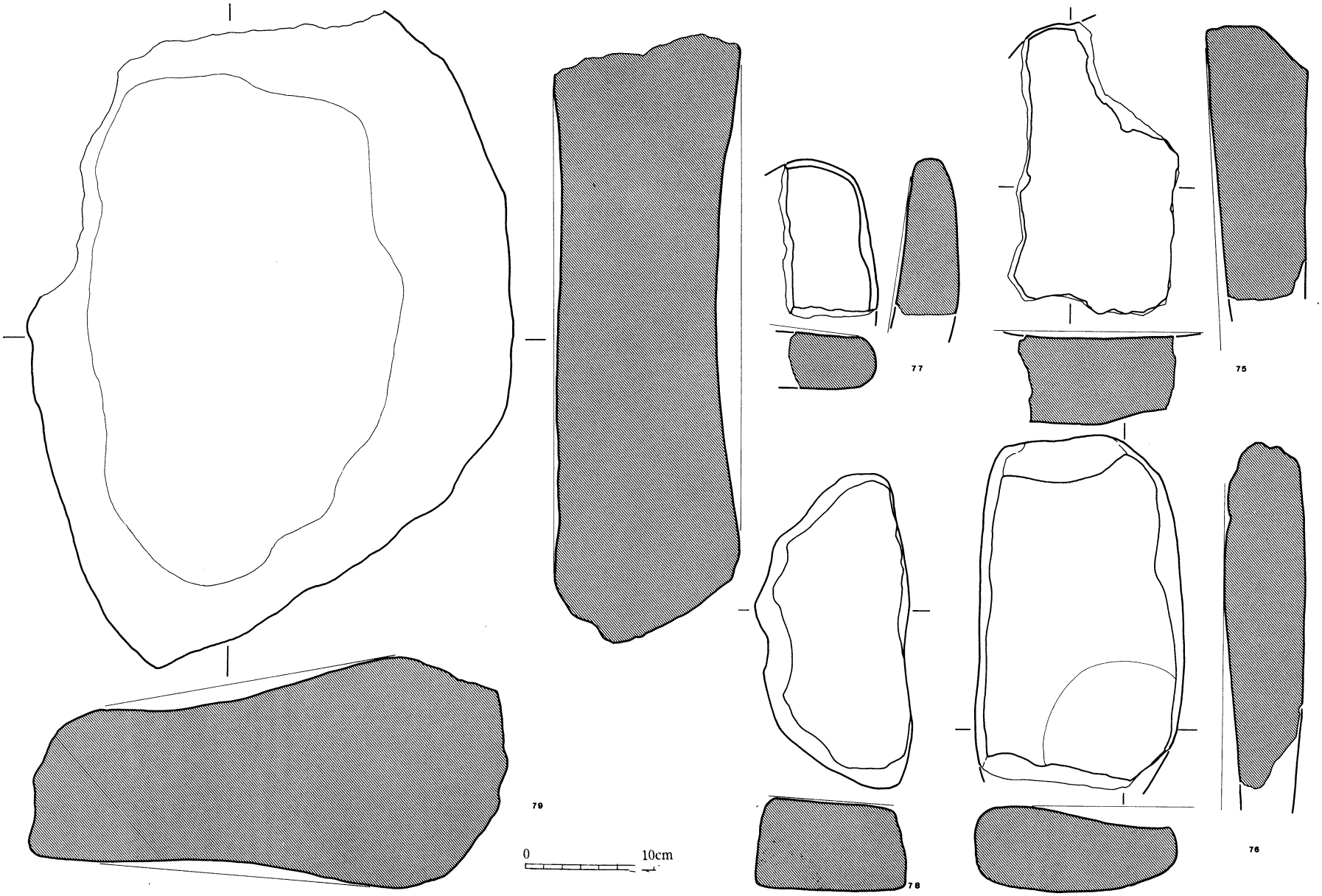
第105図　小牧３Ａ遺跡・石皿１



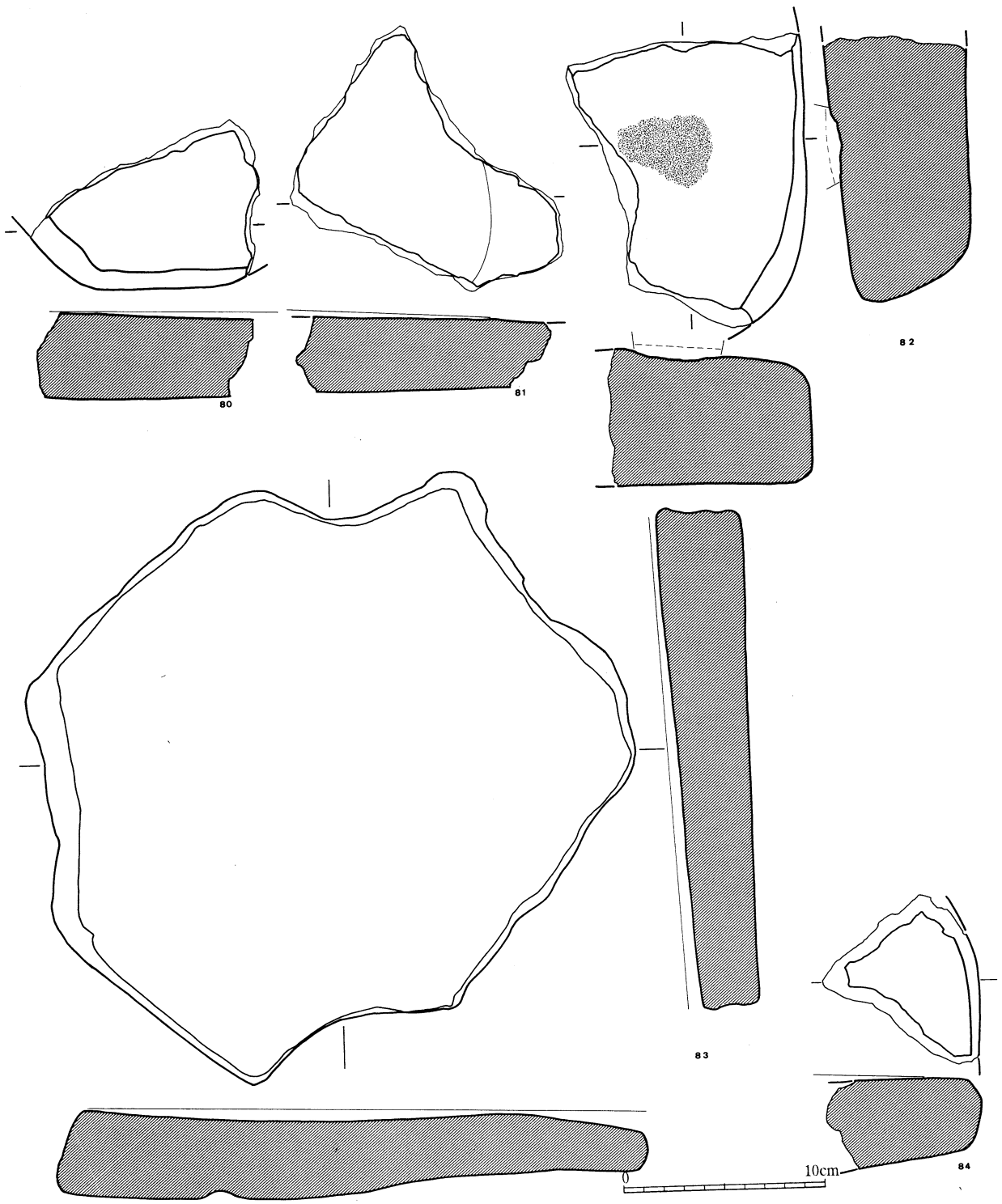
第106図　小牧３Ａ遺跡・石皿２



第107図　小牧３Ａ遺跡・石皿３



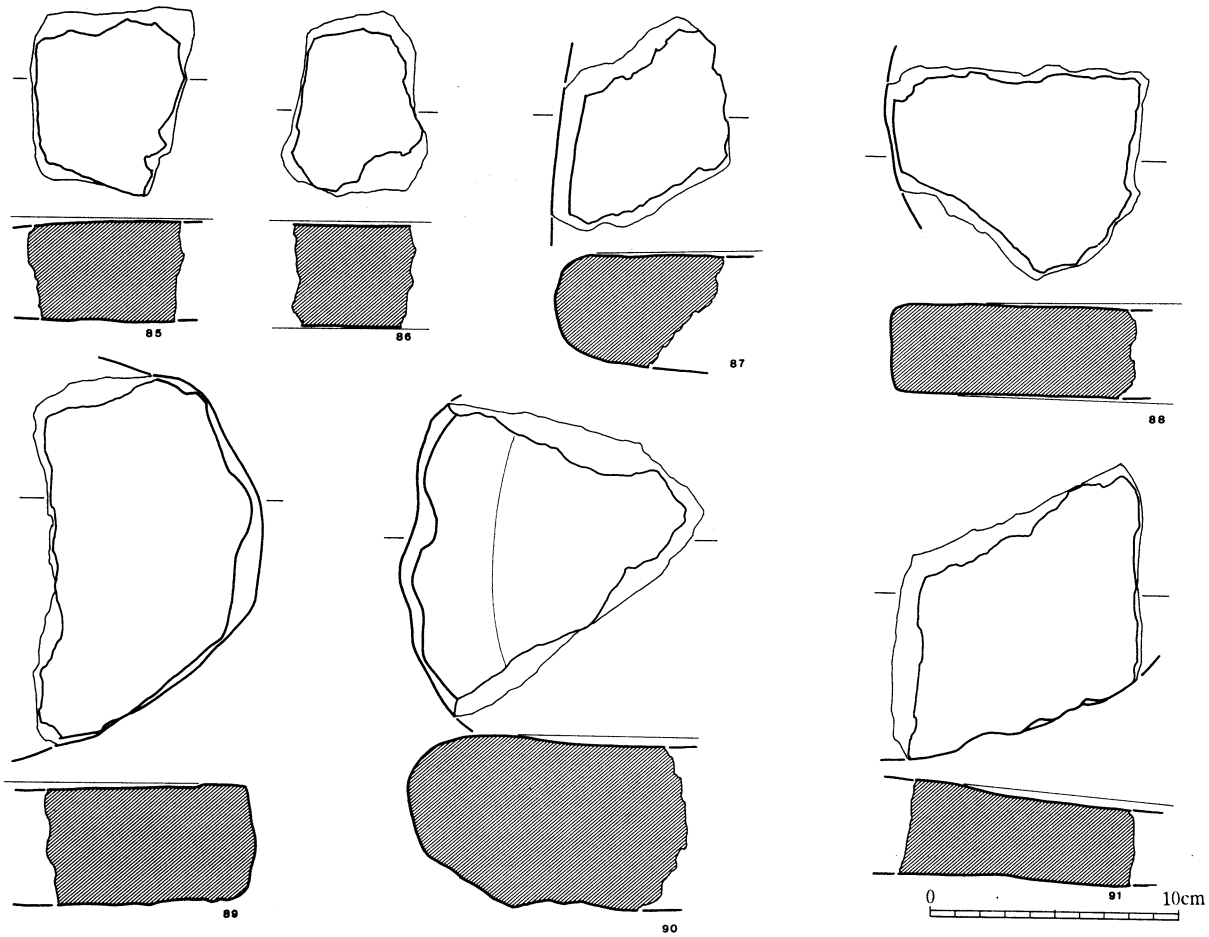
第108図　小牧３Ａ遺跡・石皿４



第109図　小牧３Ａ遺跡・石皿５

表51　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（石器・石皿）１

挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
104	62	楔形石器	7・3	2・2	G-14	2656	頁岩	1/2	
	63	楔形石器	7・8	2・4	J-3	6430	頁岩	1/2	
105	64	石皿	33・2	22・3			輝石安山岩	1/3	台形状の正面観を成し、側面は舟形を呈す。用途は石皿で、皿面の窪み・磨耗の状態より作業面を逆台形即ち長辺を先端に、短辺を手前に使用したと思われる。また、船底面の磨耗の状況から、接地面は固定式でなく可動式に用いたと判断される。
	65	石皿	35・2	24・3			輝石安山岩	1/3	卵形の楕円形の正面観を成し、側面は舟形を呈す。用途は石皿で、皿面の作業状況はまず全面を広く使用した後、先端部と手前部との独立した円運動を行ったと思われる。また、手前部の窪みが側縁まで達していることから掻き出しが行われた可能性が高い。接地面の使用方法は64と同様である。
106	66	石皿	19・8	8・2	O-1	2001	輝石安山岩	1/3	板状の石皿で、磨耗痕は皿面全体に広がると思われ、更に中央部は一段深く円形に近い作業が行われたことが推定される。一方、裏面でも作業を実施している。破損。
	67	石皿	12・2	14・0			安山岩?	1/3	厚みのある円形状の破損品で、作業面はわずかに窪む。
	68	石皿	16・6	16・8	D-13	852	輝石安山岩	1/3	天地不明。接地面が舟形を持つタイプ。側面の面取りは整形は丁寧に行う。
	69	石皿？	29・8	28・5			安山岩?	1/3	板状の石皿。作業面はほぼ平坦な平滑面。裏面も同様である。砥石の可能性も考えられる。
107	70	石皿	8・6	10・2	K-8	1474	輝石安山岩	1/3	側面の面取り整形の状態から、接地面が舟形タイプに近い。中央部の作業はかなり進行している。
	71	石皿	14・5	10・0	G-12	861	輝石安山岩	1/3	側面の面取り整形の状態・形状から接地面が舟形タイプと思われる。中央部の作業面は平滑面。
	72	石皿	11・6	16・6	G-2	1588	砂岩	1/3	偏平な円礫を使用したもので、作業面は全域と中央部の２段階が認められる。なお、裏面の平滑面はツルツル状態で砥石様の用途も推定される。
	73	石皿	18・2	11・2	I-15	2765	輝石安山岩	1/3	側面の面取り整形の状態・形状から接地面が舟形タイプと思われ、64に類似している。作業面は全域と中央部の２段階が認められる。天地は不明。
	74	石皿	23・2	29・5			輝石安山岩	1/3	板状の石皿。作業面は中央部を中心に楕円形状の痕跡を残す。裏面は平滑面。
108	75	石皿	15・2	8・8			輝石安山岩	1/3	板状の石皿。作業面はほぼ平坦な平滑面。裏面も同様である。砥石の可能性も考えられる。
	76	石皿	19・2	11・2	H-9	1305	輝石安山岩	1/3	左側面の面取り整形の状態・形状から接地面が舟形タイプと思われ、64に類似している。作業面は全域と中央部の２段階が認められる。天地は不明。二次加工再生品で右側面は側面の再加工が認められる。
	77	石皿	8・7	5・1	H-15	2684	輝石安山岩	1/3	側面の面取り整形の状態・形状から接地面が舟形タイプと思われる。作業面は平滑面。
	78	石皿	17・1	8・4	I-3	7133	輝石安山岩	1/3	板状の石皿。作業面はほぼ平坦な平滑面。裏面も同様である。砥石の可能性も考えられる。
	79	石皿	34・3	26・5		5000	安山岩	1/3	厚みのある石皿で、両面とも長軸方向に作業が進行している。
109	80	石皿	8・0	10・9	K-12	1168	輝石安山岩	1/3	板状の石皿。作業面はほぼ平坦な平滑面。裏面も同様である。砥石の可能性も考えられる。
	81	石皿	11・5	12・8	I-13	2442	輝石安山岩	1/3	板状の石皿。作業面はほぼ平坦な平滑面。裏面も同様である。図示したラインで若干窪む。
	82	石皿	14・2	11・7			輝石安山岩	1/3	厚みのある石皿で、両面ともに平滑面を残す。資料の中央部に敲打による痕跡が残る。
	83	石皿	29・3	30・0			輝石安山岩	1/3	板状の石皿。作業面はほぼ平坦な平滑面。裏面も同様である。
	84	石皿	7・7	7・7		鮎	輝石安山岩	1/3	側面の面取り整形の状態・形状から接地面が舟形タイプと思われる。作業面は平滑面。



第110図　小牧３Ａ遺跡・石皿６

表52　小牧３Ａ遺跡遺物観察表（石器・石皿）２

挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
110	85	石皿	7・4	6・3		集石	輝石安山岩	1/3	板状の石皿。作業面は両面とも平滑面。
	86	石皿	7・2	5・8		集石	輝石安山岩	1/3	板状の石皿。作業面は両面とも平滑面。
	87	石皿	7・4	7・0		集石	輝石安山岩	1/3	左側面の面取り整形の状態・形状から接地面が舟形タイプと思われる。作業面は平滑面。
	88	石皿	8・4	10・4		集石	輝石安山岩	1/3	板状の石皿。作業面は両面とも平滑面。
	89	石皿	14・4	8・6		集石	輝石安山岩	1/3	板状の石皿。作業面は両面とも平滑面。
	90	石皿	12・5	11・5		集石	輝石安山岩	1/3	厚みのある石皿で、作業面は進行している。
	91	石皿	9・2	9・9		集石	輝石安山岩	1/3	板状の石皿で、両面とも作業面が若干窪む。

第５章　岩本遺跡の調査

第１節　調査に至るまでの経過

鹿児島県農政部は，本地域を県営畑地灌漑事業（岩本地区）の対象と計画し，指宿市教育委員会に対し埋蔵文化財の調査を依頼した。

この調査依頼に基づき指宿市教育委員会は，県教育庁文化課に調査の実施を依頼した。文化課は，昭和52年６月に埋蔵文化財の分布調査を行い，広範囲に遺物が散布していることが判明した。そこで，これらの調査結果を元に指宿市教育委員会は文化課の指導の下，農政部と埋蔵文化財の保護と事業の調和を図るために協議を重ね，当該事業の実施に先立ち発掘調査を行うこととなった。発掘調査は指宿市教育委員会が調査主体となり，発掘調査は文化課に依頼して実施することとなった。

発掘調査費用は国庫補助事業として行い，鹿児島県と指宿市も費用の一部を負担している。

発掘調査の事業報告について，南薩畑かん事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査概報「岩本遺跡」として指宿市教育委員会から1978年３月に提出している。

第２節　発掘調査の組織

事　業　主　体　　鹿児島県農政部
調　査　主　体　　指宿市教育委員会
調査責任者　　指宿市教育委員会教育長　貳方忠雄（退職）
調査企画・調整　　社会教育課課長　田畑義成（故人）
　　指導主事　竹下辰次
　　主事　山王洋子
調査担当者　鹿児島県教育委員会文化課主事　長野眞一
　　文化財調査員　中島哲郎（現川内市歴史資料館）
　　主事　青崎和憲
　　主事　中村耕治

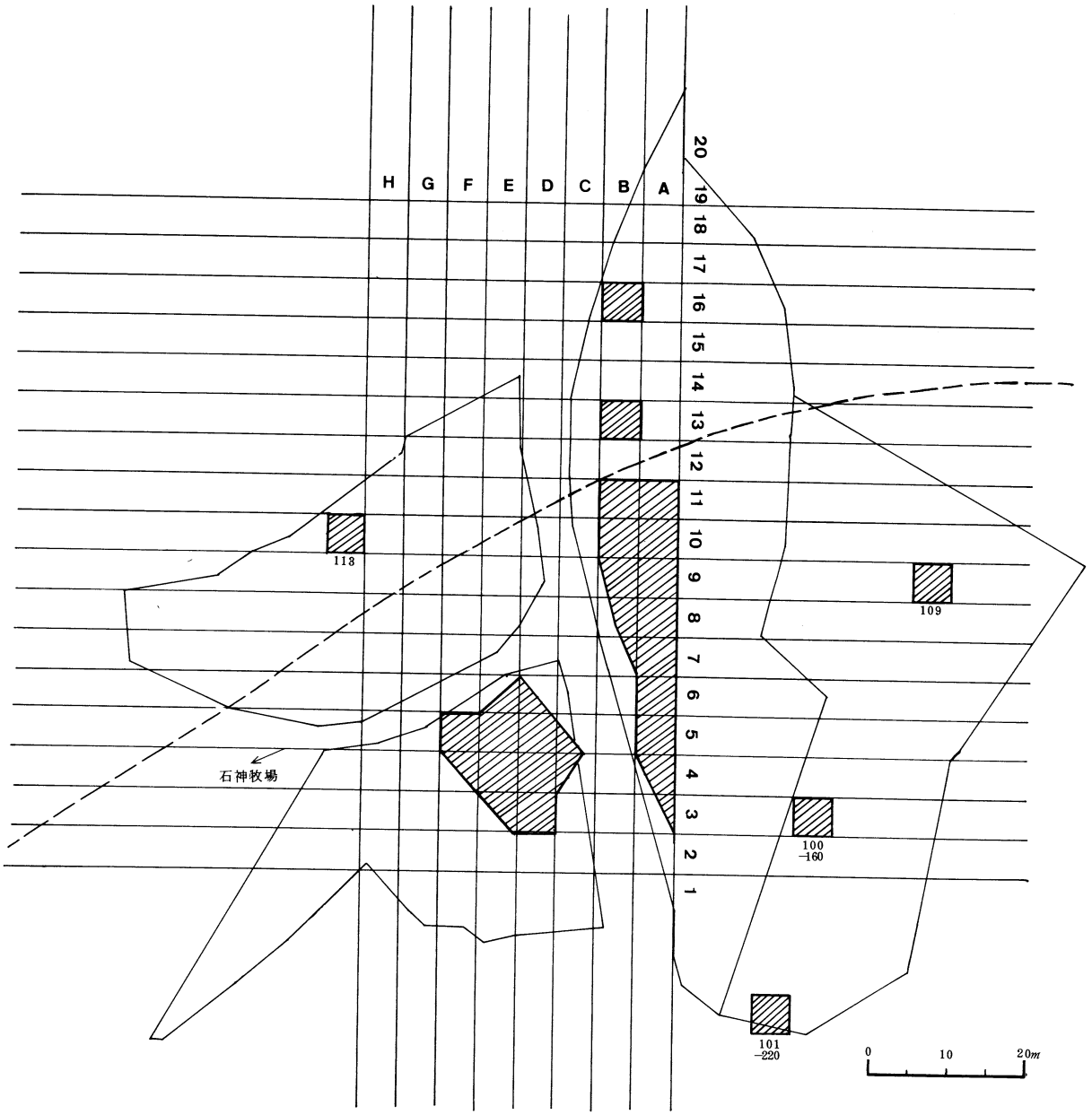
発掘調査及び報告書作成に当たり多くの方々に，御指導・御助言をいただきました。記して感謝申し上げます。

鹿児島県農政部・鹿児島県農政部南薩畑灌事務所・指宿市耕地課・指宿市教育委員会
文化庁記念物課調査官　　小林達雄（現國學院大学史学部教授）
鹿児島県文化財保護審議会委員　河口貞徳
広島大学文学部助手　　藤野次史
出水高校教諭　　池水寛治（故人）
福岡市教育委員会埋蔵文化財課　吉留秀敏
　　道上康仁（故人）
江本直・木崎康弘・古森政次（熊本県教育委員会）・本田道輝（鹿児島大学助手）
小畑弘巳（熊本大学助教授）・高橋信武（大分県教育委員会）

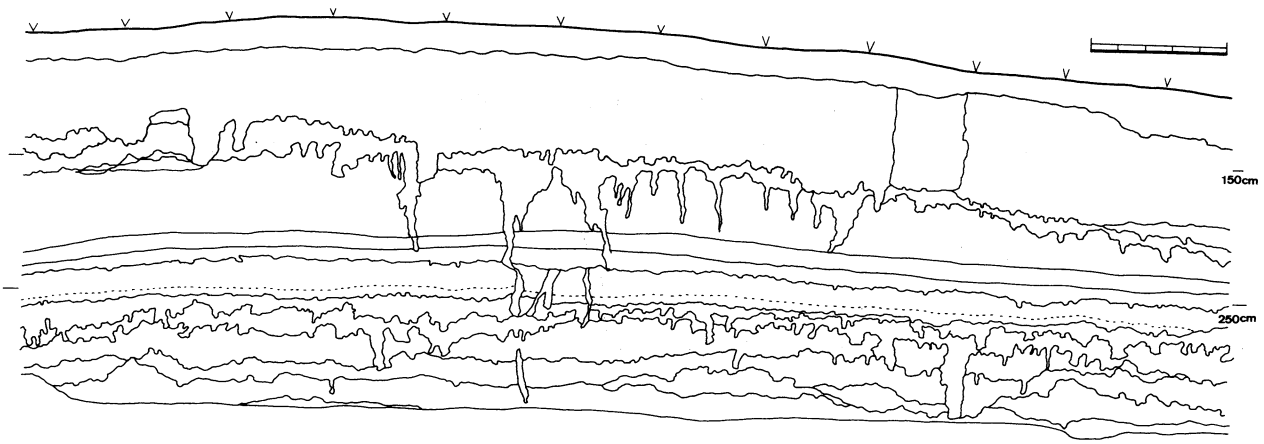
第３節　調査区域

Ｃ地点は，縄文時代早期の遺物が濃密に包含されることが確認された地域である。そこで，遺跡保存のための協議を行い極力設計変更等の処置を行うこととなった。しかし，幹線農道が計画された地域については，包含層が一部削平されることが予測された。そこで，削平される恐れのある部分について発掘調査を行い記録に残すこととした。

発掘調査は，計画道路の路肩を南北グリッドの基軸として設定し，１区から20区に，それに直交するＡからＨまでの８区を東西に設け，各グリッドは５ｍ×５ｍとした。



第111図　岩本遺跡Ｃ地区調査区域図



第112図　C地区東側土層

第４節　土層

１C地区東側

Ⅰａ層　耕作土，灰黒色有機質土。

Ⅰｂ層　Ｆ５区のみに見られる芋穴中の埋土で，ソフトな（池田二次シラス）の白色砂質土。

Ⅱａ層　茶褐色砂質混じり土層で，１㎝以下の小礫を若干含む。開聞岳のコラに比定。下部でややや硬質となり乾燥するとクラックが発達する。

Ⅱｂ層　黒色土。乾燥するとクラックが発達する。

Ⅲ　層　黒灰色砂質土層。池田火砕流堆積物の三次堆積物。北側の窪地に堆積。

Ⅳ　層　池田火砕流堆積物の崩壊土壌。植物根、雨水等の影響。(薄層理が見られない)

Ⅴａ層　Ｐｉｎｋの池田火砕流堆積物。薄層理顕著。

Ⅵ　層　黄色の池田火砕流堆積物。鉄分・マンガン分多く高師小僧状に認められる。

Ⅶ　層　アカホヤ火山灰を基本土壌とする黒色帯，ガラス質に富極めて明瞭。

Ⅷ　層　幸屋火砕流とそれに伴う降下軽石及び上部はアカホヤ火山灰。

Ⅸ　層　明褐色砂質気味のローム層，上部でⅧ層の軽石の混入を見る。

Ⅹ　層　ＸⅠ層への漸移層、上下の境界はインボリュウションを呈す。遺物包含層。

XI　層　黒褐色軽石（パミス）混じりの硬質土層。若干のカーボン粒を含む。薩摩火山灰該当。

XII　層　パミスを多量に含むやや赤色の砂質土層。カーボン粒を含む。

XIII　層　黒色砂質土層で部分的に多量のパミスを含む。

XIV　層　やや暗い褐色砂質土層でＸⅡ層に類似する。

XV　層　赤褐色の粘質の強いローム層で，周辺地域では旧石器時代の包含層である。乾燥すると特徴的にクラックが発達する。

XVI　層　黄褐色粘質ローム層，下部の姶良カルデラ噴出物の漸移層に相当。

第6章　出土遺物

第1節　土器

岩本遺跡C地点からは，隆帯文土器・岩本Ⅰ～Ⅳ類土器・前平式土器（永野タイプ）・押し形文土器が出土している。主体となるのは岩本Ⅰ～Ⅳ類土器で，基本的にこの土器群の単純遺跡と判断できる。

隆帯文土器（第116図No.1～5）

No.1は口唇部端部とその下位に隆帯文を貼付け，口縁部を巡らす。上位の隆帯文は，口唇部も覆う様に貼付けられ，その隆帯で平坦な口唇部を形成する。口唇部には施文具に貝殻腹縁を用い，角度を変えながら押し引き手法で波状文が施される。上位の隆帯文は蒲鉾状，下位の隆帯文は三角形を呈し，それぞれの隆帯文上は貝殻腹縁で刻まれる。No.2基本的にはNo.1と類似するが，上位の隆帯文は口縁端部で収め，口唇部は腹縁押し引き文，隆帯文上には腹縁部を深く押圧する。No.3は口唇部から縦方向に短い隆帯文を貼付けたもので，口唇端部は棒状工具で浅い押圧で刻み，さらに，口縁上位は貝殻腹縁を連続して斜めに刺突し，隆帯文の下部も類似した施文具で横方向に刻まれる。なお，最終段階で隆帯文の貼付けが行われたと判断される。No.4はU字状の隆帯文を貼付けているが，天地を始め詳細は明らかでない。No.5は，いわゆる円筒形土器（バケツを引き延ばした形状）の胴部上位に蒲鉾状の隆帯文が付けられたもので，一見して隆帯文の伝統が円筒形土器に残された感がある。この土器は隆帯文を除く他の部分は，岩本Ⅱ類土器に該当する。岩本Ⅲ類土器の特徴を踏襲し口縁部内外面が稜を持ち，楔状に尖る。口唇部は木口状工具により外面から浅く刻まれ，小さな波状を成す。また，口縁部直下は貝殻刺突線文が平行に2列に巡り，器面は外面は横位に丁寧にナデ，内面は横方向の条痕で丁寧に仕上げている。さらに，内面には赤色顔料を塗彩した痕跡があり，鮮やかな赤色の色調が認められる。

以上のように岩本Ⅰ類土器は，口唇部及びその周辺に隆帯を貼付け等ものである。

岩本Ⅰ～Ⅳ類土器

Ⅰ～Ⅳ類土器の区分は，口縁部の形状を基準としている。

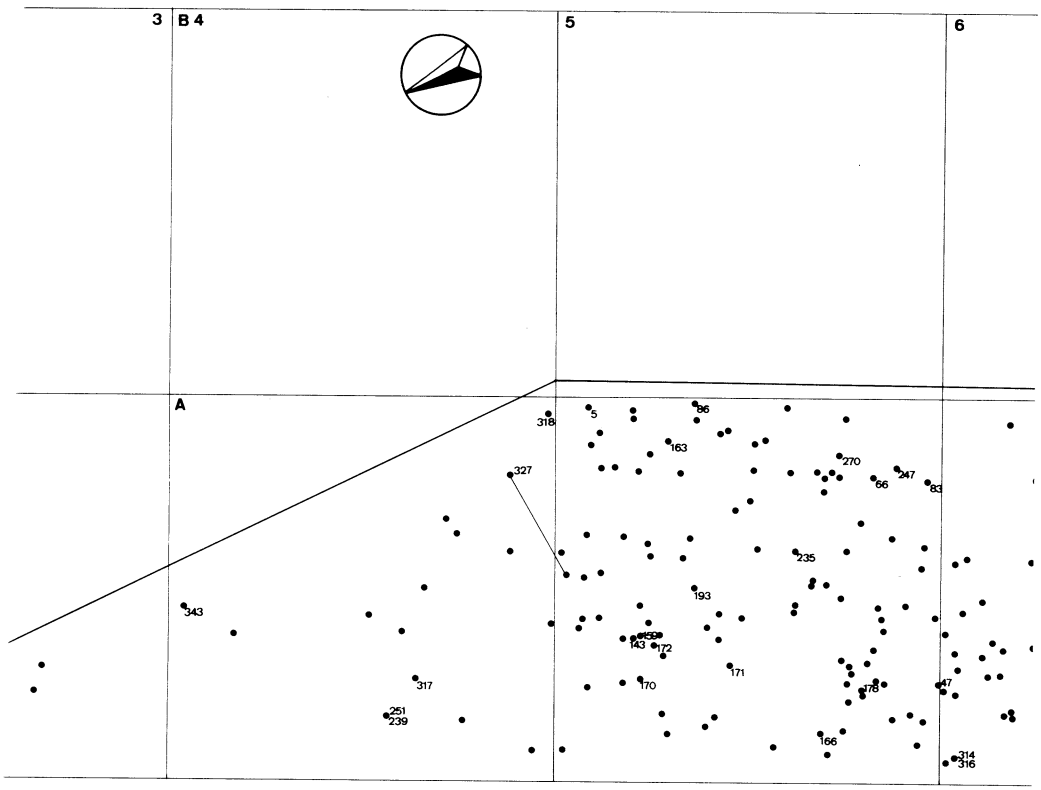
岩本Ⅰ類土器　口唇部は外面が高く，内面が低くなるように整形され，断面形は三角形で偏平な片刃石斧状を成し，内面には明瞭な段(稜線)がつく。このⅠ類土器が最も多く，Ⅱ～Ⅳ類土器は，その後の整形及び口縁部周辺への施文と関係していると推定できる。

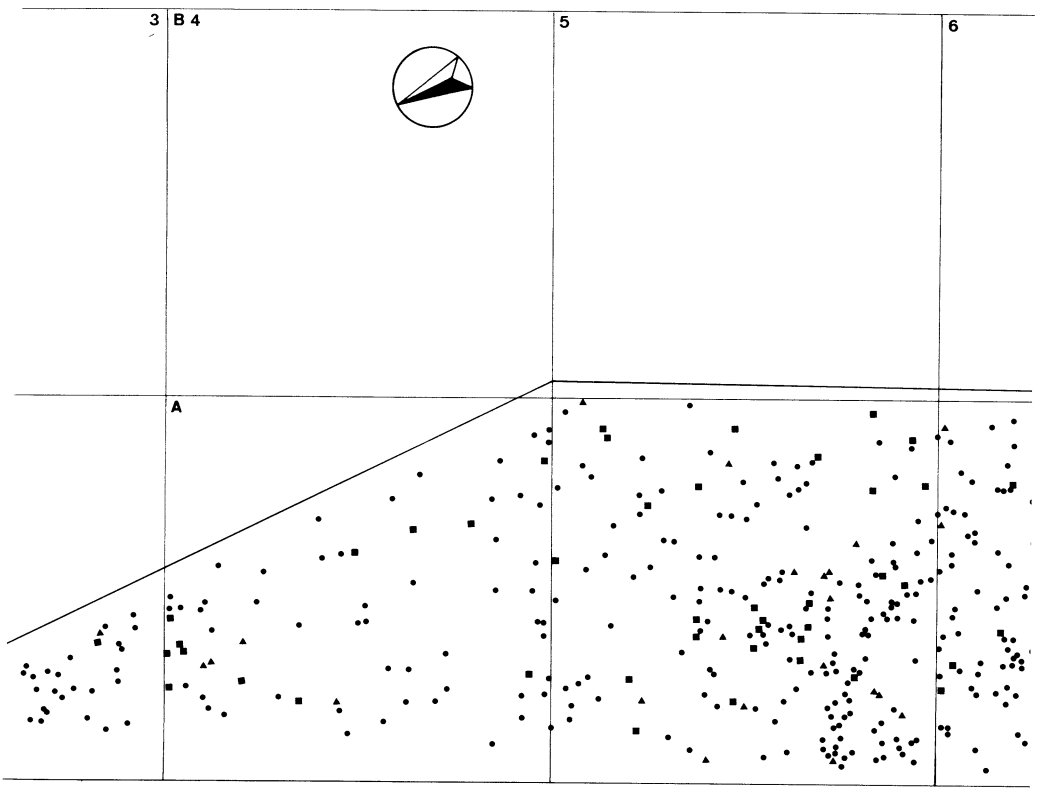
岩本Ⅱ類土器　口唇部の断面の形状は楔形で，両刃石器様に鋭角となり，内面外面共に体部との境界に明瞭な段（稜線）を形成する。

岩本Ⅲ類土器　Ⅰ類土器に見られたような内面の段が不明瞭となるもので，量的には少なくわずかである。9·49·50·74·177·208

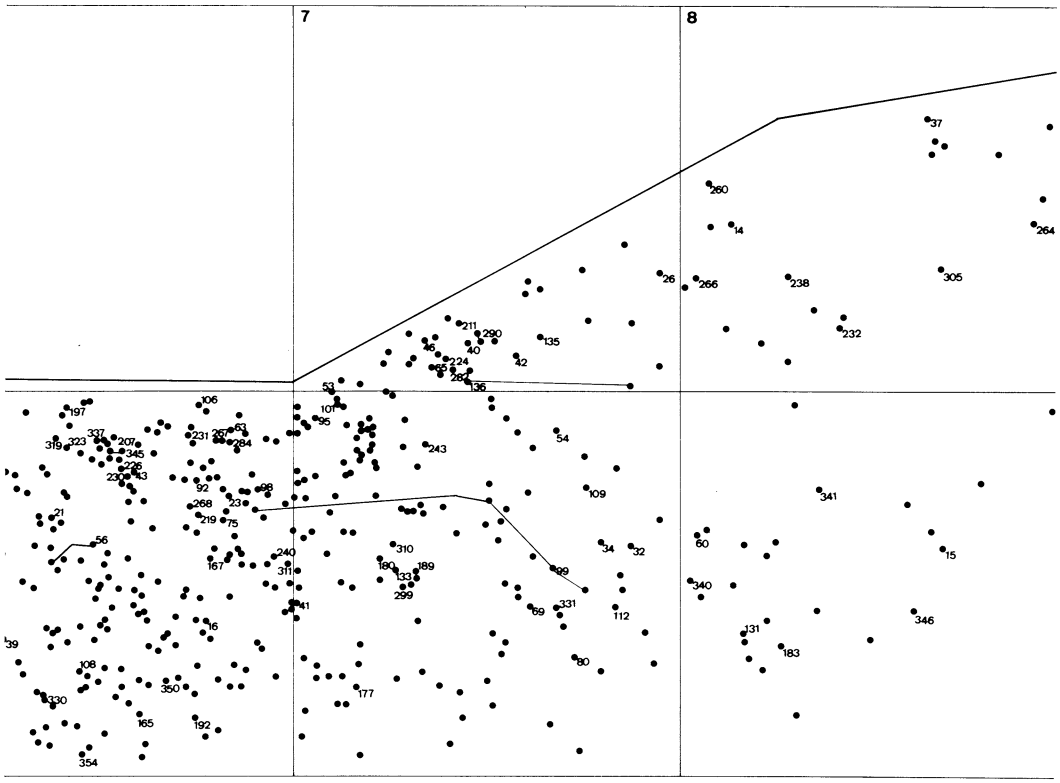
岩本Ⅳ類土器　口唇部が平坦面を成すもので，その外面端部に貝殻腹縁部を押圧している。2点だけの存在である。253·254

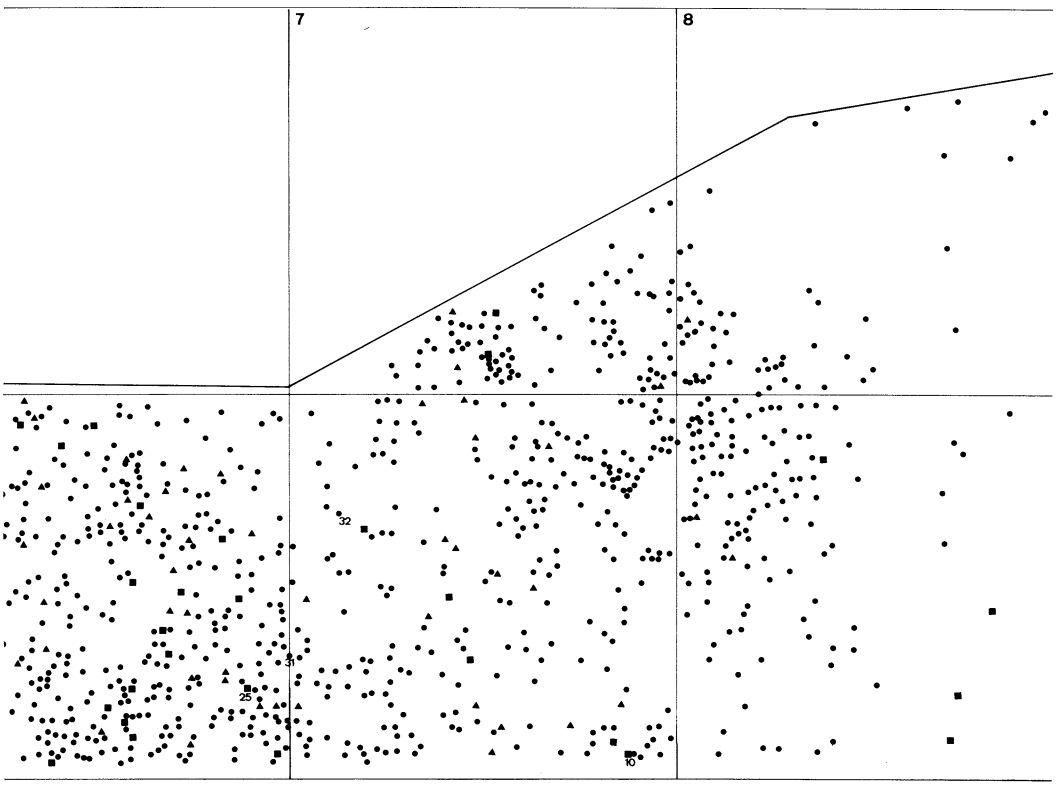
上記したようにNo.5も，口縁部の形状はこのⅡ類に含まれる。無文土器のNo.6・7・8の内面の稜は明瞭で，外面からの圧痕により波状口縁を形成する。No.12は口縁部に貝殻刺突線文を1列巡

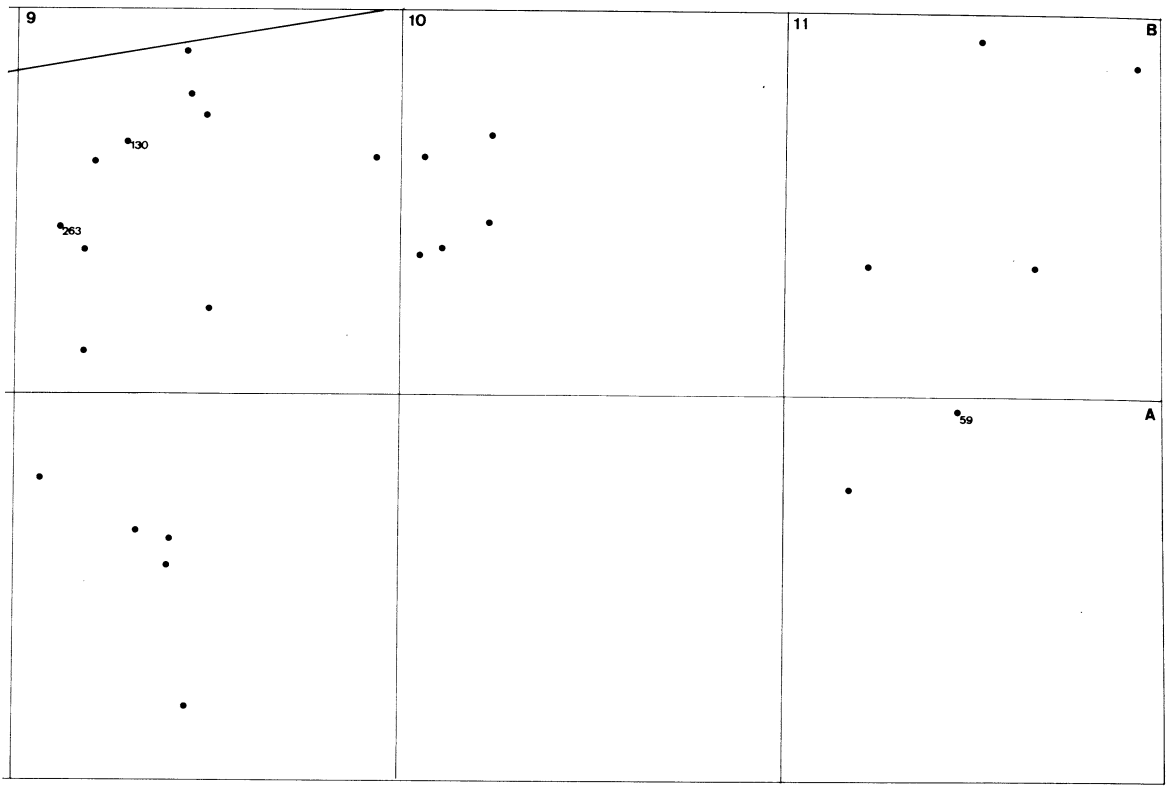


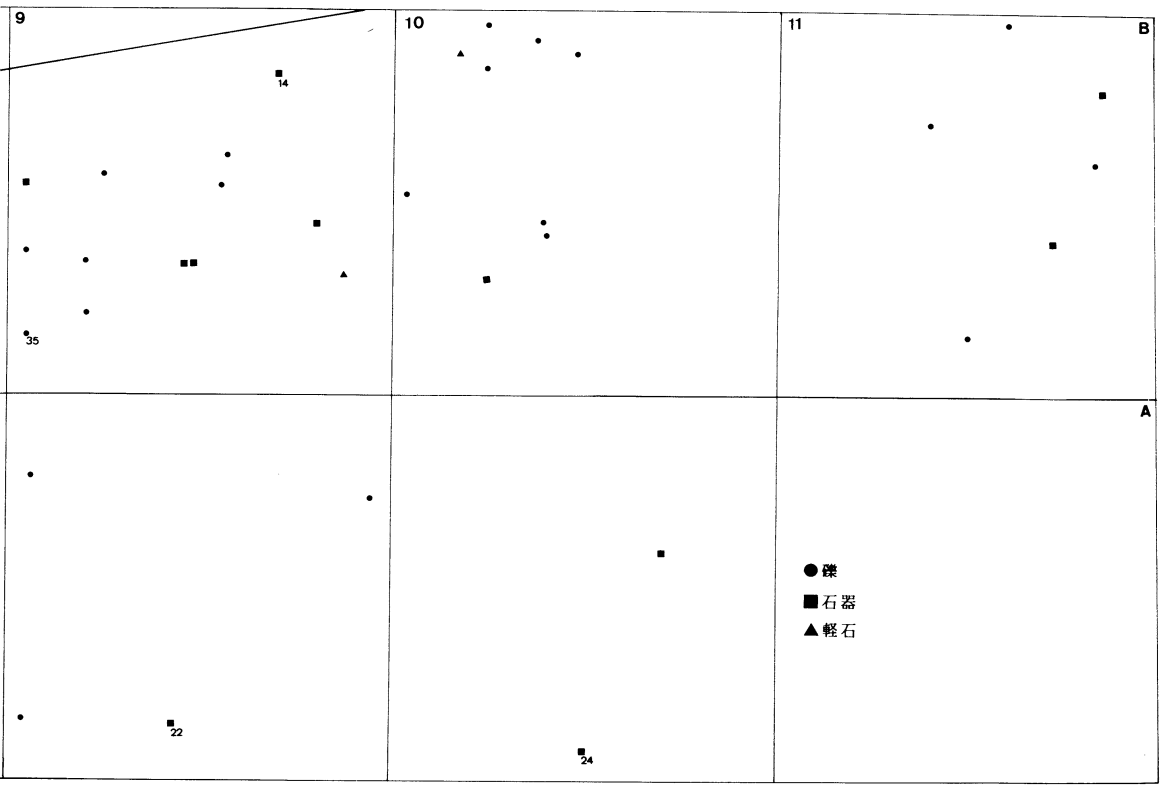


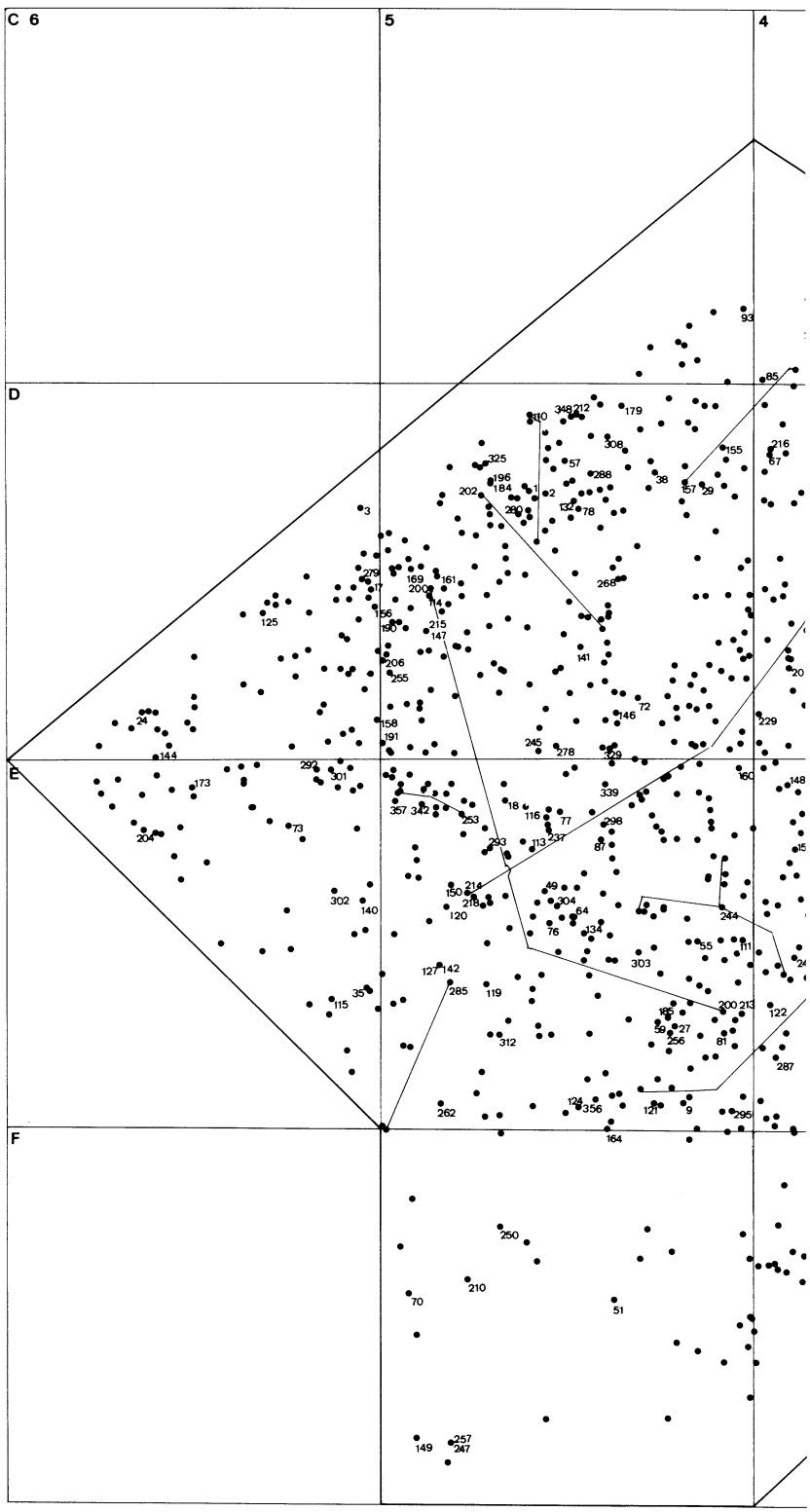
第113図　土器出土分布図（上）・石器及び礫出土分布図（下）


7
8
37
260
14
264
26
266
238
305
211
290
135
46
40
42
224
282
136
232
53
101
106
197
95
54
243
109
341
60
15
340
346
131
183
34
32
99
112
80
177
350
330
165
192
354
39
108
16
56
167
240
311
310
180
189
133
299
331
69
98
92
268
219
75
23
21
207
345
226
43
337
323
319
231
284
63

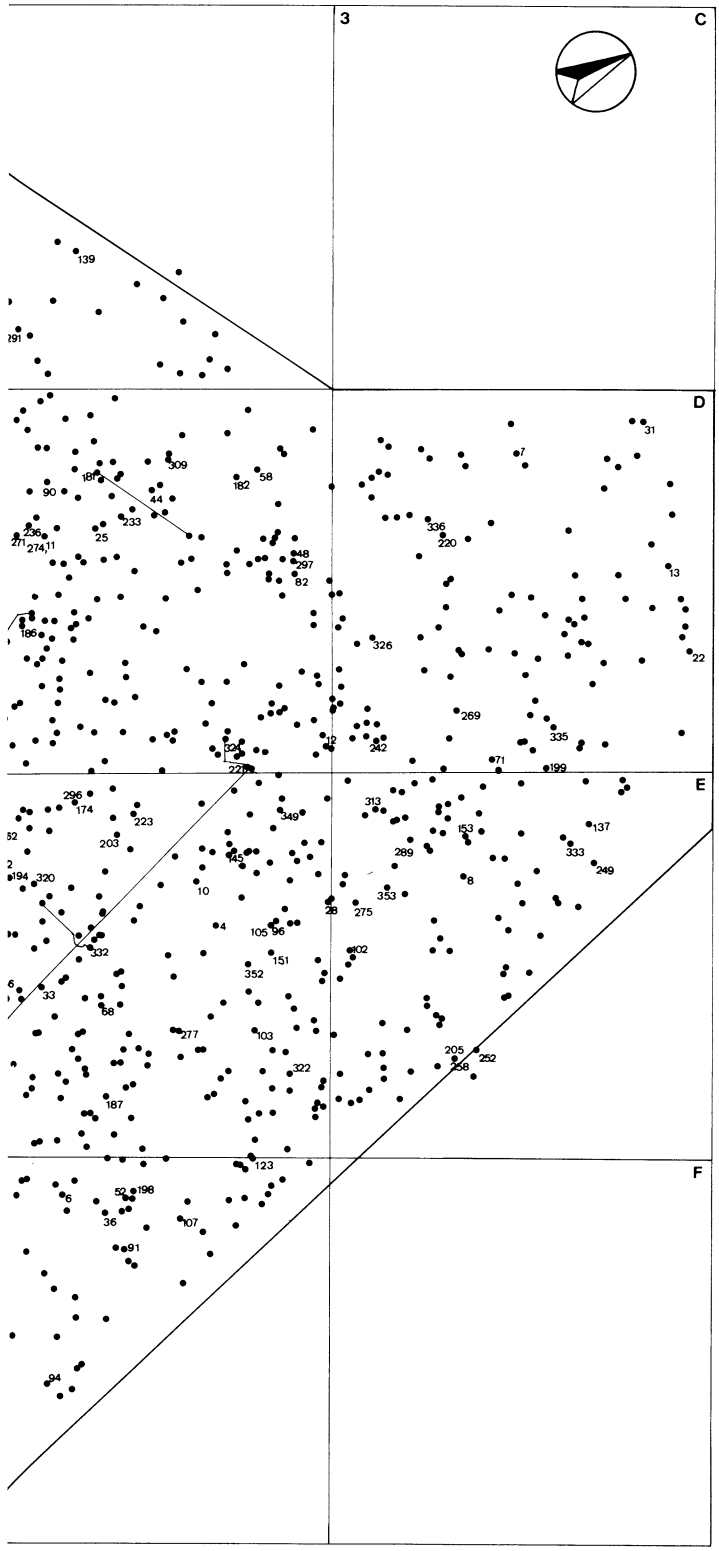

7
8
32
31
25
10

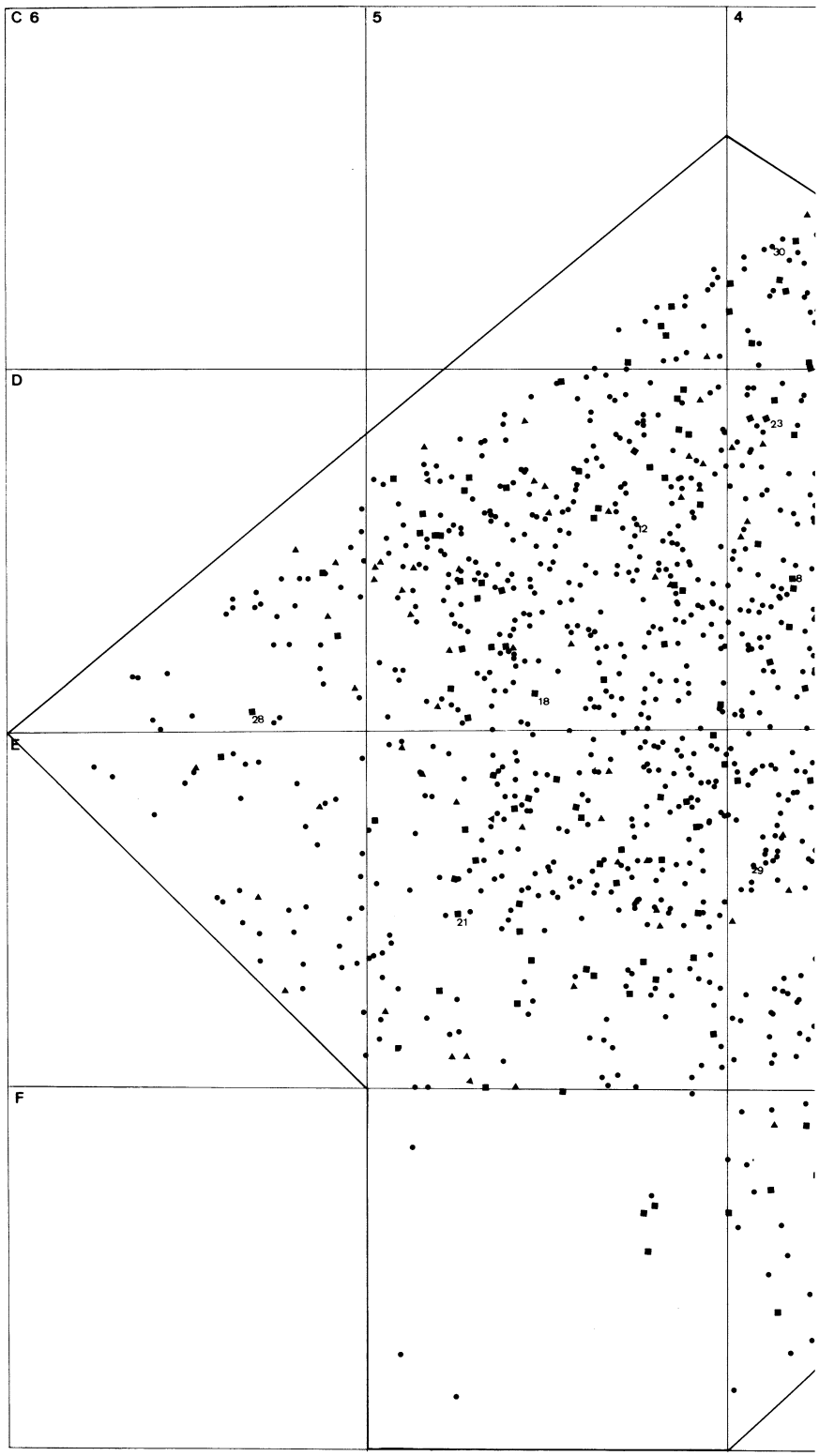

9
10
11
B
130
263
59
A


9
10
11
B
14
35
A
22
24
●礫
■石器
▲軽石

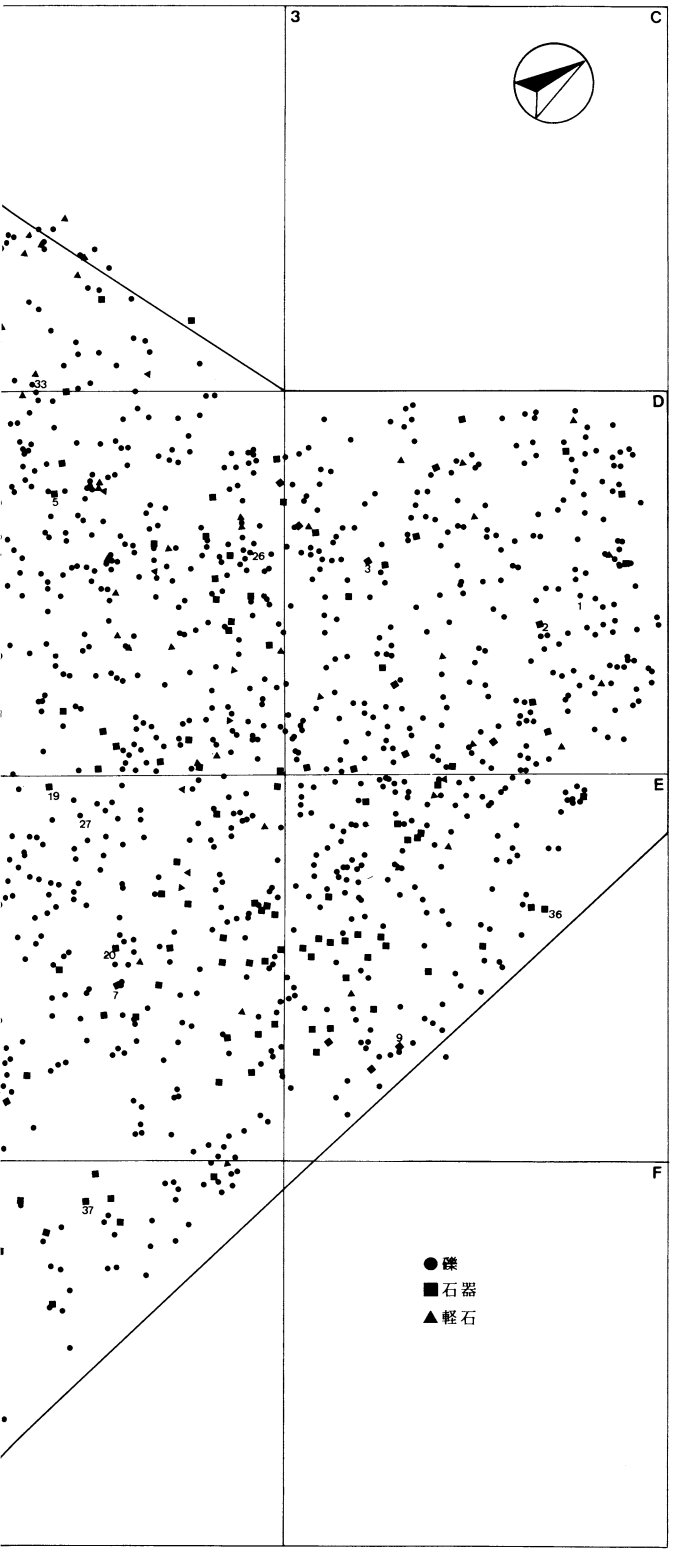


第114図　土器出土分布図

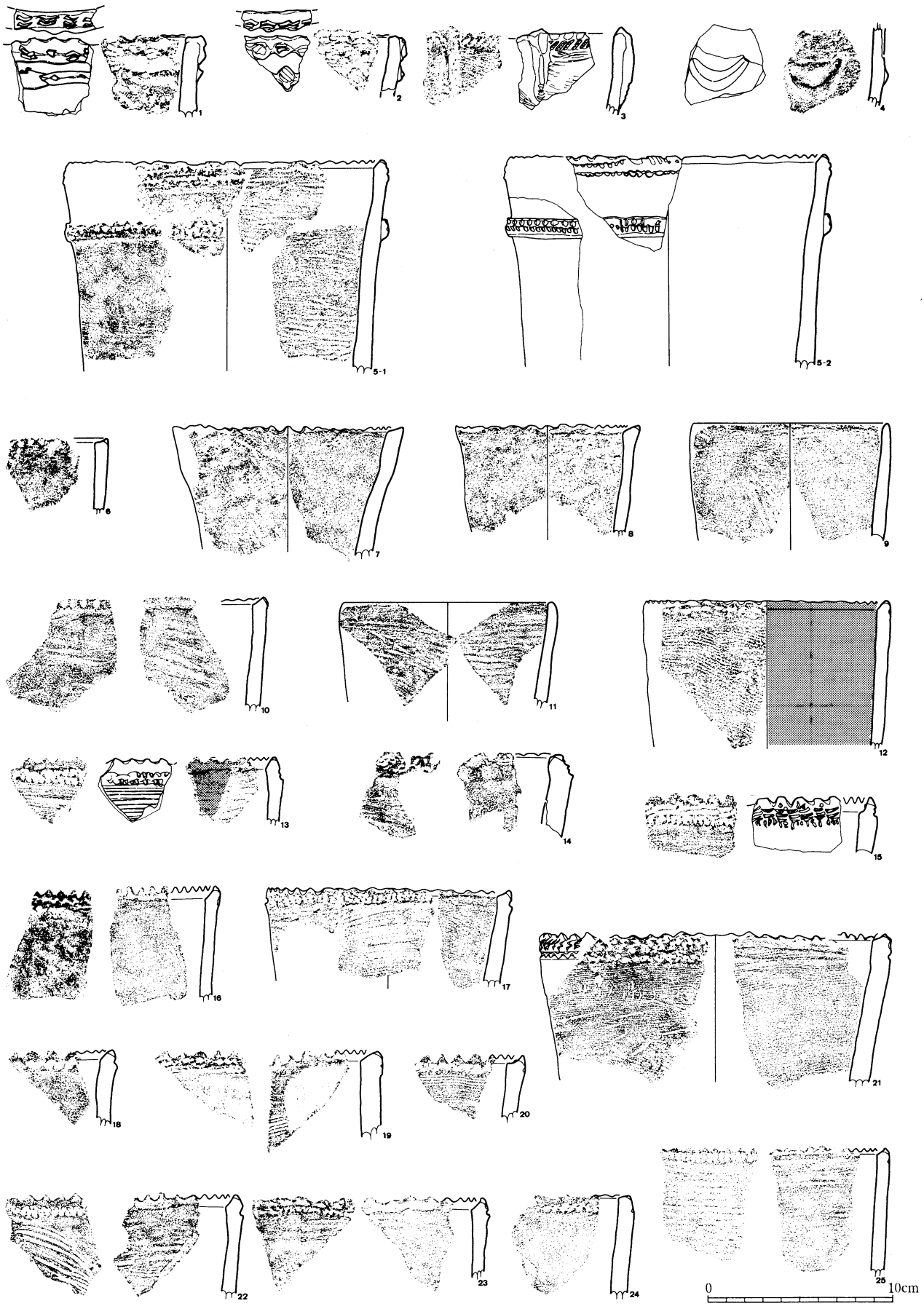

3
C
D
E
F



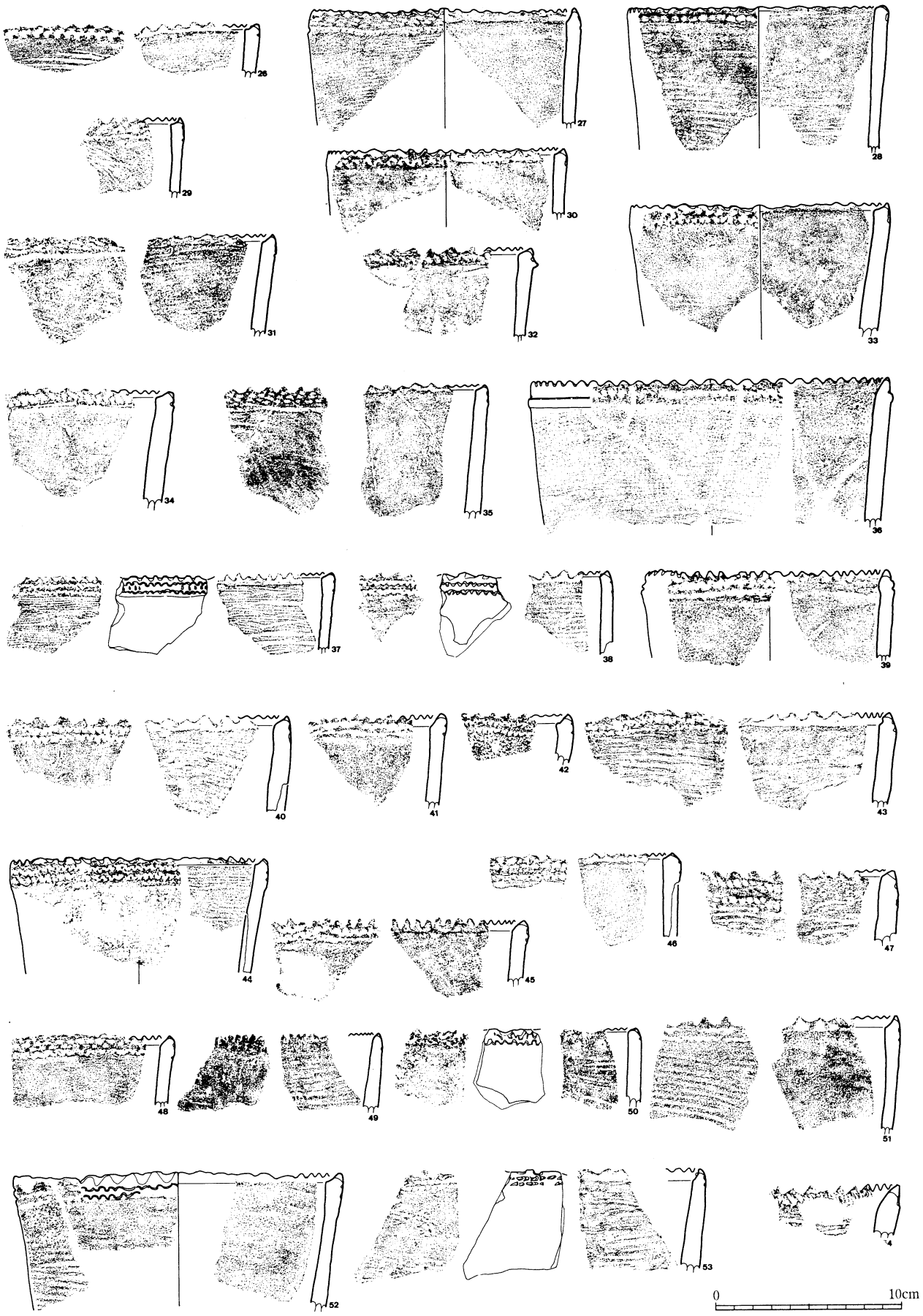
第115図　石器及び礫出土分布図


3
C
D
E
F
33
5
26
3
1
2
19
27
20
7
36
9
37
●礫
■石器
▲軽石

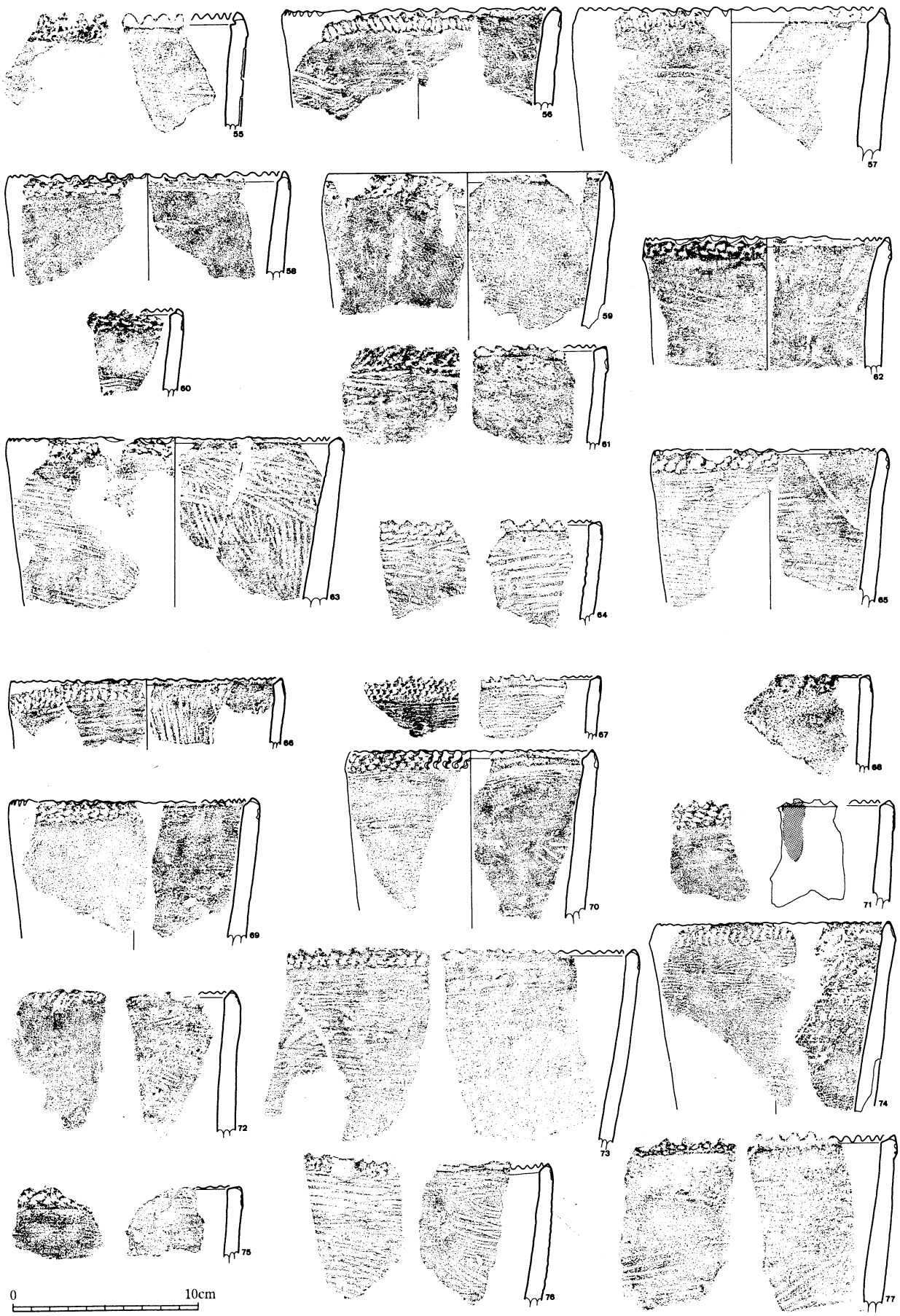
らすもので，№13同様内面には赤色顔料を塗彩した痕跡が残される。№13・14は口縁部の貝殻刺突線文が深く圧痕されたもので，刺突部の下部がはみ出すように強調される。また，14の口唇部は内面から指頭で圧痕し，さらに外面からヘラ状工具で深く刻まれている。№15の口縁部は，上位が縦位の貝殻刺突，下位は横位の貝殻刺突線文で構成される。№16・17は貝殻刺突線文が深く施されるため，下位にわずかな肥厚帯を生じる。№18も同様である。№19は，口縁部上位の貝殻刺突部を意図的に整形段階で帯状に肥高させている。№21は18·5㎝の復元口径を示す資料で，口唇部は貝殻腹縁で左から右方向に深く刻まれ，口縁部外面の上位は貝殻腹縁で左から右に押し引き，その下位は貝殻刺突線文が施されている。器面調整は木口状工具で，横位に丁寧に行い，その上位に逆Ｃ状の爪痕が圧痕されている。残される爪痕は12個で，他に類例がないため偶然の産物と推測されるが，興味深い１点である。№23の口縁部上位の貝殻刺突は，波状口縁整形以前に行われ，波状口縁は左から右への貝殻腹縁刻みで造り出されている。№26の器面調整具は，今回の資料中でも最も繊細な木口状工具を用いている。№28の口縁部は横位の連続刺突で行われ，刺突具は明らかでないが単独の施文で，左から右への連続運動が認められる。№30・34の口縁部施文帯は，意図的に肥高していた可能性が高い。なお，№30の内面には粒子の細かい赤茶褐色の粘土が残され，特殊な化粧土を添付した可能性がある。№32の貝殻刺突線文は，上位方向から深く刺突され，そのため刺突線文の下位は隆帯文状の細い肥高帯が残される。№35の口縁部施文帯は，わずかであるが肥高していた可能性があり，内面は№30と同様に化粧土が使用された痕跡がある。№36の口縁部の貝殻刺突による隆帯文状の突出は著しい，したがって，施文帯を肥高していた可能性がある。№37の並行する貝殻刺突線文間には，部分的に刺突連点が施され，内外両面に赤色顔料が塗彩された可能性がある。№39の２本の貝殻刺突線文は深く施され，周辺部は肥高して残る。内外面共に丁寧にナデ仕上げが成される。№43・44の内面の稜線は明瞭に残され，特に，44の器面調整は入念に行っている。№45の口唇部の刻みは，ヘラ状工具で深く行い鋸歯様の波状に残される。№47の並行する貝殻刺突線文は他に比べて間隔が広く，個性が見られ，また器面調整も貝殻条痕で行われる。№48は並行する貝殻刺突線文間が，肥高して残る。№51・52の内面の稜線は明瞭で，52で観察すると口縁部の貝殻刺突線文は，左から右方向へ施文したと判断される。№54の口唇部の刻みは深く，鋸歯状に残され，口縁部の貝殻刺突は左上から右下方向に行う。№55の内面稜線は特に明瞭で，尖る口唇部を内面の稜線まで深く刻む。口縁部施文帯はあらかじめ肥高し，その肥高帯に縦位に貝殻刺突を施している。№56は貝殻刺突線文を施した後に，周辺部の器面を再度横位に調整を重ねている。№58の口唇部は，貝殻腹縁部で斜めに刻み，左から右への方向を観察できる。№59は内外面共に，木口状工具の調整痕が明瞭に残されるもので，特に内面には赤色顔料が塗彩された痕跡が認められる。№61は横位の貝殻刺突線文を１列巡らした後，斜め方向に貝殻腹縁刺突を重ね，刺突線文の下位が肥高して残る。№62の下位も肥高して残される。№63・64の内面整形は粗の条痕仕上げが成され，№66の内面は縦位に仕上げる。№67の口縁部貝殻腹縁刺突は密に連続して行い，66は単独で施す。№71は縦位の貝殻腹縁刺突で，肥高した施文帯に施し，口唇部内面と内面の一部に赤色顔料が残される。№75・77・78も施文帯を肥高していたと判断される。№80の調整具は木口状工具で，内面は横方向，外面は上位は横・下位は縦方向に行っている。№83の内面の稜線は明瞭で，器面調整の関係でやや突出し，口縁部施文帯の



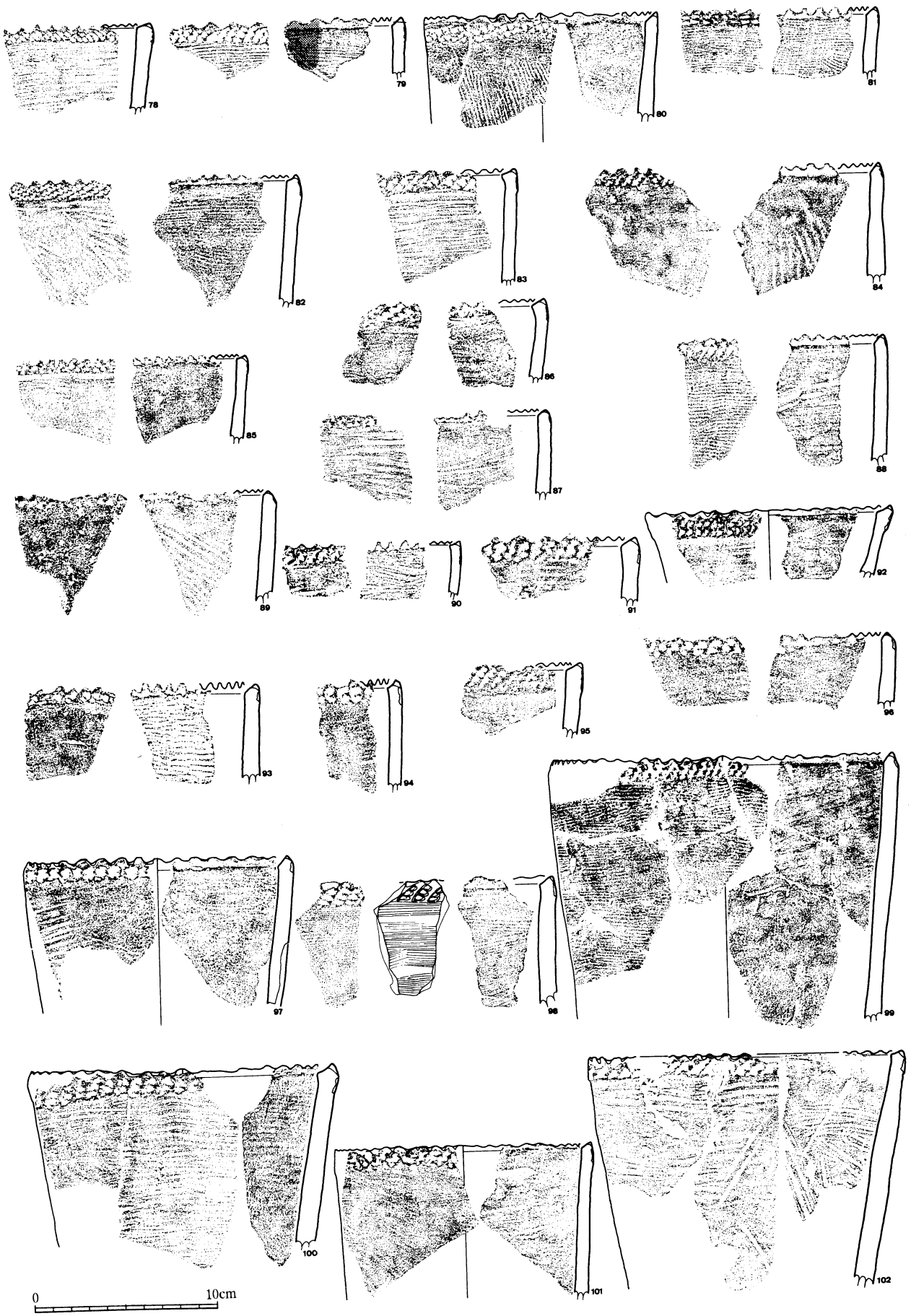
第116図　岩本遺跡・円筒形土器 1



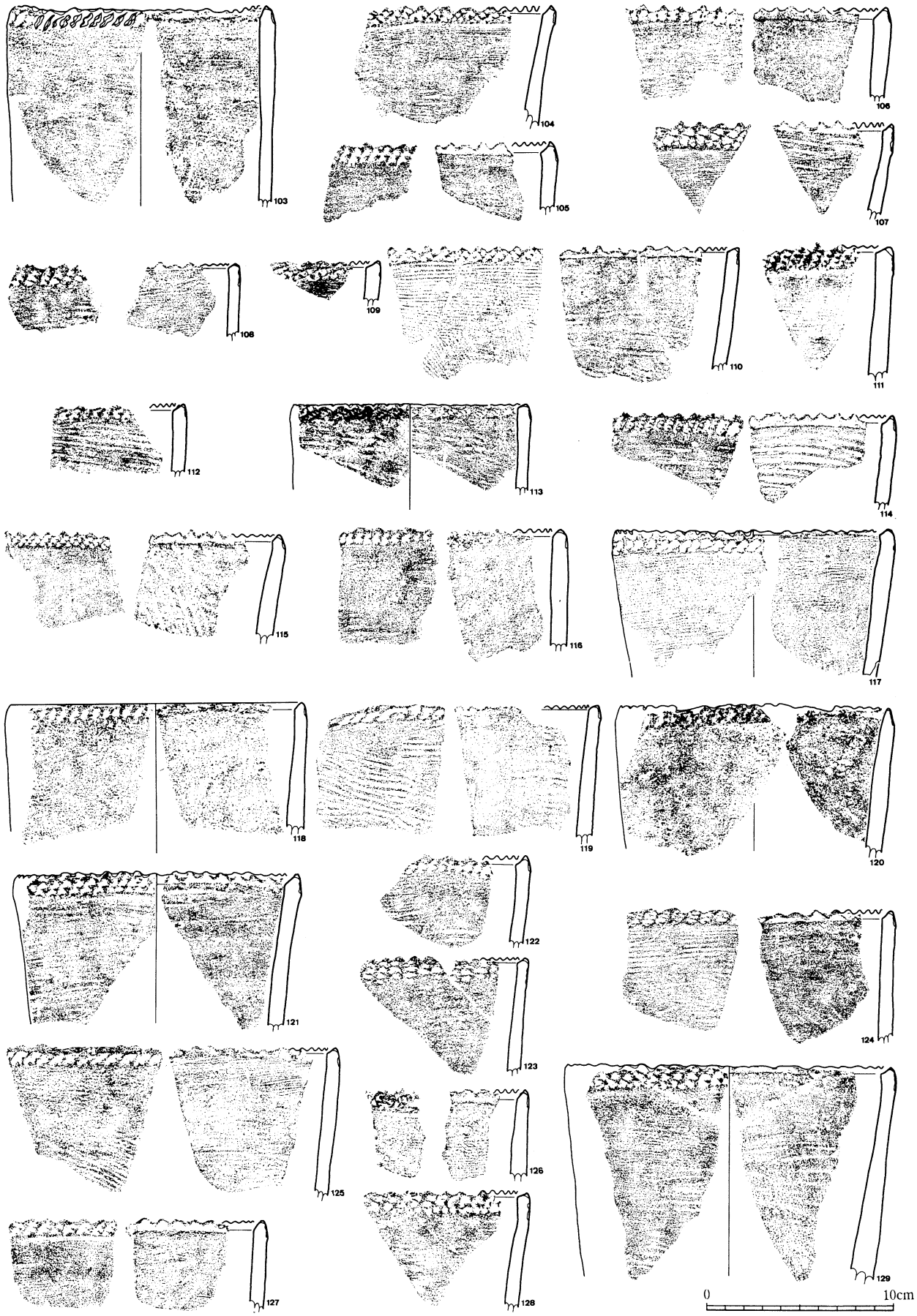
第117図　岩本遺跡・円筒形土器 2



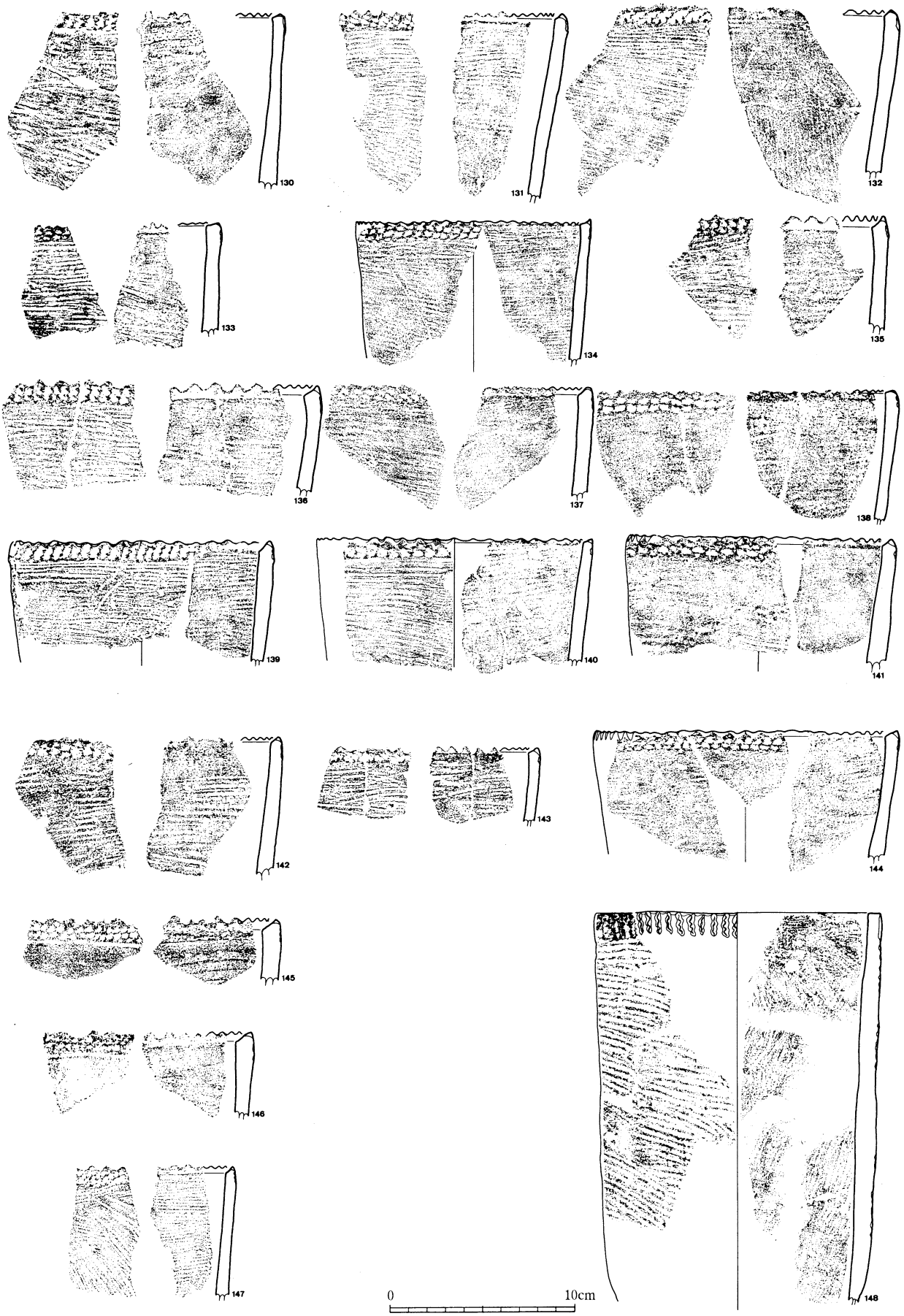
第118図　岩本遺跡・円筒形土器 3



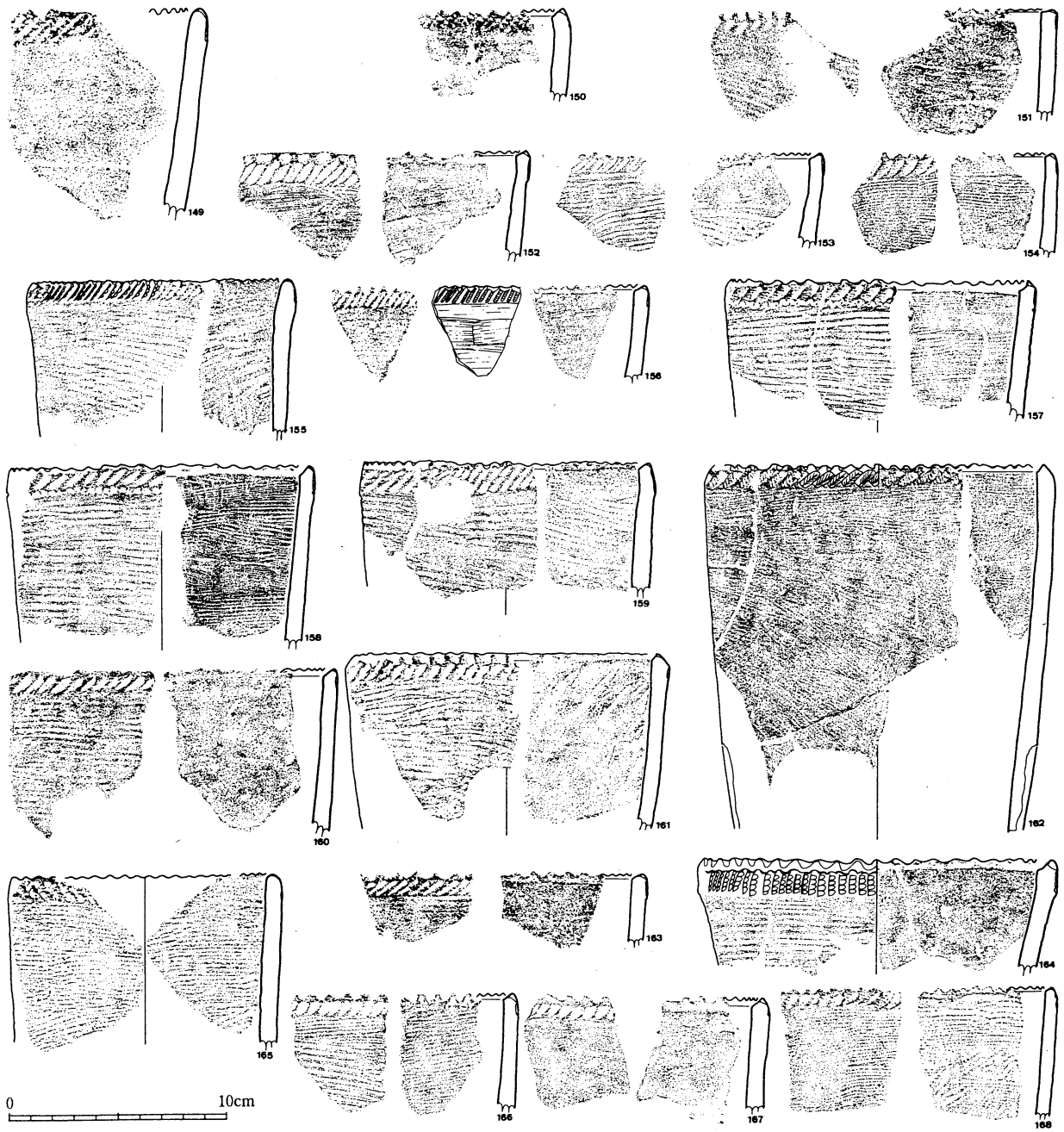
第119図　岩本遺跡・円筒形土器 4



第120図　岩本遺跡・円筒形土器 5

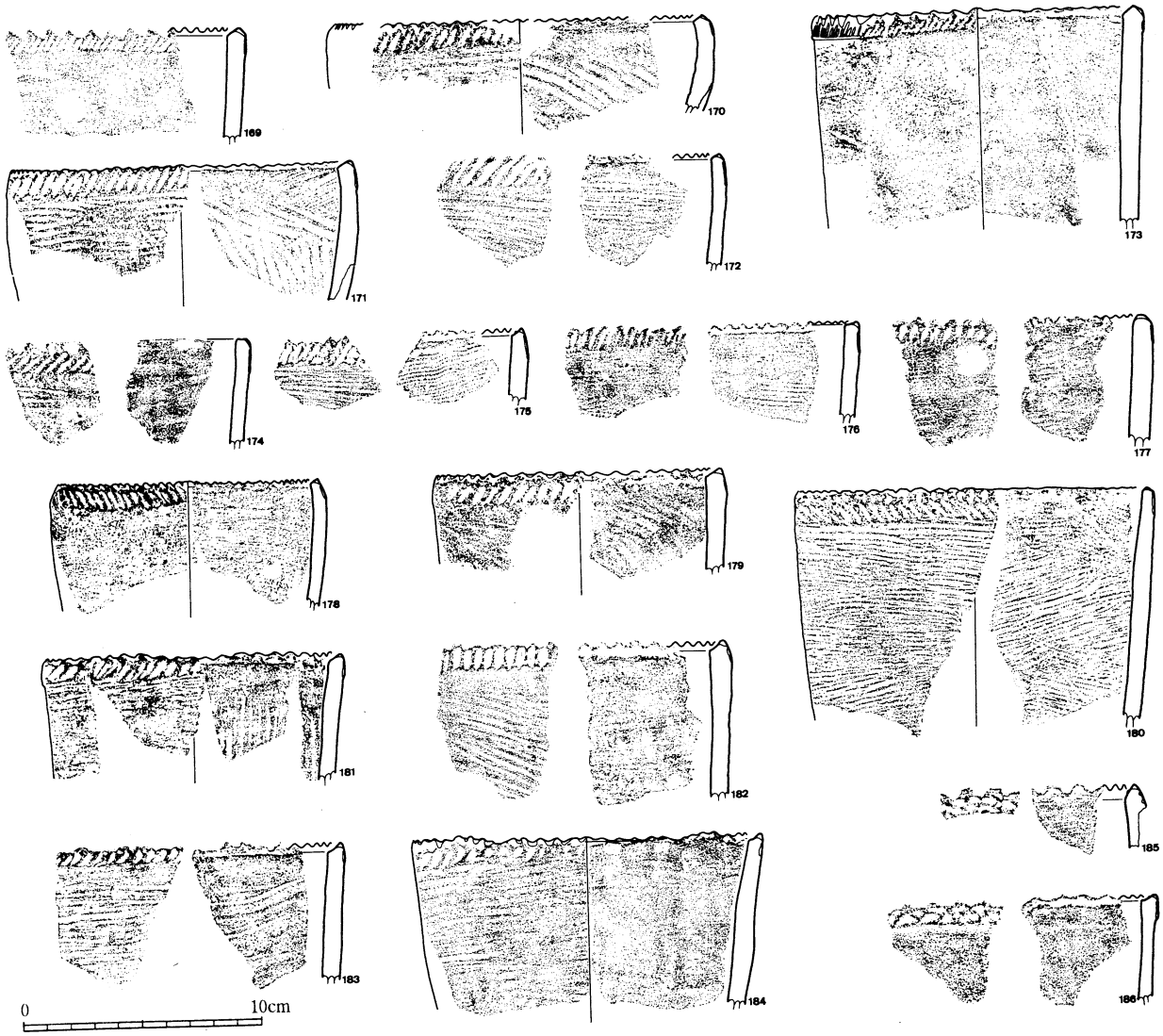


第121図　岩本遺跡・円筒形土器 6



第122図　岩本遺跡・円筒形土器 7

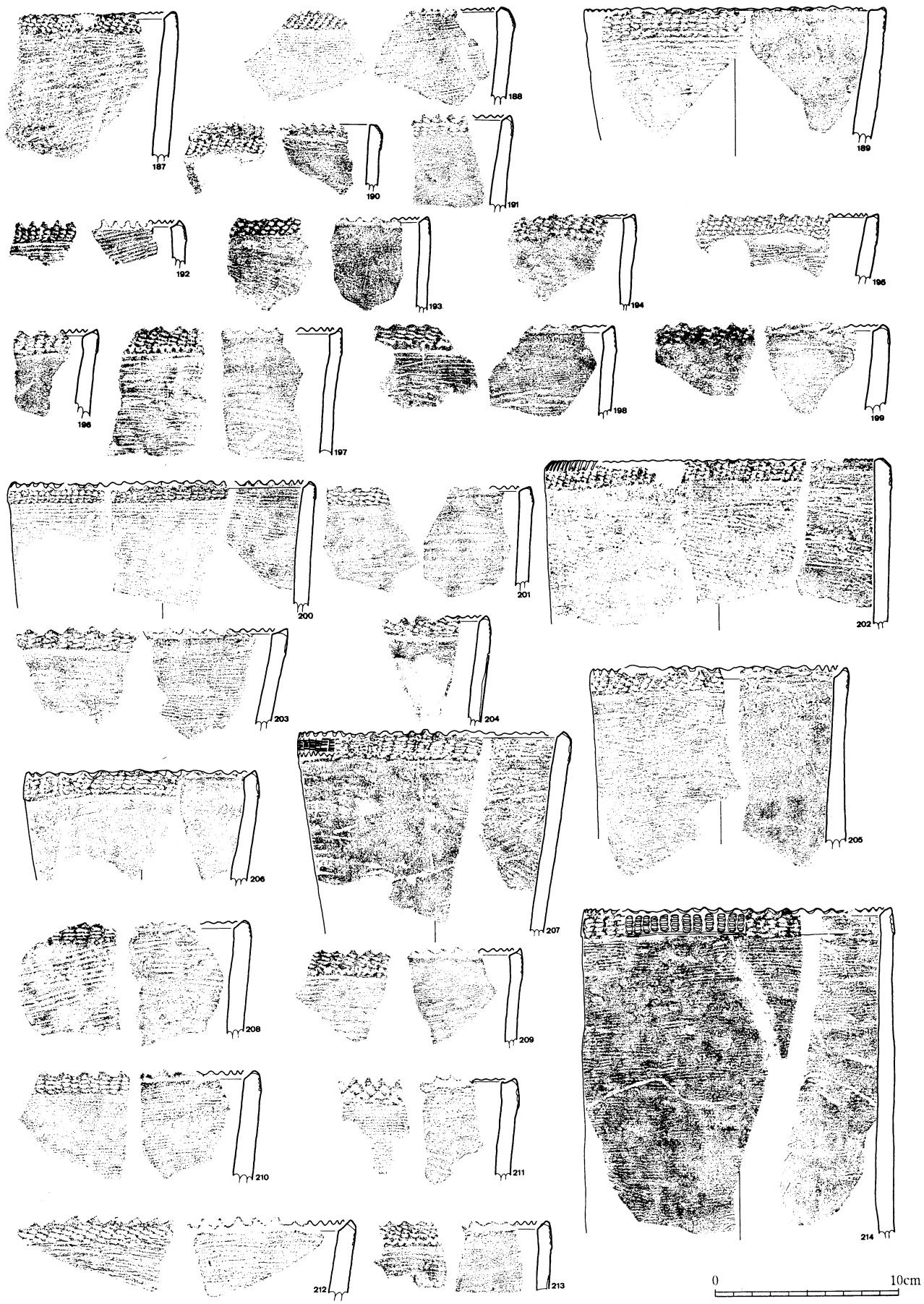
下位も狭いながらも肥高して残る。No.86の内面も同様に突出する。No.82の口縁部は83同様貝殻腹縁部の連続刺突である。No.85の施文帯直下の器面調整は，口縁部の施文終了後に行っている。No.92・95の施文帯も肥高していたと思われる。No.92・94・98の内面の稜線は明瞭で，特に98の器面調整は繊細な木口状工具で入念に行っている。No.99の口径は18·6cm，No.100 は16·5cm，No.102 は17·2cm。99の内面には化粧土を使用し，100 では赤色顔料を塗彩した可能性がある。100 ・102 の口縁部では貝殻腹縁部を深く刺突したため，刺突間が肥高する。また，102 は施文後に，施文帯直下を横位にナデて仕上げたため，施文帯が更に肥高する。No.104 ・107 ・127 も同様に施文後の横ナデ仕上げにより，施文帯が肥高する。No.110 ・111 の内面は入念にナデて仕上げる。No.114 ・



第123図　岩本遺跡・円筒形土器 8

122 ・124 ・128 ・129 等の内面の稜線は明瞭に仕上げられる。No.130 の口唇部は，貝殻腹縁部で深く刻まれ稜線部まで達する。また，口縁部施文帯は意図的に肥高させ，腹縁刺突を深く施す。No.131 の施文帯も同様に肥高する。No.132 では連続して斜めの腹縁刺突を行い，施文帯が凹を成す。No.134 では連続刺突により刺突間が隆起し，全体として施文帯が肥高して残される。No.134 ・135 ・136 の内面稜線は明瞭で，136 の稜線は突出して残る。No.139 ・140 の施文帯も意図的に肥高したと思われる。No.152 の施文帯も肥高し，腹縁刺突を斜めに深く行う。No.155 の口唇部はヘラ状工具で密に刻み，口縁部の貝殻腹縁刺突も連続して密に施す。No.157 では，貝殻腹縁刺突を斜めに広く施した後，その下位に貝殻刺突線文を 1 列巡らす。No.158 も同様である。No.161 の口唇部の刻みと貝殻腹縁刺突はくの字の関係を成す。No.162 の口径は15·0cm，内面の稜線は明瞭で，口唇部は腹縁部で深く刻み，口縁部の刺突は左上から右下に斜めに行う。器面調整は，木口状工具で横方向に丁寧に行い，両面に赤色顔料が明らかに塗彩されている。No.164 では，上位に貝殻刺突線文が下位に縦位の腹縁刺突が施される。No.170 ・171 はやや内弯する形状を示す。同一固体の可能性もある。No.169 ・173 も同一固体の可能性があり，器面調整は内外面とも入念に行われている。

口唇部は腹縁部で斜めに深く刻み鋸歯状に鋭く，口縁部の貝殻刺突は密に施している。なお，施文



第124図　岩本遺跡・円筒形土器 9

表53　岩本遺跡遺物観察表（土器）1

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
	1	深鉢形土器 隆帯文	口縁部 波状	D-5	C' 1017	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・角閃石・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；ナデ 内；工具ナデ	口唇部に貝殻腹縁部の角度を変えながら押し引き波状。口縁部上位に横位２列の隆帯、隆帯には腹縁で刻む。
	2	深鉢形土器 隆帯文	口縁部 波状	D-5	C' 2542	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・角閃石・黒色粒	外；横位の貝殻条痕 内；工具ナデ	基本的に１と同一。隆帯上位は腹縁部を深く押圧。 焼成；極めて堅緻
	3	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5	C' 1430	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・角閃石・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；横位の条痕 内；横位の条痕	口唇部上位棒状工具により浅い刻み。口縁部外面には貝殻腹縁を斜めに刺突。その後、縦位に短い突帯を貼付け、下位は刻む。
	4	深鉢形土器 隆帯文	胴部	E-4	C' 589	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；丁寧なナデ 内；丁寧なナデ	天地不明。Ｕ字状の隆帯文貼付け。
	5	深鉢形土器 岩本Ⅰ類+隆帯文	口縁部 波状	A-7 A-5	C 307 C 1503 C 2227	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・雲母・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；横位のナデ 内；横位の貝殻刺突線	口唇部に木口状工具により刻まれ、小さい波状口縁形成。口縁部直下に横位２列の貝殻刺突線文。胴部上位に横位の突帯、突帯上位に横位の貝殻刺突線文。 復元口径17・3cm。
	6	深鉢形土器 岩本Ⅰ類無文	口縁部 波状	F-4	C' 631	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；丁寧なナデ 内；工具ナデ	内面の段は明瞭。口唇部は外面から刻む。工具不明。内面黒色。
	7	深鉢形土器 岩本Ⅰ類無文	口縁部 波状	D-3	C' 1800	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；工具ナデ 内；ナデ	内面の段は明瞭。口唇部は外面から棒状工具で不規則に刻む。復元口径12・5cm。
	8	深鉢形土器 岩本Ⅰ類無文	口縁部 波状	E-3	C' 1292	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；ナデ 内；ナデ	内面の段は明瞭。口唇部は外面から棒状工具で不規則に刻む。復元口径9・9cm。
	9	深鉢形土器 岩本Ⅲ類無文	口縁部	E-5	C' 1093	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；工具ナデ 内；工具ナデ	口唇部は舌状に尖る。器面ザラザラ。 復元口径10・5cm。
	10	深鉢形土器 岩本Ⅱ類無文	口縁部 波状	E-4	C' 823	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；工具ナデ 内；条痕?	内面の段は明瞭。尖る口唇部は外面から浅く刻む。
	11	深鉢形土器 岩本Ⅲ類　無文	口縁部	D-4	C' 1328	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	口唇部は舌状に尖る。器面ザラザラ。 復元口径11・4cm。
116	12	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-4	C' 2341	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は外面から棒状工具で浅く刻む口縁下に貝殻刺突線文。口径13・1cm。焼成；極めて堅緻
	13	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-3	C' 90	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は外面から棒状工具で深く刻む口縁下に貝殻刺突線文。赤色顔料？。焼成；極めて堅緻
	14	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	B-3	C 172	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；ナデ	内面の段不明瞭。口唇部は外面から工具で深く刻む口縁下に貝殻刺突線文。
	15	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-8	C 113	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は外面からヘラ状工具で深く刻む。上位に縦位の腹縁刺突、下位に貝殻刺突線文。
	16	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	A-6	C 1307	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口縁部やや肥厚。口唇部は外面からヘラ状工具で垂直に深く刻む。口縁下に貝殻刺突線文。
	17	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-4 D-5	C' 710 C' 1038	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は外面から棒状工具で深く刻む口縁部に微細な貝殻刺突線文。口径13・2cm。
	18	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C' 3585	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；ナデ 内；ナデ	内面の段明瞭。口唇部は外面から棒状工具で深く刻む口縁直下に貝殻刺突線文。
	19	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；貝殻条痕	口縁部やや肥厚。口唇部は外面から木口状工具で深く刻む。口縁直下に貝殻刺突線文。
	20	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-4	C' 1382	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口条工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は外面から木口状工具で深く刻む。口縁直下に貝殻刺突線文を深く刻む。
	21	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6	C 816	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口条工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は腹縁で深く刻む。口縁部に貝殻腹縁で斜めに押し引き、その下位に横位の貝殻刺突線文。胴部に爪形文。口径18・5cm。
	22	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-3	C' 1763	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；条痕・ナデ 内；貝殻条痕	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で左から右に連続して深く刻む。口縁直下に貝殻刺突線文。
	23	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6	C 991	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。貝殻刺突線文上位に腹縁刻み。口唇部は木口状具で左から右に連続して深く刻む。
	24	深鉢形土器 岩本Ⅲ類	口縁部 波状	D-6	C' 234	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；ナデ 内；ナデ	内面の段不明瞭。口唇部は木口状工具で刻む。口縁直下に貝殻刺突線文。
	25	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-4	C' 1333	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；貝殻条痕 内；工具の横ナデ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で左から右に連続して深く刻む。口縁直下に貝殻刺突線文。

表54　岩本遺跡遺物観察表（土器）2

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整 内	備考
	26	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	B-7	C 690	細砂粒を多く含む、長石・石英・角閃石・黒色粒 焼成；堅緻	外；条痕後木口状工具ﾅﾃﾞ 内；木口状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は外面から棒状工具で浅くやや斜めに刻む。口縁部に斜位の連続貝殻刺突文。
	27	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C′1085	細砂粒を多く含む、長石・石英・角閃石・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ﾅﾃﾞ 内；木口状工具ﾅﾃﾞ	口唇部は棒状工具で浅く刻む。口縁部に斜位二筋の連続貝殻刺突文、その後、横位の１列の貝殻刺突線文復元口径14・2cm。
	28	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-4	C′1692	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；堅緻	外；条痕後ﾅﾃﾞ 内；条痕後ﾅﾃﾞ	口唇部は棒状工具で浅く刻む。口縁部に連続刺突文、刺突は左から右へ。復元口径13・7cm。
	29	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5	C′1855	細砂粒を多く含む、長石・石英・角閃石・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；条痕後ﾅﾃﾞ 内；木口状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で刻む。口縁部に斜位の貝殻刺突文。横位１列の貝殻刺突線文。
	30	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6		細砂粒を多く含む、長石・石英・・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ﾅﾃﾞ 内；丁寧なﾅﾃﾞ	内面の段、波状口縁明瞭。口縁部直下に斜位の貝殻腹縁で連続刺突文。復元口径12・8cm。
	31	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-3	C′2361	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ﾅﾃﾞ 内；丁寧なﾅﾃﾞ	浅い波状口縁。口縁部に斜位の貝殻腹縁で連続刺突文、その下位に一条の沈線文。
	32	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-7	C 259	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；丁寧な工具ﾅﾃﾞ 内；丁寧なﾅﾃﾞ	口唇部は棒状工具で刻む。口縁部に横位１列の貝殻刺突線文。施文帯若干肥厚。
	33	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-4	C′2778	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ	内面の段は明瞭。外面上位に貝殻腹縁刺突文、下位に横位１列の貝殻刺突線文。復元口径13・8cm。
	34	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-5	C 1377	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ	口唇部は棒状工具で斜めに刻む。横位１列の貝殻刺突線文は上から下へ、口縁部若干肥厚。
	35	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部	E-5	C′2652	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ﾅﾃﾞ 内；丁寧なﾅﾃﾞ	口唇部は棒状工具で刻む。腹縁の斜位の刺突文。
	36	深鉢形土器 岩本Ⅲ類	口縁部 波状	F-4	C′2231	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；堅緻	外；木口状工具ﾅﾃﾞ 内；木口状工具ﾅﾃﾞ	尖る口唇部は深く刻む。口縁部肥厚。横位１列の貝殻刺突線文。刺突は上から。復元口径19・2cm。
	37	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部	A-5	C 116	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ﾅﾃﾞ 内；木口状工具ﾅﾃﾞ	内面の段、波状口縁明瞭。横位２列の貝殻刺突線文。刺突線文間に刺突連点。赤色顔料使用か。
	38	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5	C′1008	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ﾅﾃﾞ 内；木口状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は外面から棒状具で斜めに刻む。横位２列の貝殻刺突線文。
117	39	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6	C 58	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；丁寧なﾅﾃﾞ 内；丁寧なﾅﾃﾞ	内面の段、波状口縁明瞭。口縁部肥厚。横位２列の貝殻刺突線文。復元口径12・8cm。
	40	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	B-7	C 1083	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ﾅﾃﾞ 内；貝殻条痕	口唇部は外面から棒状工具で深く刻む。横位２列の貝殻刺突線文。
	41	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-7	C 1327	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ﾅﾃﾞ 内；丁寧なﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は上位からヘラ状工具で深く刻む。口縁部若干肥厚。横位２列の貝殻刺突線文。
	42	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	B-7	C 630	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；堅緻	外；ﾅﾃﾞ 内；木口状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は外面から棒状工具で斜めに刻む。横位２列の貝殻刺突線文。
	43	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6	C 1251	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ﾅﾃﾞ 内；木口状工具ﾅﾃﾞ	内面の段、波状口縁明瞭。口縁部に微細な横位２列の貝殻刺突線文。
	44	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-4	C′1968	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；丁寧なﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は外面から斜めに刻む。口縁部に横位２列の貝殻刺突線文。復元口径13・6cm。
	45	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C′3264	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；丁寧なﾅﾃﾞ 内；丁寧なﾅﾃﾞ	口縁部やや肥厚。口唇部は上位からヘラ状工具で深く刻む。口縁部に横位の貝殻刺突線文。
	46	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	B-7	C 502	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；ﾅﾃﾞ 内；木口条工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で浅く刻む。施文は直下に刺突点、下位に横位１列の貝殻刺突線文。
	47	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6	C 52	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	口唇部は木口状工具で深く刻む。口縁部に横位２列の太めの貝殻刺突線文。
	48	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	D-4	C′2278	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ﾅﾃﾞ 内；木口状工具ﾅﾃﾞ	口縁部やや肥厚。口唇部は浅く刻む。上位は腹縁刺突文、下位に横位１列の貝殻刺突線文。
	49	深鉢形土器 岩本Ⅲ類	口縁部 波状	E-5	C′3570	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；堅緻	外；木口状工具ﾅﾃﾞ 内；木口状工具ﾅﾃﾞ	貝殻腹縁による刺突文。口唇部はヘラ状工具で深く刻む。
	50	深鉢形土器 岩本Ⅲ類	口縁部 波状			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；堅緻	外；条痕後ﾅﾃﾞ 内；条痕後ﾅﾃﾞ	浅い波状口縁。直下に横位２列の貝殻刺突線文。
	51	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	F-5	C′2610	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；堅緻	外；木口状工具ﾅﾃﾞ 内；木口状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で深く刻む。口縁部に横位２列の貝殻刺突線文。
	52	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	F-4	C′195	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；堅緻	外；貝殻条痕 内；木口状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で深く刻む。口縁部に横位２列の貝殻刺突線文。復元口径17・8cm。

表55　岩本遺跡遺物観察表（土器）3

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
117	53	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-7	C 1348	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；条痕後木口状工具ナデ 内；貝殻条痕	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で浅く刻む。口縁部に横位２列の貝殻刺突線文。
	54	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-7	C 1109	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部はヘラ状工具で深く刻む。口縁部に横位の貝殻刺突線文を、斜位に押圧。
118	55	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C' 1587	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部はヘラ状工具で深く刻む。口縁部肥厚。腹縁部を縦位に連続刺突。
	56	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6 A-6	C 161 C 1225	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部はヘラ状工具で斜めに刻む。横位の貝殻刺突線文は腹縁部の斜位の深い押圧で施文。口径14・7cm。
	57	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-6	C' 1472	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段、波状口縁明瞭。横位の貝殻刺突線文は腹縁部の縦位の深い押圧で施文。口径16・5cm。
	58	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-4	C' 311	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；丁寧なナデ 内；丁寧なナデ	波状口縁は腹縁で刻む。口縁部に貝殻刺突文、施文は貝殻腹縁を斜位に復元口径15・0cm。
	59	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部	A-11 E-5	C 161 C 302	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口縁部に貝殻刺突文、施文は貝殻腹縁を斜位に赤色顔料使用か。復元口径15・2cm。
	60	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-7	C 686	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は深く刻む。貝殻刺突文、施文は貝殻腹縁を斜位に煤付着。
	61	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状			細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；ナデ	口唇部は浅く刻む。貝殻刺突文、施文は貝殻腹縁を斜位に、その下位に横位１列の貝殻刺突線文。
	62	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部	E-4	C' 1108	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部は棒状工具で刻む。直下の貝殻刺突文は腹縁を斜位に復元口径13・2cm。口縁部肥厚。
	63	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6	C 1344	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；貝殻条痕	口唇部は浅く刻む。口縁部に貝殻刺突線文？。復元口径18・0cm。
	64	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部	E-5	C' 296	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	内面の段明瞭。口唇部の刻みは木口状工具で上位に斜位の腹縁刺突、下位に１列の貝殻刺突線文。
	65	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	B-7	C 503	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部はヘラ状工具で深く刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜めに深く刺突。復元口径12・4cm。
	66	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-5	C 1535	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；丁寧なナデ 内；丁寧なナデ	内面の段明瞭。浅い波状口縁。貝殻腹縁を縦位に刺突。復元口径14・6cm。
	67	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-4	C' 45	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。浅い波状口縁。貝殻腹縁を縦位に連続刺突。
	68	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-4	C' 1650	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部はヘラ状工具で浅く刻む。貝殻腹縁を縦位に刺突。
	69	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-7	C 1096	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は外面から木口状工具で刻む。口縁部に貝殻腹縁を縦位に刺突。復元口径13・0cm。
	70	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	F-5	C' 2612	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部はヘラ状工具で浅く刻む。貝殻腹縁を縦位に刺突。復元口径13・2cm。
	71	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-3	C' 1275	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；丁寧なナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は外面から刻む。口縁部肥厚。貝殻腹縁を縦位に刺突。内面に赤色顔料使用。
	72	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	E-5	C' 3650	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；丁寧なナデ 内；木口状工具ナデ	浅い波状口縁。口縁部に貝殻腹縁を縦位に刺突。
	73	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-6	C' 218	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口条工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で浅く刻む。横位２列の貝殻刺突線文？。
	74	深鉢形土器 岩本Ⅲ類	口縁部 波状	A-7	C 1135	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口条工具ナデ	口唇部は木口状工具で浅く刻む。口縁部に貝殻腹縁を縦位に刺突。復元口径12・5cm。
	75	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6	C 75	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部はヘラ状工具で浅く刻む。口縁部肥厚。貝殻腹縁を縦位に刺突。
	76	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	E-5	C' 290	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	口唇部はヘラ状工具で浅く刻む。口縁部に貝殻腹縁を縦位に刺突。
	77	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C' 3562	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；条痕後ナデ 内；条痕後ナデ	口唇部は木口状工具で深く刻む。口縁部肥厚。横位２列に連続刺突？。
119	78	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5	C' 1482	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で深く刻む。口縁部肥厚。貝殻腹縁を縦位に刺突。
	79	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-5		細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で深く刻む。口縁部に貝殻腹縁を縦位に刺突。内面赤色顔料使用？。
	80	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-7	C 258	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で深く刻む。口縁部に貝殻腹縁を縦位に刺突。胴部は縦位の整形。

表56　岩本遺跡遺物観察表（土器）4

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
	81	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5	C′ 995	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で浅く刻む。口縁部に貝殻腹縁を縦位に刺突。
	82	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-4	C′ 2849	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；木口状工具ナデ	口唇部は腹縁部で刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に連続刺突。
	83	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-5	C 245	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；丁寧なナデ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で深く刻む。口縁部肥厚。貝殻腹縁を斜位に連続刺突。
	84	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C 3262	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；条痕後ナデ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で刻む。貝殻腹縁を斜位に刺突。
	85	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-4	C′ 1882	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段、波状口縁はヘラで、刻む。口縁部肥厚。貝殻腹縁を縦位に刺突。
	86	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-5	C 1103	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；貝殻条痕	内面の段明瞭。波状口縁は貝殻腹縁で刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に刺突。
	87	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部	E-5	C′ 3546	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	浅い波状口縁。口縁部に貝殻腹縁を縦位に刺突内外面とも黒色。
	88	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状			細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。浅い波状口縁。口縁部に貝殻腹縁を斜位に連続刺突。
	89	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状			細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；ナデ 内；条痕後ナデ	口唇部は浅く刻む。貝殻腹縁を縦位に連続して刺突、貝殻刺突線文風に。
	90	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-4	C′ 1990	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段、波状口縁部明瞭。口縁部は貝殻腹縁を連続刺突。器壁薄い。
	91	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	F-4	C′ 610	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；条痕後ナデ 内；丁寧なナデ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で深く右から刻む。口縁部に貝殻腹縁の連続刺突。
119	92	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6	C 948	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部の刻みは貝殻腹縁？。口縁部に縦位の貝殻腹縁連続刺突。復元口径13·4cm。
	93	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5	C′ 1880	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；貝殻条痕	口唇部はヘラ状工具で深く刻む。口縁部に貝殻腹縁で斜め連続刺突。
	94	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	F-4	C′ 204	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；丁寧なナデ 内；丁寧なナデ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で深く刻む。口縁部に貝殻腹縁を縦位に刺突。
	95	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-7	C 97	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部はヘラ状工具で深く刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に刺突。
	96	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-4	C′ 1687	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；丁寧なナデ	口唇部はヘラ状工具で浅く刻む。貝殻腹縁を斜位に刺突。
	97	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は外面から棒状工具で刻む。口縁部に貝殻腹縁を縦位に刺突。復元口径14·2cm。
	98	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6	C 1339	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で浅く刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に連続刺突。
	99	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-7 A-7 A-7 A-6	C 1553 C 1376 C 509 C 1332	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は外面から木口状工具で浅く刻む。口縁部に貝殻腹縁を縦位に連続して刺突。復元口径18·6cm。
	100	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；貝殻条痕 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に連続刺突。復元口径16·5cm。
	101	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-7	C 1443	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；木口条工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で浅く刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に刺突。復元口径14·0cm。
	102	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-3	C′ 575	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で深く刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に連続刺突。復元口径17·2cm。
	103	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-4	C′ 1159	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は棒状工具で浅く刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に連続刺突。復元口径14·5cm。
	104	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；ナデ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で深く刻む。口縁部肥厚。貝殻腹縁を斜位に連続刺突。
120	105	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-4	C′ 2751	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；貝殻条痕 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で深く刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に連続刺突。
	106	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6	C 1242	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で深く刻む。口縁部に貝殻腹縁を縦位に刺突。
	107	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	F-4	C′ 2711	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で刻む。口縁部肥厚。貝殻腹縁を斜位に刺突。

表57　岩本遺跡遺物観察表（土器）5

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
	108	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6	C 1233	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は貝殻腹縁で浅く刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に刺突。器壁薄い。
	109	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-7	C 675	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	口唇部は貝殻腹縁部で刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に連続刺突。内外面共に黒色。
	110	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5 D-5	C′ 1475 C′ 2951	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で深く刻む。口縁部肥厚。貝殻腹縁を斜位に連続刺突。
	111	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5	C′ 993	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で外面から押圧。貝殻腹縁を斜位に刺突。
	112	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6	C 1319	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	口唇部は木口状工具で外から押圧。貝殻腹縁を縦位に連続刺突。器面ザラザラ。器壁薄い。
	113	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	E-5	C′ 3795	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	波状口縁は腹縁で刻む。口縁部直下に貝殻腹縁を刺突。復元口径14·9cm。
	114	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部	D-5	C′ 2957	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；貝殻条痕	内面の段明瞭。口縁部は上位から押圧。貝殻腹縁を斜位に刺突。器面ザラザラ。
	115	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-6	C′ 913	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；条痕後ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。外から押圧の浅い波状口縁。貝殻腹縁を斜位に連続刺突。
	116	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C′ 3729	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	口唇部は浅く刻む。貝殻腹縁を縦位に連続して刺突、貝殻刺突線文風に。器面ザラザラ。
	117	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C′ 3273	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒・雲母　焼成；極めて堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	内面の段、波状口縁部明瞭。口縁部は貝殻腹縁を右から左へ連続刺突。復元口径14·9cm。外面黒色
	118	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；不明 内；不明	浅い波状口縁。口縁部に貝殻腹縁の連続刺突。器面風化。復元口径15·7cm。
120	119	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	E-5	C′ 2657	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	浅い波状口縁。口縁部に斜位の貝殻腹縁による連続刺突。外面上位は黒色。
	120	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	E-5	C′ 277	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	口唇部は貝殻腹縁で浅く刻む。口縁部に貝殻腹縁で斜め刺突。復元口径14·4cm。
	121	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C′ 1530	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	口唇部は木口状工具で深く刻む。口縁部に貝殻腹縁を右から左へ斜位に刺突。復元口径15·2cm。
	122	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-4	C′ 173	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で深く刻む。口縁部に貝殻腹縁を縦位に刺突。
	123	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	F-4	C′ 1197	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；丁寧なﾅﾃﾞ	口唇部はヘラ状工具で浅く刻む。貝殻腹縁を斜位に刺突。
	124	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C′ 2635	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は外面から棒状工具で刻む。口縁部に貝殻腹縁を縦位に刺突。
	125	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-6	C′ 926	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で浅く刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に刺突。
	126	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は外面から棒状工具で押圧。口縁部に貝殻腹縁を縦位に連続して刺突。
	127	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C′ 275	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で刻む。口縁部肥厚。口縁部に貝殻腹縁を斜位に連続刺突。
	128	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で押圧。口縁部に貝殻腹縁を斜位に刺突。内面上位湾曲。
	129	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-4	C′ 900	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で押圧。口縁部に貝殻腹縁を斜位に刺突。復元口径17·4cm。128と同一
	130	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	B-9	C 129	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	口唇部は腹縁で押圧。口縁部肥厚。肥厚部に貝殻腹縁を縦位に刺突。
	131	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-8	C 1374	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で深く刻む。口縁部肥厚。口縁部に貝殻腹縁を斜位に連続刺突。
121	132	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	D-5	C′ 1465	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に深く連続刺突。
	133	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-7	C 89	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	口唇部は貝殻腹縁で押圧。口縁部肥厚。肥厚部に貝殻腹縁を縦位に刺突。復元口径12·7cm。
	134	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C′ 2671	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ 内；ﾅﾃﾞ状工具ﾅﾃﾞ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で押圧。口縁部は貝殻腹縁を深く刺突。器壁薄い。
	135	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	B-7	C 687	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で押圧。口縁部は貝殻腹縁を深く刺突。器壁薄い。

表58　岩本遺跡遺物観察表（土器）6

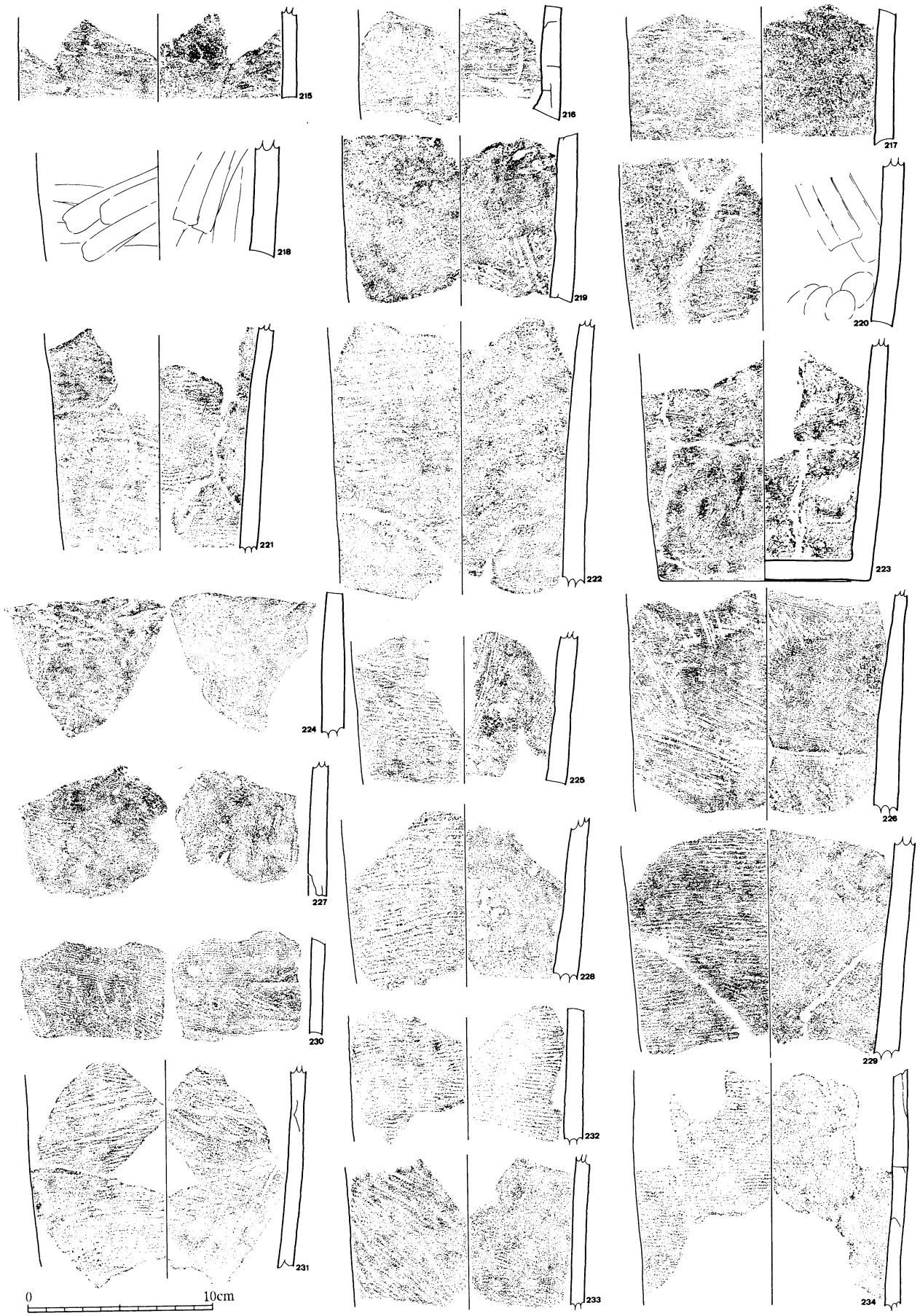
挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
	136	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	B-7 B-7	C 106 C 171	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は腹縁で押圧。口縁部に貝殻腹縁を縦位に刺突。器壁薄い。内面湾曲。
	137	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-3	C' 2162	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	口唇部はヘラ状工具で浅く刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に刺突。
	138	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	口唇部は木口状工具で浅く刻む。口縁部は貝殻腹縁を縦位に刺突。器面ザラザラ。
	139	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-4	C' 1914	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で外面から押圧。貝殻腹縁を斜位に刺突。復元口径14・0cm。
	140	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-6	C' 912	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	口唇部は木口状工具で外から押圧。貝殻腹縁を縦位に連続刺突。器壁薄い。復元口径15・0cm。
	141	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	D-5	C' 3464	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部は木口状工具で外から押圧。貝殻腹縁を縦位に連続刺突。器壁薄い。復元口径14・1cm。
121	142	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部	E-5	C' 275	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	浅い波状口縁。貝殻腹縁を縦位に刺突。器面ザラザラ。
	143	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-5	C 12	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	内面の段明瞭。口唇部は上から押圧。貝殻腹縁を斜位に連続刺突。器壁薄い。
	144	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-6	C' 233	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	口唇部は木口状工具で刻む。貝殻腹縁を縦位に連続して刺突、貝殻刺突線文風に。復元口径16・2cm。
	145	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-4	C' 1134	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具を斜めに押圧。口縁部は貝殻腹縁を連続刺突し沈線を巡らす。
	146	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-6	C' 3477	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具を斜めに押圧。口縁部は貝殻腹縁を連続刺突し沈線を巡らす。
	147	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5	C' 377	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	口唇部は腹縁の押圧。口縁部に斜位の貝殻腹縁による連続刺突。器壁薄い。
	148	深鉢形土器 永野タイプ	口縁部 波状	E-4 E-4	C' 880 C' 1125	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	口唇部は平坦。口縁部は貝殻腹縁で縦に刺突。復元口径15・3cm。内面の整形は荒い。
	149	深鉢形土器 岩本Ⅲ類	口縁部 波状	F-5	C' 2604	砂粒・細砂粒多く含む、長石・石英・黒色粒・雲母　焼成;堅緻	外;丁寧なナデ 内;不明	口唇部は木口状工具で深く刻む。口縁部に貝殻腹縁を右から左へ斜位に刺突。内外共に黒色。
	150	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C' 285	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具を押圧。口縁部に貝殻腹縁を縦位に刺突。内面湾曲。
	151	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-4	C' 815	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;丁寧なナデ	口唇部は木口状工具で浅く刻む。貝殻腹縁を斜位に刺突。内面の段明瞭。
	152	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-4	C' 877	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は外面から貝殻腹縁で押圧。口縁部に貝殻腹縁を斜位に整然と刺突。器壁薄い。
	153	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-3	C' 2825	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	口唇部は貝殻腹縁で浅く刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に刺突。器壁薄い。
	154	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は外面から棒状工具で押圧。口縁部に貝殻腹縁を縦位に連続して刺突。
	155	深鉢形土器 岩本Ⅲ類	口縁部 波状	D-5	C' 1860	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	口唇部はヘラ状工具で刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に連続刺突。復元口径12・8cm。
122	156	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5	C' 378	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部はヘラ状工具で刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に刺突。内面上位湾曲。
	157	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-4 D-5	C' 1888 C' 359	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;貝殻条痕 内;木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は貝殻腹縁を押圧。貝殻腹縁を斜位に刺突、1列の貝殻刺突線文。復元口径13・5cm。
	158	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-6	C' 2601	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;堅緻	外;貝殻条痕 内;木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は貝殻腹縁を押圧。貝殻腹縁を斜位に刺突。復元口径13・7cm。
	159	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-5	C 405	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	口唇部はヘラ状工具で刻む。貝殻腹縁を斜位に刺突、1列の貝殻刺突線文。復元口径13・1cm。
	160	深鉢形土器 岩本Ⅲ類	口縁部 波状	E-5	C' 3377	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;堅緻	外;貝殻条痕 内;丁寧なナデ	口唇部は浅く刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に深く連続刺突。
	161	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5	C' 2579	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;貝殻条痕 内;木口状工具ナデ	口唇部はヘラ状工具で斜めに押圧。下位に貝殻腹縁を斜位に刺突。復元口径13・8cm。
	162	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状			細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は貝殻腹縁上位から押圧。腹縁を斜位に刺突。赤色顔料塗彩？。復元口径15・0cm。
	163	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-7		砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で押圧。口縁部は貝殻腹縁を斜位に刺突。器壁薄い。

表59　岩本遺跡遺物観察表（土器）7

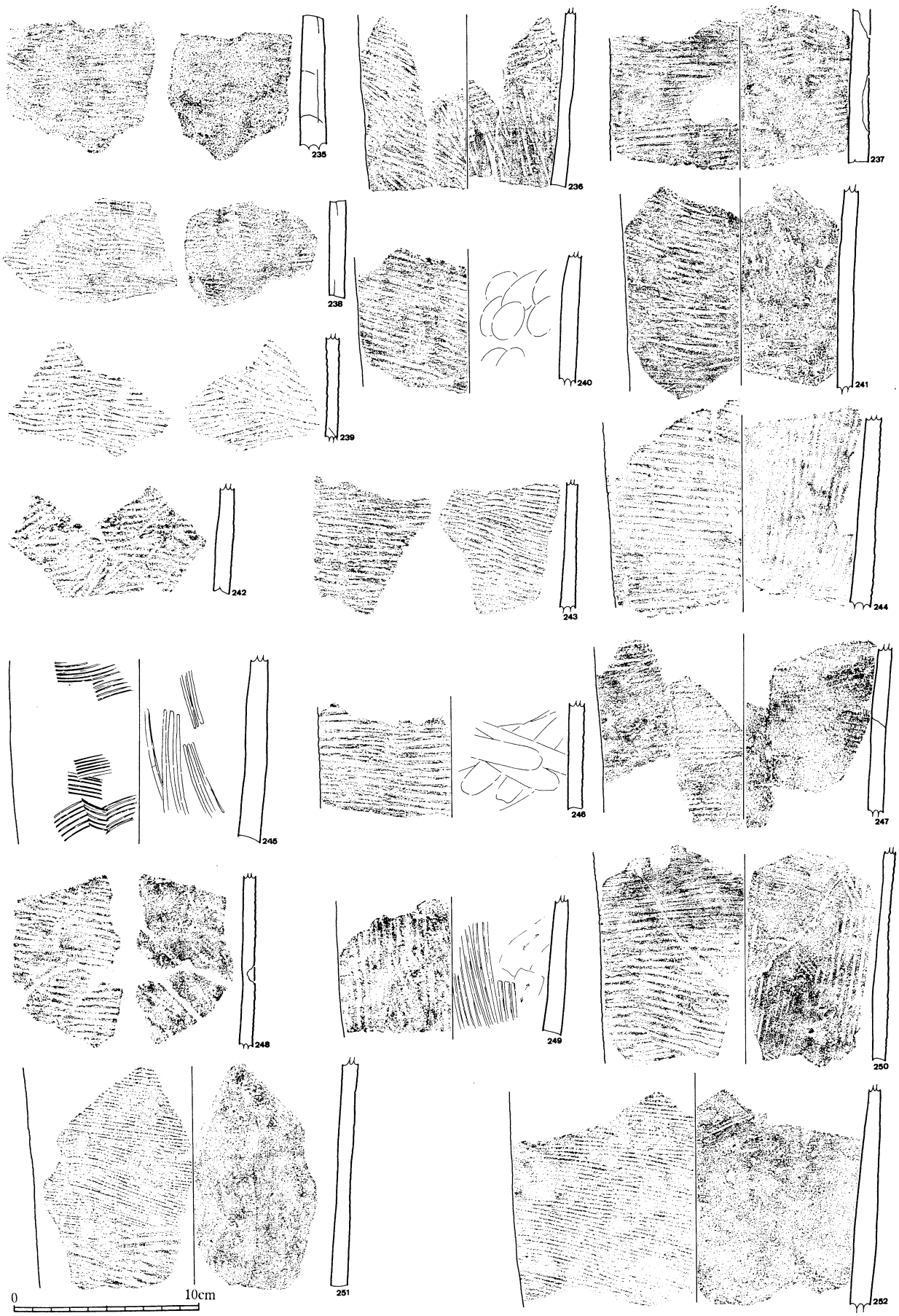
挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
122	164	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5 E-5	C' 1524 C' 3310	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；丁寧なナデ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で押圧。直下に貝殻刺突線文、貝殻腹縁を縦位に刺突。復元口径15・8cm。
	165	深鉢形土器 岩本Ⅲ類	口縁部 波状	A-6	C 946	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部はヘラ状工具で浅く刻む。口縁部に貝殻腹縁を右下がりの斜位に刺突。復元口径12・0cm。
	166	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-5	C 280	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は木口状工具を押圧剥離。口縁部は貝殻腹縁を縦位に刺突。器面ザラザラ。
	167	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	A-6	C 77	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で外面から押圧。貝殻腹縁を斜位に刺突。
	168	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は貝殻腹縁で刻む。貝殻腹縁を縦位に連続刺突。器壁薄い。
123	169	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	D-5	C' 1030	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は木口状工具で刻む。貝殻腹縁を縦位に連続刺突。器壁薄い。
	170	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部	A-5	C 279	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	ヘラ刻みによる浅い波状口縁。貝殻腹縁を縦位に刺突。口縁部湾曲。復元口径15・4cm。
	171	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	A-5	C 420	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	ヘラ刻みによる浅い波状口縁。貝殻腹縁を縦位に刺突。口縁部湾曲。復元口径14・3cm。
	172	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-5	C 696	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	口唇部は木口状工具で刻む。貝殻腹縁を斜位に連続して刺突。口縁部湾曲。
	173	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5 E-6	C' 2589 C' 228	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で刻む。口縁部は貝殻腹縁を整然と刺突。復元口径13・2cm。調整最高。
	174	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-4	C' 2794	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は棒状工具を軽く押圧。口縁部は貝殻腹縁を連続刺突し沈線を巡らす。器壁薄い。
	175	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は木口状工具で刻む。口縁部に斜位の貝殻腹縁による連続刺突。器壁薄い。
	176	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-6	C' 3767	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口縁部は貝殻腹縁で刻む。
	177	深鉢形土器 岩本Ⅲ類	口縁部 波状	A-7	C 101	細砂粒多く含む、長石・石英・黒色粒・雲母　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は木口状工具で上位から刻む。口縁部に貝殻腹縁を右から左へ斜位に刺突。内外に赤色顔料塗彩。
	178	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	A-5	C 1207	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	ヘラ刻みによる波状口縁。貝殻腹縁を右下がりに刺突。口縁部湾曲。復元口径10・8cm。
	179	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5	C' 1011	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；貝殻条痕	口唇部は木口状工具で深く刻む。貝殻腹縁を斜位に刺突。内面の段明瞭。復元口径12・0cm。
	180	深鉢形土器 岩本Ⅲ類	口縁部 波状	A-7	C 519	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は棒状工具を押圧。口縁部に貝殻腹縁を深く刺突。器壁薄い。復元口径14・8cm。
	181	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-4 D-4	C' 52 2301	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；貝殻条痕	口唇部は貝殻腹縁で浅く刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に刺突。器壁薄い。復元口径12・4cm。
	182	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-4	C' 310	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；条痕後ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は外面から棒状工具で押圧。口縁部に貝殻腹縁を縦位に連続して刺突。
	183	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-3	C 1327	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部はヘラ状工具で刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に連続刺突。
	184	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5	C' 2953	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部はヘラ状工具で刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に刺突。復元口径14・8cm。
	185	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C' 2676	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；不明 内；木口状工具ナデ	口唇部はヘラ状工具で深く刻む。貝殻腹縁を斜位に刺突。
	186	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-4	C' 704	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具を押圧。貝殻腹縁を斜位に刺突。
124	187	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-4	C' 1189	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は軽く刻む。口縁部は貝殻腹縁を斜位に刺突。
	188	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状			細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は貝殻腹縁で浅く刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に深く連続刺突。粘土のはみ出し。
	189	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-7	C 1097	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；丁寧なナデ	内面の段明瞭。口唇部はヘラ状工具で刻む。口縁部は櫛状工具を縦位に刺突。復元口径16・4cm。
	190	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	D-5	C' 376	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は貝殻腹縁上位から押圧。口縁部は貝殻腹縁を斜位に刺突。
	191	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C' 950	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は木口状工具で押圧。口縁部は貝殻腹縁を斜位に刺突。器壁薄い。

表60　岩本遺跡遺物観察表（土器）8

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
	192	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6	C 82	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具で押圧。口縁部は櫛状工具を深く刺突。
	193	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-5	C 267	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部はヘラ状工具で浅く刻む。口縁部に刺突。刺突具は櫛状工具？。
	194	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-E	C' 1110	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は棒状工具で浅く押圧。口縁部に刺突。刺突具は櫛状工具？。
	195	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は腹縁で押圧。口縁部に刺突。刺突具は櫛状工具？。
	196	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5	C' 1450	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は腹縁で押圧。口縁部は貝殻腹縁を縦位に深く刺突し下位に１列の貝殻刺突線文。内面突出。
	197	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6	C 817	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は棒状工具を押圧。口縁部に刺突、櫛状工具？。下位に１列の貝殻刺突線文。器壁薄い。
	198	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部	F-4	C' 628	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は棒状工具を押圧。口縁部に刺突、櫛状工具?。下位は粘土はみ出し。器壁薄い。
	199	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-3	C' 1266	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	棒状工具の押圧による浅い波状口縁。貝殻腹縁を斜位に刺突。口縁部若干湾曲。
	200	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5 E-5	C' 1426 C' 1598	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は腹縁で横に刻む。貝殻腹縁を縦位に連続して刺突。復元口径16・4cm。
	201	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状			細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；貝殻条痕	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で刻む。口縁部は刺突、櫛状工具？。
	202	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	D-5 D-5	C' 1448 C' 3658	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は腹縁を押圧。口縁部肥厚、肥厚部に貝殻腹縁を連続して刺突。復元口径18・1cm。
124	203	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-4	C' 1124	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は腹縁で深く押圧。口縁部肥厚。肥厚部に貝殻腹縁を深く刺突。
	204	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-6	C' 1502	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は腹縁を押圧。口縁部に貝殻腹縁を深く刺突し下位に沈線文巡らす。
	205	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-3	C' 122	砂粒，細砂粒多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は腹縁で右から刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に刺突。復元口径12・5cm。
	206	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5	C' 1042	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は腹縁で右から刻む？。口縁部に貝殻腹縁を斜位に刺突し下位に貝殻刺突線文。復元口径14・5cm。
	207	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-7	C 840	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は木口状工具で深く刻む。櫛状工具を斜位に刺突。内面の段明瞭。復元口径14・0cm。
	208	深鉢形土器 岩本Ⅲ類?	口縁部 波状			細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；貝殻条痕	口唇部はヘラ状工具で軽く刻む。口縁部に櫛状工具を横位に刺突。器壁厚い。外面煤付着。
	209	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状			細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は棒状工具を深く押圧。口縁部は櫛状工具を横に刺突し下位に１列の貝殻刺突線文。器壁薄い。
	210	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	F-5	C' 2613	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；条痕後ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部はヘラ状工具で右から刻む。口縁部に櫛状工具を縦位に連続して刺突。
	211	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	B-7	C 1090	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は木口状工具で刻む。口縁部に貝殻腹縁を斜位に刺突。口唇部内面は粘土のはみ出し。
	212	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-5	C' 1488	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は腹縁を深く押圧。口縁部に櫛状工具を横位に刺突。
	213	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C' 2686	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	口唇部は棒状工具を押圧。櫛状工具を縦位に刺突し下位に１列の貝殻刺突線文。器壁薄い。
	214	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	D-4 E-5	C' 2890 C' 286	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒 焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	内面の段明瞭。口唇部は棒状工具を押圧。櫛状工具を縦位に刺突。復元口径16・8cm。



第125図　岩本遺跡・円筒形土器10



第126図　岩本遺跡・円筒形土器11

表61　岩本遺跡遺物観察表（土器）9

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	調整	備考
125	215	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	D-5	C 377	外;木口状工具ナデ 内;条痕後ナデ	接合面で分離
	216	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	D-4	C 2491	外;木口状工具ナデ 内;貝殻条痕	胴部最下部接合部
	217	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形			外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	接合面で分離
	218	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	E-5	C 1069	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	内面に煤状物付着
	219	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	A-6	C 944	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	胴部最下部
	220	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	D-3	C 1809	外;貝殻条痕 内;木口状工具ナデ	外レンガ色内黒色
	221	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	E-5 D-4	C 1527 C 1362	外;貝殻条痕 内;木口状工具ナデ	外レンガ色内黒色
	222	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形			外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	外レンガ色内黒色
	223	深鉢形土器 岩本	胴部・底部・ 円筒形	E-4	C 1137	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	接合部は腹縁押さえ
	224	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	B-7	C 501	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	内面の整形は丁寧
	225	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	F-5	C 3039	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	内面は縦整形
	226	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	A-6	C 846	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	胴部最下部
	227	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	E-5	C 3261	外;木口状工具ナデ 内;ナデ	内外共丁寧な仕上げ
	228	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	D-5	C 3160	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	外レンガ色内黒色
	229	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	E-4	C 1718	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	外レンガ色内黒色
	230	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	A-6	C 847	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	薄手・堅緻
	231	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	A-6	C 833	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	薄手・堅緻
	232	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	B-8	C 179	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	丁寧な整形
	233	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	D-4	C 335	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	器壁薄い
	234	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形			外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	器壁薄い
126	235	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	A-5	C 232	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	内外共レンガ色
	236	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	D-4	C 1326	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	内面上位は横下位は縦
	237	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	E-5	C 3564	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	焼成：堅緻
	238	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	B-8	C 173	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	焼成：堅緻
	239	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	A-4	C 500	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	焼成：堅緻器壁薄い
	240	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	A-6	C 1001	外;貝殻条痕 内;条痕後ナデ	外面レンガ色
	241	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	F-5	C 3773	外;貝殻条痕 内;木口状工具ナデ	外面レンガ色
	242	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	D-3	C 2443	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	外面レンガ色
	243	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	A-7	C 676	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	焼成：堅緻器壁薄い
	244	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	E-5 E-5 E-5 E-4	C 3363 C 1080 C 1157 C 1178	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕の縦ナデ	外レンガ色内黒色
	245	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	E-5	C 3707	外;木口状工具ナデ 内;貝殻条痕	内面は縦整形
	244	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	E-4	C 1177	外;貝殻条痕 内;ナデ	244 と同一
	247	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	F-4 A-5	C 2692 C 244	外;貝殻条痕 内;木口状工具ナデ	
	248	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	F-4	C 623	外;貝殻条痕 内;条痕後ナデ	器壁薄い
	249	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	E-3	C 2158	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	内外共整形は縦方向
	250	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	F-6	C 2616	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	焼成：堅緻器壁薄い
	251	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	A-4	C 500	外;木口状工具ナデ 内;ナデ	外レンガ色器壁薄い
	252	深鉢形土器 岩本	胴部 円筒形	E-3	C 2110	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	器壁厚い



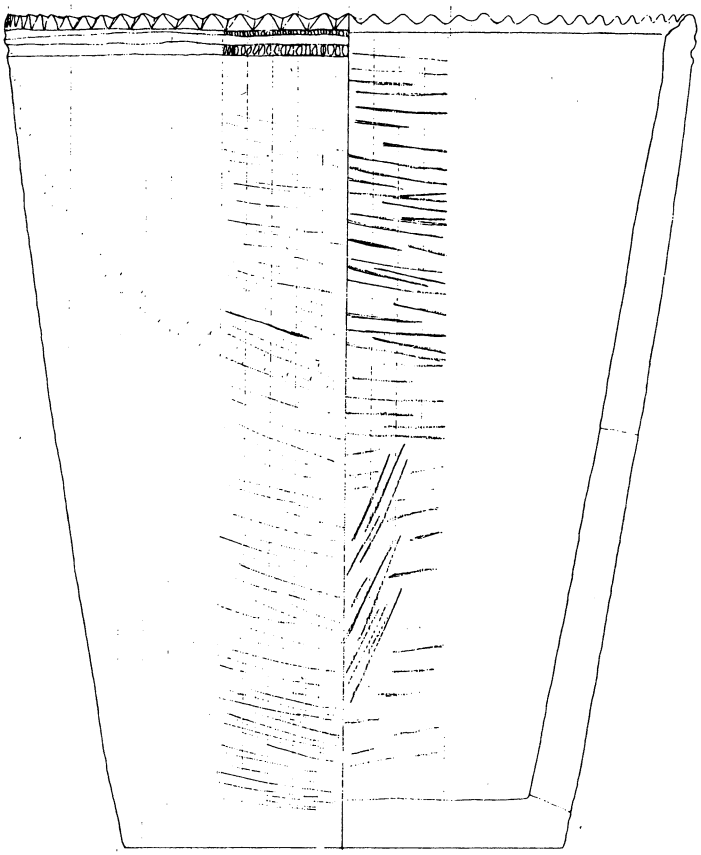
第127図　岩本遺跡・円筒形土器12

帯の一部は若干肥高していた可能性もある。No.178もやや内弯する形状で，口唇部は密に刻まれる。No.181の内面は縦位の条痕仕上げが見られる。No.186の施文帯も意図的な肥高が認められる。No.187の貝殻腹縁刺突は連続刺突文様に残される。No.188・190・196の施文帯も肥高して残る。No.189は櫛状工具を縦位に連続して刺突し，その下位に貝殻刺突線文を1列巡らす。No.192の口唇部は棒状工具で深く刻み，意図的に肥高した口縁部に櫛状工具を連続して刺突している。No.196・197・198は上位に腹縁刺突，その下位に貝殻刺突線文を1列巡らす。No.200の口縁部腹縁刺突は整然と密に施され，器面調整も丁寧である。No.202の口唇部は腹縁部の押圧，口縁部も同様の施文具で連続して刺突するが，施文帯は肥高していた可能性がある。No.203の施文帯も肥高か。No.205は斜めの腹縁刺突，206は腹縁刺突の下位に貝殻刺突線文。口径14·0cmのNo.207は鋸歯状の口縁部で，口縁部の貝殻刺突は左から右に長めに引かれ，下位に貝殻刺突線文を施す部分と省かれる部分が共存する。No.208では腹縁刺突を左から横に引き，外面に煤が残る。No.211の施文帯は若干肥高か。No.214の施文帯は肥高，その上位に腹縁刺突を左から右へ引く。

P222～223は胴部片で，全て円筒形を成している。器面調整は横方向に行うことが主体で，例外的に，No.236・244・250等の特に内面で縦方向に調整している。調整具は，木口状工具と貝殻条痕を用い，総じて丁寧に行っている。

No.253・254はⅣ類土器に相当するもので，ナデて平坦に仕上げた口唇部の外面に腹縁刺突を施している。両面共に調整具に貝殻条痕を横位に使用している。No.256の施文帯は意図的に肥高している。

No.267は完形復元された唯一の資料で，口径27·2cm，高さ32·3cm，底部径17·3cm（内径14·6cm）内面は明瞭な稜線を持ち，口唇部はヘラ状工具で押さえ，貝殻刺突線文を2列並行に巡らす。両面とも木口状工具で丁寧に整形し，器面の一部には剥脱した部分がある。なお，発見当時，P247のNo.16の尖頭器がこの土器の中で検出されている。

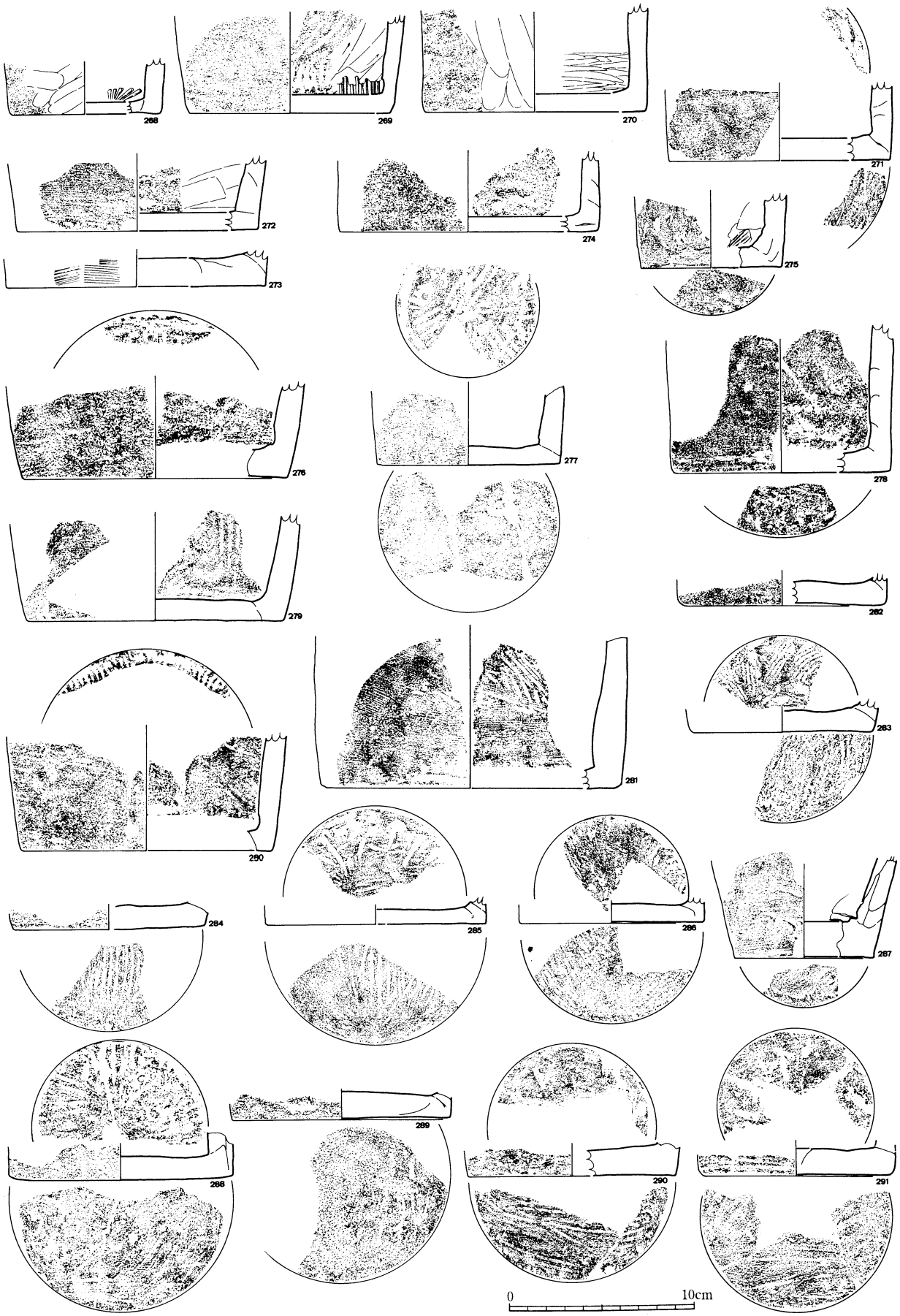


第128図　岩本遺跡・円筒形土器13（完形品）

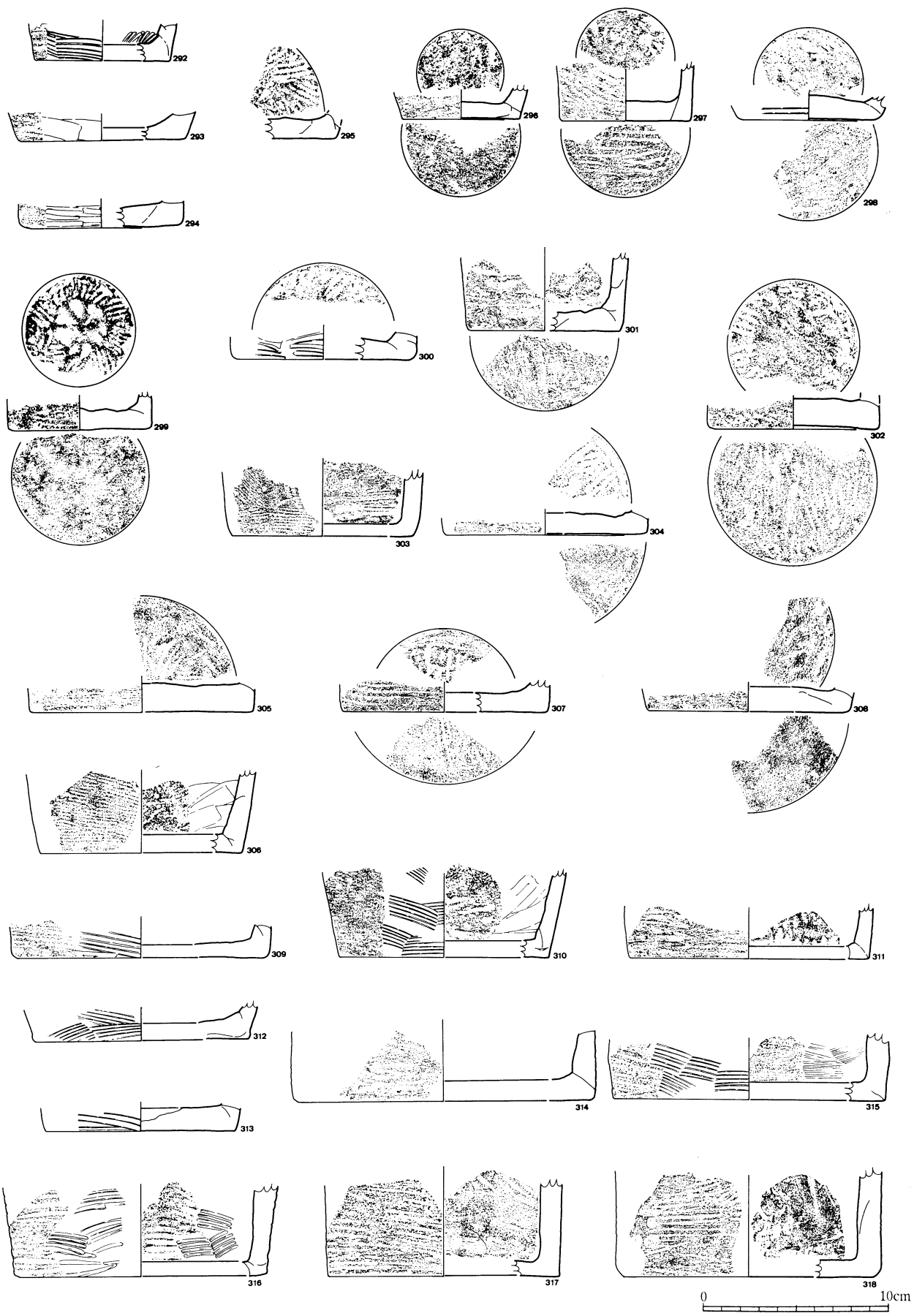
底部資料はP237～241に記載している。基本的に底部の形状は，正円形を成し，接地面の仕上げは丁寧なナデ仕上げ（No.277・288・289・299・320・343等），条痕仕上げ（No.337・340等）が見られ，丁寧なナデ仕上げが卓越している。接地面に圧痕を残すものに，No.355・357・358の3点がある。No.355は浅い沈線文がクロスし，No.358では撚りの痕跡を持つものが簾状に圧痕される。胴部と底部の境界部は横方向の調整で仕上げられるも

表62　岩本遺跡遺物観察表（土器）10

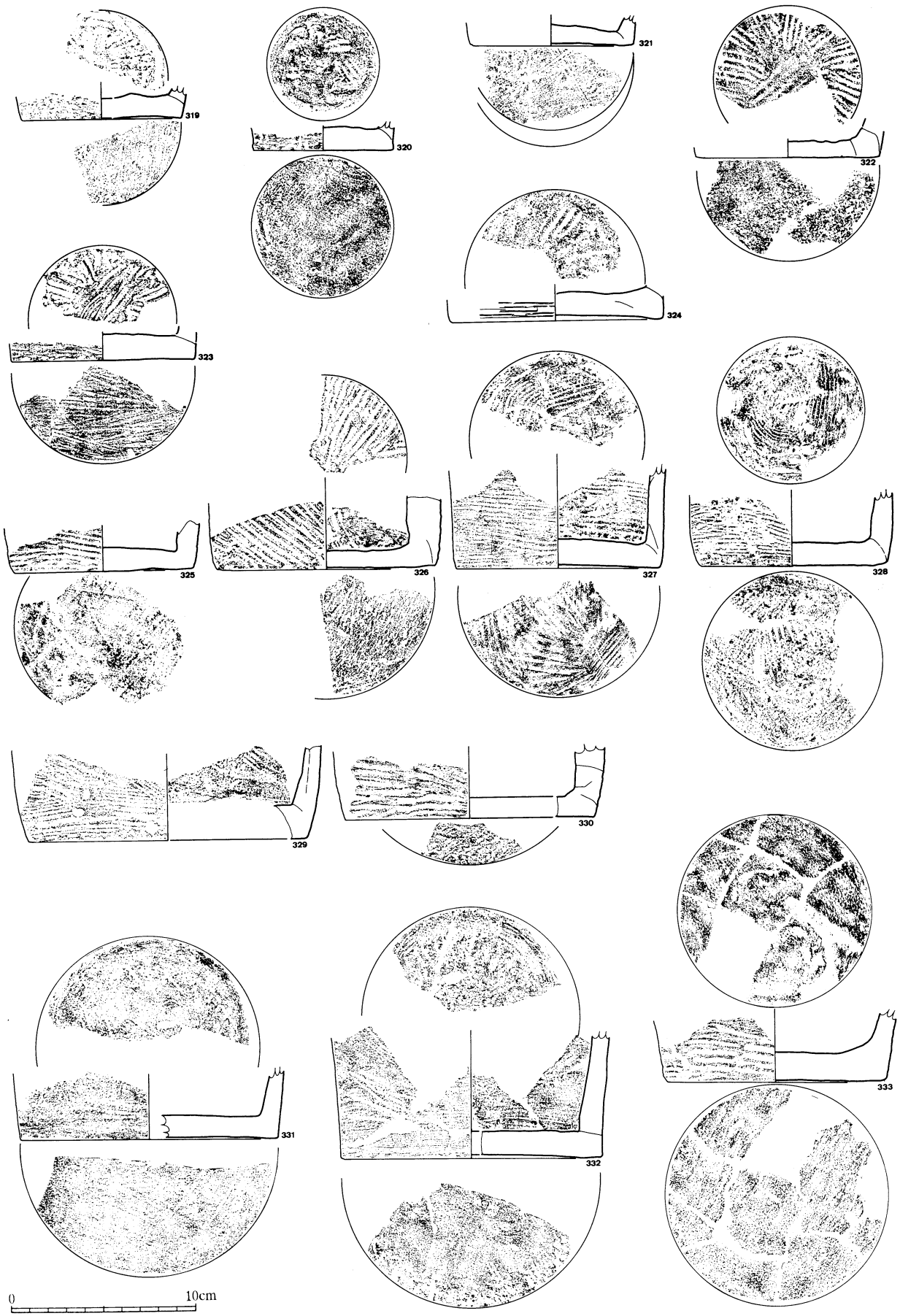
挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
127	253	深鉢形土器 岩本Ⅳ類	口縁部	E-5 E-5	C' 281 C' 283	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;極めて堅緻	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	口唇部丁寧にナデ、平坦面。口唇部は腹縁を連続刺突。254と同一個体？。復元口径9・9cm。
	254	深鉢形土器 岩本Ⅳ類	口縁部	D-6	C' 936	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;極めて堅緻	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	口唇部丁寧にナデ、平坦面。口唇部は腹縁を連続して深く刺突。復元口径13・1cm。
	255	深鉢形土器 岩本	口縁部 不明	D-5	C' 2598	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;貝殻条痕	口唇部は腹縁を刺突。
	256	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-5	C' 1539	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	口唇部は木口状工具で刻む。口縁部肥厚、肥厚部に腹縁を縦に深く刺突。
	257	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部、波状	F-5	C' 2692	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	口唇部は木口状工具で深く刻む。口縁部は貝殻腹縁を斜位に刺突し、下位に1列の貝殻刺突線文。
	258	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	E-3	C' 122	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;ナデ	口唇部は木口状工具で深く刻む。口縁部に貝殻腹縁を刺突。器壁厚い。
	259	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部			細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;堅緻	外;ナデ 内;ナデ	口唇部は腹縁で刻む。口縁部に貝殻腹縁を刺突。復元口径16・1cm。
	260	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-7	C 1129	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;堅緻	外;貝殻条痕 内;貝殻条痕	浅い波状口縁。貝殻腹縁を斜位に刺突。
	261	深鉢形土器 岩本Ⅰ類	口縁部 波状	A-6	C 1268	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	浅い波状口縁。貝殻腹縁を縦位に連続して刺突し、下位に沈線文。
	262	深鉢形土器 岩本Ⅱ類	口縁部 波状	E-5	C' 1519	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;貝殻条痕	内面の段明瞭。口唇部は木口状工具で刻む。口縁部は腹縁の刺突。復元口径14・0cm。
	263	深鉢形土器 押型文土器	胴部	B-9	C 131	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;工具ナデ	山形押型文。
	264	深鉢形土器 押型文土器	胴部	B-8	C 118	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;工具ナデ	山形押型文。
	265	深鉢形土器 押型文土器	胴部			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;堅緻	外;ナデ 内;工具ナデ	山形押型文。胴部最下部資料。
	266	深鉢形土器 押型文土器	胴部	B-8	C 182	砂粒、細砂粒多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;工具ナデ	山形押型文。
129	268	深鉢形土器 岩本	底部 径 8・1cm	A-6	C 1733	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;堅緻	外;ナデ 内;木口状工具ナデ	外面は丁寧にナデられ、胴部の器壁が接地面より厚い。底部内面に放射状の凹線。
	269	深鉢形土器 岩本	底部 径 10・9cm	D-5	C' 2510	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	底部内面は胴部下面から櫛状工具を縦位に用い、放射状の凹線が刻まれる。
	270	深鉢形土器 岩本	底部 径 12・0cm	D-3	C' 95	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;丁寧なナデ	内面の調整は丁寧にナデる。胴部との接合はほぼ垂直。接地面が厚い。
	271	深鉢形土器 岩本	底部 径 11・9cm	A-5	C 715	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;貝殻条痕?	内面の調整は丁寧にナデる。胴部との接合はほぼ垂直。底部内面に凹線。内面黒色。接合部明瞭。
	272	深鉢形土器 岩本	底部 径 13・0cm	D-4	C' 2475	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	外面はレンガ色、内面は黒色。
	273	深鉢形土器 岩本	底部 径 14・0cm	E-4	C' 3100	砂粒・細砂粒多く含む、長石・石英・黒色粒・雲母	焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;	接地面は平坦面。底部内面には放射状の凹線。接合部で分離。
	274	深鉢形土器 岩本	底部 径 14・0cm	D-4	C' 756	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	接地面は平坦面。胴部との接合はほぼ垂直。底部内面に放射状の凹線。
	275	深鉢形土器 岩本	底部 径 7・6cm	D-4	C' 1328	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	接地面は平坦面。胴部との接合はほぼ垂直。底部内面に整形時の粘土塊が残る。
	276	深鉢形土器 岩本	底部 径 14・3cm	E-3	C' 2089	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	接地面は平坦面。底部内面に放射状の凹線。器壁厚い。
	277	深鉢形土器 岩本	底部 径 9・9cm			細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	接地面は平坦面。底部内面に放射状の凹線。内面は横ナデ。胴部が厚い。
	278	深鉢形土器 岩本	底部 径 11・7cm	E-4	C' 1167	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	接地面は平坦面、圧痕あり。底部内面に放射状の凹線。内面は斜めナデ。器壁厚い。
	279	深鉢形土器 岩本	底部 径 13・8cm	E-4 D-5	C' 3179 C' 3592	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	接地面は平坦面、器壁厚い。底部は円盤形成、接合部で分離。
	280	深鉢形土器 岩本	底部 径 13・8cm	D-5	C' 1425	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	接地面は平坦面。底部内面に放射状の凹線。内面は斜めナデ。接合部で分離。器壁厚い。
	281	深鉢形土器 岩本	底部 径 16・3cm	D-5	C' 1460	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒	焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	接地面は平坦面。胴部の器壁厚い。接合部で分離。器壁厚い。



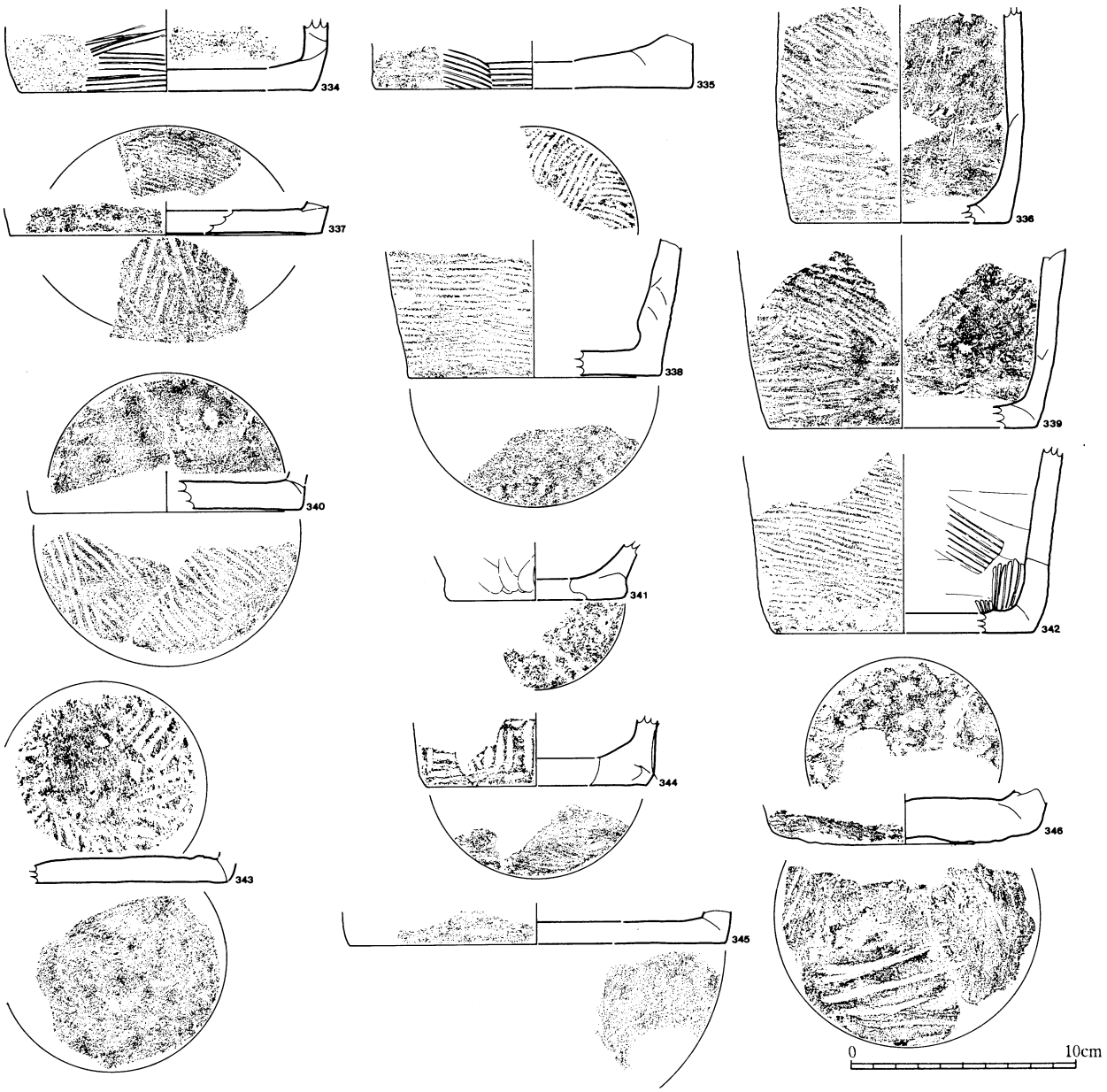
第129図　岩本遺跡・円筒形土器底部１



第130図　岩本遺跡・円筒形土器底部 2

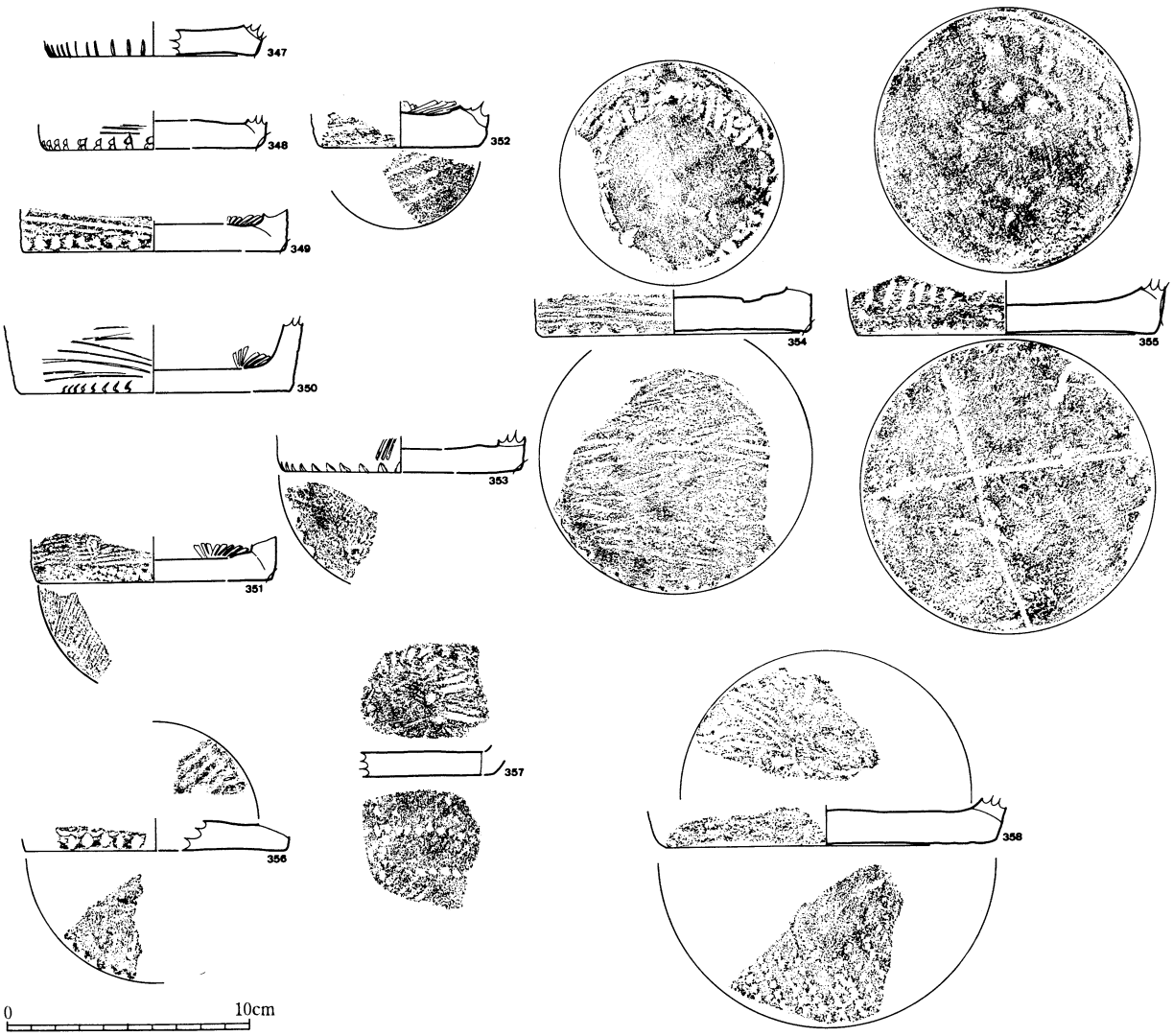


第131図　岩本遺跡・円筒形土器底部 3



第132図　岩本遺跡・円筒形土器底部 4

のが一般的で，№347 ・348の様に刻まれるものは少ない。№346 はヘラ状工具，その他の№348 ～350 は貝殻腹縁部で刻む。№355 は境界面よりやや上位の胴部にヘラ状工具により，左下がりの短沈線文状の刻みが施される。胴部と接地面の接合方法の判断は，困難なものが多い。№278 ・279 等では一回り小さい接地面を用意し，胴部内側に接合する方法が観察される。その際，№279 の内面の接合部には放射状の凹線が中央部より外側に向かって残される。一方，№293 ・301 ・307 等では，用意された接地面に器壁が直接接合されている。底部内面に残る放射状の凹線はそのほとんどが，中央部から外側に向かっており，接地面と器壁部との接合のために行われたと判断できる。



第133図　岩本遺跡・円筒形土器底部 5

前平式土器（永野タイプ・P219 ・No.148 ）

No.148 は平坦な口唇部を成し，口縁端部に縦位の貝殻腹縁刺突文を連続して巡らしている。外面の調整は貝殻条痕により，内面は斜めから縦方向の削りに近い条痕仕上げが認められる。

押し型文土器（P234 ・No.263 ～266 ）

No.263 ～266 の 4 点はほぼ同一の押型文資料で，山形文を刻んでいる。265 は底部に移行する部分と思われ，施文も欠如している。

表63　岩本遺跡遺物観察表（土器）11

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
129	282	深鉢形土器 岩本	底部　径 11·0cm			細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;堅緻	外;ナデ 内;ナデ	接地面は平坦面。底部内面に放射線状の凹線。
	283	深鉢形土器 岩本	底部　径 9·7cm	B-7	C 1088	砂粒·細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;条痕後ナデ 内;	接地面は平坦で、条痕によるナデ整形。底部内面に放射線状の凹線。
	284	深鉢形土器 岩本	底部　径 10·3cm			細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;	接地面は平坦で、条痕によるナデ整形。底部内面に放射線状の凹線。接合部で分離。
	285	深鉢形土器 岩本	底部　径 12·0cm	A-6	C 1343	細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;	接地面は平坦で、条痕によるナデ整形。底部内面に放射線状の凹線。接合部で分離。
	286	深鉢形土器 岩本	底部　径 10·0cm	E-5 E-5	C′ 274 C′ 1518	砂粒·細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;	接地面は平坦で、木口状工具によるナデ整形。底部内面に放射線状の凹線。接合部で分離。
	287	深鉢形土器 岩本	底部　径 7·5cm	D-4	C′ 3031	砂粒·細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;	接地面は平坦で、木口状工具によるナデ整形。
	288	深鉢形土器 岩本	底部　径 12·1cm	E-4	C′ 1616	細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;	接地面は平坦で、木口状工具によるナデ整形。底部内面に放射線状の凹線。
	289	深鉢形土器 岩本	底部　径 11·8cm	D-5	C′ 1022	砂粒·細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;堅緻	外;ナデ 内;	接地面は平坦でナデ整形。
	290	深鉢形土器 岩本	底部　径 11·2cm	E-3	C′ 2215	砂粒·細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;	接地面は平坦で、条痕によるナデ整形。底部内面はナデ整形。外はレンガ色。
	291	深鉢形土器 岩本	底部　径 10·3cm	B-7 B-7	C 1082 C 1083	細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;	接地面は平坦で、木口状工具によるナデ整形。底部内面はナデ整形で、ヘラの刺突。
130	292	深鉢形土器 岩本	底部　径 7·3cm	C-4	C′ 4	砂粒·細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;貝殻条痕 内;	接地面は平坦でナデ整形。底部内面は放射状の凹線が深く刻まれる。外面調整は横位の条痕。
	293	深鉢形土器 岩本	底部　径 9·0cm	E-6	C′ 219	細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;堅緻	外;貝殻条痕 内;	接地面は平坦でナデ整形。底部内面は工具ナデ。外面調整は横位の条痕。
	294	深鉢形土器 岩本	底部　径 8·7cm	E-5	C′ 3575	砂粒·細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;ナデ 内;	接地面は平坦で工具ナデ整形。底部内面はナデ。接合部で分離。
	295	深鉢形土器 岩本	底部　径 cm	F-4	C′ 623	細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;堅緻	外; 内;	接地面は平坦でナデ整形。底部内面は放射状の凹線が深く刻まれる。接合部で分離。
	296	深鉢形土器 岩本	底部　径 6·4cm	E-4	C′ 1532	砂粒·細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;ナデ	接地面はナデられる。
	297	深鉢形土器 岩本	底部　径 7·0cm	E-4	C′ 1672	砂粒·細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;貝殻条痕 内;工具ナデ	底部内面は胴部下面からヘラ状工具で整形。平坦な接地面は条痕のナデ整形。
	298	深鉢形土器 岩本	底部　径 7·8cm	D-4	C′ 313	細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;堅緻	外; 内;	内面の調整は指ナデで、凹凸が残る。平坦な接地面は条痕整形。
	299	深鉢形土器 岩本	底部　径 7·5cm	E-5	C′ 3410	砂粒·最砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;貝殻条痕?	接地面は丁寧にナデる。胴部との接合はほぼ垂直。底部中央部は指押さえ、周辺部に放射状の凹線。
	300	深鉢形土器 岩本	底部　径 9·7cm	A-7	C 520	砂粒·細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;貝殻条痕 内;	接地面は条痕後丁寧にナデる。底部内面に放射状の凹線。外は薄いピンク色。
	301	深鉢形土器 岩本	底部　径 8·1cm			砂粒·細砂粒多く含む、長石·石英·黒色粒·雲母　焼成;極めて堅緻	外;貝殻条痕 内;ナデ	接地面は平坦面。接合部で分離。器面調整荒い。
	302	深鉢形土器 岩本	底部　径 9·1cm	D-6	C′ 1054	砂粒·細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;	接地面は条痕整形の平坦面。底部内面に放射状の凹線。接合部で分離。
	303	深鉢形土器 岩本	底部　径 9·8cm	E-6	C′ 911	細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	接地面は平坦面。胴部との接合はほぼ垂直。
	304	深鉢形土器 岩本	底部　径 10·8cm	E-5	C′ 2679	細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;	接地面は平坦面。底部内面に放射状の凹線。外はレンガ色。
	305	深鉢形土器 岩本	底部　径 12·0cm	E-5	C′ 1566	砂粒·細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;	接地面は平坦面。底部内面に放射状の凹線、その後周辺部をナデ整形。器壁厚い。
	306	深鉢形土器 岩本	底部　径 10·8cm	B-8	C 177	砂粒·細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;極めて堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	接地面は平坦面。底部内面に放射状の凹線。内外共に薄いピンク色。器壁厚い。
	307	深鉢形土器 岩本	底部　径 11·0cm			細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;堅緻	外;貝殻条痕 内;	接地面は平坦面、器壁厚い。底部内面に放射状の凹線、その後周辺部をナデ整形。
	308	深鉢形土器 岩本	底部　径 10·8cm	D-4	C′ 3257	細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;	接地面は平坦面。内面はナデ整形。接合部で分離。器壁厚い。
	309	深鉢形土器 岩本	底部　径 13·5cm	D-5	C′ 1493	細砂粒を多く含む、長石·石英·黒色粒　焼成;堅緻	外;木口状工具ナデ 内;木口状工具ナデ	接地面は平坦面。胴部の器壁厚い。接合部で分離。底部内面はナデ仕上げ。

表64　岩本遺跡遺物観察表（土器）12

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
130	310	深鉢形土器 岩本	底部　径 11・3cm	D-4	C´ 309	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；丁寧なナデ 内；貝殻条痕	接地面は平坦面。内面は斜位の条痕整形。
	311	深鉢形土器 岩本	底部　径 12・9cm	A-7	C 1556	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；ナデ	接地面は平坦で、木口状工具によるナデ整形。底部内面に放射線状の凹線。
	312	深鉢形土器 岩本	底部　径 11・6cm	A-6	C 1478	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；	接地面は平坦なナデ整形。底部内面は木口状工具のナデ整形で凹凸が残る。接合部で分離。
	313	深鉢形土器 岩本	底部　径 10・2cm	D-5	C´ 3438	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；貝殻条痕 内；	接地面は平坦なナデ整形。底部内面もナデ整形。接合部で分離。
	314	深鉢形土器 岩本	底部　径 16・0cm	E-3	C´ 2095	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	接地面は平坦。底部内面に放射線状の凹線。
	315	深鉢形土器 岩本	底部　径 14・4cm	A-7	C 1556	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；木口状工具ナデ	接地面は平坦で、ナデ整形。内面は木口状工具のナデ整形。
	316	深鉢形土器 岩本	底部　径 13・6cm	E-3	C´ 1312	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	接地面は平坦で、木口状工具によるナデ整形。
	317	深鉢形土器 岩本	底部　径 12・5cm	A-7	C 1556	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	接地面は平坦でナデ整形。胴部との接合はほぼ垂直。
	318	深鉢形土器 岩本	底部　径 13・5cm	A-4	C 605	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；条痕後ナデ	接地面は平坦でナデ整形。底部内面は条痕整形。
131	319	深鉢形土器 岩本	底部　径 8・6cm	A-4	C 1191	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒・　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；	接地面は平坦で、木口状工具によるナデ整形。底部内面に放射線状の凹線。中央部は指押さえ。
	320	深鉢形土器 岩本	底部　径 7・7cm	A-6	C 820	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；	接地面は平坦でナデ整形。底部内面は放射状の凹線の上位からナデ整形。接合部で分離。
	321	深鉢形土器 岩本	底部　径 8・7cm	E-4	C´ 2344	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；貝殻条痕 内；	接地面は平坦でナデ整形、＋状の沈線文。底部内面はナデ整形。
	322	深鉢形土器 岩本	底部　径 9・8cm	E-3	C´ 3141	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外； 内；	接地面は平坦なナデ整形。底部内面に放射線状の凹線。
	323	深鉢形土器 岩本	底部　径 10・0cm	E-4	C´ 1155	砂粒・細砂粒多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；貝殻条痕 内；	接地面は平坦で条痕整形。底部内面に放射状の凹線。接合部で分離。
	324	深鉢形土器 岩本	底部　径 11・5cm	A-6	C 822	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；	接地面は中央部が若干窪む。底部内面に放射線状の凹線。接合部で分離。
	325	深鉢形土器 岩本	底部　径 9・7cm	D-4 D-4	C´ 1360 C´ 2878	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；木口状工具ナデ 内；ナデ	底部内面はナデ整形。平坦な接地面はナデ整形。外はレンガ色。
	326	深鉢形土器 岩本	底部　径 11・8cm	D-5	C´ 2571	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻状痕 内；条痕後ナデ	底部内面に放射線状の凹線。平坦な接地面は条痕後ナデ整形。器壁厚い。外はレンガ色。
	327	深鉢形土器 岩本	底部　径 11・0cm	D-3	C´ 436	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕?	接地面は条痕ナデ。胴部との接合はほぼ垂直。底部中央部は厚く、腹縁のナデ整形。
	328	深鉢形土器 岩本	底部　径 9・8cm	A-4 A-4	C 1187 C 1613	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；条痕後ナデ	接地面は条痕後ナデる。胴部との接合はほぼ垂直。胴部内面黒色。底部内面も条痕のナデ整形。
	329	深鉢形土器 岩本	底部　径 15・1cm	A-7	C 1401	砂粒・細砂粒多く含む、長石・石英・黒色粒・雲母　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；条痕後ナデ	接地面は平坦面。接合部で分離。胴部内面黒色。
	330	深鉢形土器 岩本	底部　径 13・5cm	D-5	C´ 3654	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；木口状工具ナデ	接地面は条痕整形の平坦面。底部内面も条痕整形。接合部で分離。
	331	深鉢形土器 岩本	底部　径 13・9cm	A-6	C 890	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；条痕後ナデ	接地面は丁寧にナデた平坦面。底部内面も丁寧にナデる。外は薄いピンク色。
	332	深鉢形土器 岩本	底部　径 14・1cm	A-7	C 525	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒・雲母　焼成；極めて堅緻	外；木口状工具ナデ 内；木口状工具ナデ	接地面の中央部若干窪む。接合部で分離。
	333	深鉢形土器 岩本	底部　径 11・9cm	E-4 E-4	C´ 162 C´ 1115	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；貝殻条痕 内；ナデ	接地面はナデ整形による平坦面。底部内面もナデ整形。
132	334	深鉢形土器 岩本	底部　径 13・0cm	E-3	C´ 2160	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外； 内；ナデ	接地面はナデ整形による平坦面。底部内面に放射状の凹線。
	335	深鉢形土器 岩本	底部　径 14・2cm	D-6	C´ 2992	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；貝殻条痕 内；ナデ	接地面はナデ整形による平坦面、器壁厚い。底部内面もナデ整形。
	336	深鉢形土器 岩本	底部　径 9・6cm	D-3	C´ 2392	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて堅緻	外；貝殻条痕 内；貝殻条痕	接地面は平坦面。胴部の立ち上がりはやや湾曲。器壁薄い。
	337	深鉢形土器 岩本	底部　径 13・9cm	D-3	C´ 1810	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；堅緻	外；ナデ 内；	接地面は条痕整形の平坦面。接合部で分離。底部内面は条痕整形？。

表65　岩本遺跡遺物観察表（土器）13

挿図	番号	器種	部位	出土区	登録番号	胎土	調整	備考
	338	深鉢形土器 岩本	底部　径 11・3cm	A-6	C 841	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて硬質	外；貝殻条痕 内；丁寧なナデ	接地面は平坦面。内面は凹凸の残るナデ整形。底部内面の放射線状の凹線は胴部の壁面に食い込む。
	339	深鉢形土器 岩本	底部　径 11・9cm	E-4	C' 3071	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて硬質	外；貝殻条痕 内；条痕状ナデ	接地面は平坦で、木口状工具によるナデ整形。底部内面も工具のナデ整形。器壁薄い。
	340	深鉢形土器 岩本	底部　径 11・9cm	E-5	C' 3550	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて硬質	外；ナデ 内；	接地面は平坦で櫛状工具整形。底部内面は丁寧なナデ整形。接合部で分離。
	341	深鉢形土器 不明	底部　径 7・8cm	A-8	C 110	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて硬質	外；ナデ 内；ナデ	接地面が胴部よりはみ出し、形状は上位にかけて張り出す。これまでの岩本タイプとは異にする。
132	342	深鉢形土器 岩本	底部　径 11・5cm	A-8	C 1359	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて硬質	外；貝殻条痕 内；工具ナデ	接地面は平坦。底部内面に放射線状の凹線。内面黒色。
	343	深鉢形土器 岩本	底部　径	E-5	C' 3802	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；硬質	外； 内；	接地面は平坦で、木口状工具のナデ整形。底部内面に放射線状の凹線、中央部は指押さえ。
	344	深鉢形土器 岩本	底部　径 9・8cm	A-4	C 1163	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて硬質	外；貝殻条痕？ 内；貝殻条痕	接地面は平坦で、条痕整形。外面は最終的に縦位の整形。器壁厚い。
	345	深鉢形土器 岩本	底部　径 16・8cm			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；硬質	外；ナデ 内；ナデ	接地面は平坦でナデ整形。接合部で分離。
	346	深鉢形土器 岩本	底部　径 11・8cm	A-6 A-6	C 839 C 842	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて硬質	外；貝殻条痕？ 内；	接地面はヘラ痕残る凹凸面。底部内面は指痕整形時の凹凸面が残る。
	347	深鉢形土器	底部　径 8・5cm	A-8	C 260	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；硬質	外；ナデ 内；	接地面は上げ底状、底部外縁にヘラ刻み。
	348	深鉢形土器	底部　径 8・8cm	E-3	C' 3128	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；硬質	外；条痕後ナデ 内；	接地面は平坦でナデ整形。底部外縁に腹縁刻み。接合部で分離。
	349	深鉢形土器	底部　径 10・8cm	D-5	C' 1015	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；硬質	外；貝殻条痕 内；	接地面は平坦でナデ整形、底部外縁に腹縁刻み。底部内面に放射状の凹線。
	350	深鉢形土器	底部　径 11・2cm	E-4	C' 2083	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；硬質	外；貝殻条痕 内；ナデ	接地面は平坦でナデ整形、底部外縁に腹縁刻み。底部内面に放射状の凹線。
	351	深鉢形土器	底部　径 9・7cm	A-6	C 1497	砂粒・細砂粒多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；硬質	外；貝殻条痕 内；	接地面は平坦で木口状工具整形、底部外縁に腹縁刻み。底部内面に放射状の凹線。外面レンガ色。
	352	深鉢形土器 岩本	底部　径 6・5cm			砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて硬質	外；貝殻条痕 内；	接地面は平坦なナデ整形、スダレ状の圧痕。底部内面に放射状の凹線。
133	353	深鉢形土器	底部　径 10・0cm	E-4	C' 167	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて硬質	外；木口状工具ナデ 内；ナデ	接地面は平坦でナデ整形、底部外縁に棒状工具刻み。
	354	深鉢形土器	底部　径 11・2cm	E-3	C' 1323	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて硬質	外；貝殻条痕 内；	接地面は平坦な条痕整形、底部外縁にヘラ刻み。底部内面は放射状の凹線後ナデ整形。
	355	深鉢形土器	底部　径 12・1cm	A-6	C 908	最砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；硬質	外；ナデ 内；ナデ？	接地面は平坦なナデ整形、＋字の沈線文。底部外縁にヘラ刻み。底部内面はナデ整形。接合部で分離。
	356	深鉢形土器	底部　径 10・8cm	D-3	C' 2400	砂粒・細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて硬質	外；貝殻条痕 内；	接地面は平坦なナデ整形、底部外縁にヘラ刻み。底部内面に放射状の凹線。接合部で分離。
	357	深鉢形土器 岩本	底部　径	E-5	C' 1528	細砂粒多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；極めて硬質	外； 内；	接地面は平坦なナデ整形、腹縁部の刺突線文圧痕。底部内面に放射線状の凹線。
	358	深鉢形土器 岩本	底部　径 13・9cm	D-6	C' 932	細砂粒を多く含む、長石・石英・黒色粒　焼成；硬質	外；ナデ 内；	接地面は平坦なナデ整形、スダレ状の圧痕。底部内面に放射線状の凹線。

第2節　石器

発掘された石器は，打製石鏃・磨製石鏃・石匙・部分磨製石槍・両面加工石槍・打製石斧・磨製石斧・叩き石・石皿・磨石・砥石で構成される。

打製石鏃（第134図　No.1・2・3・4・5・6・7）

No.1は平基式の三角形鏃で，長さが底辺をやや上回る。左側縁部には微調整剥離が施され，横断面形はレンズ状を成す。No.2は片脚がやや長めに造られ，基部は緩やかに窪む。長さが底辺より上回る。No.3も1と類似した形状を成し，調整剥離は左側縁部に集中し，右側縁部は剥離面を多く残す。No.4は大型の平基式の三角形鏃に属し，横断面形は凸レンズ状を呈し，先端部はドリル状の仕上がりを持つ。No.5・6は凹基式で6は切れ込みが深い。No.7も平基式の三角形鏃であるが，調整剥離は粗雑で，未製品も可能性のある。

磨製石鏃（第134図　No.8・9・10）

No.8の形状は復元したもので，やや疑問も残されるが，両側縁に添って形状の復元を行った。緩やかに内弯する基部を呈し，体部の中央部が稜線を持つように仕上げている。No.9は大きく破損しているが，鋭利に仕上げた部分を両側縁に推定し復元したもので，石鏃と判断している。No.10は偏平なシルト質頁岩素材の周辺部に整形剥離を加え，その後両面に研磨を施したもので，両面は平坦面を意図している。なお，先端部は欠損している。

磨製石器（第134図　No.11）

No.11は両面を平坦に研磨し，一辺に鋸歯状の切れ込みを持つ磨製石器であるが，片方が破損欠落しているため全体形状は不明である。鋸歯状の切れ込みは，両面から鋸の刃を研ぐような方法で作り出している。

石匙（第134図　No.12）

灰黒色のハリ質安山岩を用いたもので，素材剥片は打面転移剥離技術が認められ，形態的には縦型に属する。摘み部はU字状の抉りを対に設け，刃部は斜刃を成し，急角度の刃部整形が見られる。

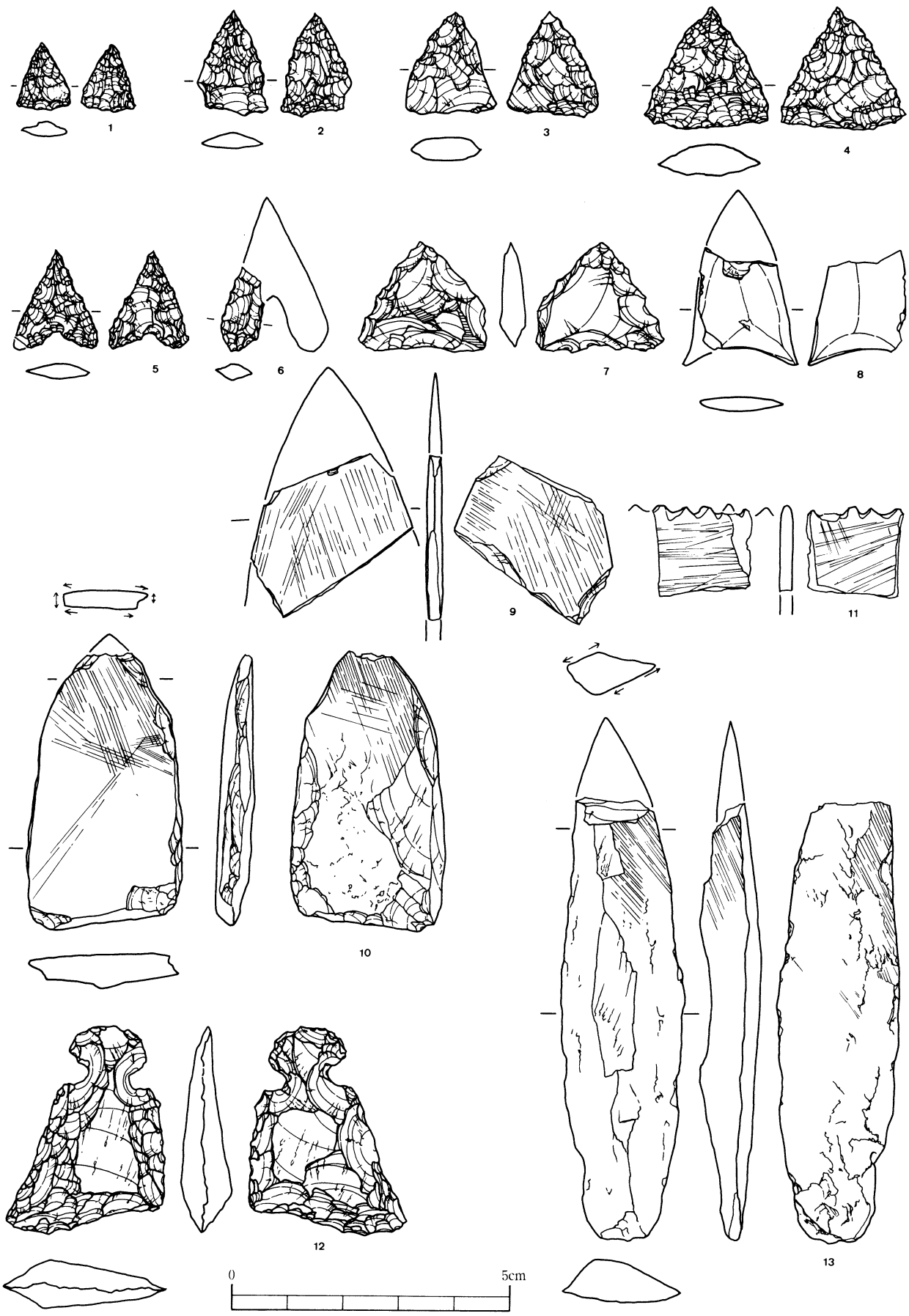
部分磨製石槍（第134・135図　No.13・16）

No.13縦長剥片を素材としているが，軟質シルト質頁岩を用いるため風化が激しい。先端部右側縁部と裏面の一部に研磨痕がわずかに観察され，正面中央部は剥落により断面形は台形を呈す。なお，先頭部は欠損する。部分磨製の石槍と判断している。

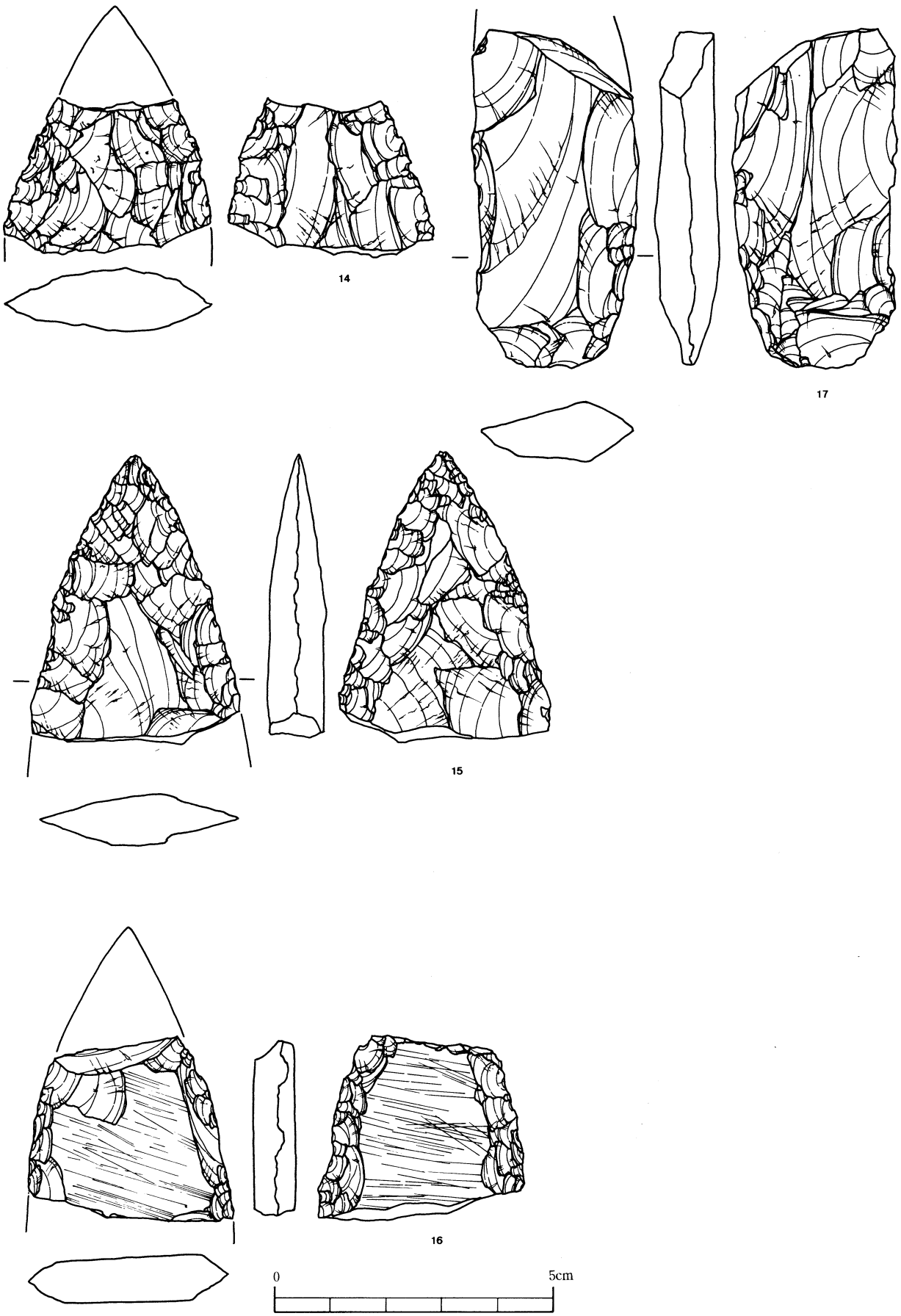
No.16はハリ質安山岩で，No.267の完形土器の中から発見されたもので，その因果関係については現状では明確に説明できない。先端部と体部のほとんどは欠損しているが，扁平な剥片素材の両面を入念に研磨し，両面は並行面を成し，側縁整形は最終段階で行っている。

両面加工石槍（第135図　No.14・15・17）

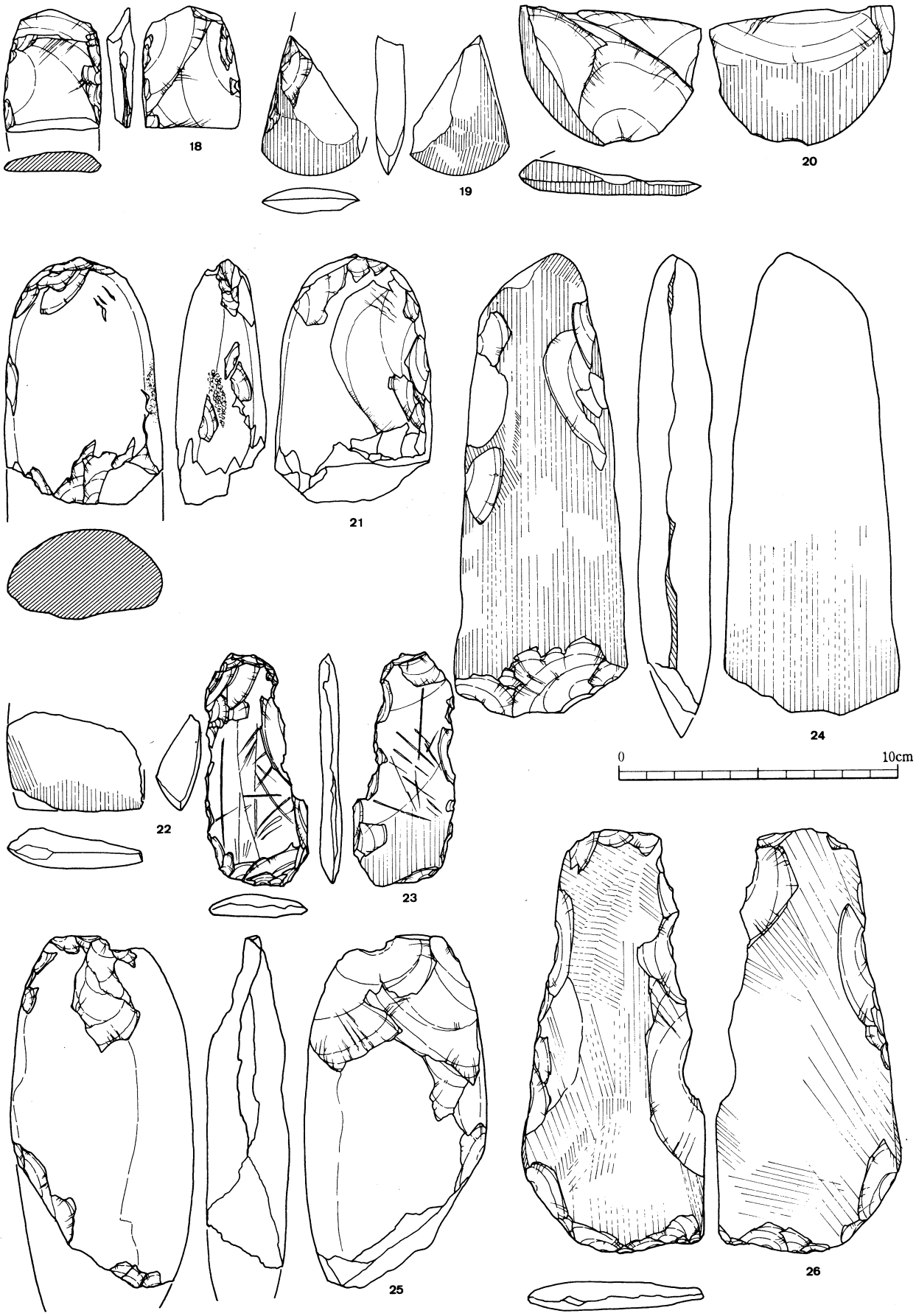
3点とも，灰黒色の硬質安山岩（ハリ質安山岩）を用いている。No.14の表面の平坦剥離は体部奥まで見られ，横断面はレンズ状を呈し安定した技術の存在が認められる。No.15先端部資料で，平坦剥離は14同様体部中央まで進み，特に先端部付近では細かな微調整剥離が加えられている。なお，14と形状・規格とも近似しており，同一固体の可能性もある。その場合，15が頭部で14が基部に想定され，12cmを越す木葉形の石槍が復元できる。No.17は現状で7.8 cmで，その形状から石槍の基部と判断している。



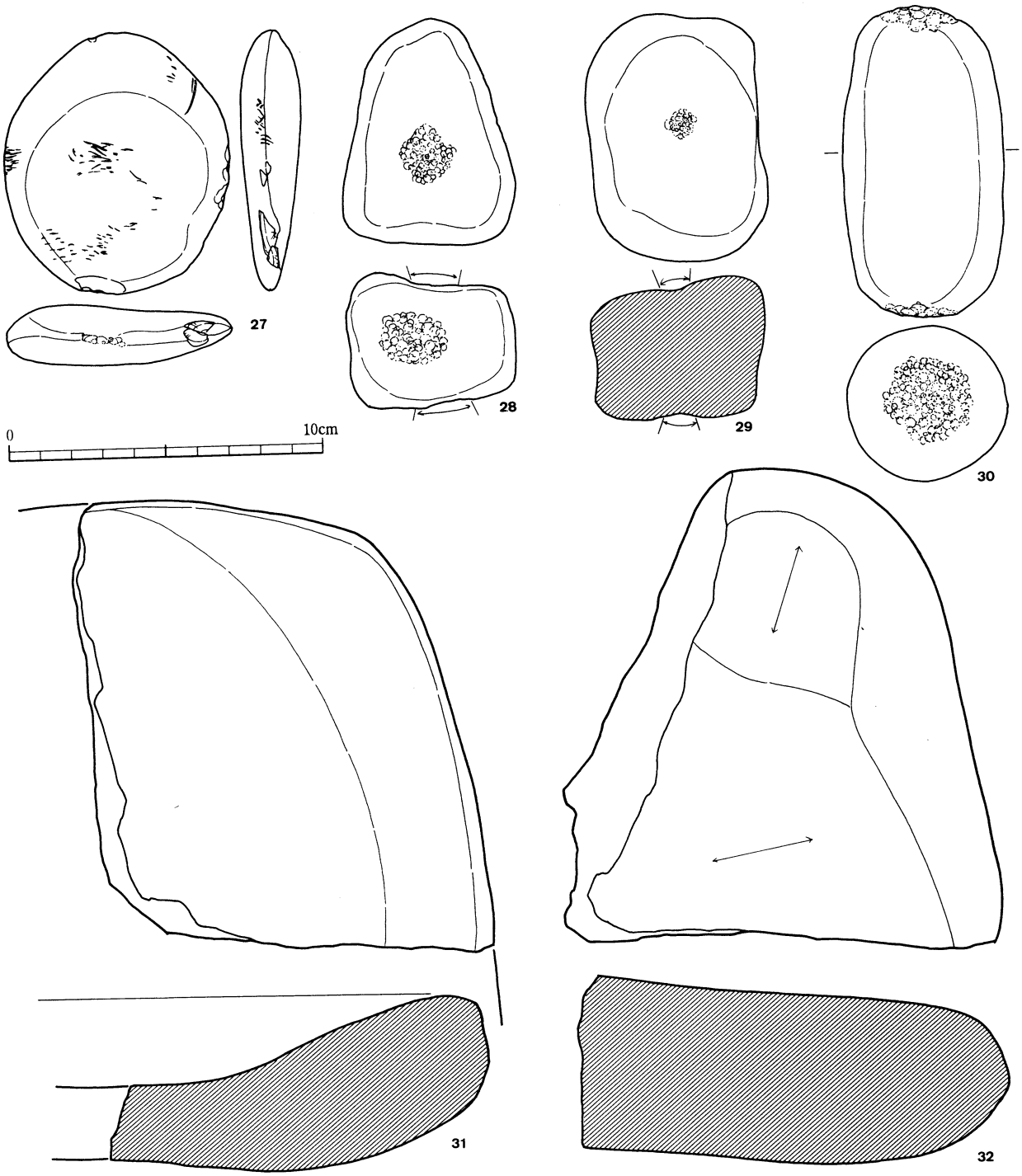
第134図　岩本遺跡・石器 1



第135図　岩本遺跡・石器 2



第136図　岩本遺跡・石器 3

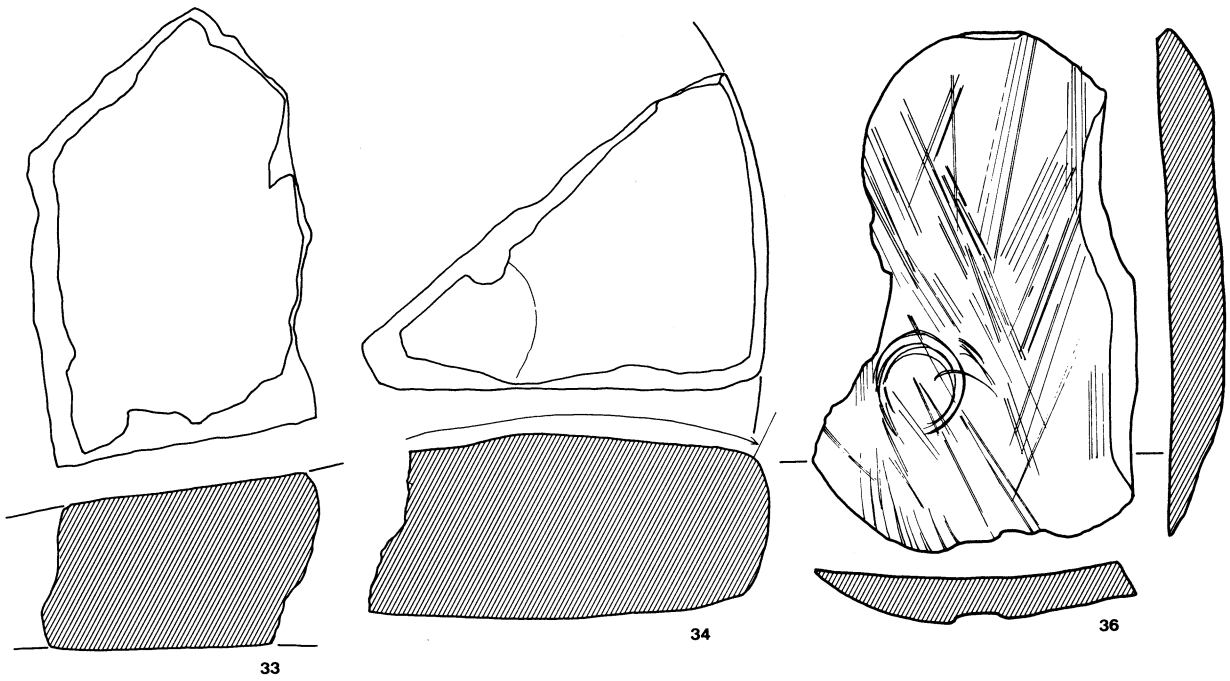


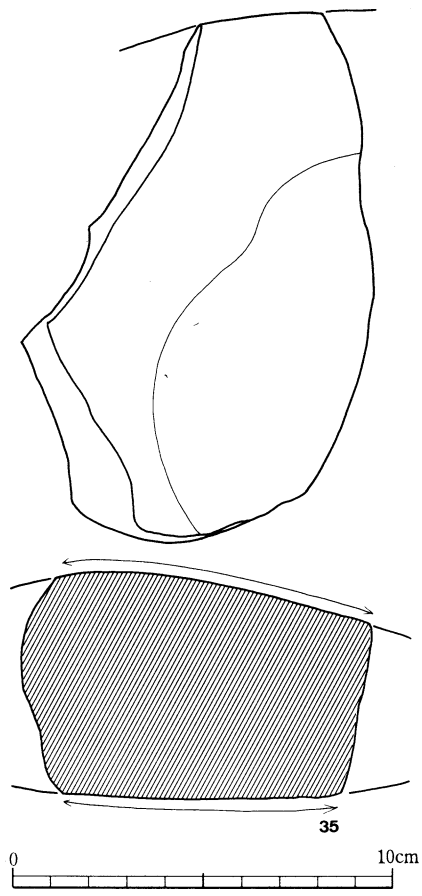
第137図　岩本遺跡・石器 4

石斧（第136 図　№18～26）

8 点の資料が出土しているが，破損の比率が高いと判断される。

№18は小型の打製石斧の基部で，刃部は欠損していると判断した。№19と20は刃部のみで，刃部付近の部分磨製と思われる。2 点とも入念な研磨が認められる。№22はその後，№24の刃部として接合復元されている。24は剥片を素材とした可能性が高く，ほぼ全周に研磨が認められ全磨製の様相を呈している。なお，重量があり，伐採具としての要素は十分に備えている。№21と25





第138図　岩本遺跡・石器5

は礫素材で体部は磨耗しているが，研磨の痕跡が認められる。いずれも刃部は大きく欠損している。№23は扁平な粘板岩を素材とし，使用痕と見られる擦痕が観察される。また，マンガンの付着も顕著に見られる。№26も粘板岩の扁平剥片を使用し，周辺加工は形状整形が主でその後，両面を研磨し仕上げている。

叩き石orハンマーストーン（第137図　№27・30）

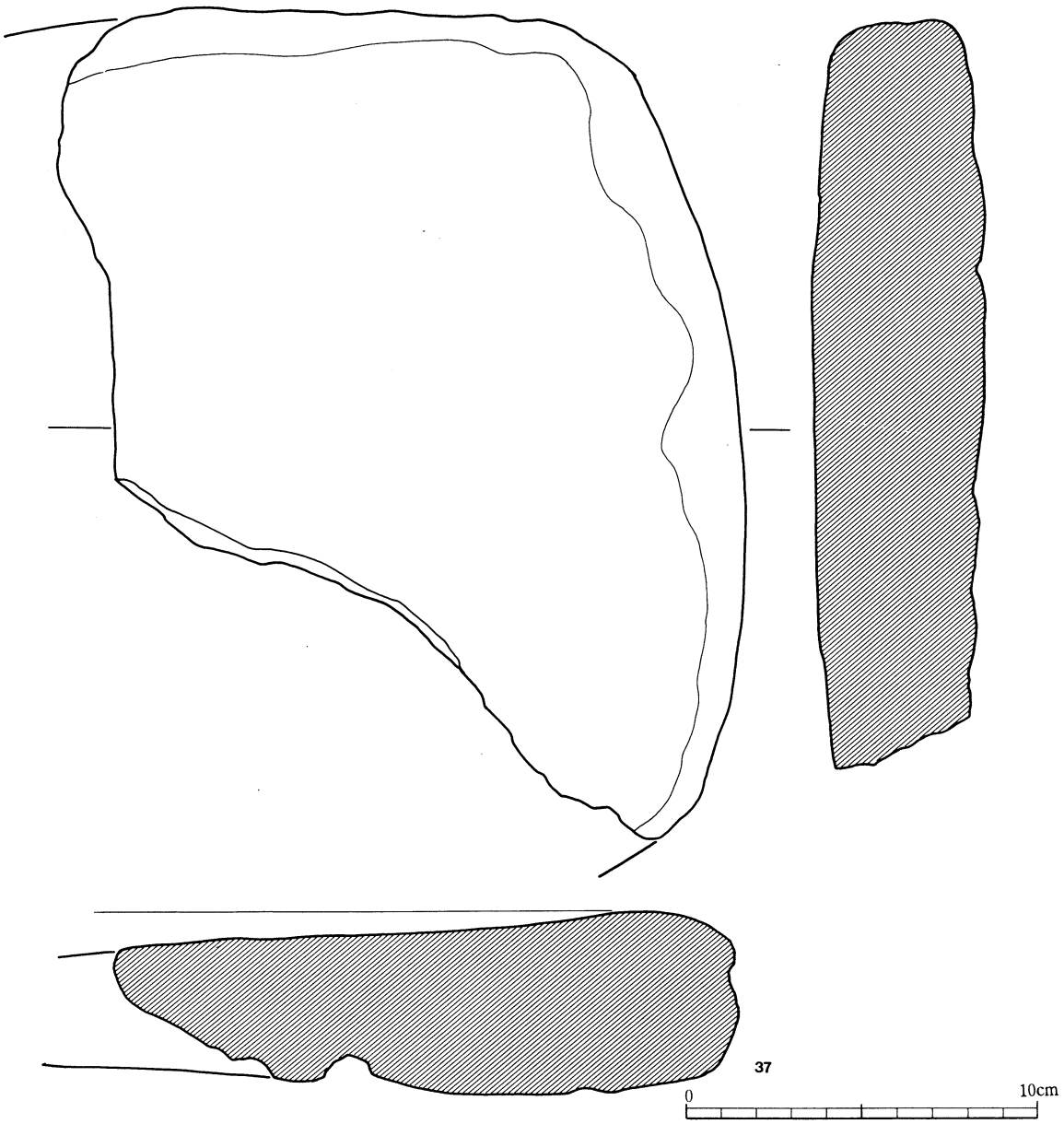
煎餅状の扁平な円礫で，硬質の砂岩を使用している。円礫のほぼ全体に敲打やリタッチ痕が見られ，外周部に敲打による剥落が集中する。なお，短い線状の擦過痕が多数認められることからストーンリタッチャーの可能性も考えられる。30は棒状の花崗岩を用いたもので，両端に敲打痕が明瞭に残される。

凹石（第137図　№28・29）

№28・29は花崗岩の角礫を用い，表裏・両側面・底面の5ヵ所に使用による凹部が認められる。

石皿（第137・138・139図　№31・33～35・37）

№31は定型化した石皿の一部と判断される。石材は粒子の粗い輝石安山岩で，形状は方形ないしは台形を呈し，整形は敲打で行っている。作業面は使用により深く窪み，石皿の右側縁部の一部と思われ，底面は元来縦・横方向共に緩やかな弓状を呈していたと思われるが，使用の磨耗により平坦化している。№37も周辺部に敲打整形が認められ，定型化の傾向が認められるが，底面の形状は異なっている。また，№33・34も同様と言える。端部



第139図　岩本遺跡・石器6

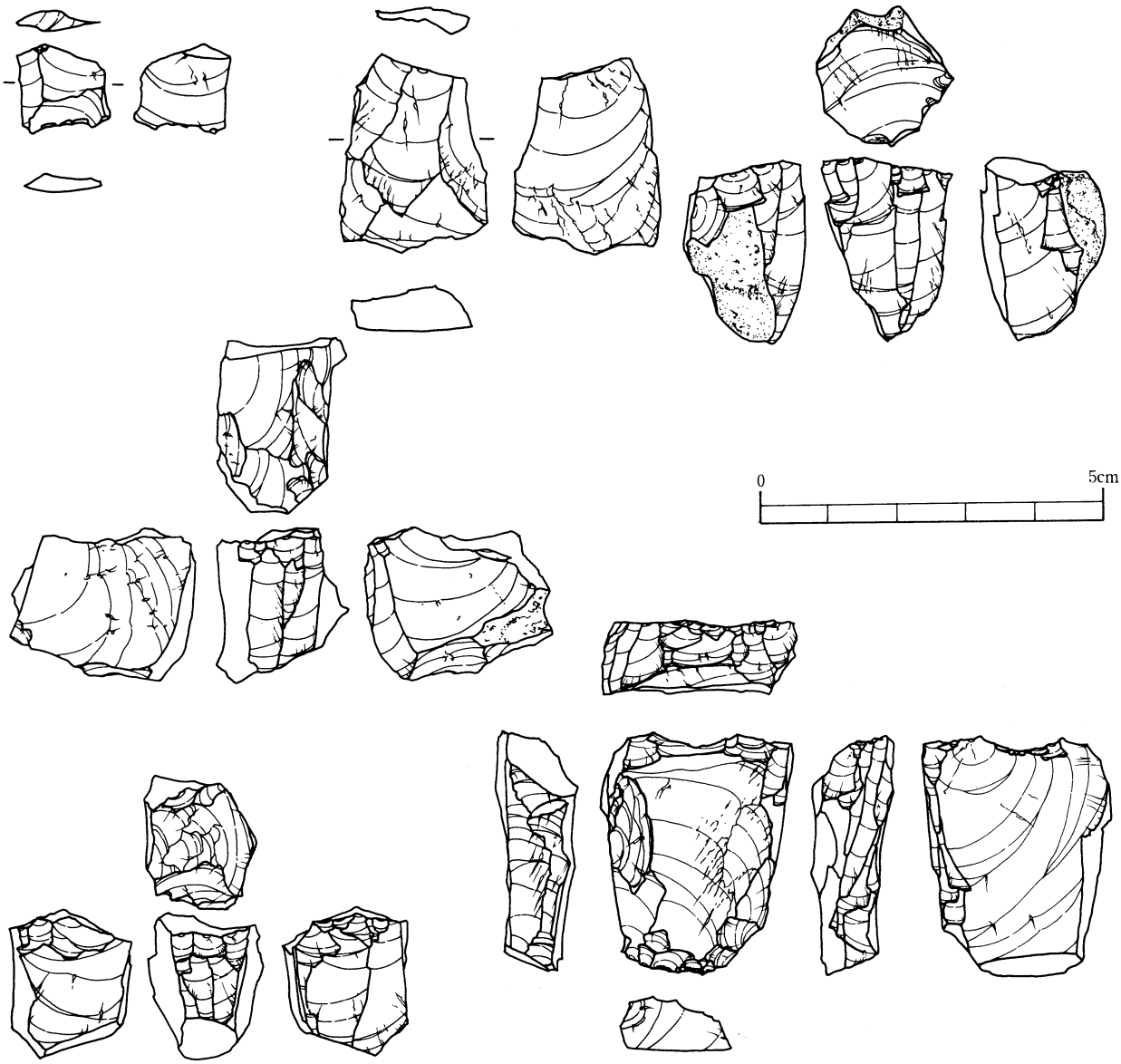
では入念にくり返される。以上のように，31や37の石皿に見られるような形状が定型化していることは，その生活基盤を伺うに貴重な資料と言えよう。

砥石（第137・138図　№32・35・36）

№32は砂岩を使用したもので，両面が作業面に相当し，表面には方向の異なる2面の作業面が認められる。№35も砂岩を用い，両面が作業面に該当する。№36は粒子の細かい扁平な砂岩を素材としたもので，作業面に円形・直線の線状擦痕が多数残される。

表66　岩本遺跡遺物観察表（石器）1

挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
134	1	打製石鏃	1・2	0・9	D-3	C′ 1261	黒曜石（良質・産地不明）	1/1	小型の三角形平基。左側縁部は微調整剥離が認められる
	2	打製石鏃	1・8	1・2	D-3	C′ 1741	黒曜石（良質・三俣産?）	1/1	三角形平基。基部の一部を破損するが、丁寧な整形で先端部は鋭い。
	3	打製石鏃	1・8	1・6	D-3	C′ 1217	黒曜石（上牛鼻産・漆黒）	1/1	三角形平基。中央部から先端部にかけて厚く仕上がる。
	4	打製石鏃	2・1	2・2	E-5	C′ 294	黒曜石（県外産・透明）	1/1	三角形平基。中央部やや厚く仕上がる。先端部鋭い。
	5	打製石鏃	1・5	1・5	D-4	C′ 1332	黒曜石（良質・三俣産?）	1/1	三角形凹基。両側縁共に微調整剥離が認められる。
	6	打製石鏃			D-3	C′ 2146	黒曜石（良質・灰黒色）	1/1	三角形凹基。脚部のみの残存。
	7	打製石鏃	1・9	2・3	E-4	C′ 1169	安山岩（黒色）	1/1	三角形平基。中央部やや厚く仕上がる。
	8	磨製石鏃	1・7+	1・6	D-4	C′ 703	粘板岩（灰黒色）	1/1	現存資料から推定復元すると凹基の三角形長身鏃と判断される。研磨整形は丁寧に成される。
	9	磨製石鏃	2・3+	2・3+	E-3	C′ 1311	粘板岩or頁岩（灰黒色）	1/1	現存資料から推定復元すると三角形長身鏃と判断される。研磨整形は丁寧に成される。
	10	磨製石鏃	4・9+	2・8	A-7	C 254	粘板岩or頁岩（灰黒色）	1/1	先端部破損。平基の三角形長身鏃。裏面は自然面に近い様相を成すことから、偏平な剥片が素材と思われる。
	11	磨製石器	1・6+	1・7+	F-5	C′ 3042	粘板岩or頁岩（灰黒色）	1/1	両端・下端が大きく破損することから、器種は不明。鋸歯状の細い切り込みが丁寧に行われている。
	12	石匙	3・5	2・7	D-3	C′ 1823	安山岩（灰黒色）	1/1	縦型の形状で斜刃を成す。頭部にU字状の抉りを対に設ける。厚みが左に片寄るのは、調整剥離が不十分なことによる。
	13	尖頭器	8・0	2・2		C′	頁岩（軟質）	1/1	風化が激しく詳細な観察は困難。縦長の形状を成す剥片を素材とし、部分的に研磨を施す。
135	14	尖頭器（両面加工）	2・8+	3・8+	B-9	C 143	安山岩（硬質・灰黒色）	1/1	裏面の大剥離が素材剥離面に相当？。表面及び裏面の整形は、複数の整形剥離が実施される。
	15	尖頭器（両面加工）	5・1+	3・8+	D-4	C′ 2891	安山岩（硬質・灰黒色）	1/1	素材剥離面は残らない。表面及び裏面の整形は、複数の整形剥離が実施される。
	16	尖頭器（磨製・両面加工）	3・3+	3・7+	D-5	C′ 3593	安山岩（硬質・灰黒色）	1/1	完形土器の中で出土。表面及び裏面は入念な研磨により平坦面を形成、その後周辺剥離が実施される。
	17	尖頭器	7・8+	3・0		C	シルト質頁岩（灰白色）	1/1	表面の大剥離はネガティブ面。両側縁及び基部は整形剥離が実施される。
136	18	石斧（小型打製）	4・4+	3・5	D-5	C′ 3697	安山岩（黒色）	1/2	刃部破損。両側縁等の整形剥離は丁寧に実施される。
	19	石斧（磨製）	5・0+	3・5+	D-4	C′ 82	砂岩（硬質・灰色）	1/2	刃部のみ。刃部の研磨仕上げは丁寧で、鋭い。
	20	石斧（磨製）	4・8+	6・7+	E-4	C′ 1677	頁岩（灰黒色）	1/2	刃部のみ。刃部の研磨仕上げは丁寧で、鋭い。詳細不明
	21	石斧（磨製）	8・9+	5・6+	E-5	C′ 1082	砂岩（硬質・灰黒色）	1/2	刃部破損。体部の研磨仕上げは丁寧。詳細不明。
	22	石斧（磨製）	3・4+	4・8+	A-9	C 124	頁岩（灰黒色・白斑）	1/2	刃部のみ。刃部の研磨仕上げは丁寧で、鋭い。24と接合。
	23	石斧（打製）	8・6	3・7	D-4	C′ 1393	粘板岩（黒色・マンガン）	1/2	剥片素材。刃部を中心に使用時の擦痕残る。
	24	石斧（磨製）	16・5	6・3	A-10	C 228	頁岩（灰黒色）	1/2	刃部使用による刃こぼれ。体部の研磨仕上げは丁寧。
	25	石斧（打製）	12+	6・7	D-4	C′ 1467	安山岩（灰色）	1/2	礫素材。刃部破損。頭部破損。詳細不明。
	26	石斧（部分磨製）	15・3	6・7	D-4	C′ 2047	粘板岩（黒色・マンガン）	1/2	剥片素材。刃部を中心に使用時の擦痕残る。
137	27	叩き石	8・3	7・1	E-4	C′ 2328	砂岩（硬質・黒褐色）	1/2	偏平礫素材。周辺部中心に敲打痕・剥離痕残る。
	28	凹石	7・3	5・5	E-6	C′ 403	花崗岩（灰白色）	1/2	背面を除く５面に窪みを持つ。
	29	凹石	7・8	5・5	E-4	C′ 862	花崗岩（灰白色）	1/2	表面・裏面に５面に窪みを持つ。
	30	叩き石	10・0	5・0	D-4	C′ 1905	花崗岩（灰白色）	1/2	敲打により棒状に整形、両端が作業面。
	31	石皿	14+	12+	A-6	C 1031	輝石安山岩（軟質・灰色）	1/2	接地面は船底状。作業面は使用により深く窪む。
	32	砥石	15+	14+	A-6	C 982	砂岩（硬質・茶褐色）	1/2	両面共に作業面。作業面は光沢を持ちツルツル。
138	33	石皿	11+	7+	C-4	C′ 1934	輝石安山岩（灰白色）	1/2	板状礫素材。作業面・接地面共に平坦。
	34	石皿	8 +	11+	D-3	C′ 2984	輝石安山岩（灰白色）	1/2	接地面は船底状？。作業面は使用により窪む。
	35	砥石	13+	9+	B-8	C 201	砂岩（硬質・灰白色）	1/2	両面共に作業面。作業面は光沢を持ちツルツル。
	36	砥石	13・2	8・3	E-3	C′ 2157	砂岩（硬質・茶褐色）	1/2	作業面に線状擦痕（直線・円形）が残る。
139	37	石皿	24+	18+	F-4	C′ 2232	輝石安山岩（灰黒色）	1/2	接地面は船底状？。作業面は使用により窪む。



第140図　岩本遺跡・石器 7

表67　岩本遺跡遺物観察表（石器）2

挿図	番号	器種	長さ cm	幅 cm	出土区	登録番号	使用石材	縮尺	備考
140	1	剥片			B		シルト質頁岩（灰白色）	1/1	偏平な断面台形の不定形剥片。
	2	剥片			B		シルト質頁岩（灰白色）	1/1	稜の高い断面台形の不定形剥片。頭部除去。
	3	細石核			B		シルト質頁岩（灰白色）	1/1	分割礫素材。打面と同様右側縁も分割面。打面は分割時の平坦面をそのまま使用し打面調整なし。
	4	細石核			B			1/1	分割礫素材。打面と同様左側縁も分割面。打面は分割時の平坦面をそのまま使用。右側縁は打面からの調整剥離。下縁調整剥離。
	5	細石核			B		黒曜石（上牛鼻産）	1/1	分割礫素材。打面は分割時の平坦面をそのまま使用し細調整剥離実施。打面調整。側縁調整は打面から。背面形成は左側縁から。
	6	細石核			B		シルト質頁岩（灰白色）	1/1	剥片素材。

第7章　まとめ

台形石器

112点の台形石器・台形様石器の中で，黒曜石製品が90%と極めて高い利用を占めている。

1　素材の選択に差異が存在することが指摘できた。それは，不定形剥片を使用し，剥片の特色を活かしながら基本的に1剥片から1製品を造り出したものと，縦長剥片ないしはそれに類する素材を使用したもので，それらの素材に折断（分割）技術を併用して製品化したものとに大きく区分　することができる。特に後者は，複数の製品化を可能にし，形態的に百花台型台形石器の範疇に　含むことができる。

2　不定形剥片使用が73%，縦長剥片使用が27%と前者が主体を占める。

3　さらに両者は，刃潰し加工の部位によりそれぞれ3区分できる。1類～3類。4類～6類。

4　不定形剥片を使用した製品は，その多くで刃部が斜刃あるいは丸刃を成す傾向が認められ，縦長剥片を素材とし折断技術を併用した製品は，刃部の大部分が直刃を成す。

5　平面形状では，台形・逆三角形，長身の短冊状が認められる。特に，この短冊状（64～76）のものは，台形様石器と呼ばれるものである。

ナイフ形石器

89点のナイフ形石器を確認できる。

1　大型品と小型品があり，両者では主体となる使用石材が異なっている。大型品では硬質頁岩，軟質シルト質頁岩が使用され，小型品では黒曜石・水晶・石英質石材・玉髄・シルト質頁岩・変性質凝灰岩等の多様な石材が使用されている。中でも，大型品に使用される石材は，その選択及び剥片剥離技術において本遺跡の剥片尖頭器との共通性が指摘できる。

2　形態的には，小型品が各種形態を含んでおり多様化している。他方，大型品は基部加工・一側縁加工・二側縁加工のナイフ形石器が確認できるが，剥片素材の共通性等も含め，剥片尖頭器との類似性を持つと指摘できる。また，171のように，基部に裏面加工を施したものも存在している。

3　大型品と小型品との関係について，編年上で時間差を指摘する意見もあるが，本遺跡の遺物の出土状況や分布状況においては，明確に差異を指摘するに至っていない。むしろ同時性の傾向を示　していると判断される。

剥片尖頭器

1　使用石材は硬質頁岩が主体を占め，軟質シルト質頁岩がそれに続く。その外，砂岩と黒曜石が1点ずつ製品化されている。

2　素材剥片は，本遺跡出土品の中で最も安定した縦長剥片を用いている。この安定した縦長剥片は硬質頁岩，軟質シルト質頁岩で認められる。素材打面は単剥離打面より，複剥離打面が優勢でありまた，打面除去も認められる。

3　形態については，調整（整形剥離）の部位により細分できる。①片側側縁全体と基部（茎部）に施されるもの。この場合，側縁部の整形剥離は急角度を成す傾向が認められる。②片側側縁の

一部と基部に施すもの。③両側縁部の一部と基部に施すもの。④側縁全体あるいはほぼ全側縁部に施すものが認められる。

4　基部（茎部）の造り出しは明確で，複面の整形加工は顕著に行われる。

尖頭器

1　全てが剥片素材で，板状に剥離する粘板岩質の石材を使用している。

2　素材は薄手のものを主体に，やや厚手のものを利用しており，両面加工を行っているが，周辺からの整形剥離は器体の中央部を基本的に越えることはない。したがって，製品の厚みは素材自体の厚みで大方決定される。

3　整形剥離は第1段階の大まかな剥離と，先端部作出等の細かな整形に大きく2分できるが，器体を薄く仕上げようとする工程は無く，片面，もしくは両面に素材面を残している。

4　基部の造り出しが特徴的で，片面側を下方から粗く調整した後，反対側を細かく調整して“直線的な基部”に仕上げている。

以上が，本遺跡出土の尖頭器に認められる特徴である。そこで，1から4で指摘したこれらの特徴を備えた尖頭器を「小牧3A型尖頭器」（235・237・238・239）と呼称したい。ちなみに，この尖頭器の範疇に含まれるものが，鹿屋市西丸尾遺跡，松元町前山遺跡から出土している。

三稜尖頭器

いわゆる三稜尖頭器（11点）と周辺加工品（8点）に区分できる。

1　三稜尖頭器は小型品が主体を占め，1点の大型品（254）が含まれる。

2　三稜尖頭器の整形剥離は，甲板面（裏面）から稜線方向に行い，個体により部分的に稜線から調整剥離を施している。

3　三稜尖頭器の三面加工品は少なく，甲板面全面を覆うものは皆無である。わずかに基部周辺に平坦な調整剥離（250・254）が見られる。

4　周辺加工品についての系譜や出自については，現時点では慎重を期したい。

ブランティング・チップ

ブランティング・チップについては，1994年「百花台東遺跡」調査報告書の中で，門脇秀典氏が詳細な研究成果を提示している。今回は，これらの研究成果を参考にしている。

「真正なブランティング・チップ」は，剥片尖頭器（214）すなわち接合資料（494-2）と直接接合している（494-1）の1点である。したがって，“石器（剥片尖頭器）の仕上げ段階の整形剥離によって生じた剥片すなわち整形剥片”と認定できる。そこで，この接合資料から真正なブランティング・チップを認定すると，1から3までが指摘できる。

1　ブランティング・チップの打面は，素材剥片及び剥片尖頭器の仕上げ段階の腹面（主要剥離面）に相当する。したがって，打面は平坦面（単剥離打面）である。

2　ブランティング・チップの背面に残る複数の剥離面は，先行したブランティング・チップの剥離面と言える。

3　底面すなわち，背面と腹面に挟まれた素材剥片及び剥片尖頭器の背面の平坦面（剥離面）に該当する。本例では，平坦面を成している。

そこで，ブランティング・チップに該当する資料として提示した420～438について検討すると，

おおよそ次のように解釈できる。①平坦な打面と平坦な底面を持つ資料で，お互いはほぼ平行関係を成すものは，ブランティング作業が素材剥片の背面の平坦面まで達していることを示していると解釈できる。したがって，打面と底面の距離から，石器の厚みを推測することが可能である。②平坦打面を持ち，底面を形成しない資料は，ブランティングが素材剥片の背面に達していないことを示している。

本遺跡のブランティング・チップの中に，打面を水平に置いたとき，底面がそれぞれ左に傾斜するものと右に傾斜するものが存在している。前者すなわち，左に傾斜する資料（打面から底面までの距離が左側が長いもの）は，剥片尖頭器左側縁部のブランティング・チップに相当し，なおかつ，先端部付近のチップに該当することとなる。一方，後者の右に傾斜する資料は，右側縁部のブランティング・チップと判断できる。なお，接合資料の確認と共に，ブランティング・チップが存在していることは，本遺跡において石器製作工程の最終段階に極めて近い（整形剥離）作業が行われたと判断できる。

石核

石核の形態については礫素材，分割礫素材，剥片素材の大きく３区分が存在する。

石核１類　円礫等の特に小型礫を素材としたもので，石核の剥片剥離作業面が両刃礫器状を成し，剥片剥離が交互にくり返されるもの。

石核２類　石核素材に剥片を用いたもので，２種に細分できる。

２ａ類　剥片剥離作業が同一方向でくり返されるもの。

２ｂ類　剥片剥離作業で打面転移が認められるもの。

石核３類　石核素材に分割礫を用いたもので，２種に細分できる。

３ａ類　剥片剥離作業が同一方向でくり返されるもの。

３ｂ類　剥片剥離作業で打面転移が認められるもの。

縄文時代

小牧３Ａ遺跡Ⅰ類土器は，加栗山遺跡出土の加栗山Ⅳ類土器（円筒形土器）に該当するもので，その後個々の研究者により“栃ノ原タイプ土器”，“加栗山タイプ土器”，“加栗山式土器”，“前平式土器”，“知覧式土器”と呼ばれている。この時期の土器変遷については，先学である河口貞徳により石坂式土器・吉田式土器・前平式土器に区分され，編年についてもこの序列が提唱されていた(河口1955)。

その後，新東晃一は加世田市栃ノ原遺跡(1) の報告で，出土縄文土器の分類を行い，特に栃ノ原６類土器・栃ノ原７類土器について意見を述べ，栃ノ原６類土器を栃ノ原タイプ土器と呼称し，いわゆる吉田式土器様式の範疇と理解した。そのため吉田式土器様式は，河口設定に基づく吉田式土器(1) と栃ノ原タイプ土器（その後知覧式土器と変更）とを包括するとし，吉田式土器を２細分する考えを提示した。一方筆者は，同様な土器群と縄文時代早期前半では他に例をみない集落構造を展開・提示した加栗山遺跡の分析に基づき，加栗山Ⅳ類土器・Ⅷ類土器が独立して存在する可能性の高いことを指摘し，「加栗山タイプ土器」と呼称した（「・・したがって，加栗山遺跡の集落を構成し，他の土器形式・・を全く含んでいないことは加栗山タイプの土器に一定の時間的，領域的な独立性を与えるに充分足りうる条件を満たしている・・」）。それらは，17基の竪穴住居が発見

された加栗山遺跡の16基の住居はこの加栗山タイプの土器に支配されることに基づいている。

このような経緯を経て，河口は前平式土器・吉田式土器の再提起を行い，このⅠ類土器は前平様式土器の中の前平式土器であるとの見解を示し，その帰属を巡る混乱・不統一な呼称等は今日に及んでいる。このような状況の中，近年資料の蓄積も進み，新たな方向性が指摘できる状況が生まれつつある。

現在，このⅠ類土器についてはそれぞれ河口が「前平式土器」，新東が「知覧式土器」，本田道輝が「栫ノ原タイプ」，前迫亮一が「加栗山式土器」の個々の名称を用いている。なお，前迫の「加栗山式土器」は筆者の「加栗山タイプ」を踏襲したものであることから，今後はこのⅠ類土器については前迫が呼称している「加栗山式土器」(前迫1994)と呼ぶこととし，改めて「加栗山式土器」の提唱を支持したい。

加栗山式土器については，吉田式土器と近接する土器であるとの意見を述べたことがあり，編年的序列では現在でも近接した関係を見出せる。しかし，南九州の早期前半の土器文化の中で，加栗山式土器が極めて独自の発達段階に到達していることが明らかになり，これまでの理解では包括しえない現状と認識される。そこで再度，加栗山式土器を理解し直し検討を加えてみたい。加栗山遺跡の発見以来，この加栗山式土器を安定的に出土する遺跡が本県を始めとし，宮崎県内でも多く発見され，南九州を主要な地域として，分布している土器文化であったことが明らかになってきている。特に，竪穴住居・集石遺構・連穴土坑・中央広場を備えた拠点集落を形成した加栗山遺跡・前原遺跡を筆頭に，多量の遺物を始め集石遺構や連穴土坑を備えた田野町札ノ元遺跡等の遺跡のありかたは，いわゆる「拠点・中核的」機能を備えた遺跡との理解が可能であり，基盤に基地（ベースキャンプ）機能を有した集落の存在が明らかになってきている。このことは，加栗山式土器文化が南九州縄文時代早期前半の社会にあって，強固でかつ安定的生産活動により支えられていたと判断できる。一方，加栗山式土器と前後する土器型式を伴う遺跡では，集落等を伴う拠点遺跡の存在はもちろん竪穴住居等の発見は未だ知られておらず，加栗山式土器文化との間に隔絶の感がある。

近年の発見例を追加して加栗山式土器文化を評価すると，改めて同土器文化が南九州早期前半の時代の中にあって，特筆すべき発達を果たした土器文化と認識することができる。函館市の中野B遺跡が発見され，大規模の集落の存在が明らかにされつつあるが，中野B遺跡が早期後半であることと比較しても，南九州の縄文文化の早熟はまさに驚異と言える。追認すると加栗山式土器文化の集落構成の充実は，社会的文化的頂点に到達していたことを我々に伝えており，そのメッセージは取りも直さず加栗山式土器を独立した土器型式（様式設定）足り得ると判断できる(前迫1994)。したがって，河口の前平様式（前平式土器），新東の吉田様式（知覧式土器）のいずれからも分離する必要を指摘し，加栗山式土器（様式）の設定の必要性を指摘したい。

なお，栫ノ原タイプと呼称する本田はすでに「・・・独立一型式・・・」と認めるべきであると提言しているが，そこで，立ち返って帰属論争の契機となった栫ノ原6類土器について触れると，新東が分類した栫ノ原6類土器即ち「栫ノ原タイプ」には，「吉田式土器」と「栫ノ原タイプ＝加栗山式土器」の両型式を含んでおりそのことが混乱を生じる要因となったことが指摘できる。したがって，本来であれば栫ノ原6類土器は，吉田式土器と加栗山式土器は分類を異にして，帰属を検討し論ずべきであり，さらに，吉田式土器が既に独立した土器型式として設定されていた以上は，

栫ノ原6類土器の分類は慎重を期さなければならなかったと言える。

最後に，加栗山式土器について整理すると，

①加栗山式土器は，加栗山遺跡出土の加栗山Ⅳ類の円筒形土器と加栗山Ⅷ類の角筒形土器で象徴される。

②特徴的なものに，縦位の楔形の突帯文貼付けの出現がある。この突帯文の貼付けは，円筒形土器・角筒形土器に同じように行われるが，それぞれ貼付けの行われないものもある。

③楔形突帯文は口縁部下位（横位の貝殻刺突線文の直下）から胴部上位に，縦方向に2列ないし3列で規則的に並列して施される。この楔形隆帯文間の間隔は，吉田式土器に比べて広い特徴が指摘できる。

④円筒形土器では，器壁は4～5㎜程と薄く，口縁部の形状は直行するものとやや外反するものが存在する。口唇部は正円形を成し，丁寧にナデて仕上げた後，ヘラ状工具により浅い刻みが口縁部に直行するように規則的に施される。角筒形土器も器壁の状態，口唇部の整形及び刻みの手法は同様で，口縁部は基本的に外反しながら直行する。口縁部は四隅が突出して高くなり，その間は緩やかな曲線を呈す。器面の色調は，光沢のある赤褐色や黒褐色・灰褐色等が見られ，焼成は極めて良く硬質な仕上がりを成す。

⑤口縁部直下には，貝殻腹縁部の押圧による横位の貝殻刺突線文が並行するよう2～3列施される。

⑥口縁部以下は，条痕（貝殻）による横位あるいは斜位の器面調整がなされ，それらが規則性をもって行われているため文様的効果（地文が条痕文）が得られている。施文は，この条痕文を地文とし，その上位に貝殻腹縁刺突の組合せによる直線文・菱形文・Y字状文等の刺突文を施文している。

⑦底部の造りも丁寧で，総じて端正な仕上げがなされ，底部側面に縦位の浅い沈線文が連続して規則性をもって施される。この底部側面の沈線文は，ほぼ全てに認められる。

加栗山式土器は，以上のような個性（特徴）を列挙することができる。さらに，吉田式土器が胴部施文を貝殻腹縁部を用いた押し引き文で構成する強固な個性を保持することから，今後加栗山式土器のバリエーションを検討することが可能である。ちなみに，本遺跡のⅡ類土器はその可能性の高い土器と言える。

〈註〉

新東晃一編「村原(栫ノ原)遺跡」加世田市教育委員会1977

長野真一-まとめ-「上祓川遺跡群(上楠原・水ノ谷・丸岡遺跡)」鹿屋市教育委員会1984

新東晃一「南九州の円筒土器と角筒土器-前平式土器と吉田式土器の型式概念をめぐる諸問題-」(考古学と関連科学)『鎌木義昌先生古希記念論文集刊行会』1988)

河口貞徳「吉田式と前平式のその後について」『鹿児島考古』1989

（1）吉田式土器については、河口分類をそのまま踏襲

（2）加栗山遺跡報告書の分類

(前迫1994) 前迫は加栗山遺跡・前原遺跡・鹿大桜ヶ丘団地遺跡は、この加栗山式土器の段階の拠点集落の可能性が高いとの見解を提示している。

(河口1955)「‥円筒形平底で、口縁部はやや外反し、口縁上面は平坦で外部へ向かって傾き、刻目を付している。角筒形平底の土器も見られる。文様は頸部に貝殻口縁によって、削り出した凸起帯を二列乃至三列に並行するもの，しいの実状のものの圧痕を並行したもの，或いは貝殻口縁の・圧痕を並列し，頸部以下は，貝殻口縁を土器面にあて，水平に右側に移行しながら，圧力を断続的に加える方法に依って施文したと思われる条痕を施してある。底部は篦状の工具による縦刻線を施したもの，或いは貝殻口縁に似って圧痕を施したもの等がある・・」と規定されその後，

胴部に施される“押し引き文”が吉田式土器の固有の手法であるとされる。吉田式土器については，河口が既に型式設定を行っており（河口1955），他の研究者も基本的に踏襲していると判断される。

岩本遺跡　縄文時代

岩本遺跡からは，6点の隆帯文系土器・岩本Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ類土器・前平式土器（永野タイプ1点）・押型文土器（4点）が出土しているが，出土遺物の主体は圧倒的に岩本Ⅰ～Ⅳ類で占められる。なお，これらの土器はⅨ・Ⅹ層に包含され詳細な区分は成しえない。したがって基本的に出土層位は同一で，明確に区分できる状況にない。

隆帯文系土器（P214）の中の1・2は，口唇部や隆帯文上に貝殻腹縁部を連続して押圧したもので掃除山遺跡や奥ノ仁田遺跡出土の土器に類似する資料と言える。また，縦位の隆帯文の長さの違いはあるが，3のように口唇部に直行する隆帯文を持つ類例も，奥ノ仁田遺跡で知られている。4は天地が明らかでないが，口唇部とは無関係な位置に略U字状の短い隆帯文を貼付けた資料と判断できる。5は図面復元したもので，17·3㎝の復元口径が出ている。口唇部は，岩本Ⅰ～Ⅳ類土器に共通する調整具の木口状工具で外面から刻まれ，（浅い押圧）小さな波状口縁を成し，口縁部直下に横位の貝殻刺突線文が2列並行して施される。器面調整は，外面が横方向のナデ仕上げ，内面は貝殻条痕で仕上げ，口縁部下位の隆帯文以外は基本的に本遺跡の岩本Ⅰ～Ⅳ類土器に特徴的に見られるものと共通した特色を備えている。また，口縁部の内面及び外面に明瞭な段が残される特徴は，Ⅱ類土器と共通する。

今回分類した岩本Ⅰ～Ⅳ類土器は，円筒形深鉢形の土器で，底部は全て平底を成している。器の最大径は基本的に口縁部にあり，底部から口縁部にかけては開きながら直線的に立ち上がる形状を成している（典型的形状はP235 のNo.267 の完形土器に象徴される）。Ⅰ類～Ⅳ類の4区分は，口縁部の形状に基づいている。これらのうちⅣ類土器以外は，口縁部の内面外面あるいは内面・外面のいづれかに段を有するもので，口唇部は尖るように造り出されている。その後，一部を除き尖り気味に造り出された口唇部に，棒状工具あるいは木口状工具・ヘラ状工具・貝殻復縁部等を用い，外面方向から押圧し，波状口縁と成している。この波状口縁は，口唇部に対し直行しながら深く刻むように押圧するものや浅く押圧するもの，あるいは斜め方向から押圧するものなどのバリエーションが認められる。次に，口縁部には貝殻腹縁部を縦位ないしは横位に刺突し，それらの刺突文が口縁部を一巡する。なお，貝殻刺突の縦位，横位の比率は縦位が卓越する傾向を示している。縦方向（斜めも含む）の刺突は2～3筋の貝殻腹縁部を連続して施し，それらのうち少数であるが施文方向の観察できる資料では右から左への移動パターンが主体を占めている。一方，横位の刺突は，貝殻腹縁部を口唇部に平行して連続刺突することにより口縁部を一巡し，この貝殻刺突線文は1列あるいは2列が平行して構成される。

これらを詳細に観察すると，横位に貝殻腹縁部を刺突することによりその反作用として，刺突部周辺がわずかであるが肥高する効果が生じる。また，口唇部を波状に仕上げるその手法とその意識の背景に先行する隆帯文土器に求めることは可能であろう。すなわち，隆帯文土器の退勢の中にその起源を求められる。　総じて器面調整は丁寧に行われ，最終的にそれぞれの調整具で入念にナデて仕上げられている。調整具は，指頭・貝殻条痕・木口状工具等が使用され，調整の運動方向は外面は横方向が主体である。また，内面も一部を除いて横方向の調整が卓越している。調整具では特

に，木口状工具を用いたものが注目され，古墳時代に主流となる刷毛目状の繊細で良質と同様の痕跡を残している。底部の形状，造り出しにも特徴が認められる。接地面は平坦でほぼ正円形を成し，丁寧にナデて仕上げ，内面に放射状の凹線が残される。この凹線は，ヘラ状工具あるいは櫛状工具様な並行する複数の施文具で，中心部から周辺部即ち胴部との接合部方向に向かって放射状に残されている。底部外面に，ヘラ状工具や貝殻腹縁による規則的な刻みが付けられるものがあるが（P241，№347～354·356），岩本Ⅰ～Ⅳ類土器では主流とは成りえていない。この底部外面の調整や底部外縁の刻みについては，「・・口縁部まで整形が終了した後に，土器をひっくり返して施されるものである。このように底部の調整が丁寧であるということは非常に特徴的なことといえる。・・」と注目がなされ，土器製作における細心の配慮がなされていたことが，この時期の特徴であるとの指摘がある。底部での注目される資料にP241 の№357·358 がある。これらの接地面には，スダレ状の圧痕が残されている。詳細は明らかにできていないが，№358 では繊維状の縒りが観察される。この底部圧痕と類似した資料が串間市留ケ宇土遺跡でも出土し，網代底と注目されているがいわゆる一般的な網代とは異なっている。南九州のこの段階での縄文及び撚り糸の存在については，明確な資料が確認されていない現状では新たな資料として注目される。

ここでこの岩本Ⅰ～Ⅳ類土器の特色や位置づけ等について，検討してみたい。

①第１に，木口状工具やナデ仕上げ等により，より入念な器面調整が行われている。この器面調整手法は岩本Ⅰ～Ⅳ類土器の大きな特徴と指摘できる。そのことは，その後の南九州縄文時代早期土器文化が貝殻条痕の器面調整に支配されることと比較しても，大きな相違点である。

②器面整形の方向は，内外面共に横方向が中心となる。ちなみに，次の前平式土器段階での内面調整は，縦方向の条痕ナデやヘラ削りが優勢となる傾向が知られている。

③Ⅳ類土器以外の口縁部は，口唇部の内面及び外面に明瞭な稜線を残し，断面三角形や楔状の口唇部を形成し，更に，口唇部を押圧することにより連続する小さな波状の口縁部に仕上げている。この波状口縁を成す明瞭な稜線部は，円筒形の器形形成の後，さらに口唇部に粘土紐を貼付けないしは斜め方向に引き延ばし，その後，斜め方向にナデ仕上げを行い，稜線を持つ尖る口唇部に仕上げる作業により作り出されている。ここで注目されることは，この意図的に粘土紐を積み重ねる工程の源流に，前段階の隆帯文土器を重ね合わせる可能性を指摘できることである。このことは，先の口縁部を巡る横位の貝殻刺突線文による肥厚帯効果も同様である。ちなみに，隆帯文土器群の中で，口唇部に粘土紐を貼付けるパターンは，先の掃除山遺跡・奥ノ仁田遺跡のほか，宮崎県堂地西遺跡・鹿屋市伊敷遺跡等でも知られ，更に指頭押圧やヘラ状工具で刻み，波状口縁効果を見ることもできる。

④更に，口縁部に施される横方向の貝殻刺突線文，縦及び斜め方向の貝殻刺突文は，横位のパターンと縦位のパターンが指摘され，岩本Ⅰ～Ⅳ類土器を大きく２分するに値する相違の可能性を含んでいる。即ち，横位の施文から縦位の施文への変遷が予測される。

⑤以上のことは，P214の·№5の土器存在からも支持することができる。

⑥底部内面の整形に放射状の痕跡を残す，ヘラ状工具ないしは櫛状工具を使用することもこの段階の特色として指摘できる。西丸尾遺跡でも同様の傾向を示し，さらに次の前平式土器には引き継がれていない。

⑦赤色顔料を塗彩する土器文化の存在は，それ以前には知られていない。

このように岩本Ⅰ～Ⅳ類土器は，極めて個性的特徴を備えた土器文化の基に展開した可能性を秘めていると指摘される。そこで，これまでは前平式土器の前半の土器（岩本タイプ），前平式土器様式の岩本式土器として評価されてきたが，前平式土器とは切り離し先行する土器文化と認識し，独立し岩本式土器を設定したい。更に，岩本式土器は2分できる可能性も提示しておきたい。

岩本式土器古段階（本遺跡の1～5の土器を含む，先行する隆帯文土器群と密接な関係を成す土器と，口縁部に横位の貝殻刺突線文が施され，刺突部周辺に肥厚帯を生じ，前段階土器文化の系譜を残している。）

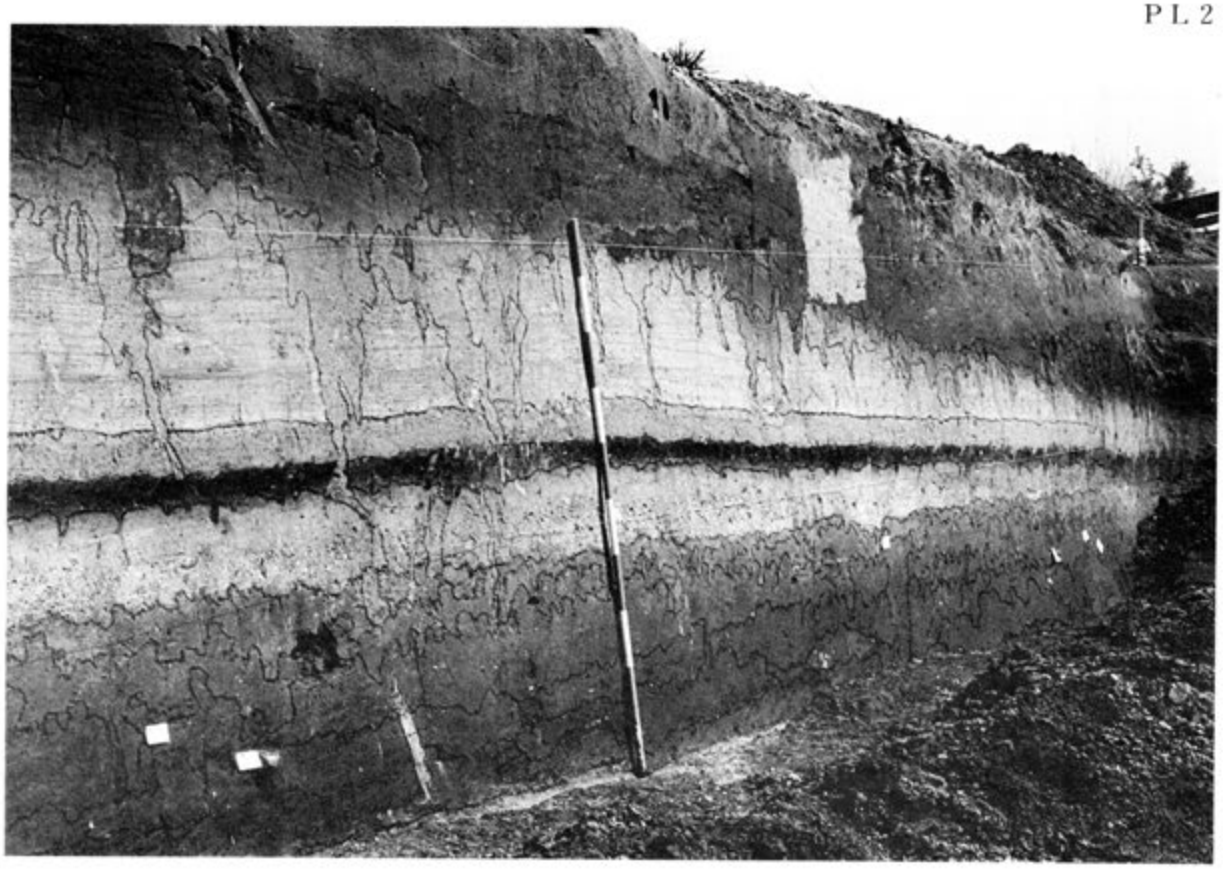
岩本式土器新段階（口縁部の刺突は，2～3筋の貝殻腹縁により縦位ないし斜位に連続して施される。）

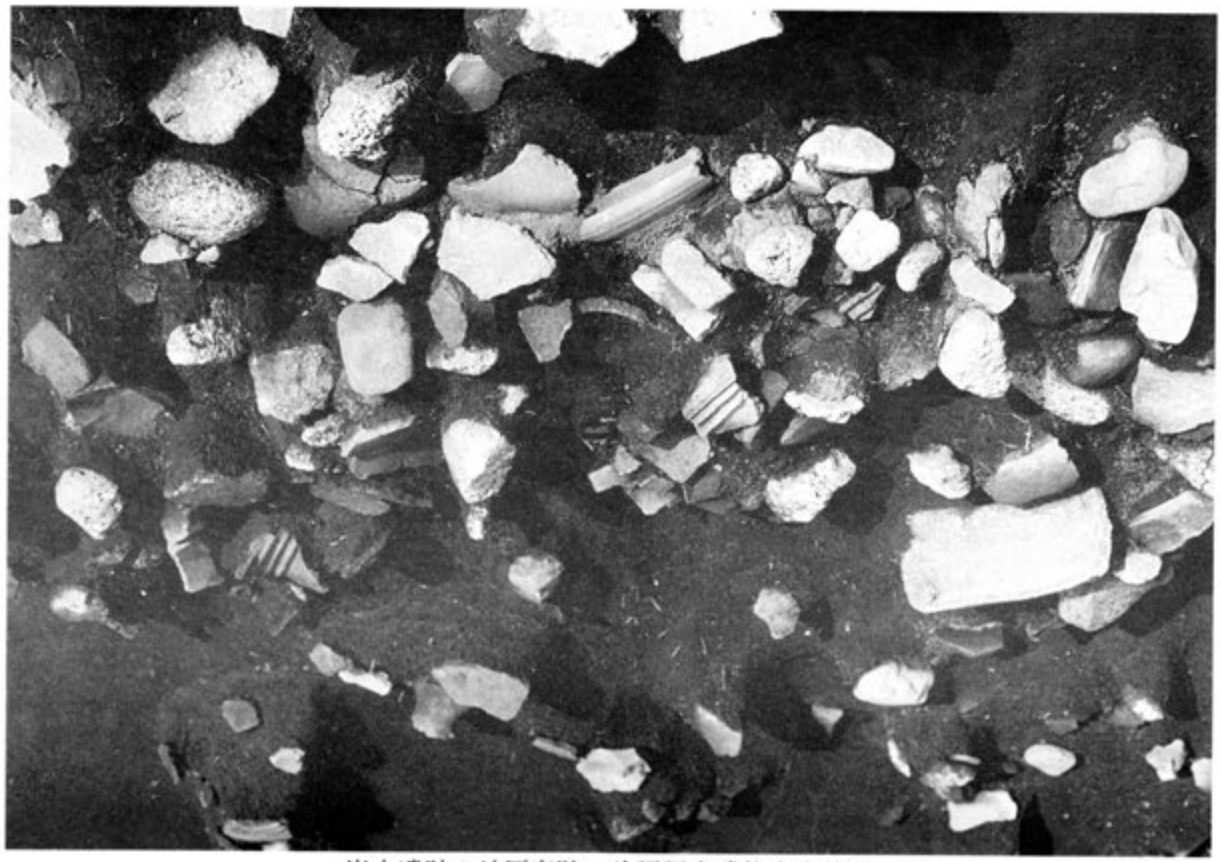
次に，上記のことが石器においても支持される可能性が高いので，記して置きたい。前平式土器・加栗山式土器・吉田式土器文化で普遍的な石鏃として，小型の正三角形鏃が主流を成すことは既に知られている。P246 のNo.3・4の石鏃は正三角形であるが，規格においては大いに異なる。すなわち，前平式土器～吉田式土器文化に普遍化する石鏃より遥かに大型であり，小型化への動向が今後注目される。一方，掃除山遺跡の打製石鏃は，平基式を大きく逸脱しないやや長身の三角形鏃に属し，No.1・2の石鏃がそれに近い。また，横井竹ノ山遺跡の打製石鏃は，掃除山遺跡の石鏃より底辺と長さが近似する傾向を示しているが，やや長身の三角形鏃に区分できる。このことは，掃除山遺跡や横井竹ノ山遺跡，岩本式土器段階は，小型正三角形鏃が成立する以前の可能性を指摘できる。磨製石鏃の発見は近年増加してきており，最初期は隆帯文土器の奥ノ仁田遺跡にさかのぼる。したがって，岩本式土器段階でも引き継がれていると解釈できる。No.12の縦型石匙は，存在の希薄なもので，後の平栫式土器まで待たなければならない。尖頭器（両面加工・磨製両面加工）も近年増加傾向にあると言えるが，本遺跡出土の製品が，形状・加工技術共に優れているがその消長は未だ明らかでない。また，輝石安山岩を用いた石皿の存在も注目すべきことで，形状の整形を入念に行い既に定型化している可能性を提示している。残された資料から判断すると，作業面は水平に，背面の接地面は緩やかな半月形に整形される。背面の形状はほぼ半月形で定型化し，作業面の形状は台形状と楕円形の2種類で定型化されている。この定型化した石皿は，初めてその存在が明らかとなった加栗山遺跡では細石器文化の所産とされているが，その後相次ぐ発見にもかかわらず未だ隆帯文土器との共伴・共有は明らかでなく，むしろ後出する加栗山式土器や吉田式土器との発見例が明らかにされつつある。その他の，石器については出土量が少ないために残念ながら論じることができない。

上記したように，岩本式土器及び石器群の出自を考えるときに，先行した隆帯文土器（南九州独自の幅広隆帯文）の存在を無視できない背景が見えてくる。岩本式土器の口唇部の形状，貝殻刺突による肥高部の作出，これらは隆帯文土器と無縁に語ることはできない。一方，石器につては，磨製石鏃は奥ノ仁田遺跡等と近似することが指摘され，打製石鏃は過渡的段階を指摘できることは先に記した通りである。

〈註〉
出口浩編「掃除山遺跡」鹿児島市教育委員会1992
児玉健一郎編「奥ノ仁田遺跡」西之表市教育委員会1995
児玉健一郎「第7章第3節」『西丸尾遺跡』鹿児島県教育委員会1992
吉本正典編「留ヶ宇土遺跡」宮崎県串間市教育委員会1994留ヶ宇土遺跡の底部圧痕は、永野ﾀｲﾌﾟ・前平B式土器・前平式土器とされる土器に該当する。
宮崎県教育委員会「堂地西遺跡」『宮崎学園都市遺跡群発掘調査報告書第2集』1985
鹿児島県教育委員会「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書29　1979
岩本タイプこの種の土器に関しては,前平式土器の岩本ﾀｲﾌﾟ・前平式土器の岩本式土器・前平B式土器の名称が使用されている。以前,前平式土器を2分し,先行する土器に岩本遺跡出土の土器群に「岩本ﾀｲﾌﾟ」を、後半に「永野ﾀｲﾌﾟ」を想定していた。その後、新東により「岩本式土器」・「前平式土器」と呼ばれている。
(0) 円筒形深鉢形の形状で,直行する口縁部が主体であるが,(P221のNo.170・No.171)のように内傾するものも含まれる。
(0) 岩本Ⅰ類土器は口唇部は外面が高く,内面が低くなるように整形され,断面は偏平片刃石斧状を呈し,内面には明瞭な稜がつく。岩本Ⅱ類土器は断面形状は両刃石器様に鋭角となり,内面外面共に体部との境界に明瞭な稜線を形成する。岩本Ⅲ類土器はⅠ類土器で見られた内面の稜線が明瞭さを欠くもので,岩本Ⅳ類土器は口唇部が平坦面を成し,その外面端部に貝殻腹縁等を押圧したもので,2点と少ない。
新東晃一編「村原(椨ノ原)遺跡」加世田市教育委員会1977
長野真一-まとめ-「上祓川遺跡群(上楠原・水ノ谷・丸岡遺跡)」鹿屋市教育委員会1984
新東晃一「南九州の円筒土器と角筒土器-前平式土器と吉田式土器の型式概念をめぐる諸問題-」(考古学と関連科学)『鎌木義昌先生古希記念論文集刊行会』1988)
河口貞徳「吉田式と前平式のその後について」『鹿児島考古』1989
(1) 吉田式土器については、河口分類をそのまま踏襲
前平式土器は、知覧町永野遺跡や溝辺町桑ノ丸遺跡等の土器が指標的土器として知られてきていたが、近年調査された田代町荒田原遺跡では、特に角筒形土器により古相を呈するものが発見されており、ﾊﾞﾘｴｰｼｮﾝの広がりを認められる状況にある。
〈参考文献〉
麻生優・白石浩之「百花台遺跡」『日本の旧石器文化』3,雄山閣1976
池崎譲二・吉留秀敏「長島の旧石器」『鹿児島考古』第9号,鹿児島県考古学会1974
池水寛治「鹿児島県出水市上場遺跡」『考古学集刊』第3巻第4号東京考古学会1967
木崎康弘編「大丸・藤ノ迫遺跡」『熊本県文化財調査報告第80集』熊本県教育委員会1986
木崎康弘編「狸谷遺跡」『熊本県文化財調査報告第90集』熊本県教育委員会1987
清水宗昭・高橋信武・柳田俊雄「岩戸遺跡」『大分県大野郡清川村所在旧石器時代遺跡第3次発掘調査報告』清川村教育委員会1986
橘昌信「AT(姶良Tn火山灰)上位のﾅｲﾌ形石器文化」『史学論叢』第21号,別府大学史学研究会1990
中川和哉「台形石器考」『旧石器考古学』35,旧石器文化談話会
永友良典「堂地西遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第2集』宮崎県教育委員会1985
萩原博文「原の辻型台形石器について」『人間・遺跡・遺物』文献出版1983
宮田栄二編「西丸尾遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書64』鹿児島県教育委員会1992

図　版



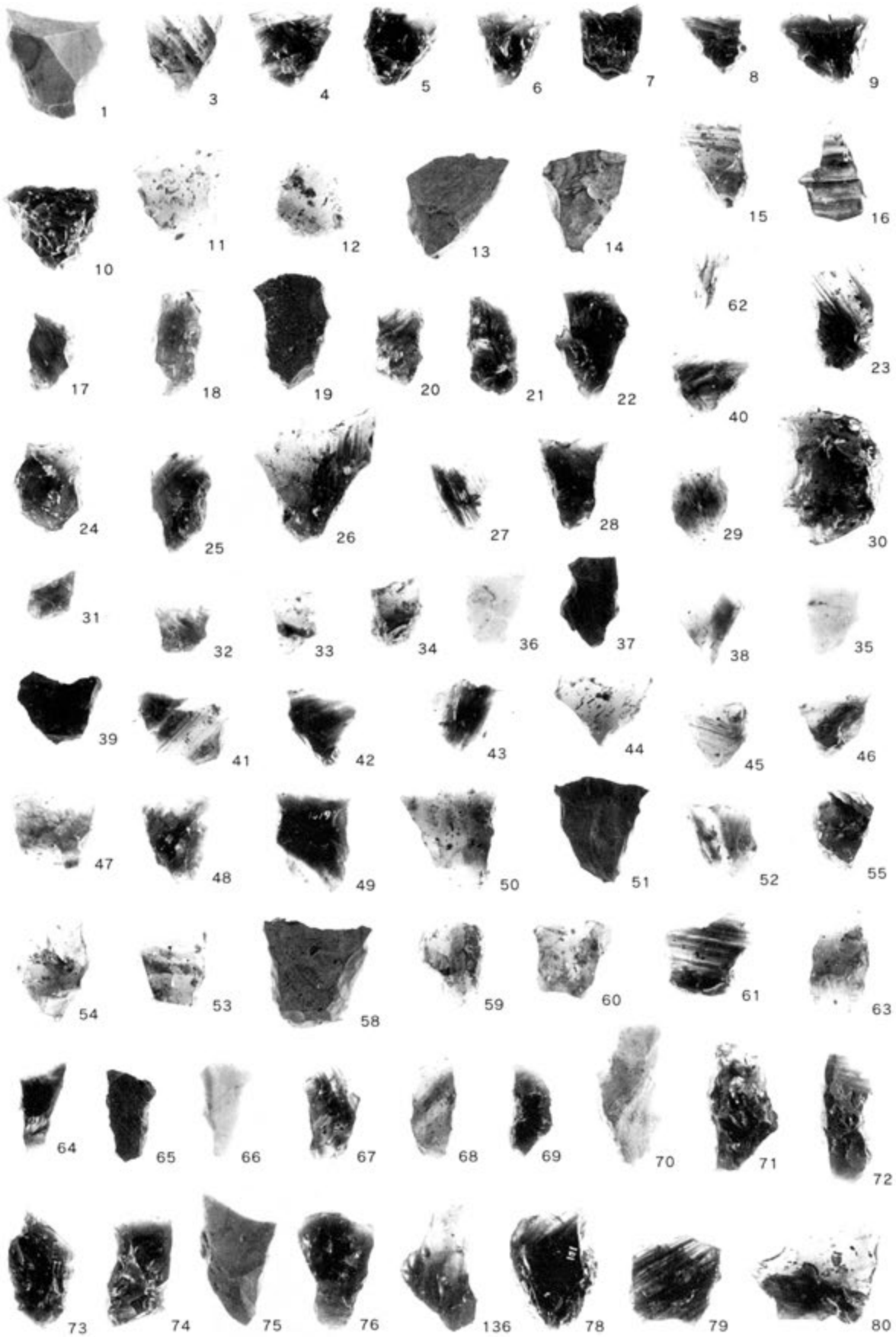


岩本遺跡C地区東壁・確認調査遺物出土状況

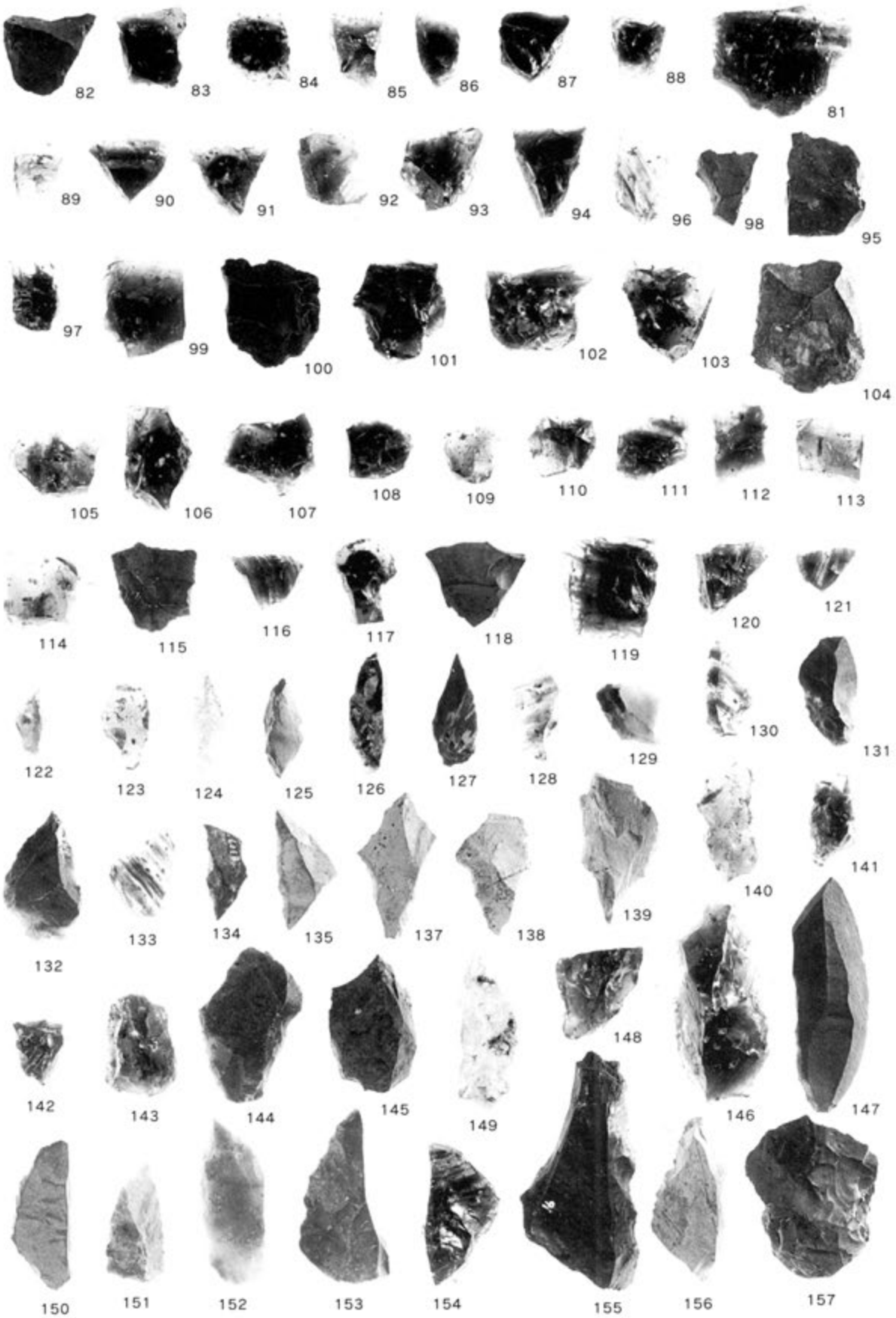




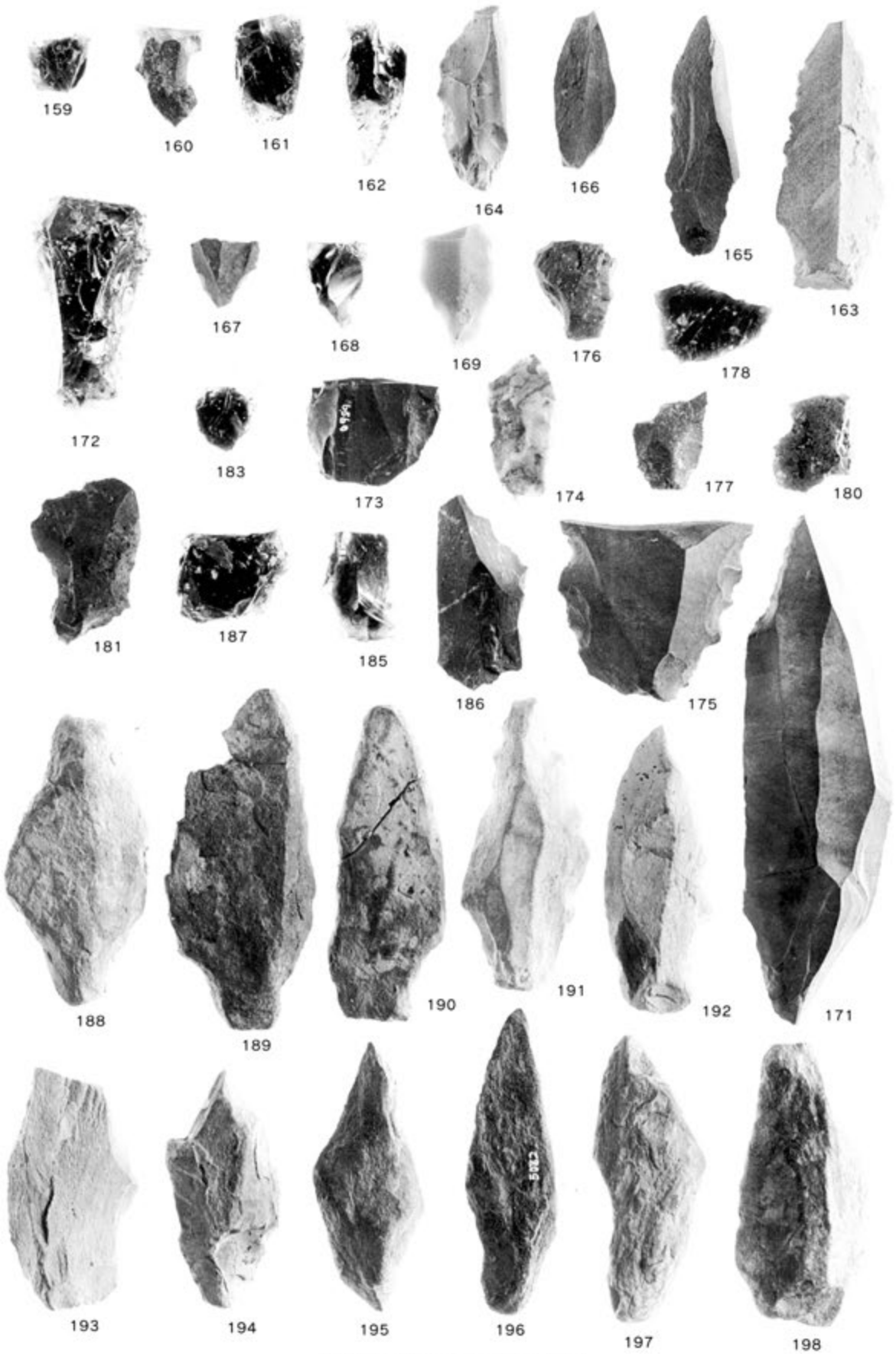
岩本遺跡C地区東壁・確認調査遺物出土状況


1
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
62
23
40
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
36
37
38
35
39
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
55
54
53
58
59
60
61
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
136
78
79
80

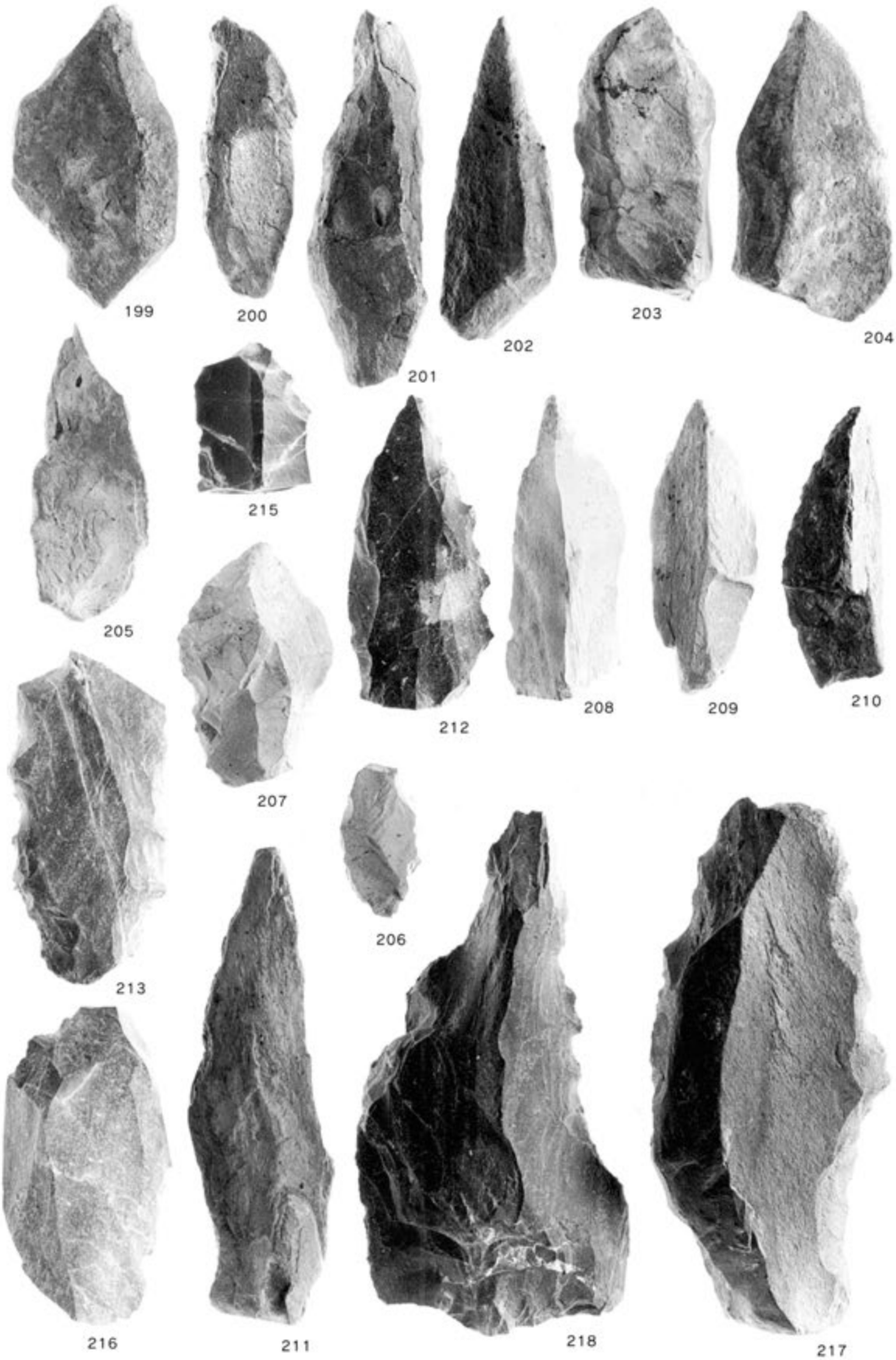
小牧３Ａ遺跡（台形石器）



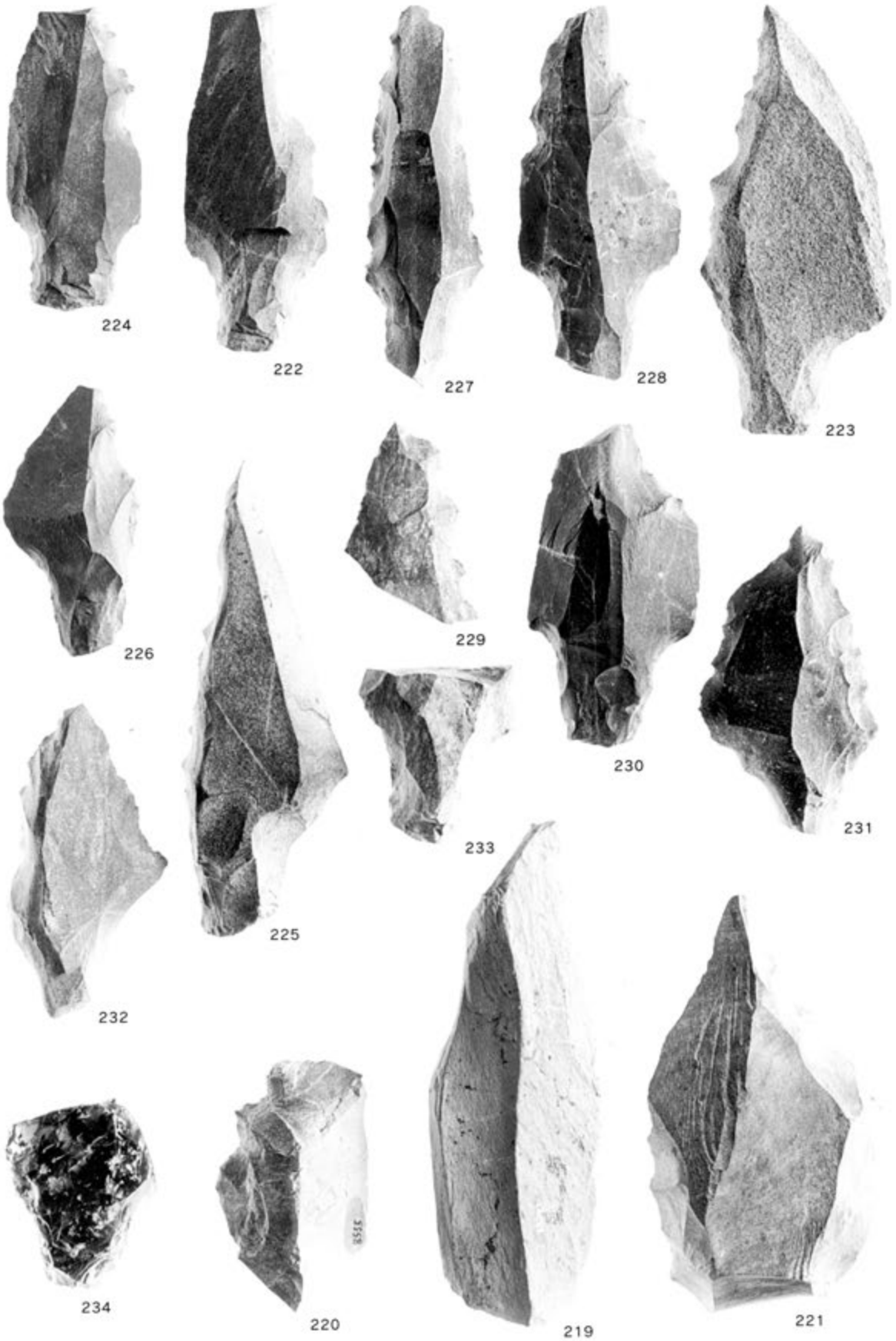
小牧３Ａ遺跡（台形石器・ナイフ形石器）



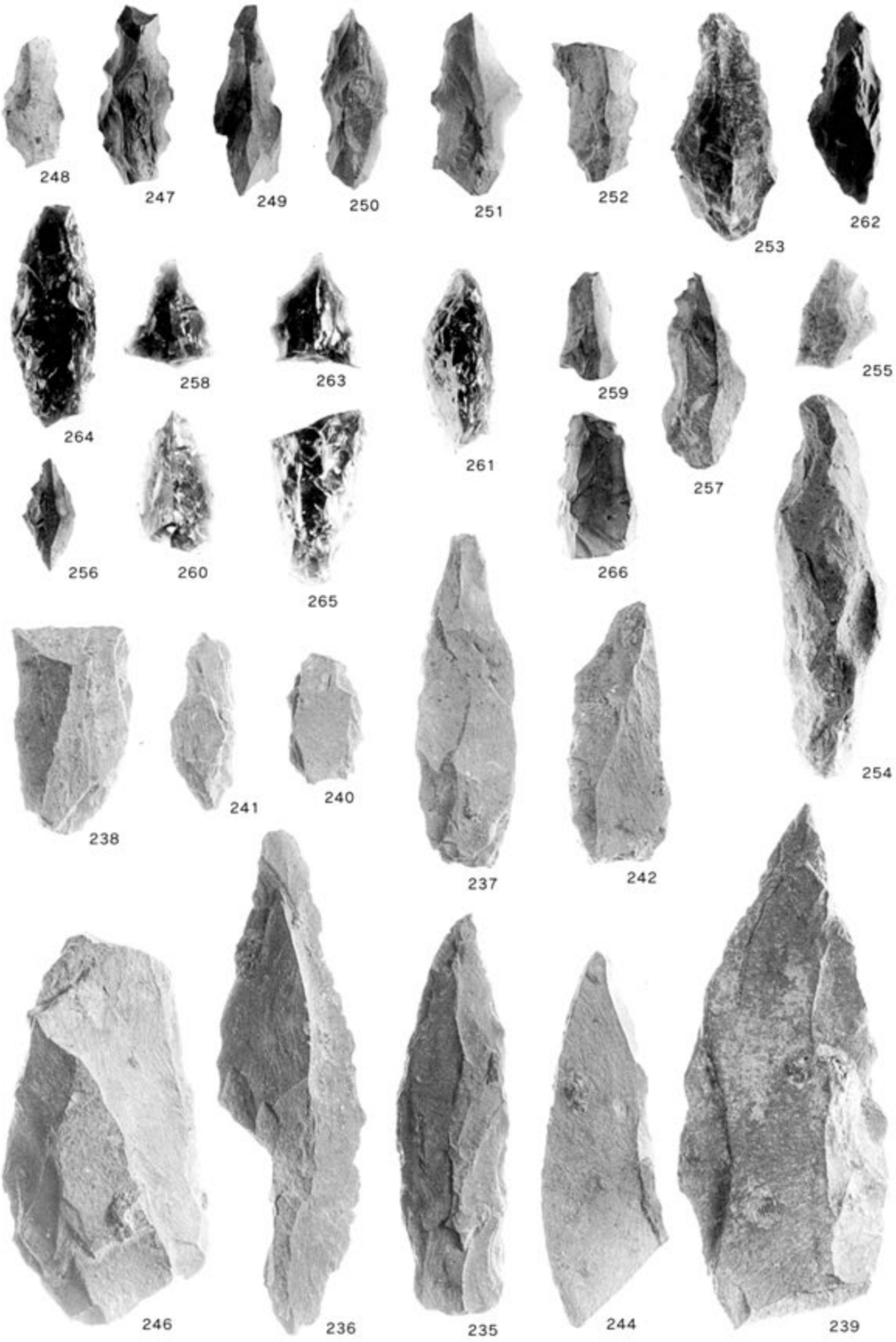
小牧３Ａ遺跡（ナイフ形石器）



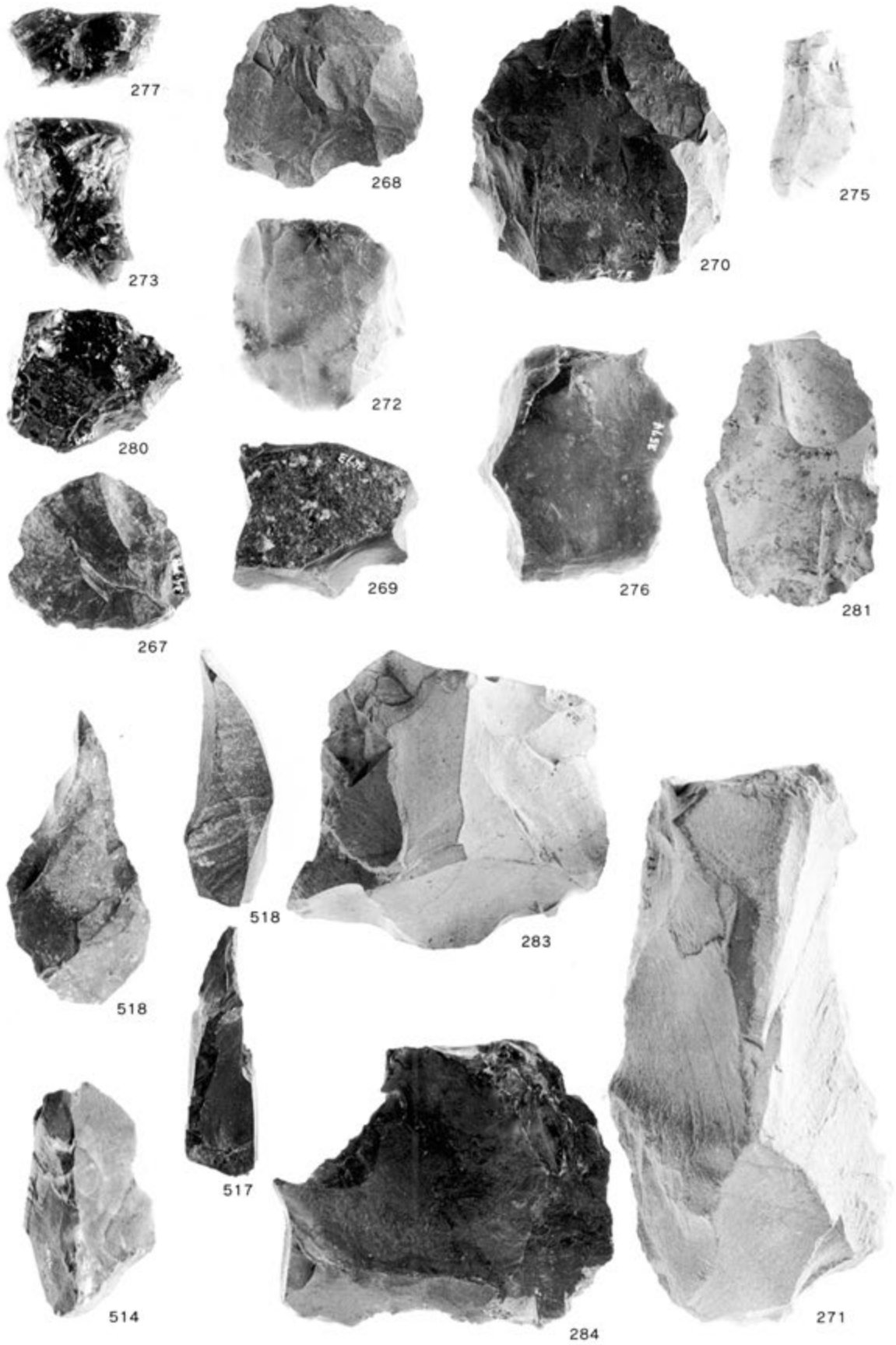
小牧３Ａ遺跡（ナイフ形石器）



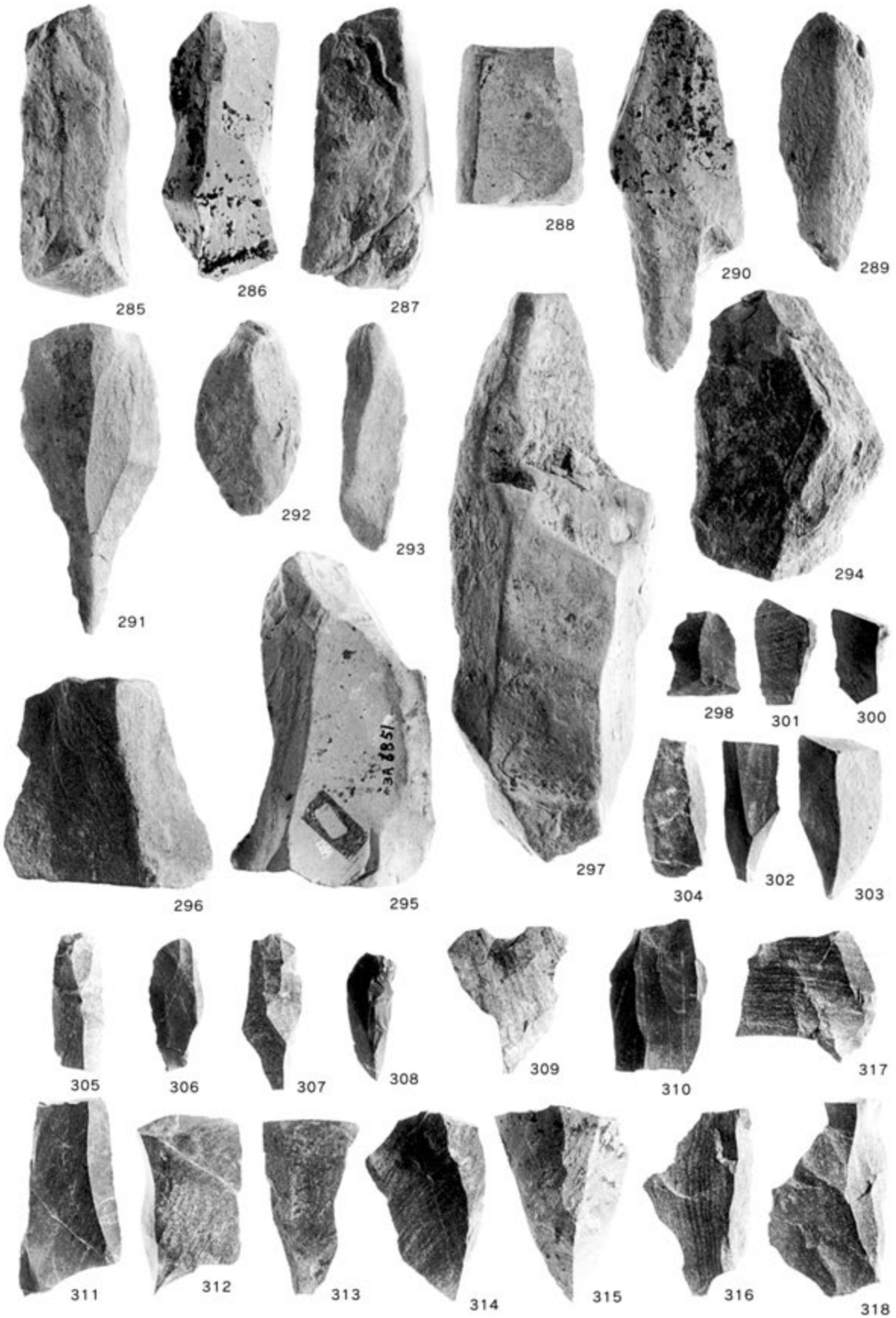
小牧３Ａ遺跡（剥片尖頭器）



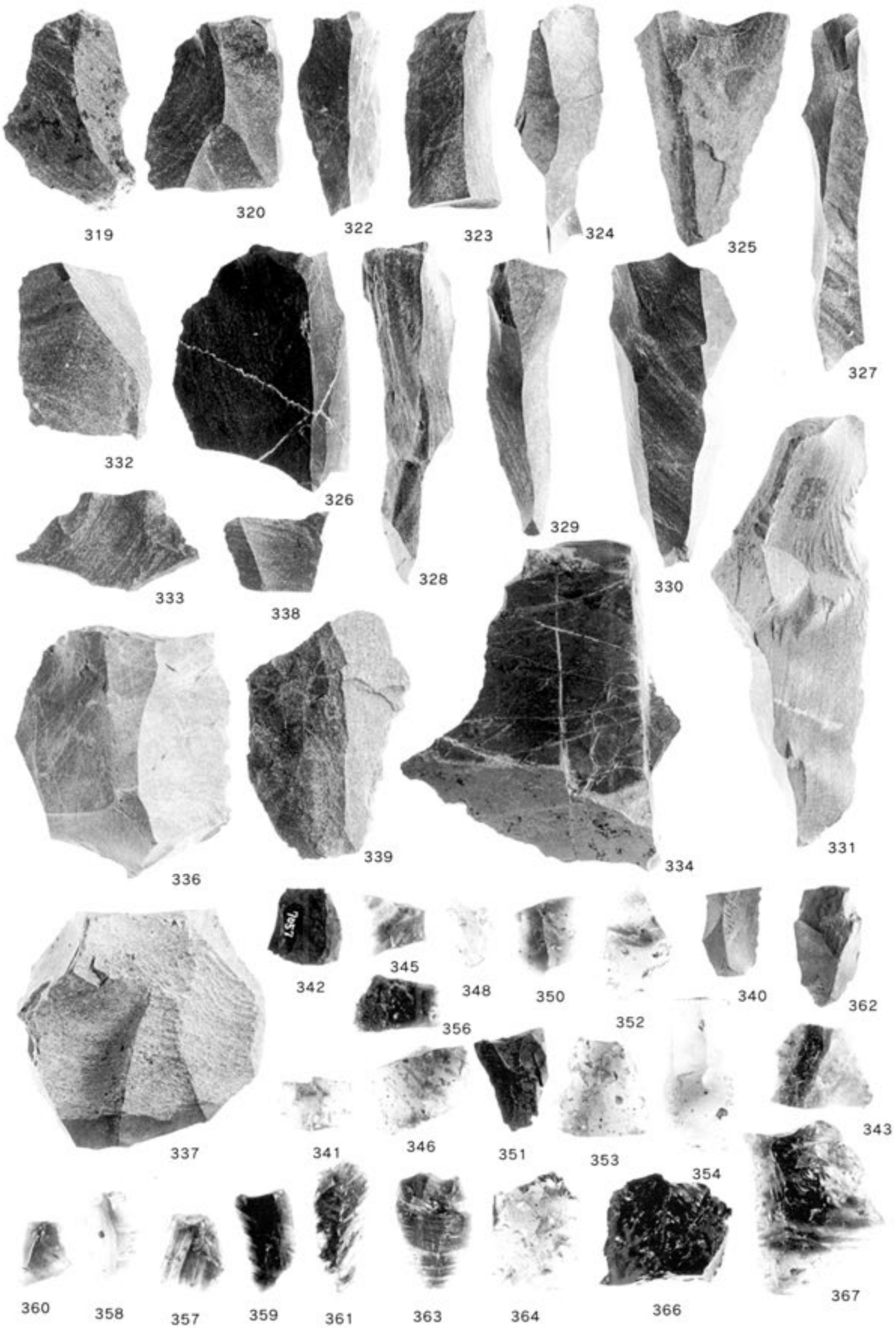
小牧３Ａ遺跡（三稜尖頭器・周辺加工石器・両面加工尖頭器）



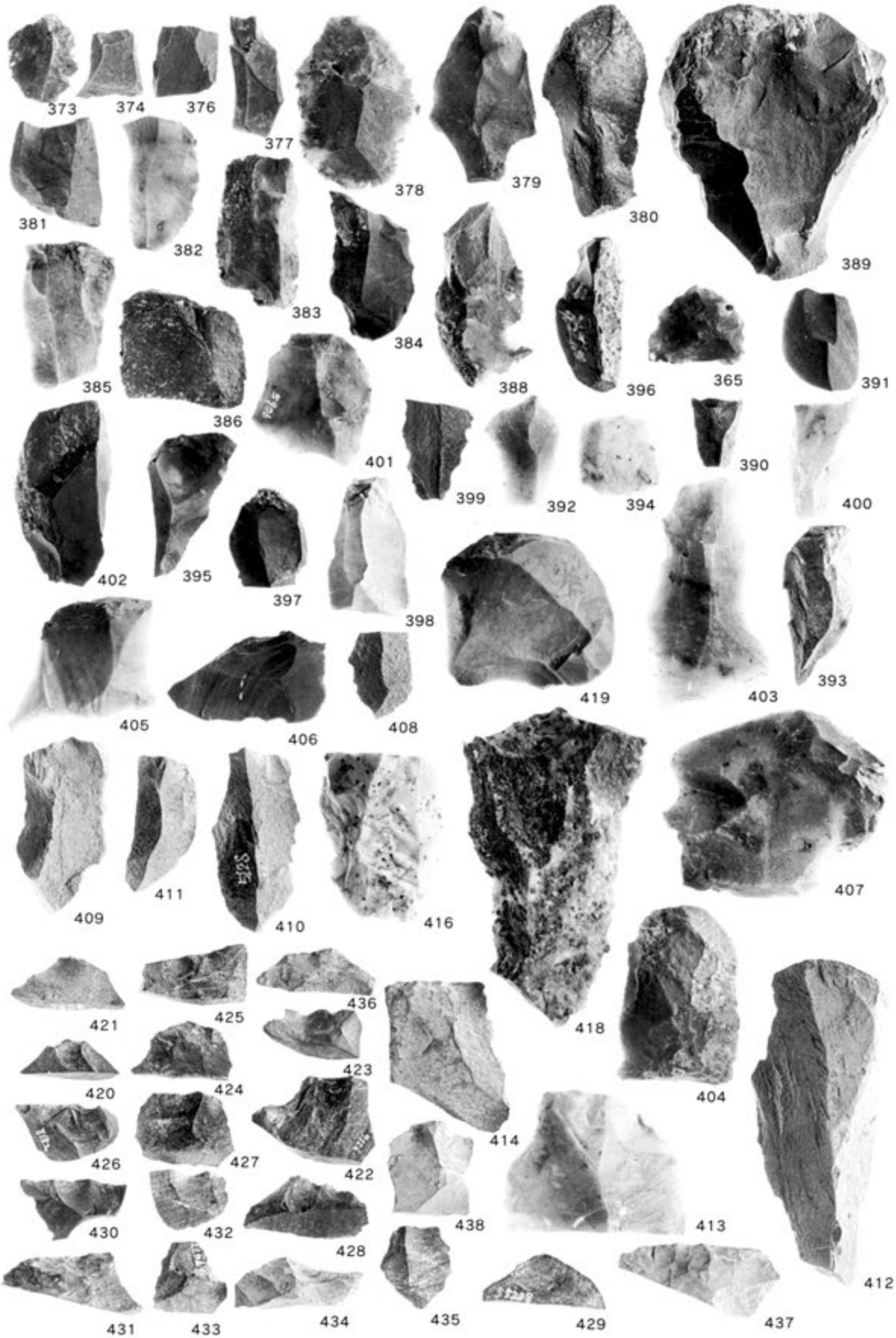
小牧３Ａ遺跡（掻器・削器・ドリル）


285
286
287
288
290
289
292
293
294
291
297
298
301
300
296
295
304
302
303
305
306
307
308
309
310
317
311
312
313
314
315
316
318

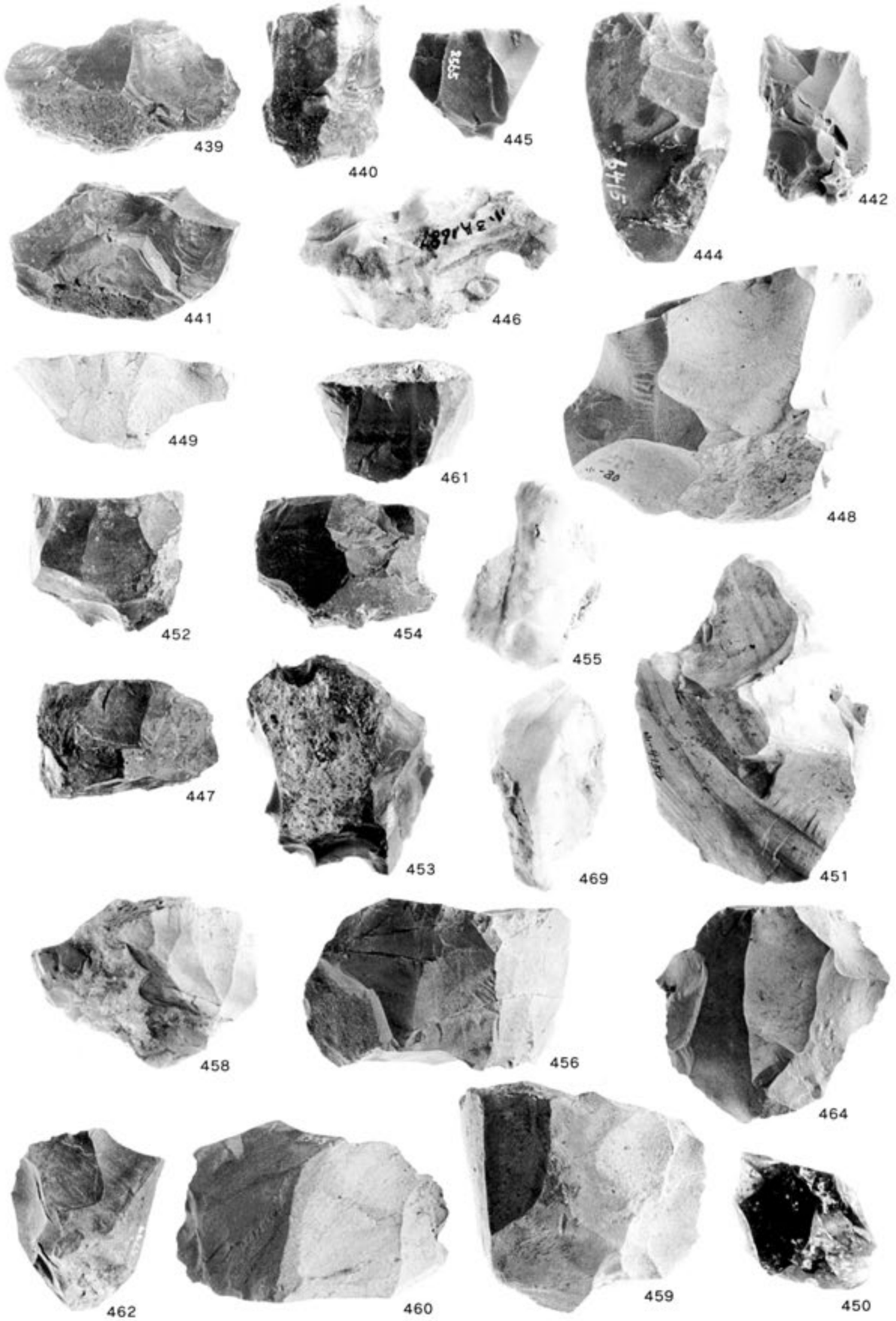
小牧3A遺跡（剥片）


319
320
322
323
324
325
327
332
326
328
329
330
333
338
331
336
339
334
342
345
348
350
352
340
362
356
337
341
346
351
353
343
354
360
358
357
359
361
363
364
366
367

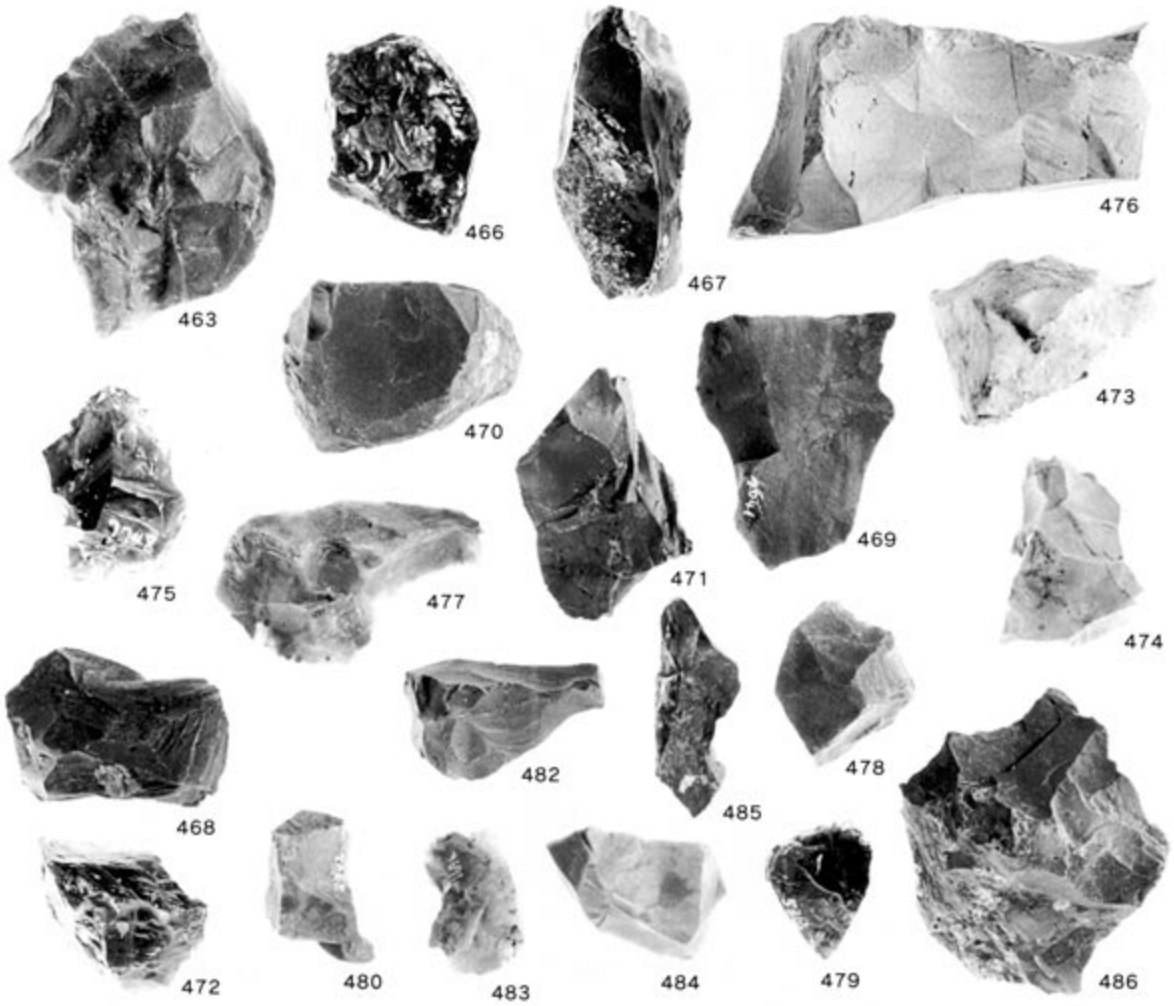
小牧３Ａ遺跡（剥片）

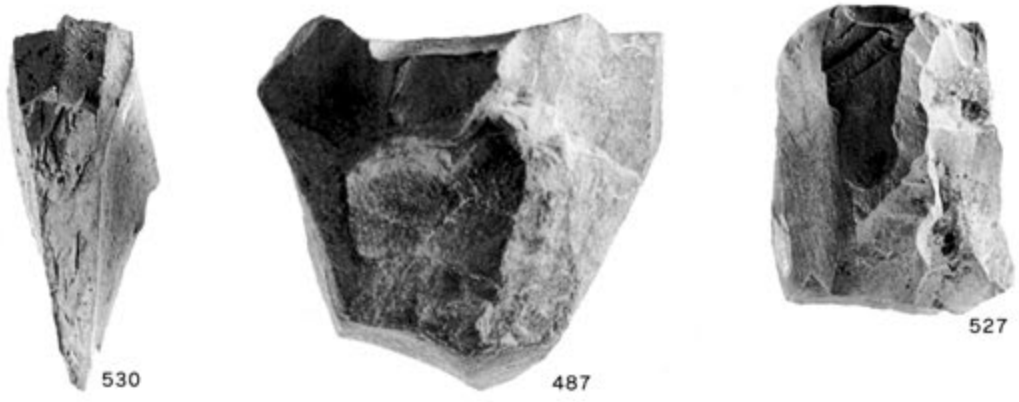


小牧３Ａ遺跡（剥片・ブランティング・チップ）

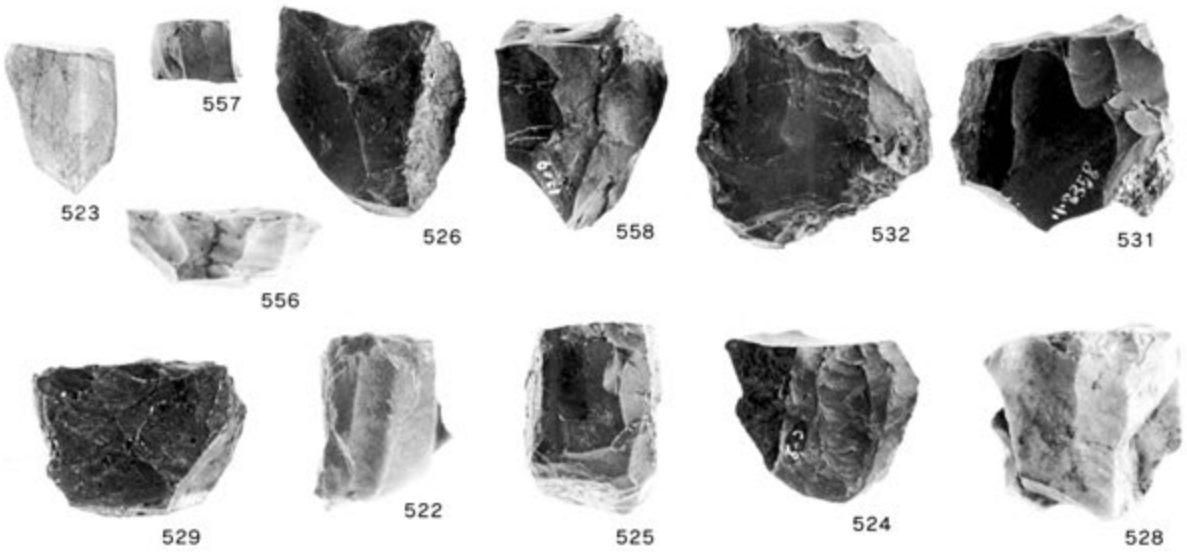

439
440
445
444
442
441
446
449
461
448
452
454
455
447
453
469
451
458
456
464
462
460
459
450

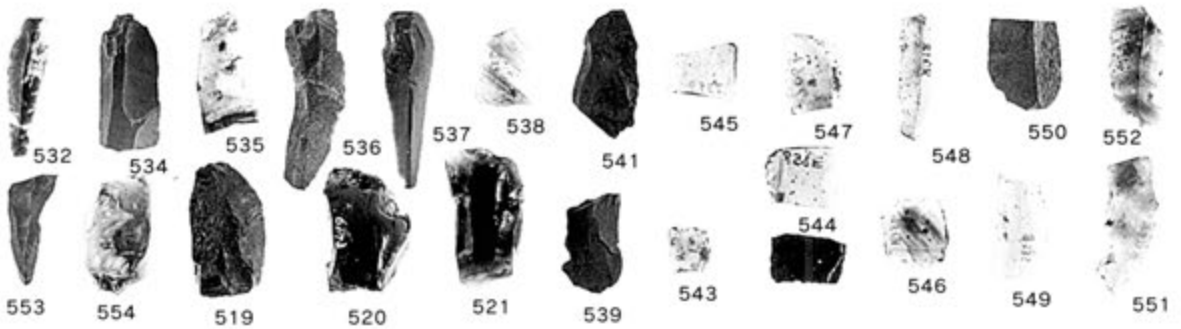
小牧3A遺跡（石核）

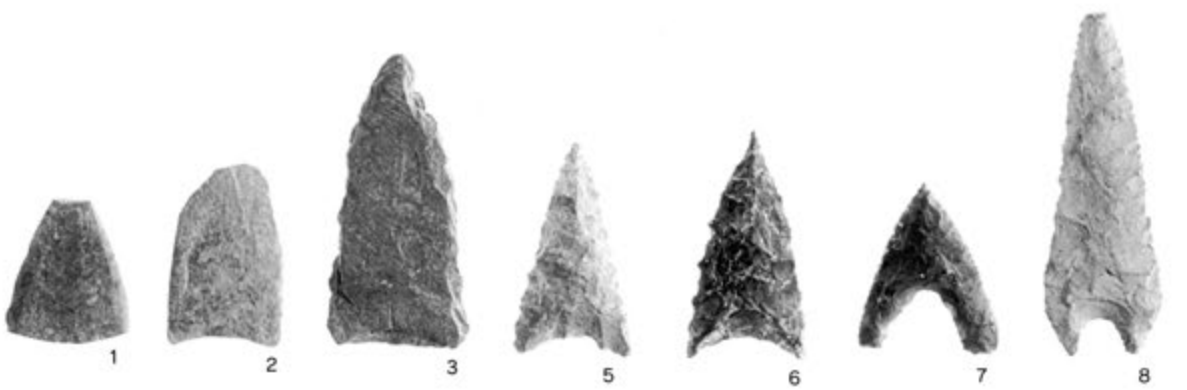




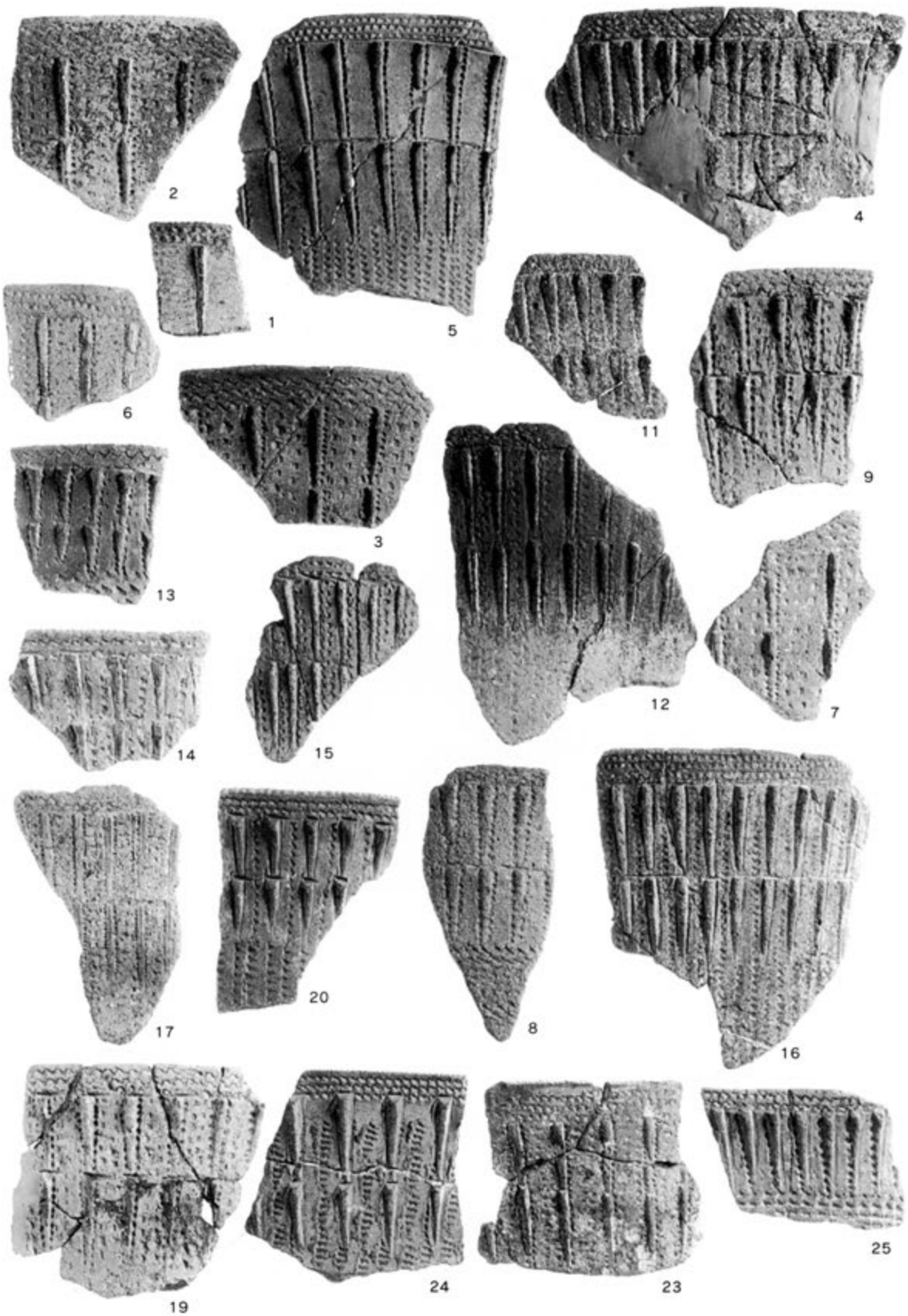
小牧３Ａ遺跡（石核・細石核）



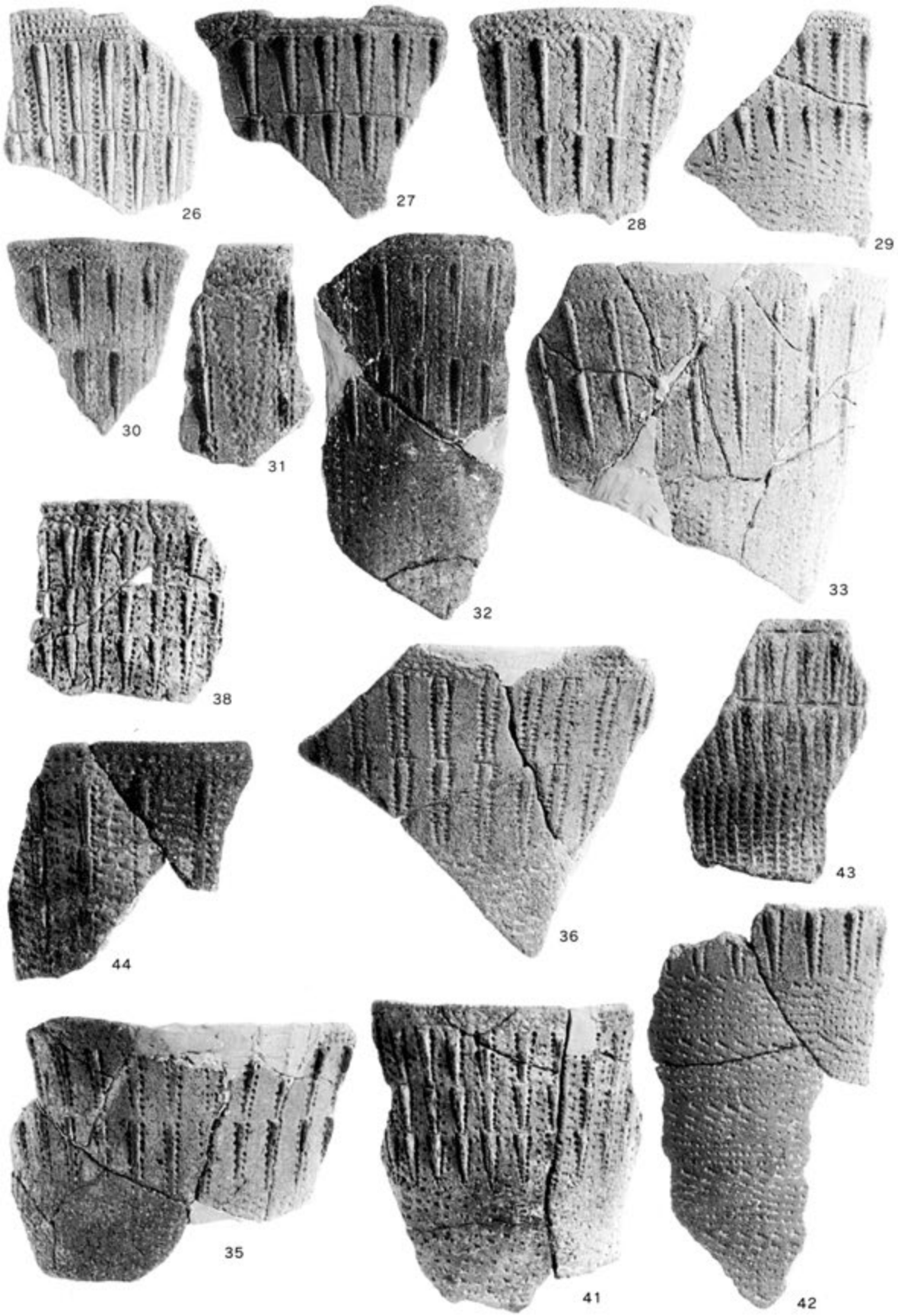




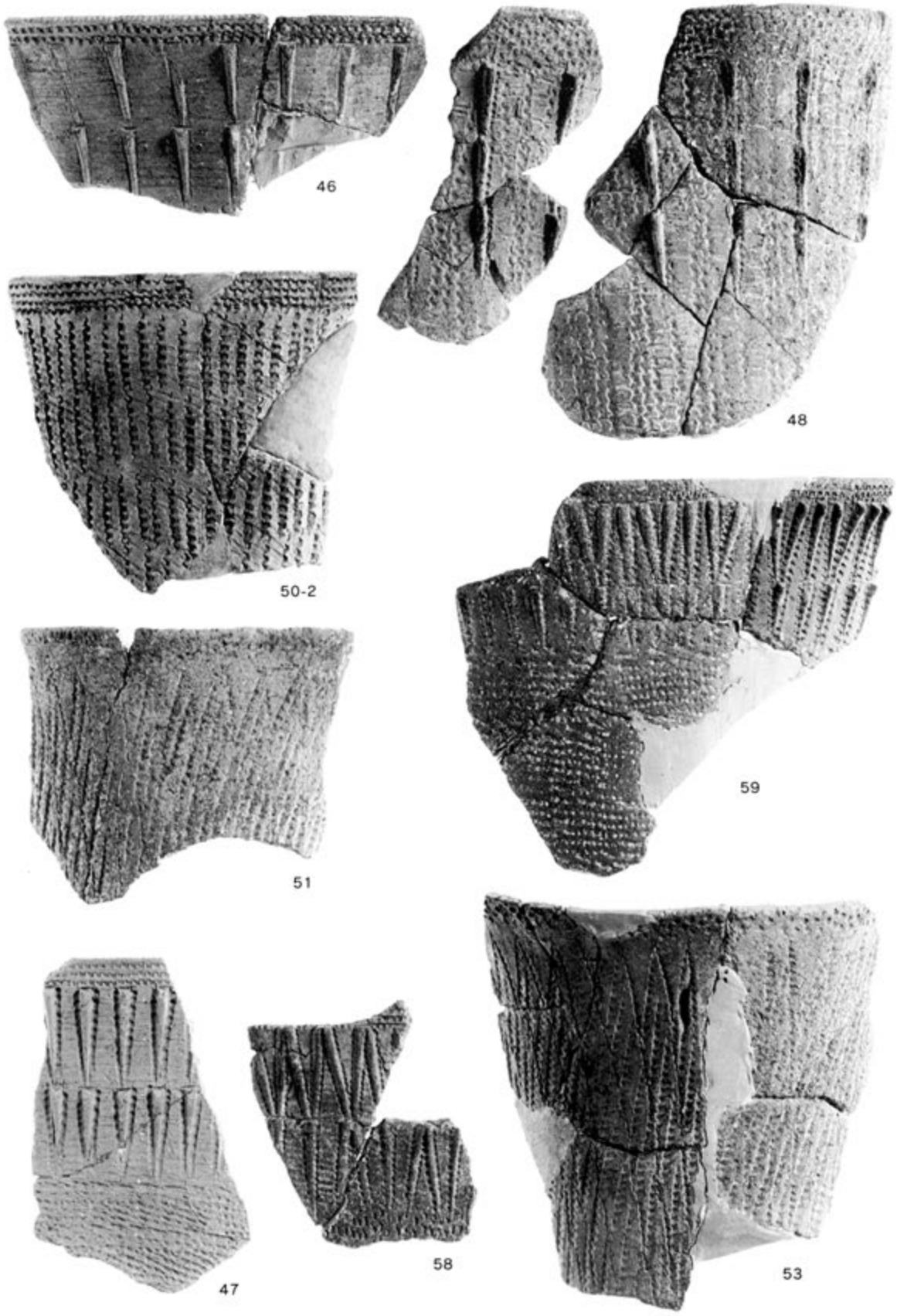
小牧３Ａ遺跡（細石核・細石刃・磨製石鏃・打製石鏃）



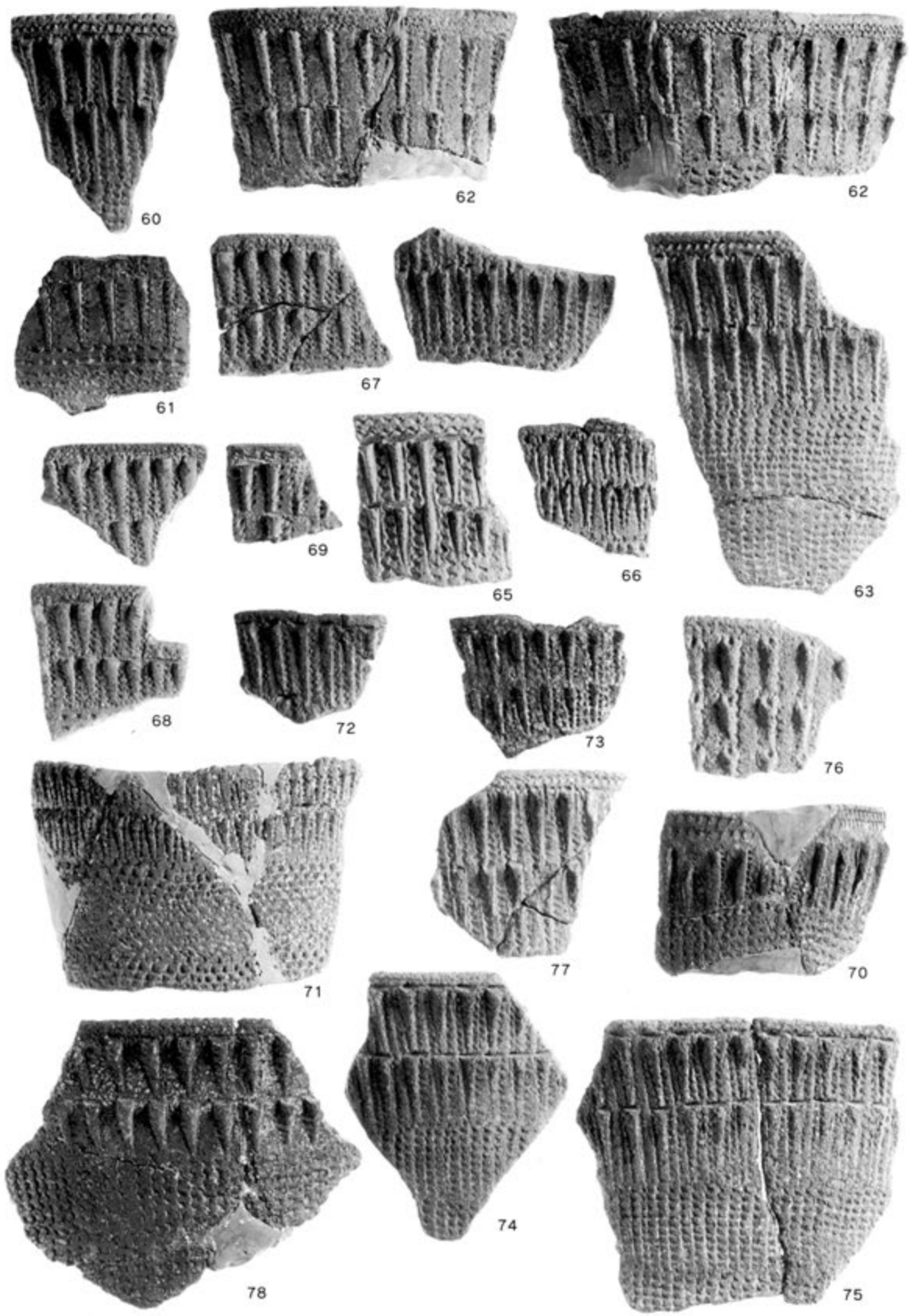
小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅰ類・Ⅱ類土器）



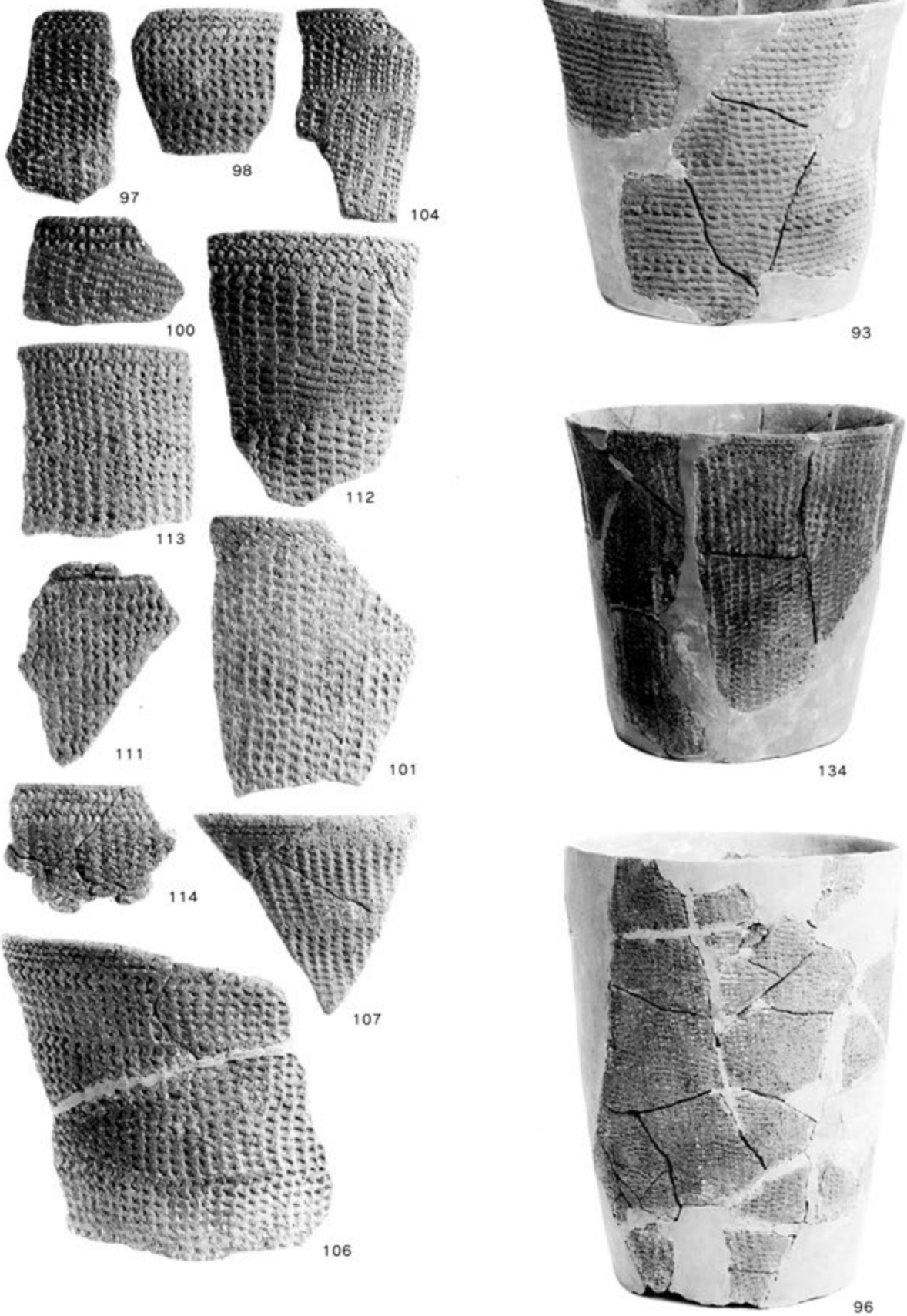
小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅱ類・Ⅲ類土器）



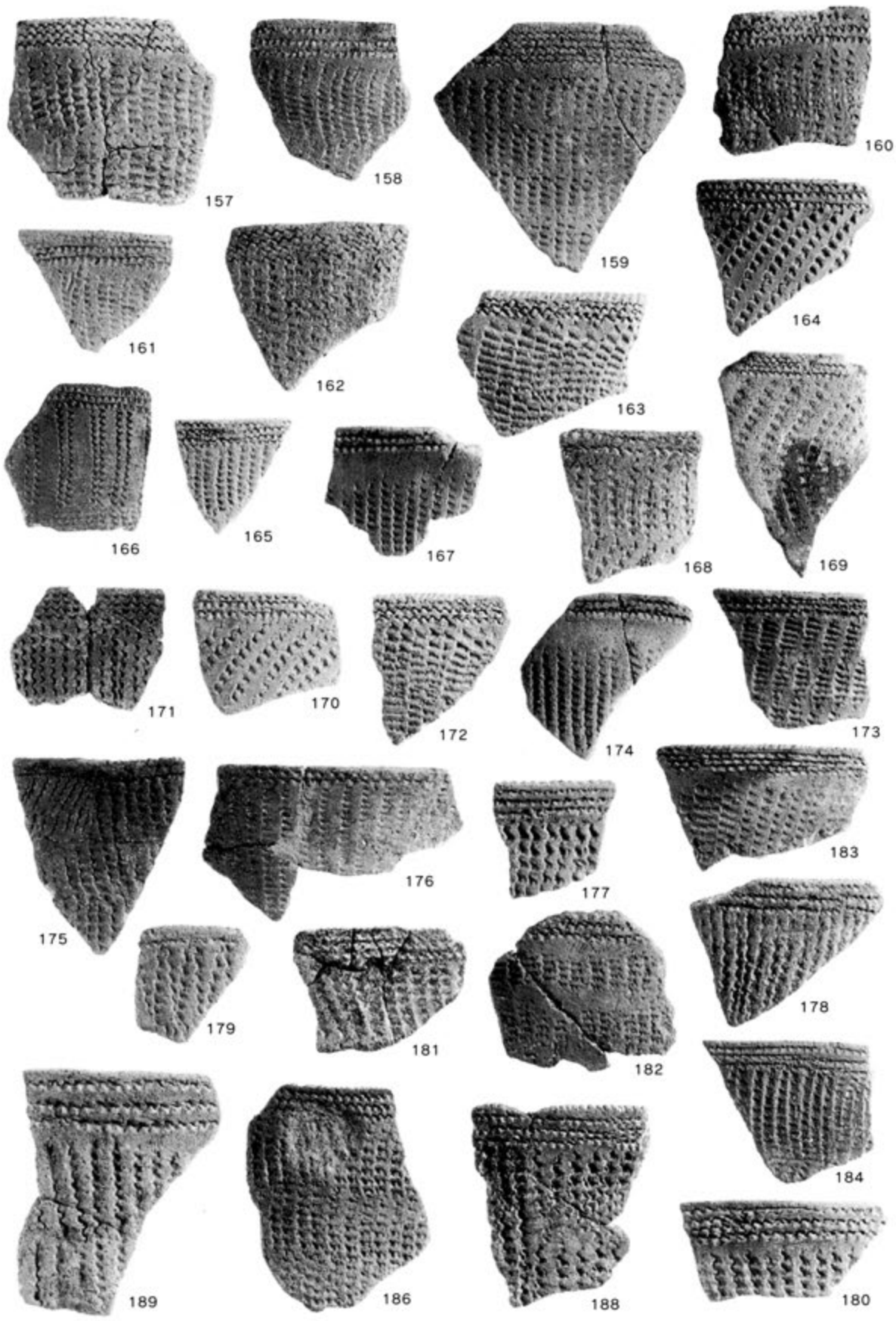
小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅱ類・Ⅲ類土器）



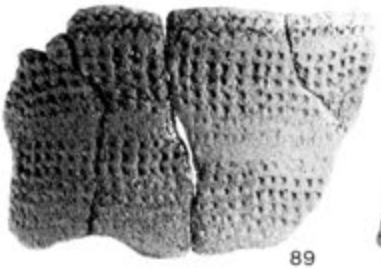
小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅲ類土器）



小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅲ類土器）

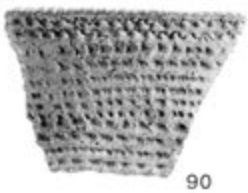


小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅲ類土器）


89


88


83


90


85


99


94


95


87

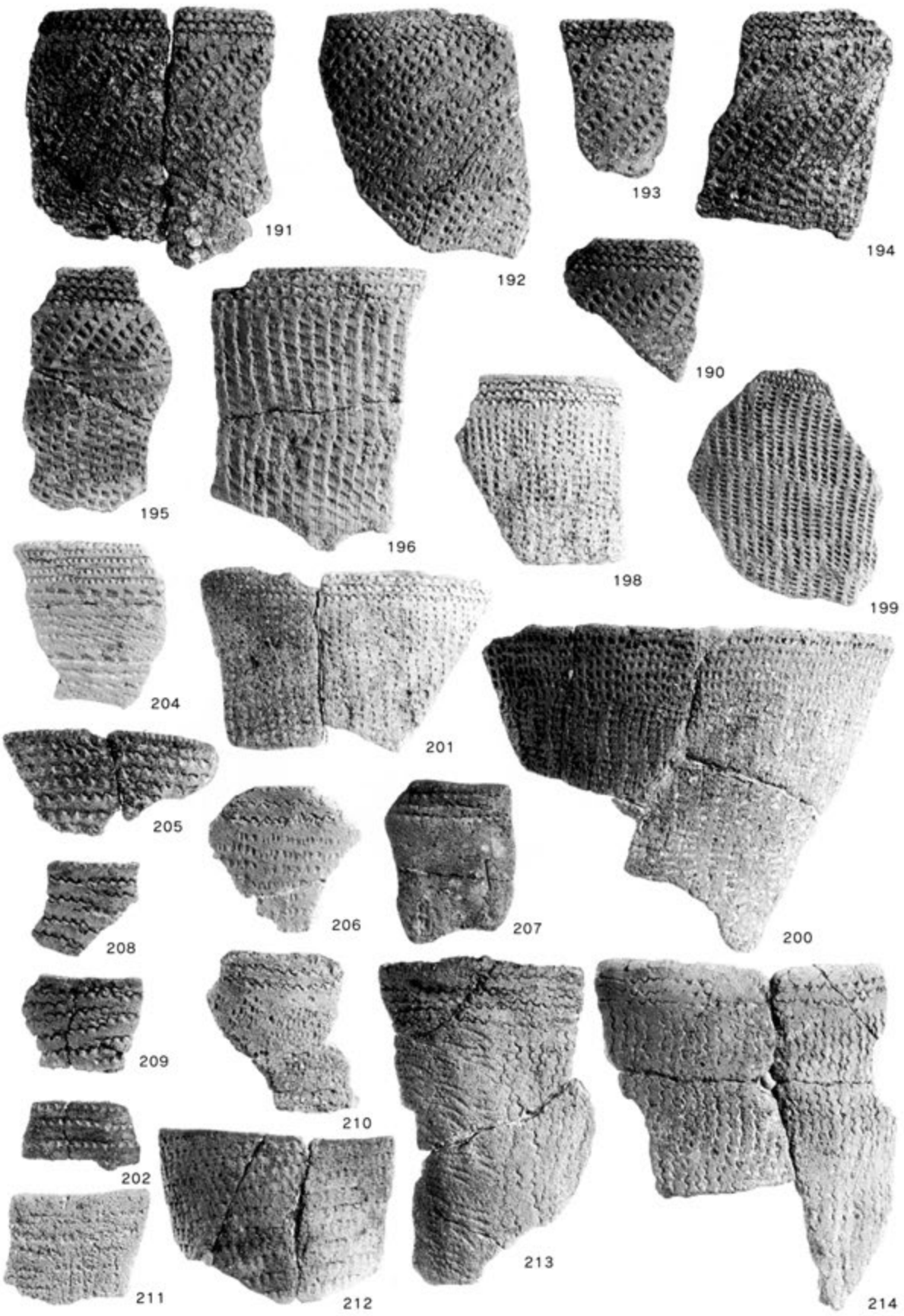

18


19

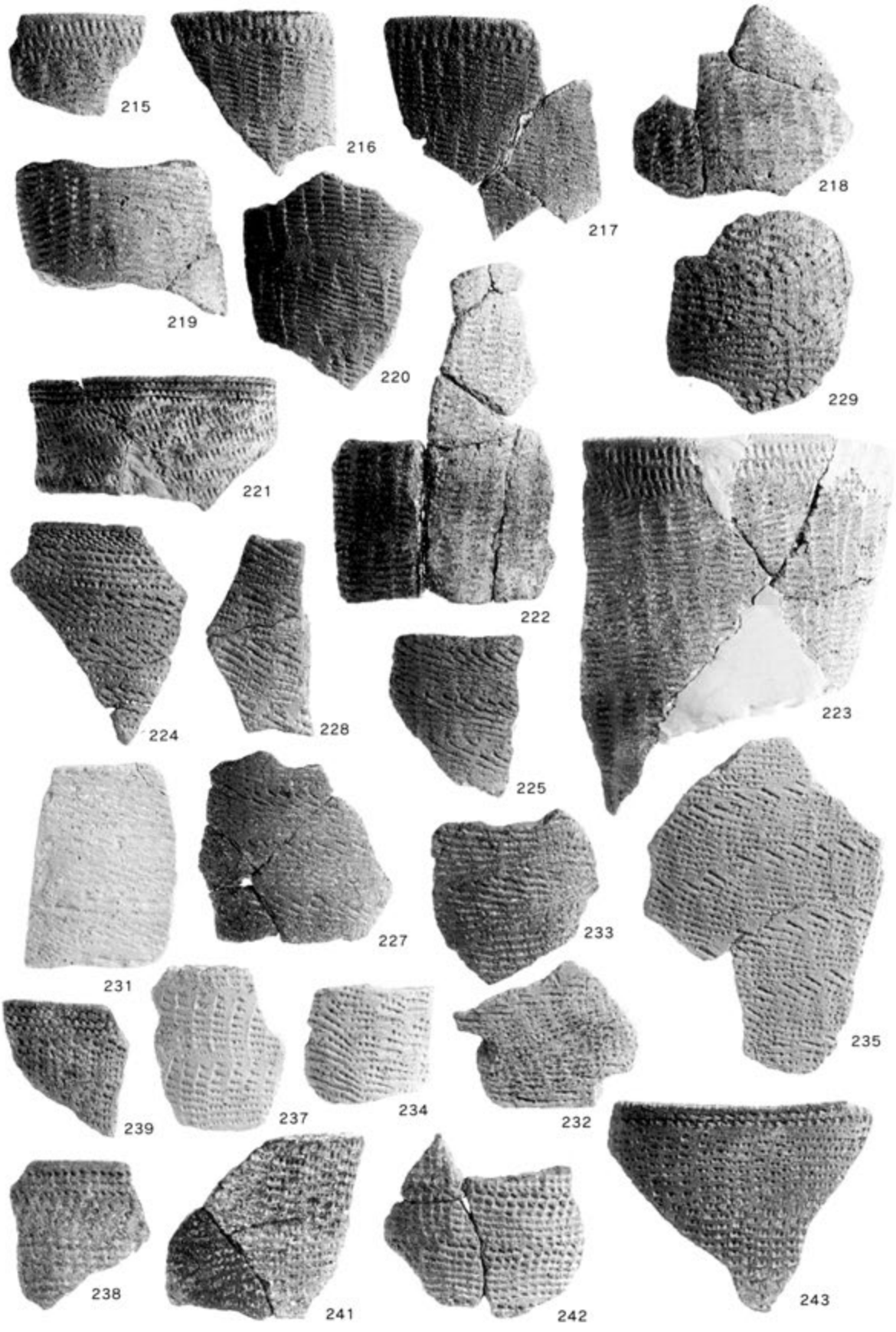

86


91

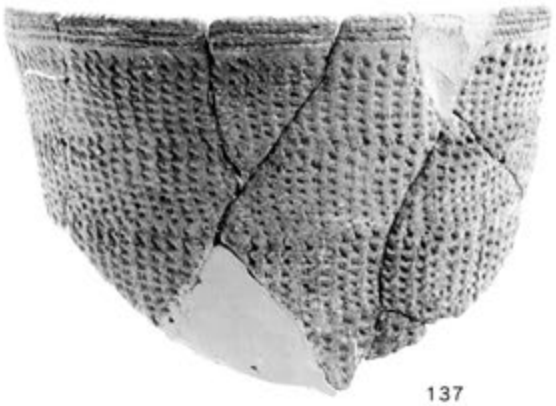
小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅲ類土器）



小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅲ類土器）



小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅲ類土器）


137


130

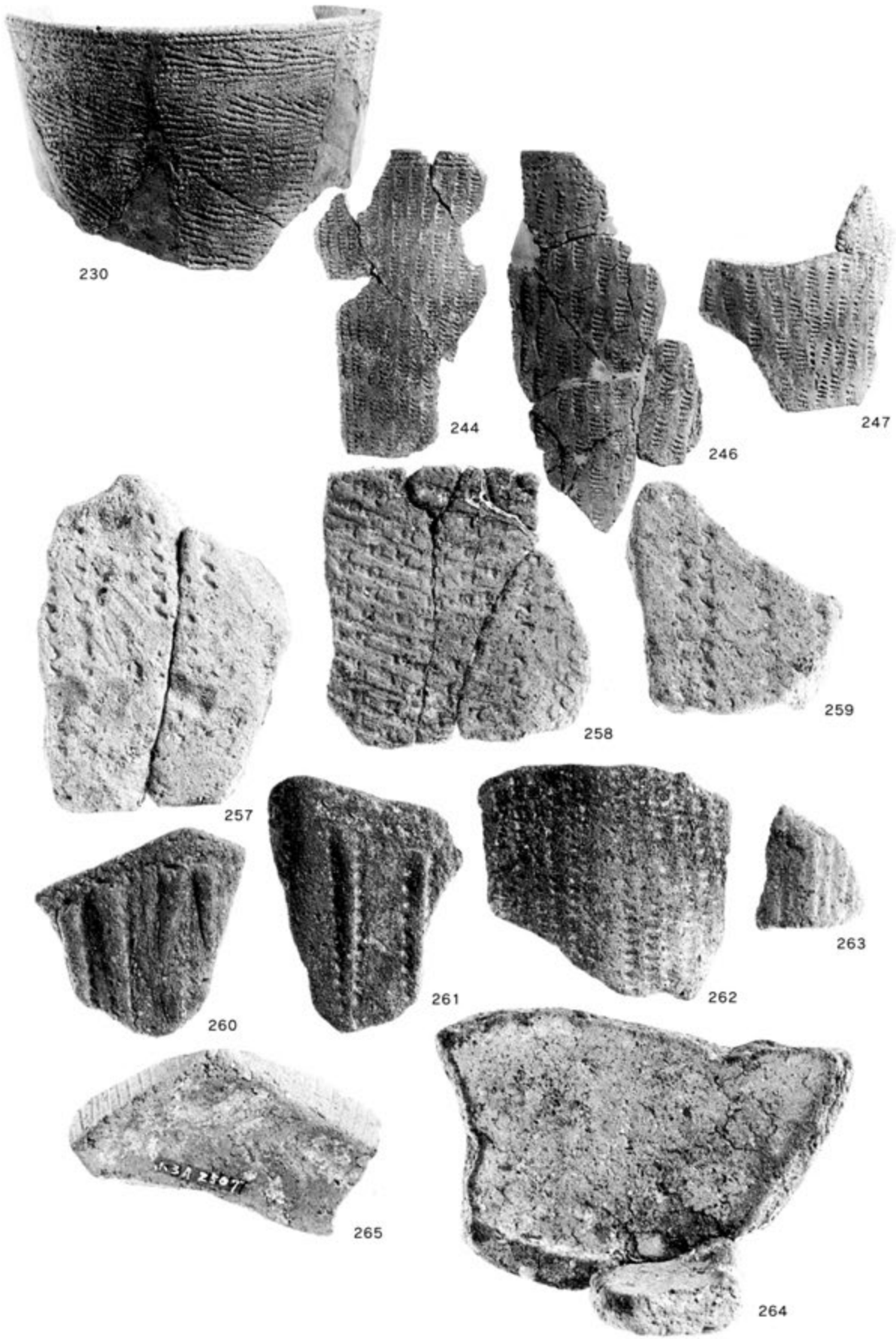

10


116

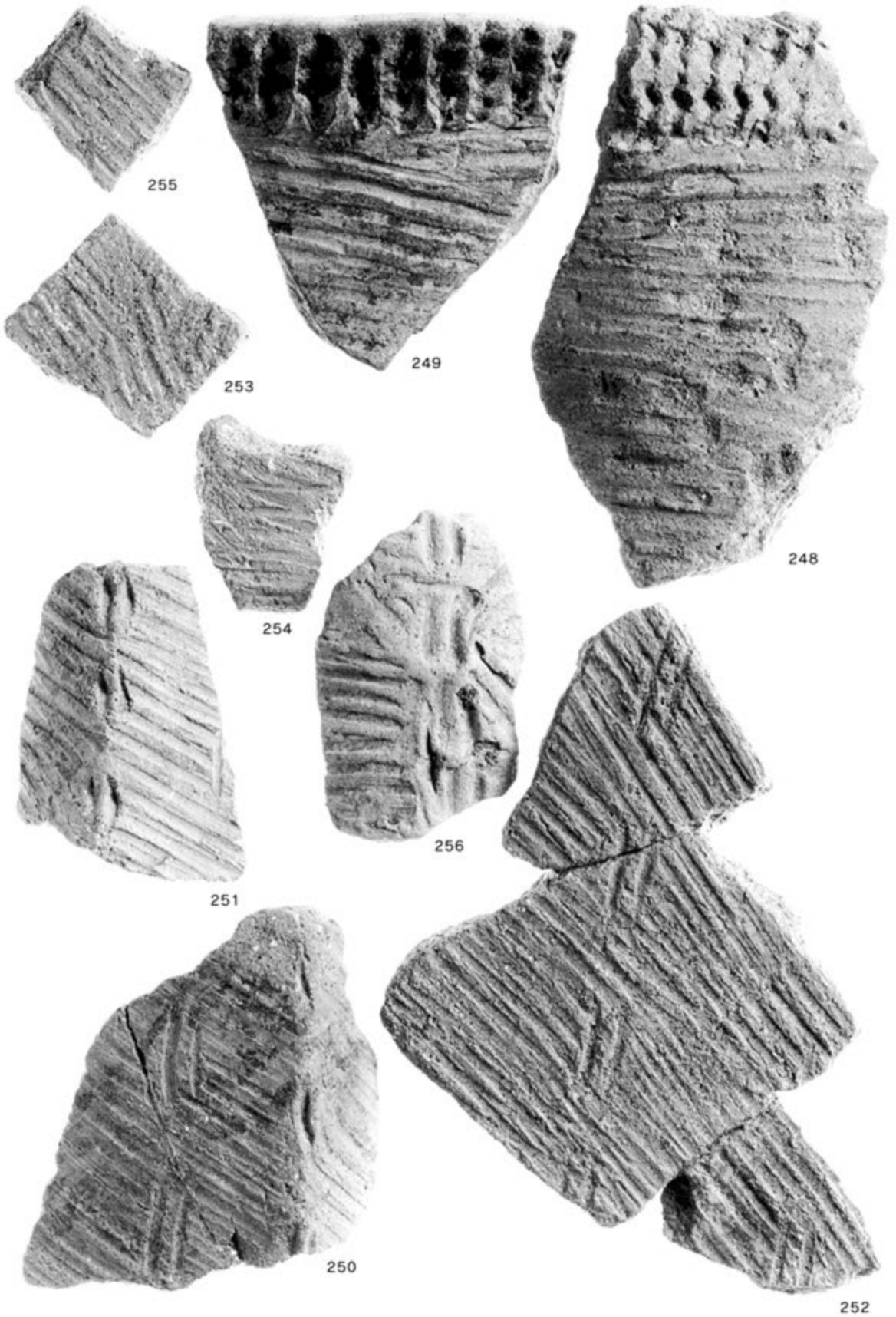

118


134

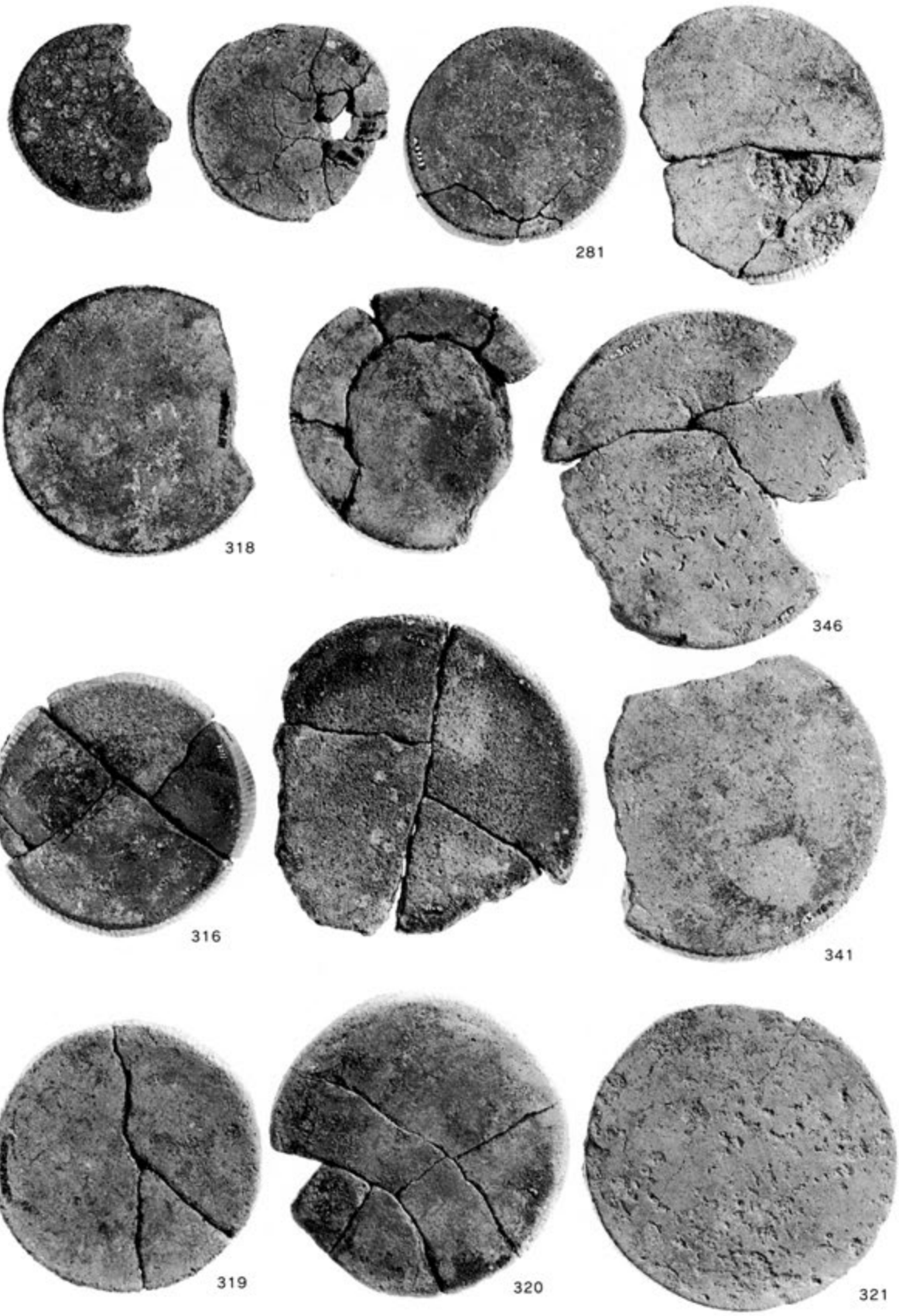
小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅲ類土器）



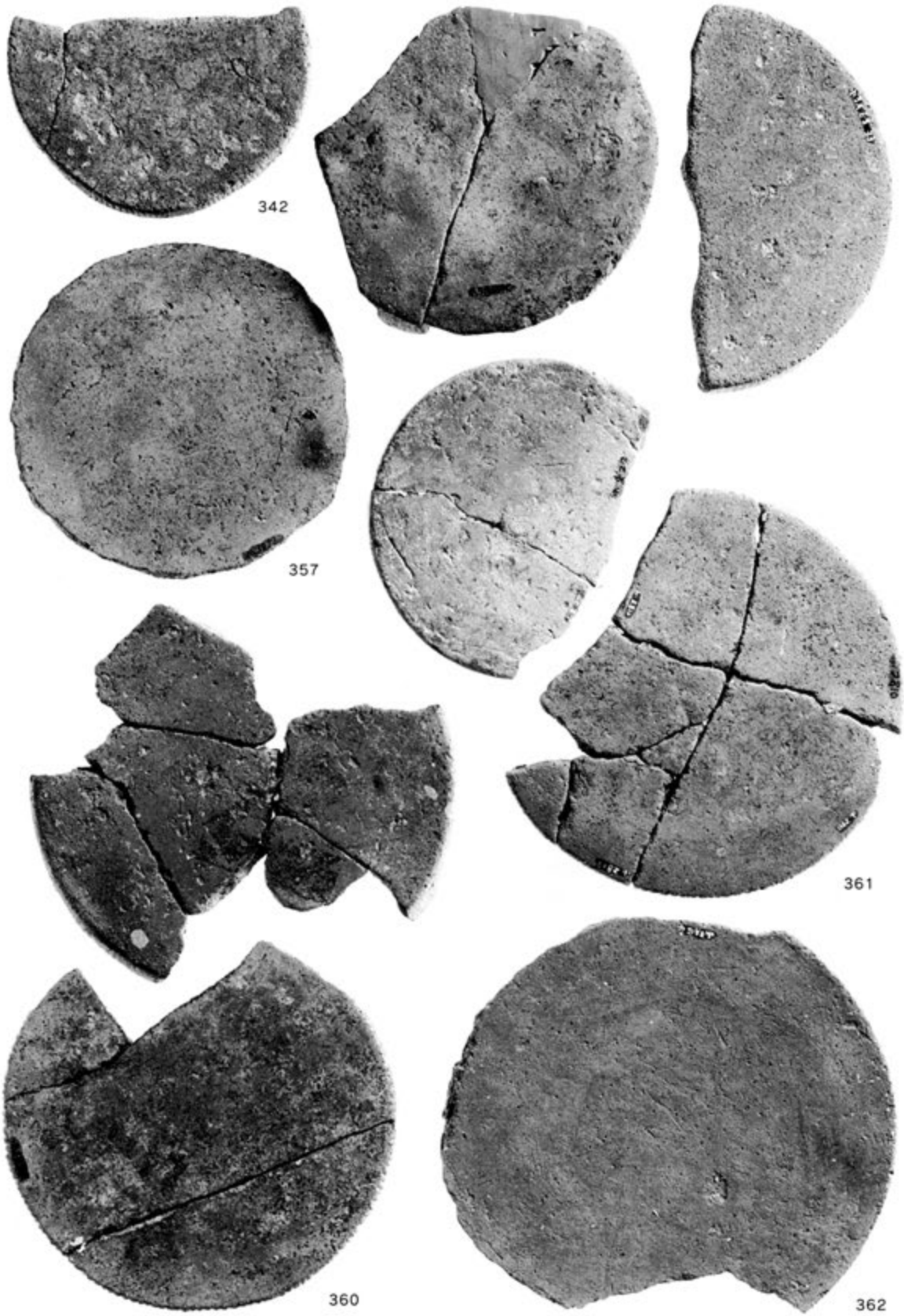
小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類土器）



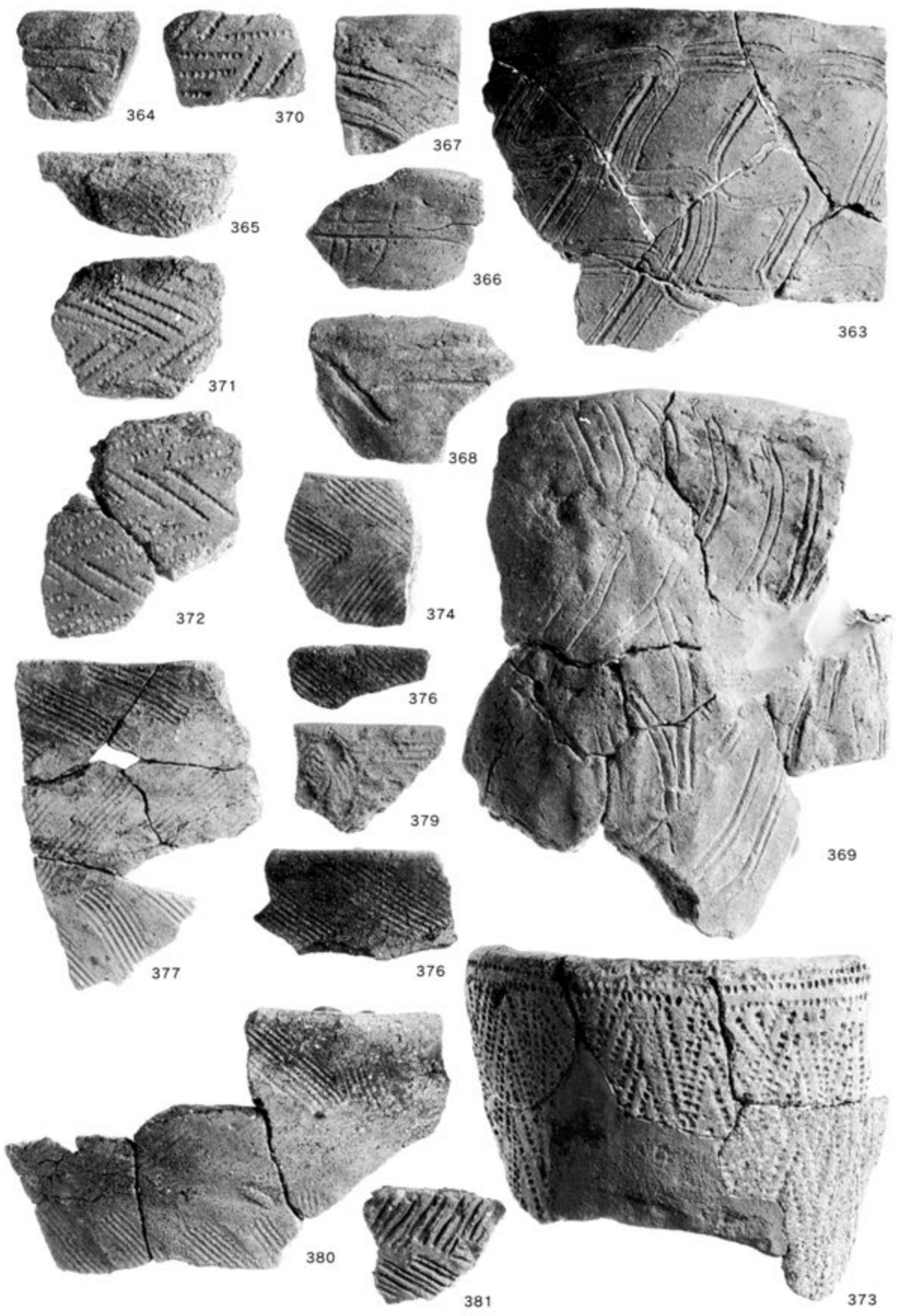
小牧３Ａ遺跡（円筒形Ⅳ類土器）



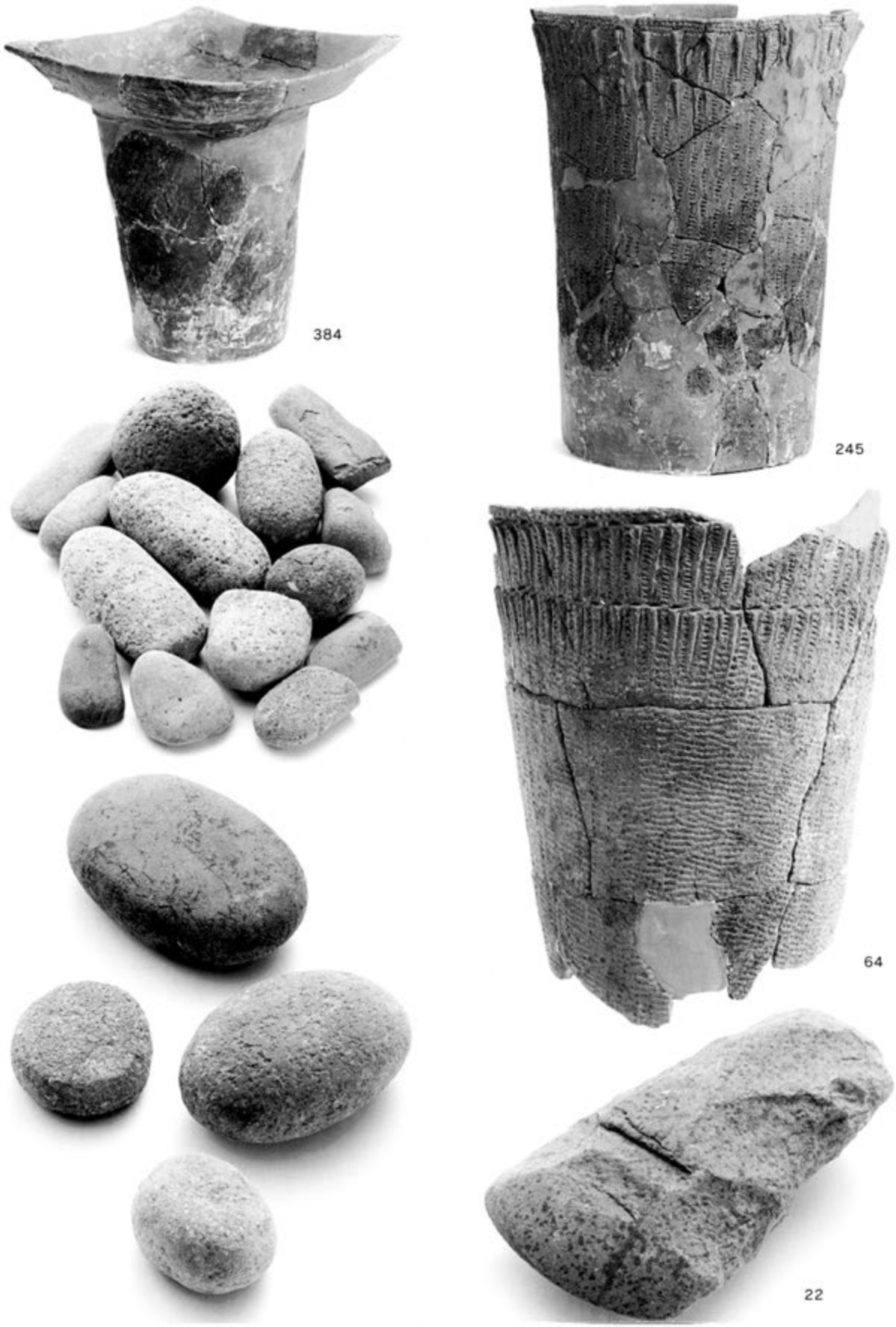
小牧３Ａ遺跡（底部接地面）



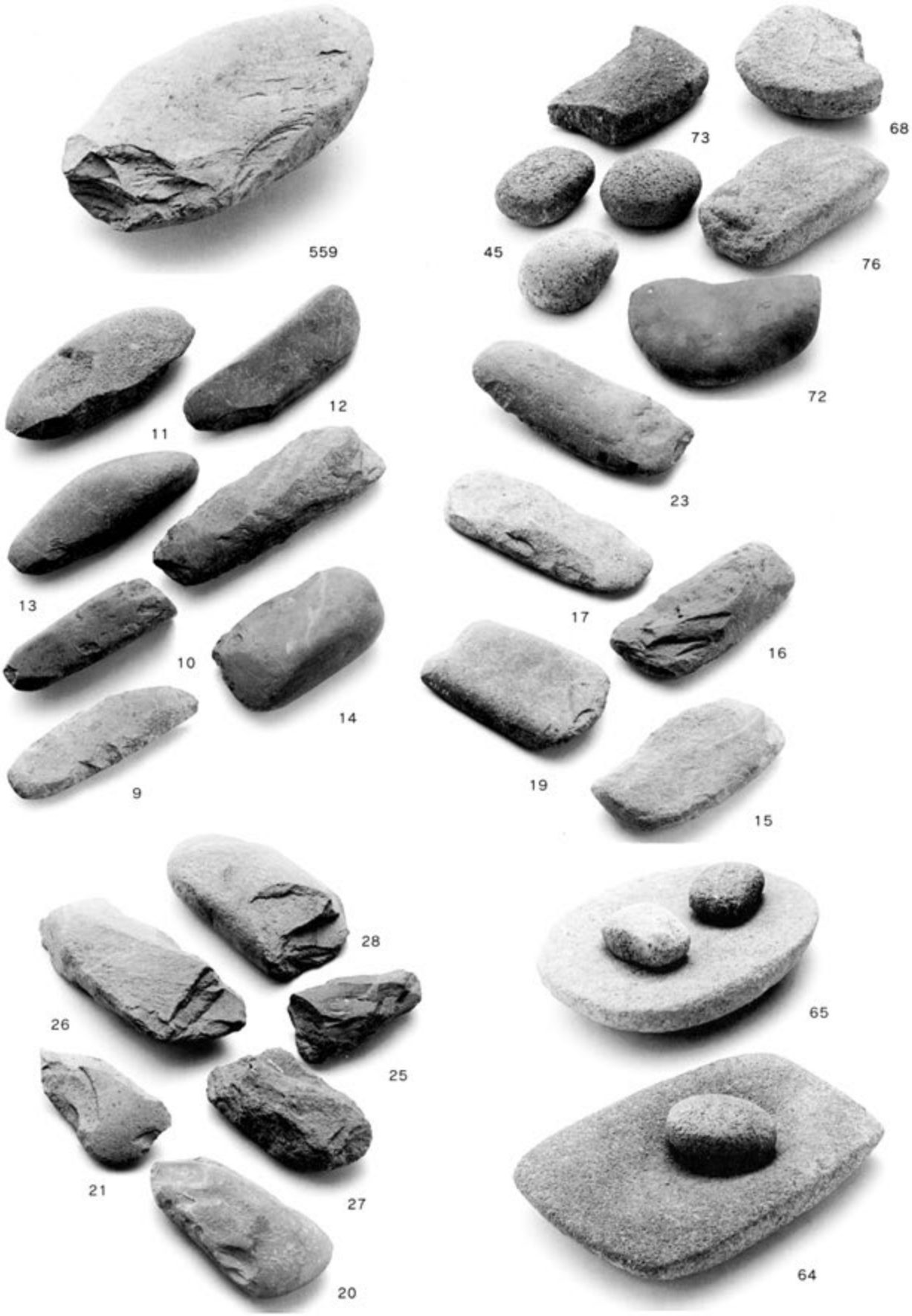
小牧３Ａ遺跡（底部接地面）



小牧３Ａ遺跡（桑ノ丸Ⅲ類土器）



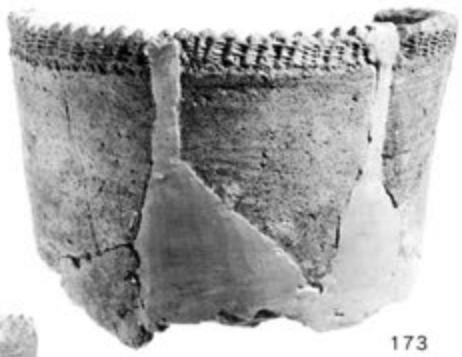
小牧３Ａ遺跡（塞ノ神式土器・円筒形Ⅱ類・Ⅲ類土器・磨石・石斧）



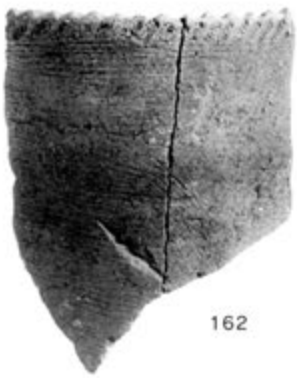
小牧3A遺跡（磨石・石皿・石斧）



202



173



162



162



214



99





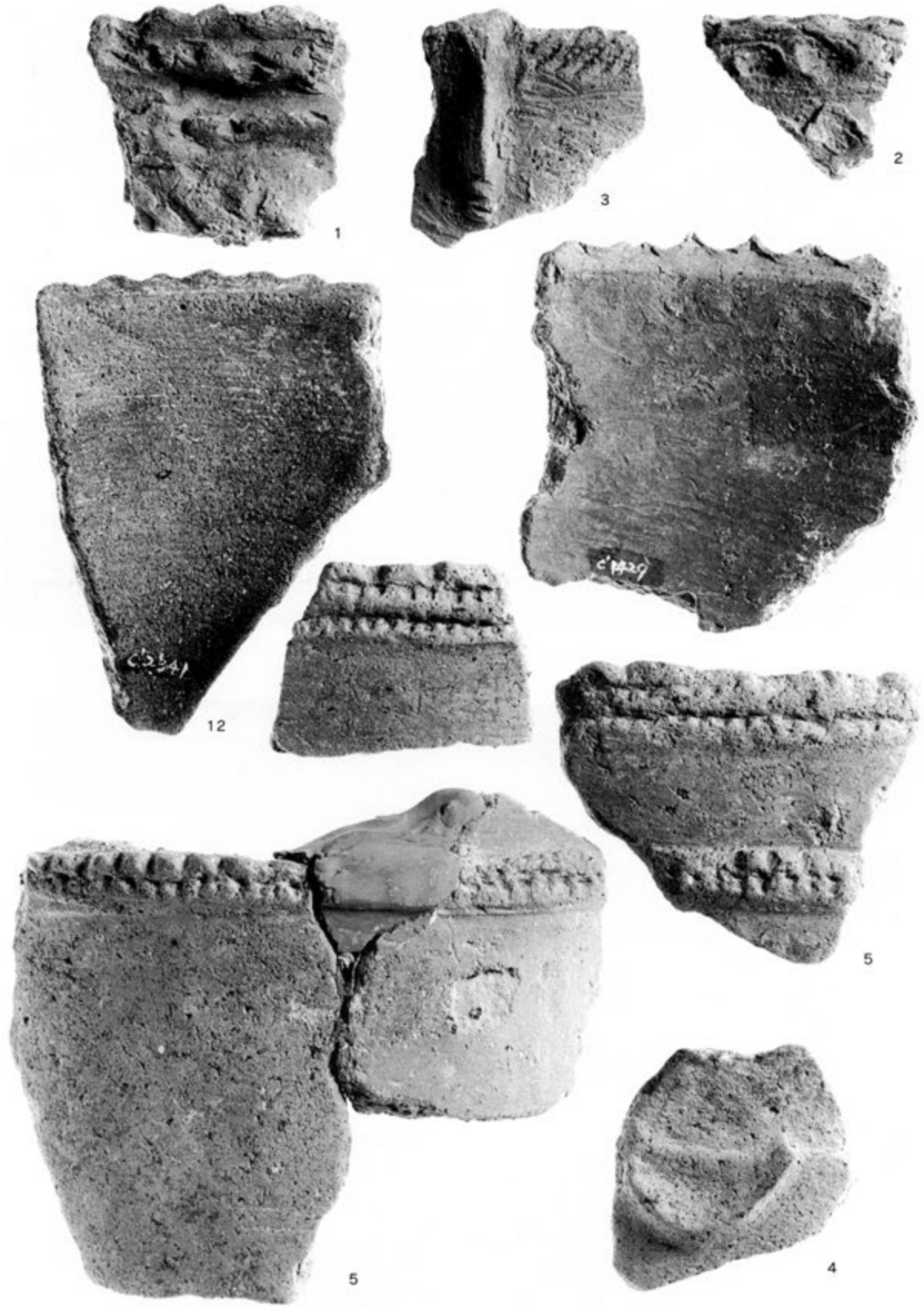
223

岩本遺跡（円筒形土器・石斧）

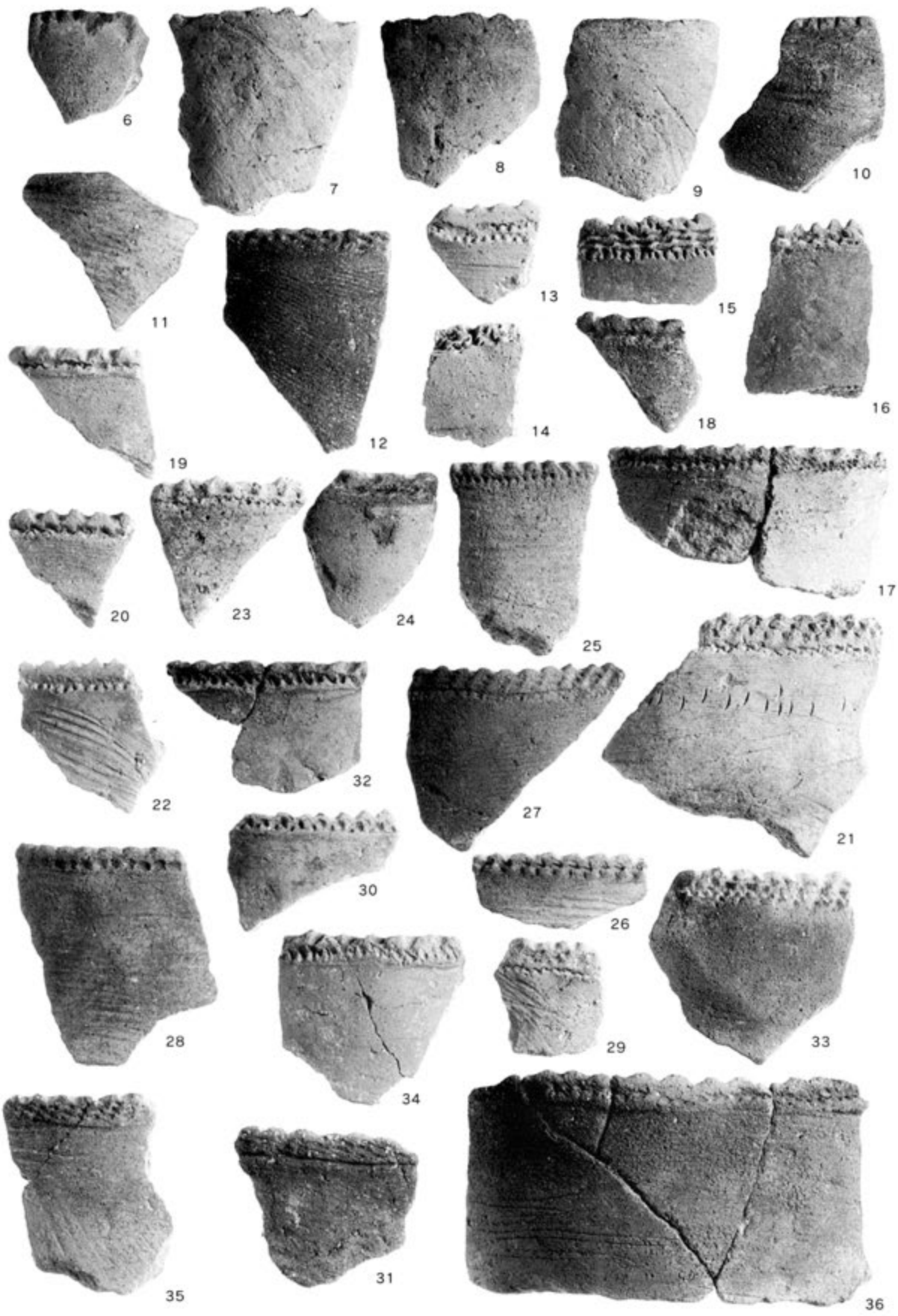




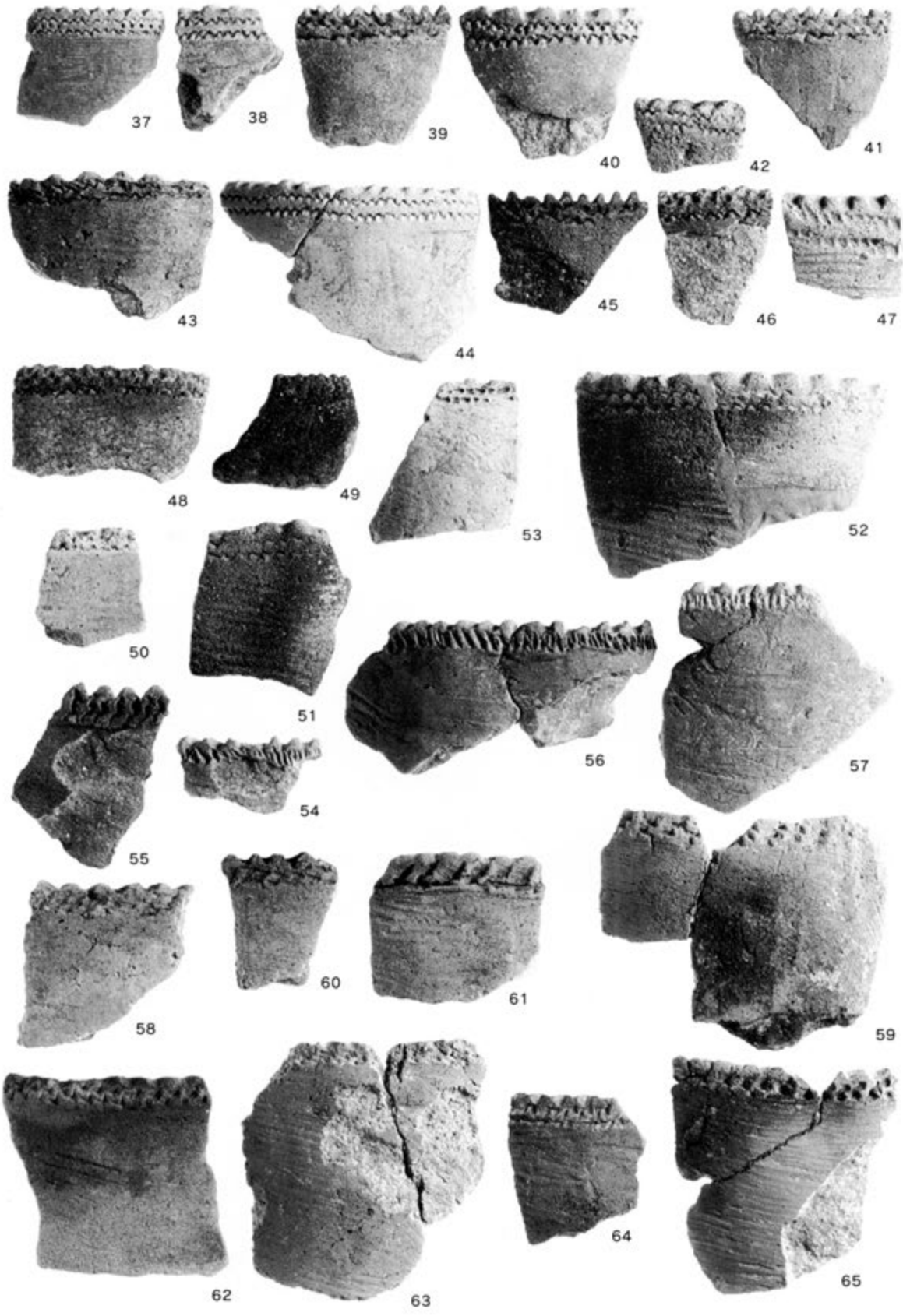
岩本遺跡（調査風景）



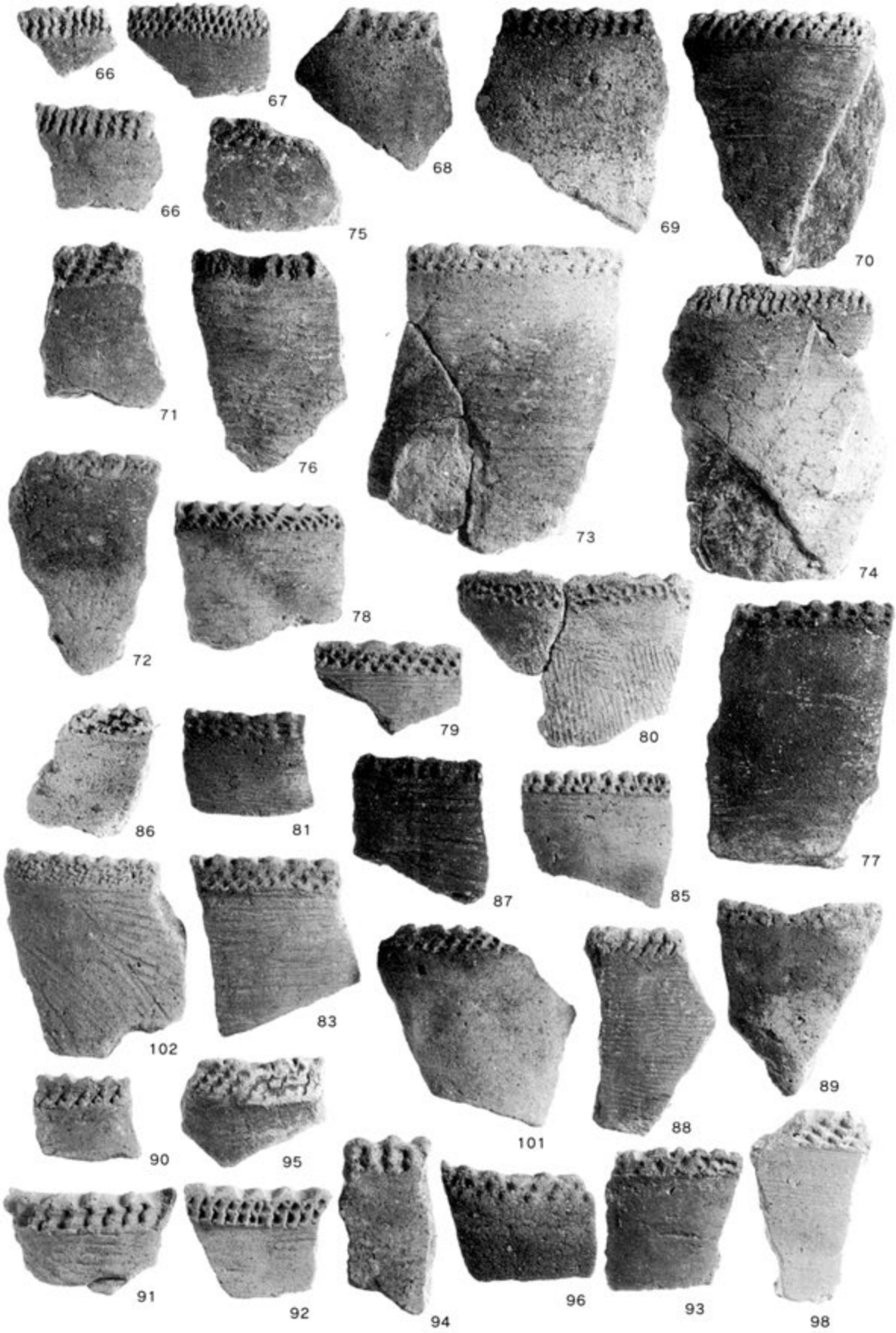
岩本遺跡（隆帯文土器）


6
7
8
9
10
11
12
13
15
16
18
14
19
20
23
24
25
17
22
32
27
21
30
26
28
29
33
34
35
31
36

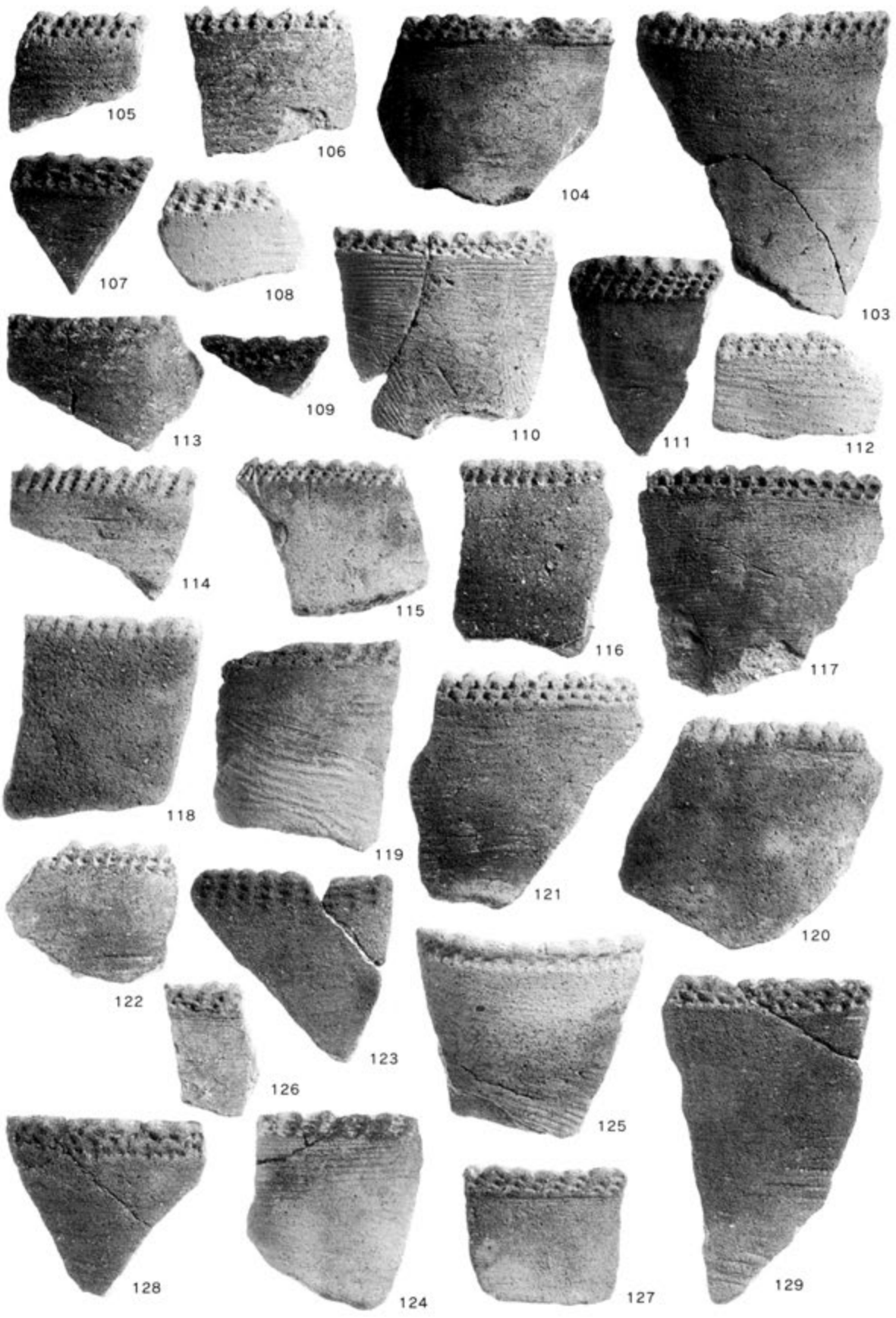
岩本遺跡（円筒形土器）


37
38
39
40
42
41
43
44
45
46
47
48
49
53
52
50
51
56
57
54
55
60
61
59
58
62
63
64
65

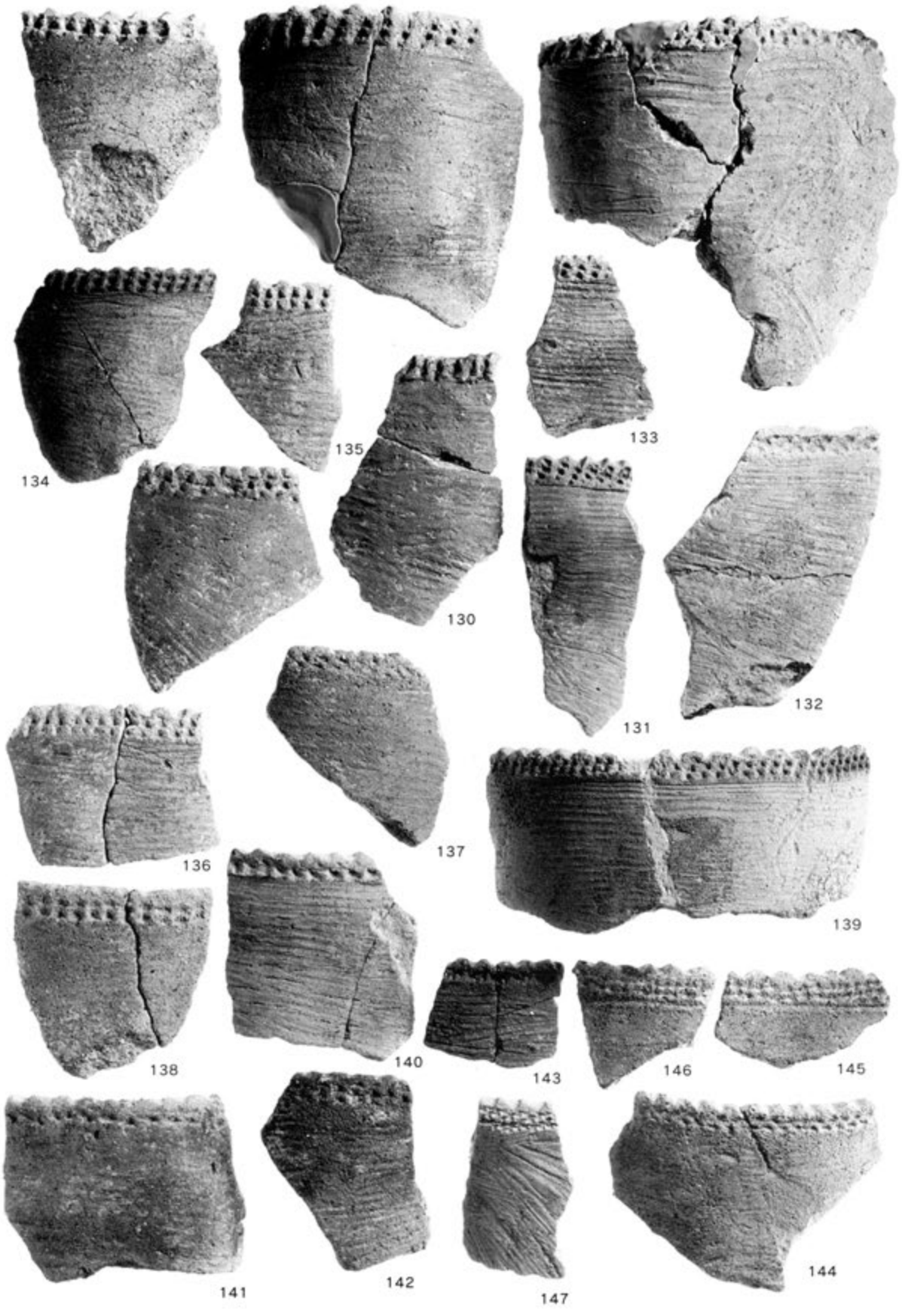
岩本遺跡（円筒形土器）


66
67
68
69
70
66
75
71
76
73
74
72
78
79
80
86
81
87
85
77
102
83
101
89
88
90
95
91
92
94
96
93
98

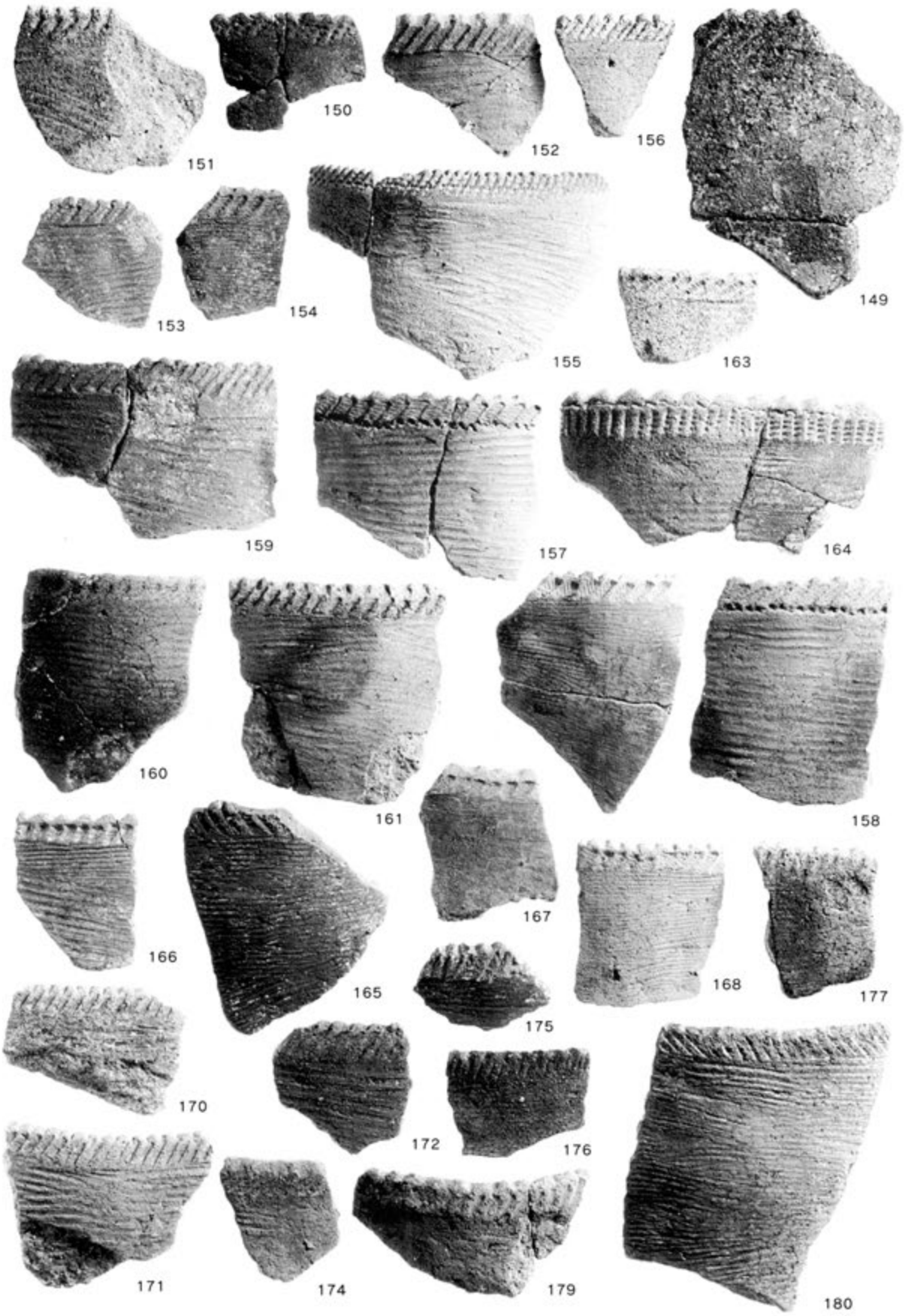
岩本遺跡（円筒形土器）


105
106
104
103
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
121
120
122
123
126
125
128
124
127
129

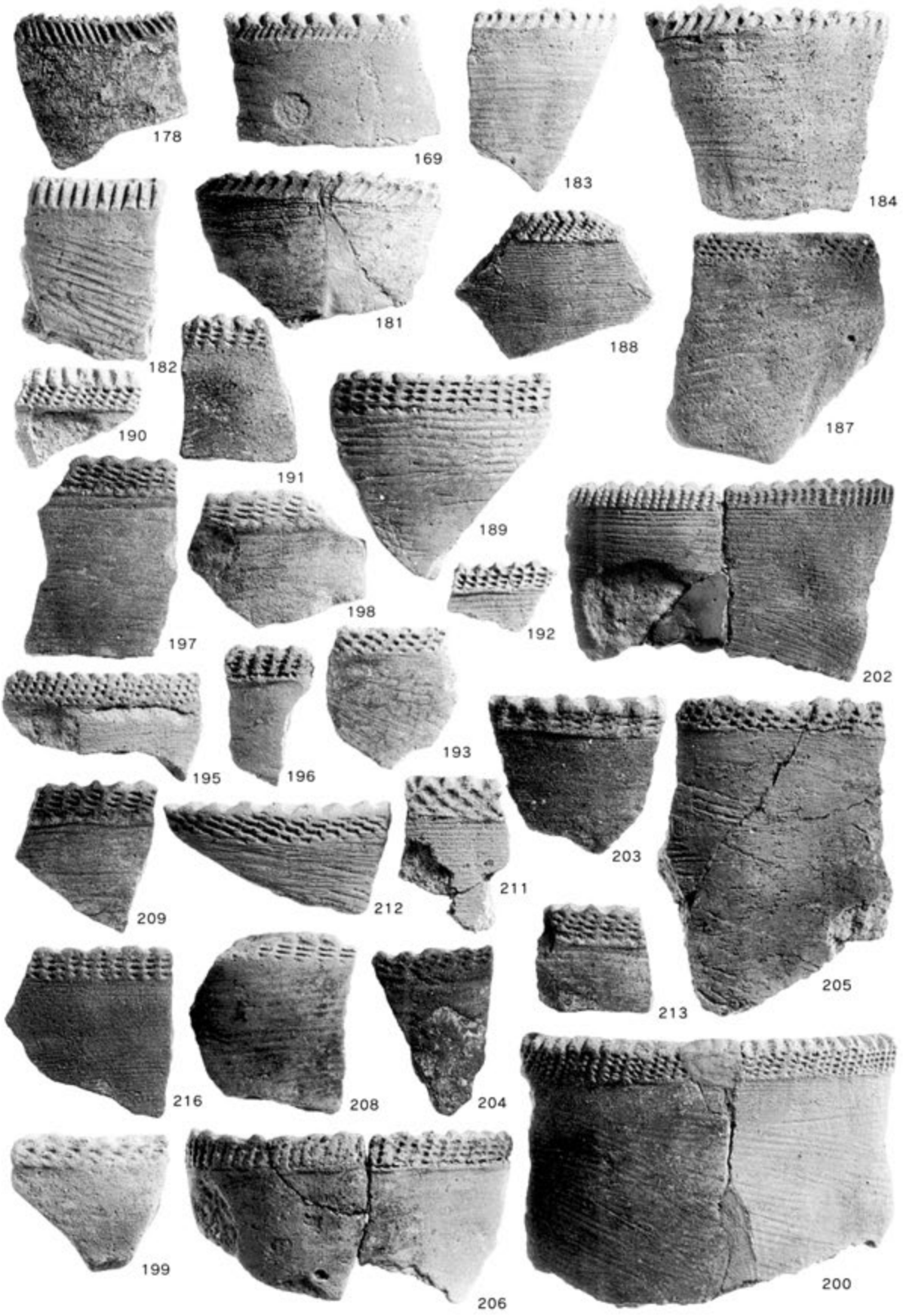
岩本遺跡（円筒形土器）


134
135
130
133
131
132
136
137
139
138
140
143
146
145
141
142
147
144

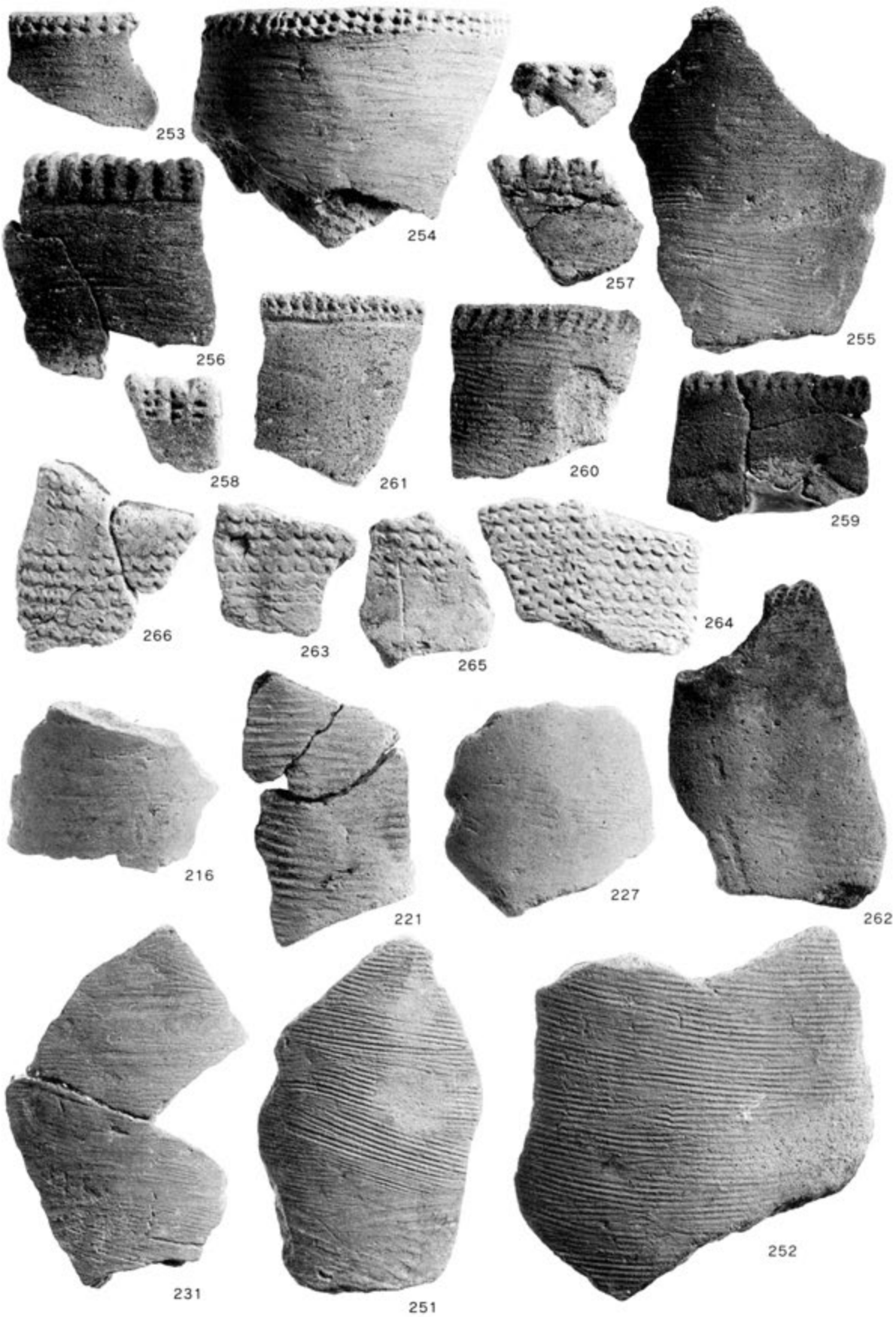
岩本遺跡（円筒形土器）


151
150
152
156
149
153
154
155
163
159
157
164
160
161
158
166
167
165
168
177
175
170
172
176
171
174
179
180

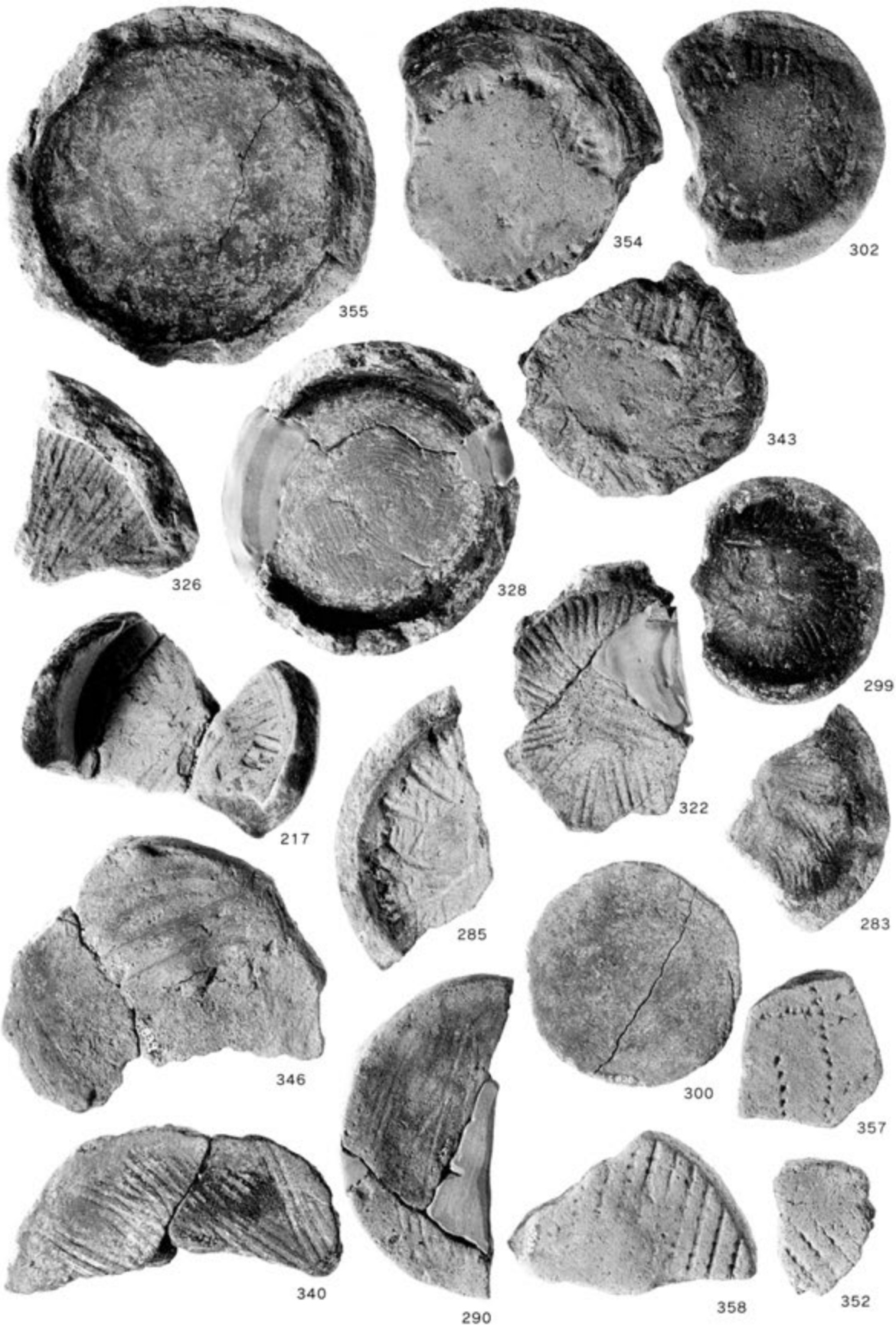
岩本遺跡（円筒形土器）


178
169
183
184
181
182
188
190
191
187
189
198
192
197
202
195
196
193
203
209
212
211
205
213
216
208
204
199
206
200

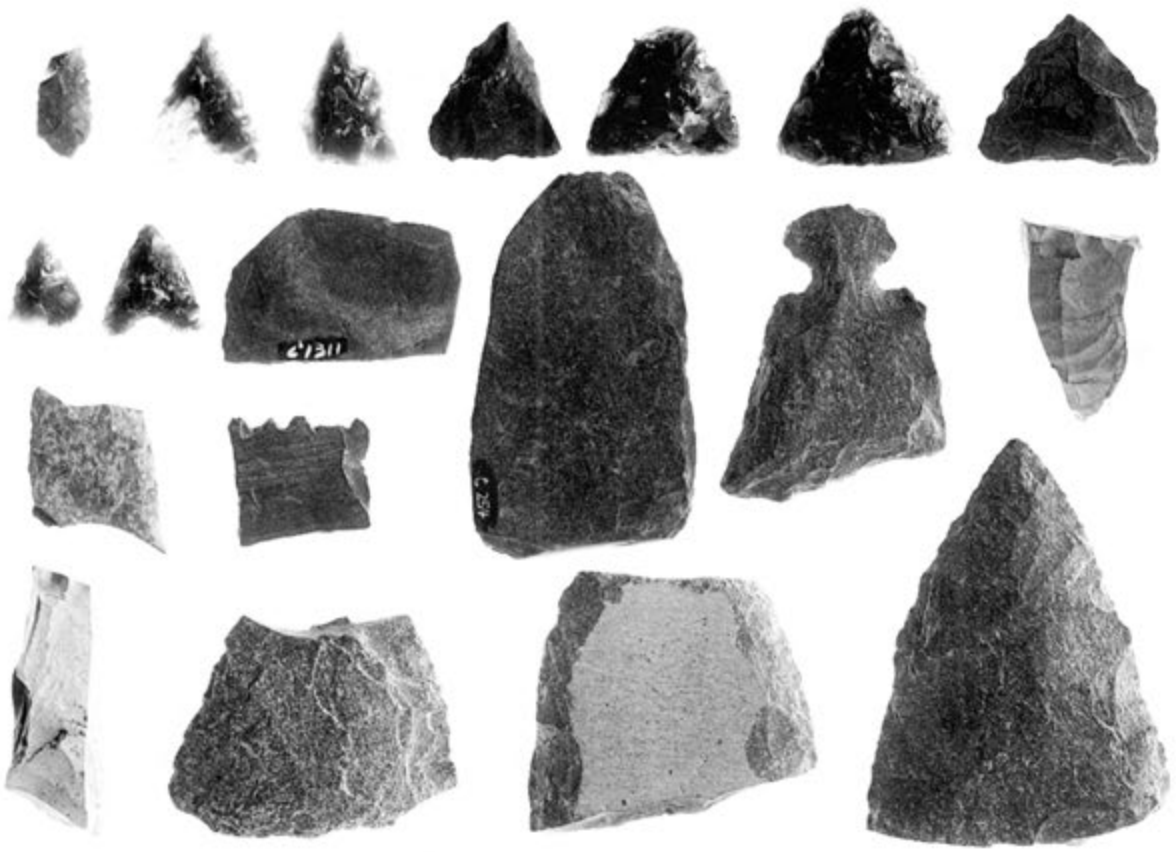
岩本遺跡（円筒形土器）


253
254
257
255
256
258
261
260
259
266
263
265
264
216
221
227
262
231
251
252

岩本遺跡（押型文土器）



岩本遺跡（底部内面・接地面）





214



267

岩本遺跡（石鏃・石匙・石槍・円筒形Ⅰ類土器他）

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書15

県営畑地総合土地改良事業に伴う発掘調査報告書

小牧３Ａ遺跡
岩本遺跡

発行日　平成８年３月３１日
発　行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-5692
鹿児島県姶良郡姶良町平松6252
印　刷　斯文堂株式会社
鹿児島市南栄3-1　☎099-268-8211